

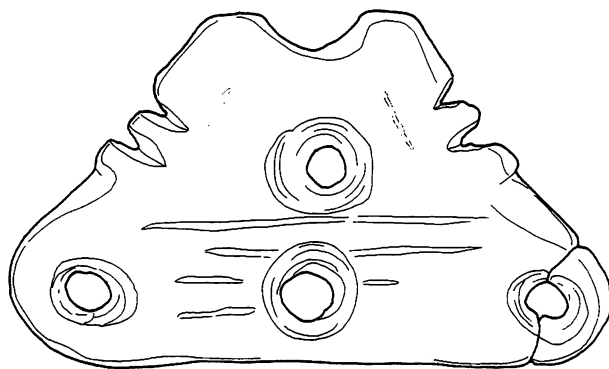
八雲町

山崎4遺跡

—北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書—

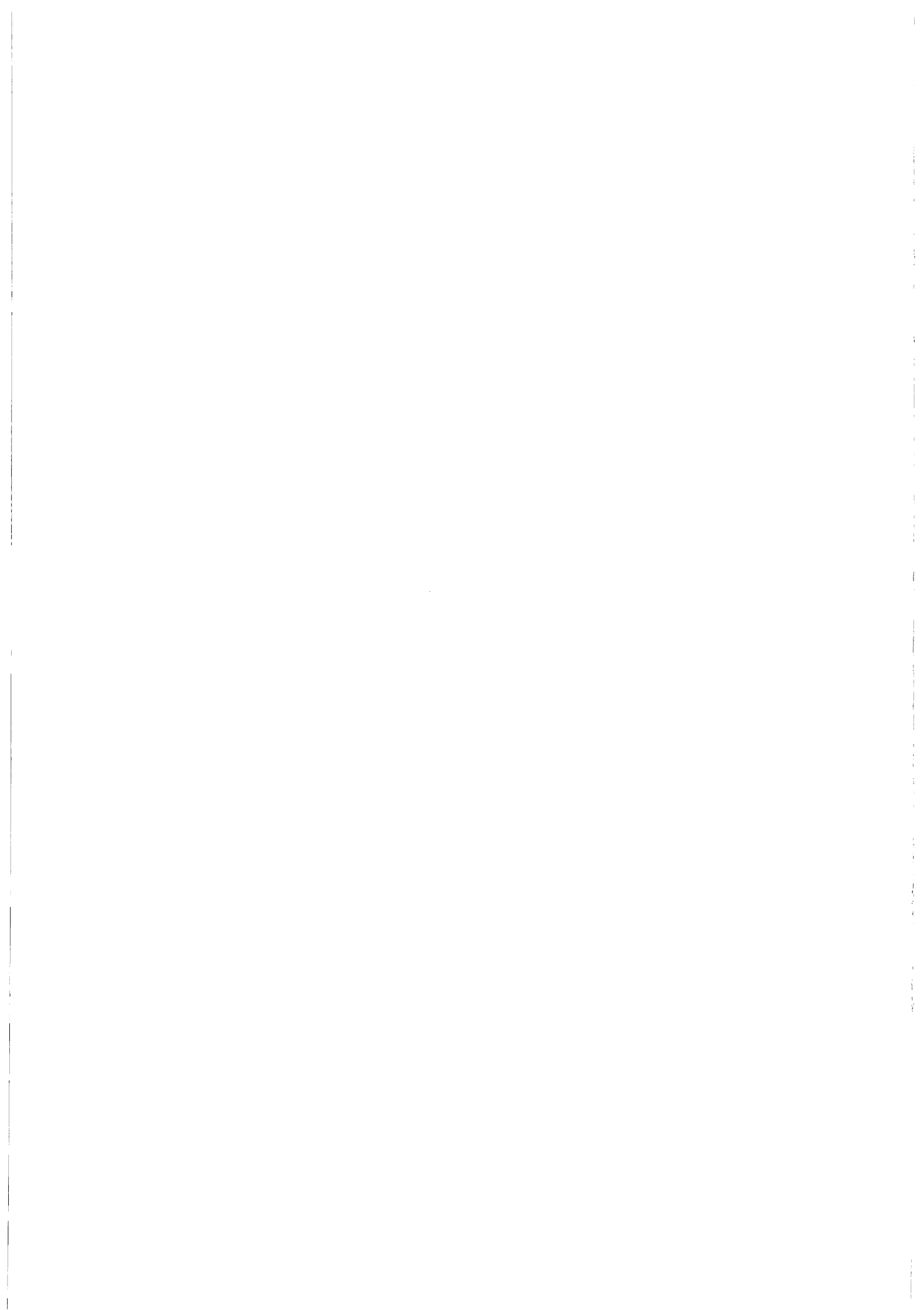
第 1 分 冊

本 文 編



平成12年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



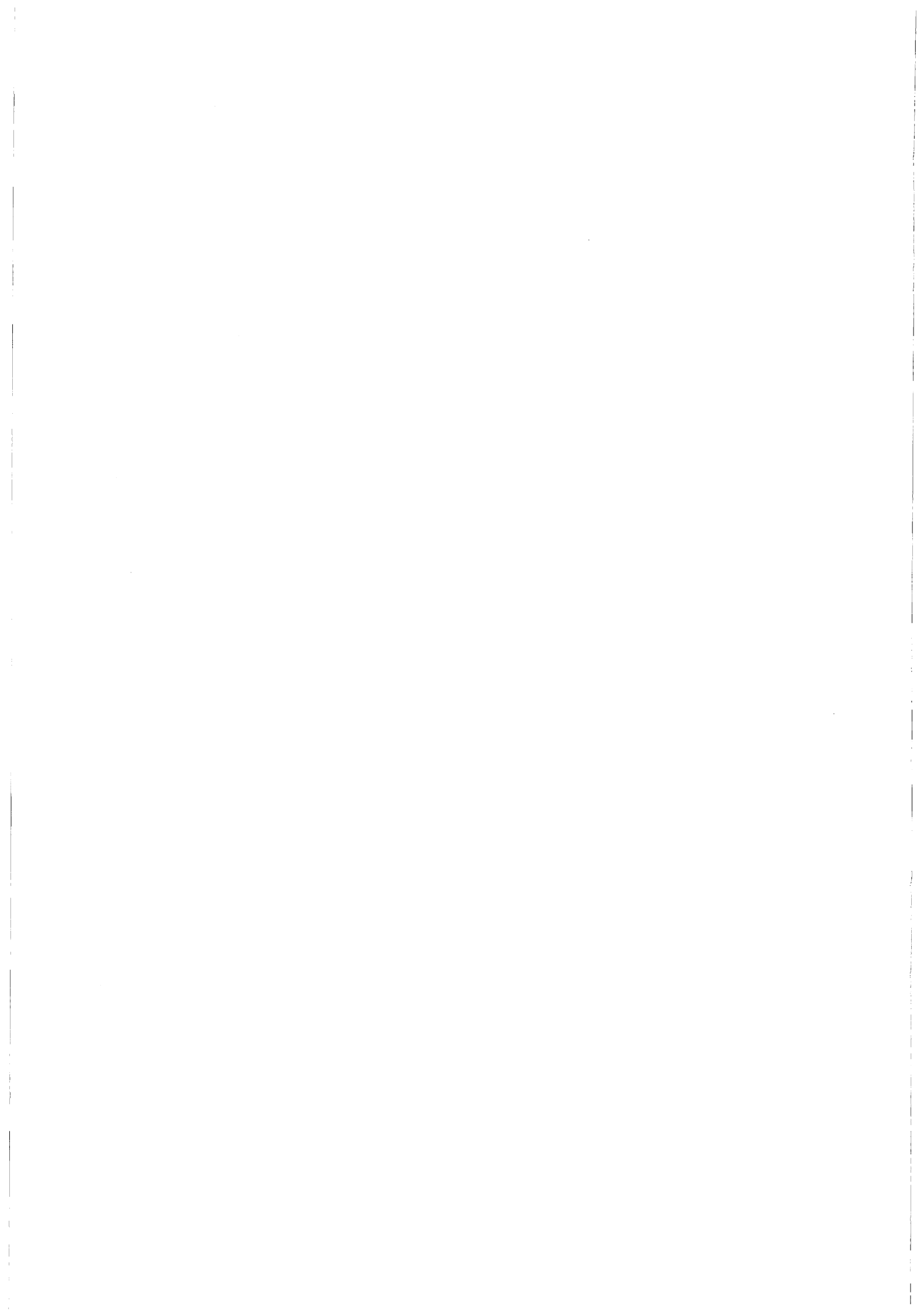
八雲町

山崎4遺跡

—北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成12年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



目 次

第 1 分 冊

口絵

例言

記号等の説明

目次

挿図目次

表目次

図版目次

I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	4
4 調査の概要	5
II 遺跡の位置と周辺環境	9
1 遺跡の位置と地形	9
2 周辺の遺跡	9
III 調査の方法	11
1 調査区の設定	11
2 発掘調査の方法	12
3 土層の区分	13
4 整理の方法	13
5 遺構の分類	16
6 遺物の分類	17
IV A地区の調査	21
A地区の概要	21
1 遺構	22
a 竪穴住居跡	22
b 土坑	23
c Tピット	27
d 焼土	34
2 包含層出土の土器	35
V B地区の調査	37
B地区の概要	37
1 遺構	38
a 竪穴住居跡	38
b 土坑	104
c 焼土	146

d 小ピット	160
e その他の遺構	171
2 包含層出土の遺物	187
a 土器	187
b 石器	214
VI C・D地区の調査	233
C・D地区の概要	233
1 遺構	233
a 竪穴住居跡	233
b 建物跡	242
c 土坑	253
d 焼土	275
e 小ピット	288
f その他の遺構	295
2 包含層の遺物	302
a 土器	302
b 石器	313
一覧表	325
VII 自然科学的手法による分析結果	
1 放射性炭素年代測定結果	353
2 山崎4遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析	361
3 山崎4遺跡出土の碧玉製スクレイパーの産地分析	379
4 山崎4遺跡から出土した炭化植物種子	391
5 山崎4遺跡より出土した炭化材	395
VIII まとめ	
1 遺構	399
2 土器	400
3 石器	401
報告書抄録	

第 2 分 冊

図版目次

図版

挿図目次

I 章 調査の概要

図 I-1	遺跡の位置	2
図 I-2	遺跡の位置 (八雲町北部)	3
図 I-3	年度別調査範囲	4
図 I-4	A地区遺構配置	5
図 I-5	B地区遺構配置	6
図 I-6	C・D地区遺構配置	7

II 章 遺跡の位置と周辺環境

図 II-1	周辺の遺跡	10
--------	-------	----

III 章 調査の方法

図 III-1	調査区の設定	11
図 III-2	地区名	12
図 III-3	土層層序 (1)	14
図 III-4	土層層序 (2)	15

IV 章 A地区の調査

図 IV-1	A地区遺構配置	21
図 IV-2	H-8	22
図 IV-3	P-1・P-2・P-3	24
図 IV-4	P-3出土の遺物	25
図 IV-5	P-17・P-19・TP-1 ・TP-2	28
図 IV-6	TP-3・TP-4・TP-5	32
図 IV-7	TP-6・TP-7・F-2 ・F-5	33
図 IV-8	包含層出土の土器	35

V 章 B地区の調査

図 V-1	B地区遺構配置	37
図 V-2	B地区竪穴住居跡配置	38
図 V-3	H-1	40
図 V-4	H-1出土の遺物	41
図 V-5	H-2	42
図 V-6	H-2出土の遺物	43
図 V-7	H-3	45
図 V-8	H-3の遺物出土状況	47
図 V-9	H-3出土の遺物 (1)	49
図 V-10	H-3出土の遺物 (2)	50
図 V-11	H-3出土の遺物 (3)	51
図 V-12	H-5	54
図 V-13	H-5の遺物出土状況	55
図 V-14	H-5出土の遺物 (1)	56
図 V-15	H-5出土の遺物 (2)	57
図 V-16	H-6	59
図 V-17	H-11	62
図 V-18	H-11遺物出土状況	63
図 V-19	H-11出土の遺物 (1)	64
図 V-20	H-11出土の遺物 (2)	65
図 V-21	H-11出土の遺物 (3)	66
図 V-22	H-12	67

図 V-23	H-13	70
図 V-24	H-13遺物出土状況	71
図 V-25	H-14	73
図 V-26	H-15	75
図 V-27	H-15遺物出土状況	76
図 V-28	H-15出土の遺物 (1)	77
図 V-29	H-15出土の遺物 (2)	78
図 V-30	H-16	80
図 V-31	H-17	82
図 V-32	H-18	84
図 V-33	H-18遺物出土状況	85
図 V-34	H-18出土の遺物 (1)	86
図 V-35	H-18出土の遺物 (2)	87
図 V-36	H-19	89
図 V-37	H-19出土の遺物 (1)	90
図 V-38	H-19出土の遺物 (2)	91
図 V-39	H-19出土の遺物 (3)	92
図 V-40	H-20	95
図 V-41	H-20出土の遺物	96
図 V-42	H-21	97
図 V-43	H-22	99
図 V-44	H-23	100
図 V-45	H-24	101
図 V-46	H-26	102
図 V-47	B地区土坑配置	103
図 V-48	P-9・P-11・P-12・P-13	104
図 V-49	P-14・P-15	108
図 V-50	P-16・P-20・P-21・P-22 ・P-23・P-24	111
図 V-51	P-25・P-26	114
図 V-52	P-27・P-28・P-29・P-30 ・P-31・P-32	116
図 V-53	P-33・P-38	118
図 V-54	P-40・P-41・P-42・P-43	121
図 V-55	P-44・P-45・P-46・P-47 ・P-48・P-49・P-51	124
図 V-56	P-50・P-52・P-53・P-54 ・P-55・P-56・P-57	127
図 V-57	P-58・P-59・P-62・P-63	129
図 V-58	P-64・P-65・P-66・P-67 ・P-68・P-69・P-70 ・P-77	134
図 V-59	P-78・P-79・P-83	136
図 V-60	P-85・P-86・P-87・P-88 ・P-91・P-93・P-94 ・P-95・P-96	140
図 V-61	P-97・P-98・P-99・P-100 ・P-102・P-105	143
図 V-62	P-106・P-108・P-110 ・P-112・P-113	145

図V-63	B地区焼土配置	146
図V-64	F-1・F-3・F-4・F-10 ・F-11	147
図V-65	F-13・F-14・F-15・F-16 ・F-17	150
図V-66	F-18・F-19・F-20・F-21 ・F-22・F-25・F-26 ・F-27・F-28・F-29 ・F-31・F-32・F-33 ・F-34	155
図V-67	F-35・F-36・F-37・F-38 ・F-39・F-41・F-42 ・F-44・F-46・F-51 ・F-52・F-54	159
図V-68	B地区小ピット配置	161
図V-69	小ピット(1) J・K・L-45 ・46	162
図V-70	小ピット(2) J-50・51, K-53・54, I-53・54・55	163
図V-71	小ピット(3) L・M-47・48, L-49・50, L-51	164
図V-72	小ピット(4) M-55, N-43 ・44, N-45・46, P-55	165
図V-73	小ピット(5) N・O-47・48, P-49	166
図V-74	小ピット(6) P・Q・ R-43~46	167
図V-75	小ピット(7) P・Q・ R-47~49	168
図V-76	小ピット(8) O・P-45・46, Q・R-51	169
図V-77	B地区その他の遺構配置	170
図V-78	I-1・I-3・S-2・S-3 ・S-4	172
図V-79	S-1	175
図V-80	S-1出土の遺物	176
図V-81	S-7・S-8・埋設土器	177
図V-82	FC-1・FC-2・FC-3	178
図V-83	FC-4	180
図V-84	FC-7	181
図V-85	FC-8・FC-9・FC-10 ・FC-11・FC-13・FC-14 ・FC-15	183
図V-86	FC-16・FC-17・FC-20 ・C-1	185
図V-87	包含層出土の土器(1)	190
図V-88	包含層出土の土器(2)	191
図V-89	包含層出土の土器(3)	193
図V-90	包含層出土の土器(4)	194
図V-91	包含層出土の土器(5)	195

図V-92	包含層出土の土器(6)	196
図V-93	包含層出土の土器(7)	198
図V-94	包含層出土の土器(8)	199
図V-95	包含層出土の土器(9)	200
図V-96	包含層出土の土器(10)	201
図V-97	包含層出土の土器(11)	202
図V-98	包含層出土の土器(12)	203
図V-99	包含層出土の土器(13)	204
図V-100	包含層出土の土器(14)	205
図V-101	包含層出土の土器(15)	206
図V-102	包含層出土の土器(16)	207
図V-103	包含層出土の土器(17) ・土製品・石製品	208
図V-104	出土土器分布(1)	209
図V-105	出土土器分布(2)	210
図V-106	出土土器分布(3)	211
図V-107	出土土器分布(4)	212
図V-108	包含層出土の石器(1)	216
図V-109	包含層出土の石器(2)	217
図V-110	包含層出土の石器(3)	219
図V-111	包含層出土の石器(4)	220
図V-112	包含層出土の石器(5)	221
図V-113	包含層出土の石器(6)	223
図V-114	包含層出土の石器(7)	224
図V-115	包含層出土の石器(8)	225
図V-116	包含層出土の石器(9)	226
図V-117	包含層出土の石器(10)	227
図V-118	出土石器分布(1)	228
図V-119	出土石器分布(2)	229
図V-120	出土石器分布(3)	230
図V-121	出土石器分布(4)	231
図V-122	出土石器分布(5)	232
VI章 C・D地区の調査		
図VI-1	C・D地区遺構配置	234
図VI-2	C・D地区竪穴住居跡 ・建物跡配置	235
図VI-3	H-7	236
図VI-4	H-9	238
図VI-5	H-9出土の遺物	239
図VI-6	H-10	241
図VI-7	H-10出土の遺物	242
図VI-8	建物跡1	243
図VI-9	建物跡2	244
図VI-10	建物跡3	245
図VI-11	建物跡4	246
図VI-12	建物跡5	247
図VI-13	建物跡6	248
図VI-14	建物跡7	249
図VI-15	建物跡8	250
図VI-16	建物跡9	251

図VI-17	建物跡10	252
図VI-18	C・D地区土坑配置	254
図VI-19	P-4・P-5・P-6 ・P-7	256
図VI-20	P-8・P-10・P-18	257
図VI-21	P-34・P-35・P-36 ・P-37	259
図VI-22	P-39・P-60・P-61 ・P-71	262
図VI-23	P-72・P-73・P-74 ・P-75・P-76	265
図VI-24	P-80・P-81・P-82 ・P-84・P-89	267
図VI-25	P-90・P-92・P-103 ・P-104・P-109	270
図VI-26	P-111	272
図VI-27	P-111出土の遺物	273
図VI-28	C・D地区焼土配置	276
図VI-29	F-6・F-7・F-8 ・F-9・F-12・F-23 ・F-24	278
図VI-30	F-30	280
図VI-31	F-30出土の遺物	281
図VI-32	F-40・F-43	282
図VI-33	F-43出土の遺物	283
図VI-34	F-45	284
図VI-35	F-47・F-48・F-49 ・F-50・F-53・F-55 ・F-56	286
図VI-36	C・D地区杭列・小ピット配置	289
図VI-37	杭列	290
図VI-38	小ピット(1) I・J・K-19 ・20	291
図VI-39	小ピット(2) N・O-26・27、 N・O-28・29	292
図VI-40	小ピット(3) O・P-30~33	293
図VI-41	小ピット(4) P・Q-33~35、 I-37	294
図VI-42	C・D地区その他の遺構配置	296
図VI-43	S-5・S-6	297
図VI-44	FC-5・FC-6・FC-12	298
図VI-45	FC-12出土の遺物	299
図VI-46	FC-18・FC-19	301
図VI-47	包含層出土の土器(1)	305
図VI-48	包含層出土の土器(2)	306
図VI-49	包含層出土の土器(3)	307
図VI-50	包含層出土の土器(4)	308
図VI-51	包含層出土の土器(5)	309
図VI-52	包含層出土の土器(6)	310
図VI-53	出土土器分布(1)	311

図VI-54	出土土器分布(2)	312
図VI-55	包含層出土の土器(1)	315
図VI-56	包含層出土の土器(2)	316
図VI-57	包含層出土の土器(3)	319
図VI-58	包含層出土の土器(4)	320
図VI-59	包含層出土の土器(5)	321
図VI-60	出土土器分布(1)	322
図VI-61	出土土器分布(2)	323
VII 自然科学的手法による分析結果		
2 八雲町山崎4遺跡出土の黒曜石製石器の 原材産地分析		
図1	黒曜石原産地	367
3 山崎4遺跡出土の碧玉製スクレイパーの 産地分析		
図1	花仙山産碧玉原石の蛍光X線スペクトル	384
図2	碧玉および碧玉様緑色石の原産地	384
図3	山崎4遺跡出土の碧玉製スクレイパー(74830) の蛍光X線スペクトル	385
図4	碧玉原石のESRスペクトル	385
図5-(1)	碧玉原石の信号(Ⅲ)のESR スペクトル	386
図5-(2)	碧玉原石の信号(Ⅲ)のESR スペクトル	386
図5-(3)	碧玉原石の信号(Ⅲ)のESR スペクトル	387
図5-(4)	碧玉原石の信号(Ⅲ)のESR スペクトル	387
図6	碧玉原石と山崎4遺跡出土のスクレイパー の信号(Ⅲ)のESRスペクトル	388
4 八雲町山崎4遺跡から出土した炭化植物種子		
図1	フローテーションサンプル採取地点	393
図版		393
5 山崎4遺跡より出土した炭化材		
図1	H-11炭化材出土状況図	397
図版1	炭化材の木材組織	398

表目次

表1	遺構規模一覧	324
表2	遺構出土遺物一覧	329
表3	遺構出土掲載復原土器一覧A地区	339
表4	遺構出土掲載拓本土器一覧A地区	339
表5	遺構出土掲載復原土器一覧B地区	339
表6	遺構出土掲載拓本土器一覧B地区	340
表7	遺構出土掲載拓本土器一覧C・D地区	341
表8	遺構出土掲載石器一覧B地区	342
表9	遺構出土掲載石器一覧C・D地区	343
表10	包含層出土掲載拓本土器一覧A地区	344
表11	包含層出土掲載復原土器一覧B地区	344

表12	包含層出土掲載拓本土器一覧B地区	344
表13	包含層出土掲載復原土器一覧C・D地区	348
表14	包含層出土掲載拓本土器一覧C・D地区	348
表15	包含層出土掲載石器一覧B地区	349
表16	包含層出土掲載石器一覧C・D地区	350

VII 自然科学的手法による分析結果

1 放射性炭素年代測定結果

表1	分析試料一覧	353
----	--------	-----

2 八雲町山崎4遺跡出土の黒曜石製石器の

原産地分析

表1-1	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の 平均値と標準偏差値	368
表1-2	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の 平均値と標準偏差値	369
表1-3	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の 平均値と標準偏差値	370
表1-4	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の 平均値と標準偏差値	371
表1-5	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の 平均値と標準偏差値	372
表1-6	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の 平均値と標準偏差値	373
表2	平成12年度山崎4遺跡出土黒曜石製石器・剥片の 元素比分析結果	374
表3-1	山崎4遺跡出土黒曜石製石器・剥片の原産地 推定結果	375
表3-2	山崎4遺跡出土黒曜石製石器・剥片の原産地 推定結果	376
表3-3	山崎4遺跡出土黒曜石製石器・剥片の原産地 推定結果	377
3	山崎4遺跡出土の碧玉製スクレイパーの産地分析	
表1	各産碧玉の原産地における原石群の元素比の平均 値と標準偏差値	389
表2	山崎4遺跡出土碧玉製スクレイパーの 分析結果	390
表3	山崎4遺跡出土碧玉原石製スクレイパーの 原産地分析結果	390
表4	分析資料	390
4	八雲町山崎4遺跡から出土した植物遺体について	
表1	山崎4遺跡炭化種子出土表	393
5	山崎4遺跡より出土した炭化材	
表1	山崎4遺跡 H-11検出炭化材一覧	397

写真図版目次

図版1	1 調査区遠景(北西から)
	2 A地区調査風景(南から)
図版2	1 A地区完掘(北から)
	2 B2地区調査風景(西から)
図版3	1 B2地区完掘(南西から)
	2 B1地区完掘(北から)
図版4	1 B1地区完掘(南から)
	2 C地区完掘(東から)
図版5	1 C地区完掘(南西から)
	2 D地区完掘(北から)
図版6	1 D地区調査風景(北から)
	2 B1地区調査風景(北から)
図版7	1 B1地区調査風景(南東から)
	2 C地区調査風景(南から)
図版8	1 B1地区P~Q50ラインセクション (南西から)
	2 B1地区H49、50ライン掘り上げ土 セクション(東から)
	3 B2地区H71北壁セクション (南東から)
図版9	1 D地区M6南壁セクション (北西から)
	2 C地区F27B-Tmセクション (南東から)
図版10	1 H-1完掘(南から)
	2 H-1セクション(南東から)
図版11	1 H-1セクション(南から)
	2 H-1遺物出土状況(北から)
図版12	1 H1HF1セクション(南から)
	2 H1HP1セクション(南東から)
	3 H1HP2遺物出土状況(南東から)
	4 H-2遺物出土状況(南東から)
図版13	1 H-2セクション(北西から)
	2 H2HF1検出(南東から)
図版14	1 H-3完掘(北から)
	2 H-3セクション(南から)
図版15	1 H3HP11セクション(南東から)
	2 H3HF1検出(南西から)
	3 埋設土器(西から)
	4 H-5セクション(西から)
図版16	1 H-5完掘(西から)
	2 H-5遺物出土状況(北西から)
	3 H-5遺物出土状況(東から)
図版17	1 H-6完掘(南から)
	2 H-6セクション(北西から)
図版18	1 H-7完掘(北から)
	2 H-7セクション(南西から)
	3 H-7遺物出土状況(北西から)

- 図版19 1 H-8完掘(北から)
2 H-8セクション(南から)
- 図版20 1 H-9完掘(東から)
2 H-9セクション(南東から)
- 図版21 1 H-10完掘(南東から)
2 H-10セクション(東から)
- 図版22 1 H-10遺物出土状況(西から)
2 H-11完掘(南から)
- 図版23 1 H-11セクション(南西から)
2 H-11炭化材出土状況(東から)
3 H-11埋設土器セクション(北東から)
4 H-11炭化材出土状況アップ
(南西から)
- 図版24 1 H-12完掘(南から)
2 H-12セクション(東から)
- 図版25 1 H-13完掘(北西から)
2 H-13セクション(西から)
- 図版26 1 H-13遺物出土状況(北西から)
2 H13HFD1・2検出(南東から)
- 図版27 1 H-14完掘(南から)
2 H-14セクション(東から)
- 図版28 1 H-14遺物出土状況(南から)
2 H-15セクション(東から)
- 図版29 1 H-15完掘(南から)
2 H-16完掘(北から)
- 図版30 1 H-16セクション(南から)
2 H-17完掘(南から)
- 図版31 1 H-17セクション(東から)
2 H-17遺物出土状況(南から)
- 図版32 1 H-18完掘(南から)
2 H-18セクション(北東から)
- 図版33 1 H-18地床炉・埋設土器(東から)
2 H-18埋設土器セクション
(北東から)
3 H-19完掘(東から)
- 図版34 1 H-19セクション(東から)
2 H-19遺物出土状況(南西から)
3 H19HP3セクション(南から)
- 図版35 1 H-20完掘(南東から)
2 H-20遺物出土状況(南東から)
- 図版36 1 H-21完掘(北から)
2 H-22完掘(南から)
- 図版37 1 H-22セクション(南東から)
2 H-23完掘(西から)
- 図版38 1 H-23セクション(東から)
2 H-24完掘(南から)
- 図版39 1 H-24セクション(北西から)
2 H-26完掘(南から)
- 図版40 1 H-26セクション(南から)
2 建物跡1完掘(南から)
- 図版41 1 建物跡2完掘(東から)
2 建物跡3・4完掘(南西から)
3 建物跡5・6完掘(北から)
4 建物跡7検出(南から)
- 図版42 1 建物跡7SP1セクション
(南東から)
2 建物跡7SP5セクション
(南東から)
3 建物跡8完掘(南東から)
4 建物跡9完掘(東から)
5 建物跡10SP1完掘(北東から)
6 建物跡10SP1セクション
(南西から)
- 図版43 1 TP-1完掘(北から)
2 TP-1セクション(北西から)
3 TP-2完掘(南から)
4 TP-2セクション(北西から)
- 図版44 1 TP-3完掘(南から)
2 TP-3セクション(南から)
3 TP-4検出(南から)
4 TP-6セクション、完掘
(南西から)
- 図版45 1 TP-5完掘(南から)
2 TP-5セクション(南東から)
3 TP-7完掘(南から)
4 TP-7セクション(南西から)
- 図版46 1 P-1完掘(南から)
2 P-1セクション(西から)
3 P-2完掘(西から)
4 P-2セクション(西から)
5 P-3遺物出土状況(南から)
- 図版47 1 P-3セクション(南から)
2 P-3土器囲い炉(西から)
3 P-4完掘(南西から)
4 P-4セクション(南東から)
5 P-5完掘(北から)
- 図版48 1 P-5セクション(北から)
2 P-6完掘(西から)
3 P-6セクション(北から)
4 P-7完掘(東から)
5 P-8遺物出土状況(南から)
- 図版49 1 P-8セクション(南から)
2 P-9完掘(南から)
3 P-9セクション(南から)
4 P-10完掘(北東から)
5 P-10セクション(北西から)
- 図版50 1 P-11完掘(北西から)
2 P-11セクション(南から)
3 P-12完掘(西から)
4 P-12セクション(南西から)

- | | | | | | |
|------|---|-------------------|------|---|------------------|
| | 5 | P-13完掘 (南から) | 図版62 | 1 | P-39完掘 (東から) |
| | 6 | P-13セクション (南西から) | | 2 | P-40完掘 (南東から) |
| 図版51 | 1 | P-14セクション (南から) | | 3 | P-40セクション (南西から) |
| | 2 | P-14完掘 (南西から) | | 4 | P-41完掘 (西から) |
| | 3 | P-15完掘 (北西から) | | 5 | P-41セクション (南西から) |
| | 4 | P-15セクション (南から) | 図版63 | 1 | P-42完掘 (西から) |
| 図版52 | 1 | P-16セクション (北西から) | | 2 | P-42セクション (南から) |
| | 2 | P-16完掘 (西から) | | 3 | P-42石製品検出 (西から) |
| | 3 | P-17完掘 (西から) | | 4 | P-43完掘 (西から) |
| | 4 | P-17セクション (南東から) | | 5 | P-43セクション (南西から) |
| 図版53 | 1 | P-18完掘 (南西から) | | 6 | P-44完掘 (南東から) |
| | 2 | P-18セクション (南西から) | 図版64 | 1 | P-44セクション (南から) |
| | 3 | P-19完掘 (南東から) | | 2 | P-45完掘 (南から) |
| | 4 | P-19セクション (南から) | | 3 | P-45セクション (南から) |
| 図版54 | 1 | P-20完掘 (西から) | | 4 | P-46セクション (南東から) |
| | 2 | P-21遺物出土状況 (南西から) | | 5 | P-46・47完掘 (南から) |
| | 3 | P-21セクション (東から) | 図版65 | 1 | P-47セクション (南東から) |
| | 4 | P-22完掘 (北東から) | | 2 | P-48完掘 (南西から) |
| | 5 | P-22遺物出土状況 (北から) | | 3 | P-48セクション (南西から) |
| 図版55 | 1 | P-23セクション (南から) | | 4 | P-49セクション (南西から) |
| | 2 | P-23完掘 (南から) | 図版66 | 1 | P-49完掘 (南から) |
| | 3 | P-24完掘 (北西から) | | 2 | P-50完掘 (南西から) |
| | 4 | P-24セクション (東から) | | 3 | P-50セクション (南西から) |
| 図版56 | 1 | P-25セクション (東から) | | 4 | P-52完掘 (南から) |
| | 2 | P-25完掘 (東から) | | 5 | P-52セクション (南西から) |
| | 3 | P-26完掘 (南から) | 図版67 | 1 | P-53完掘 (南から) |
| | 4 | P-27完掘 (南から) | | 2 | P-53セクション (南西から) |
| | 5 | P-27セクション (南から) | | 3 | P-54セクション (西から) |
| 図版57 | 1 | P-28完掘 (東から) | | 4 | P-55セクション (南東から) |
| | 2 | P-28セクション (南から) | 図版68 | 1 | P-55完掘 (南東から) |
| | 3 | P-29完掘 (北から) | | 2 | P-56完掘 (南西から) |
| | 4 | P-29セクション (北西から) | | 3 | P-56セクション (北西から) |
| | 5 | P-30完掘 (南から) | | 4 | P-57完掘 (西から) |
| | 6 | P-30セクション (北から) | | 5 | P-57セクション (東から) |
| 図版58 | 1 | P-31完掘 (東から) | | 6 | P-58完掘 (北から) |
| | 2 | P-31セクション (西から) | 図版69 | 1 | P-58セクション (南東から) |
| | 3 | P-32セクション (西から) | | 2 | P-59セクション (北から) |
| 図版59 | 1 | P-32完掘 (南東から) | | 3 | P-60セクション (南から) |
| | 2 | P-33完掘 (南から) | 図版70 | 1 | P-60完掘 (東から) |
| | 3 | P-33セクション (北西から) | | 2 | P-61完掘 (東から) |
| | 4 | P-34完掘 (北から) | | 3 | P-61セクション (南東から) |
| | 5 | P-34セクション (南から) | | 4 | P-62セクション (西から) |
| | 6 | P-35完掘 (東から) | 図版71 | 1 | P-62完掘 (南から) |
| 図版60 | 1 | P-35セクション (南東から) | | 2 | P-63完掘 (北から) |
| | 2 | P-36セクション (南から) | | 3 | P-63セクション (南から) |
| | 3 | P-37セクション (南から) | | 4 | P-64セクション (南西から) |
| 図版61 | 1 | P-37完掘 (南から) | 図版72 | 1 | P-64完掘 (南から) |
| | 2 | P-38完掘 (東から) | | 2 | P-65完掘 (南西から) |
| | 3 | P-38セクション (南東から) | | 3 | P-65セクション (南東から) |
| | 4 | P-39セクション (南東から) | | 4 | P-66完掘 (南から) |

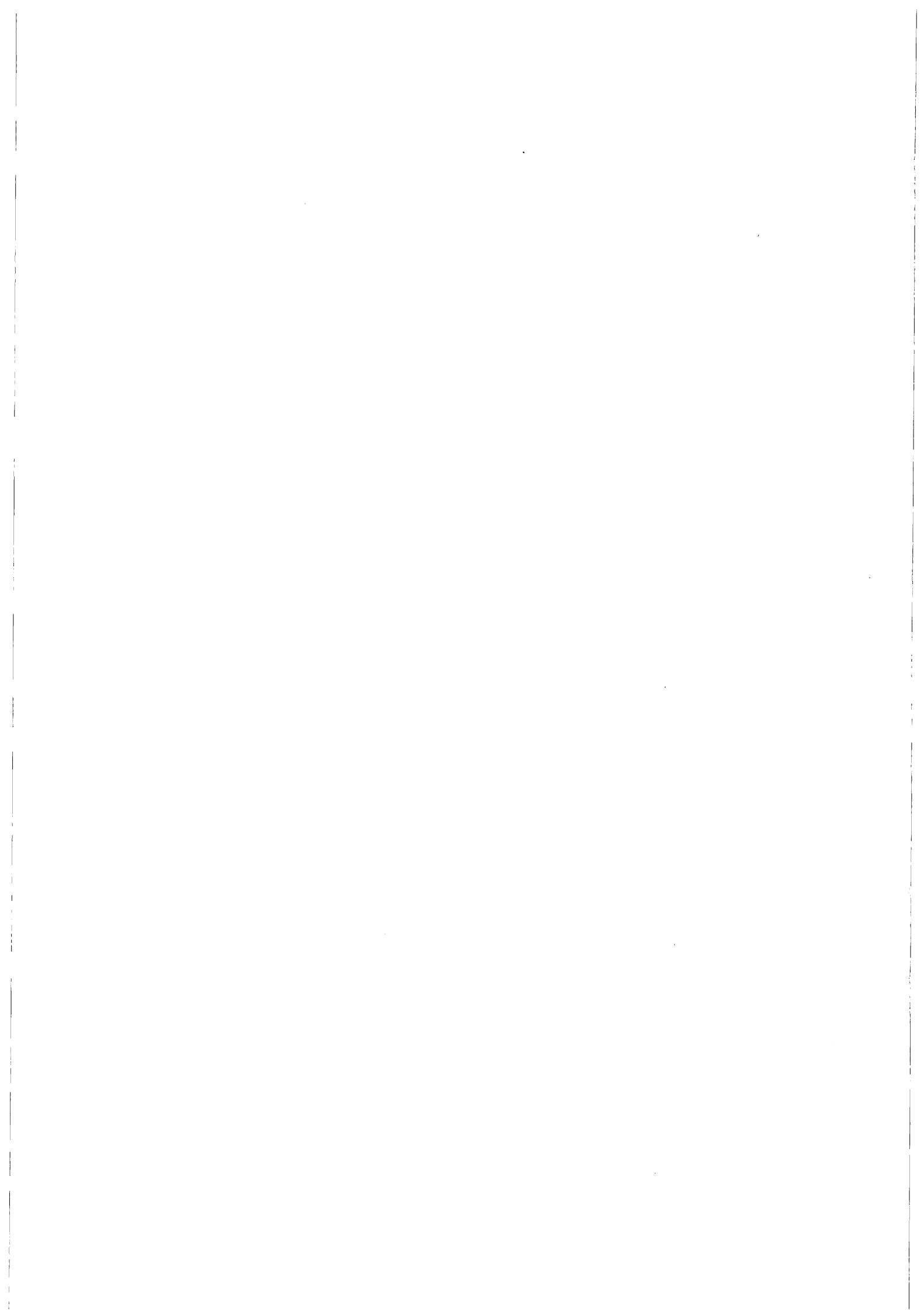
- | | | | | | |
|------|---|---------------------|------|---|---------------------|
| | 5 | P-66セクション (西から) | | 4 | P-92遺物出土状況 (西から) |
| | 6 | P-67完掘 (南東から) | 図版85 | 1 | P-92セクション (南から) |
| 図版73 | 1 | P-67セクション (北西から) | | 2 | P-93完掘 (東から) |
| | 2 | P-68セクション (東から) | | 3 | P-93セクション (南西から) |
| | 3 | P-68完掘 (東から) | | 4 | P-94セクション (南東から) |
| | 4 | P-69完掘 (南から) | 図版86 | 1 | P-94完掘 (南東から) |
| 図版74 | 1 | P-69セクション (西から) | | 2 | P-95完掘 (北東から) |
| | 2 | P-70完掘 (南から) | | 3 | P-95セクション (東から) |
| | 3 | P-70セクション (南西から) | | 4 | P-96完掘 (東から) |
| | 4 | P-71セクション (南東から) | 図版87 | 1 | P-96セクション (南西から) |
| 図版75 | 1 | P-71完掘 (南東から) | | 2 | P-97セクション (南東から) |
| | 2 | P-61・72・73完掘 (北東から) | | 3 | P-97完掘 (東から) |
| | 3 | P-72セクション (南東から) | | 4 | P-98完掘 (東から) |
| | 4 | P-73セクション (北東から) | 図版88 | 1 | P-98セクション (東から) |
| 図版76 | 1 | P-74セクション (南西から) | | 2 | P-99完掘 (南東から) |
| | 2 | P-74完掘 (北西から) | | 3 | P-99セクション (南東から) |
| | 3 | P-75完掘 (北から) | | 4 | P-100完掘 (西から) |
| | 4 | P-75セクション (南東から) | | 5 | P-100セクション (東から) |
| 図版77 | 1 | P-76セクション (南東から) | 図版89 | 1 | P-102完掘 (南から) |
| | 2 | P-76完掘 (北から) | | 2 | P-102セクション (南東から) |
| | 3 | P-77完掘 (北東から) | | 3 | P-103完掘 (南西から) |
| | 4 | P-77セクション (東から) | | 4 | P-103セクション (南から) |
| 図版78 | 1 | P-78完掘 (南から) | 図版90 | 1 | P-104完掘 (南西から) |
| | 2 | P-78セクション (南東から) | | 2 | P-104セクション (南から) |
| | 3 | P-79完掘 (南から) | | 3 | P-105完掘 (東から) |
| | 4 | P-79セクション (南東から) | | 4 | P-105セクション (東から) |
| | 5 | P-80完掘 (南東から) | 図版91 | 1 | P-106完掘 (南から) |
| 図版79 | 1 | P-80セクション (南東から) | | 2 | P-106セクション (南から) |
| | 2 | P-81セクション (南東から) | | 3 | P-108セクション (北東から) |
| | 3 | P-81完掘 (南東から) | | 4 | P-108完掘 (北から) |
| | 4 | P-82完掘 (南東から) | | 5 | P-109完掘 (南東から) |
| 図版80 | 1 | P-82セクション (南東から) | 図版92 | 1 | P-109セクション (南東から) |
| | 2 | P-83セクション (南から) | | 2 | P-110遺物出土状況 (西から) |
| | 3 | P-83完掘 (南西から) | | 3 | P-110セクション (南西から) |
| | 4 | P-84完掘 (北から) | | 4 | P-111床面検出 (北東から) |
| 図版81 | 1 | P-84セクション (北から) | | 5 | P-111セクション (北から) |
| | 2 | P-85セクション (南西から) | 図版93 | 1 | P-111完掘 (北から) |
| | 3 | P-85完掘 (南から) | | 2 | P-111石組み上部断割り (北から) |
| | 4 | P-86完掘 (北から) | | 3 | P-112セクション (南西から) |
| 図版82 | 1 | P-86セクション (北西から) | | 4 | P-113セクション (南西から) |
| | 2 | P-87セクション (南西から) | 図版94 | 1 | P-113完掘 (西から) |
| | 3 | P-87完掘 (北西から) | | 2 | F-1 検出 (東から) |
| | 4 | P-88完掘 (北東から) | | 3 | F-2 セクション (東から) |
| 図版83 | 1 | P-88セクション (北東から) | | 4 | F-3 セクション (南から) |
| | 2 | P-89セクション (南東から) | | 5 | F-4 セクション (西から) |
| | 3 | P-89完掘 (北から) | 図版95 | 1 | F-5 セクション (東から) |
| | 4 | P-90完掘 (南から) | | 2 | F-6 セクション (東から) |
| 図版84 | 1 | P-90セクション (南から) | | 3 | F-7 セクション (東から) |
| | 2 | P-91セクション (南西から) | | 4 | F-8 セクション (北東から) |
| | 3 | P-91完掘 (西から) | | 5 | F-9 セクション (北東から) |

- 図版121 1 H-18出土の遺物 (1)
 図版122 1 H-18出土の遺物 (2)
 図版123 1 H-19出土の遺物 (1)
 図版124 1 H-19出土の遺物 (2)
 図版125 1 H-19出土の遺物 (3)
 図版126 1 H-20出土の遺物
 2 H-22出土の遺物
 3 H-24出土の遺物
 4 H-26出土の遺物
 図版127 1 P-3 出土の遺物
 2 P-4 出土の遺物
 3 P-6 出土の遺物
 4 P-7 出土の遺物
 図版128 1 P-9 出土の遺物
 2 P-14出土の遺物
 3 P-15出土の遺物
 4 P-21出土の遺物
 5 P-22出土の遺物
 6 P-24出土の遺物
 図版129 1 P-26出土の遺物
 2 P-29出土の遺物
 3 P-30出土の遺物
 4 P-34出土の遺物
 5 P-35出土の遺物
 6 P-38出土の遺物
 図版130 1 P-42出土の遺物
 2 P-43出土の遺物
 3 P-44出土の遺物
 4 P-49出土の遺物
 5 P-54出土の遺物
 6 P-58出土の遺物
 7 P-61出土の遺物
 8 P-63出土の遺物
 図版131 1 P-81出土の遺物
 2 P-83出土の遺物
 3 P-85出土の遺物
 4 P-97出土の遺物
 5 P-98出土の遺物
 6 P-100出土の遺物
 7 P-111出土の遺物
 図版132 1 F-13出土の遺物
 2 F-31出土の遺物
 3 F-45出土の遺物
 4 F-53出土の遺物
 図版133 1 F-30出土の遺物
 2 F-43出土の遺物
 図版134 1 S P-18出土の遺物
 2 S-1 出土の遺物
 3 S-2 出土の遺物
 4 S-3 出土の遺物
 図版135 1 S-5 出土の遺物
 2 S-8 出土の遺物
 図版136 1 埋設土器
 2 F C-4 出土の遺物
 3 F C-1 出土の遺物
 図版137 1 F C-7 出土の遺物 (1) 接合資料 背面
 2 F C-7 出土の遺物 (2) 接合資料 腹面
 図版138 1 F C-7 出土の遺物 (3)
 2 F C-9 出土の遺物
 3 F C-15出土の遺物
 4 F C-16出土の遺物
 5 F C-18出土の遺物
 図版139 1 F C-12出土の遺物 (1)
 図版140 1 F C-12出土の遺物 (2)
 図版141 1 B地区包含層出土の土器
 (1・図V-84-1)
 2 B地区包含層出土の土器
 (2・図V-84-2)
 3 B地区包含層出土の土器
 (3・図V-84-3)
 4 B地区包含層出土の土器
 (4・図V-84-4)
 5 B地区包含層出土の土器
 (5・図V-84-5)
 6 A地区包含層出土の土器
 図版142 1 B地区包含層出土の土器
 (6・図V-84-6)
 2 B地区包含層出土の土器
 (7・図V-84-7)
 3 B地区包含層出土の土器
 (8・図V-85-8)
 4 B地区包含層出土の土器
 (9・図V-85-9)
 5 B地区包含層出土の土器
 (10・図V-85-10)
 6 B地区包含層出土の土器
 (11・図V-85-11)
 図版143 1 B地区包含層出土の土器
 (12・図V-85-12)
 2 B地区包含層出土の土器
 (13・図V-85-14)
 3 B地区包含層出土の土器
 (14・図V-85-13)
 4 (14 文様拡大1)
 5 (14 文様拡大2)
 6 (14 文様拡大3)
 図版144 1 B地区包含層出土の土器
 (15・図V-86-15)
 2 B地区包含層出土の土器
 (16・図V-86-16)

- 3 B地区包含層出土の土器
(17・図V-86-17)
- 4 B地区包含層出土の土器
(18・図V-86-18)
- 5 B地区包含層出土の土器
(19・図V-86-19)
- 図版145 1 B地区包含層出土の土器 (20)
- 図版146 1 B地区包含層出土の土器 (21)
- 図版147 1 B地区包含層出土の土器 (22)
- 図版148 1 B地区包含層出土の土器 (23)
- 図版149 1 B地区包含層出土の土器 (24)
- 図版150 1 B地区包含層出土の土器 (25)
- 図版151 1 B地区包含層出土の土器 (26)
- 図版152 1 B地区包含層出土の土器 (27)
- 図版153 1 B地区包含層出土の土器 (28)
- 2 B地区包含層出土の土製品・石製品
- 図版154 1 B地区包含層出土の石器 (1)
- 図版155 1 B地区包含層出土の石器 (2)
- 図版156 1 B地区包含層出土の石器 (3)
- 図版157 1 B地区包含層出土の石器 (4)
- 図版158 1 B地区包含層出土の石器 (5)
- 図版159 1 B地区包含層出土の石器 (6)
- 図版160 1 B地区包含層出土の石器 (7)
- 図版161 1 B地区包含層出土の石器 (8)
- 図版162 1 B地区包含層出土の石器 (9)
- 図版163 1 B地区包含層出土の石器 (10)
- 図版164 1 C地区包含層出土の土器
(1・図VI-50-1)
- 2 C地区包含層出土の土器
(2・図VI-50-2)
- 3 C地区包含層出土の土器
(3・図VI-50-3)
- 図版165 1 C地区包含層出土の土器 (4)
- 図版166 1 C地区包含層出土の土器 (5)
- 図版167 1 C地区包含層出土の土器 (6)
- 図版168 1 C・D地区包含層出土の石器 (1)
- 図版169 1 C・D地区包含層出土の石器 (2)
- 図版170 1 C・D地区包含層出土の石器 (3)
- 図版171 1 C・D地区包含層出土の石器 (4)
- 図版172 1 C・D地区包含層出土の石器 (5)
- 図版173 1 C・D地区包含層出土の石器 (6)
- 図版174 1 黒曜石原材産地同定資料 (11年度依頼分)
- 図版175 1 黒曜石原材産地同定資料 (12年度依頼分)

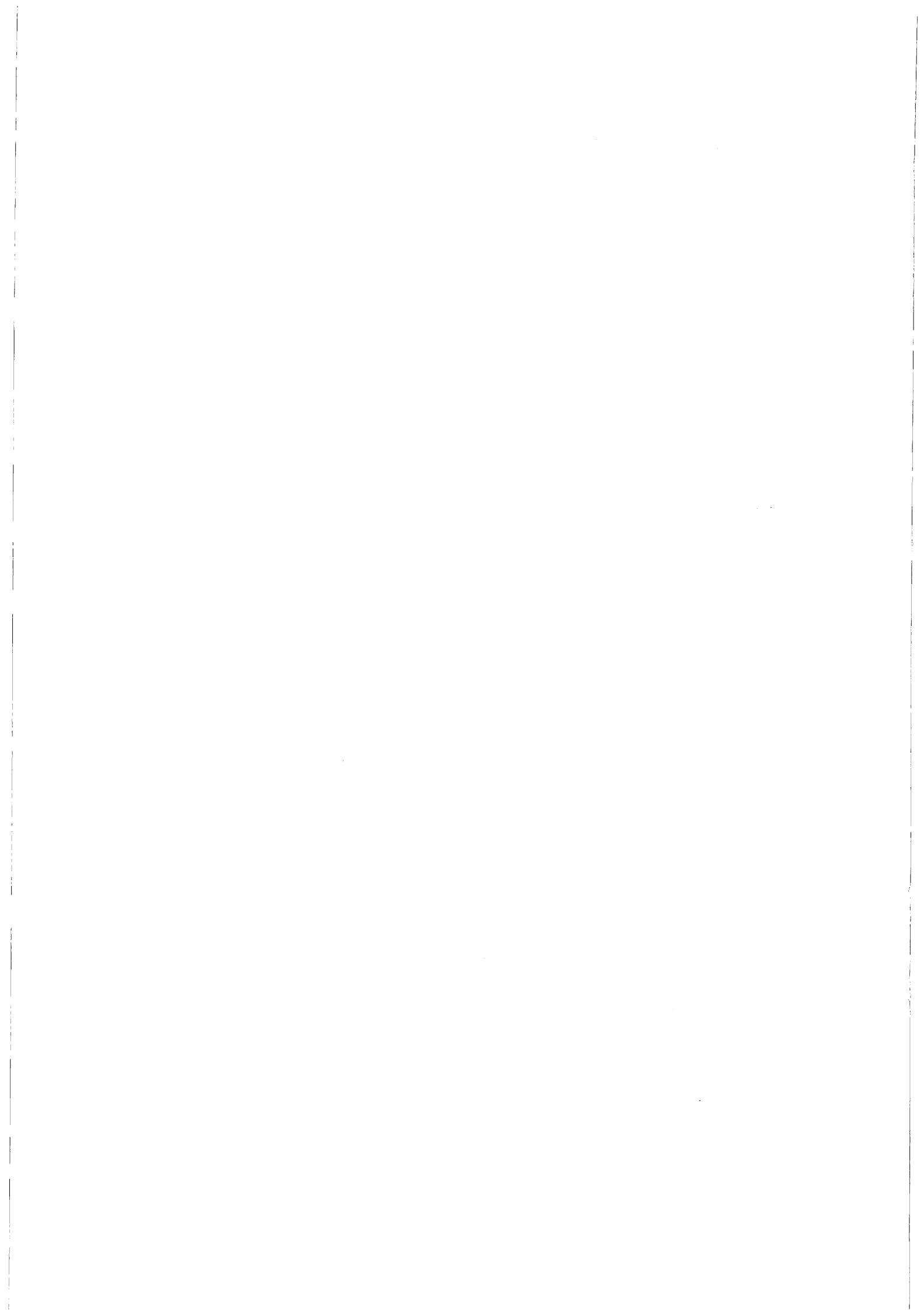


遺跡周辺の航空写真（国土地理院発行のものを複製したものである）





調査区遠景（北東から）

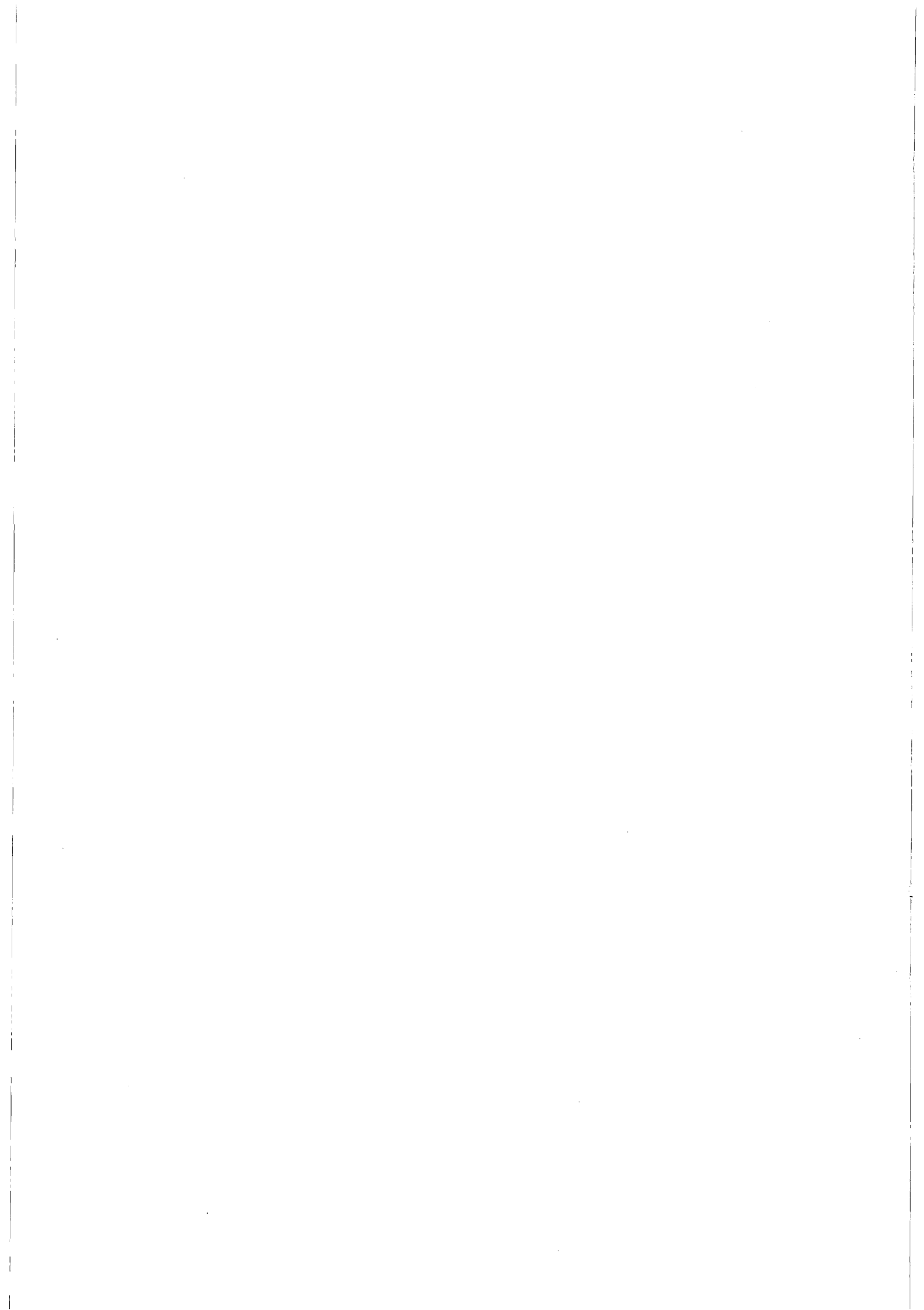




1 遺構出土の土器



2 P-3 出土の土器

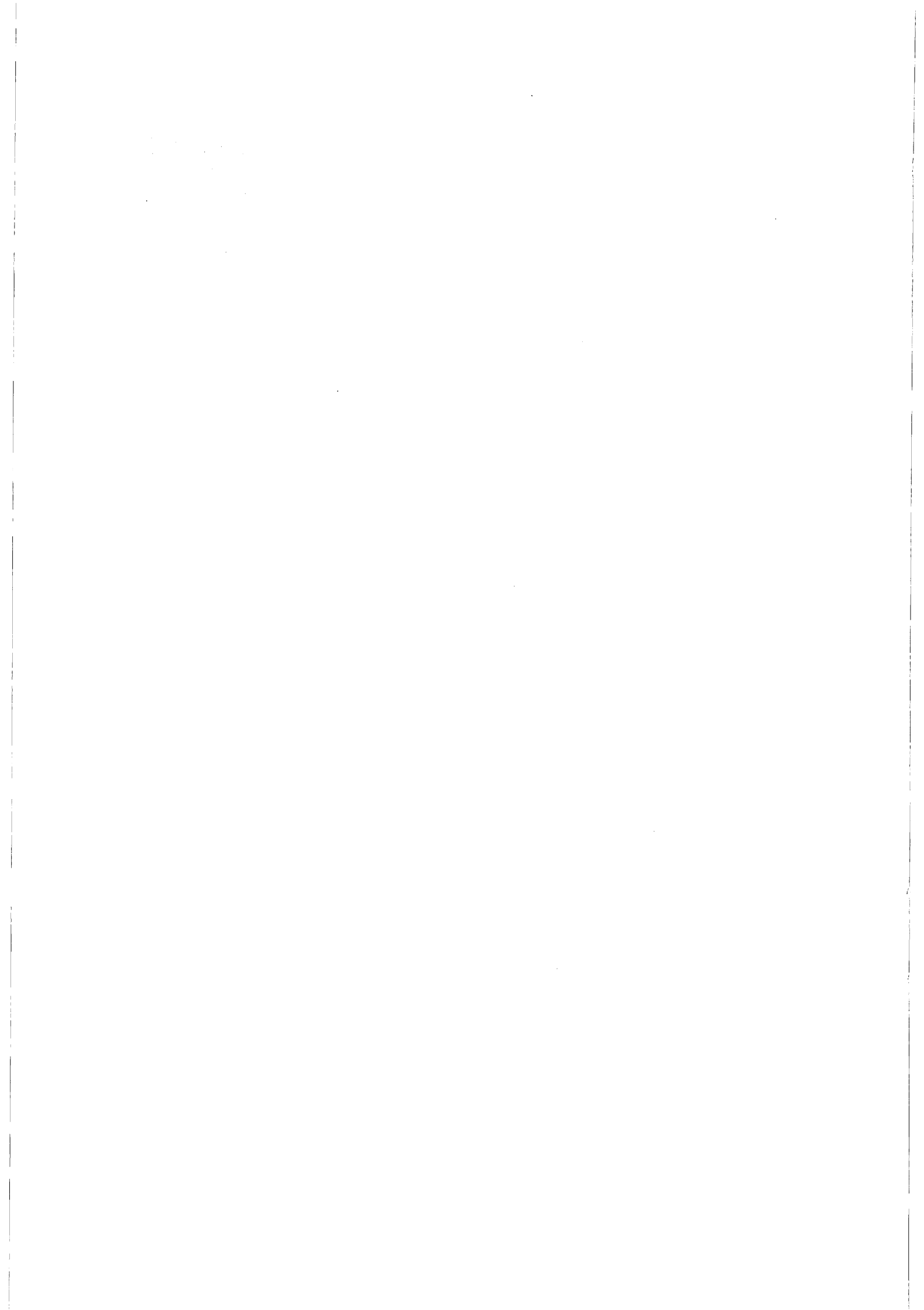




1 P-42 出土の石製品



2 P-42 石製品出土状況



例 言

1. 本書は北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成10～12年度に実施した八雲町山崎4遺跡の調査報告書である。
2. 本書の編集は、谷島由貴が主となって行なった。執筆は第七章を除いて、谷島由貴、笠原興、広田良成、佐藤剛、柳瀬由佳、藤原秀樹が担当し、各項目の文末に括弧で文責を示した。
3. 遺構については、現地調査においては調査員各自が実測し、各自が素図作成・事実記載を行ない、谷島由貴がこれを総括した。
4. 遺物については土器を広田良成、石器を柳瀬由佳が担当した。
5. 調査写真について調査員各自で撮影し、室内撮影は、土器・石器については笠原興が担当した。
6. 各種同定、分析などは下記に依頼した。

放射性炭素年代測定：株式会社地球科学研究所

植物遺体の同定：札幌国際大学 吉崎昌一、北海道大学埋蔵文化財調査室 椿坂恭代

黒曜石の産地同定：京都大学原子炉実験所 藁科哲夫

碧石の産地同定：京都大学原子炉実験所 藁科哲夫

炭化材の樹種同定：東北芸術工科大学大学院 星野智彦、北海道開拓記念館 三野紀雄、東北芸術工科大学 松田泰典

7. 碧石の産地同定と炭化材の樹種同定は藁科哲夫氏、星野智彦氏、三野紀雄氏、松田泰典氏に玉稿をいただいた。
8. 遺物・記録類は整理及び報告書作成後、八雲町教育委員会が保管する。
9. 調査に当たっては下記の諸機関、各氏から御指導、協力をいただいた。（順不同、敬称略）
北海道教育庁文化課、八雲町教育委員会、八雲町立山崎小学校、長万部町教育委員会、森町教育委員会、八雲町郷土資料館：三浦孝一、柴田信一、長万部町教育委員会：佐藤 稔、大根田雅美、森町教育委員会：藤田 登、北海道大学：林 謙作・椿坂恭代、札幌国際大学：吉崎昌一、北海道開拓の村：野村 崇、北海道開拓記念館：三野紀雄・平川善祥・山田悟郎・右代啓視、八雲町教育委員会：横山英介・菊池 博、七飯町教育委員会：石本省三、函館市教育委員会：田原良信・中村公宣・佐藤智雄・野村祐一・神林哲夫・野辺地初雄・高橋 昇、南茅部町教育委員会：阿部千春・福田祐二・南茅部町埋蔵文化財調査団：小林 貢・山口 敦、木古内町教育委員会：山田 央、今金町教育委員会：寺崎康史、伊達市教育委員会：大島直行・青野友哉・小島朋夏、千歳市埋蔵文化財調査センター：大谷敏三・田村俊行・豊田宏良・松田淳子・遠藤昭浩、千歳サケのふるさと館：高橋 理、恵庭市教育委員会：上屋真一・松谷純一・森 秀之・佐藤幾子、苫小牧市埋蔵文化財調査センター：佐藤一夫・宮夫靖夫・工藤肇・赤石慎三、札幌市教育委員会：加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久・秋山洋司・石井 淳、石狩市教育委員会：石橋孝夫・工藤義衛、江別市教育委員会：高橋正勝・野中一宏・稲垣和幸、富良野市教育委員会：杉浦重信・沢田 健、釧路市埋蔵文化財調査センター：石川 朗。

記号等の説明

- 1 本文中および図、表中では以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付した。

H：竪穴住居跡、HF：住居跡内の焼土、HP：住居跡内の土坑・柱穴、
建物跡または建：建物跡、P：土坑、TP：Tピット、F：焼土、SP：小ピット、
I：石組、S：集石、FC：フレイク・チップ集中、C：炭化物集中

- 2 掲載した実測図等の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構	1：40	遺物出土状況	1：20
復原土器	1：3	土器拓影	1：3
剥片石器	1：2	礫石器	1：3
土・石製品	1：2	石斧および関連する石器	1：2
石皿・台石	1：4		

- 3 挿図中の遺物のシンボルマークは以下のとおりである。

	覆土出土	床面・坑底出土
土器	○	●
剥片石器	◇	◆
礫石器	□	■
剥片	△	▲
礫	▽	▼
土・石製品	☆	★

- 4 遺構図中の方位は真北を指し、細数字は標高（単位m）を表している。

- 5 遺構の規模については以下の要領で示した。一部破壊されているものは現存の長さを（ ）で示した。深さは最も高い部分と最も低い部分で計測している。

竪穴住居跡、土坑、Tピット

確認面での長軸の長さ／短軸の長さ×床面での長軸の長さ／短軸の長さ×最大の深さ（単位m）

焼土、小ピット、石組、集石、フレイク・チップ集中、炭化物集中

確認面での長軸の長さ×短軸の長さ×最大の厚さ（単位m）

- 6 土層の標記は基本土層はローマ数字、遺構の覆土についてはアラビア数字で表した。土層説明には『新版標準土色帖1997年版』を使用した。

- 7 石器・土製品・石製品の大きさは「最大長×最大幅×最大厚」で記している。

剥片石器、礫石器は機能部にこだわらず、長軸を長さ、短軸を幅、厚さは最大値を採用した。破損しているものについては、その値を（ ）で示した。

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財調査

委託者：日本道路公団北海道支社

受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

遺跡名：山崎4遺跡（北海道教育委員会搭載番号B-16-60）

所在地：山越郡八雲町字山崎213-3ほか

調査面積と調査期間：

平成10年度 3,000㎡：平成10年9月1日～平成11年3月31日

平成11年度 6,905㎡：平成11年5月6日～平成12年3月31日

平成12年度 7,969㎡：平成12年5月8日～平成13年3月30日

2 調査体制

平成10年度

理事長 伊藤 一夫 (平成10年5月31日まで)	調査第1部第2調査課課長	佐藤 和雄 (発掘担当者)
	文化財保護主事	袖岡 淳子
理事長 大澤 満 (平成10年6月8日から)	文化財保護主事	広田 良成 (発掘担当者)
常務理事 木村 尚俊 (非常勤)		
第1調査部長 畑 宏明		

平成11年度

理事長 大澤 満	調査第1部第4調査課課長	遠藤 香澄 (発掘担当者)
常務理事 木村 尚俊	主任	藤原 秀樹
第1調査部長 畑 宏明 (平成10年8月15日まで)	調査第2部第5調査課課長	熊谷 仁志 (発掘担当者)
	主査	谷島 由貴 (発掘担当者)
第1調査部長 木村 尚俊 (平成10年8月16日から 兼務)	主任	笠原 興
	文化財保護主事	広田 良成 (発掘担当者)
第2調査部長 鬼柳 彰	文化財保護主事	柳瀬 由佳

平成12年度

理事長 大澤 満	調査第2部第5調査課課長	熊谷 仁志 (発掘担当者)
常務理事 木村 尚俊 (兼務)	主査	谷島 由貴 (発掘担当者)
第2調査部長 鬼柳 彰	主任	笠原 興
	文化財保護主事	広田 良成 (発掘担当者)
	文化財保護主事	佐藤 剛
	文化財保護主事	柳瀬 由佳

2 調査体制

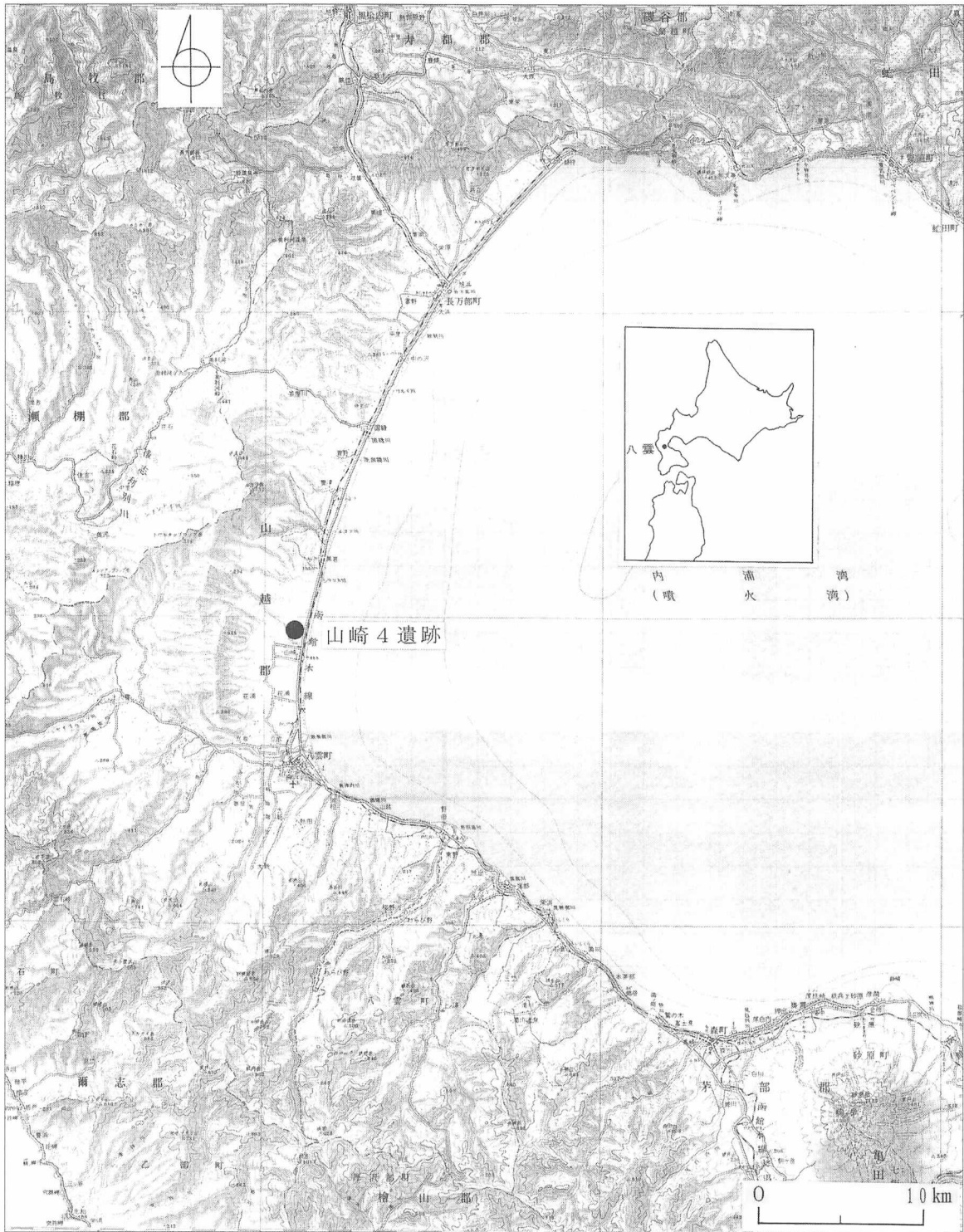


図 I - 1 遺跡の位置 平成5年国土地理院発行の20万分の1地形図を複製したものである。

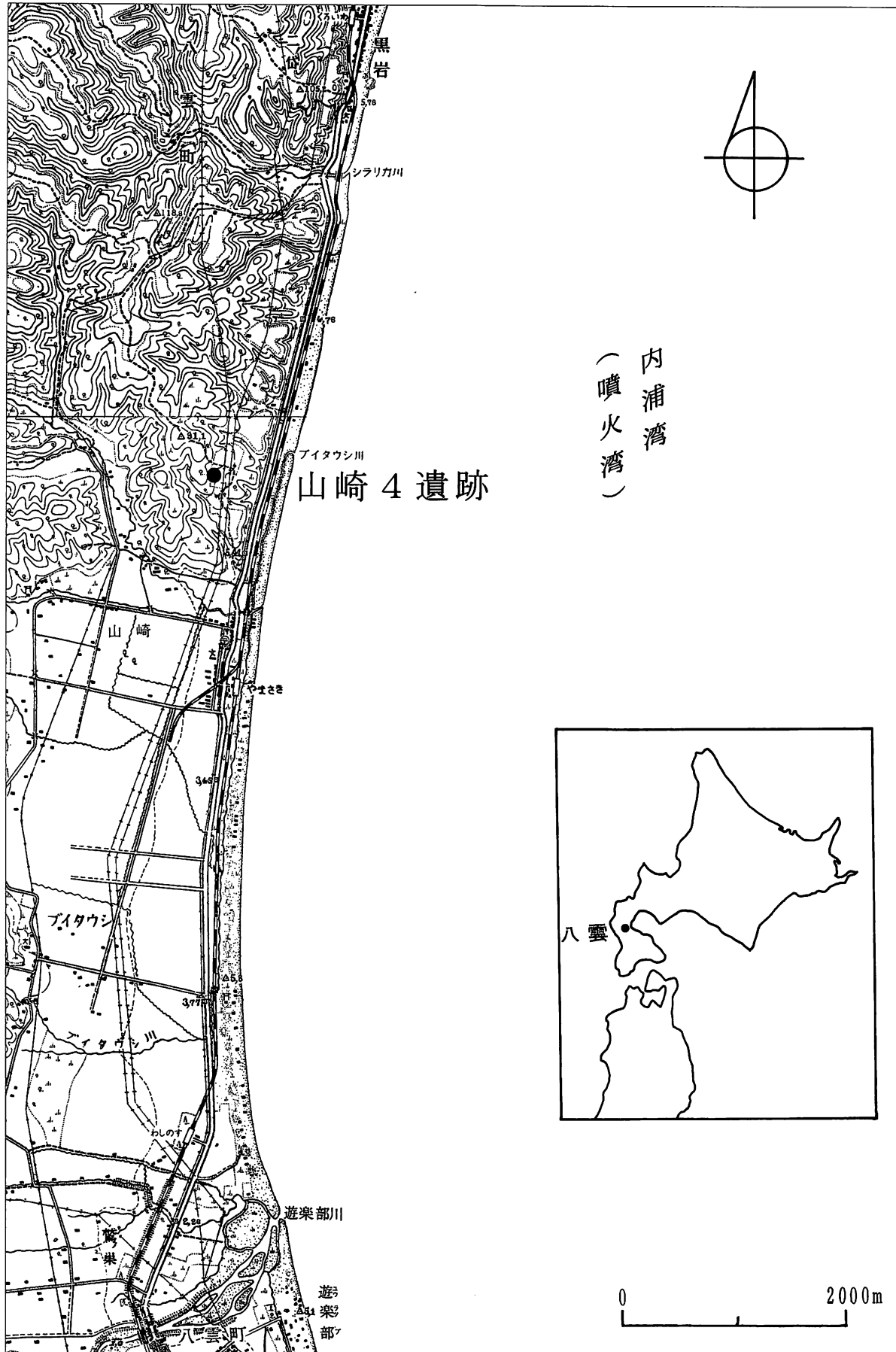


図 I - 2 遺跡の位置 (八雲町北部) 大正4年測量、昭和28年修正、昭和35年11月30日国土地理院発行の5万分の1の地形図を複製したものである。

3 調査に至る経緯

3 調査に至る経緯

北海道縦貫自動車道は七飯～長万部間で平成5年11月から建設が行われている。建設工事に先立って、路線内の埋蔵文化財の取り扱いについて、日本道路公団北海道支社と北海道教育委員会との間で事前協議が行われた。

事前協議を受けて北海道教育委員会は平成2年4月に所在確認調査を行った。

山崎4遺跡は平成7年10月に北海道教育委員会により範囲確認調査が行われた。

平成10年3月に北海道教育委員会は埋蔵文化財包蔵地の周知資料の整備により埋蔵文化財包蔵地として登載された。

北海道縦貫自動車道の当該地域における路線の工事計画の変更が不可能であることから、平成10年9月と10月に(財)北海道埋蔵文化財センターが委託を受け、山崎4遺跡の一部、カルバート建設予定地3,000㎡について発掘調査を行った。

なお、日本道路公団長万部工事事務所管内のうち八雲町内の遺跡は5ヵ所(山崎4遺跡、山崎5遺跡、ポンシラリカ1遺跡、シラリカ2遺跡、黒岩3遺跡)である。

平成11年度は上記5遺跡のうち、黒岩3遺跡を除く4遺跡について、発掘調査が行われた。そのうちの1ヵ所である本遺跡は平成10年度に引き続き、トレンチによる25%調査とA地区で遺構確認調査を行い、7,679㎡の調査を終了した。

日本道路公団函館工事事務所管内の遺跡の発掘調査も平成11年度から山越2遺跡において開始された。

平成12年度は、八雲町内の12遺跡(黒岩3遺跡、ポンシラリカ1遺跡、山崎4遺跡、山崎5遺跡、山越2遺跡、山越3遺跡、山越4遺跡、野田生1遺跡、野田生2遺跡、野田生3遺跡、野田生4遺跡、野田生5遺跡、栄浜1遺跡)について当センターが発掘調査を行っている。

本遺跡では3カ年度で17,874㎡の調査を行った。残った側道部分などは拡幅工事に伴い後年度、発掘調査や工事立会を行うことになっている。

(谷島)

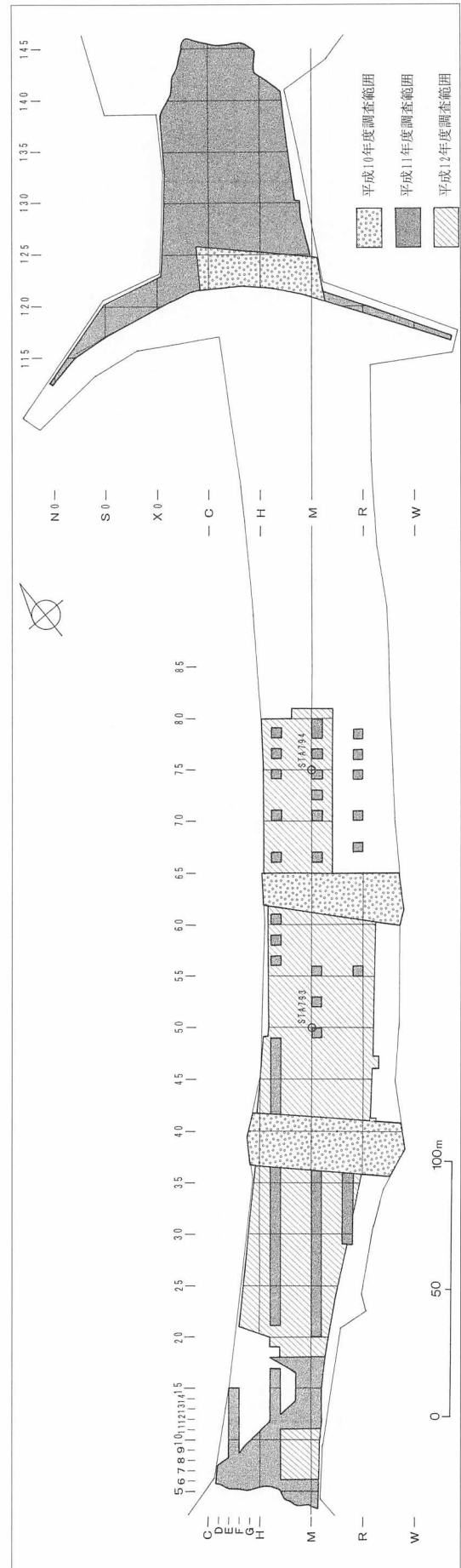


図 I - 3 年度別調査範囲

4 調査の概要

平成10年から3カ年にわたり発掘調査を行ってきた山崎4遺跡は、17,874㎡の調査を終えた。

遺跡は海岸段丘上の緩斜面に立地する。北海道縦貫自動車道の建設予定地が海岸線と平行して続くため、調査範囲も北東から南西に長く、約570mある。この間、海岸段丘は小さな沢などで区切られ、主体となる時期や性格に差がみられる。便宜上、北東側からA地区、B地区、C地区、D地区と地区に分けている。詳細については、後述するⅢ章を参照されたい。

平成10年度の調査はカルバート予定地のA・B・C地区合わせて3,000㎡を調査した。

平成11年度はA地区の残りを調査した。B1・C・D地区は重機でトレンチ状に表土の除去を行い25%調査で遺構・遺物の出土傾向などを確認した。その結果、B2地区側に遺構・遺物の広がりが見られることからこの部分についても、25%調査を行う必要があり、急遽、他の地区と同様に、トレンチ状に表土除去をしたうえで25%調査を行った。

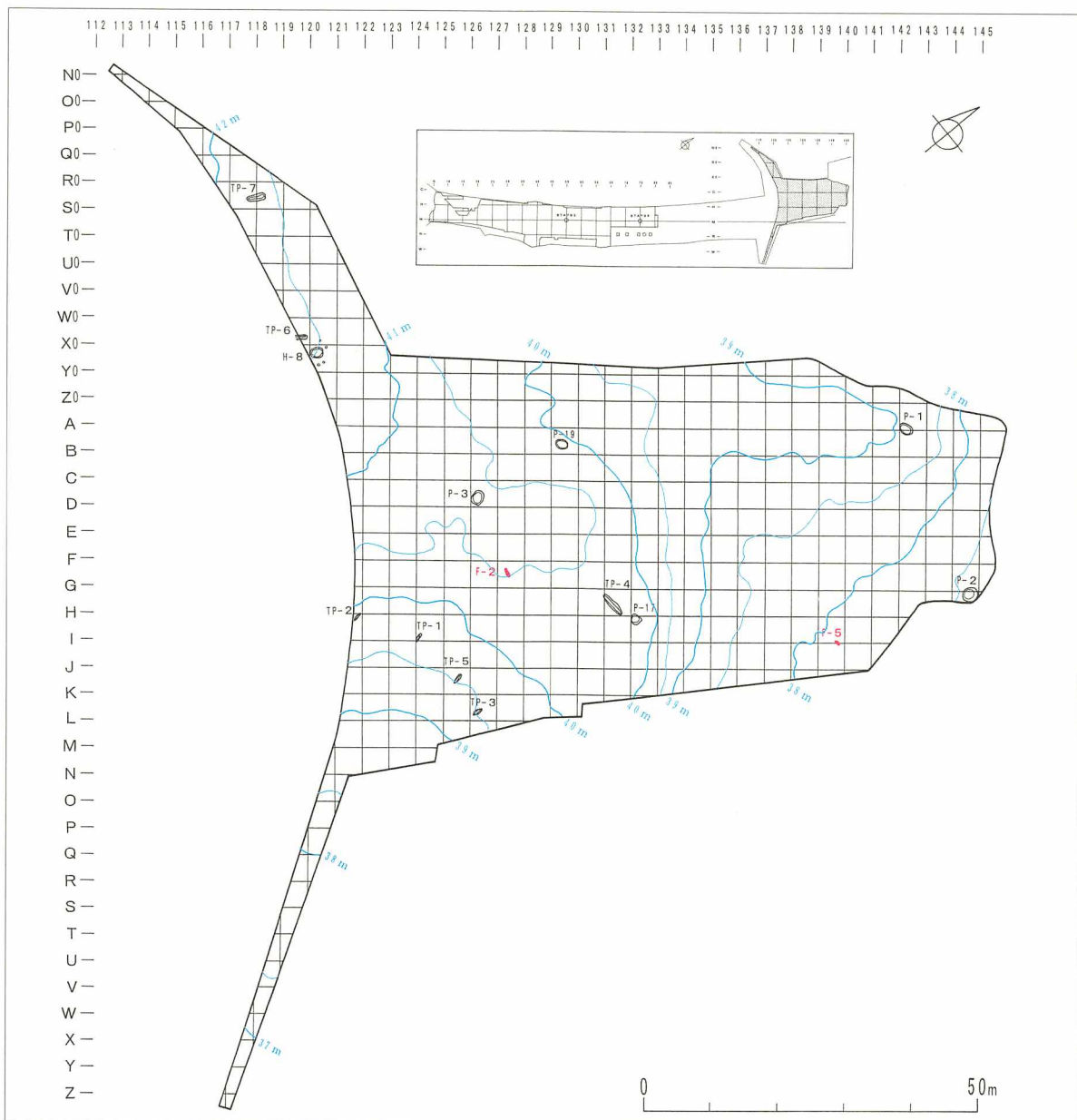


図 I - 4 A地区遺構配置

4 調査の概要

D地区については25%調査の結果をもとに、V層まで及ぶ農地造成による攪乱部分を調査範囲から除外し、他は9月から全面的表土を除去し、本格的な調査に取り掛かり一部を残し終了し、平成12年度に、引き続き調査を実施した。

平成12年度はB2地区とC地区の表土除去を重機で行い、調査に入った。B2地区は礫が多く、遺物の出土が少ない一部について最終面であるV層まで重機で除去した後に遺構確認調査を行っている。

C地区の一部は耕作が深くV層に達する部分もある。

B1地区は牧草を重機で除去し、I層から人力で調査を行った。

山崎4遺跡では縄文時代早期から後期・近世の遺構が検出されている。とくに中期前半と後期前葉はB地区の主体をなし遺構数も多い。各地区全体で検出した遺構は以下のとおりである。

竪穴住居跡24軒、建物跡10軒、土坑111基、Tピット7基、焼土56カ所、小ピット160カ所、石組2カ所、集石8カ所、埋設土器1カ所、フレイク・チップ集中20カ所、炭化物集中1カ所が検出されている。

概略の内訳は、竪穴住居跡はB地区が多く検出され20軒で縄文時代中期前半と後期前葉のものである。

B地区の竪穴住居跡には、重複しているものや被火災住居がある。A地区から縄文時代中期後半の竪穴住居跡が1軒、D地区のものは縄文時代早期、沈線・条痕文土器の頃の竪穴住居跡が3軒である。建物跡はC地区が多く9軒、D地区から1軒検出されている。耕作が深いため竪穴の掘り込みが消失した可能性のあるものもある。

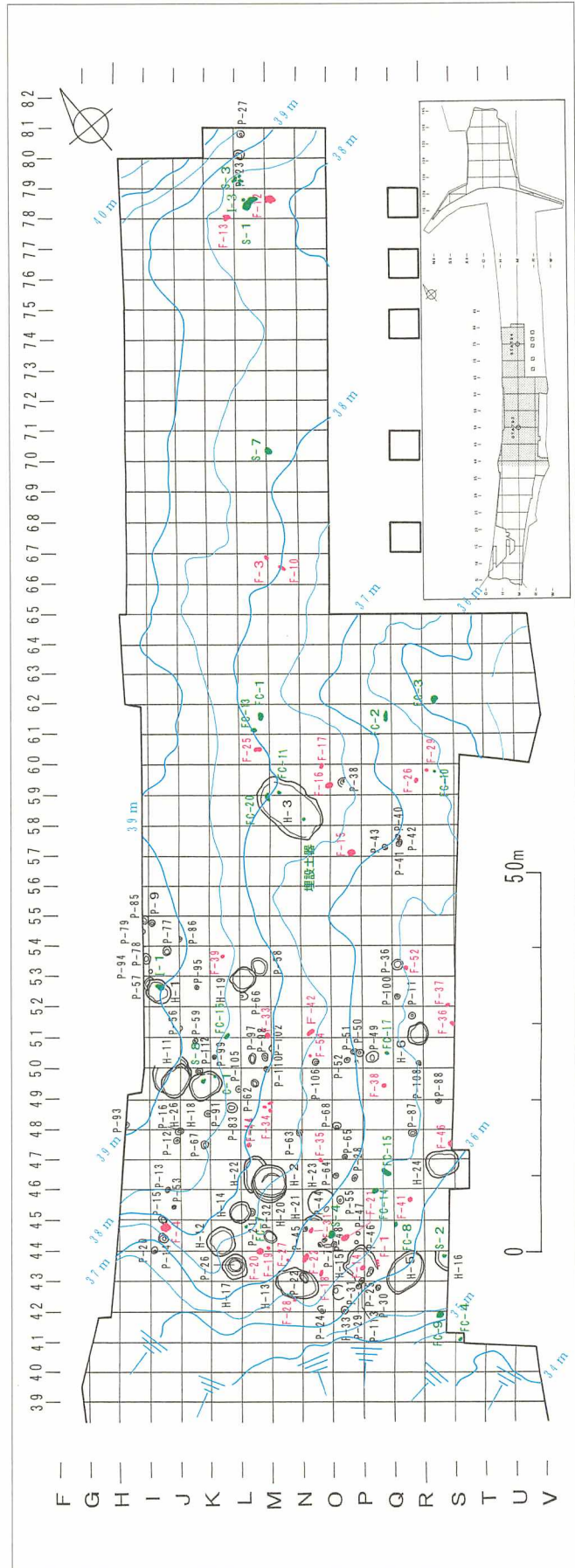


図 I - 5 B地区遺構配置



図 I-6 C・D地区遺構配置

4 調査の概要

土坑はA地区から5基、B地区は多く75基、C地区は29基、D地区は2基検出されている。このうち土壙墓と考えられるものがあり、B地区のP-42の坑底から砂岩製の三角形をした石製品が出土している。C地区から、土坑P-111としたが、近世と考えられる炭窯が検出されている。

TピットはA地区のみ検出され7基あり等高線に沿って列をなすもの2列6基を確認した。

焼土はA地区から2カ所、B地区から37カ所、C地区から13カ所、D地区から4カ所検出されている。B地区で検出された焼土には、焼土粒と黒色土の混合された土の入った二次堆積のものが多くみられる。

小ピットはB地区から108カ所、C地区から52カ所、また、C地区からは杭列も検出されている。

その他、石囲い2カ所、埋設土器1カ所、炭化物集中1カ所がB地区から検出されている。フレイク・チップ集中はB地区から14カ所、C地区から2カ所、D地区から2カ所検出されている。

包含層出土の鉄製品8点はI層出土のものである。

(谷島)

掲載地区	土										器						小計
	IA	IB	II B	III A-1	III A-2	III A-3	III B	IV A	IV B	VI	土製円盤	耳栓	焼成粘土塊	陶器	不明		
遺構	267	5	185	22	742	3703	313	384	1	0	11	0	0	0	0	5633	
A地区計	0	0	0	0	8	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	12	
B地区計	16	0	162	0	3874	15406	231	1030	17	0	5	3	11	0	2	20757	
C地区計	2142	438	172	0	2244	3254	256	1329	20	2	7	0	10	1	0	9875	
総計	2425	443	519	22	6868	22366	800	2744	38	2	23	3	21	1	2	36277	

掲載地区	剥片石器														剥片石器類計
	石鎌	石槍	ドリル	つまみ付ナイフ	スクレイパー	両面加工石器	楔形石器	石器未成品	Rフレイク	Uフレイク	石核	剥片	原石		
遺構	56	21	20	9	102	8	0	9	53	39	15	14520	5	14857	
A地区計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	
B地区計	115	20	43	27	249	18	2	10	279	113	64	9455	87	10482	
C地区計	45	44	6	18	72	27	0	3	51	70	22	8814	24	9196	
総計	216	85	69	54	423	53	2	22	383	222	101	32794	116	34540	

掲載地区	礫石器														総計
	石斧	たたき石	すり石	石鋸	砥石	石錘	石皿・台石	加工痕のある礫	礫剥片	礫	礫石器類計	石製品	石器合計	鉄製品	
遺構	15	32	171	1	16	1	112	0	47	4617	5012	2	19871	1	25505
A地区計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	18
B地区計	60	119	257	0	55	9	70	7	118	3799	4494	4	14980	4	35741
C地区計	9	62	66	2	48	44	42	3	29	1196	1501	0	10697	4	20576
総計	85	213	494	3	119	54	224	10	165	10316	11008	6	45549	9	81840

II 遺跡の位置と周辺環境

1 遺跡の位置と地形

八雲町は渡島半島の北東部内浦湾（噴火湾）の最奥部に面する町である。北側はルコツ川を挟み長万部町と、南側は茂無部川を境に森町と隣接する。この間の海岸線は34kmに及んでいる。渡島半島を日本海側と太平洋側とに二分する渡島山地を挟んで西側は檜山支庁の5町（今金町、北檜山町、熊石町、厚沢部町、乙部町）と接している。市街地は「サケ」が遡上し、自然産卵することで有名な清流遊楽部川の河口、支流である砂蘭部川によって形成された扇状地の末端に発達している。

町名「八雲」の旧名は「遊楽部」、アイヌ語で「ユー・ラップ」（温泉下る川）、あるいは「イ・ウ・ラァ・ベツ」（共に流れる川ー支流がたくさん集まって流れ下るー）と呼んでいた。明治14年ここに農場を作った旧尾張藩主徳川慶勝侯が『古事記』の古歌「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る 其の八重垣を」に因んで改名したものである。八雲町の気候は温暖で平成11年度の年平均気温は8.5℃、最高気温33.5℃、最低気温-15.3℃、年間総降水量1,330mm、年間総降雪量630cmとなっている。

山崎4遺跡は八雲町の市街地から北に8km程離れた標高35～41mの海岸段丘上に立地する。山崎の地名は、この付近の国道に沿う山麓が岬に似ているので付近の住民が「山崎」と呼び習わしていたためといわれ、江戸時代末期にここを通過した松浦武四郎は「山サキ」と記録している。

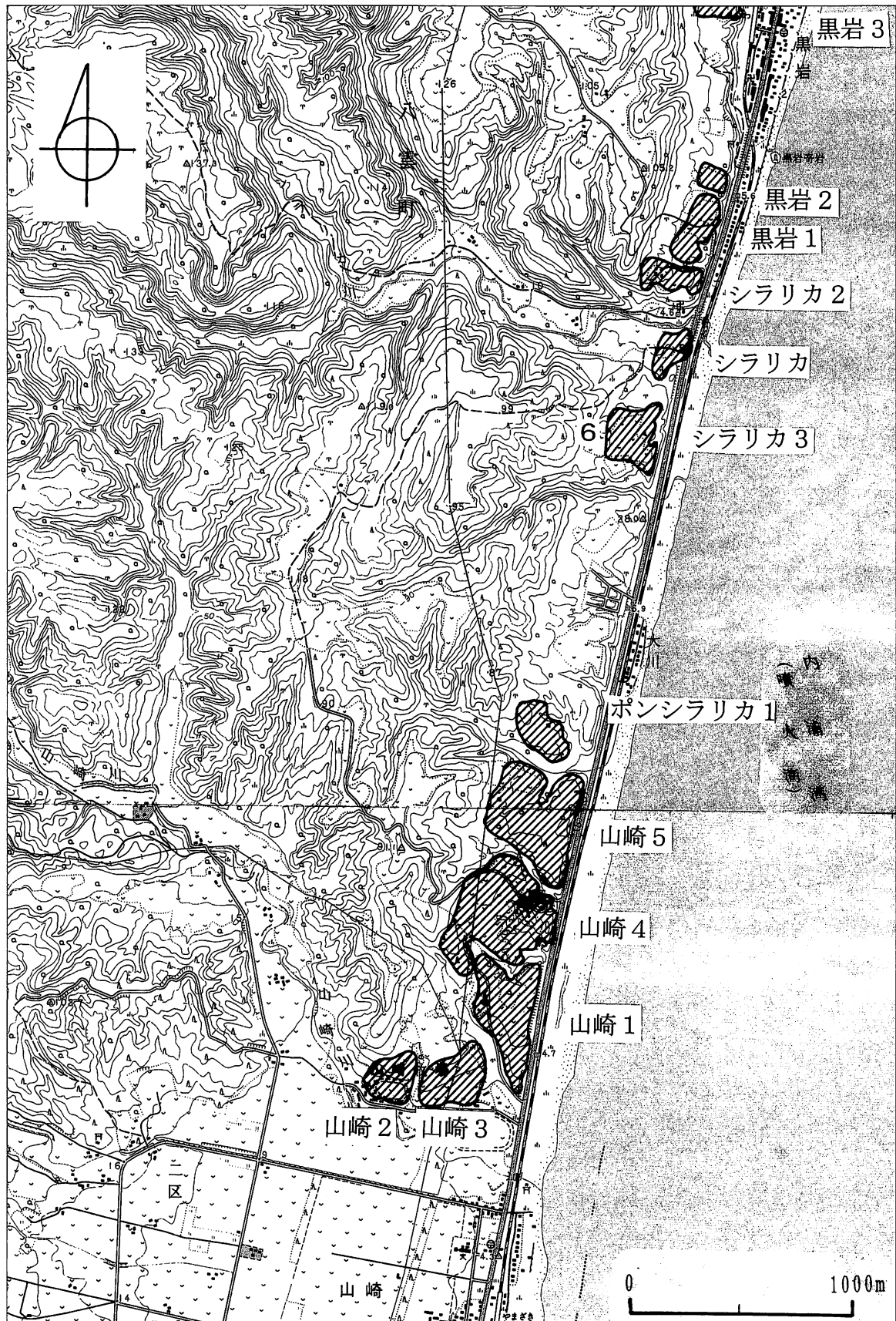
遺跡の位置する海岸段丘は、後背の山地から、伏流水などの湧出で小さな沢が海岸線に直行するように幾筋も発達している。遺跡は沢や小河川による谷などで区画された段丘上に海岸線と平行するように、長万部町から八雲町にかけて幾つも立地する。海岸段丘は八雲町から長万部町の中ほどまで続く。山崎4遺跡の南側約1km離れて山崎川から南は、低平な平野が市街地にかけて広がる。かつてこの海岸側は湿地で在ったようで、他からの廃棄物や盛土などが行われ、現在の国道5号線の脇に牧草地が広がる風景になったと聞く。縄文時代には、湾を形成していた可能性もある。

2 周辺の遺跡

山崎4遺跡の立地する海岸段丘上には、南側に山崎1遺跡、山崎2遺跡、山崎3遺跡、北側に山崎5遺跡、ポンシリカ1遺跡、さらに北側に約1km離れてシリカ3遺跡、シリカ遺跡、シリカ2遺跡、黒岩1遺跡、黒岩2遺跡、0.8km離れて黒岩3遺跡が並んでいる。

山崎1遺跡は縄文時代早期から晩期、続縄文時代の遺跡で、早期と中期が主体となっている。昭和54年に八雲町教育委員会によって調査されている。山崎2遺跡と山崎3遺跡は山崎川左岸の河岸段丘上に立地し、前者は縄文時代前期（円筒土器下層式）・中期（円筒土器上層式）・続縄文時代、後者は縄文時代前期（円筒土器下層式）・中期（円筒土器上層式）の遺跡である。山崎5遺跡は平成11年度と12年度に当センターにより調査が行われている。縄文時代早期、前期、後期、続縄文時代の遺跡で、前期の竪穴住居跡などが検出され集落をなしている。ポンシリカ1遺跡は平成11年度と12年度に当センターにより調査が行われている。縄文時代早期～後期の遺跡で、早期が主体となって竪穴住居跡2軒などが検出されている。シリカ遺跡は標高5～10mの河岸段丘状に立地し、続縄文時代（恵山式）と擦文時代の遺跡である。シリカ2遺跡は平成11年度に当センターが調査を行っている。標高40mの海岸段丘状に立地し、縄文時代前期（円筒土器下層式）の遺跡で、竪穴住居跡2軒などが検出されている。シリカ3遺跡は平成2年度に新発見の遺跡で、海岸段丘状に立地し、剥片が出土している。黒岩1遺跡と黒岩2遺跡は海岸段丘の段丘面に接し、沢を挟んで互いに向き合う、縄文時代中期（円筒土器上層式）の遺跡である。黒岩3遺跡は平成12年度に当センターが調査を行っている。縄文時代早期、中期、後期の遺跡で、竪穴住居跡2軒などが検出されている。（谷島）

2 周辺の遺跡



図Ⅱ-1 周辺の遺跡

2 発掘調査の方法

2 発掘調査の方法

山崎4遺跡は調査区が長く、飛び地の部分や沢で分断されるなどしているため、地区名(図Ⅲ-2)を付けて対応した。

111ラインより北東側をA地区、65~81ラインをB2地区、60~65ラインの平成10年度調査区をB地区、41~62ラインをB1地区、35~42ラインの平成10年度調査区をC地区、19~36ラインをC地区、南西端~19ラインをD地区と呼称した。本報告書では、平成10年度調査区のC地区が沢地形であることから、これを二分し、B地区とC地区の境を39ラインとした。

平成10年度の調査はカルバート予定地のA・B・C地区合わせて3,000㎡を重機で表土および攪乱層の除去を行って調査した。

平成11年度はA地区について遺構確認調査部分のため、重機により表土を除去し25%調査後、全体をVI層からV層の上面まで除去したうえで、遺構確認のための精査を行い、検出した遺構の調査に取り掛かった。

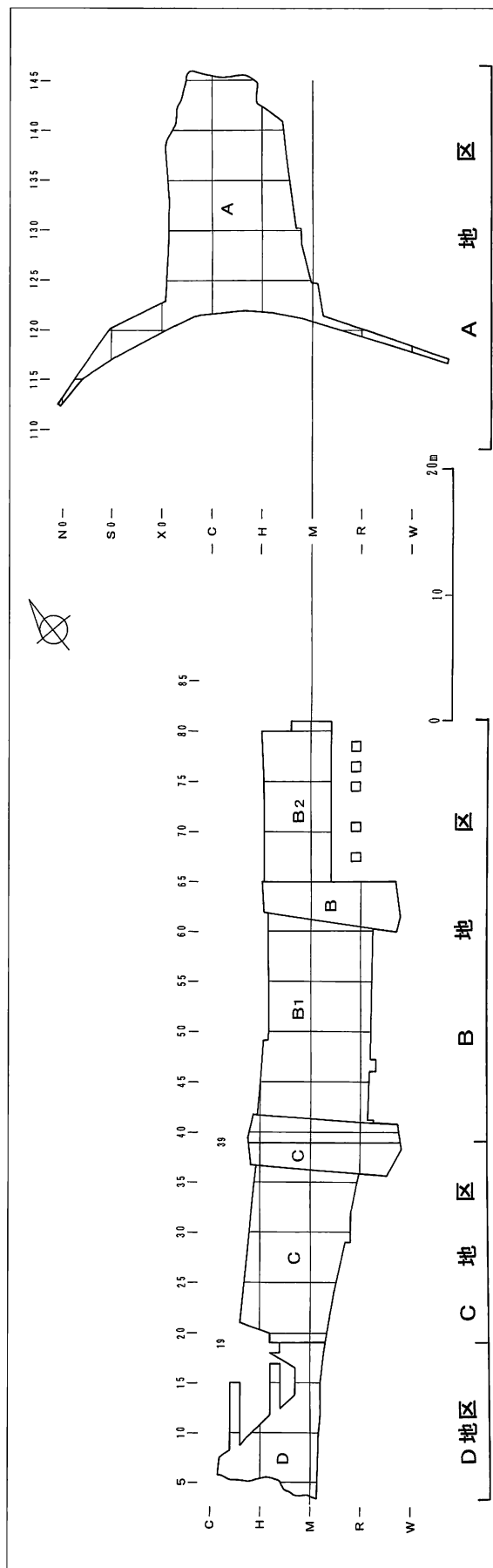
B1・C・D地区は重機でトレンチ状に表土の除去を行い25%調査で遺構・遺物の出土傾向などを確認した。その結果、遺物の出土傾向や地形などから、B2地区についても25%調査を行う必要があると判断し、他の地区と同様にトレンチ状の表土除去後に25%調査を行った。

D地区については農地造成による攪乱部分を調査範囲から除外し、他は9月から全面の表土を除去し、本格的な調査に取り掛かり一部を残し終了した。

平成12年度はB2地区とC地区の表土除去を重機で行い、調査に入った。B2地区は礫が多く、遺物の出土が少ない一部について最終面であるV層まで重機で除去した後に精査を行っている。

C地区の一部は耕作が深くV層に達する部分もある。B1地区は重機で牧草を除去し、表土から人力で調査を行った。

全地区とも深度耕作が広く行われ、II層は沢など一部を除きほとんど残存していない。III層も半分以上の部分は攪拌されている。最も残りの良い



図Ⅲ-2 地区名

B地区においてもⅢ層の上部は攪拌されている。

Ⅲ・Ⅵ層の残存部分についてはスコップ、ジョレン、移植ゴテを併用した遺物・遺構確認の調査を行った。

遺物の取り上げは、Ⅰ層からⅥ層の包含層については調査区・層位をビニール袋に明記して取り上げた。遺構の遺物は覆土の遺物をまとめて取り上げたり、遺構を平面的に4分割して取り上げているところもあるが、基本的に位置を記録しながら取り上げている。
(谷島)

3 土層の区分

基本土層は以下のとおりだが、図Ⅲ-3・4で示したように耕作が深く、Ⅱ層およびⅢ層が攪拌されているところが大半である。

Ⅰ層：耕作土

Ⅱ層：駒ヶ岳火山灰d層 (Ko-d)

Ⅲ層：腐植土

3層に分層出来るところもある。

Ⅲ層上：黒色粘質土 (沢などでは斑状にB-Tmがみられる)

Ⅲ層中：黒褐色土

Ⅲ層下：暗褐色土

Ⅳ層：漸移層

Ⅴ層：黄褐色ローム

遺物の本来的包含層はⅢ層中～下 (縄文時代中期～後期)、Ⅲ層下～Ⅵ層 (縄文時代早期) である。

(谷島)

4 整理の方法

(1) 土器

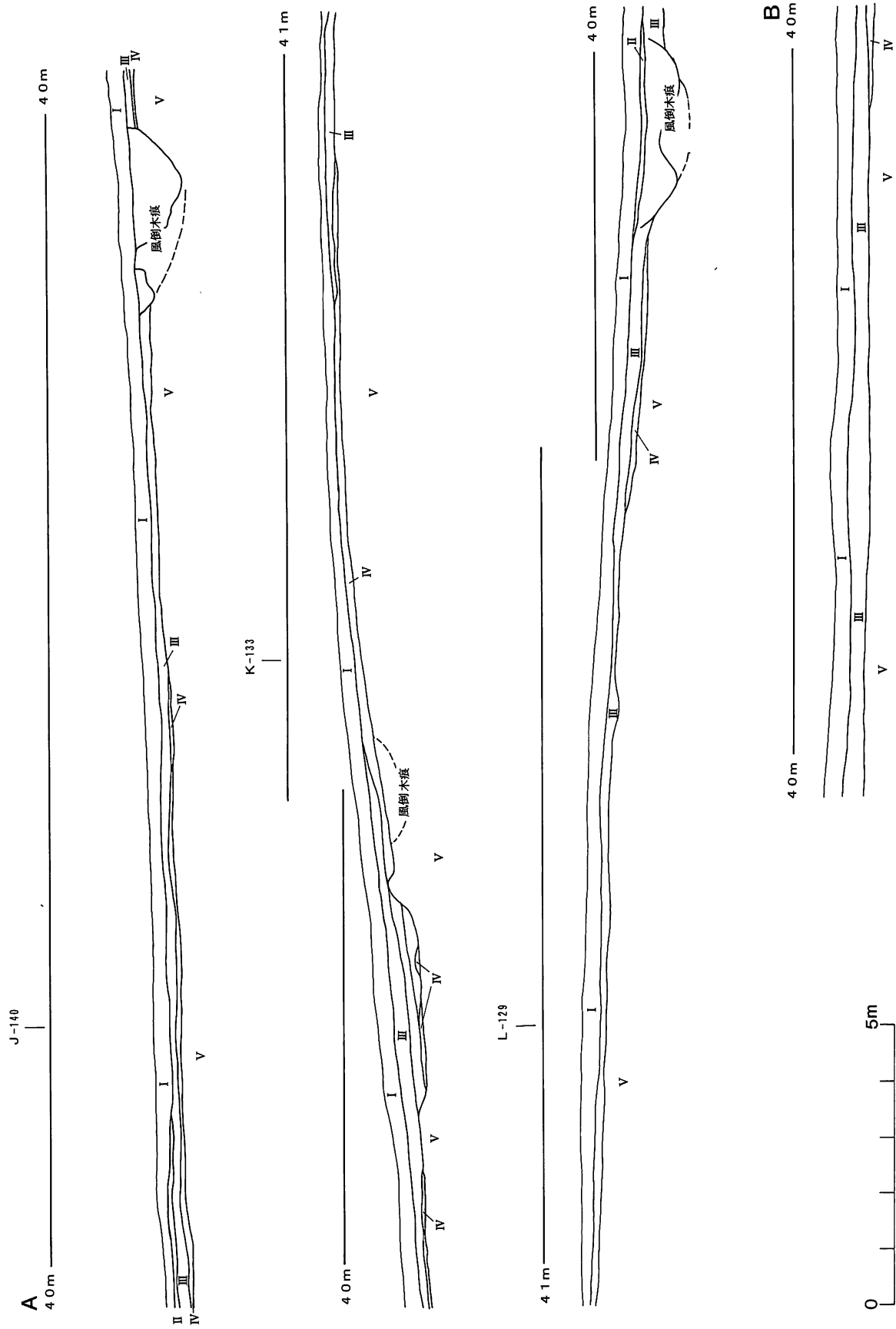
現地では、水洗して乾燥させた後、分類作業を行って遺物台帳に登録した。その後、小片以外の土器については全て注記作業を行った。注記は遺跡名の山崎4遺跡を「Y4」と略記し、遺構出土のものは遺構名、包含層出土のものはグリッド名を記入し、続けて遺物番号、出土層位の順で、それぞれ簡略化して記入した。遺構名に関してはグリッド名との判別のため最初に「Y」を付けた。

現地での整理を終えた遺物は、遺構、グリッドごとに仮収納し、仮収納が終わったものに関しては、現場作業中に江別の整理作業所に搬送し、整理作業を開始した。

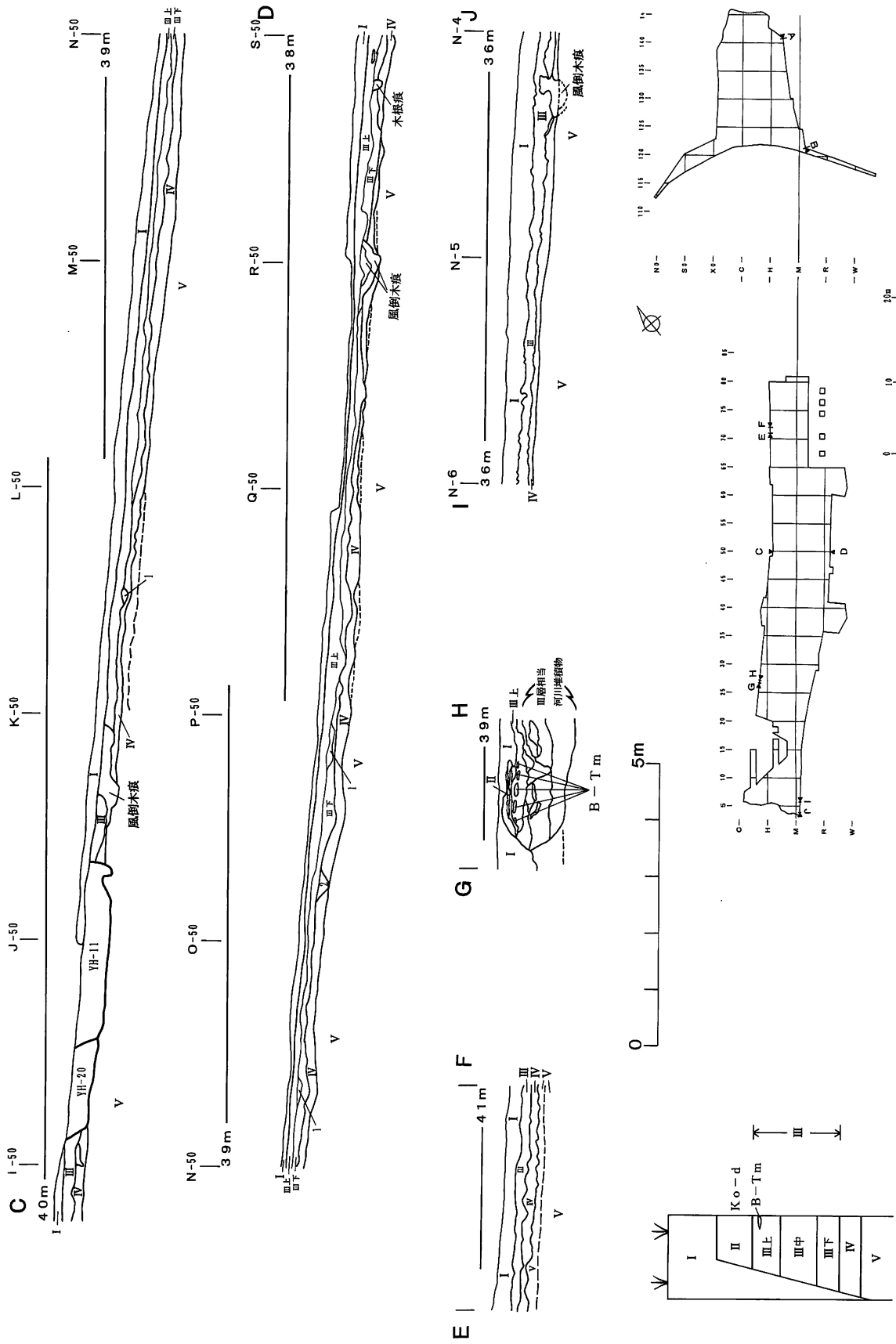
11月以降は江別市内の整理作業所において、遺物台帳と遺物の照合、台帳の補正、土器の接合・復原、実測・トレース、集計を行った。最初に土器分類の見直しを行い、その後接合・復原作業を行った。接合・復原作業にあたっては同一個体の破片を把握することに努めた。復原できた土器に関しては、実測図の作成を行った。実測図では、最も器形の特徴を表している断面部分を表現するために90度回転させた位置で実測したもの、欠落部分を現存部分から復元して実測したものもある。破片資料は時期等の特徴が判別しやすい器形、文様構成の分かる、口縁部及び底部破片を中心に拓影図を作成した。

報告書に掲載する土器に関しては、一覧表で出土地点、層位等を示した。実測土器は一個体ずつ、拓影掲載土器は遺構出土のものは遺構で一括して、包含層出土のものは地区ごとに写真撮影を行った。これらの作業と並行して、土器の集計作業と遺物分布図の作成を行っている。

4 整理の方法



図III-3 土層層序(1)



図III-4 土層層序 (2)

4 整理の方法

整理作業の終了した資料は報告書掲載資料、未掲載資料で2分し、さらに、地区・遺構・グリッド別に収納した。(広田)

(2) 石器

現地では土器同様、水洗・分類・台帳登録を行い、器種ごとに仮収納し、江別の整理作業所に搬送した。

整理作業所では、遺物台帳と遺物の照合・補正、器種ごとの台帳の作成、分類の再検討・細分類、石材の観察、接合、実測・トレース、集計などを行った。接合作業はフレイク集中の遺物を中心に、一部礫石器でも行った。実測・トレースは遺構に伴うものを最優先し、包含層出土のものは完形品を中心に、出土傾向を反映するよう選別して行った。掲載した遺物の一覧表・写真撮影・集計・分布図作成・収納等は土器と同様に行った。

なお、本遺跡では基盤層に自然礫が多く含まれており、現場の発掘作業中には石器との判別が困難な場合も多くみられた。そのため現場では、大きさ・形態から石器の可能性のあるものはすべて一旦取り上げることとし、水洗後、使用痕・加工痕が認められない礫のうち、表面の風化の程度などから基盤層起源の自然礫と判断したものについては、おおよその点数を把握するために台帳に記載した後、廃棄した。その点数は約6,300点である。(柳瀬)

(3) 金属製品

出土した金属製品は鉄製品であったため、まず、表面の土を歯ブラシ等で落とし、保存処理前の状態を写真撮影した。保存処理はエアブラシ等で錆を除去、アルコール洗浄、高温高圧の脱塩処理を行い、NAD-10を減圧含浸した。その後実測図の作成とX線写真撮影を行った。保管は脱酸素剤(RPシステム)を封入する。(佐藤)

(4) 微細遺物の取り扱い

現場で遺構内から採取したサンプルは、取り上げた袋ごとに台帳に登録し、資料番号をつけた。土壌サンプルは、乾燥させて体積を計測し、フローテーション・マシン(浮遊選別器)を用い、水道水で炭化種子選別作業を実施した。浮遊物については0.425mmメッシュのふるいで、沈殿物(残渣)については1.00mmメッシュのふるいで採取した。採取したものは、乾燥させた後、現地から江別市内の整理作業所に搬送し、肉眼と20倍の実体顕微鏡を使って炭化種子の選別作業を行った。残渣は同様に炭化種子と土器小破片、フレイク・チップ、炭化材等に区分した。この内炭化種子について同定を行った(第七章4節)。(広田)

5 遺構の分類

遺構の調査は竪穴住居跡を例にすると、確認された時点で平面形の長軸と短軸方向に土層観察用の土手を設定し掘り下げた。

遺構の表記は以下の記号を用いた。

H：竪穴住居跡 HF：住居跡内の焼土 HP：住居跡内の土坑・柱穴

建物跡または建：建物跡 P：土坑 TP：Tピット F：焼土 SP：小ピット

I：石組 S：集石 FC：フレイク・チップ集中 C：炭化物集中

遺構番号は原則として確認順に付しているが、一部は欠番のままの部分や振り替えて遺構番号を付し

たものがある。

調査区の表記はC-50区の場合本文中ではそのままであるが、図の表記はハイフン（-）を取り除き「C50」のように表記した。
 （谷島）

6 遺物の分類

（1）土器

土器は便宜的にⅠ群を縄文時代早期、Ⅱ群を前期、Ⅲ群を中期、Ⅳ群を後期、Ⅴ群を晩期、Ⅵ群を続縄文時代、Ⅶ群を擦文時代相当のものにあてる。それぞれに、2・3の類別を設けて記載し、A・B類に二分したものはA類が前半、B類が後半を意味する。同様にA・B・C類に分類したものはA類が前葉、B類が中葉、C類が後葉を意味する。

本遺跡で出土した資料には、Ⅰ群、Ⅱ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅵ群の土器がある。

Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器群。

A類 貝殻文・条痕文・沈線文が施されるもの

B類 縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文等の施されるもの

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群

A類 縄文の施された丸底、尖底を特色とするもの（今回は出土していない）

B類 円筒土器下層式に比定されるもの

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群

A類 円筒土器上層式に比定されるもの

A-1類 円筒土器上層a式に比定されるもの

A-2類 円筒土器上層b・c式に比定されるもの

A-3類 サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に比定されるもの

B類 中期後半の土器群

B-1類 榎林式に比定されるもの

B-2類 大安在B式、ノダツプⅡ式に比定されるもの

B-3類 煉瓦台式に比定されるもの

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

A類 天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂3式に比定されるもの

B類 ウサクマイC式、手稲式、ホッケマ式に比定されるもの

C類 堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に比定されるもの（今回は出土していない）

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群（今回は出土していない）

A類 大洞B式、大洞BC式に相当するもの

B類 大洞C1式、大洞C2式に相当するもの

C類 大洞A式、大洞A'式に相当するもの

Ⅵ群 続縄文時代に属する土器群

Ⅶ群 擦文時代に属する土器群（今回は出土していない）

（広田）

（2）石器

石器は、剥片石器類・礫石器類に大別し、それぞれ器種ごとに分類した。さらに、形態あるいは製作方法によって細分類したものもある。また、特に礫石器に多くみられる機能の複合したものについて

6 遺物の分類

ては、原則的に以下の分類の、より後者に含めた。

図中で、縁辺に磨耗痕・すり痕がみられるものは←→で、たたき痕が見られるものはv ____ vで、その範囲を示した。また付着物がみられるものはスクリーントーンで範囲を示し、本文中でふれている。

剥片石器類

石鏃

- 1 無茎のもの
 - a 三角形のもの (1) 平基 (2) 凹基
 - b 柳葉形のもの
 - c 菱形のもの
 - d 五角形のもの
 - e 木葉形のもの
 - f 上記にあてはまらないもの
- 2 有茎のもの
 - a 茎部の明瞭なもの
 - b 茎部の不明瞭なもの：おもに片面周縁加工のものに、一部ドリルの3類との判別が困難なものがある。便宜的に、全体に厚みがあり、断面形が正方形や菱形に近いものはドリルに分類した。
 - c 上記にあてはまらないもの
- 8 上記にあてはまらないもの
- 9 未成品
- 0 細分の困難な破片

石槍

- 1 無茎のもの
 - a 柳葉形のもの
 - b 木葉形のもの
- 2 有茎のもの
 - a 茎部の明瞭なもの
 - b 茎部の不明瞭なもの
- 9 未成品
- 0 細分の困難な破片など

ドリル

- 1 剥片の一部に機能部を作出したもの
- 2 つまみ部が明瞭なもの
- 3 つまみ部が不明瞭なもの
- 4 つまみ部が不明瞭なものうち、棒状のもの
- 5 他石器からの転用品
- 9 未成品
- 0 細分の困難な破片

つまみ付きナイフ

- 1 縦形のもの
 - a 片面全面加工のもの
 - b 両面加工のもの
 - c 周縁加工のもの
 - d 剥片をあまり加工しない、粗雑なつくりのもの
- 2 横形のもの
- 8 上記にあてはまらないもの
- 9 未成品
- 0 細分の困難な破片

スクレイパー

- 1 縦形のもの
 - a 側縁（長辺）に刃部をもつもの
 - b 端部（短辺）に刃部をもつもの
 - c 尖頭部を作出するもの
 - d 側縁から端部にかけて連続する刃部をもつもの
 - e 上記にあてはまらないもの
- 2 横形のもの
 - a 側縁（短辺）に刃部をもつもの
 - b 端部（長辺）に刃部をもつもの
 - c 尖頭部を作出するもの
 - d 側縁から端部にかけて連続する刃部をもつもの
 - e 上記にあてはまらないもの
- 3 ラウンドスクレイパー
- 4 筥状石器
- 8 上記にあてはまらないもの
- 0 細分の困難な未成品

両面加工石器：石槍とは、尖頭部の有無で区別した。また、加工が粗く、先端が未加工のものは石槍の未製品として扱った。

Rフレイク

Uフレイク

石器未成品：整形と思われる加工が認められるが、器種を特定できないもの。

楔形石器

石核

剥片・剥片碎片

原石

6 遺物の分類

礫石器類

石斧

- 1 短冊形のもの
- 2 撥形のもの
- 3 小形のもの
- 4 湾曲する刃部をもつ、丸のみ形のもの
- 8 上記にあてはまらないもの
- 0 細分の困難な破片

擦り切り残片

たたき石

- 1 棒状礫・扁平礫などを素材とし、端部に使用痕がみられるもの
- 2 扁平礫・棒状礫などを素材とし、側縁に使用痕がみられるもの
- 3 扁平礫・棒状礫などを素材とし、平坦面に使用痕がみられるもの（くぼみ石を含む）
- 4 球状礫を素材とし、ほぼ全周に使用痕が見られるもの
- 8 上記にあてはまらないもの
- 0 細分の困難な破片

すり石

- 1 断面三角形の礫を素材とし、稜に使用痕が見られるもの
- 2 扁平礫などを素材とし、側縁に使用痕がみられるもの
- 3 扁平礫・棒状礫などを素材とし、平坦面に使用痕がみられるもの
- 4 扁平礫の両端に打ち欠きがあり、側縁に使用痕がみられるもの
- 5 主に扁平礫が半円状に加工され、その弦に使用痕が見られるもの（半円状扁平打製石器）
- 6 北海道式石冠
- 7 球状礫を素材とし、ほぼ全周に使用痕が見られるもの
- 8 上記にあてはまらないもの
- 9 未成品：主に上記4・5・6類同様に加工されるが、使用痕が認められないもの。4類の未製品としたものは石錘の可能性もあるが、大きさがすり石と同程度のものはすり石に分類した。
- 0 細分の困難な破片

砥石

石鋸

石錘

加工痕のある礫：意図不明の加工が認められる礫を一括した。

石皿・台石

礫剥片：礫石器の作製の際に生じたと思われる礫石器と同じ石材の剥片。石材から、石斧製作に伴うものと、すり石などの作製に伴うものに分けられる。

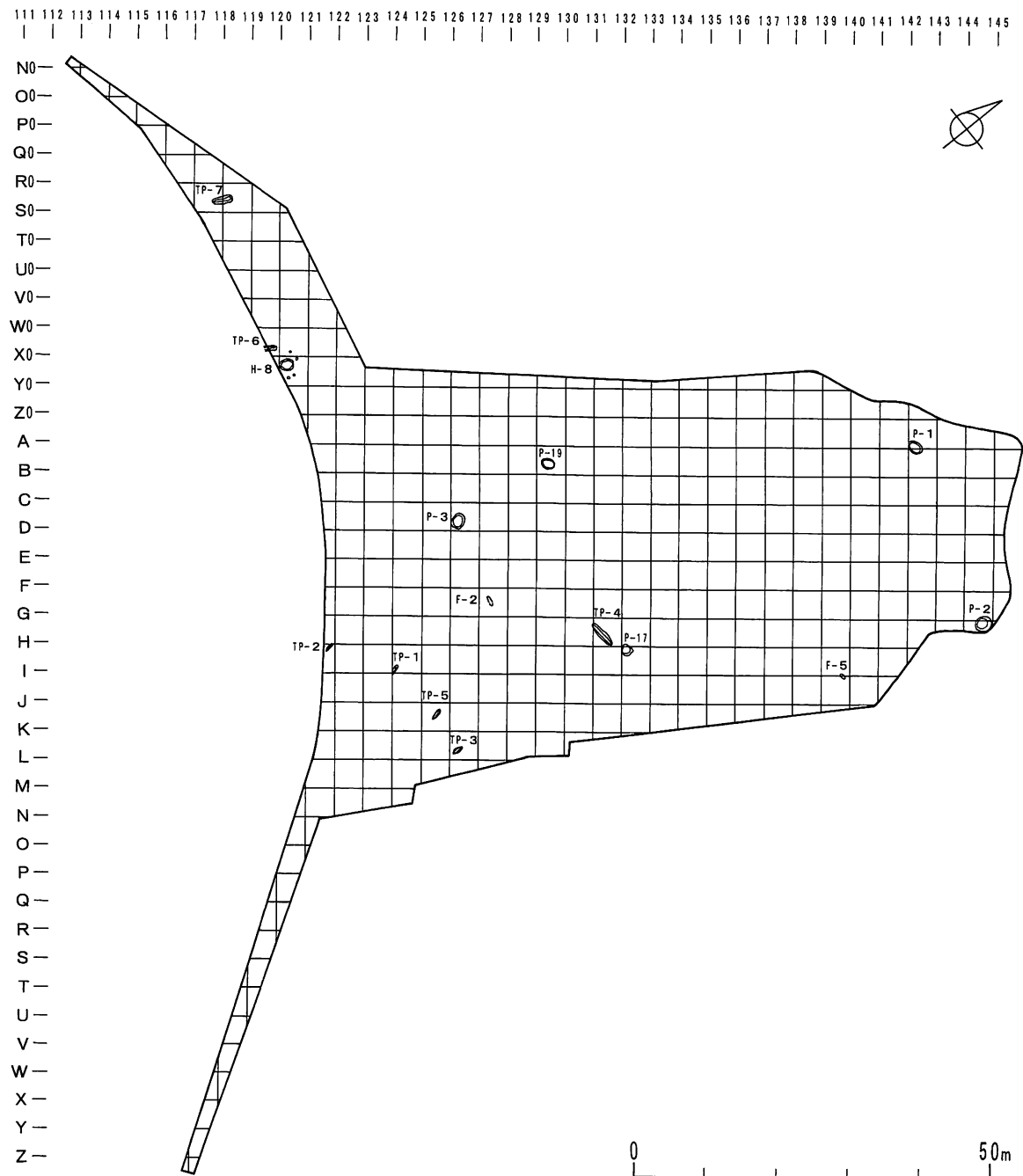
礫

(柳瀬)

IV A地区の調査

A地区の概要

A地区は平成10年度と11年度に調査が行われた。山崎4遺跡の北東端に位置し、他の地区と離れている。比高差20mの深く大きな沢を挟んで山崎5遺跡と向き合う。この沢に向かってA地区が舌状に張り出した地形である。検出された竪穴住居跡は1軒で、H-8は縄文時代中期前半の遺物が出土している。土坑は5基検出され、P-3は耕作が深いため竪穴の掘り込みが消失した可能性もある。また、P-17・19は小形のフラスコ状ピットと考えられる。TピットはA地区にのみ検出され、7基ある。



図IV-1 A地区遺構配置

1 遺構

り等高線に沿って列をなすものがTP-2・1・5・3とTP-6・7の2列6基判明した。TP-4は大型のもので他より長くて深い。焼土はA地区から2ヵ所検出された。遺構確認調査区のため表土を重機で除去したこともあり、遺物の出土点数は少ない。縄文時代中期前半の土器が出土している。

1 遺構

a 竪穴住居跡

H-8 (図IV-2、図版19-1・2)

位置・立地：W0・X0-119・120

規模：1.93m/1.68m×1.51m/1.24m×0.27m

平面形：楕円形。

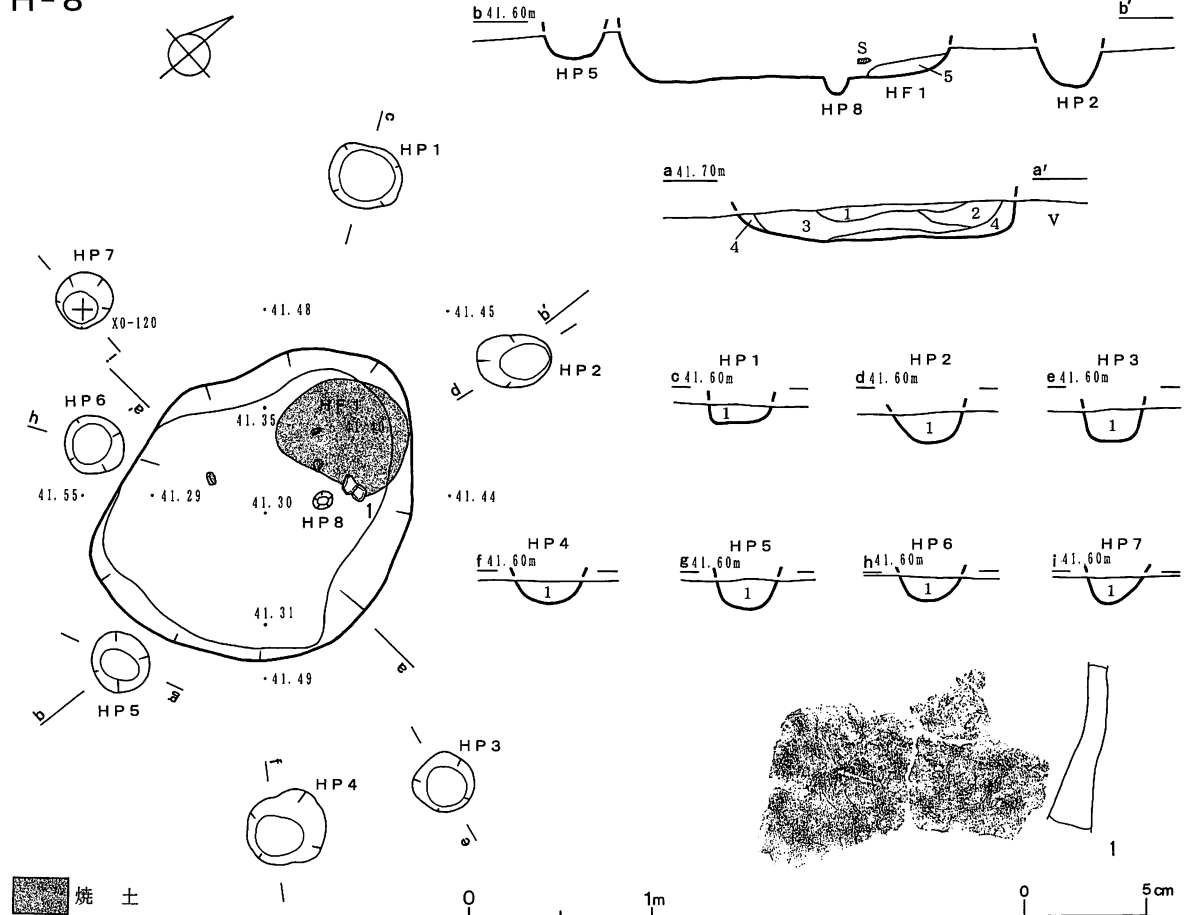
確認・調査：平成11年度の遺構確認調査の際に黒色土の落ち込みを確認した。小形の楕円を呈する掘り込みと北側壁際から焼土を検出した。また周囲から7ヵ所の柱穴と考えられる小ピットを検出した。

上部が耕作で攪乱を受けていることや、遺構の形態規模から、中央部を1段低く掘り込ませたベンチ状構造を持った浅い掘り込みの竪穴住居跡と考えられる。

土層：1 黒色土、2 暗灰褐色土（粒状ロームが混じる）、3 暗灰褐色粘質土、
4 暗黄褐色ローム質土、5 暗赤褐色土（焼土）。

HP 1 1 明褐色粘質土。

H-8



図IV-2 H-8

- HP 2 1 明褐色粘質土。
 HP 3 1 暗黄褐色ローム質土。
 HP 4 1 暗黄褐色ローム質土。
 HP 5 1 暗黄褐色ローム質土。
 HP 6 1 暗黄褐色ローム質土。
 HP 7 1 暗黄褐色ローム質土。

床面・壁面：床面は平らで、壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。

特徴：北側壁際から長軸0.71m、短軸0.56m、厚さ0.1m焼土を検出した。竪穴周囲の7ヵ所の小ピットは径0.3~0.4m、深さ0.1~0.15mで6ヵ所は円形、1ヵ所は楕円形でほぼ垂直と思われる。床面中央部の焼土よりに径0.12m、深さ0.11mの柱穴状小ピットを検出している。

遺物出土状況：床面の炭化物層上面からⅢ群A-3類土器が3点、礫2点が出土した。

時期：出土した遺物から縄文時代中期前半に構築されたものと考えられるが、流れ込みの可能性もあり中期後半とも思われる。 (谷島)

掲載遺物：土器 1は焼土出土のⅢ群A-3類。底部付近の破片で、無文である。 (広田)

b 土坑

P-1 (図IV-3、図版46-1・2)

位置・立地：Z0・A-143 山崎5遺跡との間の深い沢を望む緩斜面縁辺に位置する。

規模：2.02m/1.58m×1.56m/1.22m×0.42m

平面形：平面形は楕円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：平成11年度、25%調査時にV層上面で黒色土の落ち込みを確認した。坑底はほぼ平坦で壁は斜めに立ち上がる。覆土は自然堆積している。

土層：1 黒色土(硬く締まる)、2 黒色土(粒状)、3 暗褐色土(V+2)。

特徴：埋め戻しがなされていない土坑である。

遺物出土状況：小礫が数点出土したが土坑に伴うものではない。他に遺物は出土していない。

時期：遺物が出土していないため確実な時期はわからないが、遺構の形態や覆土の状態から縄文時代中期から後期のものと考えられる。 (谷島)

P-2 (図IV-3、図版46-3・4)

位置・立地：F・G-144 山崎5遺跡との間の深い沢を望む緩斜面縁辺に位置する。

規模：2.09m/1.66m×1.82m/1.48m×0.49m

平面形：平面形は楕円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：平成11年度、25%調査時にIV層除去中に黒色土の落ち込みを確認した。坑底はやや丸く中央部がくぼみ、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は自然堆積している。

土層：1 黒色粘質土(硬く締まる)、2 黒褐色土、3 暗褐色シルト質土、
4 暗黄褐色シルト質土、5 暗茶褐色シルト質土。

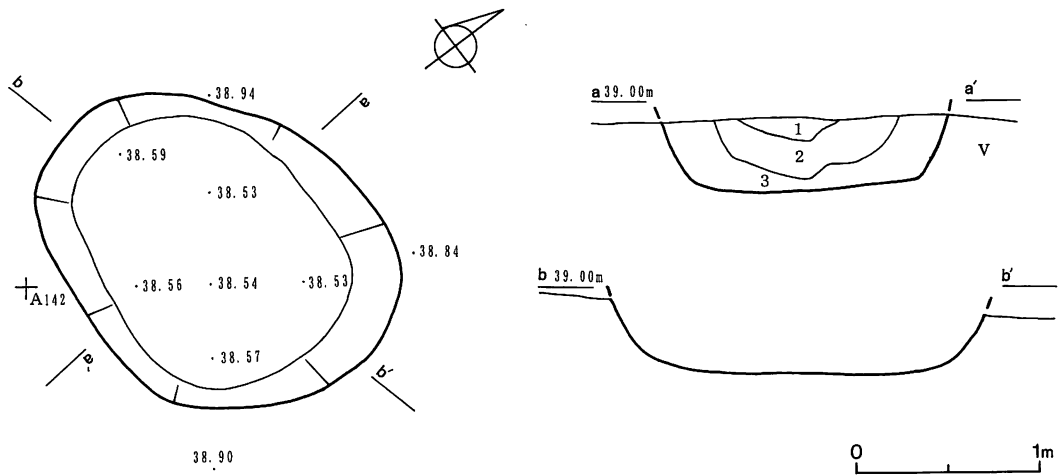
特徴：埋め戻しがなされていない土坑である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

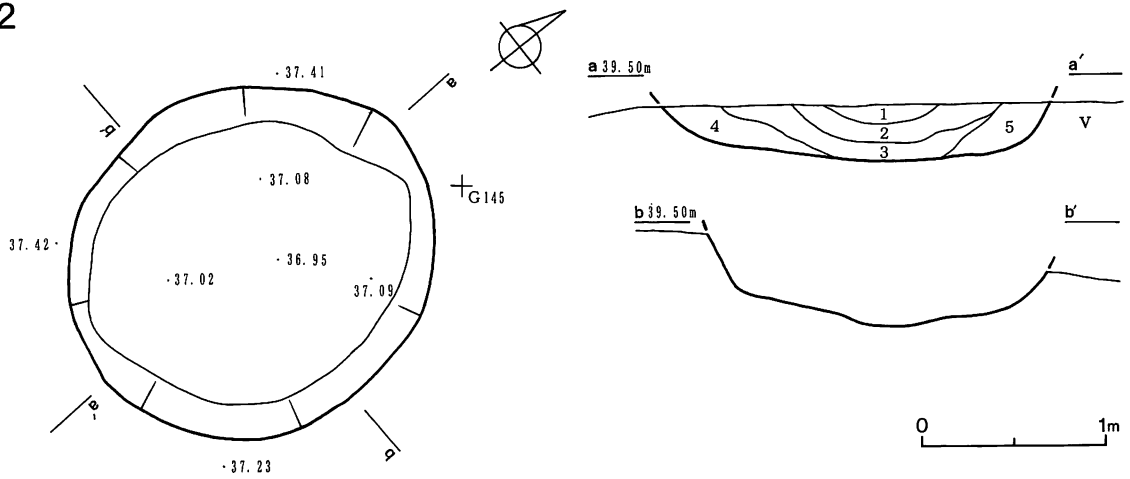
時期：遺物が出土していないため確実な時期はわからないが、遺構の形態や覆土の状態から縄文時代中期から後期のものと考えられる。 (谷島)

1 遺構

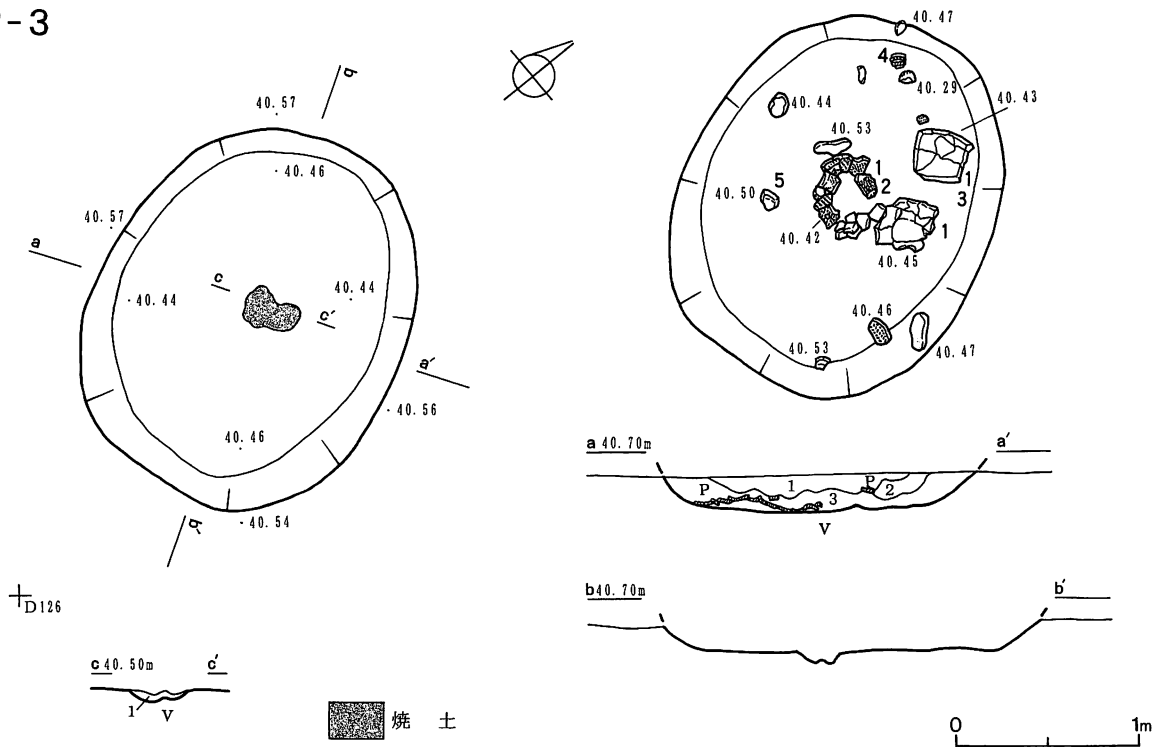
P-1



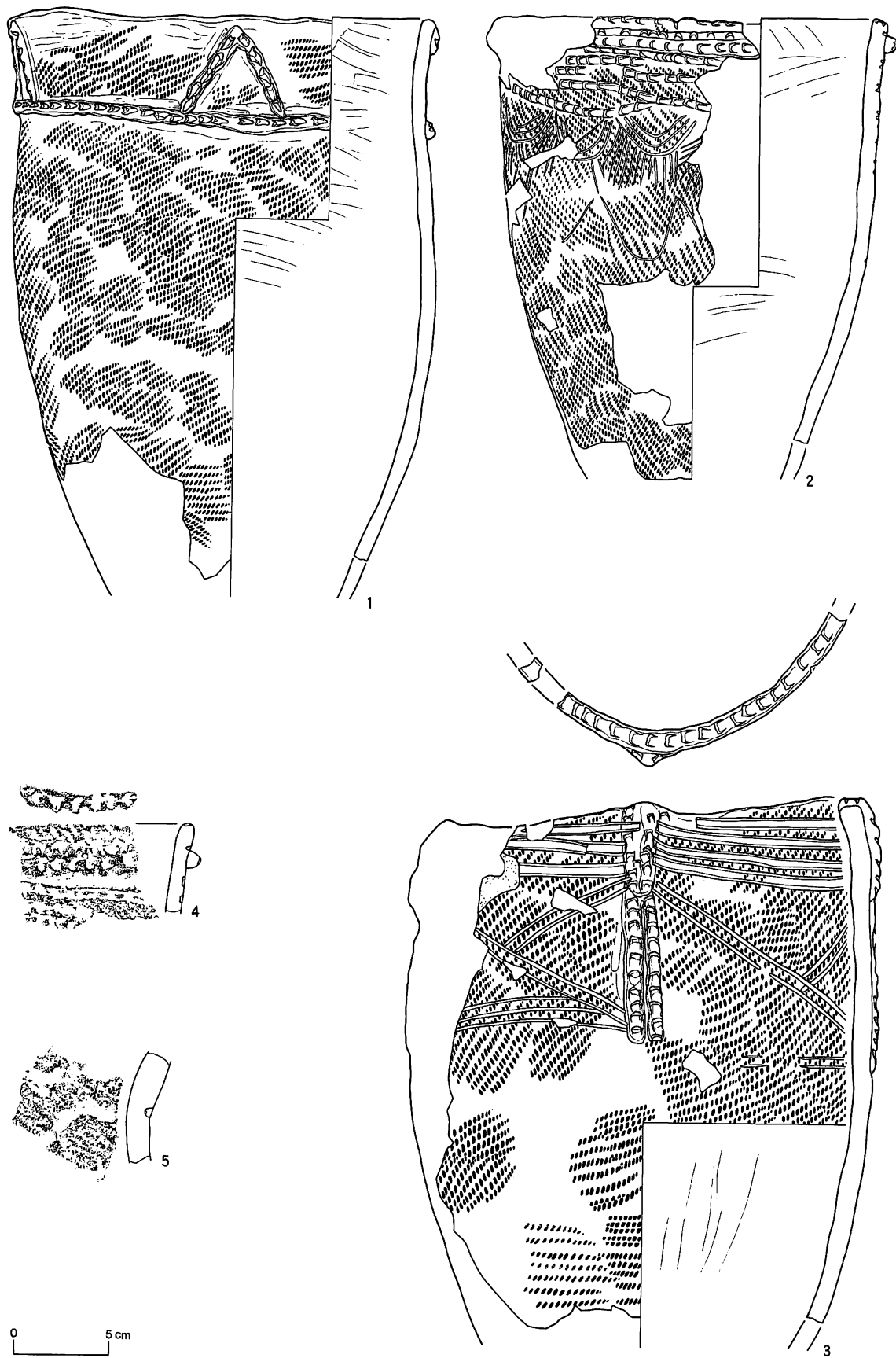
P-2



P-3



IV-3 P-1・P-2・P-3



図IV-4 P-3出土の遺物

1 遺構

P-3 (図IV-3・4、図版46—5、図版47—1・2、127—1)

位置・立地：C-126

規模：2.05m/1.80m×1.66m/1.42m×0.20m

平面形：楕円形。

確認・調査：V層上面において楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。遺構の覆土を想定し、土層観察用のベルトを設定して調査を行った。その結果、遺物を伴う坑底と壁を確認し、遺構と認定した。平面形は楕円形で、覆土はⅢ層を主体とする黒色腐植土によって構成される。掘り込み面はⅢ層中と思われる。壁面の立ち上がりは緩やかで、坑底にはやや凸凹がある。坑底の中央部からはⅢ群B-2類土器片を環状に敷き並べた土器囲い炉を検出した。この炉跡の中央部は浅く掘り窪められており、覆土中には径2～3mmの炭化物が多く含まれていた。覆土はしまりのやや強い暗褐色土で、明瞭な焼土はない。

遺物取りあげ後、床面とその周囲の精査を行なったが、柱穴を検出することができなかった。

土層：1 黒色土 7.5YR1.7/1 Ⅲ層腐植土。粒子粗く、しまりやや強い。

2 黒褐色土 7.5YR3/1 粒子細かく、しまりやや弱い。

3 黒褐色土 7.5YR3/3 しまりやや強い。粘性高い。

遺物出土状況：床面から出土した遺物はⅢ群B-2類土器片が116点のほか、礫が2点出土している。

時期：縄文時代中期後半Ⅲ群B-2類の時期と思われる。

(笠原)

掲載遺物：土器 1～3は坑底出土のⅢ群B類。1～3はいずれも底部を欠く。1は体部上半にゆるやかにくびれをもつ器形である。口唇部はやや丸みを帯びる。地文は横走気味のLRの斜行縄文が施されている。文様帯は頸部に横環する貼付で区画され、その上部には山形の貼付が加えられている。貼付上には竹管状工具の刺突が加えられている。内面には横方向のナデ調整が施されている。2は底部からやや開き気味に、胴上半部はほぼ垂直に立ち上がる。地文はRLの縦走気味の不規則な斜行縄文が施される。口唇部直下には貼付がめぐらされ、口唇、貼付上端、貼付上に半截竹管状工具による刺突が、口縁部には同一工具の内面による押し引き文が2～3列加えられている。口縁部の押し引き下位には3本一組の弧状の沈線と、放射状の細い沈線が施文されている。3は胴部がやや膨らむ器形で、口縁部はやや内湾する。地文は横走気味の不規則なLRの斜行縄文で、口縁部から胴上半部にかけて大きな縦位の貼付が施される。上部の貼付の両側縁には半截竹管状工具による刺突が加えられ、下部は2本1組の貼付からなり、貼付上には半截竹管状工具内面による刺突が加えられている。口唇部にも同様の刺突が施されている。口縁部文様帯の上部は半截竹管状工具内面による3～4本の沈線、下端は2本の沈線で区画され、文様帯内には、粗い「X」字状の沈線が加えられている。(広田)

P-17 (図IV-5、図版52-4)

位置・立地：G・H-132 緩斜面の尾根状微高地に位置する。

規模：1.47m/1.12m×1.42m/1.08m×0.87m

平面形：平面形は円形、深さの中ほどが狭く括れフラスコ状を呈する。

確認・調査：遺構確認のため、V層上面まで重機で掘開中に黒色土の落ち込みを検出した。坑底は平坦で、壁はオーバーハングして立ち上がる。壁の中ほどの高さで狭くなりそこから上半は広がっている。覆土は自然堆積している。覆土の1および2は基本土層のⅢ層中とⅢ層下に相当する。掘り込み面は覆土の堆積からⅢ層下ではないかと考えられる。

土層：1 黒褐色粘質土、2 暗茶黒褐色粘質土、3 黒色シルト質土、4 暗黄褐色ローム質土、

5 暗褐色シルト質土、6 褐色シルト質土、7 黄褐色ローム質土。

特徴：土層堆積や形態から、小型のフラスコ状ピットと思われる。A地区のなかでも尾根状微高地に位置するなど湿度の少ない場所を選んで構築されたものと考えられる。埋め戻されていない。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代前期から中期に構築されたものと思われる。 (谷島)

P-19 (図IV-5、図版53-3・4)

位置・立地：A-129 緩斜面に位置する。

規模：1.90m/1.85m×1.48m/1.43m×0.31m

平面形：平面形は楕円形、浅い鍋状の掘り込み。

確認・調査：遺構確認のため、V層上面まで重機で掘開中に黒色土の落ち込みを検出した。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。土坑の上半は掘削して消失しているため掘り込み面は不明。土層堆積は埋め戻しをされているものと思われる。

土層：1 黒褐色粘質土、2 黒褐色粘質土、3 黒褐色土（粒状ロームを含む）、
4 暗褐色土（粒状ロームを含む）、5 黄褐色ローム質土、6 暗黄褐色ローム質土。

特徴：埋め戻しをされているが性格は不明。貯蔵穴の可能性もある。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：遺物が出土していないため確実な時期はわからないが、遺構の形態や覆土の状態から縄文時代中期から後期のものと考えられる。 (谷島)

c Tピット

TP-1

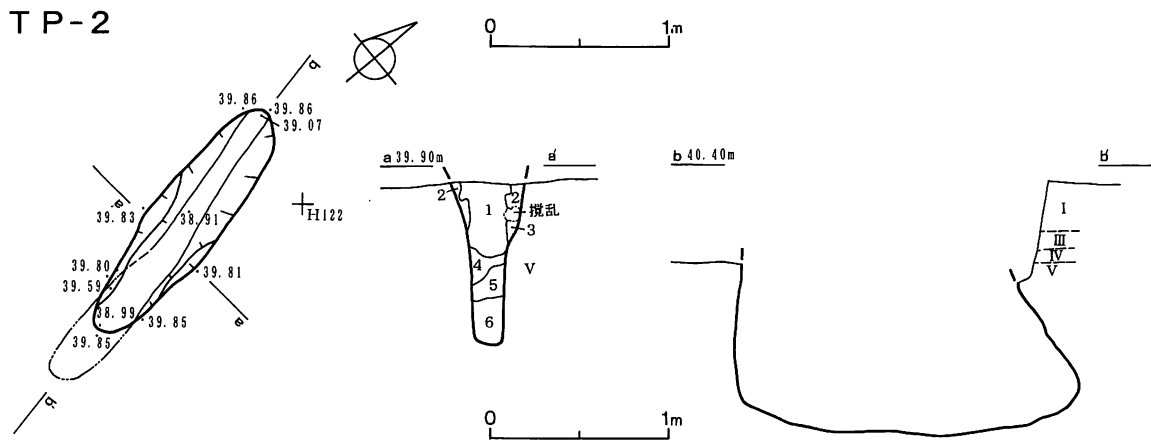
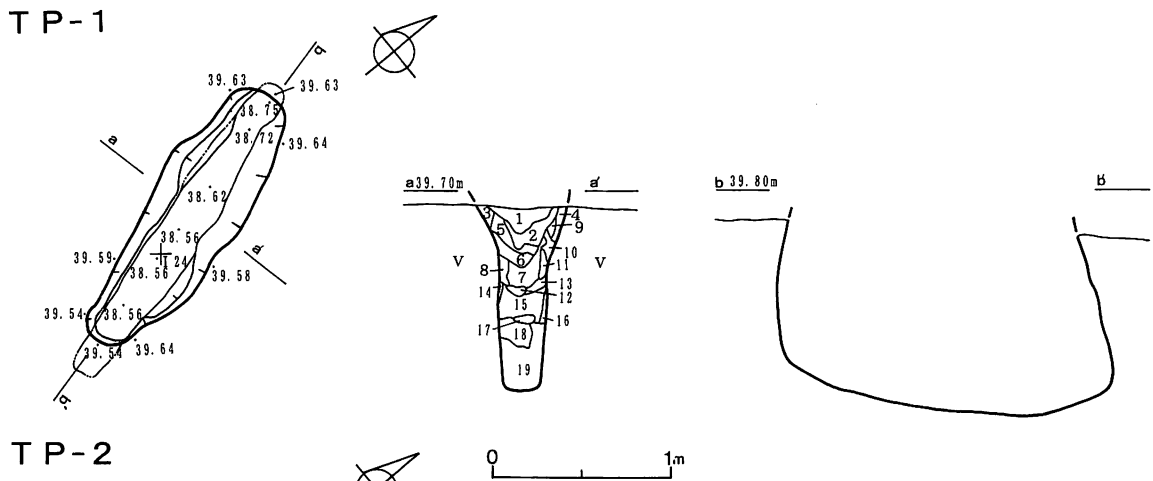
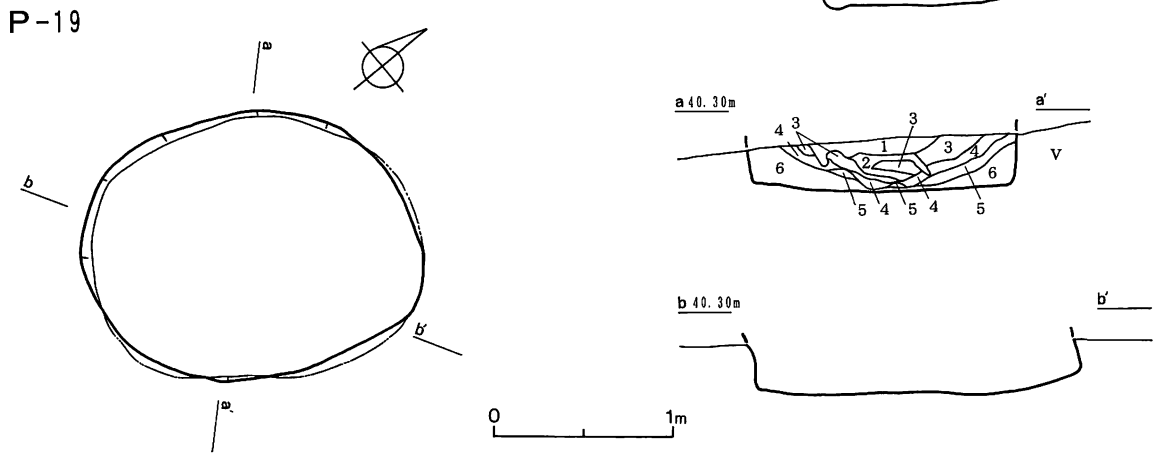
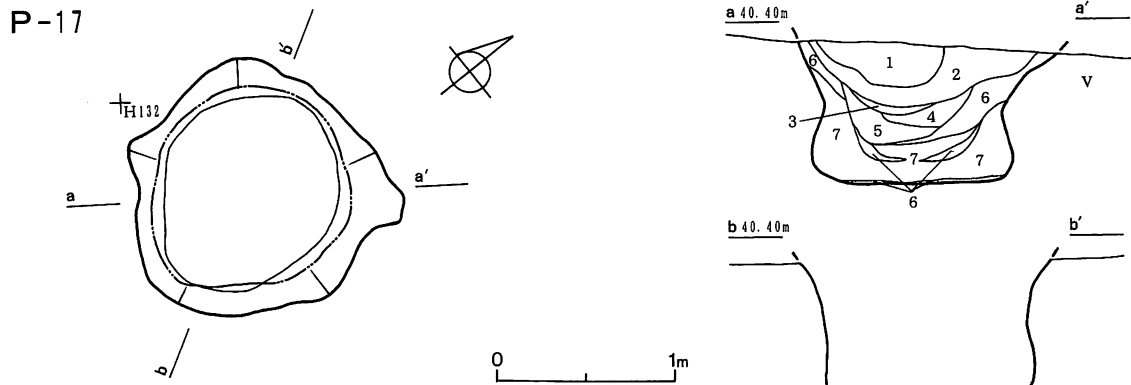
位置・立地：H・I-123・124・標高39.5~39.6mの緩斜面に位置し、長軸は等高線に直交する。南西側約8mにTP-2、東側約9mにTP-5がある。TP-1はTP-2・3・5と共に列をなしていると考えられ、調査区外にも展開している可能性が高い。

規模：1.67m/1.87m×0.55m/0.31m×1.09m

平面形：確認面では不整の溝状、底面はやや幅の狭い溝状。

- | | | | |
|----|------|------------|--|
| 1 | 黒色土 | 7.5YR1.7/1 | Ⅲ層土主体。ローム粒子を微量含む。しまり弱い。粘性ややあり。 |
| 2 | 黒褐色土 | 7.5YR3/1 | Ⅲ層土主体。ローム粒子を微量、焼土を斑状に含む。しまり弱い。粘性あり。 |
| 3 | 黒褐色土 | 7.5YR2/2 | Ⅲ+Ⅳ ローム粒子を少量含む。しまり弱い。粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | Ⅲ+Ⅳ ロームブロックを斑状に含む。 |
| 5 | 黒色土 | 7.5YR3/2 | Ⅲ層土主体。ロームブロック粒子を少量含む。しまりややあり。粘性あり。 |
| 6 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | Ⅲ+Ⅳ ローム粒子を含む。しまり弱くボソボソ。粘性ややあり。 |
| 7 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒子を微量含む。しまりややあり。粘性あり。 |
| 8 | 暗褐色土 | 7.5YR3/2 | V層土主体。Ⅲ層を斑状に含む。ローム粒を少量含む。しまりやや弱い。粘性あり。 |
| 9 | 暗褐色土 | 7.5YR3/2 | Ⅲ+Ⅳ ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 10 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | V層崩落土 Ⅲ層を少量含む。しまりややあり。粘性あり。 |

1 遺構



IV-5 P-17・P-19・TP-1・TP-2

- | | | | | |
|----|------|-----------|--------------------|------------------------------|
| 11 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | Ⅲ+Ⅳ | ローム粒子を少量含む。しまりやや弱い。粘性あり。 |
| 12 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | Ⅲ層土主体。 | ローム粒子を少量含む。しまりなし。粘性あり。 |
| 13 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | Ⅳ層主体。 | Ⅲ層土、ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性あり。 |
| 14 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | Ⅴ層崩落土 | Ⅲ層を微量含む。しまり弱い。粘性あり。 |
| 15 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | ローム粒子を少量、Ⅲ層土を微量含む。 | しまりややあり。粘性あり。 |
| 16 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | Ⅴ層崩落土 | Ⅲ層を微量含む。しまりややあり。粘性あり。 |
| 17 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | Ⅴ層崩落土 | Ⅳ層を少量含む。しまりやや弱い。粘性あり。 |
| 18 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | Ⅳ+Ⅴ | Ⅲ層土を少量含む。しまりなし。粘性あり。 |
| 19 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | Ⅴ層崩落土 | しまりあり。粘性あり。 |

確認・調査：Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。底面はほぼ平坦だが、北側に向かって緩やかに傾斜する。長軸方向の壁は、南側はほぼ垂直に立ち上がり、北側はオーバーハングする。短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上部でやや外側に開く。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、形状から縄文時代と考えられる。

(広田)

TP-2

位置・立地：G・H-121、標高39.8mの緩斜面に位置し、長軸はほぼ等高線に沿う。南側はほぼ調査区境にかかり、北東側約9mにTP-1がある。TP-2はTP-1・3・5と共に列をなしていると考えられ、調査区外にも展開している可能性が高い。

規模：1.53m/1.88m×0.42m/0.25m×1.42m

平面形：確認面底面共に溝状。

- | | | | | |
|------|------|------------|-------|-------------------------------------|
| 土層：1 | 黒色土 | 7.5YR1.7/1 | Ⅲ層主体。 | ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。 |
| 2 | 褐色土 | 7.5YR4/3 | Ⅲ+Ⅳ | ローム粒を斑状に含む。しまりやや弱い。粘性やや弱い。 |
| 3 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | Ⅴ層崩落土 | Ⅲ層土を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | Ⅲ+Ⅳ | ローム粒子を少量含む。Ⅲ層土は斑状に混じる。しまりややあり。粘性あり。 |
| 5 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | Ⅲ+Ⅳ+Ⅴ | Ⅴ層はブロック状。しまりやや弱い。粘性あり。 |
| 6 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | Ⅳ+Ⅴ | しまり弱い。粘性あり。 |

確認・調査：Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。底面は中央付近が低くなっている。長軸方向の壁は、北側はほぼ垂直に立ち上がり、南側は強くオーバーハングする。短軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上部でやや外側に開く。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、形状から縄文時代と考えられる。

(広田)

TP-3 (図IV-6、図版44-1・2)

位置・立地：K-126

規模：1.46m/(1.88m)×0.23m/0.51m×1.22m

平面形：長楕円形。

1 遺構

確認・調査：V層上面で確認した。平面形は長楕円形または溝状で壁はオーバーハングしている。掘り込み面はⅢ層中と思われる。覆土は自然堆積の様相を示しており、ロームと黒色土との混合が大部分で、坑底には黒色腐植土の薄層が見られる。

- 土層：1 黒色土 7.5YR2/1 しまり弱い。粘性やや高い。
2 褐色土 7.5YR4/3 しまりやや強い。粘性やや高い。
3 明赤褐色土 5YR5/6 しまりやや強い。粘性やや高い。
4 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりやや強い。粘性やや高い。ローム粒を含む。
5 褐色土 7.5YR4/6 しまり弱い。粘性高い。
6 暗褐色土 7.5YR3/4 しまりやや弱い。粘性高い。
7 黒色土 7.5YR2/1 しまりやや弱い。粘性高い。

時期：不明だが、形状から縄文時代と考えられる。

(笠原)

TP-4

位置・立地：G-130・131・標高40.3~40.5mの緩斜面に位置し、長軸は等高線に対して斜行する。東側約2mにP-17が位置する。付近には他にTピットは検出されていないため、列をなさず、単独で存在していた可能性が高い。

規模：3.84m/3.93m×1.00m/0.32m×1.09m

平面形：確認面底面共に溝状。

- 土層：1 黒色土 7.5YR1.7/1 Ⅲ層主体。ローム粒子、ko-dを微量含む。しまりあり。粘性あり。
2 黒色土 10YR1.7/1 Ⅲ層主体。ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。
3 黒色土 7.5YR1.7/1 Ⅲ層主体。ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。
4 黒色土 10YR1.7/1 1より黒味が強い。ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。
5 黒色土 7.5YR2/1 Ⅲ>Ⅳ V層土は斑状に混じる。しまりあり。粘性あり。
6 黒褐色土 7.5YR2/2 Ⅲ=Ⅳ IV層土は斑状に混じる。ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7 黒色土 7.5YR2/1 Ⅲ層主体。ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。
8 黒褐色土 7.5YR3/2 IV>Ⅲ V層崩落土。しまりあり。粘性かなりあり。
9 黒色土 7.5YR2/1 Ⅲ>Ⅳ V層は比較的下部に含まれる。しまりあり。粘性あり。
10 黒色土 10YR1.7/1 Ⅲ層土主体。ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
11 黒色土 10YR1.7/1 Ⅲ>Ⅴ ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。
12 黒褐色土 10YR3/2 V>Ⅲ しまりあり。粘性あり。
13 黒色土 7.5YR2/1 Ⅲ=Ⅴ V層土斑状に混じる。しまりあり。粘性あり。
14 黒色土 7.5YR2/1 Ⅲ>Ⅴ しまりあり。粘性あり。
15 黒色土 10YR1.7/1 Ⅲ層土主体。ローム粒子を微量含む。しまり弱くボソボソ。粘性あり。
16 暗褐色土 10YR3/4 V層主体。Ⅲ層土を微量含む。ローム崩落土の可能性あり。
17 黒褐色土 10YR3/2 Ⅲ=Ⅴ よく混ざっている。しまり弱くふかふか。粘性あり。

- 18 黒褐色土 10YR2/3 III=V 斑状に混じる。しまり弱くふかふか。粘性あり。
- 19 黒色土 10YR1.7/1 III層土主体。ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。
- 20 暗褐色土 10YR3/3 III=V よく混ざっている。しまり弱くふかふか。
- 21 にぶい黄褐色土 10YR4/3 V>III 斑状に混じる。しまりあり。粘性あり。掘り上げ土の流れ込み？
- 22 黒褐色土 10YR3/2 III>IV しまりあり。粘性あり。
- 23 にぶい黄褐色土 10YR4/3 V>>III 斑状に混じる。しまり弱くややボソボソ。粘性あり。
- 24 褐色土 7.5YR4/4 IV>III 比較的混ざっている。しまり弱い。粘性あり。
- 25 黒褐色土 10YR3/1 III層土主体。しまり弱い。粘性あり。
- 26 黒色土 10YR1.7/1 III層土主体。ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 27 褐色土 7.5YR4/4 V>>III III層土が斑状に混じる。しまり弱く、ボソボソ。粘性あり。
- 28 褐色土 7.5YR4/4 27よりやや暗いが基本的に同一。
- 29 褐色土 7.5YR4/3 V>III しまり弱い。粘性あり。

確認・調査：V層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。底面はほぼ平坦だが、東側にわずかに傾斜する。長軸方向の壁は東側、西側共にわずかにオーバーハングするが、西側は中央付近で強く屈曲する。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、形状から縄文時代と考えられる。

(広田)

TP-5 (図IV-6、図版45-1・2)

位置・立地：S-125

規模：1.57m/2.02m×0.42m/0.22m×1.14m

平面形：長楕円形。

確認・調査：調査中、V層上面を精査して検出した。溝状の坑底の掘り込みは南北両端で斜めに上がっている。坑底は中央部でやや屈曲し、丸みを持つ。壁は大きく凹凸があり、南北両端はオーバーハングする。

土層：1 明茶褐色シルト質土、2 暗褐色土、3 黒色土、4 黄褐色ローム質土。

特徴：標高39.5mに沿って等高線に直行する向きに、東から西にTP-3、TP-5、TP-1、TP-2の4基が並んで配されている。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代中期から後期の所産と考えられる。

(谷島)

TP-6 (図IV-7、図版44-4)

位置・立地：W0-119

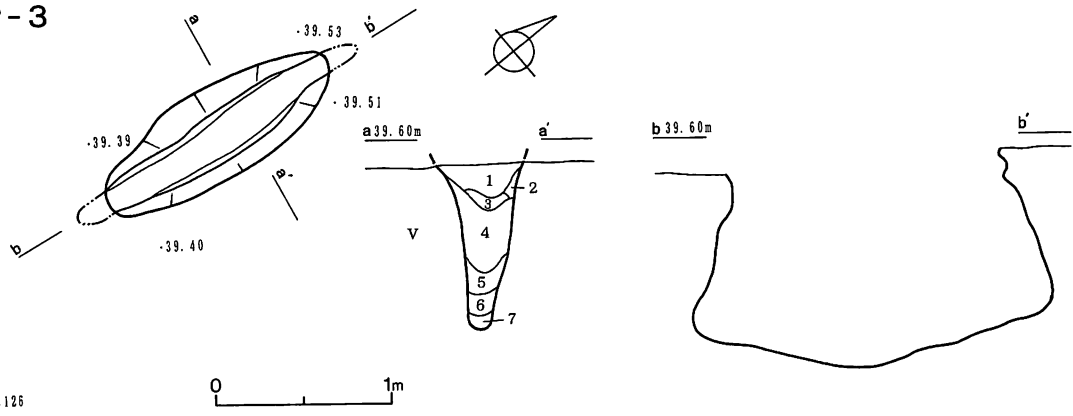
規模：(1.84m)/(2.0m)×0.68m/0.30m×1.37m

平面形：長円形と思われる。

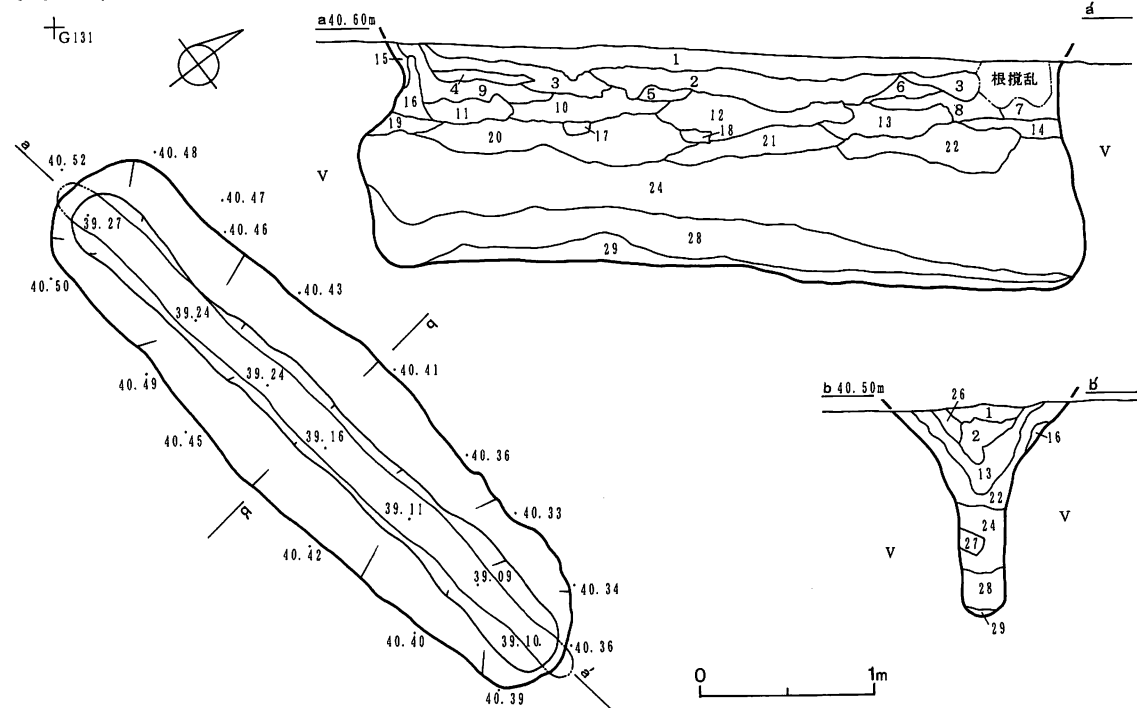
確認・調査：遺構確認のためV層上面を精査して検出した。南半分は町道があり未調査である。後年度、工事立会される予定である。坑底はほぼ平坦で中央部の幅がやや広がる。溝状の掘り込みは北端でオーバーハングする。横断面は上方がロート状に広がる。

1 遺構

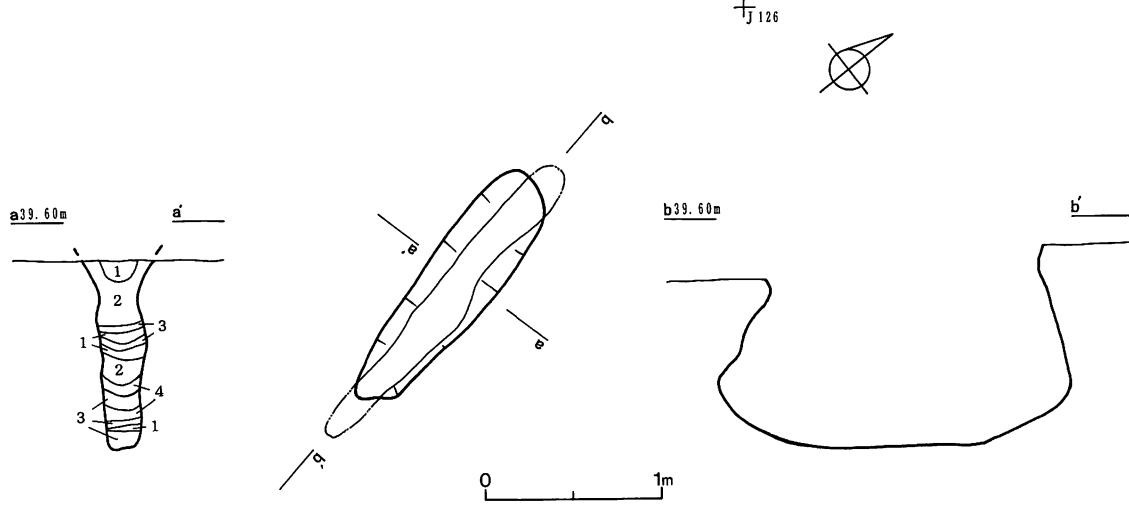
TP-3



TP-4

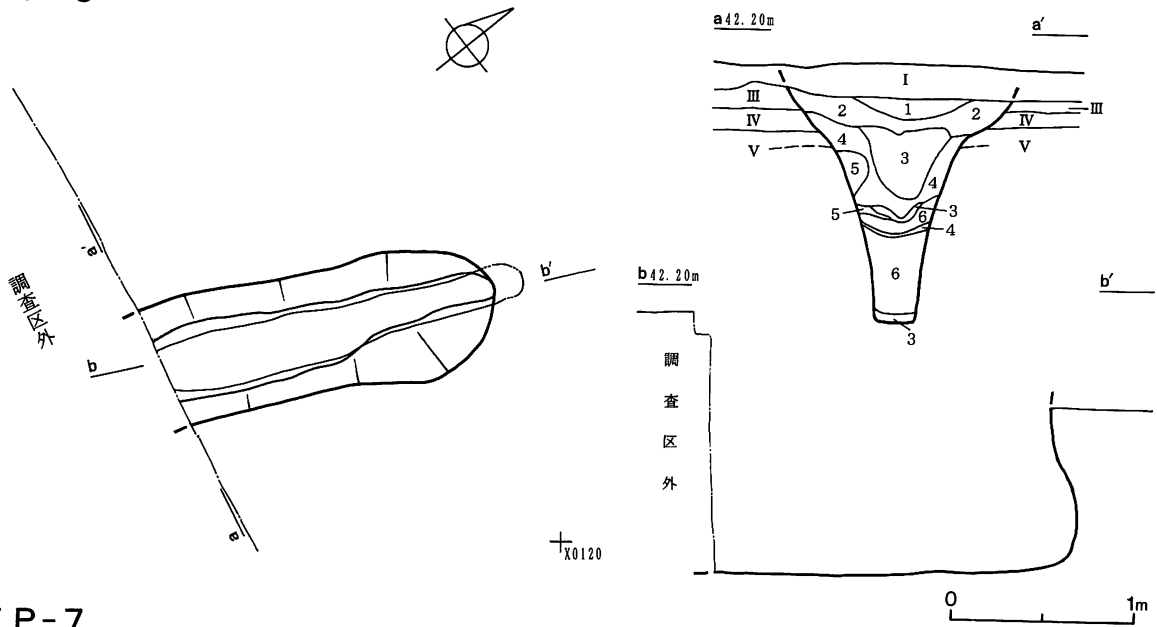


TP-5

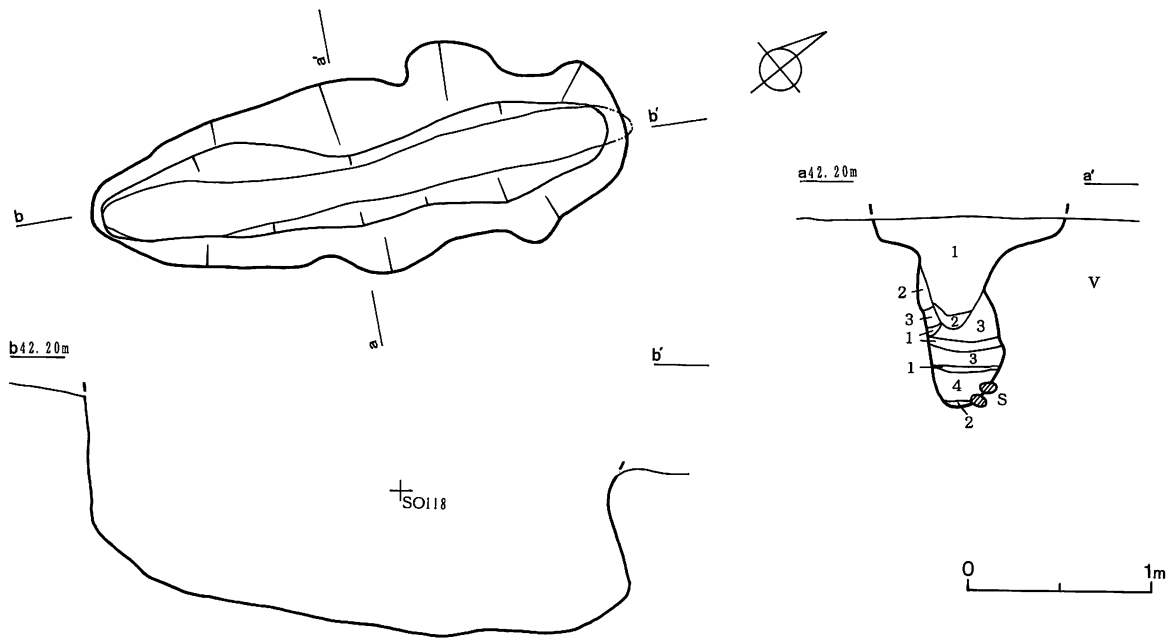


IV-6 TP-3 · TP-4 · TP-5

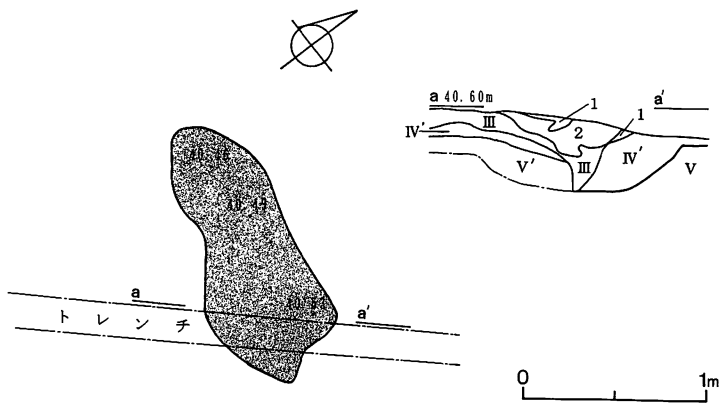
TP-6



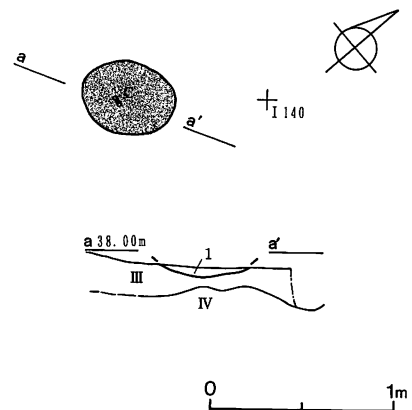
TP-7



F-2



F-5



図IV-7 TP-6・TP-7・F-2・F-5

1 遺構

土層：1 Ⅲ層、2 黒褐色土、3 黒色土、4 暗茶褐色土（2+Ⅲ+Ⅴの混合）、
5 黄褐色ローム質土（粘質）、6 褐色ローム質土。

特徴：標高41.3mに沿って等高線に直行する向きに、北西側のTP-7と列をなす。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代中期から後期の所産と考えられる。

(谷島)

TP-7 (図IV-7、図版45-3・4)

位置・立地：R0-117・118

規模：2.95m/2.92m×1.07m/0.18m×1.05m

平面形：長円形。

確認・調査：遺構確認のためⅤ層上面を精査して検出した。坑底は凹凸があり、中央部の幅はやや狭くなる。溝状の掘り込みは北側が斜めに下り、北端はオーバーハングする。横断面は上方が広がる。

土層：1 黒褐色粘質土、2 暗褐色土、3 暗黄褐色土、4 黄褐色ローム質土。

特徴：標高41.3mに沿って等高線に直行する向きに、南東側のTP-6と列をなす。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代中期から後期の所産と考えられる。

(谷島)

d 焼土

F-2 (図IV-7、図版94-2)

位置・立地：F-123

規模：1.51m×0.61m×0.24m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：Ⅲ層下位で検出した。風倒木痕の上部のもの。

土層：1 暗部橙褐色土、2 橙褐色土。

特徴：風倒木痕の上部の窪みを利用し火が焚かれたものと思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：風倒木痕上部の焼土で確実な時期は不明であるが、縄文時代中期から後期頃と思われる。

(谷島)

F-5 (図IV-7、図版95-1)

位置・立地：H・I-139

規模：0.5m×0.4m×0.06m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層下位で検出した。

土層：1 暗赤褐色土（粒状の橙色土（焼土）を含む）。

特徴：粒状の焼土が混じり、この場で火が焚かれたものではないと思われる。

遺物出土状況：上面から炭化物が出土した。他の遺物は出土していない。

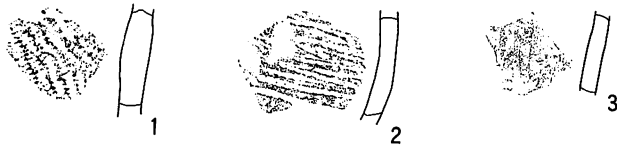
時期：検出した層位から縄文時代中期から後期と考えられる。

(谷島)

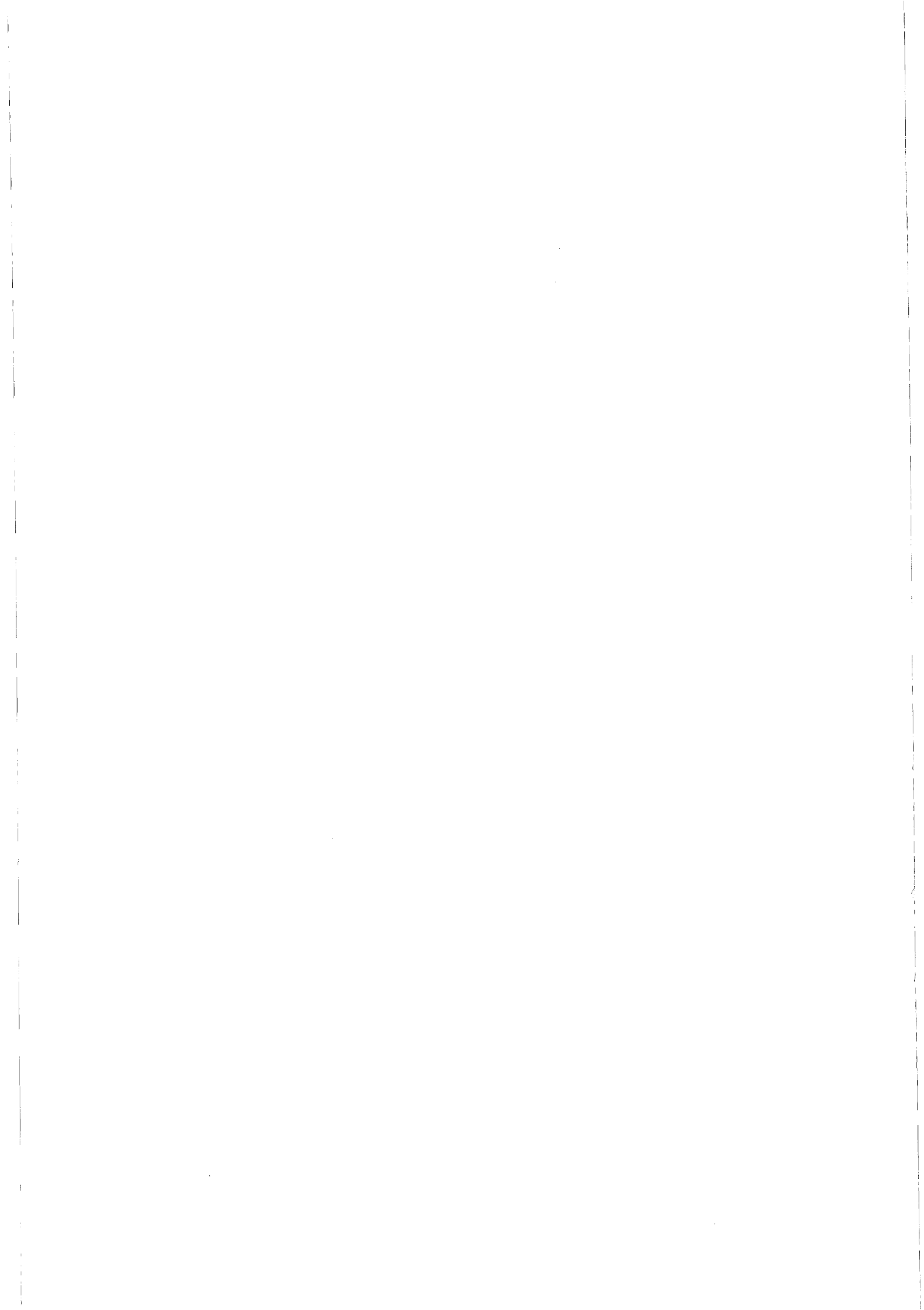
2 包含層出土の土器

A地区は遺構確認調査区であるため、土器はほとんど出土せず、わずかに残存していたⅢ層からⅢ群A-2類8点、Ⅲ群A-3類3点、Ⅳ群A類1点の計12点が出土した。1・2はⅢ群A-2類の胴部。内面は丁寧に調整されている。2は横位に撚糸文が施されている。3はⅣ群A-1類の胴部で、無文である。

(広田)



図IV-8 包含層出土の土器



V B地区の調査

B地区の概要

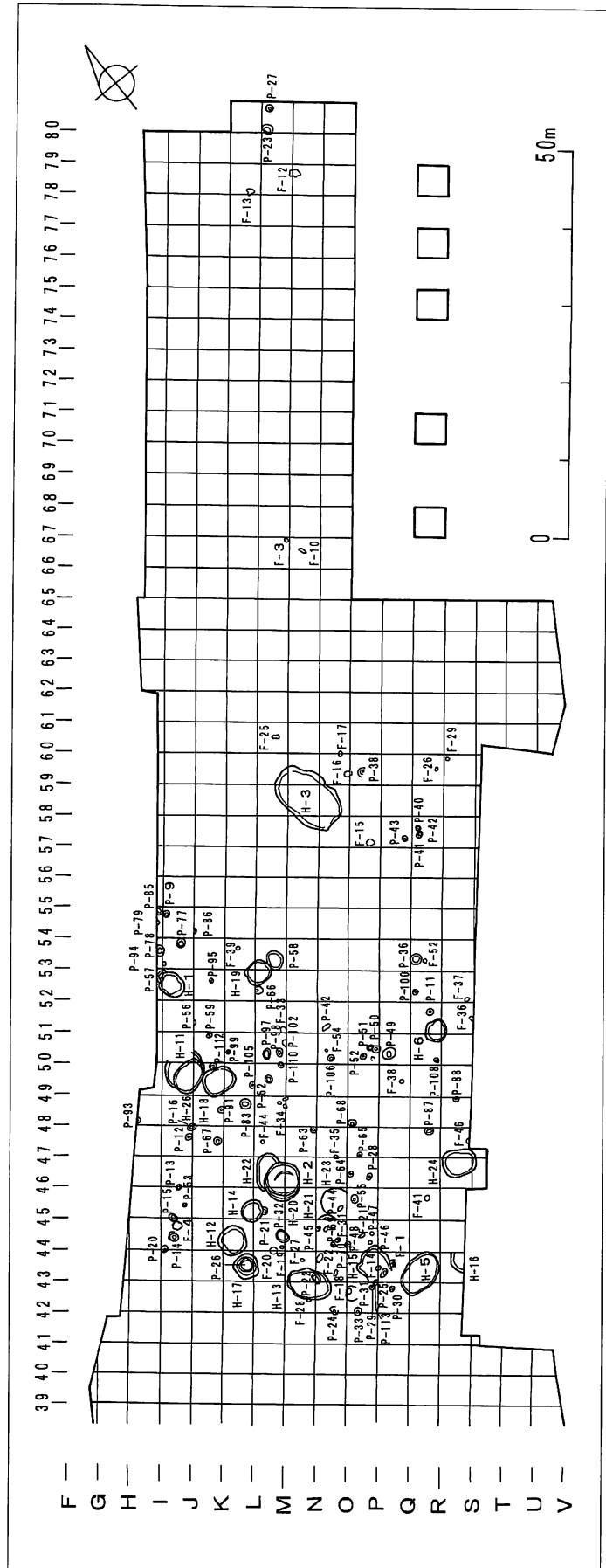
B地区は平成10年度に沢の調査を行い、平成11年度は25%調査を行った。平成12年度は本格的な発掘調査に取り掛かった。

ここでは沢部分のB地区と、遺跡の主体部であるB1地区、北東側のB2地区、および、C地区の沢斜面のB地区側、39ラインより北東側をB地区として報告する。

遺構は南西側で多く分布している。竪穴住居跡がB1地区で20軒検出され、縄文時代中期前半と後期前葉のものである。

H-3は竪穴住居跡の分布する部分からやや離れてB地区の沢の傍から検出された大形住居跡である。H-2・20・22やH-11・26のように重複している竪穴や被災住居のH-11が検出されている。土坑は75基検出され、B1地区全体に分布する。B2地区北東端にP-23・27の2基が他の土坑と離れて位置している。B地区の沢に近いP-42の坑底から砂岩製の三角形をした石製品が出土し、土壙墓と考えられる。焼土はB地区全域に分布する。B1地区の焼土は焼土粒が黒色土に混入する二次堆積のものが多く、屋外炉と思われるものは少ない。小ピットはB1地区から108カ所検出され、南西側に分布する。石を組み合わせている石組2カ所や集石6カ所はB地区全体に散在する。埋設土器1カ所はH-3の覆土から検出されている。炭化物集中は1カ所検出されている。フレイク・チップ集中はB地区から14カ所検出され沢の中や住居跡の近傍に分布している。その中で、FC-7から出土したものは同一母岩の縦長剥片が主体で、剥離工程の理解される接合がなされた。

山崎4遺跡から出土した遺物のうち、



図V-1 B地区遺構配置

1 遺構

約半数がB地区から出土している。出土した遺物の主体は縄文時代中期前半で、74%と比率が多い。この中で土器が半数弱を占める。

B 1 地区北東側の包含層の遺物は北から南に帯状に出土分布の濃淡がみられ、水の流れの影響を受けていると思われる。

1 遺構

a 竪穴住居跡

H-1 (図V-3・4、図版-10-1・2、11-1・2、12-1・2・3、図版108-1)

位置・立地：H・I-52

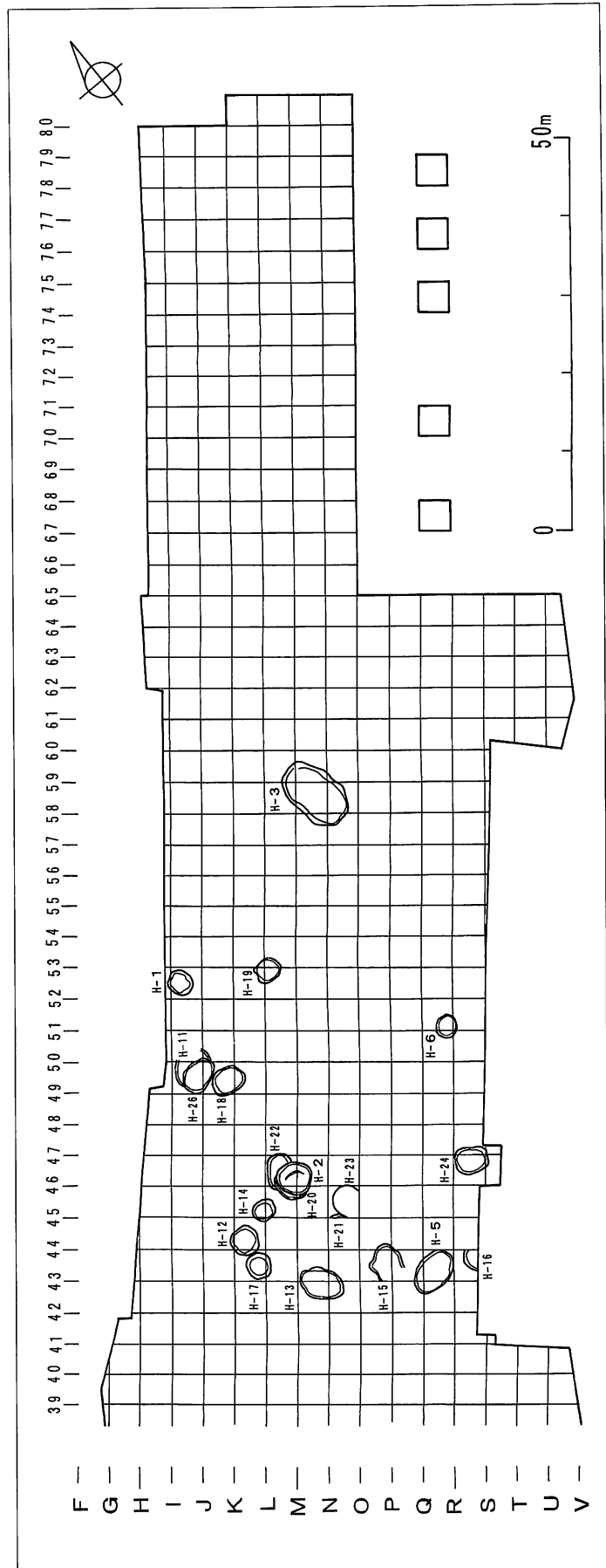
規模：3.01m/2.50m×2.61m/2.39m×0.56m

平面形：隅丸方形。

確認・調査：調査区西側に位置する。Ⅲ層上面において楕円形のⅢ層の落ち込みを確認した。遺構を想定し、土層観察用のベルトを残し、周辺の精査とプラン確認のために掘り下げを行った。平面形を確認し、覆土を約40cm程掘り下げたところで、環状に配置された石組み（I-1、図V-78）を確認した。

石組み（I-1）調査終了後、更に掘り下げたところで、明瞭な住居跡の床面と、急角度で立ち上がる壁面を確認し、住居跡と判断した。平面形は隅丸方形である、覆土は大きく2つに区分でき、覆土上位はⅢ層を主体にした黒色腐植土で構成され、覆土下部はローム質土を主体としている。掘り込み面はⅢ層中で、確認面から床面まで約60cmを計る。床面には凸凹が認められ、全体が固く締まりがある。

土層：1 黒色土 2/ 粒子細かく、
しまりやや強い。粘性高い。
2 暗褐色土 5YR3/2 粒子細かく、
しまり強い。粘性高い。



図V-2 B地区竪穴住居跡配置

- | | | | |
|------|---------|----------|------------------------------|
| 3 | 黒褐色土 | 5YR3/1 | 粒子細かく、しまり強い。粘性やや高い。 |
| 4 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | 粒子やや粗く、しまり強い。粘性高い。 |
| 5 | 褐色土 | 7.5YR4/3 | 粒子やや粗く、しまり強い。粘性高い。ローム粒含む。 |
| 6 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | 粒子やや粗く、しまり強い。粘性非常に高い。ローム粒含む。 |
| 7 | 赤褐色土 | 5YR4/6 | 粒子やや粗く、しまり強い。粘性高いロームブロック状含む。 |
| 8 | 褐色土 | 7.5YR4/6 | 粒子やや粗く、しまり強い。粘性高い。ローム粒多く含む。 |
| HF 1 | 1 暗赤褐色土 | 2.5YR3/6 | 粒子細かく、しまりやや弱い。炭化物微量含む。 |
| HP 1 | 1 黒褐色土 | 7.5YR3/1 | しまり強い。ロームブロック状。 |
| | 2 褐色土 | 7.5YR4/6 | しまりやや強い。粘性、低い。 |
| | 3 黒褐色土 | 5YR3/1 | 粘性高い。しまりやや強い。 |
| | 4 明赤褐色土 | 5YR5/6 | 粘性低い。 |
| HP 2 | 1 黒褐色土 | 7.5YR4/6 | しまり強い。ロームブロック状多い。 |
| | 2 褐色土 | 7.5YR4/6 | ロームブロック状多い。 |
| | 3 黒褐色土 | 7.5YR3/1 | 粘性高い。しまり強い。 |

特徴：床面中央部で炉が検出されている。浅い掘り込みがあり、覆土には炭化物をわずかに含む。

ピットは2基検出した（HP-1・2）。規模は2基共に同様で、口径が約30cmで、深さは約40cmである。HP-1・2の覆土1層からは、硬く締まるロームが充填されており、両ピットが意図的に埋め戻された事が窺える。尚、その他の壁柱穴等を検出することができなかった。

遺物出土状況：覆土中からⅢ群A-3類が31点、石槍2点、剥片20点、すり石1点、礫が2点出土している。床面からはⅢ群A-3類が118点、スクレイパー3点、剥片14点、礫が16点出土した。またHP-1の覆土中からⅢ群A-3類が26点、剥片が1点出土した。HP-2からはⅢ群A-3類が5点出土した。

時期：出土した遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類の時期と考えられる。（笠原）

掲載遺物：土器 1・5・6・8・9は床面出土。2は床面出土とHP-1・2覆土出土のものが接合している。3はHP-2覆土出土、4・7は覆土から出土。7がⅣ群A-1類で他はⅢ群A-3類である。

1は底部を欠くが、全体の1/2程が残っている。最大径は胴下半部にくる。4単位の波状口縁と考えられ、波頂部には、縄の圧痕が加えられた2個1組の橋状把手が施されている。口唇部外面には縄線が施文され、突起間の中央部には2本1組の縦位の貼り付けが加えられている。小突起は実測図上では4単位としたが、3単位の可能性もある。突起状には縄線が施されている。口縁下部には隆帯がめぐる。胴部には不規則なLRの斜縄文が施され、底部付近では横走気味になる。器面調整は全体的に丁寧である。2は全体の約1/2が残存している。平縁で表面全体にRLの斜行縄文が施される。器面調整は丁寧である。3～6は口縁部。3・4は口唇部に縄の圧痕が施されたもの。5・6は口唇部に沈線が施されたもので、5は口縁部に沈線が2本加えられている。7は胴部で、表面に輪積痕を残す。

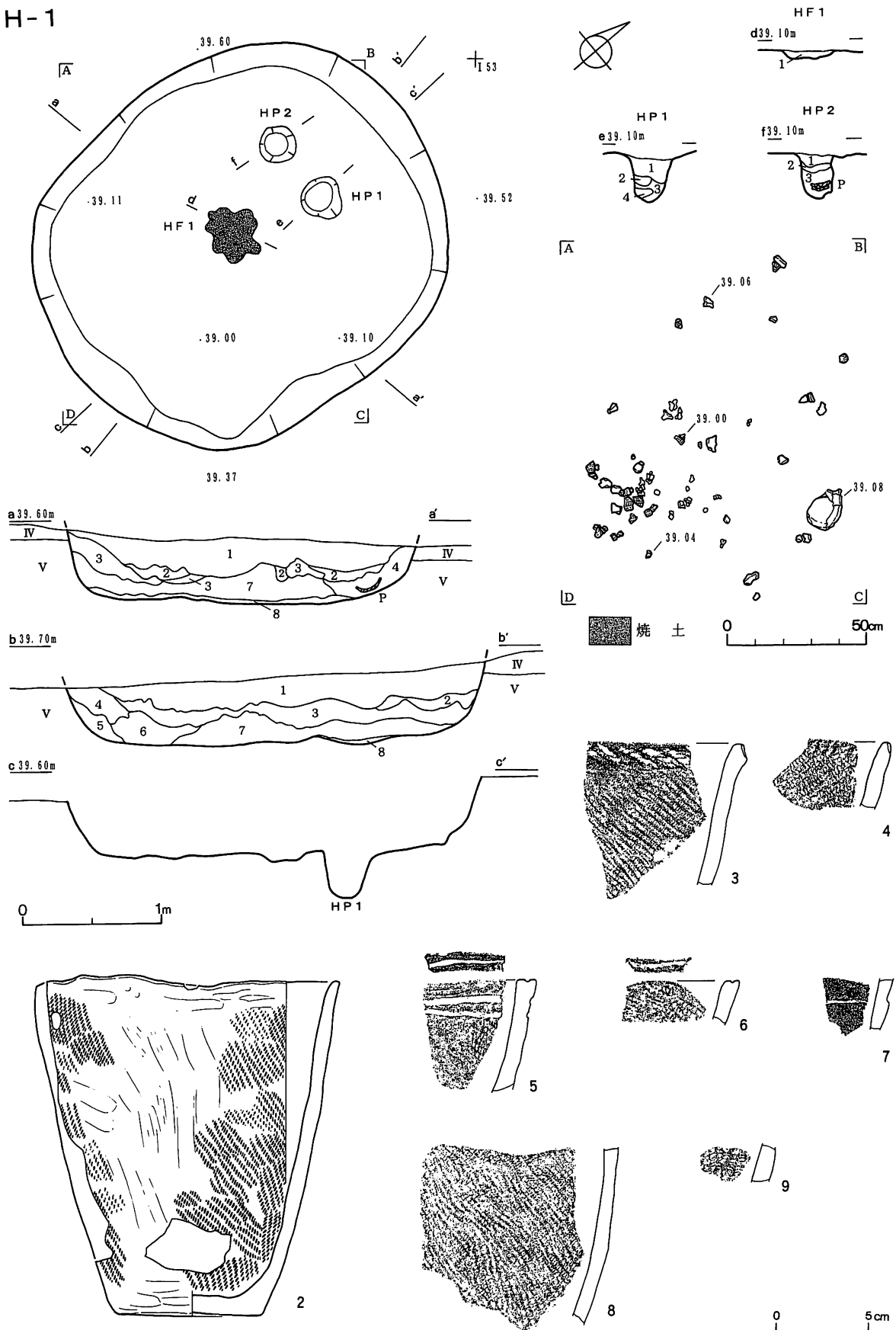
8はRLの斜縄文が施される。（広田）

石器 11～13は床面から出土したもの、他は覆土から出土したもの。10は石槍の未成品である。11～13はスクレイパー。いずれも1a類である。14はすり石2類。背面には被熱によるはじけがみられる。

なお、覆土から出土した石槍1点・剥片2点、床面出土の剥片2点、およびHP1出土の剥片1点の計6点について、原材産地同定を依頼したところ、豊浦町豊泉産と判定された覆土出土の剥片1点を除き、すべて赤井川産と判定された（第Ⅶ章2節）。（柳瀬）

1 遺構

H-1



図V-3 H-1

H-2 (図V-5、図版12-4、13-1・2)

位置・立地：L・M-45・46 段丘緩斜面に立地する。

規模：4.62m/4.63m×4.27m/3.79m×0.52m

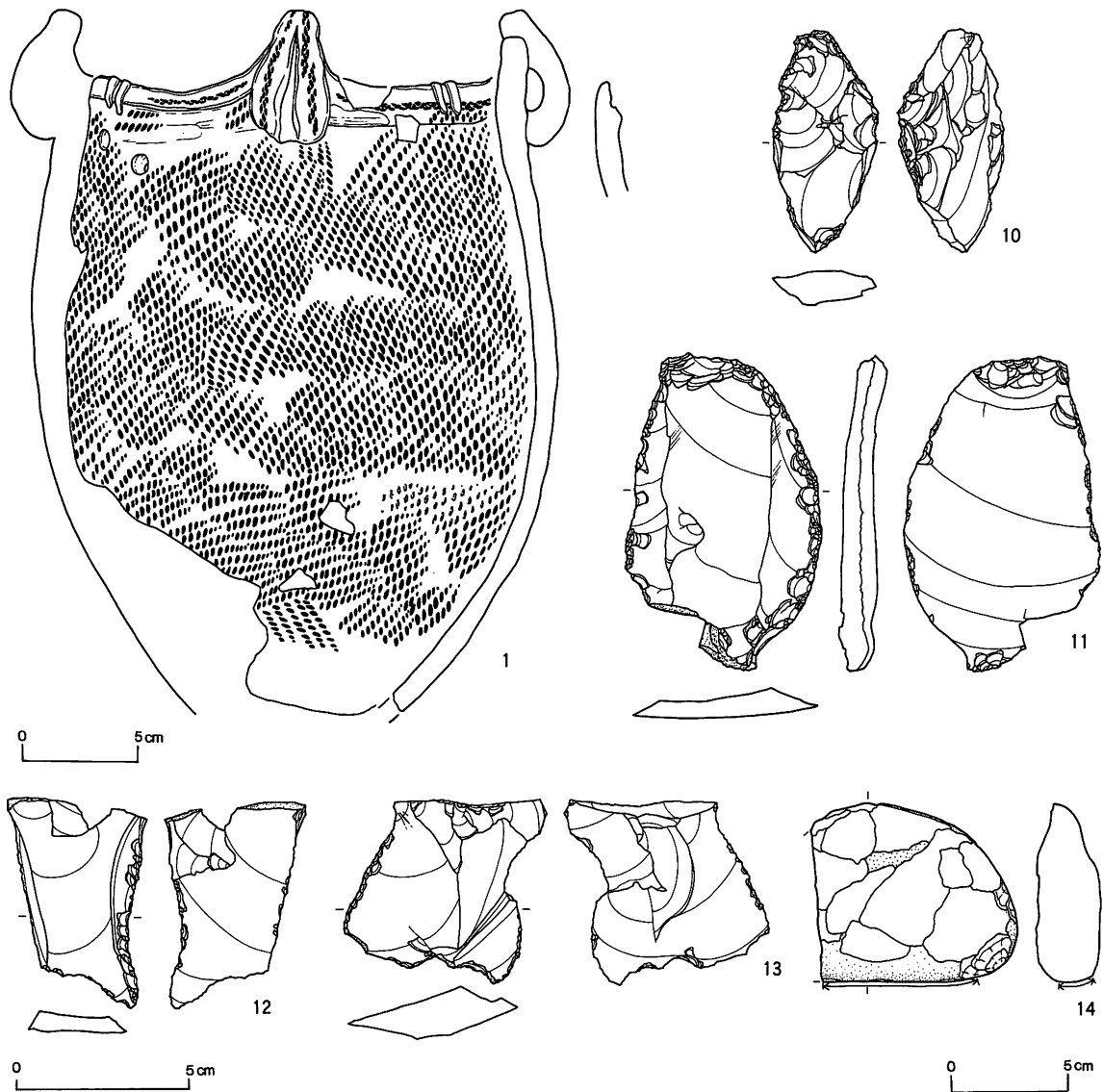
平面形：円形。

確認・調査：平成11年度の25%調査の際に黒色土の落ち込みを確認した。平成11年度に南東側半分の調査を行い、北東側は平成12年度に調査を行っている。

掘り込みはH-20の窪み利用しH-20の覆土に留まり、面積も一回り狭い、入れ子になっている。

- 土層：1 黒茶褐色粘質土、
 2 黒色粘質土、
 3 黒褐色粘質土、
 4 暗褐色土（黒褐色土+ローム）、
 5 暗黄褐色土（ロームに少量の黒褐色土を含む）。

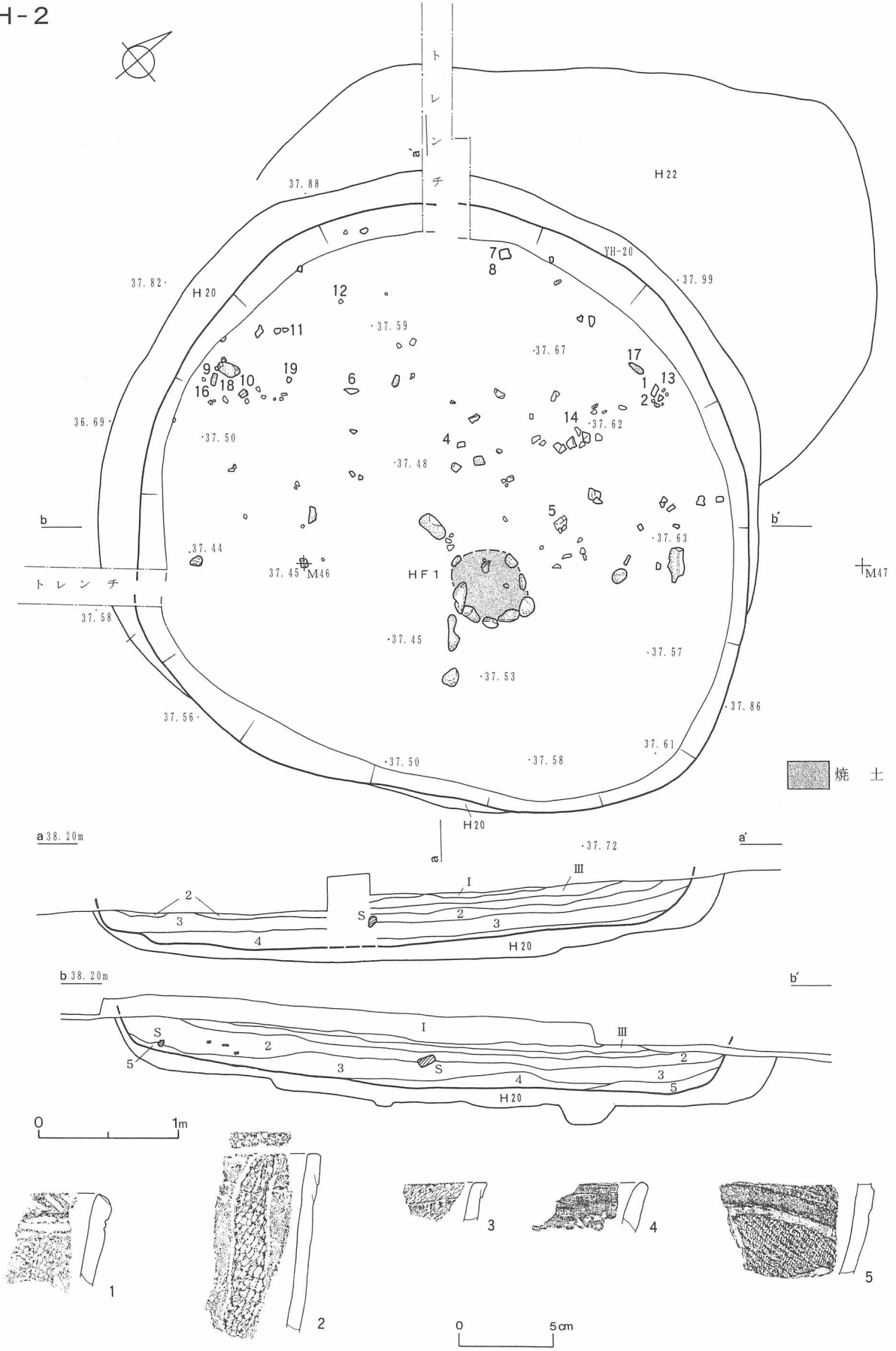
床面・壁面：床面はほぼ平坦だが、北側が高く若干傾斜する。壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。



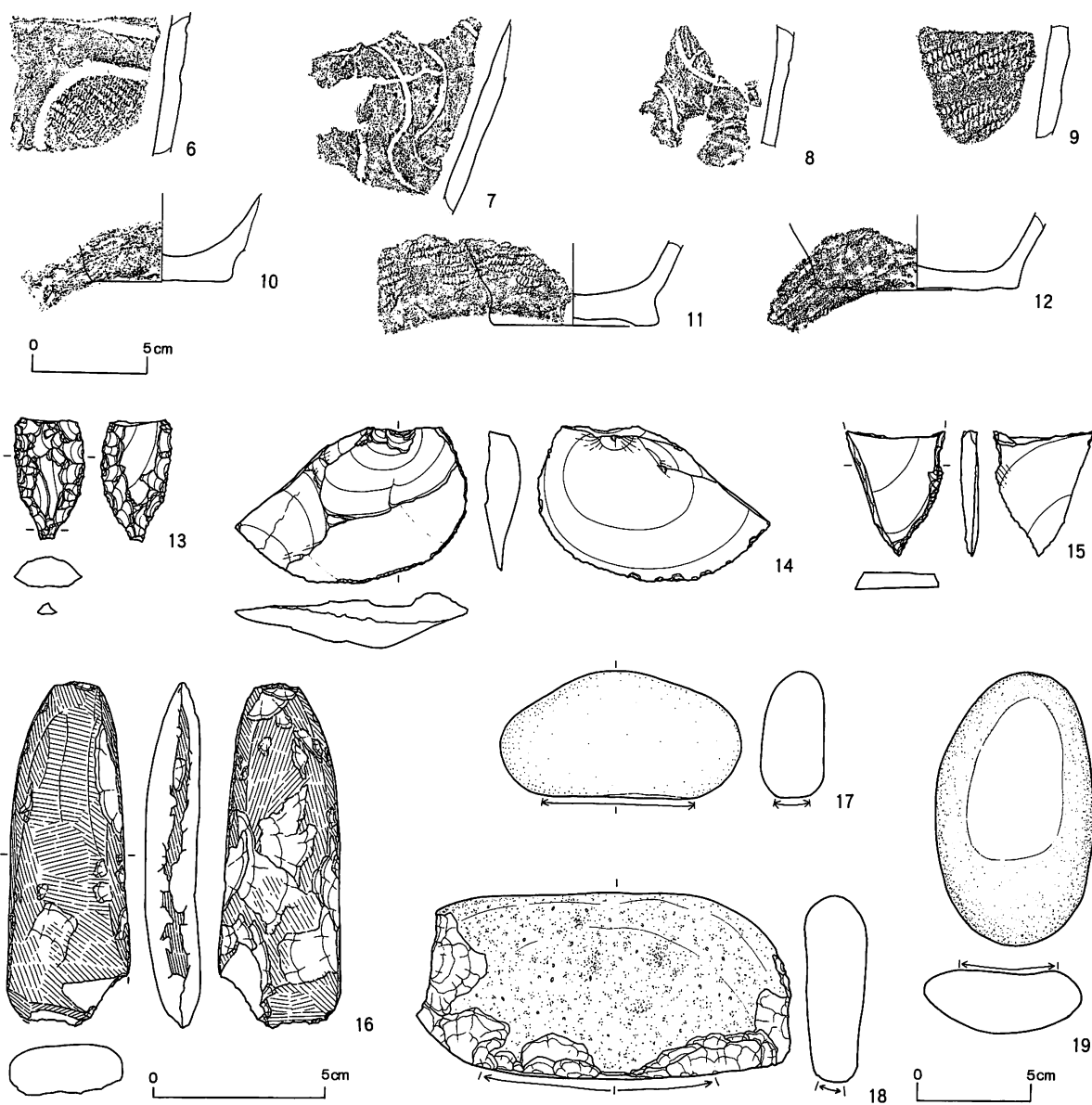
図V-4 H-1出土の遺物

1 遺構

H-2



図V-5 H-2



図V-6 H-2出土の遺物

特徴： 竪穴中央部のやや西よりに石囲い炉を検出した。焼土の上部に炭化物が混じっていた。石囲い炉から出土した炭化物を¹⁴C年代測定している。補正值で 3790 ± 40 の結果が出ている。これはH-2より古いH-20の測定結果 3590 ± 40 より、200年程古く逆転している。層位的な上下関係に間違いがないため、試料の取り違いなどの可能性を考慮しなくてはならない。

遺物出土状況： セクションベルトを境に東西南北1/4区画ごとに一部の遺物を取り上げている。西側をH-2 a、北側をH-2 b、東側をH-2 c、南側をH-2 dとした。

覆土からⅢ群A-2類土器が8点、Ⅲ群A-3類土器25点、Ⅲ群B-2類土器1点、Ⅳ群A-1類土器2点、スクレイパー1点、剥片6点、礫5点、覆土上から剥片38点、すり石1点、礫剥片3点、覆土中からⅢ群A-3類土器9点、Ⅲ群B-2類土器1点、Ⅳ群A-1類土器1点、Rフレイク1点、剥片21石斧1点、すり石2点、礫6点、覆土下からⅢ群A-3類土器9点、Ⅲ群B-2類土器6点、Ⅳ群A-1類土器1点、ドリル1点、剥片8点、礫8点、覆土1からⅢ群A-1類土器2点、Ⅲ群A

1 遺構

Ⅱ-2類土器3点、Ⅲ群B-2類土器8点、Ⅳ群A-1類土器40点、剥片42点、礫1点、覆土2からⅢ群A-2類土器1点、Ⅲ群A-3類土器11点、Ⅲ群B-2類土器2点、Ⅳ群A-1類土器29点、スクレイパー1点、剥片9点、礫剥片1点、礫9点、覆土3から剥片5点、壁からⅢ群A-3類土器2点、床直上からⅢ群A-3類土器3点、Ⅲ群B-2類土器1点、Ⅳ群A-1類土器12点、スクレイパー1点、Uフレイク1点、剥片14点、礫18点、床面からⅢ群A-2類土器6点、Ⅲ群A-3類土器10点、Ⅲ群B-3類土器2点、Ⅳ群A-1類土器4点、Rフレイク1点、剥片14点、礫16点が出土している。H-2 a覆土中からⅢ群A-3類土器11点、H-2 a覆土壁からⅢ群A-3類土器2点、Ⅳ群A-1類土器7点、H-2 b覆土上からⅢ群A-3類土器17点、Ⅲ群B-2類土器4点、Ⅳ群A-1類土器2点、H-2 b覆土中からⅢ群A-2類土器2点、Ⅲ群A-3類土器9点、H-2 b覆土中からⅢ群A-3類土器2点、Ⅳ群A-1類土器4点、H-2 c覆土3からⅢ群A-3類土器1点、Ⅲ群B-2類土器1点、Ⅳ群A-1類土器6点、H-2 d覆土上からⅢ群A-3類土器1点、Ⅲ群B-2類土器2点が出土した。

時期：出土した遺物から縄文時代後期前葉Ⅳ群A-1類土器の頃に構築されたものと考えられる。H-20より新しい。
(谷島)

掲載遺物：土器 4・10は床面出土で、他は覆土出土である。1・12はⅢ群A-3類、9はⅢ群B-2類で、他はⅣ群A-1類である。

1～4は口縁部。1は口唇部に刻みが施されている。2・3は折り返し口縁ないし貼付帯が施されている。2は縦位にも縄文が加えられた貼り付けをもち、縦位の貼付は、横方向からそのまま垂下する。3の口唇断面は角形である。4は無文のもの。5～9は胴部で、5と6、7と8は同一個体である。5・6は複節RLRの斜行縄文を沈線で区画し、磨消している。7・8は無文地に曲線的な沈線による文様が描かれている。9は胎土に細かい砂粒を含む。10～12は底部。10は胎土に砂粒を含む。11はやや上げ底気味で、底部は張り出す。
(広田)

石器 19は壁から出土したもの、他は覆土から出土したものである。13は珪質頁岩製のドリル3類。14・15はスクレイパー。14は2c類。弧状の急角度の刃部をもつもので、側縁から端部にかけて連続した細かい調整が加えられる。16は石斧1類。片岩製で、粗割・磨りで整形される。刃部は部分的に欠損する。17・18はすり石。17は2類、18は4類で、使用面から腹面にかけて被熱し、赤化している。19は砥石である。
(柳瀬)

H-3 (図V-7～11、図版14-1・2・15-1～3、110-1・111-1)

位置・立地：L～N-57～59、B地区のほぼ中央部に位置し、標高37.9～38.3mの緩斜面上にある。北側約8mにはF-25、南側約5mにはF-15、東側にはP-38、F-16・17がある。

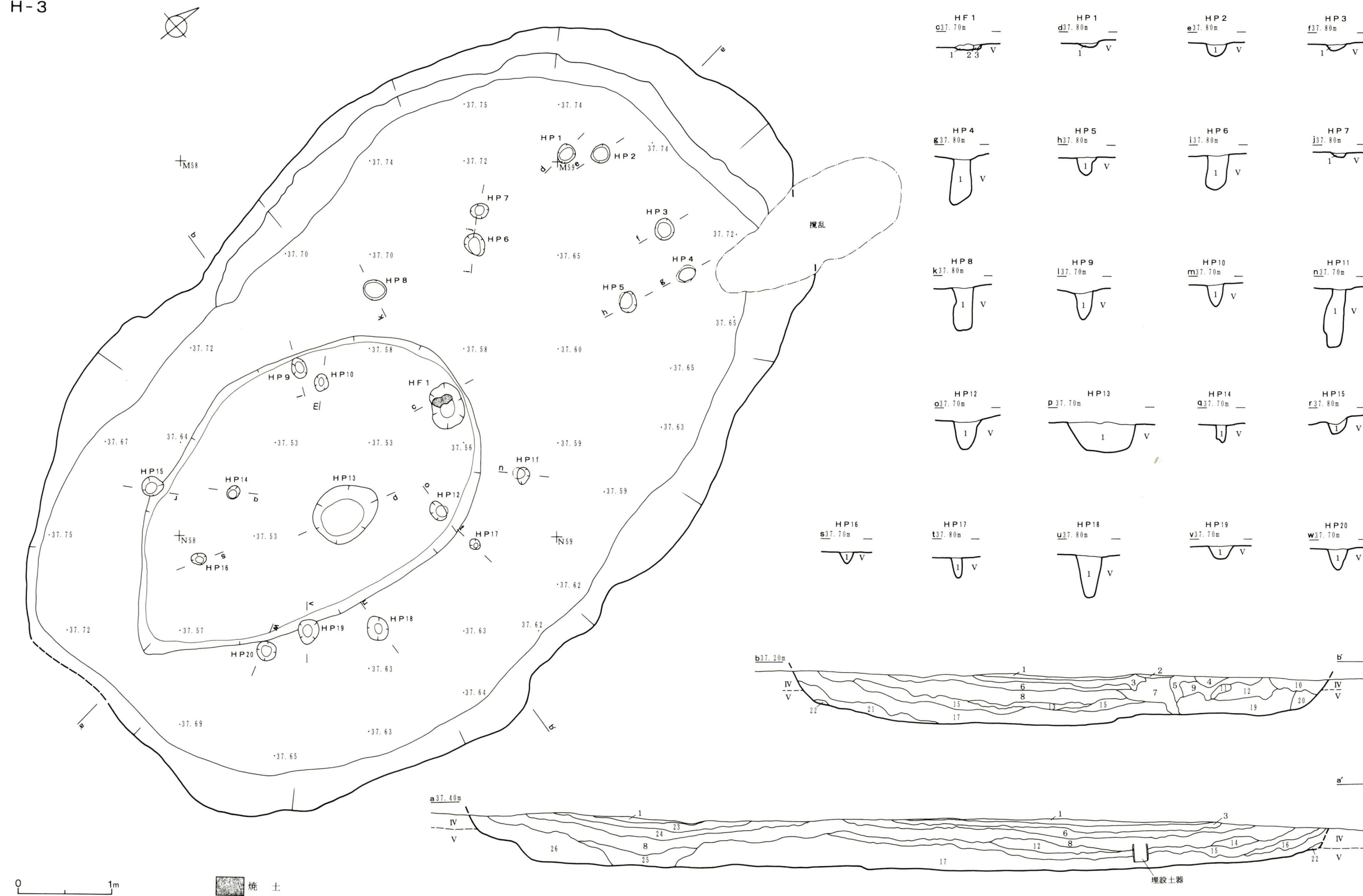
規模：9.40m/3.26m×5.89m/2.68m×0.74m

平面形：不整の長楕円形。

確認・調査：平成11年度の25%調査時に、Ⅲ層上面で長楕円形のⅡ層の落ち込みを2基確認した。調査期間の関係上、1基のみベルトを設定し、トレンチ調査を行った。その結果、竪穴住居跡であることが確認され、H-3と呼称し、調査を行った。平成12年度の調査時にもう一つの落ち込みもH-4と呼称し、調査を行った。その結果、H-3とH-4は同一の住居跡であることが判明し、最終的にH-3と呼称した。整理の都合上、遺物台帳及び注記は調査時のH-4のままで、変更は行わなかった。

本遺構の覆土中からFC-11・20 (図V-85・86) 及び埋設土器 (図V-81) が検出されている。

H-3

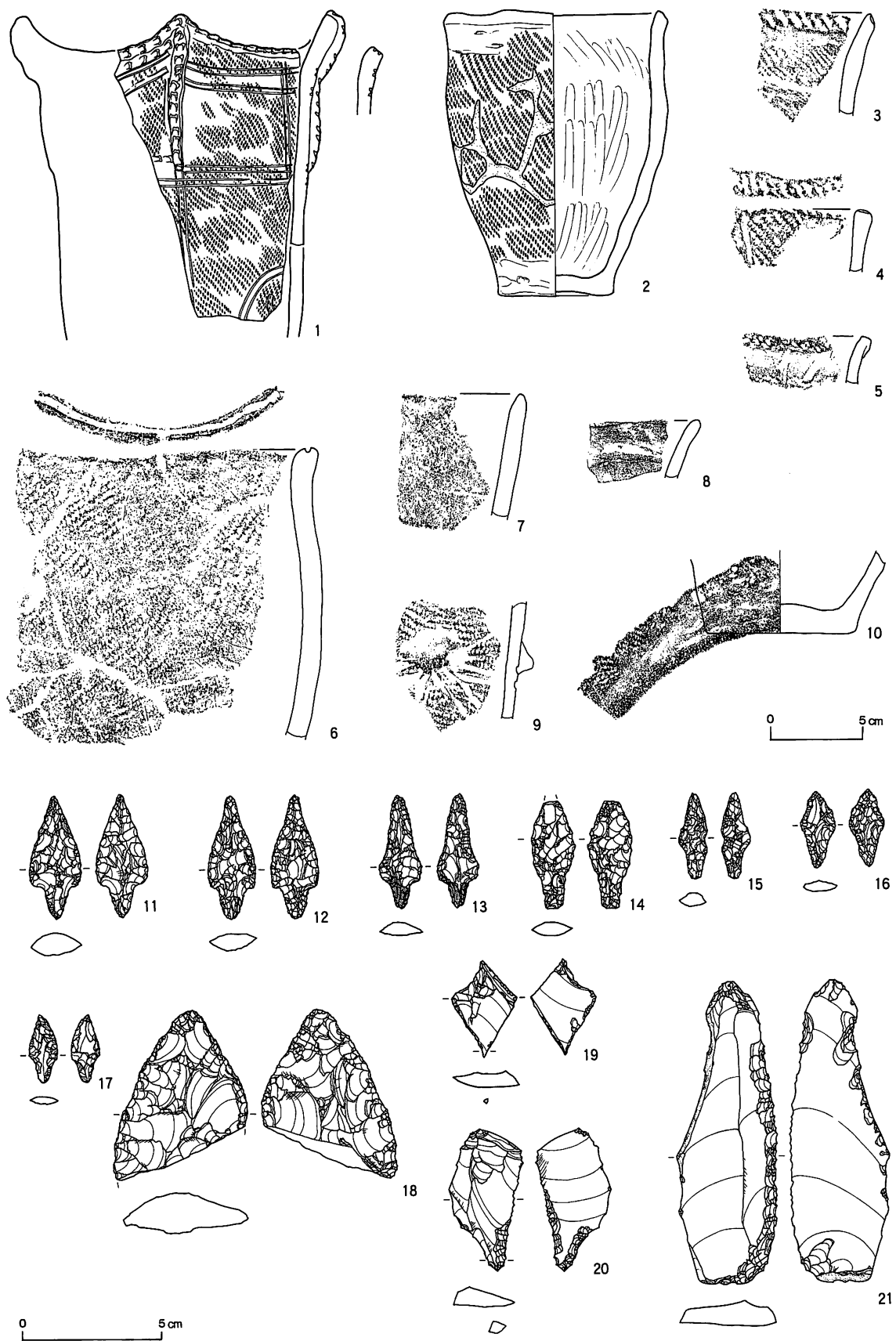


図V-7 H-3

H-3

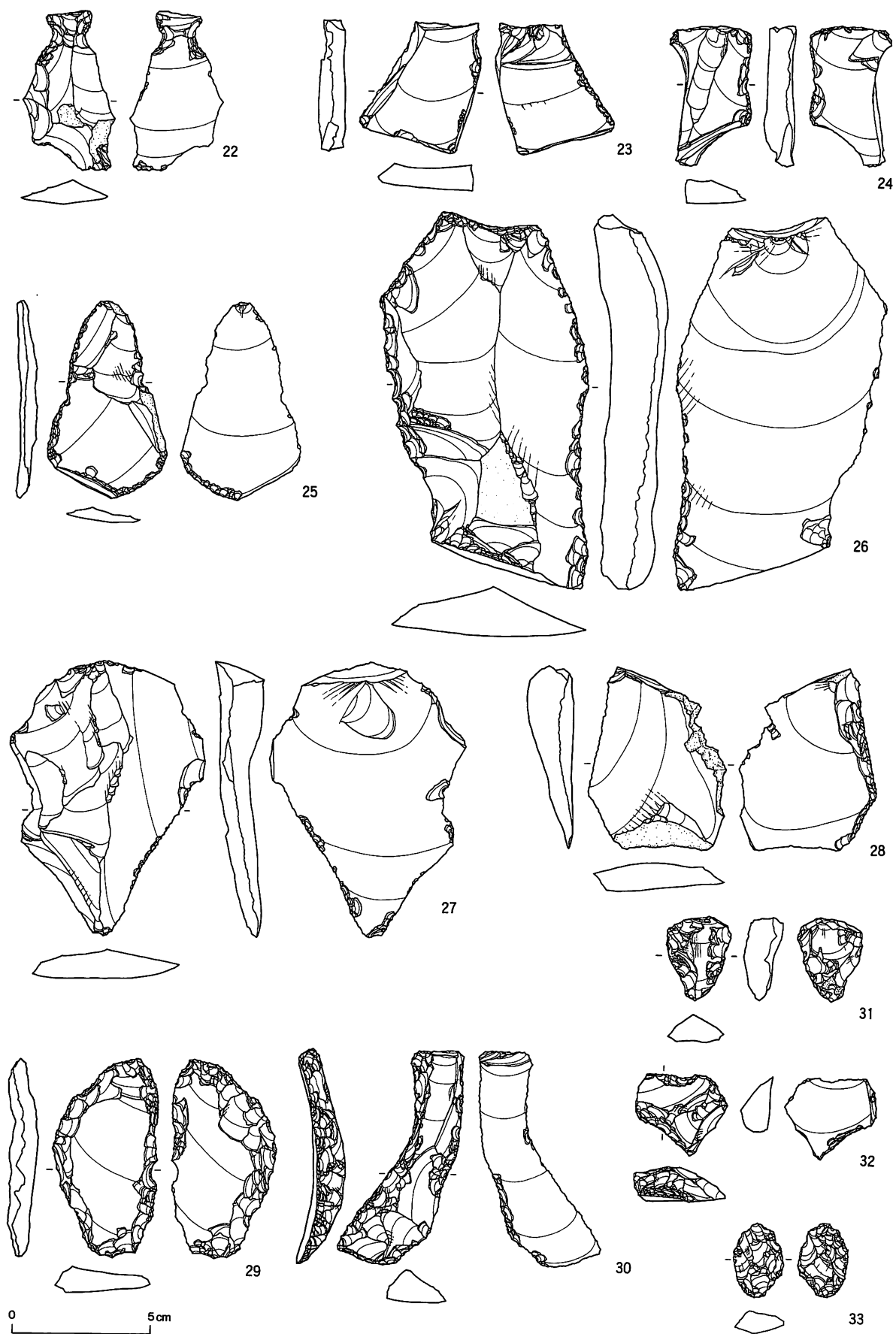


図V-8 H-3の遺物出土状況



図V-9 H-3出土の遺物(1)

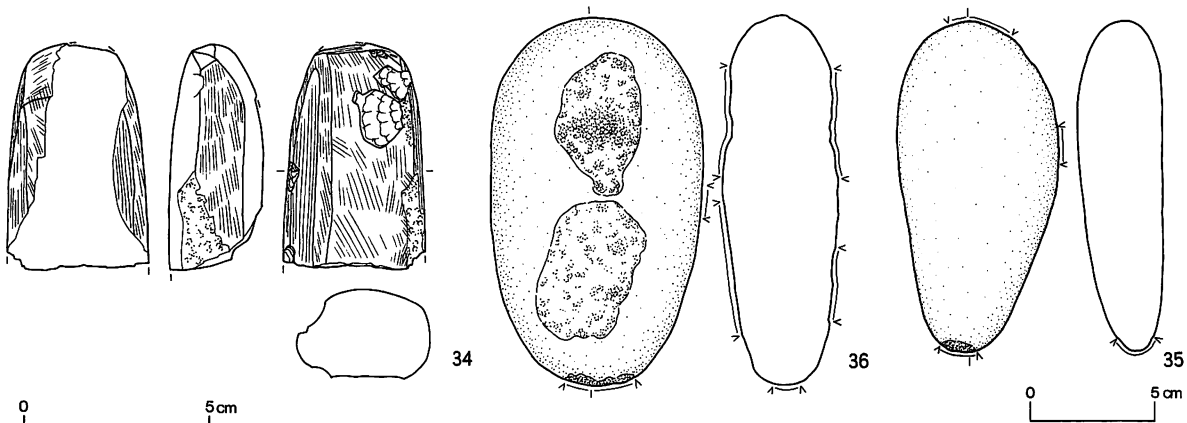
1 遺構



図V-10 H-3出土の遺物(2)

本遺構の埋没過程時に一時的に凹みを利用していたと思われ、本遺構より新しいと考えられる。ただし、FC-11・20は埋設土器の検出面より上位で検出されているため、埋設土器より新しい。掘り込みは比較的深く、一番深い部分で約70cmを測る。床面はわずかに凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。壁は長軸方向、短軸方向共になだらかに立ち上がる。覆土の上部はⅢ層土主体で、下部はⅣ・Ⅴ層土主体で固くしまっているため、床面及び壁の立ち上がりの検出が困難だった。

土層：1	k o - d	II。
2	暗褐色土	7.5YR3/3 IV>>V V層はやや斑状に含まれる。しまりあり。粘性あり。
3	黒褐色土	7.5YR2/2 Ⅲ層土主体。しまりあり。粘性ややあり。
4	褐色土	7.5YR4/3 IV>V しまりあり。粘性やや弱い。
5	暗褐色土	7.5YR3/2 Ⅲ>IV>>V しまりやや弱い。粘性あり。
6	黒色土	7.5YR2/1 Ⅲ層土主体。しまりかなりあり。粘性あり。
7	黒褐色土	10YR2/2 Ⅲ>IV しまりややあり。粘性あり。
8	黒色土	10YR1.7/1 Ⅲ層土。しまりあり。粘性弱い。
9	暗褐色土	7.5YR3/3 Ⅲ>IV ローム粒子、ブロックを少量含む。しまりやや弱い。粘性あり。
10	黒色土	10YR1.7/1 Ⅲ層土主体。ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。
11	暗褐色土	7.5YR3/2 Ⅲ>IV ローム粒子を微量含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。
12	暗褐色土	7.5YR3/3 Ⅲ=V ローム粒子、ブロックを少量含む。
13	褐色土	7.5YR4/3 IV>V ローム粒子を微量含む。しまりやや弱い。粘性あり。
14	褐色土	7.5YR4/3 IV>V やや斑状に含む。しまり弱い。粘性あり。
15	黒色土	7.5YR2/1 Ⅲ>IV ローム粒子、ブロックを少量含む。しまりあり。粘性あり。
16	黒色土	10YR1.7/1 Ⅲ層主体。ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。
17	黒褐色土	10YR2/2 Ⅲ>IV ローム粒子、ブロックを少量含む。しまりあり。粘性あり。
18	暗褐色土	10YR3/3 Ⅲ>IV ロームブロックを含む。炭化物粒を少量含む。しまりあり。粘性あり。
19	暗褐色土	7.5YR3/4 Ⅲ=IV ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。
20	暗褐色土	7.5YR3/3 Ⅲ=IV>V ローム粒子、ブロック、炭化物粒子を少量含む。焼



図V-11 H-3出土の遺物(3)

1 遺構

				土粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。
21	褐色土	7.5YR4/3	IV>>III	ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性かなりあり。
22	暗褐色土	7.5YR3/3	III>IV	ローム粒子、ブロックを少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
23	暗褐色土	7.5YR3/3	III=IV>V	しまりやや弱い。粘性あり。
24	暗褐色土	7.5YR3/3	IV>>V	V層やや斑状に混じる。ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。
25	褐色土	7.5YR4/4	IV>V	やや斑状に混じる。しまりややあり。粘性あり。
26	暗褐色土	10YR3/4	III>>IV	ロームブロック、炭化物粒を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
HP 1	1 暗褐色土	7.5YR3/4	III>IV	しまりあり。粘性ややあり。
HP 2	1 暗褐色土	7.5YR3/3	III>IV	しまりあり。粘性やや弱い。
HP 3	1 暗褐色土	7.5YR3/3	III>IV	しまりあり。粘性やや弱い。
HP 4	1 暗褐色土	7.5YR3/4	III>IV	しまり弱い。粘性あり。
HP 5	1 極暗褐色土	7.5YR2/3	III>>IV	ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
HP 6	1 暗褐色土	7.5YR3/3	III>>IV	しまりややあり。粘性ややあり。
HP 7	1 褐色土	7.5YR4/3	III>>IV	ローム粒子を少量含む。しまりあり。 粘性やや弱い。
HP 8	1 暗褐色土	7.5YR3/3	III>IV	しまりややあり。粘性ややあり。
HP 9	1 暗褐色土	7.5YR3/4	III>IV	しまりやや弱い。粘性あり。
HP 10	1 暗褐色土	7.5YR3/3	III>IV	しまりあり。粘性やや弱い。
HP 11	1 褐色土	7.5YR4/4	III>IV	しまりやや弱い。粘性あり。
HP 12	1 暗褐色土	7.5YR3/3	III>IV	しまりややあり。粘性あり。
HP 13	1 暗褐色土	7.5YR3/3	III>IV	ローム粒子、ロームブロック、炭化物粒子を含む。焼土粒を微量含む。
HP 14	1 暗褐色土	7.5YR3/4	ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。	
HP 15	1 暗褐色土	7.5YR3/3	しまりあり。粘性ややあり。	
HP 16	1 暗褐色土	7.5YR3/4	III>IV	しまりあり。粘性やや弱い。
HP 17	1 暗褐色土	7.5YR3/4	III=IV	しまりやや弱い。粘性弱い。
HP 18	1 暗褐色土	7.5YR4/3	III=IV	しまりややあり。粘性ややあり。
HP 19	1 暗褐色土	7.5YR3/3	III=IV	しまりややあり。粘性弱い。
HP 20	1 褐色土	7.5YR4/4	III>IV	しまりあり。粘性ややあり。

特徴：長軸の中央付近で炉が検出された。掘り込みを有するが、焼土自体の範囲は狭い。ピットは20カ所検出されている。規模はやや小形のものが多く、配置、規模等から考えてピットの多くは柱穴と考えられる。ただし、HP 1・3・7等掘り込みの浅いものや、大形で覆土中に焼土、炭化物を含むHP 13は柱穴かどうか不明である。また、南側部分では、床面がさらに浅く平坦に掘り窪められており、いわゆるベンチ状の構造を有する竪穴住居跡と考えられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類、Ⅲ群A-3類土器、Ⅳ群A-1類土器、石鏃、ドリル、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石核、剥片、砥石、礫が出土している。床面からはⅢ群A-3類、石

鏃、石槍、ドリル、スクレイパー、石器未製品、Rフレイク、Uフレイク、石核、剥片、石斧、たたき石、礫剥片、礫が出土している。

時期：床面出土の土器から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：土器 8が床面出土で、他は覆土出土である。5がⅣ群A-1類で、他は全てⅢ群A-3類。

1は約1/4程度残っているものを復原実測した。4単位の波状口縁を呈すると考えられる。波頂部から胴上半部に垂下する貼付が施されている。口唇部・口縁部直下、貼付上には、半截竹管状工具による内面による連続刺突が加えられている。口縁～胴部上半には、半截竹管状工具内面による2本一組の沈線で、上部は直線上の、下部は渦巻状の曲線の文様構成を描き出している。2は約1/3残存している。小形の土器で口縁部はわずかに外反する。口唇部断面の形状は切り出し形である。口縁付近を除いてほぼ全面にRLの斜行縄文が施されている。底部はわずかに張り出し、やや上げ底である。3～8は口縁部。3は口唇部に刻みが施される。4は口唇部に縄の圧痕が加えられている。5は口縁部に横方向の貼り付けを有し、口唇部断面が角形を呈する。6は口唇部に沈線が施されている。胴部はやや張り出す。7・8は無文のもの。9は胴部で、RLの横走気味の縄文施文後に、横及び斜位の沈線と貼付瘤が加えられている。10は底部である。(広田)

石器 11～13・18・19・23・25・27・30・32～35は床面から出土したもの、24はHP7の覆土から出土したもの、他は覆土から出土したものである。11～17は石鏃。すべて2a類である。12・15の基部付近の一部分と、13のスクリーントーンで示した範囲に黒色の付着物がみられ、アスファルトと思われる。14は黒曜石製、17は玄武岩製である。18は石槍片。19・20はドリルで、いずれも1類。21・22はつまみ付きナイフで、いずれも1d類。21はつまみ部の作り出しが不明瞭で、スクレイパーの可能性もある。腹面左側縁に光沢がみられる。23～32はスクレイパー。23～31は1a類。23～27は直線的な刃部をもつもの、28～29は外湾する刃部をもつもの、30は内湾する刃部をもつもの。25・30は端部にも刃部加工が施される。31は黒曜石製で、スクレイパーとしたが他石器の未成品の可能性もある。32は8類。33は石器未成品とした。大きさから石鏃の未成品の可能性もある。黒曜石製。34は石斧の基部。擦り切り痕があり、さらに粗割・敲打・磨りで整形される。35・36はたたき石で、35は1類、36は3類。36は基盤層に含まれる安山岩を素材としている。

なお、黒曜石製の14・31および覆土から出土した剥片2点について原材産地同定を依頼したところ、いずれも赤井川産と判定された(第Ⅶ章2節)。(柳瀬)

H-5 (図V-12～15、図版15-4・16-1～3、112-1・113-1)

位置・立地：P・Q-42・43、B地区の南部分に位置し、標高36.0～36.3mの沢縁辺部の緩斜面上にある。周辺には北西側にH-15、P-25・30、南西側約3mにH-16がある。

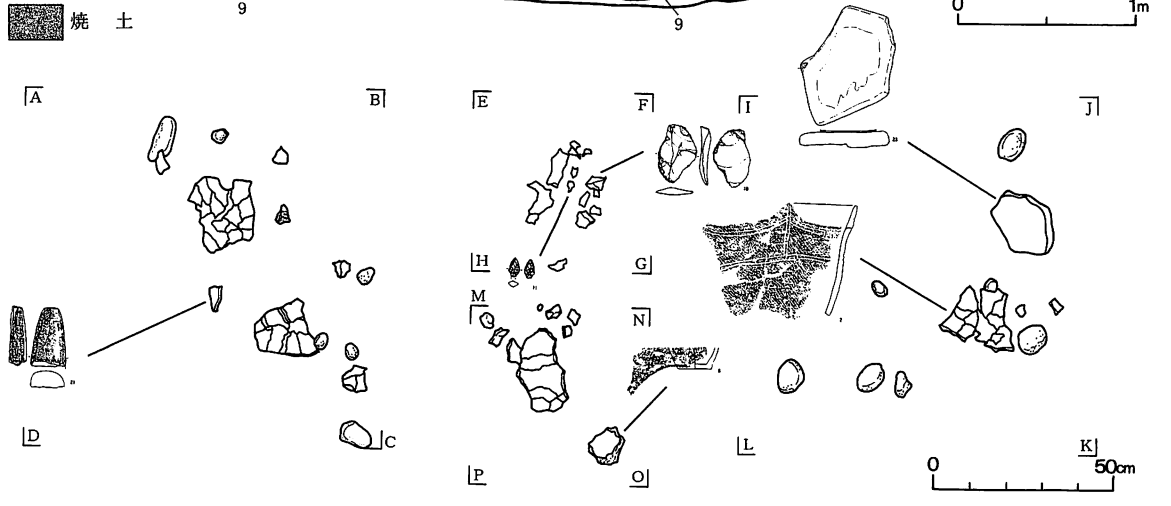
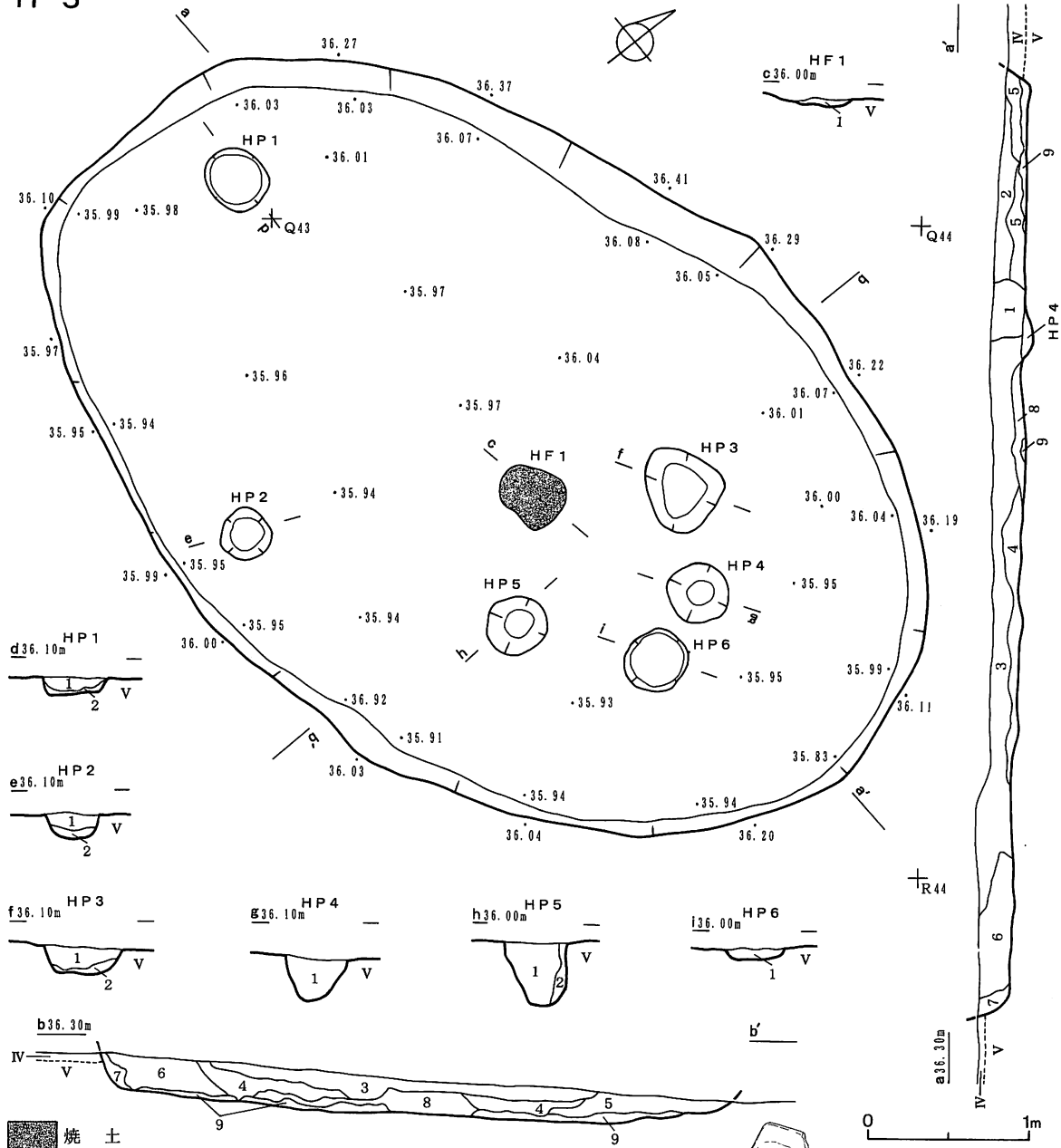
規模：5.88m/5.76m×3.93m/3.53m×0.41m

平面形：不整楕円形。

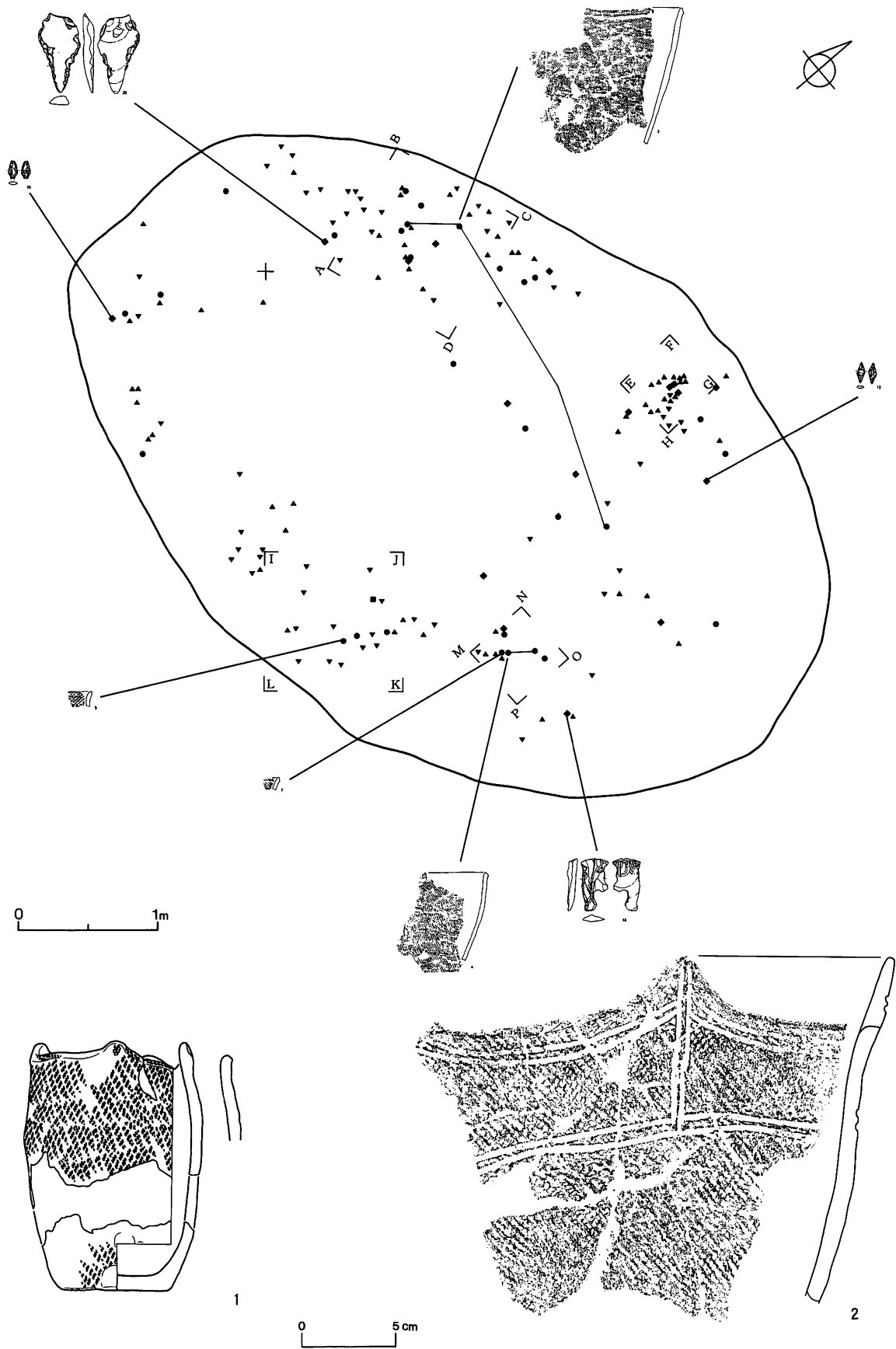
確認・調査：Ⅳ層を調査中、遺物がややまとまって出土し、周辺の精査を行ったところ暗褐色土の落ち込みを確認した。トレンチ調査を行い、その結果竪穴住居跡であることが判明した。上部は削平されているため全体的に遺存状況は悪く、特に南側部分は床面直上付近まで削られている。床面はほぼ平坦で全体的にやや堅く締まっている。壁の立ち上がりは全体的にやや急角度である。

特徴：炉が長軸中央よりやや南東の部分で検出された。地床炉でよく焼けて堅く締まっている。ピットは6ヵ所検出されている。掘り込みが浅いため、断定はできないが、柱穴の可能性もある。

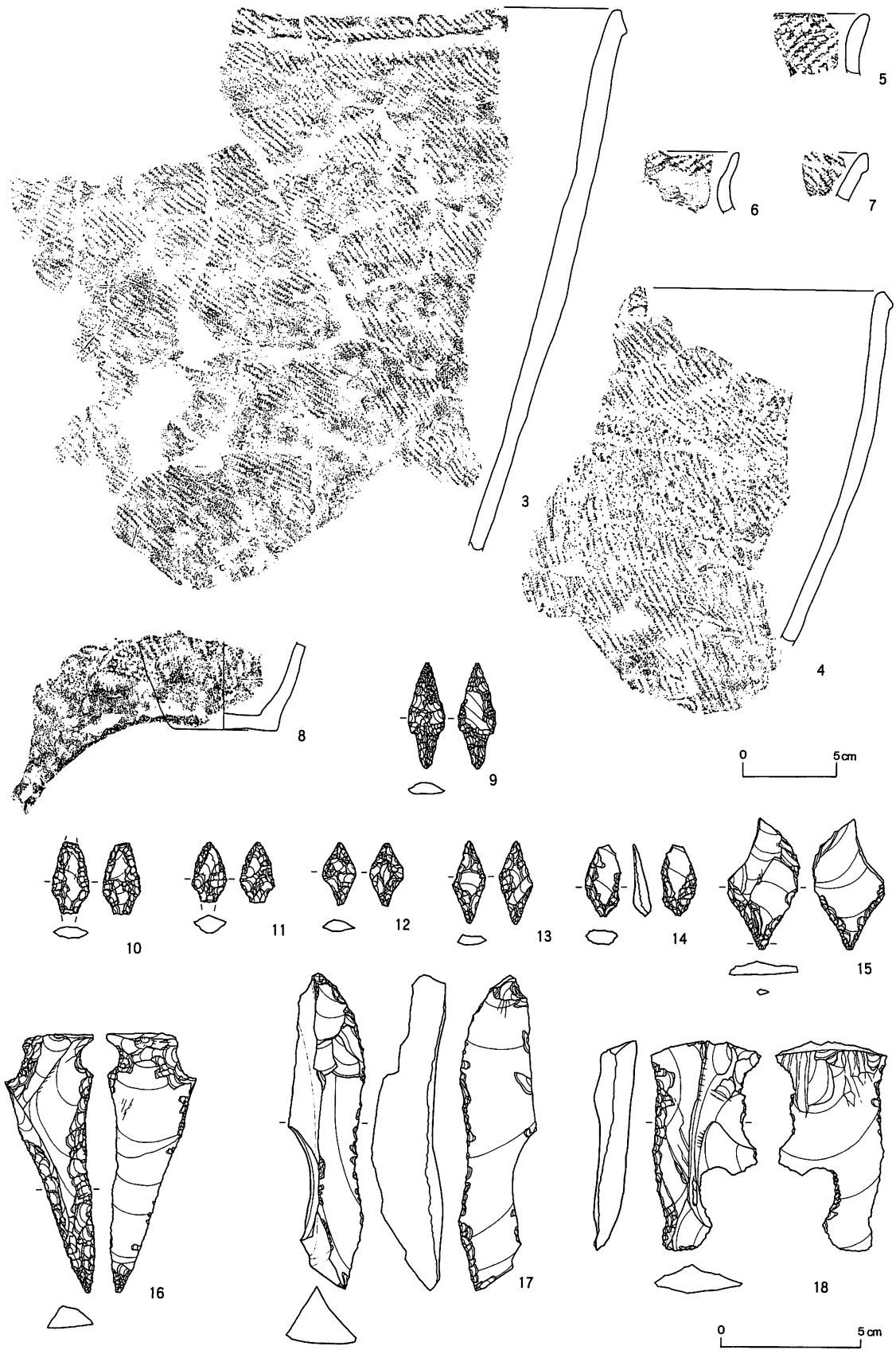
H-5



☒ V-12 H-5

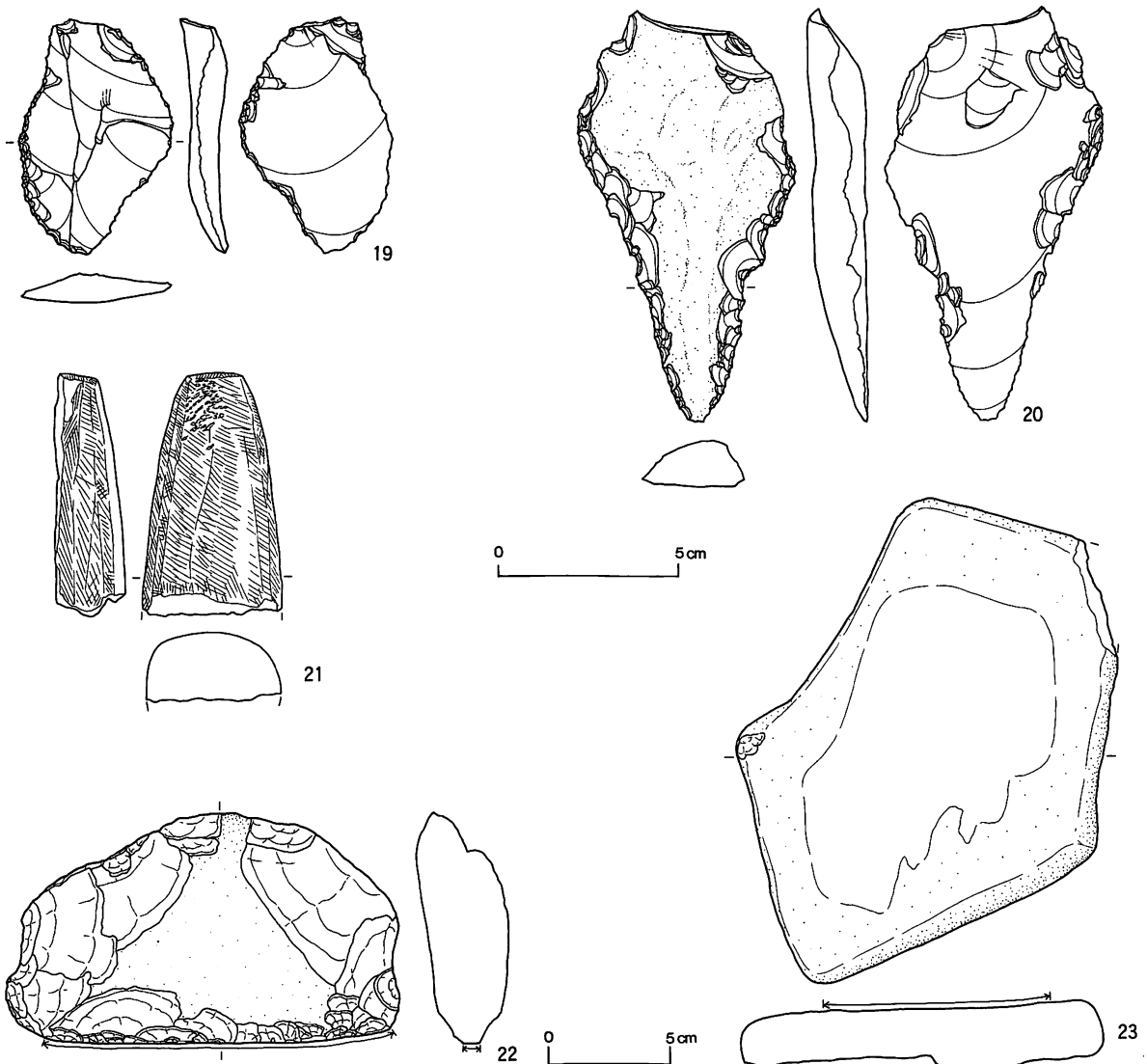


図V-13 H-5の遺物出土状況



図V-14 H-5出土の遺物(1)

- | | | | |
|------|------|----------|--|
| 土層：1 | 黒色土 | 7.5YR2/1 | Ⅲ層土主体。炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。 |
| 2 | 黒褐色土 | 7.5YR2/2 | Ⅲ>Ⅳ ローム粒子を微量含む。炭化物粒、焼土粒子を微量含む。しまりややあり。粘性あり。 |
| 3 | 黒色土 | 7.5YR2/1 | 1層よりやや明るい。Ⅲ>Ⅳ ローム粒子を少量、炭化物粒子、焼土粒子を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 4 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | Ⅲ>Ⅳ ロームブロックを少量、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。 |
| 5 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | Ⅲ>Ⅳ ローム粒子を少量、焼土粒を微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。 |
| 6 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | Ⅲ=Ⅳ ローム粒子を少量、焼土粒子、炭化物粒子を微量含む。しまりやや弱い。粘性あり。 |
| 7 | 褐色土 | 10YR4/4 | Ⅳ>>Ⅲ しまりやや弱い。粘性あり。 |
| 8 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | Ⅲ>Ⅳ ローム粒子を少量、焼土粒子炭化物粒を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |



図V-15 H-5出土の遺物(2)

1 遺構

- 9 黒褐色土 7.5YR3/2 IV>III>V しまりややあり。粘性ややあり。
- HF 1 赤褐色土。
- HP 1 1 暗褐色土 10YR3/3 V>>III>V しまりあり。粘性あり。
2 黄褐色土 10YR5/6 IV>>III しまりあり。粘性あり。
- HP 2 1 暗褐色土 10YR3/3 IV>III>V しまりややあり。粘性ややあり。炭化物粒子を少量含む。
2 黄褐色土 10YR5/6 IV>>III しまりあり。粘性あり。
- HP 3 1 黒褐色土 10YR2/2 III>>IV ローム粒子、焼土粒を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2 褐色土 7.5YR4/4 V>>III=IV しまりあり。粘性あり。
- HP 4 1 暗褐色土 10YR3/3 IV>>III ローム粒子、炭化物粒子を含む。しまりややあり。粘性やや弱い
- HP 5 1 暗褐色土 10YR3/4 III>>IV ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性やや弱い。
2 褐色土 10YR4/6 III>>IV V層崩落土。
- HP 6 1 黒褐色土 10YR2/3 III>IV>V 炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類、Ⅲ群A-3類、Ⅳ群A-1類土器、石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、剥片、礫が出土している。床面からⅢ群A-2類、Ⅲ群A-3類土器、石鏃、スクレイパー、石器未製品、Rフレイク、Uフレイク、剥片、石斧、石鋸、礫が出土している。また、図示していないが床面からフレイク・チップ集中2ヵ所が検出されている。

時期：床面出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：土器 1・6は覆土出土で、1はH-11・18覆土出土のものと接合している。他は床面出土である。5・6がⅢ群A-2類で、他はⅢ群A-3類である。

1は4単位の小突起をもつ口縁で胴部に複節の斜行縄文を施文後、波頂部に縄による圧痕が加えられている。胴部には複節の斜縄文が施される。2～7は口縁部。2は、胴部上半に2本一組の沈線で口縁部文様帯の上下区画した後、波頂部から垂下する沈線が加えられている。3・4・7は同一個体。口唇部断面形が切り出し状で、口唇部にも縄文が加えられている。5・6はLRの斜行縄文が施され、内面は丁寧に磨かれている。8は底部で、やや張り出し、RLの斜行縄文が施されている。(広田)

石器 10・11・13・18～21・23は床面から、12はFC2から、15はHP4から、22はHF1から出土したもの、他は覆土から出土したものである。9～14は石鏃。9～11は2a類、12・13は2b類、14は未成品である。10はメノウ製、11は黒曜石製、12～14は流紋岩製である。15はドリル1類。16はつまみ付きナイフ1c類。下端は尖頭状に整形される。17～20はスクレイパー1a類。20の刃部は部分的に鋸歯状である。21は緑色泥岩製の石斧片。刃部および腹面を欠く。腹背両面の下端付近には破損後に若干磨りが、基部付近には磨りの後に敲打が加えられる。22はすり石5類：半円状扁平打製石器。23は凝灰岩製の砥石で、両面に使用痕が見られる。

床面から検出されたFC1・2は、いずれも大部分が0.5cm以下程度の剥片碎片である。FC1から出土した剥片は計162点で、そのうち大部分の150点は黒曜石、他は流紋岩である。一方FC2は、掲載した1点の石鏃を除く875点の剥片のうち、742点が石鏃と同じく流紋岩で、他は黒曜石である。

なお、黒曜石製の11および、床面から出土した石鏃2点・剥片2点、FC1から出土した剥片碎片

4点、覆土から出土した剥片1点について原材産地同定を依頼したところ、FC1の剥片碎片が微小なために不明なほかは、いずれも豊浦町豊泉産と判定された（第七章2節）。（柳瀬）

H-6（図V-16、図版17-1・2、113-2）

位置・立地：Q・R-50・51 海岸段丘の緩斜面に位置する。

規模：2.63m/2.31m×2.27m/2.02m×0.31m

平面形：台形。

確認・調査：平成11年度の25%調査の際に黒色土の落ち込みを確認した。平成12年度に全体を調査した。

東側の広い台形状に竪穴が掘り込まれている。柱穴と考えられる小ピットは床面に2カ所、外側に1カ所検出した。覆土の上部にⅢ層が認められるが掘り込み面の確認はできなかった。

土層：1 黒色土、2 黒褐色土、3 褐色土、4 暗黄褐色土。

HP 1 1 暗褐色土、2 暗茶褐色土、3 明褐色土。

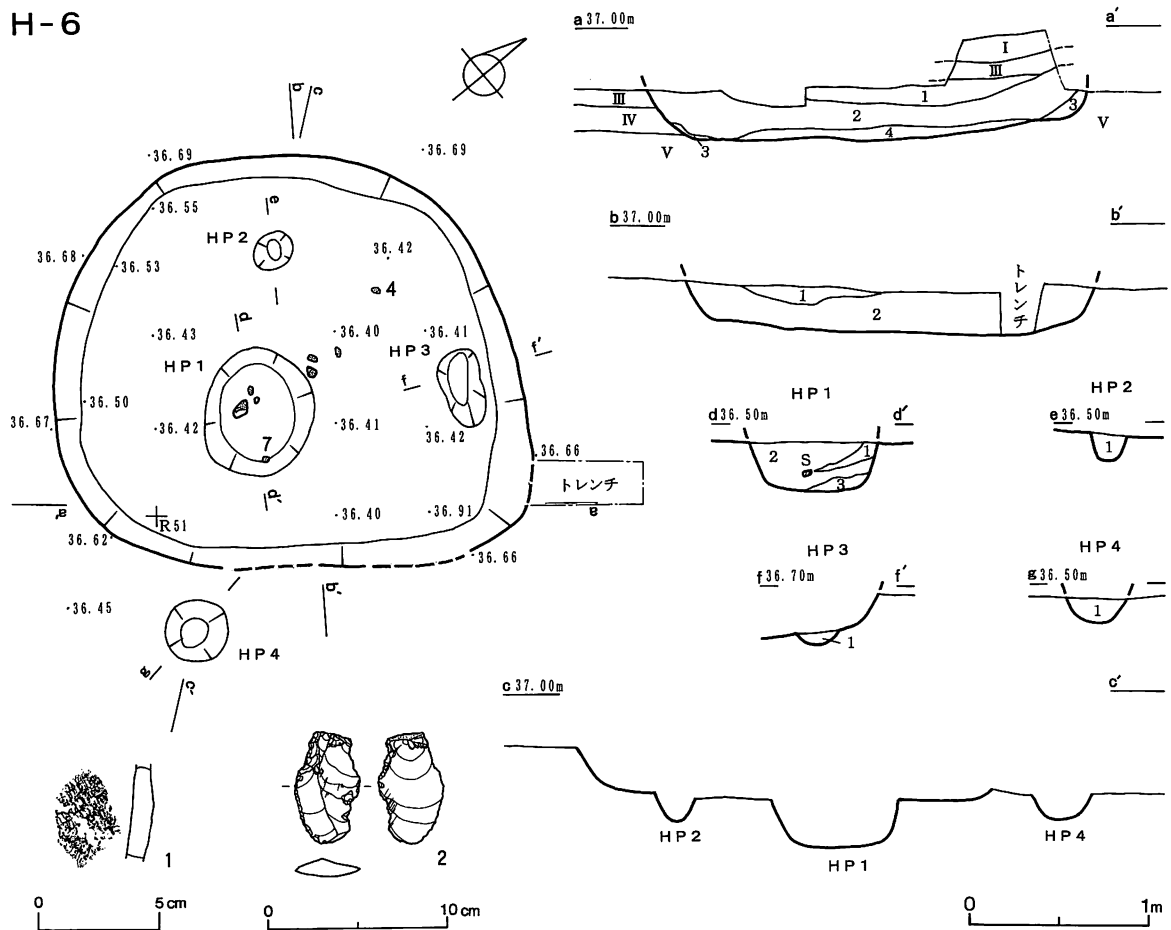
HP 2 1 明褐色土。

HP 3 1 明褐色土。

HP 4 1 黒褐色土。

床面・壁面：床は若干丸みがあり、壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。

特徴：床面の中央部やや南よりにHP 1がある。長軸0.74m、短軸0.61m、深さ0.28mの楕円形を呈



図V-16 H-6

1 遺構

する。覆土は埋め戻されている。柱穴と思われる小ピットは床面西側に径0.24m、深さ0.16mのものと長軸0.74m、短軸0.61m、深さ0.28mの楕円形を呈するものを検出した。他に竪穴の掘り込みの南東側外に径0.37m、深さ0.15mの柱穴状小ピットを検出した。床面で採取した炭化物について、¹⁴C年代測定を依頼したところ、補正值で4290±40の値が得られた（第VII章1節）。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類土器が2点、覆土上から礫1点、覆土中からつまみ付きナイフ1点、剥片1点、礫1点、HP1の覆土から礫2点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半と考えられる。 (谷島)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅢ群A-2類である。胴部で、結束の羽状縄文が施されている。

(広田)

石器 2はつまみ付きナイフ1d類。珪質頁岩製である。

なお、覆土から出土した剥片1点について原産地同定を依頼したところ、赤井川産と判定された（第VII章2節）。 (柳瀬)

H-11 (図V-18~21、図版22-2・23-1~4、115-1・116-1・117-1)

位置・立地：I・J-49・50、調査区北西部の緩斜面上に位置する。標高は39.0~39.3mであり、今回検出された住居跡の中ではH-1に次いで高い標高にある。南東部に隣接してH-19、P-99があり、南西側にはP-12・16、北東部にはP-56・59がある。

規模：4.24m/4.10m×3.43m/2.98m×0.62m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中に焼土及び炭化物を含んだ黒色土の落ち込みを検出したため、トレンチ調査を行った。その結果2軒の竪穴住居跡が重複していて、本遺構がH-26を切って作られている事が判明した。なお、平成11年度の25%調査でI-50グリッドの調査を行った際、H-11の北側を一部分割った。覆土を掘り下げていくと、下部の床面直上で多量の焼土と共に炭化材が検出された。炭化材は南北方向を向いた状態で検出され、それに直交するものも少量みられた。炭化材直上の焼土は竪穴住居の葺土である可能性が高い。炭化材は住居跡の北側の残りが良く、南側ではほとんど検出できなかった。炭化材は出土状況図を作成後、樹種同定のためのサンプリングを行った。また、焼失住居であるため、床面で炭化植物遺体の採取を目的としたサンプリングを行った。掘り込みは比較的深く、V層中に床面が構築される。床面は東側部分がやや窪むが、他はほぼ平坦である。壁は全体的に急角度に立ち上がる。壁際で直立した状態で炭化材を検出したが、下部で明瞭な柱穴は確認できなかった。なお、炭化材について¹⁴C年代測定を行ったところ、補正值で4070±40の値が得られた（第VII章1節）。

特徴：埋設土器炉1カ所が床面中央よりやや東側で検出された。口縁部を欠いた土器1個体を、割れ口が床面とほぼ同じ高さになるようにして埋設している。埋設土器炉周辺は周辺に比べてやや高まっている。土器内の覆土には中部に焼土と炭化物を含んだ層がある。焼土は埋設土器炉の北西部で検出された。形状はやや細長いアメーバー状で、よく焼け締まっている。形状から、この焼土は炉ではなく住居跡が焼け落ちた時に形成された焼土の可能性もある。柱穴は10カ所検出された。HP9・10を除き掘り込みは全体的に浅く、全てのピットが柱穴かどうかは不明である。

土層：1 黒色土 10YR2/1 Ⅲ層土主体。焼土粒、炭化物粒を少量含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。

2 黒色土 7.5YR2/1 Ⅲ層土主体。ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

- 3 黒褐色土 7.5YR2/2 III>IV ローム粒子、焼土粒子を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 黒色土 7.5YR2/1 III>IV>V 焼土粒子、炭化物粒子を含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。
- HF 1 1 暗赤褐色土 2.5YR3/6
- HP 1 1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。
- 2 暗褐色土 10YR3/4 III>IV ロームブロック少量含む。しまりあり。粘性あり。
- HP 2 1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV ローム粒子を含む。炭化物を多量に含む。しまり弱い。粘性あり。
- HP 3 1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV ローム粒子を少量含む。炭化物粒子、焼土粒子を量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- HP 4 1 黒褐色土 7.5YR2/2 III>IV>V 炭化物粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。
- HP 5 1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV=V 炭化物粒子、焼土粒子を微量に含む。しまりややあり。粘性あり。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 V>IV しまりやや弱い。粘性あり。
- HP 6 1 暗褐色土 10YR3/4 III>IV>V 炭化物粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- HP 7 1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV=V 焼土粒、炭化物粒子を少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。
- 2 褐色土 10YR4/6 V層土。
- HP 8 1 黒褐色土 10YR2/3 III>IV>V しまりあり。粘性やや弱い。
- HP 9 1 黒褐色土 10YR2/3 III>IV>V しまりあり。粘性ややあり。
- HP 10 1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV>V しまり弱い。粘性やや弱い。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-1類、Ⅲ群A-2類、Ⅲ群A-3類、Ⅲ群B-2類、Ⅳ群A-1類、石鏃、石槍、ドリル、スクレイパー、両面加工石器、剥片、石核、石斧、すり石、砥石等が出土している。床面から、Ⅲ群A-3類、ドリル、スクレイパー、剥片、たたき石、すり石、石皿・台石、礫剥片、礫、円板状土製品が出土している。

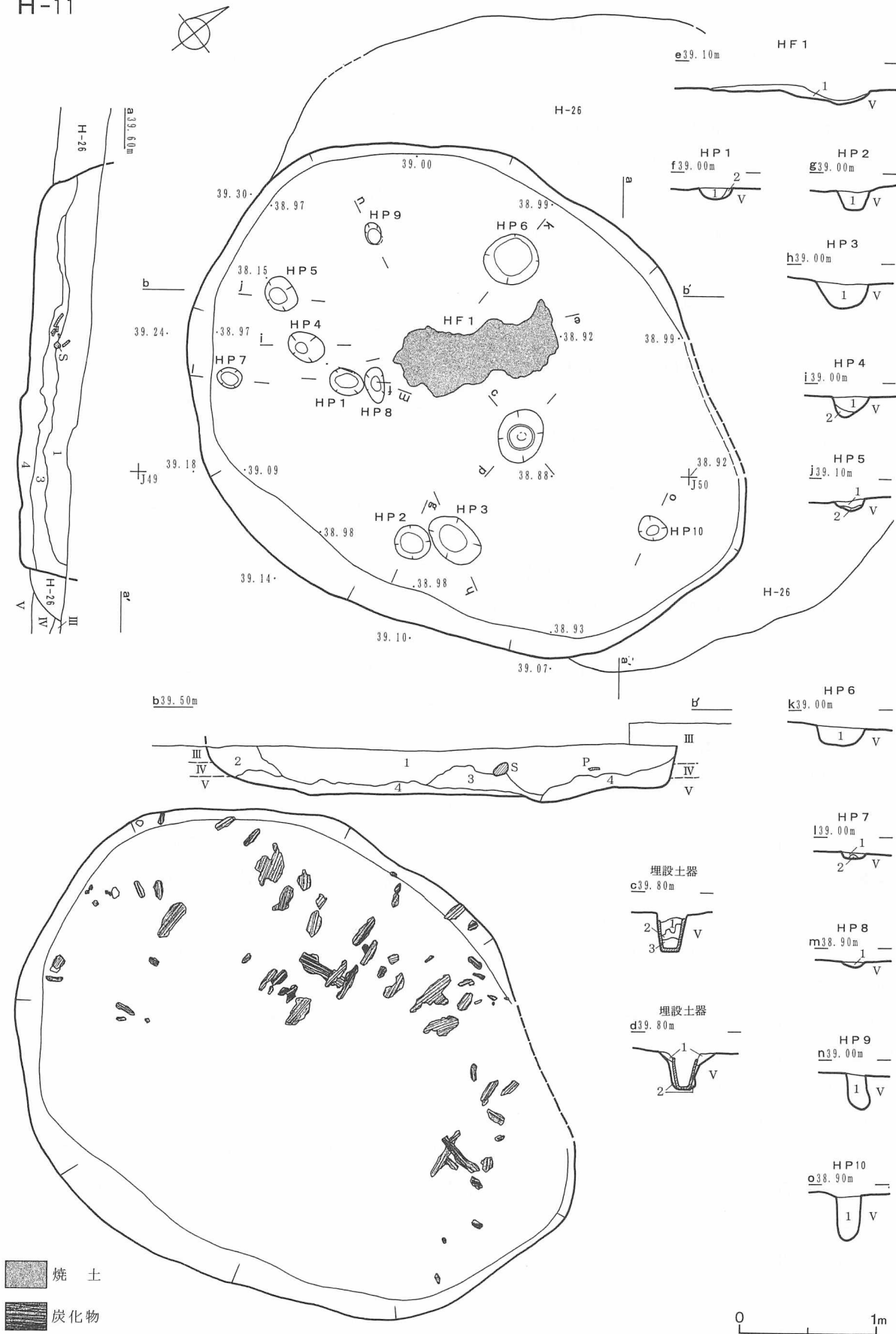
時期：床面出土の土器から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：土器 2・4・6・18・19・21は床面出土、3は埋設土器で、他は覆土出土のもの。分類は全てⅢ群A-3類である。

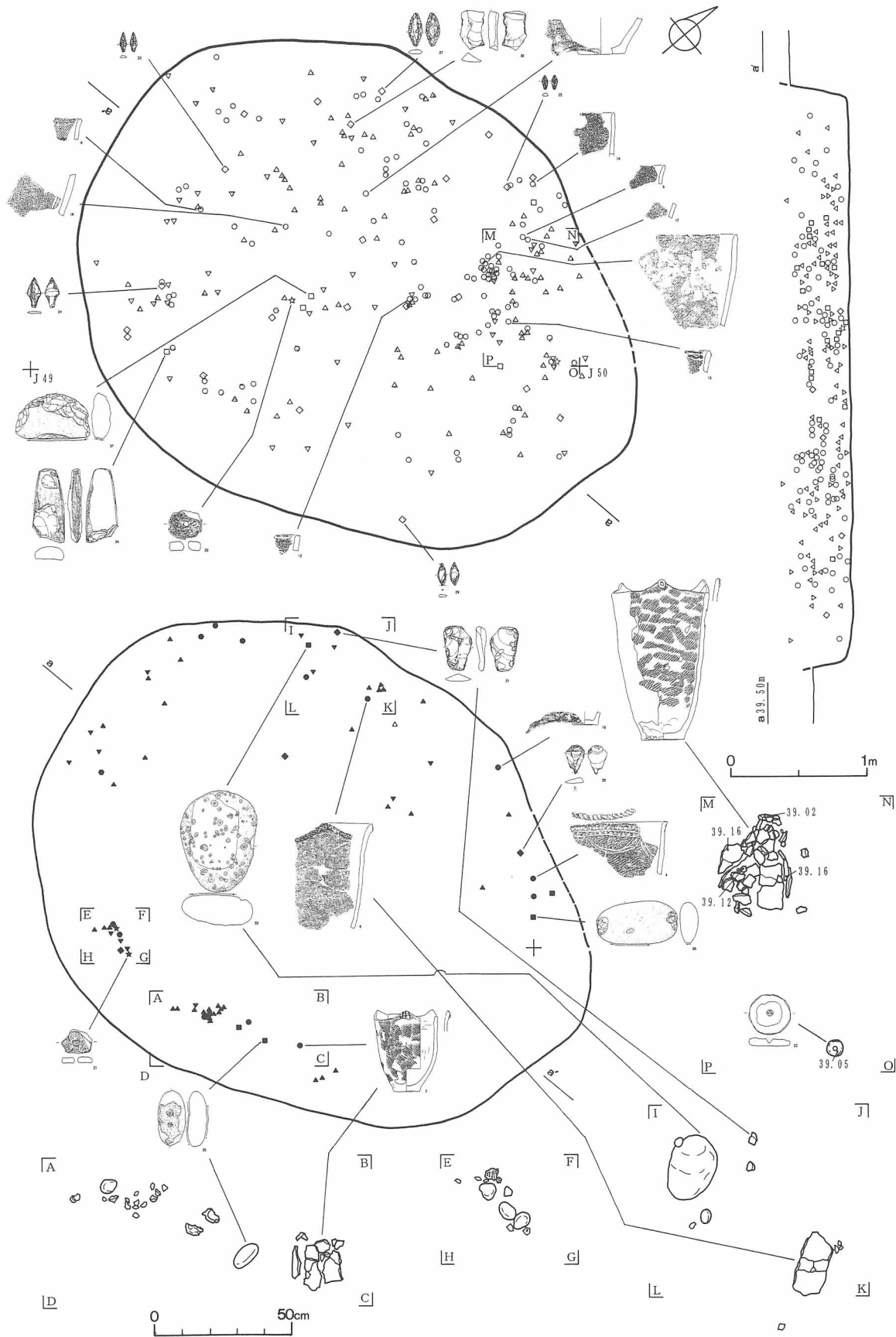
1は全体の約3/4が残存する。胴下半部でやや屈曲し、底部がややすばまる筒状の器形である。3つの山形突起を有し、器面全体にLRの斜縄文が施されている。突起部にはドーナツ状の貼り付けが加えられている。胎土にはやや砂粒を含む。2は全体の約3/4が残存する。口縁部は約1/2程度しか残っていないが、3つの山形突起をもつものと考えられる。突起部には、棒状の粘土紐が横位に施され、さらに縄の圧痕が縦位に加えられている。3は口縁部を欠き、底部が緩やかにすばまる筒形である。器面にはLRの斜行縄文が施されている。4~15は口縁部。4の口縁部はわずかに外反し、口唇部に篋状工具による刻みが加えられている。口縁部直下には竹管状工具による斜めからの刺突と沈線が2

1 遺構

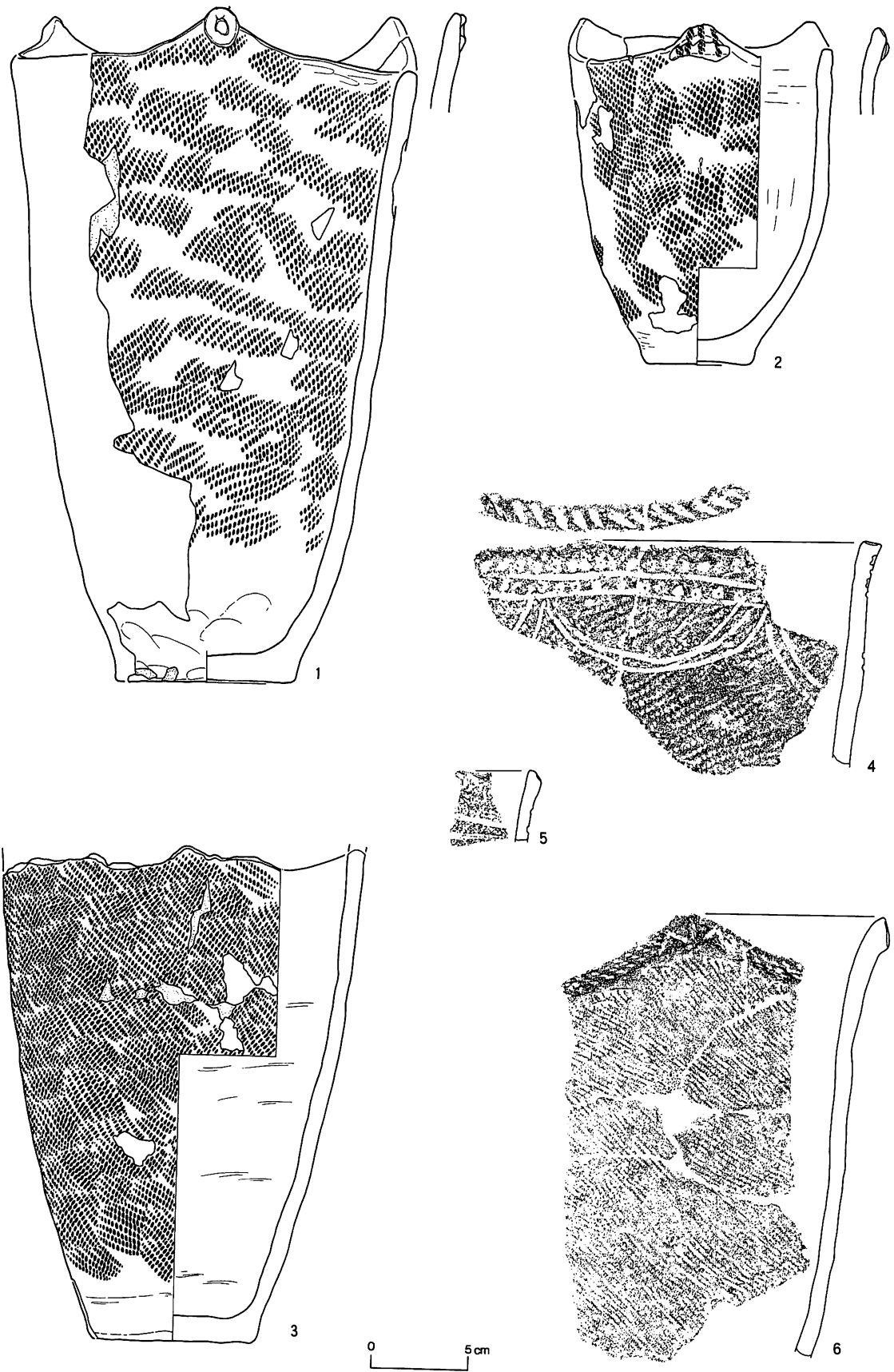
H-11



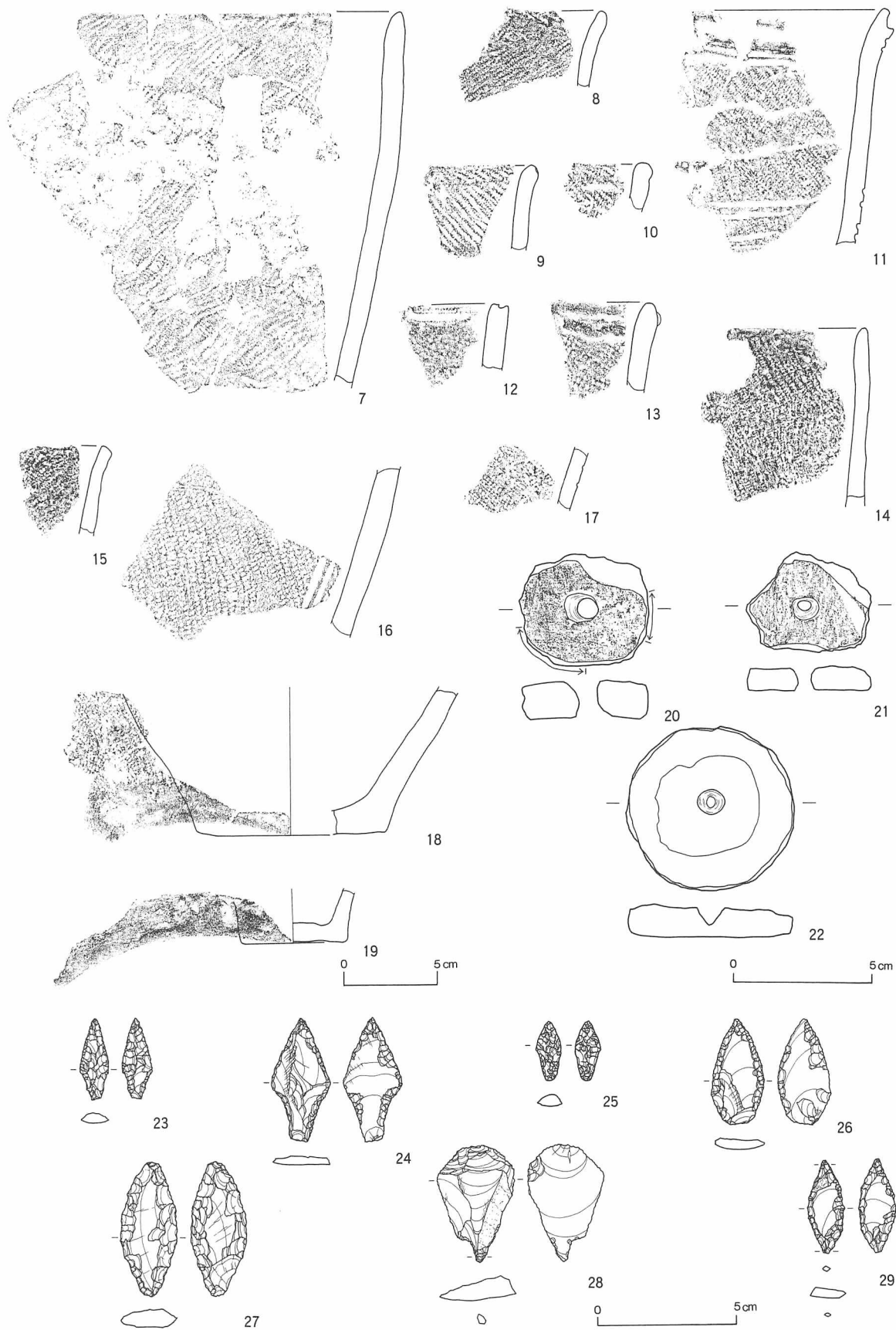
図V-17 H-11



図V-18 H-11遺物出土状況

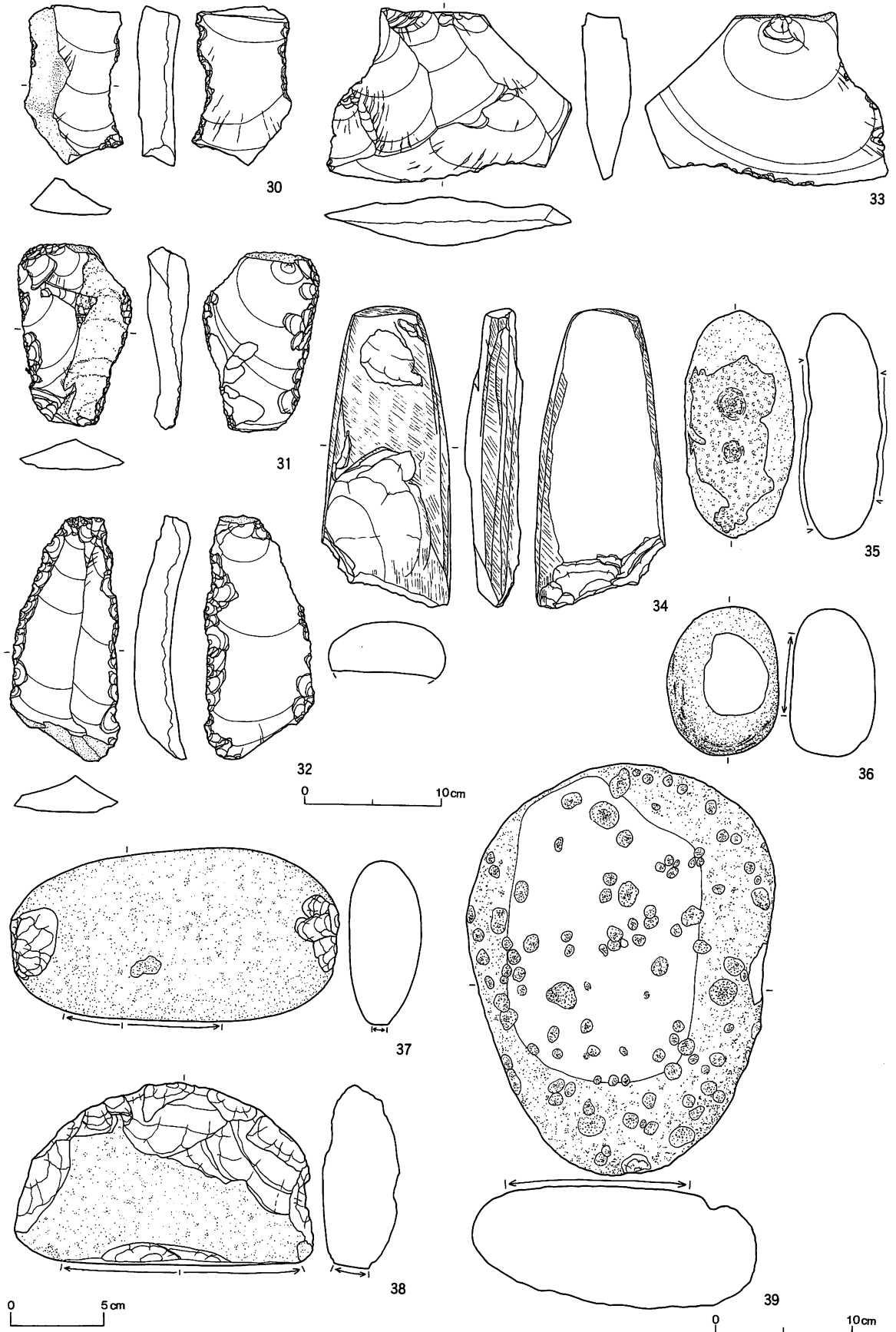


図V-19 H-11出土の遺物(1)



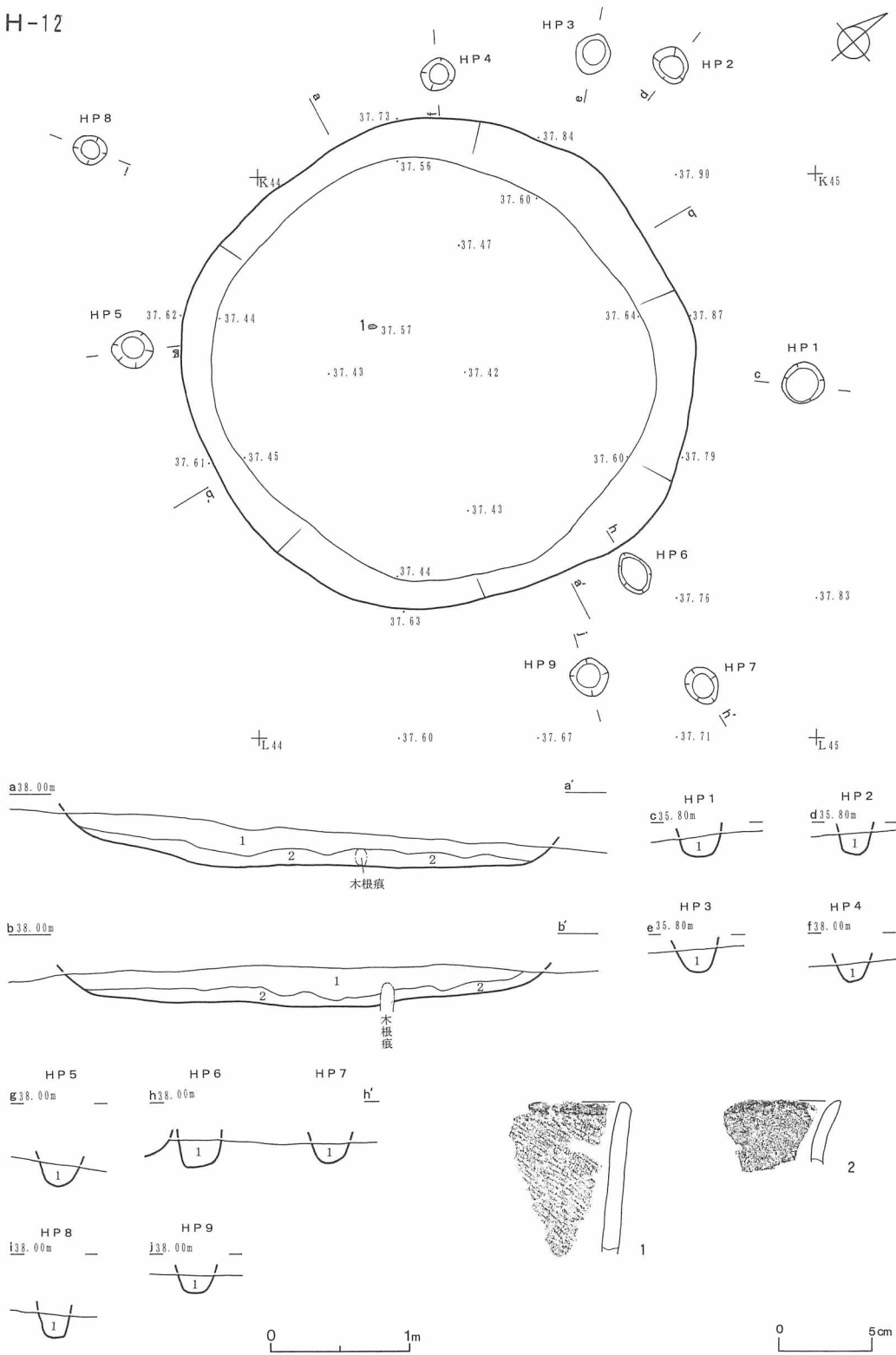
図V-20 H-11出土の遺物(2)

1 遺構



図V-21 H-11出土の遺物(3)

H-12



☒ V-22 H-12

1 遺構

段ずつ交互に施され、下位には2本一組の弧状の沈線文が描かれる。5は外傾する口唇部に縄の圧痕が加えられ、口縁部には沈線が施される。6は波状口縁である。口唇部断面形は切り出し状で、口唇部には縄の圧痕が施され、突起部には縦位と山形の縄の圧痕文が重ねて加えられている。7は器面全体にLR斜行縄文が浅く施される。8～10は丸みをもつ口唇部に縄の圧痕が施されている。9・10は口唇部がやや肥厚する。11・12は口唇部に沈線が施されるもの。11の口唇部の沈線は半截竹管状工具により施されている。口唇直下と胴部には2本一組の沈線文が横位に施されている。13は口縁部に粘土紐の貼付が施される。貼付上は無文である。14・15は縄文のみがほどこされるもの。15の口唇部はやや外傾する。16・17は胴部。16の地文は縦走気味の複節の斜行縄文で、垂下する沈線が加えられている。17は縦位に波状の沈線が施されている。18・19は底部。18は底部から胴部にかけてやや大きく外側に広がり、縦走気味のRLの斜行縄文が施されている。19の器面調整は丁寧である。

土製品 20～22は円板状土製品。21は床面出土で、20・22は覆土出土。全てⅢ群A-3類土器の破片を使用している、20は部分的に擦って形を整えている。21は不整形である。22は底部を再利用していて、孔が貫通していない。

(広田)

石器 28・31・35・37・39床面から出土したもの、他は覆土から出土したものである。28を除き、いずれも被熱による変色やはじけがみられる。23～26は石鏃。23・24は2a類、25は2b類。26は未成品と思われる。23は流紋岩製、25は黒曜石製。27は石槍1b類とした。玄武岩製である。28・29はドリル。28は1類、29は3類である。30～33はスクレイパー。30～32は1a類、33は2b類である。32は流紋岩製。34は片岩製の石斧片。2類と思われる。腹面の刃部は破損後に若干再加工されているようである。35はたたき石3類。基盤層に含まれる安山岩を素材としている。36～38はすり石。36は3類で泥岩製、37は4類、38は5類である。39は石皿。

なお、覆土および覆土1層から出土した黒曜石製の石鏃・石器未成品・Rフレイク・剥片計8点について、原材産地同定を依頼したところ、7点が赤井川産、1点が豊浦町豊泉産と判定された(第七章2節)。

(柳瀬)

H-12 (図V-22、図版24-1・2、117-2)

位置・立地：J・K-45 段丘緩斜面に立地する。

規模：3.74m/3.19m×3.53m/2.93m×0.38m

平面形：円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中に落ち込みを検出した。円形を呈しV層に掘り込まれている。竪穴の周囲には9ヵ所の柱穴と思われる小ピットを検出した。

土層：1 暗褐色土、2 暗黄褐色土、3 褐色土

HP 1 1 褐色土、 HP 2 1 褐色土、 HP 3 1 暗褐色土、

HP 4 1 暗褐色土、 HP 5 1 暗褐色土、 HP 6 1 暗褐色土、

HP 7 1 暗褐色土、 HP 8 1 褐色土、 HP 9 1 暗褐色土。

床面・壁面：床面はやや凹凸がありほぼ水平であるが、西側がやや高く斜めになっている。壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。

特徴：周囲で検出した柱穴は、径0.22～0.32m、深さ0.14～0.22mで8ヵ所は円形、1ヵ所は楕円形である。掘り込みは上方が広がるが、ほぼ垂直である。南側には柱穴を検出していない。

遺物出土状況：覆土上からⅣ群A-1類土器が8点、すり石1点、礫3点、覆土中から剥片1点、HP 6から剥片2点が出土した。

時期：出土した遺物から縄文時代後期前葉に構築されたものと考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器 1・2は覆土出土の口縁部。1はⅢ群A-3類、2はⅣ群A-1類土器である。1は器面にRLの斜行縄文が施される。2は無文で、口縁部はやや外反する。(広田)

H-13 (図V-23、図版25-1・2、26-1、117-3)

位置・立地：M・N-42・43 B地区とC地区に挟まれた小さな沢に面した緩斜面に立地する。

規模：5.72m/5.43m×3.68m/3.53m×0.6m

平面形：楕円形。

確認・調査：北西側半分は平成11年度の25%調査範囲に、南東側は平成12年度調査範囲に跨いで確認した。調査は平成12年度に行っている。耕作で上部が攪乱され掘り込み面は確認できなかった。

北西から南東が長軸方向で、床は北東側が高く傾斜し、V層まで掘り込まれている。

南西側に土器で囲われた焼土が2ヵ所隣接して検出した。北側の壁際からフレイク・チップ集中を検出した。

土層：1 黒褐色粘質土、2 黄褐色ローム質土（風倒木痕）、3 黄黒色土（風倒木痕）、
4 暗黄褐色粘質土、5 暗黄褐色粘質土（ローム+黒褐色土）、
6 暗黄褐色粘質土（ロームに少量の暗褐色土が混じる）。

HFD 1 1 暗茶褐色土（焼土粒を含む）、2 明褐色土（ロームに少量の褐色土が混じる）。

HFD 2 1 暗茶褐色土（焼土粒を含む）。

HP 1 7 黒褐色土（ローム粒を含む）、HP 2 1 褐色土、

HP 3 1 褐色土、HP 4 1 褐色土、

HP 5 1 褐色土、HP 6 1 暗茶褐色土（焼土粒を含む）、

HP 7 1 暗茶褐色土（焼土粒を含む）、HP 8 1 褐色土。

床面・壁面：床面は北東側が高く傾斜しているがほぼ平坦である。壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。

特徴：南西側の壁から0.5mに土器で囲われた焼土（HFD 1・2）が2ヵ所隣接して検出した。その北東側、竪穴の中央部に長軸0.55m、短軸0.44m、深さ0.22mの楕円形を呈するHP 1が掘り込まれているが、埋めて使われていたものと考えられる。床から柱穴と思われる小ピットが6ヵ所、壁から1ヵ所検出した。南西側のHP 6・7は上記、焼土に近く覆土から焼土粒が出土した。

遺物出土状況：覆土上からⅢ群A-3類土器が19点、Ⅳ群A-1類土器が16点、ドリル1点、石核1点、剥片7点、礫4点、覆土中からⅢ群A-3類土器が44点、石鏃1点、ドリル1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、Rフレイク2点、剥片31点、すり石1点、礫剥片1点、礫5点、床直上からⅢ群A-3類土器が5点、石鏃9点、ドリル2点、スクレイパー1点、剥片44点、礫2点、床面から剥片2点、礫1点、HFD 1および2からⅢ群A-3類土器38点が出土した。

南西側の隣接した2ヵ所の焼土（HFD 1・2）はⅢ群A-3類土器38点で囲われていた。HFD 1は底にも1枚の大きな胴部破片が敷きこまれていた。北側の壁際で検出したフレイク・チップ集中は石鏃などの製品が含まれている。

時期：出土した遺物から縄文時代中期前半に構築されたものと考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器 全て覆土出土である。分類は3がⅣ群A-1類で、他はⅢ群A-3類土器である。

1～4は口縁部。1は口唇部が切り出し状で、縄の圧痕が施される。口縁部には沈線が加えられている。2は口唇にも縄文が施されている。3・4は無文である。5～9は胴部である。5～7は斜行

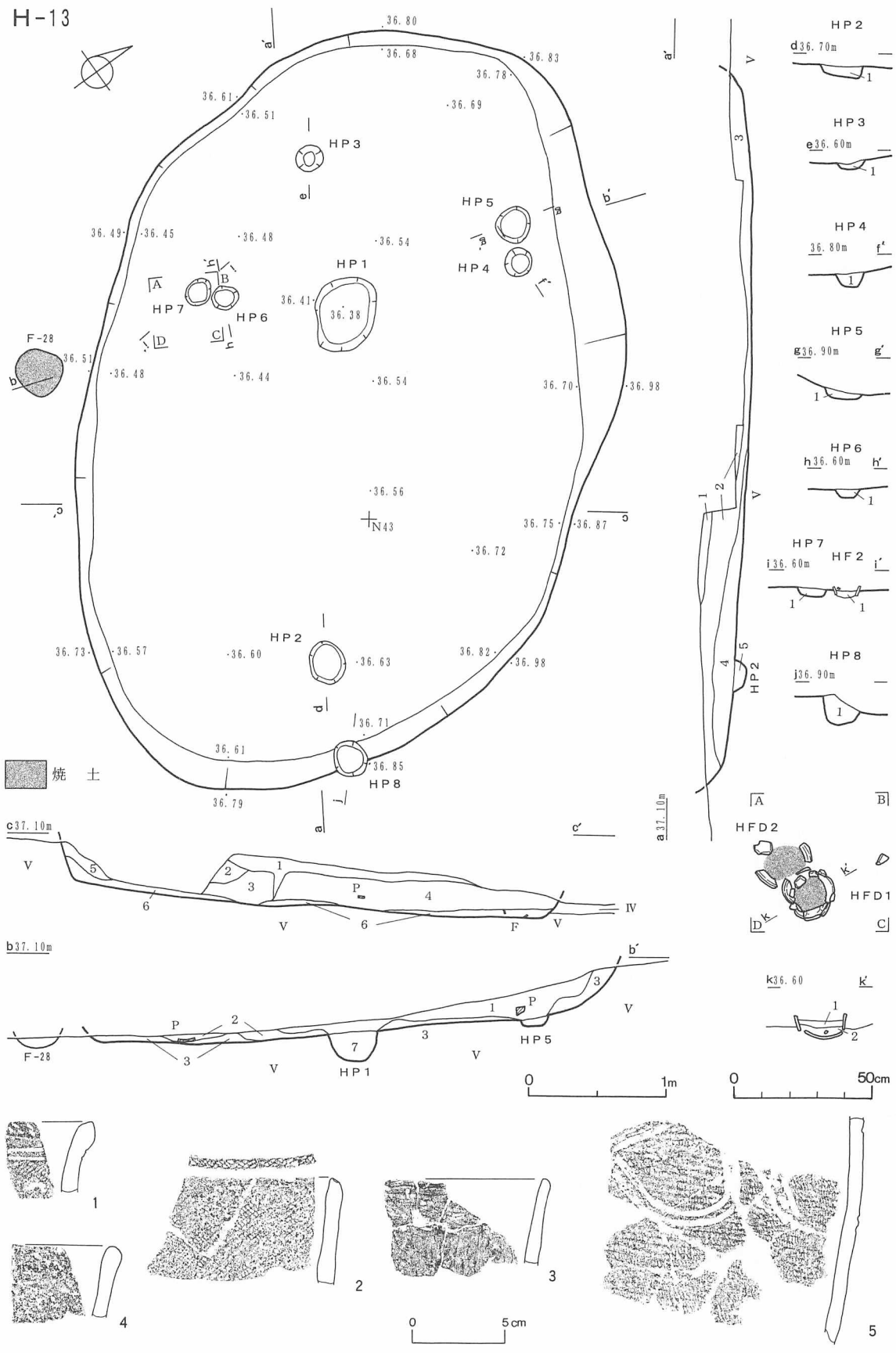
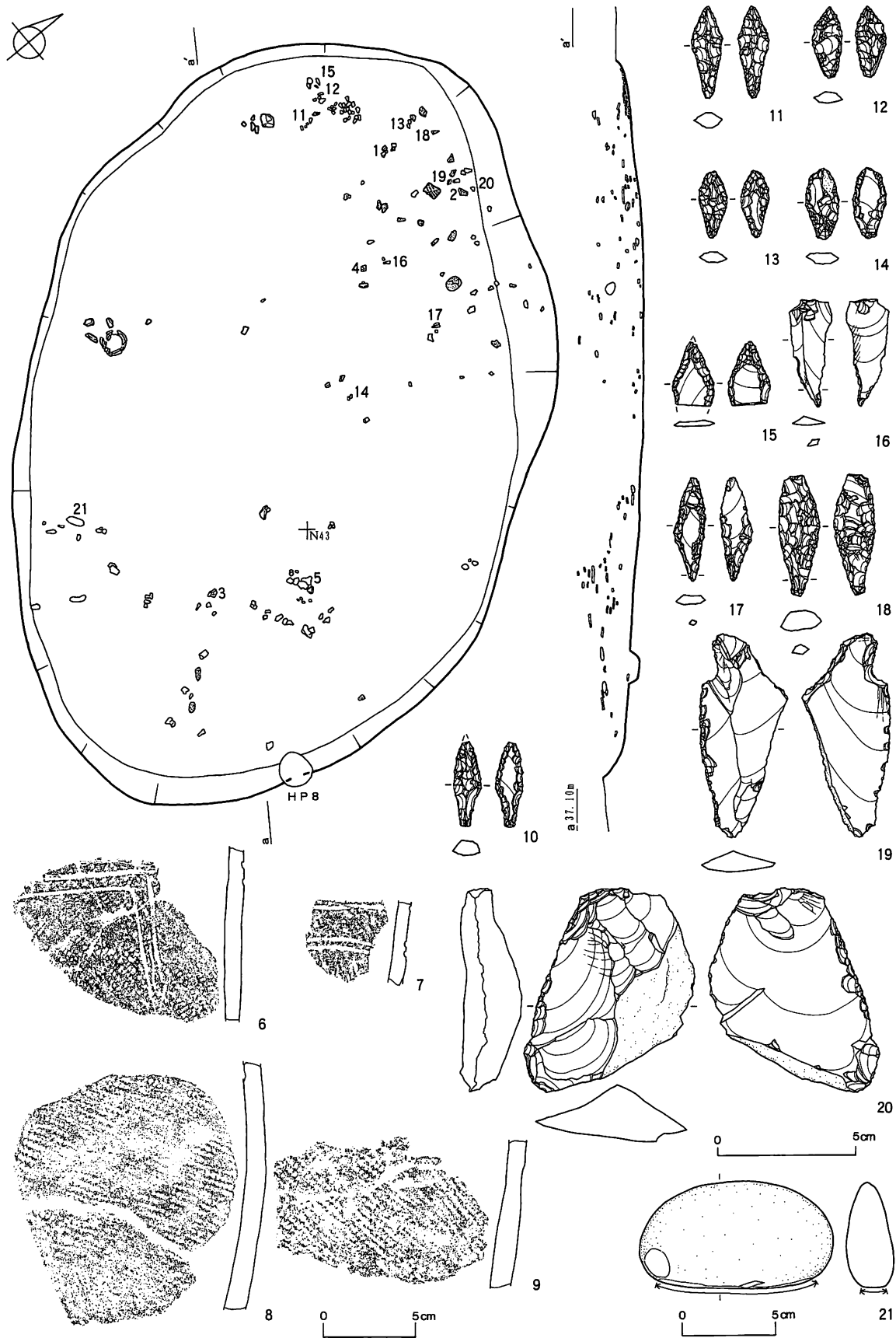


図 V-23 H-13



図V-24 H-13遺物出土状況

1 遺構

縄文を地文とし、2本一組の沈線文が加えられている。8・9は同一個体。胎土は砂粒を含み、全体的に磨耗している。

(広田)

石器 剥片石器は流紋岩製のものが多い。10～17・86は床面直上から出土したもの。10～15は石鏃。10は2 a類、11～13は2 b類、14・15は未成品である。16～18はドリル。16は1類、17・18は3類である。19はつまみ付きナイフ1 d類。つまみ部の加工が不明瞭で、スクレイパーの可能性もある。20はスクレイパー1 a類。剥片石器のうち、16・19以外は流紋岩製である。21はすり石2類。

なお、床面直上から出土した黒曜石製の剥片について、原材産地同定を依頼したところ、豊浦町豊泉産と判定された(第七章2節)。

(柳瀬)

H-14 (図V-25、図版27-1・2、28-1、118-1)

位置・立地：K・L-44・45 段丘緩斜面に立地する。

規模：2.84m/2.26m×2.53m/2.14m×0.3m

平面形：小形の円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中に落ち込みを検出した。小形の円形を呈しV層に掘り込まれている。P-21と重複しているため、新しいP-21を先行して調査した。

土層：1 黒褐色粘質土、2 黒褐色土(焼土粒混じり)、3 暗茶褐色粘質土、4 暗褐色土、5 暗黄褐色土暗褐色粘質土。

HP 1 1 暗褐色粘質土。

HP 2 1 暗褐色粘質土。

HP 3 1 暗褐色粘質土。

HP 4 1 暗褐色粘質土。

HP 5 1 暗褐色粘質土。

床面・壁面：床面はほぼ平坦であるが北東側が高く若干傾斜している。壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。壁面に、壁柱穴が穿たれている。

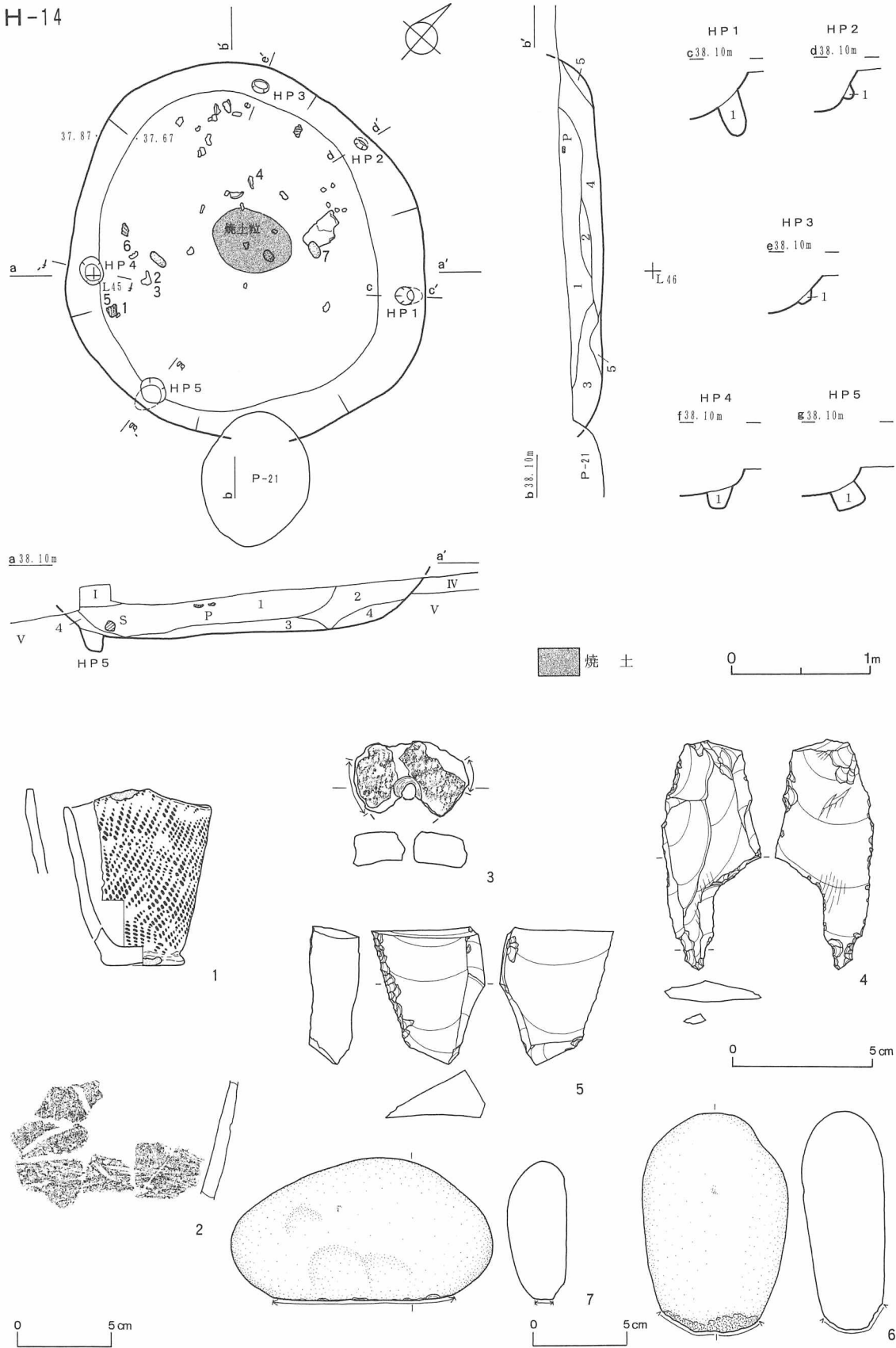
特徴：壁柱穴は5ヵ所検出し、HP 5を除き竪穴の中心に向け内傾している。HP 5は直立して柱が立てられたものと考えられ、出入り口施設の可能性がある。

覆土中の焼土粒としたものは、床面より高いことから住居に伴うものではなく、この面に焼土粒混じりの土が捨てられたものと考えられる。

遺物出土状況：セクションベルトを境に東西南北1/4区画ごとに一部の遺物を取り上げている。北側をH-14a、西側をH-14b、南側をH-14c、東側をH-14dとした。

H-14aの覆土からⅢ群A-3類土器が4点、Ⅳ群A-1類土器が1点、H-14cの覆土からⅢ群A-3類土器が6点、H-14dの覆土からⅣ群A-1類土器が5点、H-14aの覆土上からⅢ群A-3類土器が18点、Ⅳ群A-1類土器が6点、H-14dの覆土上からⅢ群A-3類土器が3点、Ⅳ群A-1類土器が6点、H-14cの覆土上からⅣ群A-1類土器16点が出土した。その他1/4区画で取り上げなかったものは、覆土から剥片3点、礫1点、覆土上からⅢ群A-3類土器が7点、Ⅳ群A-1類土器が2点、ドリル1点、スクレイパー2点、石核1点、剥片9点、すり石2点、礫剥片1点、礫6点、覆土中からⅢ群A-3類土器が2点、Ⅳ群A-1類土器が1点、たたき石1点、礫1点、覆土下からⅢ群A-3類土器が2点、Ⅳ群A-1類土器が7点、スクレイパー1点、Rフレイク7点、Uフレイク3点、剥片6点、たたき石1点、礫2点、床直上から礫3点、床面からドリル1点、剥片1点、礫剥片2点、礫1点が出土した。

H-14



図V-25 H-14

1 遺構

時期：出土した遺物から縄文時代後期前葉に構築されたものと考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器 全て覆土から出土している。分類は、1はⅢ群A-3類で、2がⅣ群A-1類土器。

1は全体の約1/2が残存する。残存部から推定すると、2個の波頂部をもつゆるい波状口縁と考えられる。器形は張り出す底部からやや開き気味に直線的に立ち上がる。底部はやや上げ底気味になる。地文の縄文は縦走気味である。2は無文地に、沈線による曲線文様が描き出される。(広田)

石器 4は床面から出土したもの、他は覆土から出土したものである。4はドリル。1類、流紋岩製。5はスクレイパー1 a類。6はたたき石1類、7はすり石2類である。(柳瀬)

土製品 3は覆土出土の円板状土製品。Ⅲ群A-3類土器の胴部破片を転用したもので、全体の約1/3を欠く。部分的に擦って整形している。(広田)

H-15 (図V-26~29、図版28-2・29-1、118-2、119-1、120-1)

位置・立地：0・P-43・44、調査区南西部、沢縁辺部に位置する。標高は36.4~36.8mで周囲には北側にP-46~48、西側にはP-31、南側にはP-25・29・30がある。

規模：2.67m/2.37m×2.64m/2.09m×0.43m

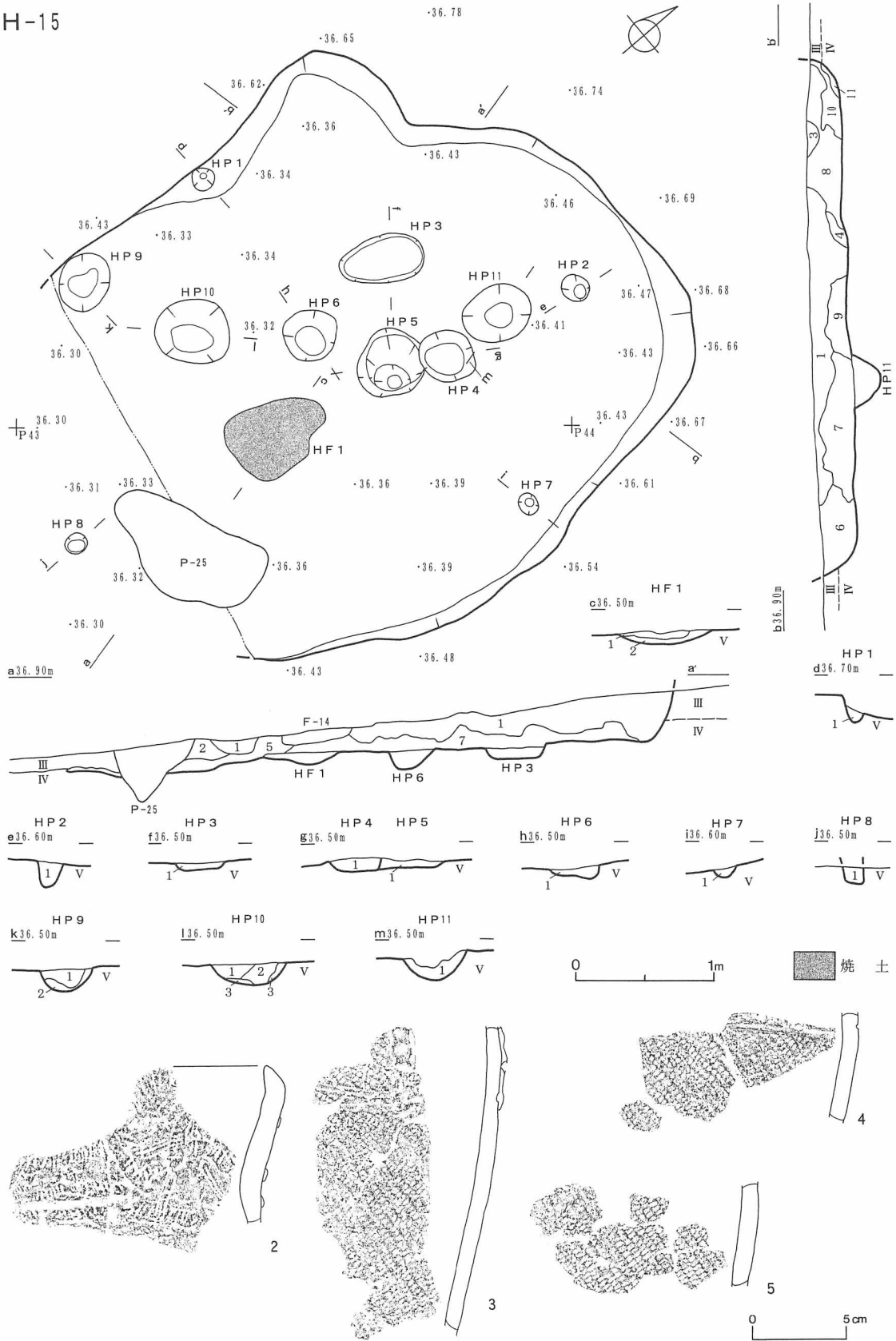
平面形：不整形円形？

確認・調査：Ⅲ層調査中に黒褐色土の長楕円形の落ち込みを検出した。ベルトを設定し、トレンチ調査を行った結果竪穴住居跡であることが判明した。南側部分は床面付近まで削平されており、壁は検出できなかった。P-25、F-14と重複関係にあり、どちらも覆土中で検出されているためH-15より新しいと考えられる。床面、壁は共に軟弱である。床面はほぼ平坦だが、全体的にわずかに南側に傾斜している。また床面南側部分は浅く窪んでいる。

特徴：炉が住居跡の長軸中央からやや南側で検出された。地床炉で全体的に良く焼け厚みがあり、周辺の残存状況が良好なことから、焼土直上及び周辺の土壌を採取し、炭化植物遺存体の同定を行った。また、炭化材について¹⁴C年代測定を行ったところ、補正值で4320±40の値が得られた(第七章1節)。ピットは11ヵ所検出された。全体的に掘り込みは浅く、整った配列も見られないため、全てが柱穴かどうかは不明である。

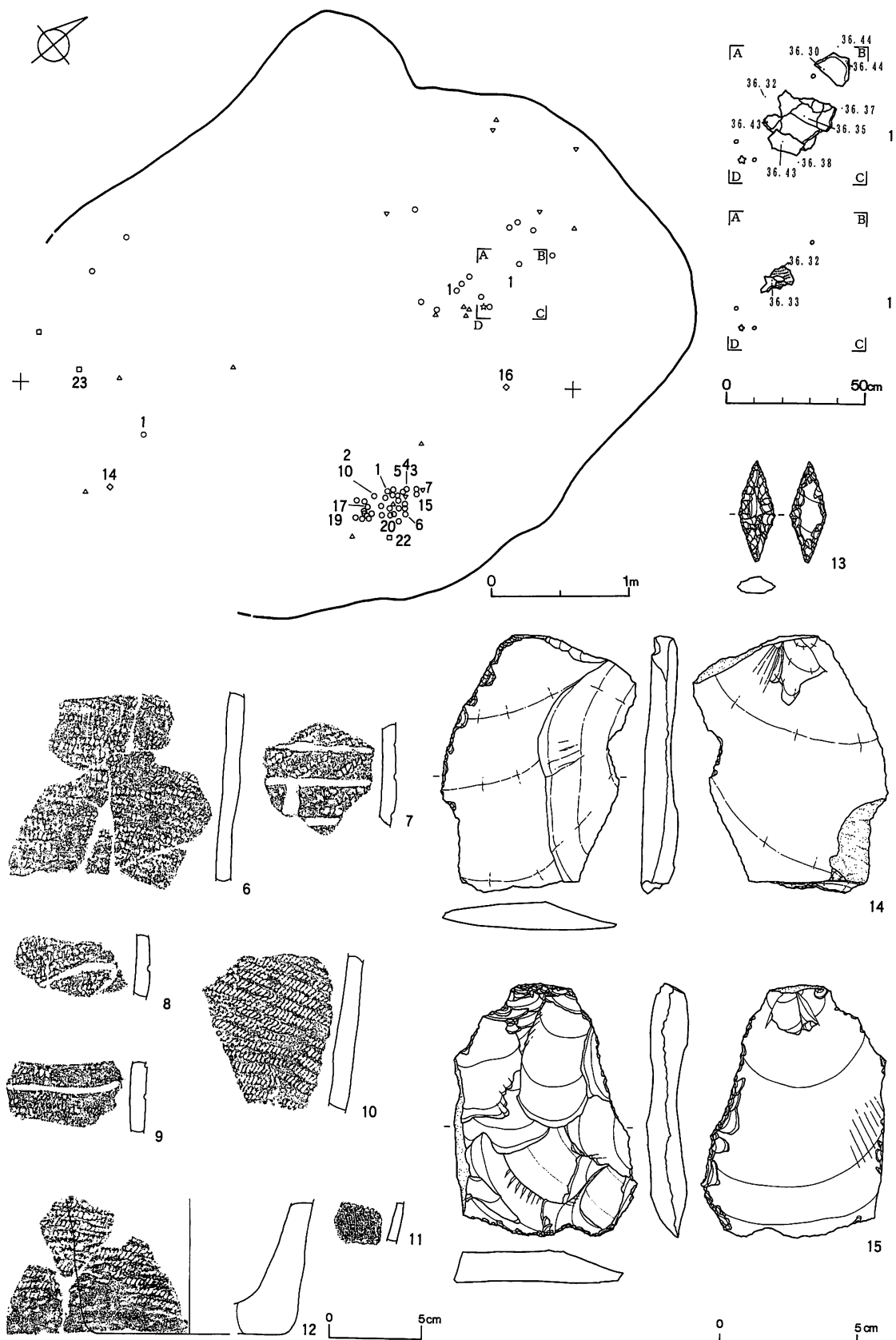
土層：1	黒褐色土	10YR2/2	Ⅲ>Ⅳ	焼土粒子を微量に含む。しまりあり。粘性ややあり。
2	暗褐色土	10YR3/3	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	しまりあり。粘性弱い。
3	黒褐色土	10YR2/2	Ⅲ>Ⅳ	ローム粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。しまりやや弱い。粘性あり。
4	暗褐色土	10YR3/2	Ⅲ>Ⅳ	下部に炭化物を多量に含む。焼土粒子を微量、ローム粒子を含む。しまりややあり。粘性ややあり。
5	黒褐色土	7.5YR3/2	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	焼土粒子を少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。
6	暗褐色土	10YR3/3	Ⅲ>Ⅳ	ローム粒子を含む。焼土粒子を少含む。しまりややあり。粘性あり。
7	暗褐色土	10YR3/3	Ⅲ>Ⅳ	ローム粒子を含む。焼土粒子を微量含む。しまりあり。粘性やや弱い。
8	黒褐色土	10YR2/2	Ⅲ>Ⅳ	ローム粒子を少量含む。しまりやや弱い。粘性あり。
9	にぶい黄褐色土	10YR4/3	Ⅲ>>Ⅳ>Ⅴ	焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
10	暗褐色土	10YR3/3	Ⅳ>>Ⅴ	ローム粒を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

H-15

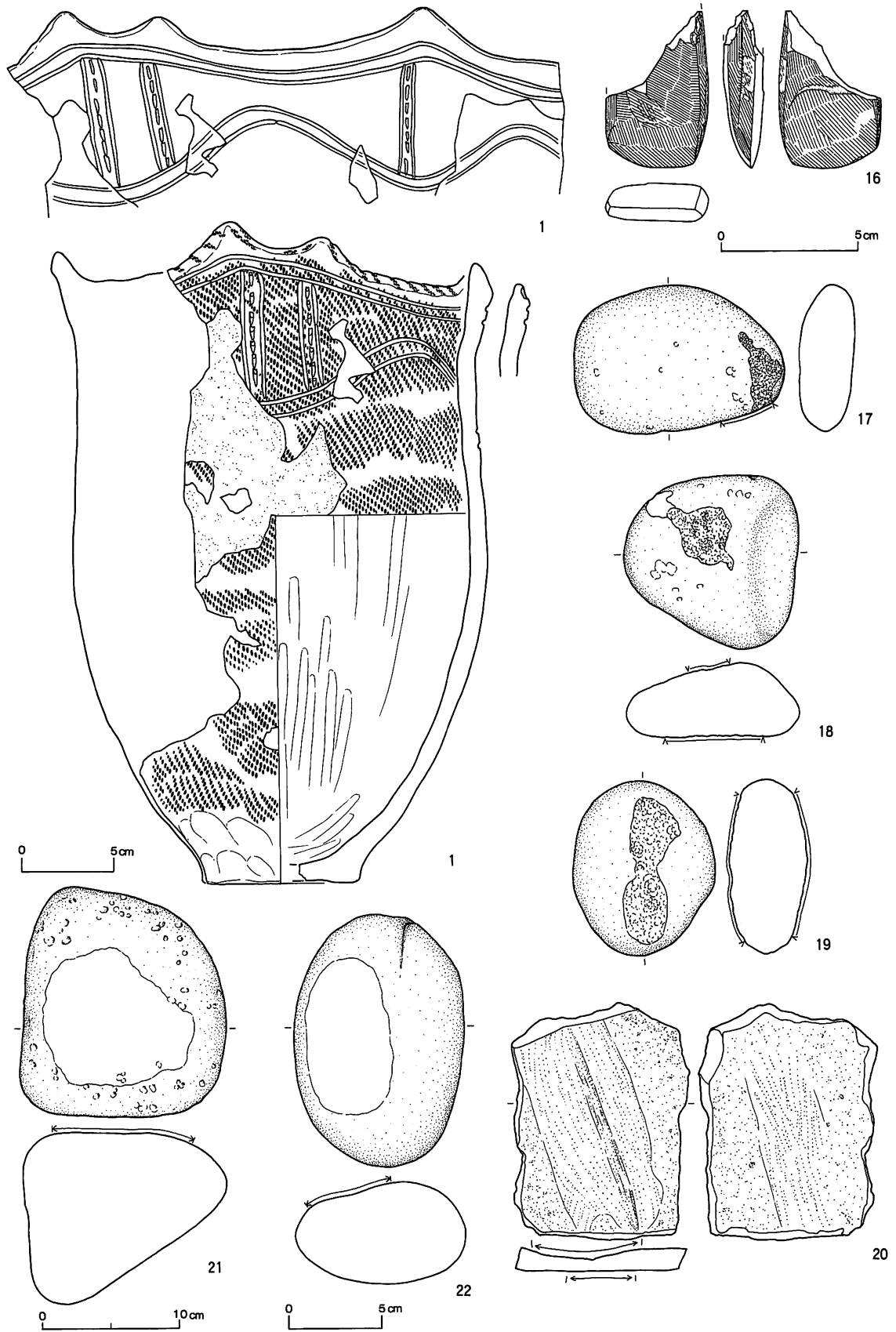


図V-26 H-15

1 遺構



图V-27 H-15遺物出土状况



図V-28 H-15出土の遺物(1)

1 遺構

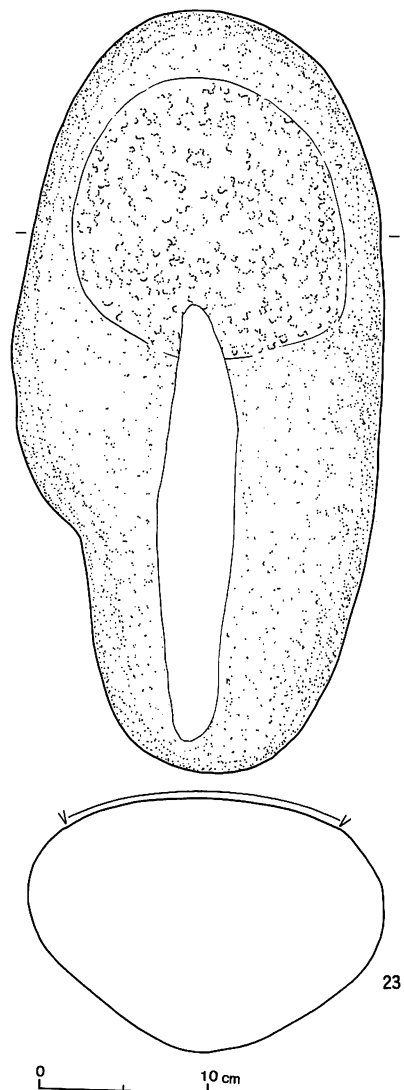
- | | | | | |
|-------|-----|-----------------------------|----------|--|
| 11 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | IV>>V | V層斑状に混じる。しまりあり。粘性あり。 |
| HF 1 | 1 | 赤褐色土 | 2.5YR4/6 | よく焼けしまっている。 |
| | 2 | 5YR5/6 | 明赤褐色 | |
| HP 1 | 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/2 | III>IV ロームブロックを含む。しまりあり。粘性あり。 |
| HP 2 | 1 | 褐色土 | 7.5YR4/4 | IV>>III 焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。 |
| HP 3 | 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | III>IV 炭化物粒子を含む。しまりあり。粘性あり。 |
| HP 4 | 1 | 褐色土 | 7.5YR4/2 | IV>>III ロームブロックを少量含む。しまりあり。粘性あり。 |
| HP 5 | 1 | HP 4 とほぼ同じだがロームブロックを多く含む。 | | |
| HP 6 | 1 | HP 4 とほぼ同じだが焼土粒を少量、炭化物粒を含む。 | | |
| HP 7 | 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | IV>>V しまりあり。粘性あり。 |
| HP 8 | 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | III>V>IV 炭化物粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。 |
| HP 9 | 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | III>>IV ローム粒、炭化物粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。 |
| | 2 | 褐色土 | 7.5YR4/6 | IV>III>>V しまりややあり。粘性あり。 |
| HP 10 | 1 | 褐色土 | 10YR4/4 | IV>>III ロームブロックを少量含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| | 2 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | III>>IV ローム粒を少量含む。しまりあり。粘性あり。 |
| | 3 | 褐色土 | 7.5YR4/3 | V>III=IV しまりあり。粘性あり。 |
| HP 11 | 1 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | III>>IV ローム粒、炭化物粒、焼土粒を含む。しまりややあり。粘性ややあり。 |

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類、Ⅲ群A-3類、Ⅳ群A-1類土器、石鏃、スクレイパー、石核、剥片、たたき石、石皿・台石、礫等が出土している。床面からはⅢ群A-3類、Ⅲ群B-2類土器、剥片、たたき石、石斧、たたき石、砥石、石皿・台石、礫が出土している。

時期：床面出土の土器から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。

(広田)

掲載遺物：土器 1は床面及び覆土出土のものが接合してい



図V-29 H-15出土の遺物(2)

る。3が床面直上及び覆土出土のものが接合して、他は覆土から出土している。分類は、2がⅢ群A-2類、3・10・12がⅢ群B-2類、7~9・11がⅣ群A-1類、他はⅢ群A-3類である。

1は全体の約1/2が残存している。器形は下膨れで、胴部上半に緩やかにびれをもつ。口縁部は残存部から4個の突起をもつ波状と考えられる。突起は対向する2個一対になり、一方は1個、他方は2個一組の山形突起である。口唇部には縄の押圧が認められている。口縁部は2本1組の沈線で文様帯を区画されている。波頂部直下には垂下する2本1組沈線文が施され、沈線間には刺突が加えられている。文様帯下端を区画する沈線は大きな波状に描き出されている。胴下半部は二次焼成のため脆くなっていて、表面の磨耗が著しい。胎土は砂粒を含む。2・11は口縁部。2は二股の突起を有し、口縁部の全体に貼付帯が施され、貼付帯上には細い縄による押圧が加えられている。貼付帯間には2ないし3本組の縄の圧痕が施されている。11は無文地で縦方向に細く浅い沈線が加えられている。3~10は胴部である。3~5は同一個体と考えられる。3は縦位に貼り付けをもち、貼り付け上には指頭による圧痕が加えられている。3・4は横位に半截竹管状工具内面による2本1組の沈線文が直線上に施される。6は上部に横位の沈線が施される。地文はRLの縄文が横走する。7~9は同一個体で、沈線により文様が描かれている。10・12は同一個体。地文の縄文は深く、ほぼ横走する。(広田)

石器 16・17・21・23は床面から出土したもの、14・22は床面直上から出土したもの、13・19はHP11から出土したもの、他は覆土から出土したものである。13は石鏃2b類で、流紋岩製。14・15はスクレイパーで、いずれも1a類。14は玄武岩製。16は石斧の刃部破片で、緑色泥岩製。17~19はたたき石。17は2類、18・19は3類。19は基盤層に含まれる安山岩を素材としている。20・21は砥石である。20は凝灰岩製、21は安山岩製。22は石皿、23は台石である。(柳瀬)

H-16 (図V-30、図版29-2・30-1、120-2)

位置・立地：R43・44、調査区南端の沢縁辺部の緩斜面上に位置する。標高は35.9~36.0mで、東側約2mにH-5がある。

規模：-/-×-/-×0.49m

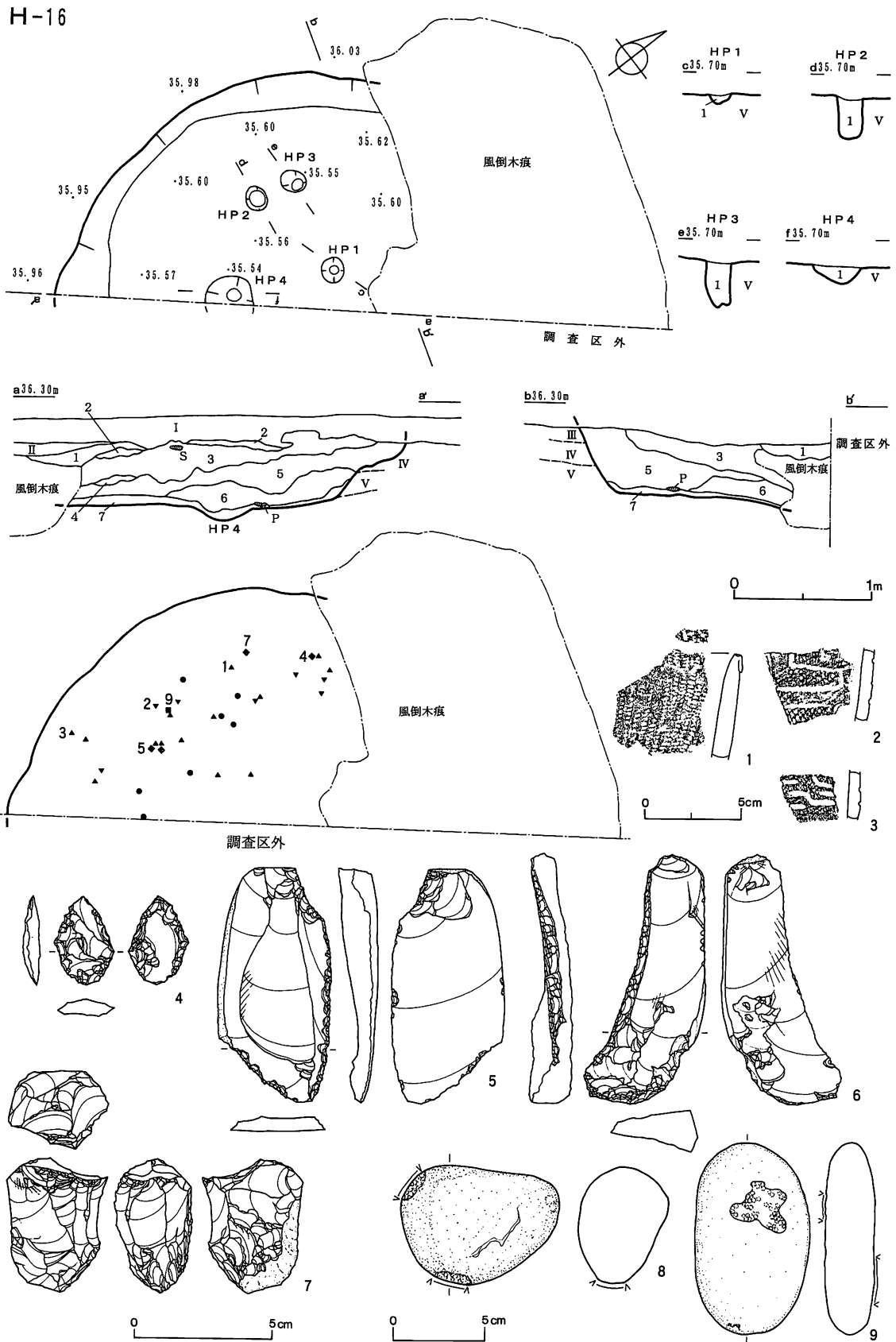
平面形：円形？

確認・調査：Ⅲ層調査中に黒色土の落ち込みを検出し、トレンチ調査を行ったところ竪穴住居跡であることが判明した。南東部は調査区外に展開しており、北東部は風倒木によって床面まで壊されているため、調査できた範囲は少ない。本遺構の埋没過程で形成されたと考えられるS-2が、覆土中位から検出されている。掘り込みの比較的深い住居で、床面はV層深くまで達している。床面の凹凸は少なく、中央付近に向かってやや傾斜している。壁の立ち上がりは比較的なだらかで、南壁は部分的に途中で屈曲する。

特徴：調査した範囲では、焼土は検出されなかった。ピットは4ヵ所検出できた。位置及び規模からHP2・3は柱穴の可能性が高い。なお、床面で採取した炭化物について、¹⁴C年代測定を行ったところ、補正值で4010±50の値が得られた(第七章1節)。

土層 ：1	黒色土	10YR2/1	Ⅲ層土主体。k o - dを少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2	黒色土	10YR7/1	1層よりやや暗い。しまりあり。粘性ややあり。
3	黒色土	7.5YR2/1	Ⅲ層土主体。焼土粒子、炭化物粒子を含む。しまりあり。粘性ややあり。
4	黒色土	7.5YR2/1	3と同一層だが、焼土粒を多く含む。しまりあり。粘性ややあり。
5	黒褐色土	10YR2/3	Ⅲ>>Ⅳ 焼土粒、炭化物粒を多量に含む。しまりあり。粘性やや

I 遺構



図V-30 H-16

- あり。
- 6 黒褐色土 10YR2/2 III>IV ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒を多量に含む。しまり強い。粘性あり。
- 7 褐色土 10YR3/3 III=IV ロームブロックを多く含む。しまり強い。粘性あり。
- HP 1 1 黒褐色土 10YR2/3 白色粘土、炭化物粒を含む。焼土粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- HP 2 1 黒褐色土 7.5YR3/2 III>>IV>V 焼土粒、炭化物粒を含む。しまりあり。粘性わずかにあり。
- HP 3 1 黒褐色土 7.5YR3/2 III>>IV>V 焼土粒、炭化物粒を含む。しまりあり。粘性わずかにあり。
- HP 4 1 暗褐色土 10YR3/3 III=IV ロームブロックを多く含む。しまり強い。粘性あり。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類、Ⅲ群A-3類土器、スクレイパー、石核、剥片、たたき石、礫等が出土している。床面からはⅢ群A-3類土器、スクレイパー、Rフレイク、剥片、たたき石、礫が出土している。

時期：床面出土の土器から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：土器 全て覆土から出土している。1はⅢ群B-2類、2・3はⅣ群A-1類である。

1は口縁部。口縁部に貼付帯があり、地文の縄文は縦走する。2・3は胴部で、いずれも縄文地に沈線文が加えられている。3には沈線でクランク文が描き出される。(広田)

石器 5・9は床面から出土したもの、4・7は床面直上から出土したもの、8はHP 3から出土したもの、6は覆土から出土したものである。5・6はスクレイパーで、いずれも1a類。4は石器未成品とした。メノウ製。7は石核。腹面には原石面が残る。8・9はたたき石。8は1類、9は3類である。(柳瀬)

H-17 (図V-31、図版30-2、31-1・2、120-3)

位置・立地：K・L-43 段丘緩斜面の間の沢に面して立地する。P-26と重複している。

規模：2.96m/2.44m×2.81m/2.48m×0.48m

平面形：円形。

確認・調査：Ⅲ層調査時に黒色土の落ち込みを確認した。同心円状に中央部が落ち込んでいるため、当初はH-17がベンチ状になっていると思い調査を行った。土層堆積を検討した結果、2基の遺構が存在し、H-17はP-26の上半を切っていることが判明した。重複の前後関係で迷っている時に、遺物の取り上げで本来H-17に帰属する遺物をP-26出土としてしまった。

土層：1 黒色粘質土、2 黒褐色粘質土(ローム粒混じり)、3 黒褐色粘質土、4 暗褐色粘質土、5 暗茶褐色粘質土(焼土粒を多く含む)、6 暗褐色土(ロームを斑状に含む)、7 明褐色土。

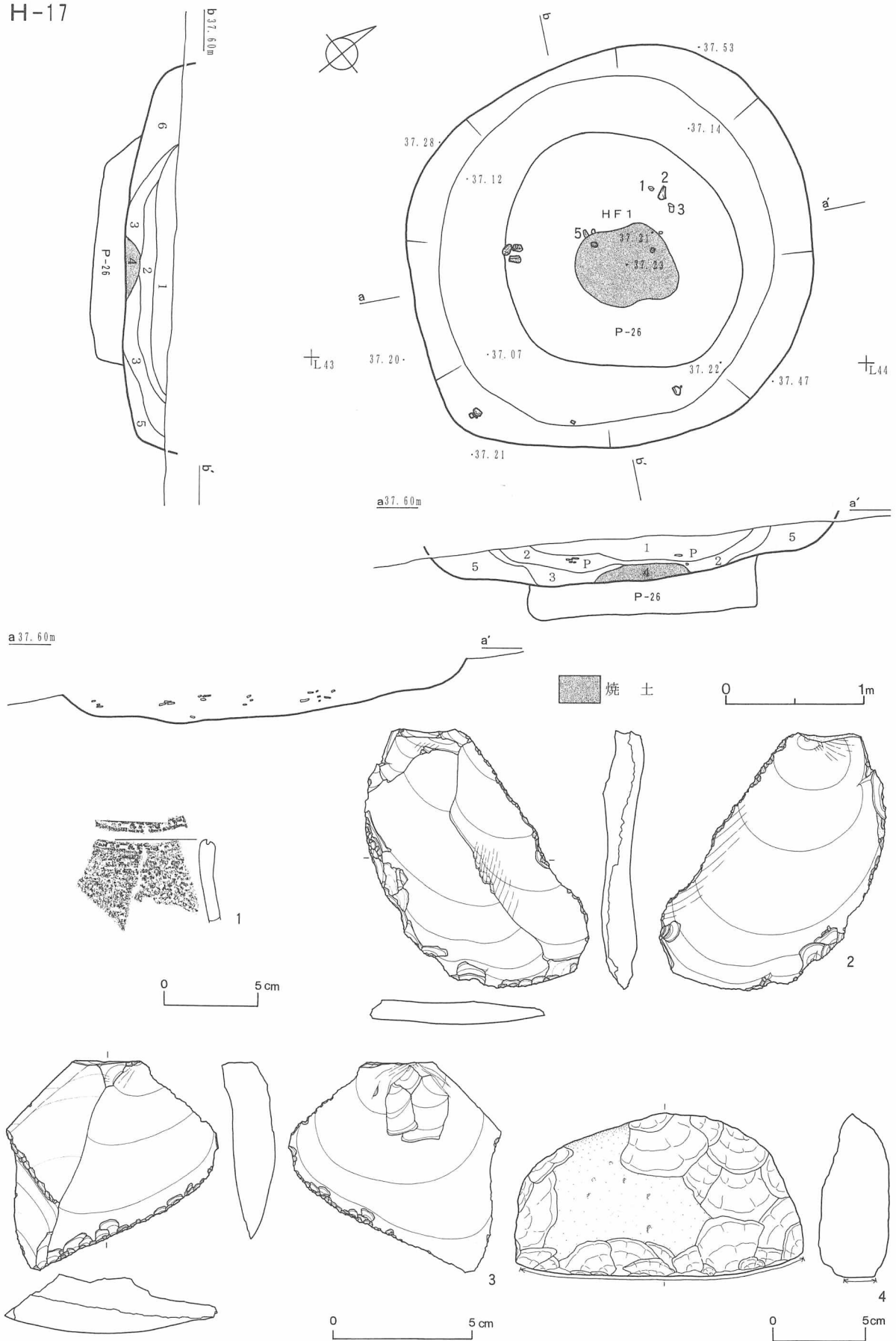
床面・壁面：床面の中央部が丸く下がり、壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。

特徴：立て穴の中央部に焼土粒を多く含む炉を検出した。

遺物出土状況：セクションベルトを境に東西南北1/4区画ごとに一部の遺物を取り上げている。西側をH-17a、北側をH-17b、東側をH-17c、南側をH-17dとした。

覆土上からスクレイパー2点、Uフレイク1点、剥片15点、すり石1点、礫1点、H-17aの覆土

H-17



図V-31 H-17

上からⅢ群A-3類が11点、H-17dの覆土上からⅢ群A-3類が70点、H-17bの覆土上からⅢ群A-3類1点が出土した。その他1/4区画で取り上げなかったものは、覆土中からⅢ群A-3類が2点、スクレイパー1点、剥片1点、礫1点、床直上からⅢ群A-3類が2点出土している。

下記の遺物は、P-26が新しいものとして取り上げを行ったが、H-17出土のものである。一覧表は上記のままであるが、ここで訂正します。

H-17の遺物：覆土上から剥片4点、原石1点、すり石3点、礫1点、覆土中からⅢ群A-3類が8点、スクレイパー1点、剥片1点、礫1点、P-14aの覆土上からⅢ群A-3類が5点、Ⅳ群A-1類が20点、P-14bの覆土上からⅢ群A-3類が8点、P-14bの覆土上からⅢ群B-2類が8点、Ⅳ群A-1類が1点、P-14dの覆土上からⅢ群A-3類が2点である。P-26の掲載遺物の中で覆土上および中となっているものについても、H-17出土の遺物である。確認が遅れ、掲載に混乱があることをお詫びし、訂正いたします。

時期：出土した遺物から縄文時代後期後前葉に構築されたものと考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅢ群A-3類土器で、口唇部に沈線文が加えられ、口縁部には2本一組の沈線文が施されている。(広田)

石器 すべて覆土から出土したものである。2・3はスクレイパーで、2は1a類、3は2b類である。4はすり石5類：半円状扁平打製石器。(柳瀬)

H-18 (図V-32~35、図版32-1・2・33-1・2、121-1・122-1)

位置・立地：J・K-49、調査区北西部の緩斜面上に位置する。標高は38.7~39.1mで、北西側にH-11・26、北側にP-99が隣接し、周辺には南西側にP-91、南側にP-83、南東側にP-105がある。

規模：4.15m/3.71m×3.38m/2.86m×0.58m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中に暗褐色土の落ち込みを検出し、ベルトを設定しトレンチ調査を行ったところ、竪穴住居跡であることが判明した。本遺構の埋没過程で形成されたと考えられるS-8が、覆土上位から検出された。床面はほぼ平坦で、中央付近がわずかに低くなる。壁の立ち上がりは、東側はやや急角度で、他は比較的ゆるやかに立ち上がる。

特徴：床面からほぼ中央から埋設土器炉1基が検出された。口縁部を欠いた土器1個体分を、割れ口が床面とほぼ同じ高さになるようにして埋設している。掘り方は土器の大きさよりやや広めである。地床炉は埋設土器炉の西側から検出された。よく焼けて締まっている。ピットは3カ所確認された。HP1・2は柱穴の可能性はあるが、小形で掘り込みは浅い。HP3はやや大きい浅皿状のピットである。なお、床面から採取した炭化物について¹⁴C年代測定を行ったところ、補正值で4360±40の値が得られた(第七章1節)。

土層：1 極暗褐色土 7.5YR2/3 Ⅲ>>Ⅳ ローム粒子を少量含む。焼土粒子、炭化物粒を多量に含む。しまりあり。粘性ややあり。

2 黒褐色土 7.5YR2/3 Ⅲ>Ⅳ ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

3 黒褐色土 10YR2/3 2層と同質だがやや明るい。

4 にぶい黄褐色土 10YR4/3 Ⅳ>Ⅲ ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性あり。

5 黒褐色土 7.5YR2/2 Ⅲ>Ⅳ ローム粒子を含む。焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

6 褐色土 10YR4/4 Ⅳ>>Ⅴ 炭化物粒を微量含む。しまりあり。粘性あり。

1 遺構

H-18

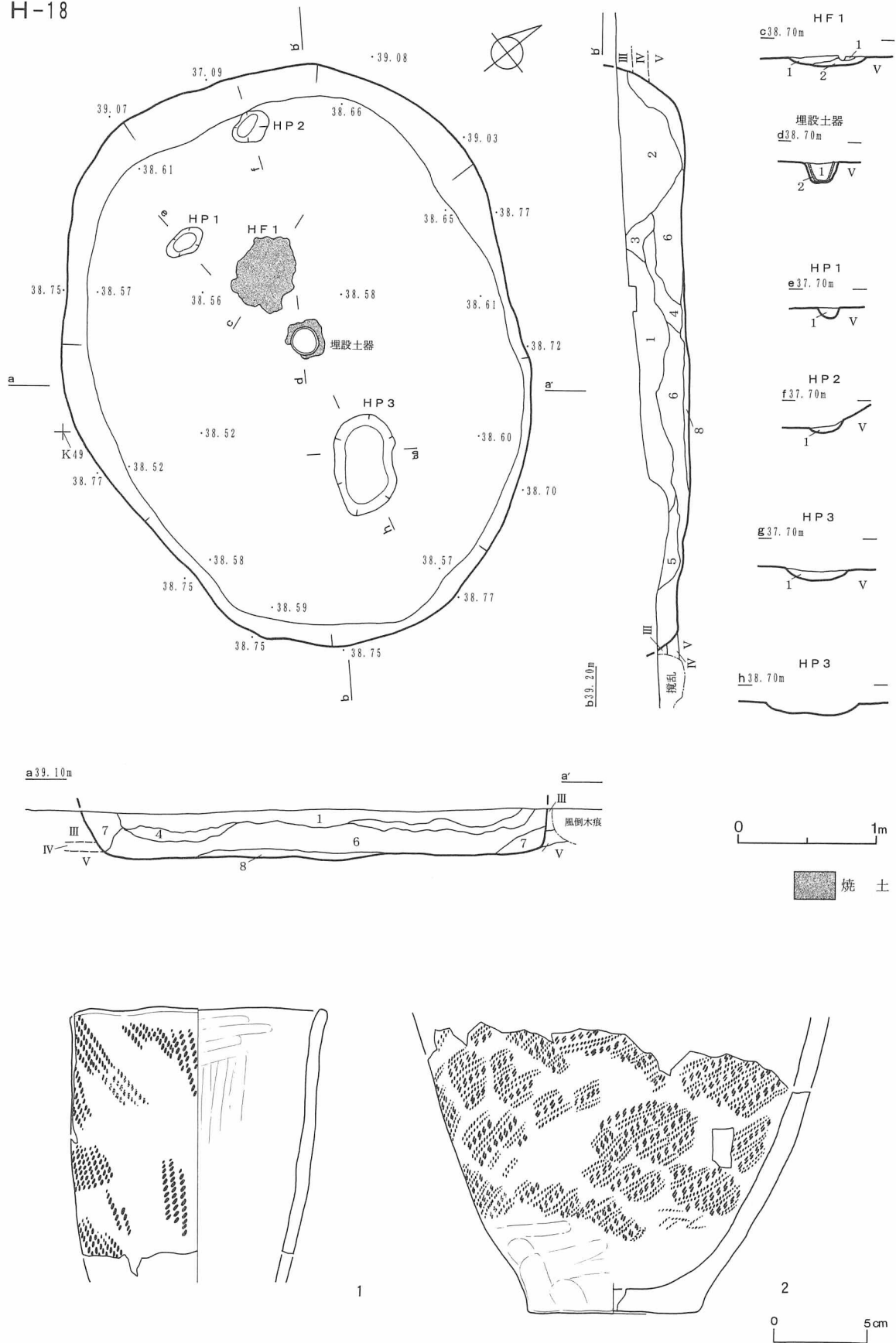
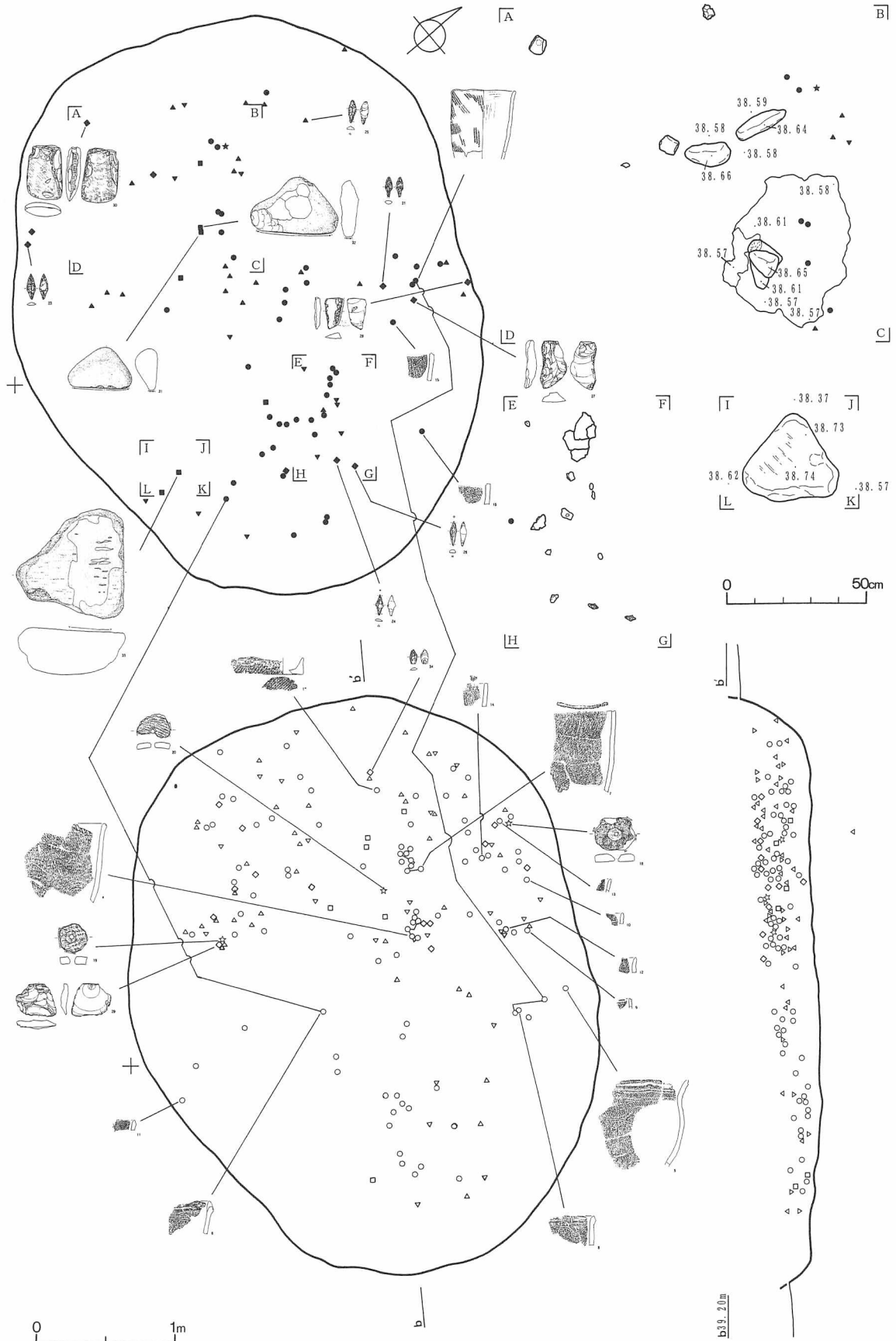


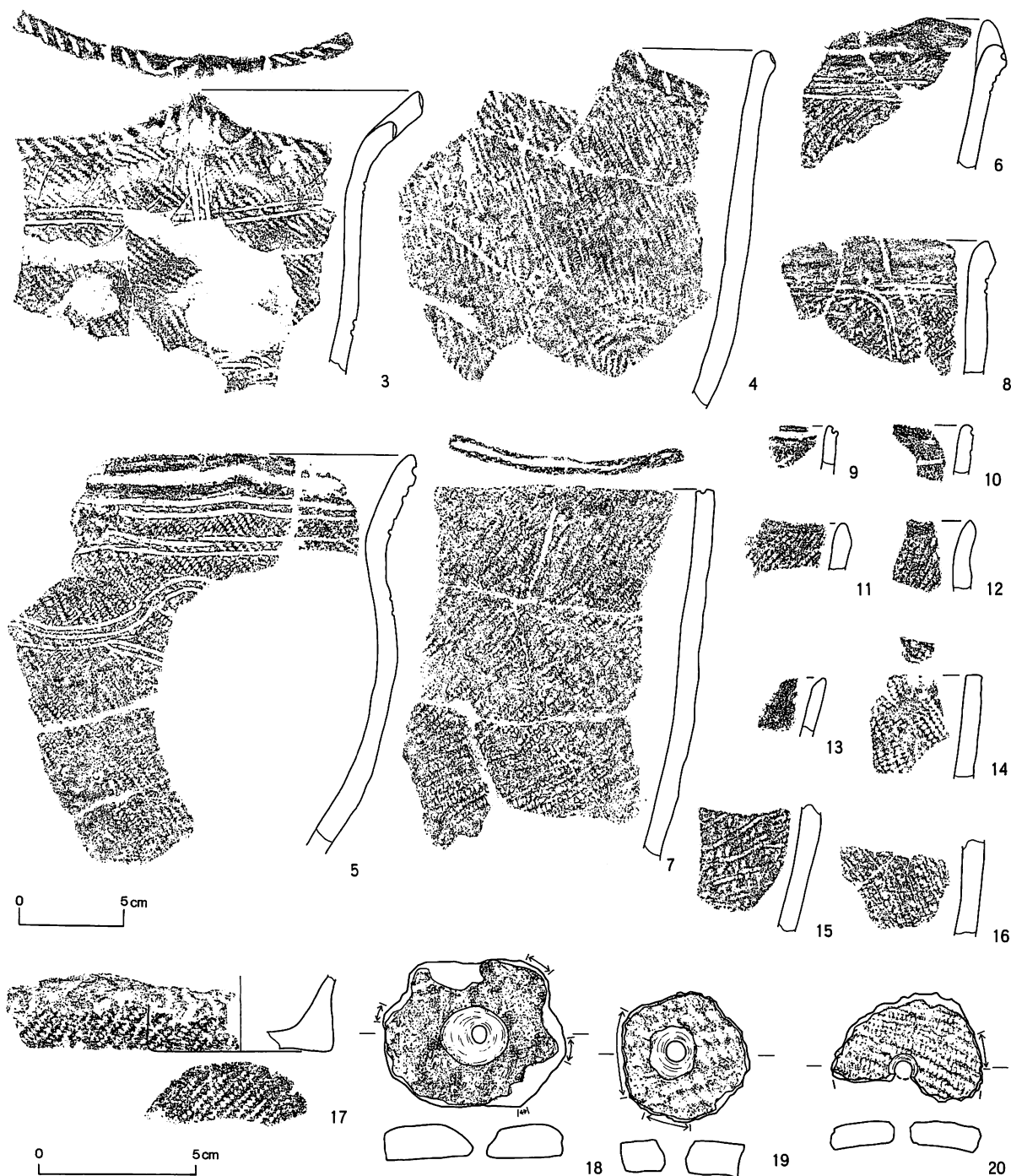
図 V-32 H-18



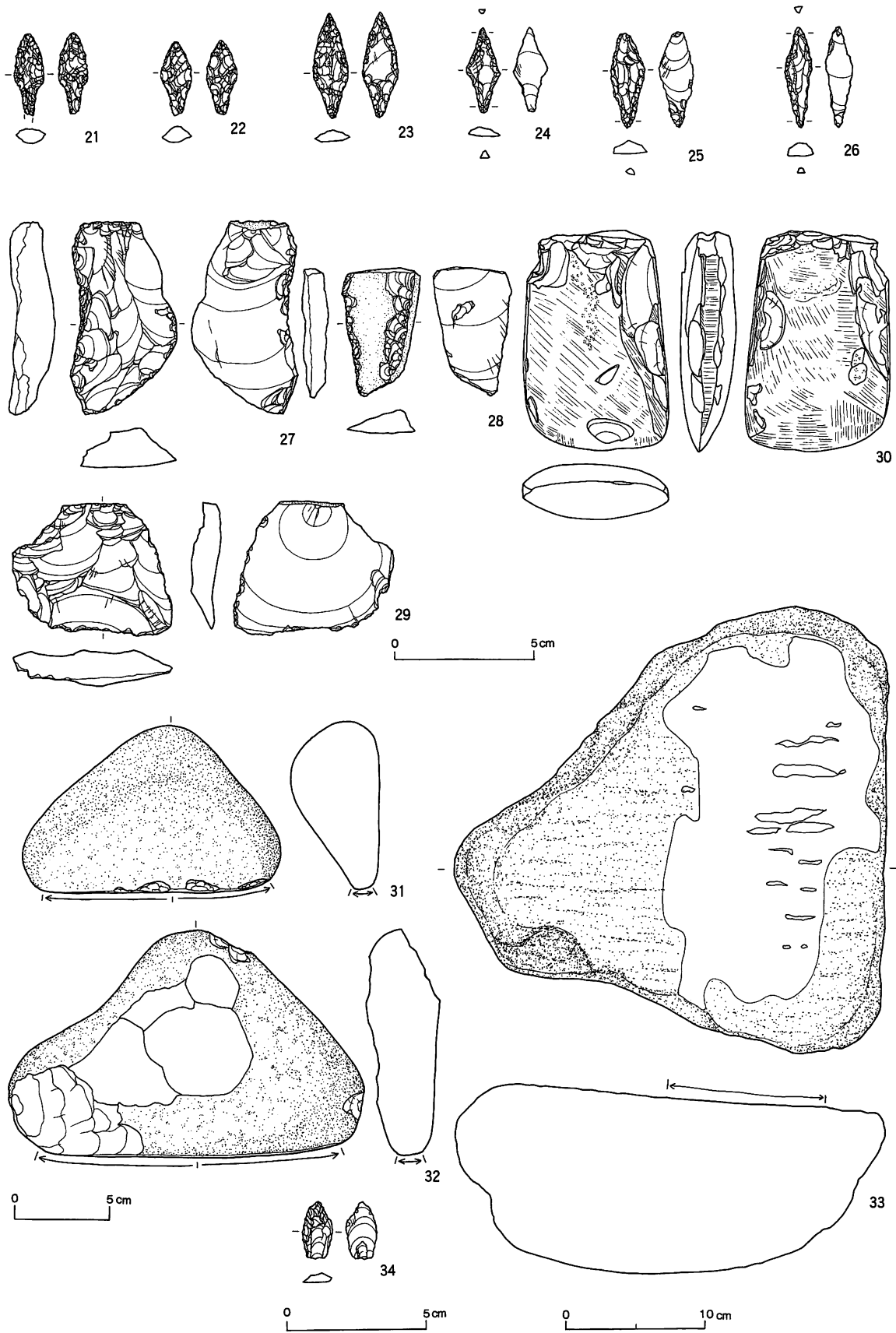
図V-33 H-18遺物出土状況

1 遺構

- 7 黒褐色土 7.5YR2/3 III>IV ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 8 暗褐色土 10YR2/3 III>IV ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 HF 1 1 赤褐色土 2.5YR4/8、
 2 極暗褐色土 2.5YR3/4。
 HP 1 1 暗褐色土 10YR3/3 III>IV>V しまりややあり。粘性あり。
 HP 2 1 黒褐色土 10YR2/3 III>IV>V 炭化物粒を微量含む。しまりややあり。
 粘性あり。
 HP 3 1 暗褐色土 10YR3/3 III>IV ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。



図V-34 H-18出土の遺物(1)



図V-35 H-18出土の遺物(2)

1 遺構

埋設土器 1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV ローム粒子を少量含む。焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。

2 暗褐色土 10YR3/3 III=IV 炭化物粒を少量含む。しまりややあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類土器、石鏃、スクレイパー、Uフレイク、剥片、石斧、たたき石、すり石、石皿・台石、礫剥片、礫が出土している。床面からは、Ⅲ群A-3類土器、ドリル、剥片、石斧、すり石、石皿・台石、礫が出土している。

時期：床面出土の土器から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：土器 2は埋設土器。3は床面のものと床面直上のものが接合している。16・19は床面出土。6は床面直上と覆土出土のものが接合している。他は覆土出土。8は包含層出土だが、H-18の上位の包含層から出土しており、H-18覆土の可能性があるため、ここで掲載する。分類は17がⅢ群B-2類で、他はⅢ群A-3類土器である。

1は全体の約1/4が残存している。筒形の器形で、まばらにRL斜縄文が施される。器面調整は丁寧である。2は口縁～胴上半部を欠く。器面には附加条縄文が施されている。二次焼成により器面全体はやや赤化し脆くなっている。内面は上部と底部付近を除き黒色である。3～14は口縁部。3は口唇部には篋状工具による刻みが加えられ、口縁部には2本1組の沈線が施されている。胎土には砂粒を含む。4は口唇部が肥厚し、縄による押圧が加えられている。5・6・9は口唇部に沈線が施されたもの。5は口頸部に沈線文が加えられている。沈線は2本1組で、胴部の沈線は波状を呈する。6は小突起を有し、口唇部断面の形状は切り出し形である。口縁部には横位の沈線により文様が描かれている。8は胴部に2本1組の沈線により、曲線文様が描かれている。10は口縁部に沈線が施されている。14は口唇部に縄文が施文されている。15・16は胴部で、附加条縄文が施され、2と同一個体の可能性がある。17は底部。底面にも縄文が施されている。(広田)

石器 剥片石器は流紋岩製のものも多い。29・34以外はいずれも床面あるいは床面直上、埋設土器内から出土したもの。21～23は石鏃。21は2a類、22・23は2b類とした。24～26はドリル3類とした。いずれも片面周縁加工で、中央部や先端部に厚みがあることからドリルとしたが、24・25は石鏃の可能性もある。27～29はスクレイパー。27・28は1a類。29は2a類としたが、下端部にも右側縁同様の細かい調整が加えられる。21・27・28以外は流紋岩製。30は石斧1類で、緑色泥岩製。基部の破損後に破損面からの剥離が加えられており、再使用されたと思われる。31・32はすり石。HF1上から重なって出土したものである。31は2類、32は4類。32は被熱によるはじけがみられる。33は石皿。

(柳瀬)

土製品 18～20は円板状土製品。いずれも土器の胴部片を再利用し、周囲を部分的に擦って整形している。(広田)

石製品 34は黒曜石製で、石鏃に類似する加工が加えられているが、非常に小形で実用品とは考えられないことから、石製品とした。(柳瀬)

H-19 (図V-37～39、図版33-1～3・34-1～3、123-1・124-1・125-1)

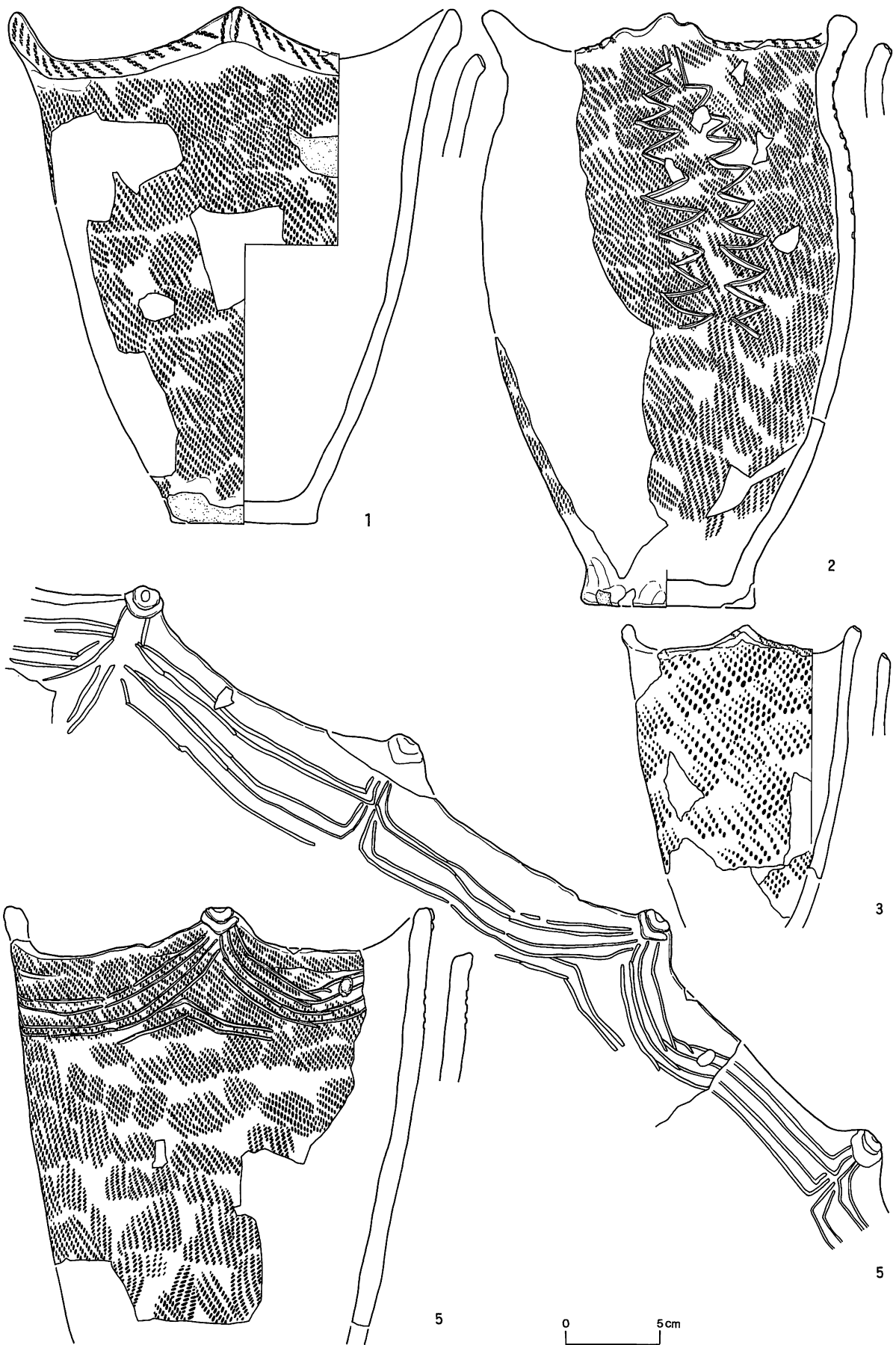
位置・立地：K・L-52・53、調査区中央よりやや南西側の緩斜面上に位置する。標高は38.4～38.7mで周辺には東側にP-58、南西側にP-66が隣接する。北側約3mにF-39がある。

規模：3.12m/2.58m×(2.80m)/2.51m×0.60m

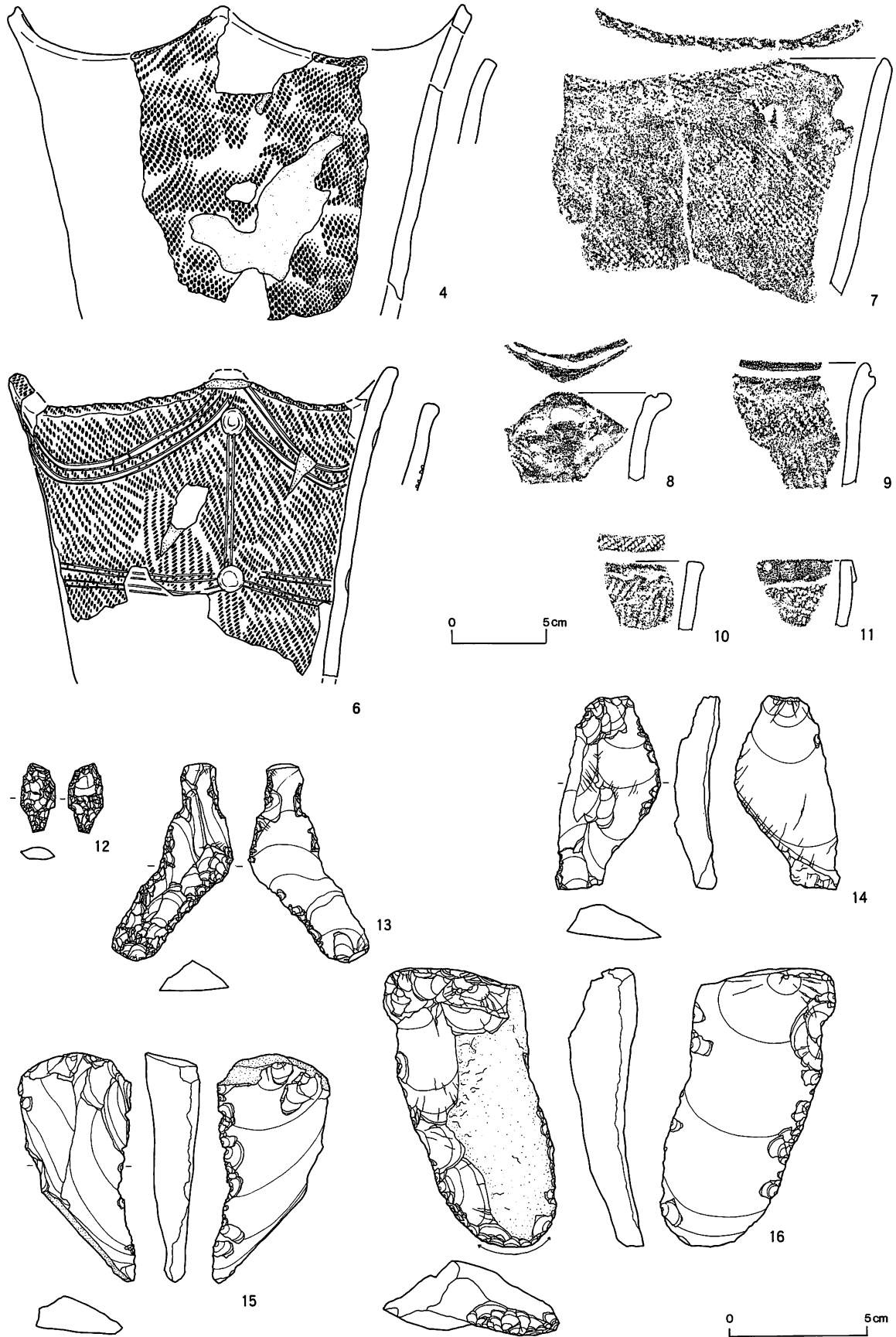
平面形：不整楕円形。

土層：1 黒色土 7.5YR2/1 III>IV ローム粒子を微量含む。しまりややあり。粘性弱い。

1 遺構

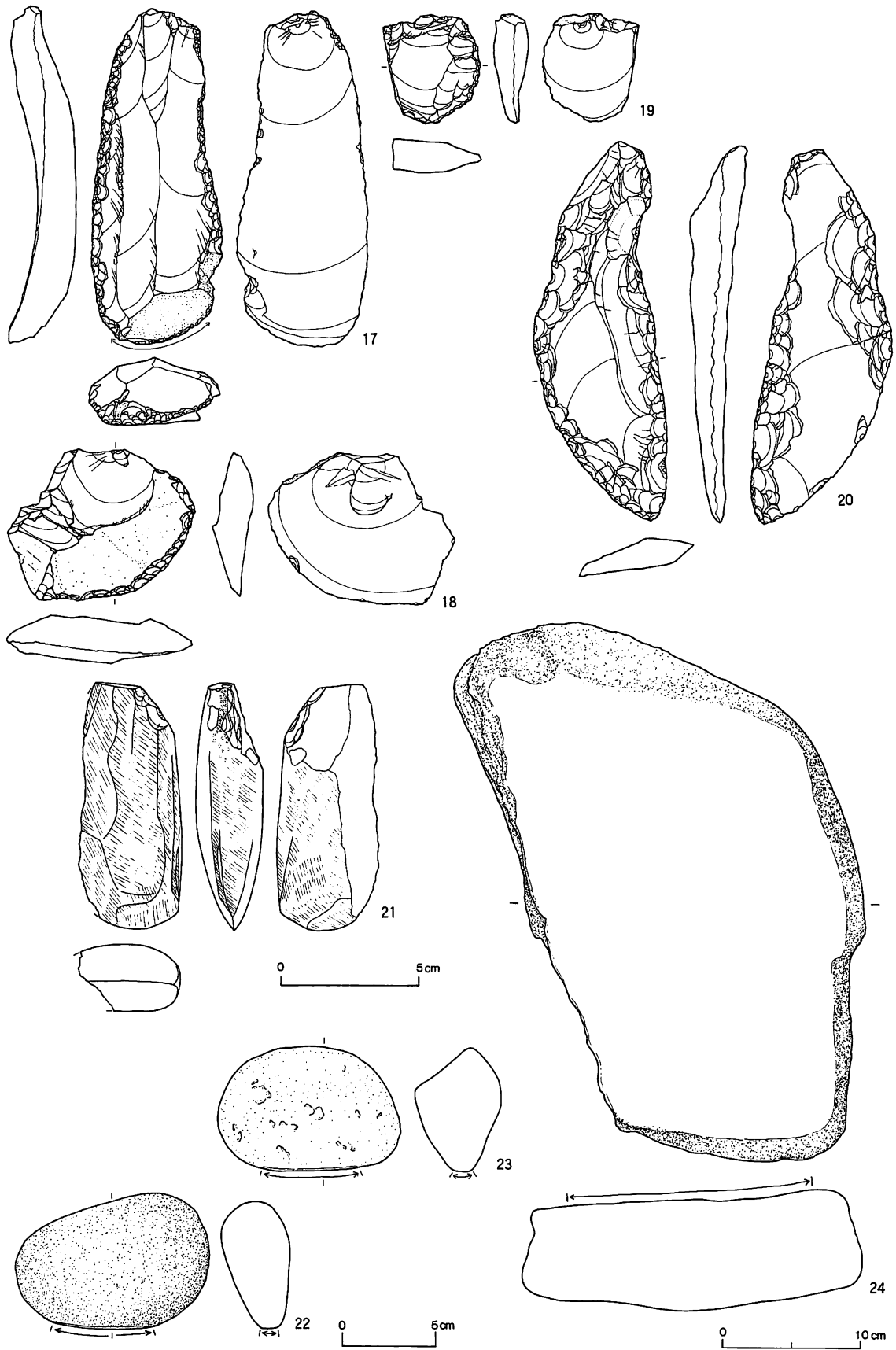


図V-37 H-19出土の遺物(1)



図V-38 H-19出土の遺物(2)

1 遺構



図V-39 H-19出土の遺物(3)

2	黒褐色土	10YR2/2	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	しまりややあり。粘性あり。
3	黒色土	7.5YR2/1	Ⅲ>Ⅳ	ローム粒子、焼土粒子を微量含む。しまりあり。粘性弱い。
4	黒色土	7.5YR2/1	Ⅲ>Ⅳ	ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性弱い。
5	黒褐色土	7.5YR3/2	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	しまりあり。粘性やや弱い。
6	暗褐色土	7.5YR3/4	Ⅲ=Ⅳ	ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
7	黒褐色土	10YR2/3	Ⅲ>Ⅳ=Ⅴ	黒褐色砂を少量含む。しまりややあり。粘性あり。
8	暗褐色砂層。			
HP 1	1 黒褐色土	7.5YR2/2	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	炭化物粒を含む。しまりややあり。粘性ややあり。
HP 2	1 黒褐色土	10YR2/3	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	炭化物粒を含む。しまりややあり。粘性あり。
HP 3	1 黒褐色土	10YR2/3	Ⅲ>Ⅳ=Ⅴ	黒褐色土を含む。しまりややあり。粘性ややあり。
	2 黒褐色砂層	10YR2/2。		
HP 4	1 黒褐色砂層	10YR2/2	Ⅲ>Ⅳ	ローム粒子、炭化物粒、焼土粒、黒褐色砂を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
HP 5	1 暗褐色土	10RY2/3	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	炭化物粒を含む。しまり弱い。粘性あり。
HP 6	1 黒褐色土	10RY2/3	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	炭化物粒を含む。しまり弱い。粘性ややあり。
HP 7	1 暗褐色土	10RY2/3	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	炭化物粒を含む。しまり弱い。粘性あり。
HP 8	1 暗褐色土	10RY2/3	Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ	炭化物粒を含む。しまり弱い。粘性あり。

確認・調査：Ⅲ層調査中に黒色土の落ち込みを検出した。トレンチ調査を行った結果、竪穴住居跡と風倒木痕が重複していて、風倒木痕が本遺構の北壁を壊していることが判明した。掘り込みは比較的深く、床面はⅤ層深くまで達している。床面西側において暗褐色砂層の、床面中央よりやや東側において黒褐色土層の薄い広がり確認された。床面はほぼ平坦である。壁は全体的に急角度に立ち上がる。また、竪穴周囲の包含層をⅤ層まで掘り下げた結果、竪穴外からピットが4カ所検出された。

特徴：明瞭な炉は検出されなかったが、HP 4の覆土と周辺から薄い焼土と炭化物が検出された。ピットは床面から4カ所、竪穴外から4カ所の計8カ所検出されている。ピットはいずれも掘り込みは浅い。HP 3・4は床面のほぼ中央に位置し、どちらも覆土は黒褐色砂である。竪穴外のピットは、南側のⅤ層上面で検出され、柱穴の可能性が高い。配置を考えると風倒木で壊された部分や東側にもあったものと考えられる。

遺物出土状況：床面の黒褐色土層近辺からは遺物がまとまって出土している。覆土からはⅢ群A-1類、Ⅲ群A-2類、Ⅲ群A-3類、Ⅳ群A-1類土器、石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、剥片、石斧、すり石、礫等が出土している。床面からは、Ⅲ群A-3類、石鏃、スクレイパー、剥片、すり石、礫が出土している。

時期：床面出土の土器から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：土器 2・4・5・7・8・10は床面出土。1は床面直上・覆土・包含層出土のものが接合している。3・6・9・11は覆土出土である。分類は11がⅣ群A-1類で、他はⅢ群A-3類である。

1は全体の約3/4が残存し、底部から開き気味に立ち上がる器形である。口唇部断面形は切り出し状で、RLRの縄による圧痕が加えられている。胴部にはRL斜行縄文が施されている。2は胴部がややふくらむ器形である。残存部から考えると突起を4個有すると考えられる。波頂部は3個の小突起からなる。口唇部にはRLの縄による圧痕が加えられている。突起部下には縦位にルーズな鋸歯状の

1 遺構

沈線文が加えられている。底部はやや張り出す。3は口唇部に縄の圧痕が加えられている。地文には節の大きなRLの斜行縄文が施文されている。4は緩い波状口縁を呈し、口唇部にも斜行縄文が施されている。5は波頂部に半円状の貼り付けが施される。口縁部に波頂部間を結ぶ沈線文が施され、文様構成はそれぞれの波頂部間によって若干異なる。6は口唇部にRLの縄による圧痕が加えられている。胴部上半には半截竹管状工具内面の2本一組の沈線によって文様帯が区画される。波頂部から垂下する1~2本の沈線が同様の施文具で施文され、波頂部下位及びその下端に指頭圧痕が加えられている。7~11は口縁部。口唇部には縄による圧痕が施されている。8・9は口唇部が肥厚し、沈線が施されているもの。10は口唇部にLRの斜行縄文が、口縁部には地文と共に、S字状の綾線文が施されている。11は口縁部に貼付帯を有するもので、貼付帯上は無文である。また、口唇断面の形状は角形である。

(広田)

石器 13・21・22・24以外は床面もしくは床面直上から出土したもの。12は石鏃2a類で、黒曜石製。13はつまみ付きナイフ1c類。14~20はスクレイパー。14・15は1a類。16・17は1b類で、いずれも下端の刃部が磨耗している。18は2c類。19は3類とした。20は8類で、図の上端が柄のように加工されている。玄武岩製。21は石斧1類。右上端の敲打は、破損後に加えられている。22・23はすり石2類。22は、腹背両面の中央部に、やや磨耗したような部分が見られる。24は石皿。

なお、黒曜石製の12について、原材産地同定を依頼したところ、赤井川産と判定された(第VII章2節)。

(柳瀬)

H-20 (図V-40・41、図版35-1・2、126-1)

位置・立地：L・M-45・46 段丘緩斜面に立地する。

規模：4.74m/4.32m×4.4m/4.0m×0.65m

平面形：楕円形。

確認・調査：平成11年度の25%調査の際に黒色土の落ち込みを確認した。平成11年度にH-2の南東側半分の調査を行い、石囲い炉が出土した面を床面とした。平成12年度の調査ではH-2残り半分の調査を行い、それより下に1軒の竪穴(H-20)を確認した。

H-20の掘り込みはH-2より深くV層中ほどに達し、また、面積も一回り広い。

土層：1 暗褐色粘質土、2 暗黄褐色粘質土、3 黄褐色ローム質土(黒褐色土を少量含む)。

HF1 6 赤褐色土。

HP1 1 褐色土(ローム粒、焼土粒、炭化物粒を含む)、

4 褐色土(ローム粒を含む)、

HP2 1 暗黄褐色粘質土、2 褐色土(ローム粒を含む)、5 褐色土(ローム粒を含む)、

HP3 1 褐色土、 HP4 1 褐色土、 HP5 1 褐色土、

HP6 1 褐色土、 HP7 1 暗黄褐色土、 HP8 1 褐色土、

HP9 1 褐色土、 HP10 1 暗褐色土、 HP11 1 褐色土、

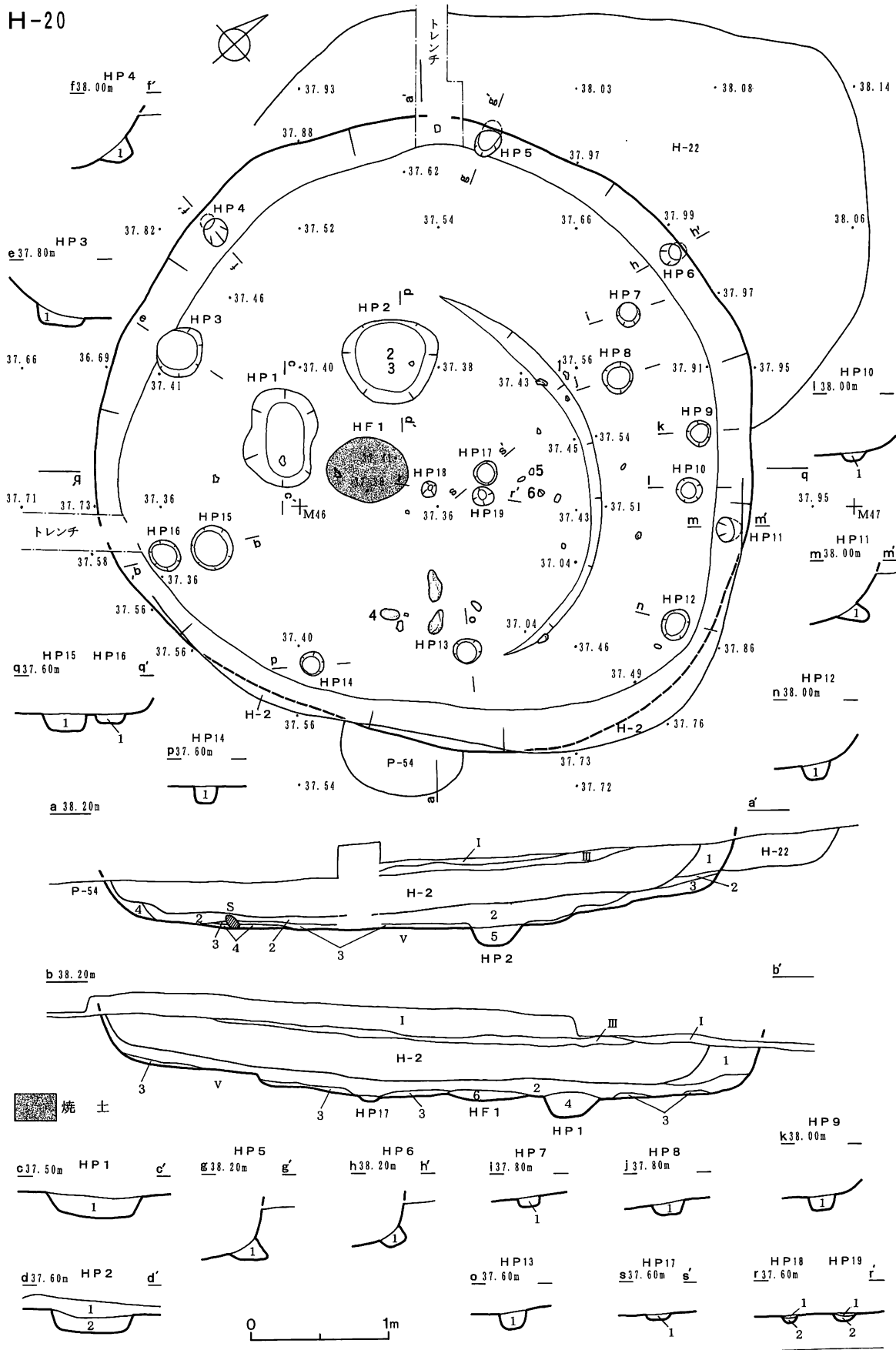
HP12 1 褐色土、 HP13 1 褐色土、 HP14 1 褐色土、

HP15 1 暗褐色土、 HP16 1 暗褐色土、 HP17 1 褐色土、

HP18 1 黒色土、 2 暗黄褐色土、

HP19 1 黒色土、 2 暗黄褐色土。

床面・壁面：床面は北半に10cm程の段差を持ちベンチ状の構造となっている。ベンチ部を除き床面はほぼ平坦で、壁は丸みを持って緩やかに立ち上がり上半は急傾斜である。



図V-40 H-20

1 遺構

特徴：竪穴の中央部に地床炉を検出した。この地床炉の南側（HP 1）と西側（HP 2）に2基の土坑を検出している。HP 1の覆土に焼土粒を含んでいる。

柱穴と考えられる小ピットは竪穴の中央部から3カ所、壁に近い床面から10カ所、壁面から4カ所検出した。壁柱穴は竪穴の中央部に向かって内傾する。

地床炉から出土した炭化物を¹⁴C年代測定している。補正值で3590±40の結果が出ている。これはH-20より新しいH-2の測定結果3790±40より、200年程古く逆転している。層位的な上下関係に間違いがないため、試料の取り違いなどの可能性を考慮しなくてはならない（第七章1節）。

遺物出土状況：覆土1からⅢ群A-3類土器1点、床面からⅢ群A-3類土器1点、Ⅳ群A-1類土器2点、ドリル1点、スクレイパー2点、Rフレイク2点、剥片6点、礫剥片1点、礫8点、HP 2覆土から礫1点、坑底から石槍1点、HP 17から剥片1点が出土した。

時期：出土した遺物から縄文時代後期前葉Ⅳ群A-1類土器の頃に構築されたものと考えられる。H-2より古く、H-22より新しい。
(谷島)

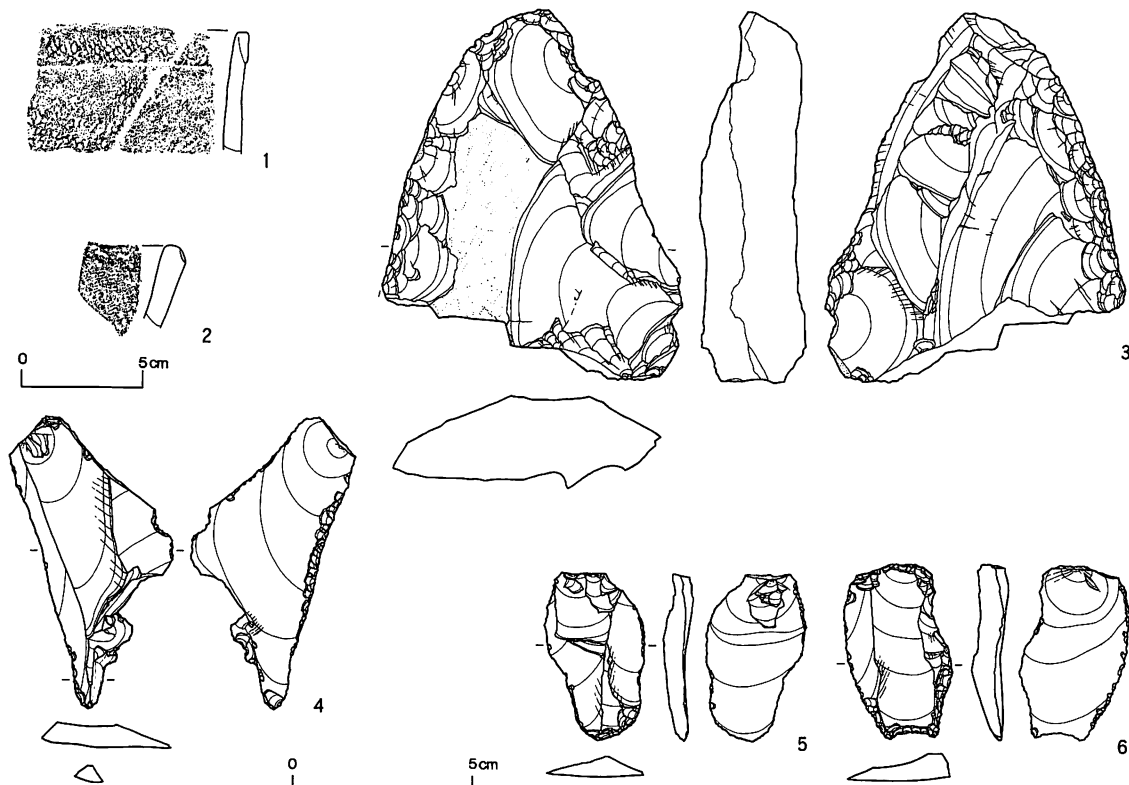
掲載遺物：土器 1は床面と覆土出土のものが接合したもので、2は覆土出土である。1はⅣ群A-1類、2はⅢ群A-3類である。

1・2は口縁部。1は口縁部に貼付帯を有し、貼付帯上にはLR斜縄文が施される。2は口唇部に縄による押圧が施される。
(広田)

石器 4~6は床面から、3はHP-2の坑底から出土したもの。3は石槍未成品。4はドリル1類。5・6はスクレイパーで、いずれも1b類。6は下端部に内湾する刃部をもつ。
(柳瀬)

H-21 (図V-42、図版36-1)

位置・立地：N-44・45、調査区南西部沢縁辺部に位置する。標高36.4~37.0mで、東側にH-23、



図V-41 H-20出土の遺物

H-21

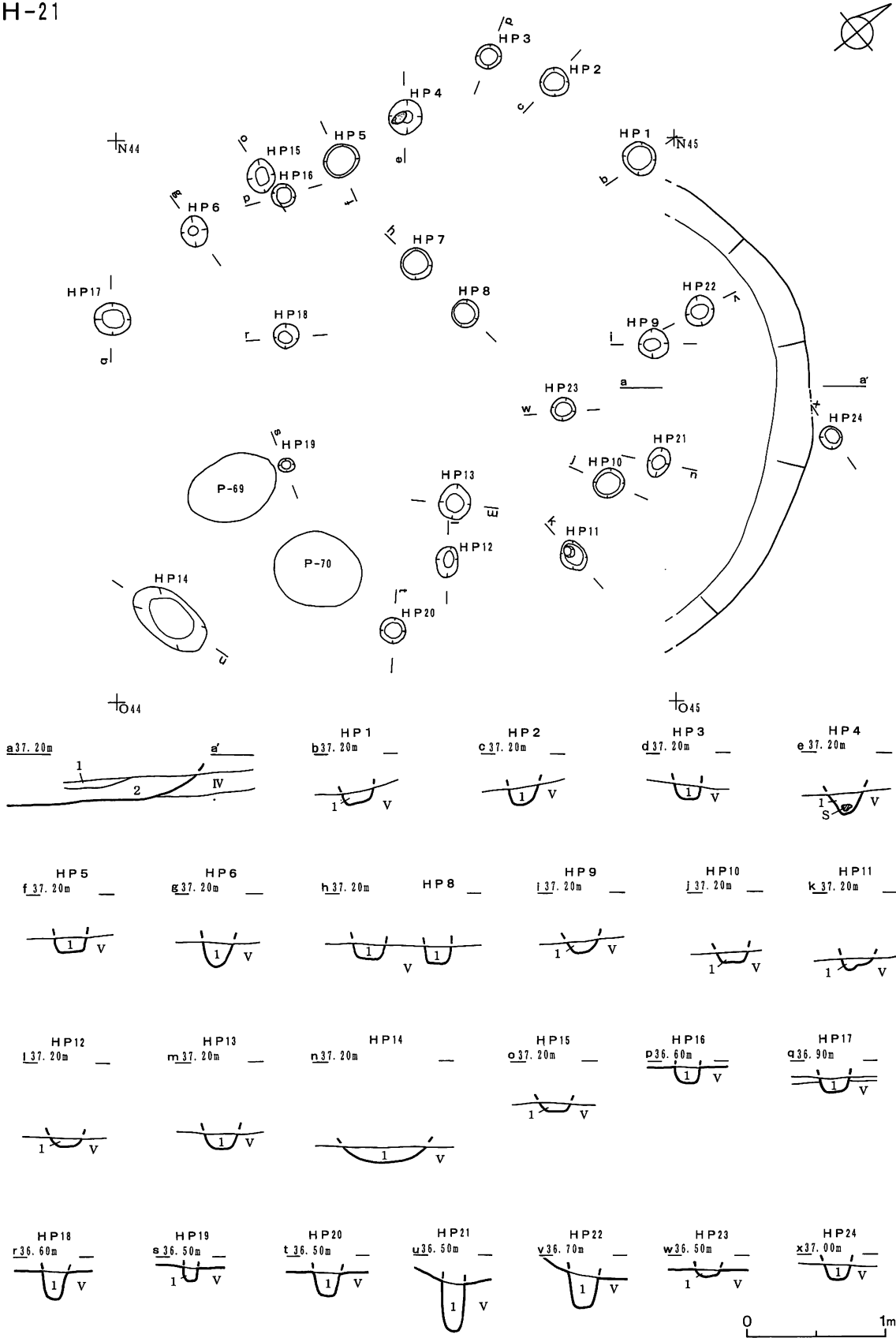


図 V-42 H-21

1 遺構

P-44、西側にP-45がある。

規模：-/-×-/-×-

平面形：楕円形？

確認・調査：Ⅲ層調査中に黒褐色土の落ち込みを検出し、トレンチ調査を行ったが床面及び壁の立ち上がり不明瞭であったため、グリッド全体を掘り下げた。その結果N-44グリッドV層上面で、柱穴と考えられる、配列を有する小ピットを、また、N-45グリッドのIV層上面において遺構の一部と考えられる落ち込みの一部を検出したため、竪穴住居跡と判断し調査を行った。掘り込みを確認できた部分から考えると、全体的に掘り込みは浅く、床面はほぼV層上面で作られている。壁の立ち上がりは緩やかである。P-69・70と重複するが、前後関係は不明で、本遺構に伴うピットの可能性もある。

土層：1 黒褐色土、2 暗褐色土。

特徴：炉は検出されなかったが、N-44グリッドのⅢ層調査中でF-31、S-4を検出したため、これが本遺構に伴う可能性はある。ピットは24ヵ所確認されているが、床面の正確な検出ができなかったため、住居に伴う可能性があるものと周辺から検出された遺構外の小ピットも便宜的にここで報告する。

遺物出土状況：HP 4から礫が出土している。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類の可能性が高い。

(広田)

H-22 (図V-43、図版36-2、37-2、126-2)

位置・立地：L-45・46 段丘緩斜面に立地する。

規模：4.57m/4.11m×(1.48m)/(1.10m)×-

平面形：楕円形？

確認・調査：H-2調査中に外側のH-20に切られて北西側に落ち込みを検出した。新しいH-2から順に調査を行いH-22は最後になった。南側の半分以上をH-20に壊されている。掘り込みはH-20より浅く、V層上位に留まっている。

土層：1 黒褐色粘質土、2 暗褐色粘質土、3 褐色土、4 暗黄褐色土。

HP 1	1	暗黄褐色土、	HP 2	1	褐色土、	HP 3	1	褐色土、
HP 4	1	褐色土、	HP 5	1	暗黄褐色土、	HP 6	1	暗黄褐色土、
HP 7	1	暗黄褐色土、	HP 8	1	褐色土、	HP 9	1	褐色土、
HP 10	1	褐色土、	HP 11	1	暗黄褐色土、	HP 12	1	暗黄褐色土、
HP 13	1	褐色土。						

床面・壁面：残存する床面は南西側が低く、若干傾斜する。壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。

特徴：床面から13ヵ所の柱穴と考えられる小ピットを検出した。柱穴としては面積に比べ多すぎるためこれらの柱穴がすべてH-22に伴うものとは考えられない。

遺物出土状況：覆土上からⅢ群A-3類土器9点、剥片6点、たたき石1点、礫4点が出土した。

時期：出土した遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の頃に構築されたものと考えられる。

(谷島)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅢ群B-2類である。底部付近の破片で、地文は深く施される。

(広田)

石器 2は覆土から出土したたたき石3類。

(柳瀬)

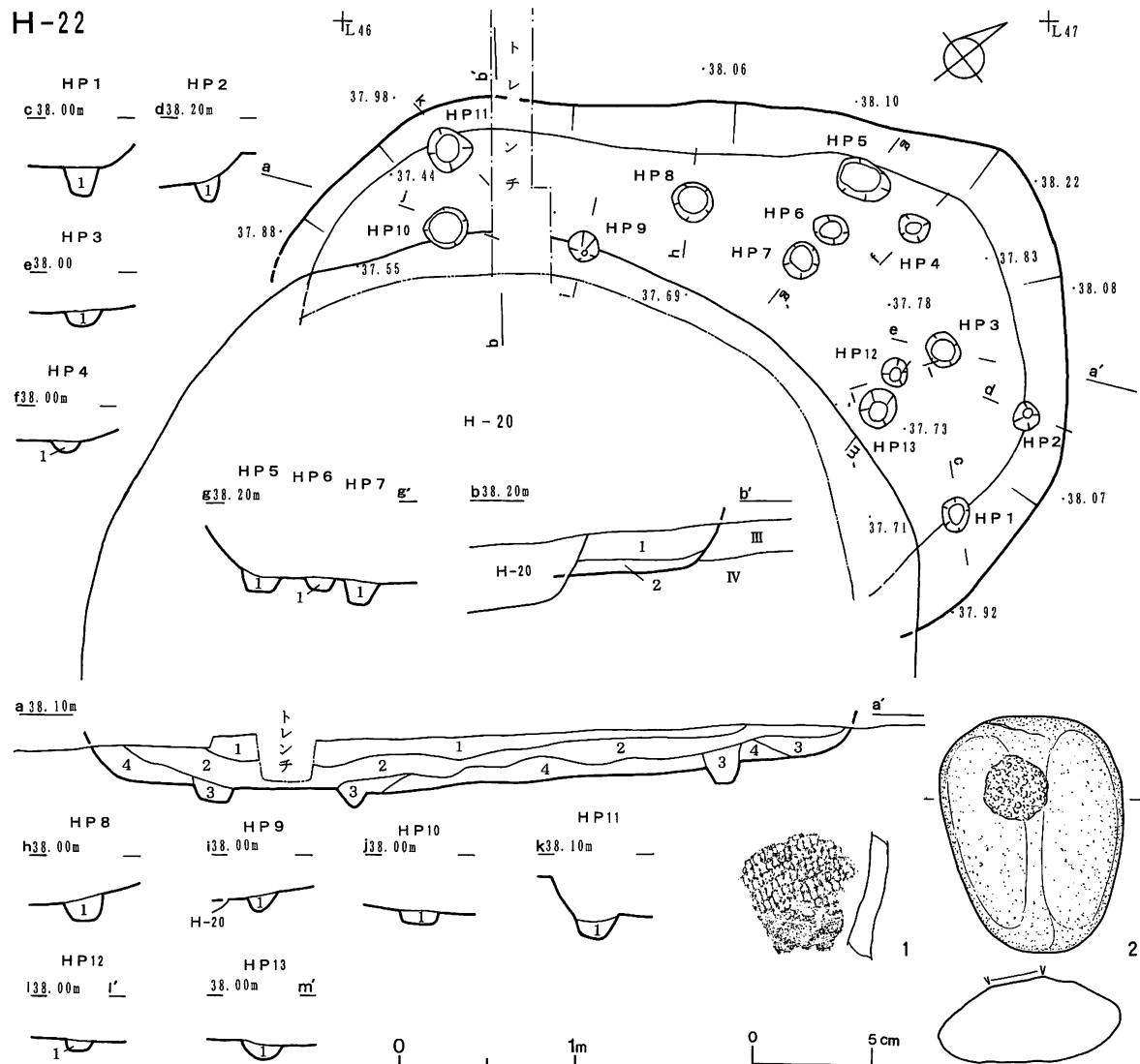
H-23 (図V-44、図版37-2・38-1)

位置・立地：N-45、調査区南西部の沢縁辺部に位置する。標高は37.0~37.2mで西側にH-21、南側にP-44・55、P-65がある。

規模：(2.35m)／-m×3.72m／-m×0.25m

平面形：円形？

- 土層：1 極暗褐色土 7.5YR2/3 III>IV 焼土粒を多量に含む。しまりあり。粘性ややあり。
 2 黒色土 7.5YR2/3 III>IV 焼土粒、炭化物粒子を微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 3 黒褐色土 7.5YR3/2 III>IV ローム粒子を少量含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。
 4 褐色土 7.5YR4/4 しまりややあり。粘性ややあり。
 5 暗褐色土 7.5YR4/4 III>IV>V しまりあり。粘性あり。
 HP 1 1 黒褐色土 10YR2/3 IV>V>III 白色土粒子を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 HP 2 1 暗褐色土 10YR3/3 III>IV>V 炭化物粒、焼土粒子、白色土粒子を微量含



図V-43 H-22

1 遺構

HP 3	1	黒褐色土	10YR2/2	Ⅲ≫Ⅳ>Ⅴ	炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。
HP 4	1	暗褐色土	10YR3/3	Ⅲ≫Ⅳ>Ⅴ	炭化物粒、焼土粒子を微量含む。しまりあり。粘性弱い。
HP 5	1	暗褐色土	10YR3/3	Ⅲ=Ⅳ>Ⅴ	焼土粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。
HP 6	1	暗褐色土	10YR3/3	Ⅲ≫Ⅳ>Ⅴ	炭化物粒、焼土粒子を微量含む。しまりややあり。粘性あり。
HP 7	1	暗褐色土	7.5YR3/3	Ⅲ≫Ⅳ>Ⅴ	しまりややあり。粘性やや弱い。

確認・調査：Ⅲ層調査中に黒褐色土の落ち込みを検出し、トレンチ調査を行ったが床面及び壁の立ち上がりを検出できなかった。そのため、ベルトを残してグリッド全体をⅣ層上面まで掘り下げた。その結果Ⅳ層上面で住居の床面を検出し、住居跡と判断して調査を行った。掘り込みは浅く、床面はほぼⅣ層上面に構築されている。床面は平坦だがやや南側に傾く。壁は検出できなかったが、土層観察用のベルト部分ではゆるやかな立ち上がりが認められた。

特徴：炉は地床炉で、床面の中央やや南東よりで検出された。ピットは7カ所検出された。掘り込みはいずれも浅い。

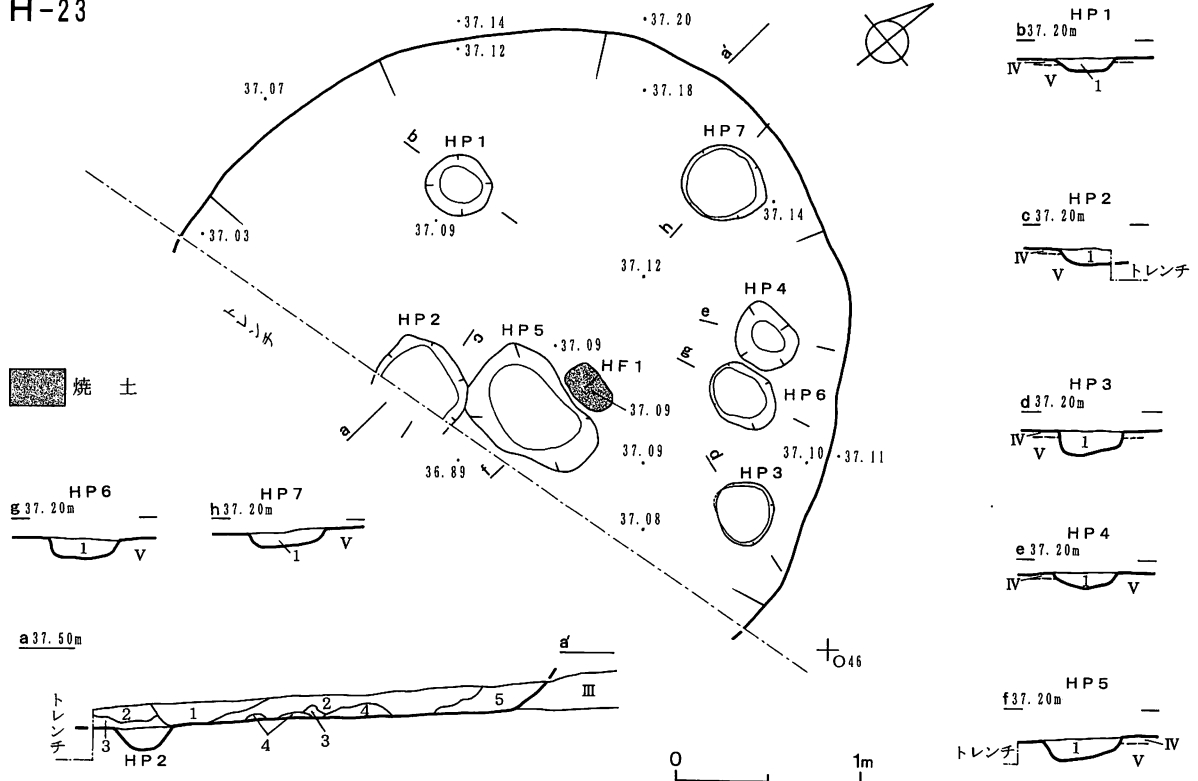
遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

H-24 (図V-45、図版38-2、39-1、126-3)

位置・立地：R・S-46・47

H-23



図V-44 H-23

規模：5.23m/4.89m×(4.9m)/3.4m×0.51m

平面形：楕円形。

確認・調査：IV層調査中に検出した。床はV層上面まで掘り込み、壁面に、壁柱穴が穿たれている。

土層：1 黒色粘質土、2 黒褐色粘質土（焼土粒を含む）、3 暗褐色土、4 暗黄褐色土、

HP1 1 褐色土、 HP2 1 褐色土、 HP3 1 褐色土、

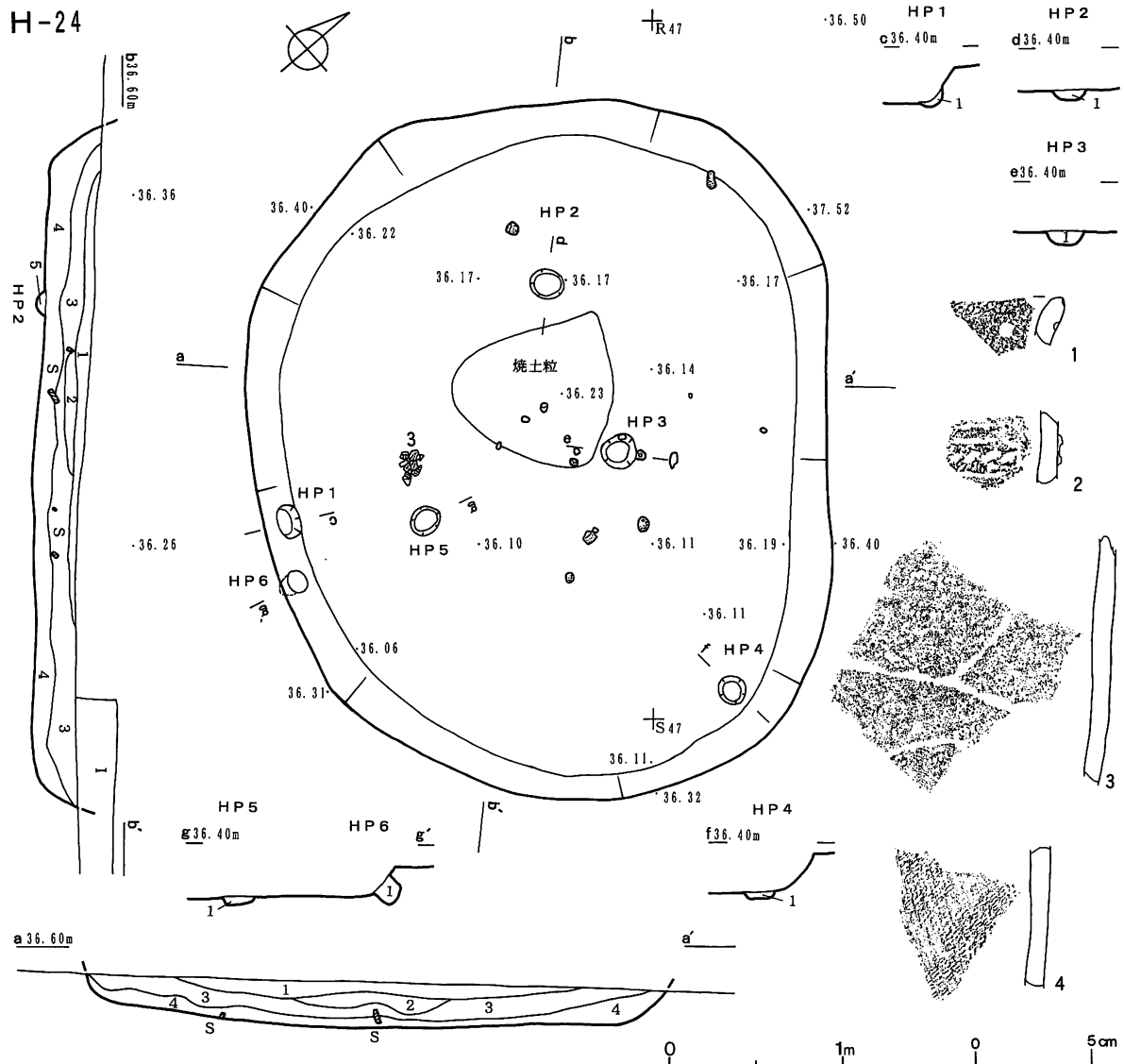
HP4 1 褐色土、 HP5 1 褐色土、 HP6 1 褐色土。

床面・壁面：床面は平坦で、壁は丸く緩やかに立ち上がる。

特徴：柱穴と考えられる小ピットが、床面の中央部に3カ所、東側の壁の傍から1カ所、南側の壁面から2カ所検出している。2カ所の壁柱穴は竪穴の中央部側に内傾する。

覆土中の焼土粒としたものは、床面より高いことから住居に伴うものではなく、この面に焼土粒混じりの土が捨てられたものと考えられる。

遺物出土状況：覆土上からⅢ群A-3類土器13点、IV群A-1類土器3点、剥片9点、たたき石1点、礫剥片2点、礫1点、焼土から剥片4点、原石1点、礫3点、覆土中からⅢ群A-3類土器2点、IV群A-1類土器4点、剥片16点、石鋸1点、礫4点、床直上から剥片2点、礫4点、床面から礫2点が



図V-45 H-24

1 遺構

出土した。

時期：出土遺物から縄文時代後期前葉IV群A-1類土器の頃に構築されたものと考えられる。（谷島）

掲載遺物：土器 全て覆土出土。1・3はⅢ群A-3類、2・4はIV群A-1類である。

1は口縁部で、刺突が加えられている。2は貼付帯をもち、貼付帯上には縄の圧痕が加えられている。3・4は胴部。3は焼成が悪く、器面は磨耗している。4は整った縄文が施されている。（広田）

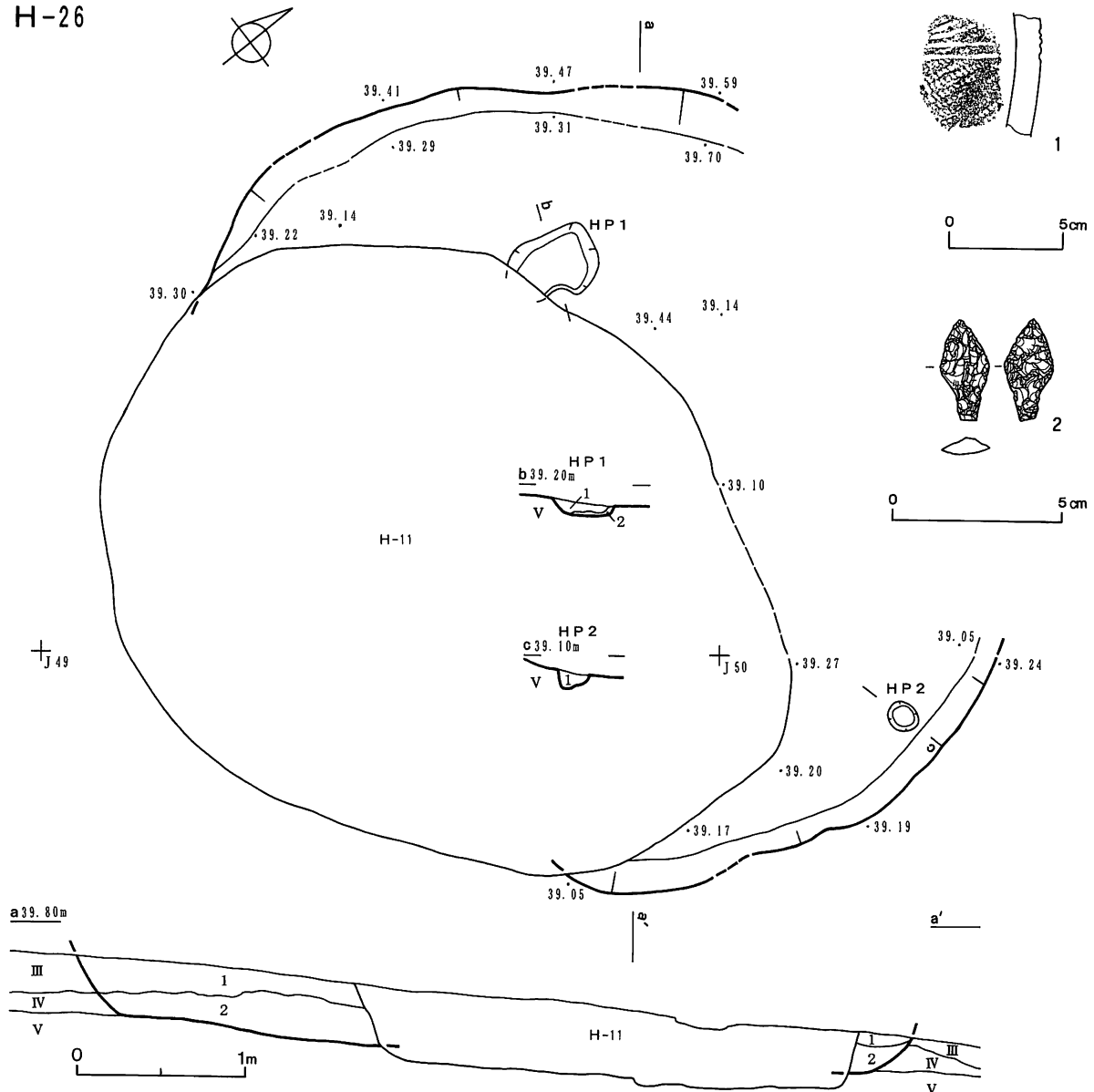
石器 図示していないが、床面直上から出土した黒曜石の剥片について、原材産地同定を依頼したところ、豊浦町豊泉産と判定された（第七章2節）。（柳瀬）

H-26（図V-46、図版39-2・40-1、126-4）

位置・立地：I・J-49・50、調査区北西部の緩斜面上に位置する。標高は39.0～39.3mであり、今回検出された住居跡の中ではH-1に次いで高い標高にある。南東部に隣接してH-19、P-99があり、南西側にはP-12・16、北東部にはP-56・59がある。

規模：5.23m/4.89m×(4.90m)/3.40m×0.51m

H-26



図V-46 H-26

平面形：不整楕円形？

土層：1 黒色 10YR2/1 Ⅲ層土主体。しまりあり。粘性あり。

2 暗褐色土 10YR3/3 Ⅲ>Ⅳ
ローム粒子少量含む。
しまりあり。粘性あり。

確認・調査：Ⅲ層調査中に焼土及び炭化物を含んだ黒色土の落ち込みを検出したため、トレンチ調査を行った。その結果2軒の竪穴式住居跡が重複して、H-11が本遺構を切って作られている事が判明した。なお、平成11年度の25%調査でI-50グリッドの調査を行った際、H-26の北東部分を削平している。遺構の大部分をH-11と削平により壊されているため、床面を検出できた部分は少ない。

特徴：ピットが2ヵ所検出されたのみである。どちらも掘り込みは浅い。HP1は平面が不整形で、HP2は位置、規模等から柱穴の可能性はある。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類、Ⅲ群A-3類土器、石鏃、ドリル、スクレイパー、剥片、すり石、礫剥片、礫が出土している。

時期：覆土出土の遺物及び周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性が高い。

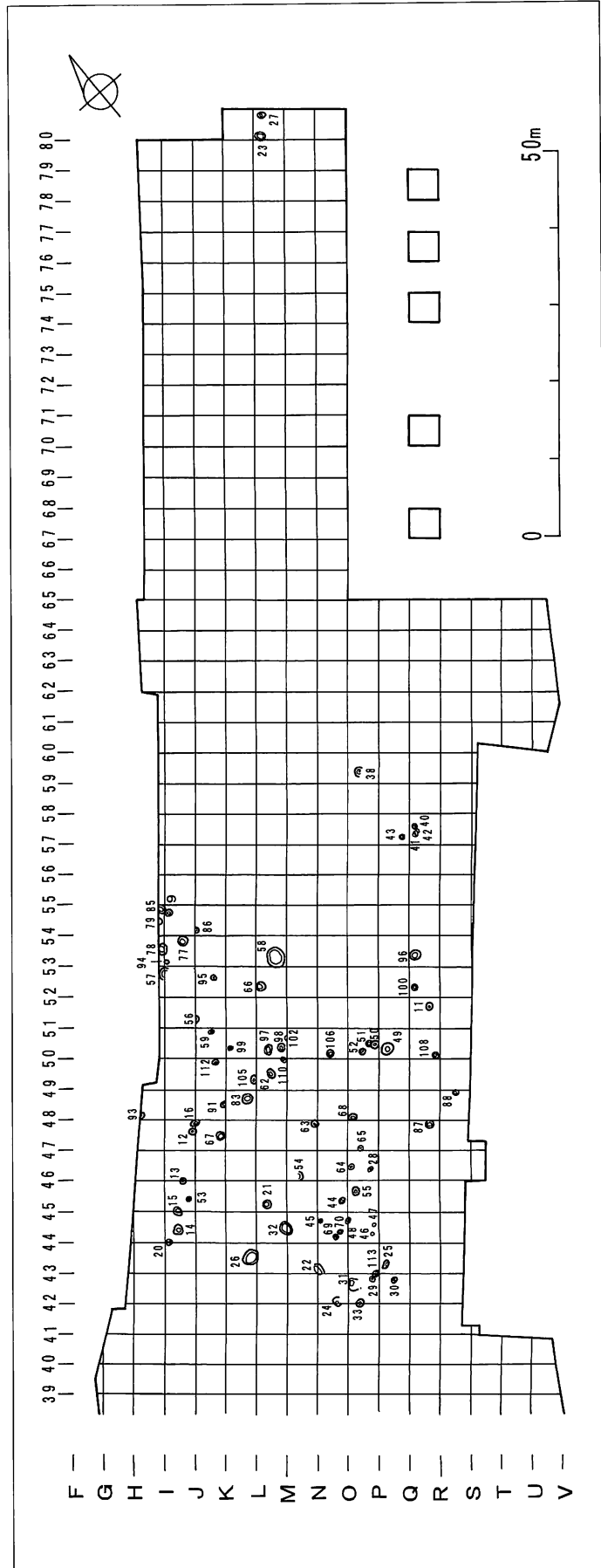
(広田)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅢ群A-3類。胴部で沈線が施されている。

(広田)

石器 2は覆土から出土した石鏃2a類で、黒曜石製。同じく覆土から出土した黒曜石製の剥片とともに、原材産地同定を依頼したところ、いずれも豊浦町豊泉産と判定された(第七章2節)。

(柳瀬)



図V-47 B地区土坑配置

1 遺構

b 土坑

P-9 (図V-48、図版49-2・3、128-1)

位置・立地：I-54

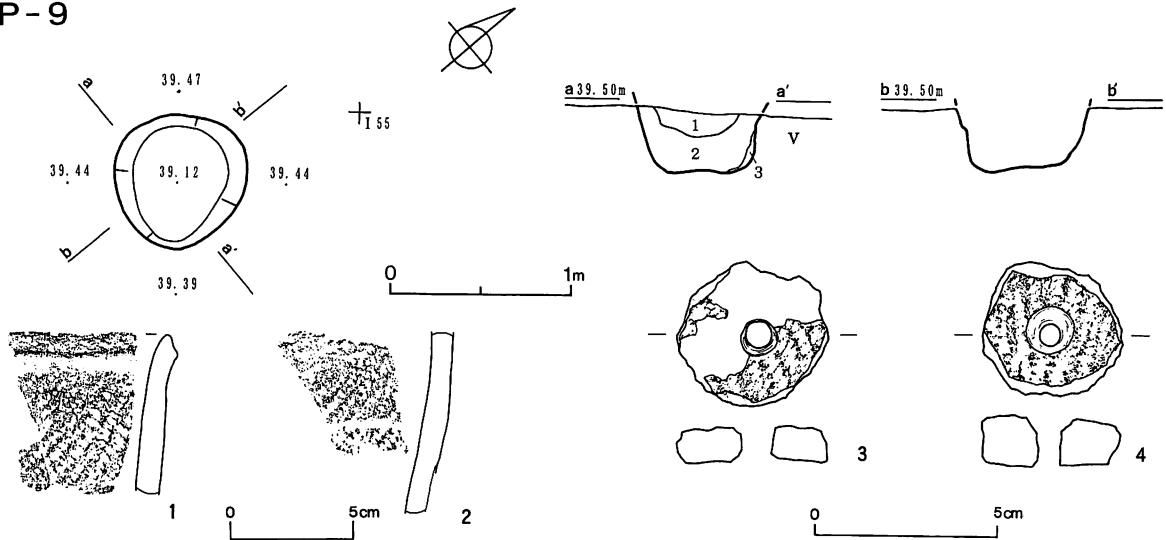
規模：0.74m/0.62m×0.72m/0.51m×0.38m

平面形：不整形円形。

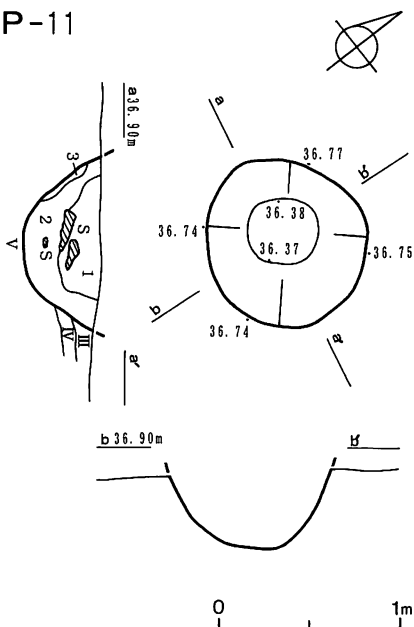
確認・調査：包含層をV層上面まで掘り下げたところで不整の円形を呈した黒色土の落ち込みを確認した。半截したところ、平坦な坑底とほぼ垂直に立ち上がる壁面を確認し、遺構と判断した。覆土は黒色の腐植土にV層がブロック状に混じった黒褐色土で占められており、埋め戻しの可能性が考えられる。掘り込み面はⅢ層中と思われる。

- 土層：1 黒色土 7.5YR2/1 粒子粗く、粘性高い。
 2 黒褐色土 7.5YR3/2 粒子粗く、粘性高い。ロームを、ブロック状に含む。
 3 明褐色土 7.5YR5/8 粒子粗く、粘性高い。V層相当。

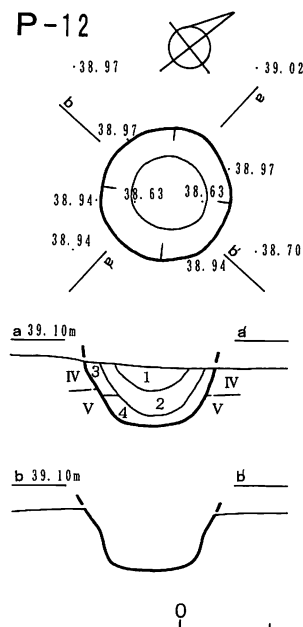
P-9



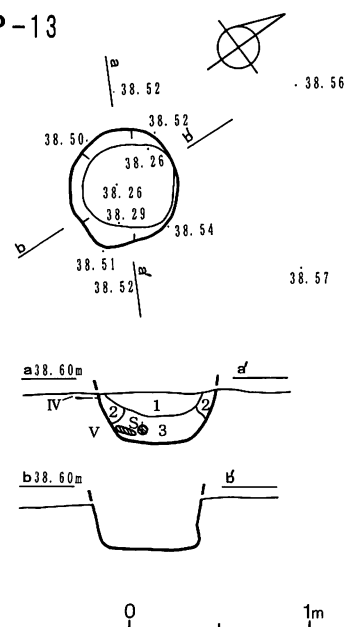
P-11



P-12



P-13



図V-48 P-9・P-11・P-12・P-13

遺物出土状況：覆土中からⅢA-3類24点、ⅢB-2類21点、ⅣA類5点、スクレイパー1点、剥片が20点出土している。

時期：出土した遺物から縄文時代中期前葉～後期前葉頃と思われる。(笠原)

掲載遺物：土器 全て覆土出土。分類はⅢ群B-2類。1は口縁部で、口唇部断面形は切り出し状で縄の圧痕が加えられている。2は胴部。RLの斜行縄文が施されている。(広田)

土製品：3・4は円板状土製品で覆土から出土している。Ⅲ群A-3類土器の胴部片を転用している。3は表面が部分的に剥離している。(広田)

P-11 (図V-48、図版50-1・2)

位置・立地：Q-51、標高36.7m付近の南東向きのごく緩やかな斜面に位置する。

規模：0.95m/0.37m×0.86m/0.39m×0.44m

平面形：平面形はほぼ円形で、比較的深い椀状の掘り込みである。

確認・調査：Ⅲ層下位で黒褐色土の落ち込みを確認した。坑底はやや丸みがあり、立ち上がりは緩やか。壁は外側へひらく。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 しまりあり。粘性あり。

2 暗灰黄褐色土 10YR4/4 径1cmのロームが粒状に混じる。しまりあり。粘性あり。

3 暗灰黄褐色土 10YR4/4 ロームが塊状に混じる。かたくしまる。粘性あり。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：覆土1層から礫4点、覆土2層から礫1点、計5点出土している。覆土1層の礫のうち2点は断面図に現れている、30cmほどの大きなものである。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性が高い。(柳瀬)

P-12 (図V-48、図版50-3・4)

位置・立地：I・J-47、標高39.0m付近の南向きのごく緩やかな斜面に位置する。P-16と隣接している。

規模：0.73m/0.40m×0.71m/0.42m×0.35m

平面形：平面形は円形、比較的深い掘り込みである。坑底はほぼ平坦で、立ち上がりは緩やか。壁はややひらく。

確認・調査：Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は埋め戻しの可能性がある。

土層：1 黒褐色土 7.5YR2/1 よくしまる。粘性あり。

2 暗灰黄褐色土 10YR3/1 黒褐色土、ローム塊がモザイク状に多く混じる。よくしまる。粘性強い。

3 黄褐色土 10YR6/6 黒褐色土がまだらに混じる。

4 灰黄褐色土 10YR4/3 径1cmのロームが塊状に混じる。よくしまる。粘性強い。

特徴：上部は削平により失われており、土層の堆積状況から墓の可能性もあるが、不明である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性が高い。(柳瀬)

1 遺構

P-13 (図V-48、図版50-5・6)

位置・立地：I-45・46、標高38.5m付近の、沢へ向かう西向きの緩斜面に位置する。

規模：0.65m/0.46m×0.59m/0.49m×0.28m

平面形：平面形ほぼ円形、比較的深い掘り込みである。

確認・調査：周辺はIV～V層まで削平されており、I層除去後のIV層で、暗褐色土の円形の落ち込みを確認した。坑底は平坦、立ち上がりは緩やかで壁はややひらくが、東側では立ち上がりが急で壁は垂直に近い。

土層：1 暗褐色土 7.5YR3/2 炭化物がわずかに混じる。ローム粒混じる。よくしまる。粘性強い。
2 黄褐色土 10YR2/6 しまりやや弱い。粘性強い。
3 灰黄褐色土 2.5YR4/2 しまりやや弱い。粘性強い。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：覆土から礫1点、覆土1層からⅢ群A-2類1点、剥片1点・覆土3層から剥片1点、礫1点、計5点出土している。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性が高い。(柳瀬)

P-14 (図V-49、図版51-1・2、128-2)

位置・立地：I-44に位置する。40ライン付近の沢へ注ぐ小沢に面した西向き斜面に立地する。標高37～38m付近。F-4をはさんで、P-15に隣接する。

規模：1.26m/0.54m×1.22m/0.61m×0.57m

平面形：平面形は検出面ではほぼ円形、壙底では隅丸長方形を呈する。深い掘り込みである。

確認・調査：斜面の包含層の調査中、Ⅲ層下位～IV層相当面で、黒褐色土の落ち込みと、それに伴う土器の集中を確認した。斜面に位置していたため、トレンチで確認した後に調査を行った。覆土は埋め戻しと思われる。なお、付近のV層は水流の影響で脱色し、黄色(2.5YR7/8)を呈していた部分がある。壙底は平坦で、立ち上がりはやや急、壁はひらく。

土層：1 黒褐色土 7.5YR1.7/1 炭化物がわずかに混じる。よくしまる。粘性強い。
2 黒褐色土 10YR4/3 よくしまる。粘性強い。
3 暗褐色土 10YR3/4 1cmほどの炭化物が多く混じる。よくしまる。粘性非常に強い。
4 暗黄褐色土 10YR4/4 3の暗褐色土と黄色ロームがまだらに混じる。かたくしまる。粘性強い。
5 暗褐色土 10YR4/3 炭化物が少量混じる。黄色ローム粒が多く混じる。よくしまる。粘性強い。
A 暗褐色土 7.5YR3/2 Ⅲ層相当。しまりあり。粘性あり。
B 暗黄褐色土 10YR3/3 Ⅲ層相当。よくしまる。粘性強い。

特徴：覆土の堆積状況および遺物の出土状況から、土壙墓と考えられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類が12点、覆土1層からⅢ群A-3類が328点、礫が2点、覆土2層からⅢ群A-3類が35点、覆土3層から礫が1点、壙底直上から礫が1点、計379点出土している。

取り上げ覆土1層はセクション図土層1、取り上げ覆土2層はセクション図土層2・3・4、取り上げ覆土3層はセクション図土層5に対応する。覆土1層出土の土器のほとんどは、検出面でまとまって出土したものである。細片が多く、磨耗が激しい。また、壙底直上の礫は、安山岩の円礫で、13.7cm×9.8cm×7.4cm、1,428gである。

時期：検出面でまとまって出土した土器から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類の時期である。（柳瀬）

掲載遺物：土器 全て覆土から出土している。全てⅢ群A-3類。

1～3は口縁部である。1は口唇部にRLの縄の圧痕が施される。2～8は水の影響のせいか脆くなっている。2は口唇部に沈線が施される。3～6・8は同一個体で、口縁～胴部にかけて2本1組の沈線により文様が描き出される。（広田）

P-15（図V-49、図版51-3・4、128-3）

位置・立地：I-44・45に位置する。40ライン付近の沢へ注ぐ小沢に面した西向き斜面に立地する。標高37～38m付近。F-4をはさんで、P-14に隣接する。

規模：1.06m/0.72m×0.90m/0.50m×0.64m

平面形：平面形は検出面では隅丸長方形、壙底では楕円形を呈する。深い掘り込みである。

確認・調査：斜面の包含層の調査中、Ⅲ層下位で黒褐色土の落ち込みを確認した。斜面に位置していたため、トレンチで確認した後に調査を行った。当初確認した黒褐色土は、遺構自体よりも北側に広がって認められたため、半截の際に遺構の大部分を掘りあげてしまうこととなった。覆土は埋め戻しと思われる。壙底は平坦で、立ち上がりは急、壁はややひらく。

- 土層：**
- | | | | |
|---|--------|---------|---|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭化物が少量混じる。よくしまる。粘性強い。 |
| 2 | 暗黄褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物がわずかに混じる。径1cmのローム粒が多く混じる。
よくしまる。粘性強い。 |
| 3 | 灰黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粒が混じる。よくしまる。粘性強い。 |
| 4 | 黄褐色ローム | | |
| 5 | 黒色土 | 10YR2/2 | ロームがまだらに多く混じる。炭化物がわずかに混じる。
かたくしまる。粘性強い。 |
| 6 | 暗黄褐色土 | 10YR4/4 | ロームがまだらに多く混じる。炭化物わずかに混じる。
よくしまる。粘性強い。 |

特徴：覆土の堆積状況と遺物の出土状況から、土壙墓と考えられる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類が6点、剥片が1点、礫が1点、覆土1層からスクレイパーが1点、剥片が1点、覆土2層から礫が1点、壙底からすり石（北海道式石冠）が1点、礫が1点、計13点出土している。壙底から出土した礫は、同じく壙底から出土しているすり石とほぼ同じ大きさの安山岩の円礫で、13.3cm×10.0cm×6.1cm、1405gである。

時期：覆土および周辺包含層の出土遺物や、隣接する遺構の時期から、縄文時代中期前半と思われる。（柳瀬）

掲載遺物：石器 1は覆土から出土したスクレイパー。8類とした。2は壙底から出土した、すり石6類：北海道式石冠の未成品。素材の中央部を、敲打による凹帯がめぐる。（柳瀬）

P-16（図V-50、図版52-1・2）

位置・立地：I・J-47・48、標高38.8m付近のごく緩やかな斜面に位置する。P-12に隣接している。

規模：0.98m/0.58m×(0.92m)/(0.50m)×0.32m

平面形：平面形はほぼ円形、比較的深い椀状の掘り込みである。

確認・調査：平成11年度トレンチ調査の際に、V層で確認した。トレンチ外に広がっていたため、南

1 遺構

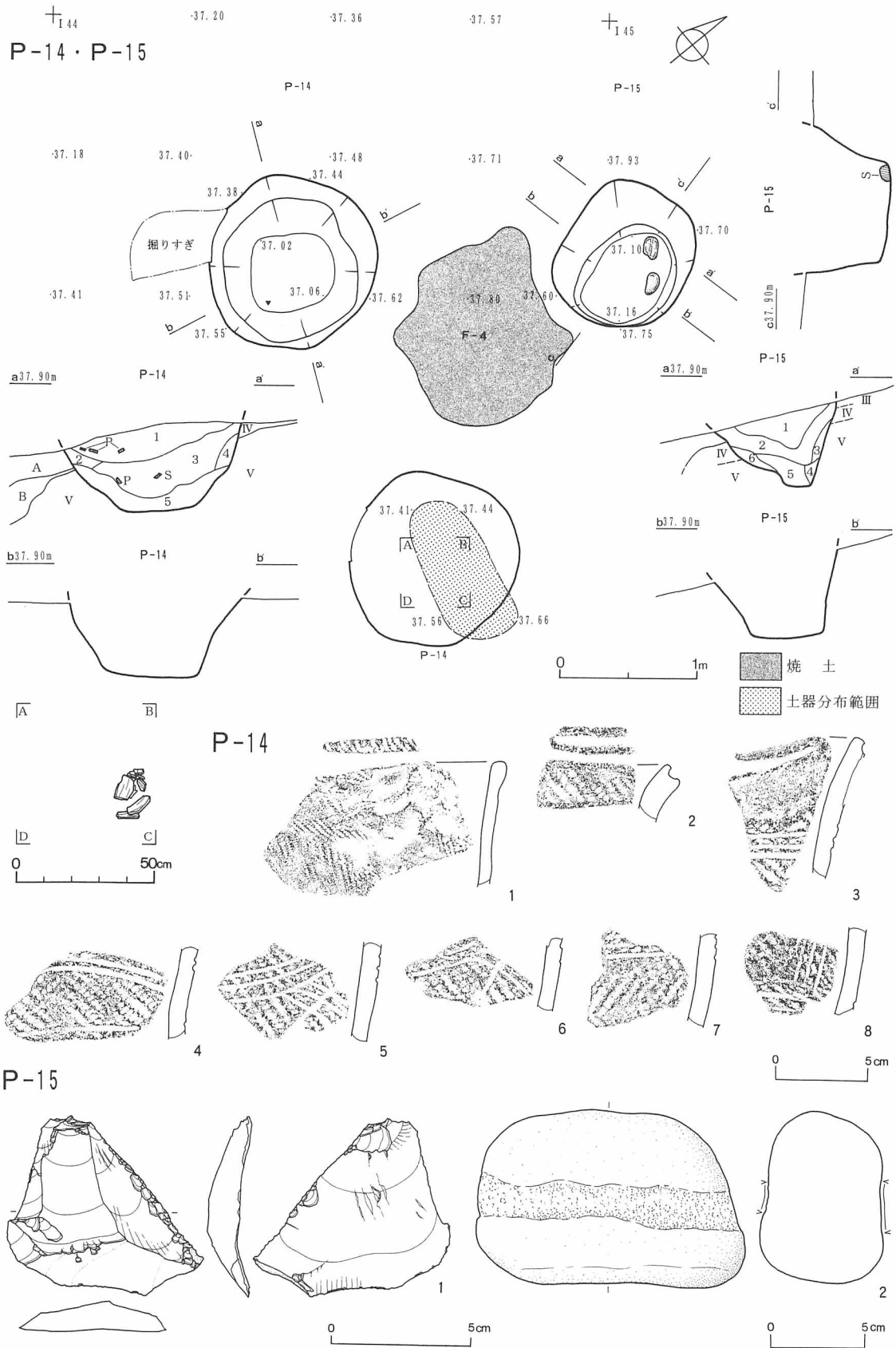


図 V-49 P-14 · P-15

東側にトレンチを拡張した。拡張時の観察の結果、掘り込み面はⅢ層下位付近と思われる。坑底は丸みがあり、立ち上がりは緩やかである。

土層：1 灰黄褐色土 10YR3/3 径1cmのローム粒がやや多く混じる。しまりよい。粘性強い。
2 明黄褐色土 10YR6/6 1とロームがモザイク状に混じる。しまりよわい。粘性強い。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。(柳瀬)

P-20 (図V-50、図版54-1)

位置・立地：I-43・44に位置する。40ライン付近の沢へ注ぐ小沢に面した西向き斜面の底付近に立地する。標高36.5~37.0m付近。

規模：(0.77m)／(0.28m)×0.80m／0.22m×0.47m

平面形：平面形はほぼ楕円形、比較的深く、段のある掘り込みである。

確認・調査：斜面の包含層の調査終了後、V層で確認した。遺構内や遺構周辺では湧水があり、そのために付近のV層は脱色されており、また、遺構覆土は全体に粘性が非常に強かった。坑底はほぼ平坦で立ち上がりは急、壁は下半で屈曲し、ひらく。

土層：1 赤褐色土 5YR4/4 しまりよい。粘性非常に強い。
2 黒色土 7.5YR2/1 しまりやや弱い。粘性非常に強い。
3 暗褐色土 10YR3/4 しまりあり。粘性非常に強い。
4 黒褐色土 2.5Y3/2 ローム粒が多く混じる。しまりあり。粘性非常に強い。
5 暗褐色土 10YR2/3 しまりあり。粘性非常に強い。
6 黄褐色土 2.5Y5/2 ローム粒が多く混じる。しまり弱い。粘性非常に強い。
7 暗褐色土 2.5Y3/3 ローム、黒色土がモザイク状に混じる。しまり弱い。粘性非常に強い。

特徴：遺構と判断したが、沢の底部付近という立地や、遺構自体の形態から、風倒木痕もしくは水流による窪みの可能性もある。性格は不明である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から縄文時代中期前半の可能性があるが、不明である。(柳瀬)

P-21 (図V-50、図版54-2・3、128-4)

位置・立地：L-45 段丘緩斜面に位置する。

規模：0.97m／0.79m×0.77m／0.63m×0.23m

平面形：平面形は楕円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：Ⅲ層中で検出した。坑底はやや丸みをもち、壁は斜めに立ち上がる。土坑の上部は耕作と調査時の掘開で消失している。掘り込み面はⅢ層中より上と考えられる。

土層：1 暗褐色粘質土。

特徴：覆土は単層で埋め戻されている。

遺物出土状況：覆土上からⅢ群A-2類が1点、Ⅲ群A-3類が1点、剥片1点、たたき石1点、すり石2点、礫2点、覆土下からⅢ群A-3類が1点、礫1点が出土した。これらの遺物は埋め戻されるときに紛れ込んだものと考えられる

1 遺構

時期：出土した遺物はこの土坑に伴うものではないが、それより新しい時期である。縄文時代中期Ⅲ群A-3類土器の時期以降で、覆土から後期ぐらいの幅で考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅢ群A-2類。胴部で、LRの斜行縄文が施されている。(広田)

石器 2は覆土から出土したたたき石1類。閃緑岩製である。(柳瀬)

P-22 (図V-50、図版54-4・5、128-5)

位置・立地：M・N-43 段丘緩斜面の間の沢に面して立地する。H-13の覆土中に位置する。

規模：1.46m/1.33m×0.69m/0.6m×0.39m

平面形：平面形は楕円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：平成11年度の調査区の壁に上半の断面を確認した。H-13と重複し、この土坑がより新しいことが判明したため竪穴住居跡に先行して調査した。坑底はやや丸みを持ち、壁は斜めに立ち上がる。覆土上部にⅢ層が堆積していることから掘り込み面はⅢ層中である。

土層：1 暗褐色粘質土、2 暗黄色粘質土。

特徴：深さは0.39mと浅めで、覆土は自然堆積している。

遺物出土状況：覆土上からⅢ群A-3類が8点、剥片1点、礫剥片1点、覆土中からⅢ群A-3類が9点、剥片2点、覆土下からスクレイパー1点、剥片1点、礫1点、覆土1からⅢ群A-3類が38点、Ⅳ群A-1が2点、剥片2点、礫2点出土した。

時期：出土遺物から縄文時代後期前半と考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅢ群A-3類。胴部で2本1組の沈線文が加えられている。(広田)

P-23 (図V-50、図版55-1・2)

位置・立地：L-80、標高39.3m付近のB地区北東端のややなだらかな斜面上に位置する。

規模：(1.23m)/0.93m×(0.95m)/0.37m×0.25m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅳ層上面で確認した。坑底はほぼ平坦で、壁面はなだらかに立ち上がる。土層の堆積状況は自然堆積である。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 Ⅲ>Ⅳ+Ⅴ (ブロック) 粒子細かい。

2 暗褐色土 10YR3/3 Ⅳ>Ⅲ+Ⅴ 粒子細かい。

3 暗褐色土 10YR3/4 Ⅴ>Ⅳ+Ⅲ 粒子細かい。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代中期～続縄文時代と考えられる。(佐藤)

P-24 (図V-50、図版55-3・4、128-6)

位置・立地：N-41・42、調査区南西部沢縁辺の緩斜面上に位置する。標高は35.8~36.0mで北側にH-13、東側にP-31・33がある。

規模：1.21m/0.39m×(0.81m)/0.46m×0.59m

平面形：不整楕円形。確認面に比べて壙底は小さい。

確認・調査：Ⅴ層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。東側の一部をB調査のトレンチによって壊されている。掘り込みは比較的深く、覆土はⅢ層土が主体である。壙底は南東側に傾斜する。壁の立ち上がりは、北側は比較的緩やかで、他は比較的急角度である。

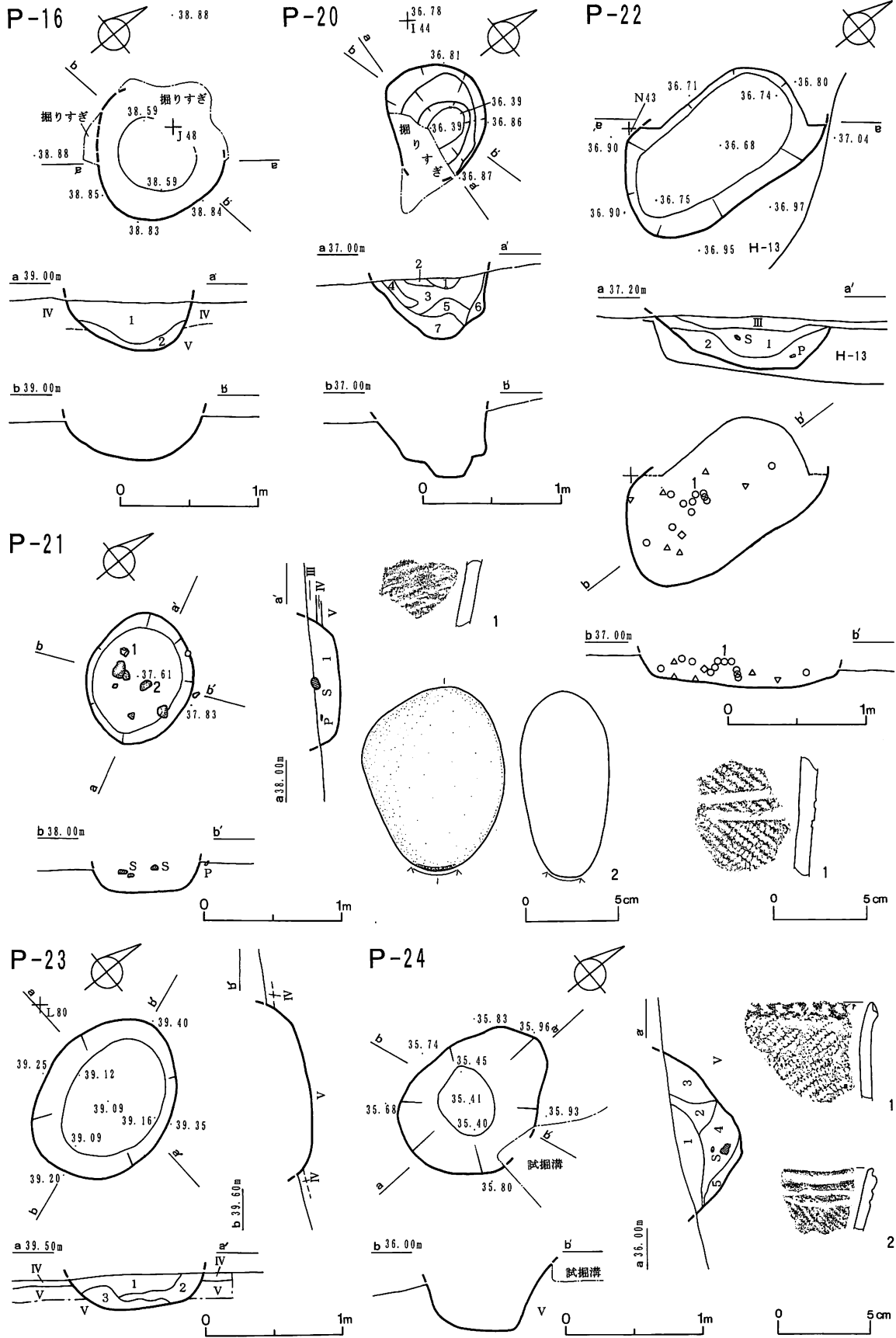


図 V-50 P-16・P-20・P-21・P-22・P-23・P-24

1 遺構

- 土層：1 暗褐色土 10YR3/3 III>IV ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 10YR3/3 III>IV>V 炭化物を微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 黒褐色土 10YR2/3 III>IV ローム粒子、ブロックを少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 黒褐色土 10YR2/3 III>IV ローム粒子を少量含む。地山の白色粘土ブロックを少量含む。しまりややあり。粘性あり。
- 5 暗褐色土 10YR3/3 III>IV=V ローム粒子を少量含む。地山の白色粘土ブロックを少量含む。しまりややあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類、Ⅲ群A-3類土器、剥片、石皿・台石、礫が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：土器 1・2は、覆土から出土している。1はⅢ群A-3類、2はⅢ群A-2類。

1・2は口縁部で、1は口唇部に縄による深い圧痕が施される。2は口唇部に沈線が施される。

(広田)

P-25 (図V-51、図版56-1・2)

位置・立地：P-43、調査区南西部、沢縁辺部に位置する。H-15と切り合っており、本遺構の方が新しい。北側約0.6mにF-14がある。

平面形：不整楕円形。壙底は南東部に偏る。

規模：1.18m/0.12m×0.59m/0.05m×0.48m

確認・調査：H-15覆土中に構築され、壙底はV層に達している。壙底は2段になっていて、深い部分は平坦面をほとんど有さない。浅い部分の壁の立ち上がりは緩やかである。検出面では遺物の平面的広がり認められなかったが、本遺構とF-14の存在から、H-15覆土中にこれらの検出面を生活面とする遺構があった可能性はある。

土層：1 黒褐色土 7.5YR2/1 III>IV 焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

2 黒褐色土 10YR2/2 III>IV ローム粒子、炭化物粒、ロームブロックを少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類土器、剥片、礫が出土している。

時期：覆土出土の遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。(広田)

P-26 (図V-51、図版56-3、129-1)

位置・立地：K-43 段丘緩斜面の間の沢に面して立地する。H-17と重複している。

規模：1.73m/1.6m×1.67m/1.42m×(0.49m)

平面形：平面形は円形、鍋状の掘り込み。

確認・調査：Ⅲ層調査時に黒色土の落ち込みを確認した。H-17に上半を壊されているが、同心円状に中央部が落ち込んでいるため、当初はH-17がベンチ状になっていると思い同時に調査を行った。土層堆積を検討した結果、2基の遺構が存在し、P-26の上半はH-17に切られていることが判明した。重複の前後関係で迷っている時に、遺物の取り上げで本来H-17に帰属する遺物をP-26出土としてしまった。

坑底は平坦で、西側の壁は斜めに立ち上がるが他の壁は垂直に立ち上がる。覆土は埋め戻されている。

- 土層：1 暗褐色土（黒褐色土＋ローム）、
 2 暗褐色土（黒褐色土にロームブロックを含む）、
 3 暗黄褐色土。

特徴：H-17よりP-26が古い時期の遺構である。

遺物出土状況：セクションベルトを境に東西南北1/4区画ごとに一部の遺物を取り上げている。西側をP-14a、北側をP-14b、東側をP-14c、南側をP-14dとした。

覆土下からⅢ群A-1類が1点、Ⅲ群A-3類が11点、つまみ付きナイフ1点、剥片2点、礫4点、P-14bの同覆土下からⅢ群A-3類が2点、P-14dの覆土上からⅢ群A-3類が2点、坑底からⅢ群A-3類が4点出土した。

下記の遺物は、P-26が新しいものとして取り上げを行ったが、H-17出土のものである。一覧表は上記のままであるが、ここで訂正する。

H-17の遺物：覆土上から剥片4点、原石1点、すり石3点、礫1点、覆土中からⅢ群A-3類が8点、スクレイパー1点、剥片1点、礫1点、P-14aの覆土上からⅢ群A-3類が5点、Ⅳ群A-1類が20点、P-14cの覆土上からⅢ群A-3類が8点、P-14bの覆土上からⅢ群B-2類が8点、Ⅳ群A-1類が1点、P-14dの覆土上からⅢ群A-3類が2点である。掲載遺物の中で覆土上および中となっているものについても、H-17出土の遺物である。確認が遅れ、掲載に混乱があることをお詫びし、訂正いたします。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類期に構築されたものと考えられる。（谷島）

掲載遺物：土器 全て覆土出土で、1はⅢ群A-2類、2・3はⅢ群A-3類。

1～3は口縁部。1は横走気味の斜行縄文が施される。2・3は同一個体で、口唇直下及びそれから垂下する貼付帯が施され、貼付帯には半截竹管状工具内面による連続刺突が加えられている。

（広田）

石器 4・6は覆土下層、5は覆土中層、7は覆土上層から出土したもの。4はつまみ付きナイフ1c類。5はスクレイパー1a類。6・7はすり石。6は2類で、平坦面にはたたき痕がみられる。7は5類：半円状扁平打製石器。（柳瀬）

P-27（図V-52、図版56-4・5）

位置・立地：L-80、標高39.4m付近の、B地区北東端のややなだらかな斜面上に位置する。

規模：(0.77m)／0.43m×(0.72m)／0.43×(0.24m)

平面形：楕円形。

確認・調査：V層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。坑底は中央がくぼみ、壁面はなだらかに立ち上がる。土層の堆積状況は自然堆積である。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。

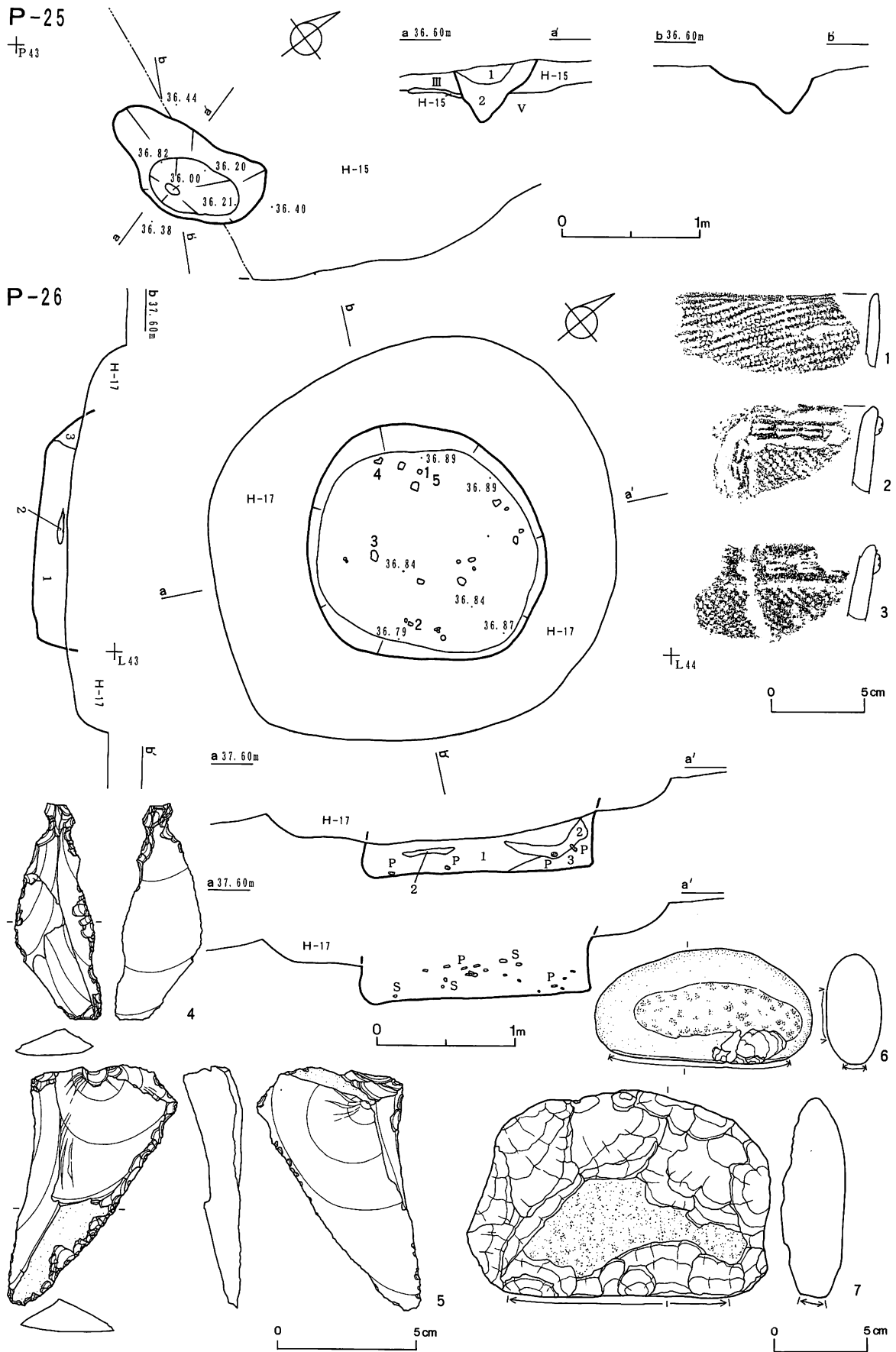
土層：1 黒褐色土 10YR2/3 Ⅲ≫Ⅳ 粒子細かい。しまりあまりなし。

2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 Ⅳ+Ⅴ 粒子細かい。しまりあまりなし。

遺物出土状況：2層上面で礫が出土した。

時期：縄文時代中期～続縄文時代と考えられる。（佐藤）

1 遺構



図V-51 P-25・P-26

P-28 (図V-52、図版57-1・2)

位置・立地：O-32、標高36.8m付近の、ごく緩やかな南向きの斜面に位置する。周辺には規模の近いP-64・65や、柱穴状小ピットがまとまって分布する。

規模：0.65m/0.43m×0.48m/0.32m×0.17m

平面形：平面形は楕円形で、比較的浅い掘り込みである。

確認・調査：IV層で確認した。坑底は平坦で立ち上がりは緩やか、壁はややひらくようである。

土層：1 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒、炭化物が混じる。しまりやや弱い。粘性強い。

2 黄褐色土 10YR5/6 黒色土がブロック状に混じる。しまりやや弱い。粘性強い。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半から後期前半の可能性はある。(柳瀬)

P-29 (図V-52、図版57-3・4、129-2)

位置・立地：P-42、調査区南西部、沢縁辺部に位置する。標高は36.1~36.2mで、北東側にH-15、F-14、東側にP-25、南西側にP-25、西側にP-31・33がある。

規模：0.60m/0.11m×0.58m/0.10m×0.55m

平面形：不整形。壙底部は狭く、北東側に偏る。

確認・調査：IV層中位で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積である。III層土が主体で、坑底付近の層ではV層土の割合が多くなる。坑底は平坦面をほとんど有さず、壁の立ち上がりは全体的に急である。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 III>>IV ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性あり。

2 暗褐色土 10YR3/4 III>>IV ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。

3 暗褐色土 7.5YR3/4 IV>V しまりあり。粘性あり。

4 暗褐色土 7.5YR3/4 III>IV ロームブロックを少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

遺物出土状況：覆土中位から遺物がややまとまって出土している。覆土からIII群A-2類、III群A-3類土器、石核、剥片、礫剥片、礫が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半III群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

掲載遺物：石器 1は覆土から出土した石核である。(柳瀬)

P-30 (図V-52、図版57-5・6、129-3)

位置・立地：P-42、調査区南西部、沢縁辺部に位置する。標高は36.0~36.2mで、北側にH-15、P-25、北東側にP-31、東側にH-5がある。

規模：0.75m/0.20m×0.53m/0.14m×0.22m

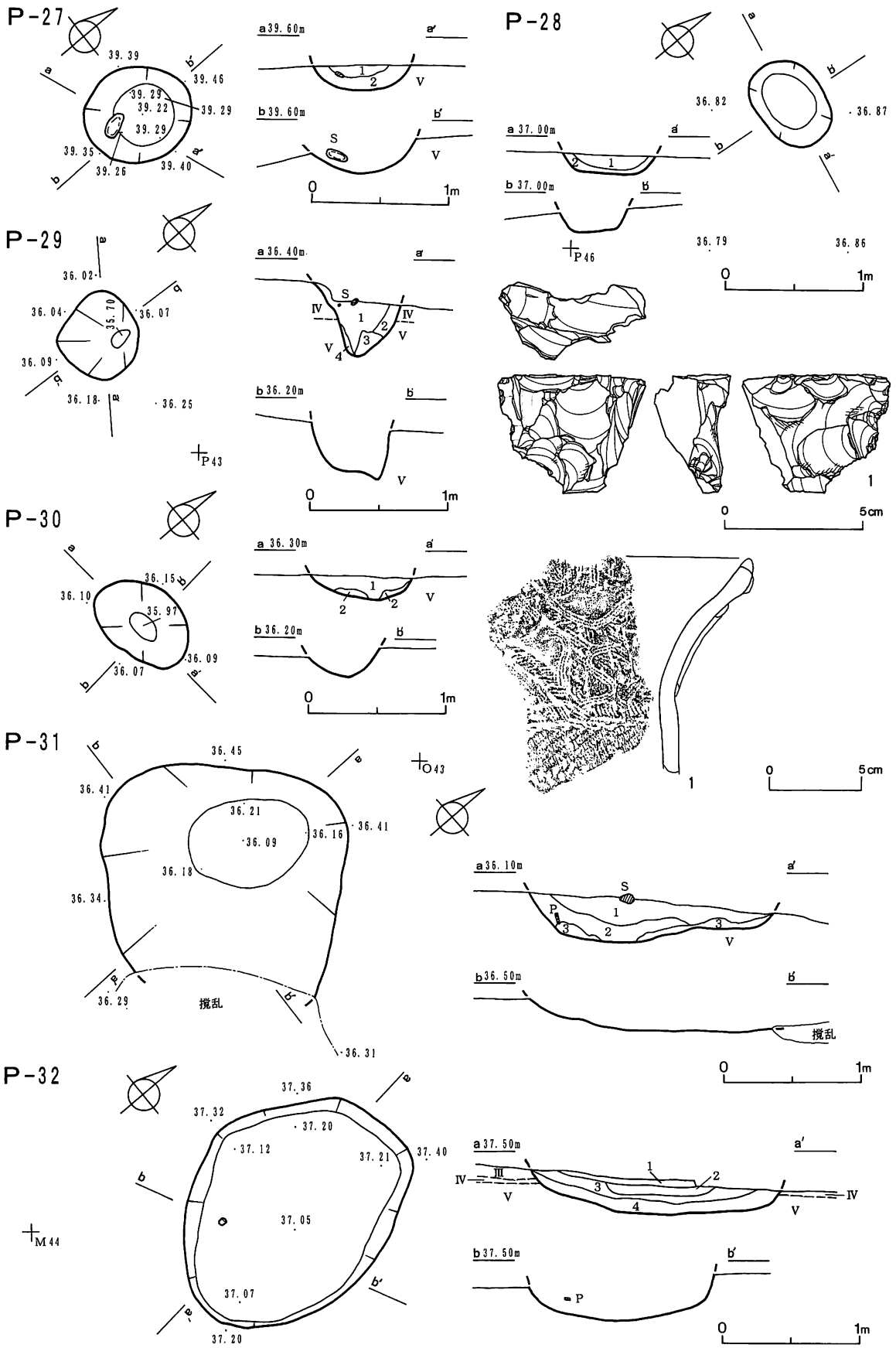
平面形：やや不整の楕円形。坑底も楕円形である。

確認・調査：V層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。掘り込みは浅く、覆土は自然堆積である。覆土2層はV層ローム主体の層である。坑底は浅く湾曲し、壁の立ち上がりは緩やかで、坑底と壁の境は不明瞭である。

土層：1 暗褐色土 7.5YR3/3 III>IV ローム粒、炭化物粒、焼土粒子を少量含む。しまりやや弱い。粘性弱い。

2 褐色土 7.5YR4/4 V>>IV>III ローム主体の層。しまりあり。粘性あり。

1 遺構



☒ V-52 P-27 · P-28 · P-29 · P-30 · P-31 · P-32

遺物出土状況：覆土から、Ⅲ群A-2類土器、礫剥片、礫が出土している。坑底からは、Ⅲ群A-3類土器、剥片が出土している。

時期：坑底出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性が高い。（広田）

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅢ群A-2類。弁状の突起をもつ口縁部で、口縁部及び文様帯下端は細い縄の圧痕が加えられた貼付帯で区画され、文様帯内には同様の貼付と3本一組の細い縄の圧痕が加えられている。（広田）

P-31（図V-52、図版58-1・2）

位置・立地：O-42、調査区南西部、沢縁辺部に位置する。標高は36.3~36.4mで、北側にH-13、F-18、西側にP-24、東側にH-15、P-31、南側にP-33がある。

規模：1.75m/0.83m×(1.43m)/0.63m×0.37m

平面形：隅丸方形？坑底は不整の楕円形で、北側に寄る。

確認・調査：V層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。南東側は一部攪乱によって壊されている。覆土はⅢ層土主体で自然堆積である。坑底はわずかに北側が深くなる。壁の立ち上がりは緩やかで、特に西側は緩やかである。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 Ⅲ>>Ⅳ ロームブロック、炭化物を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

2 黒色土 10YR2/1 Ⅲ>>Ⅳ 炭化物を少量、焼土粒を微量含む。しまりあり。粘性あり。

3 黒褐色土 7.5YR2/2 Ⅲ>Ⅳ=Ⅴ V層はブロック状。しまりあり。粘性やや弱い。

遺物出土状況：覆土から、Ⅳ群A-1類土器、剥片が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代後期前葉Ⅳ群A-1類土器の時期の可能性が高い。（広田）

P-32（図V-52、図版58-3、59-1）

位置・立地：L・M-44 段丘緩斜面に立地する。

規模：1.85m/1.72m×1.45m/1.28m×0.52m

平面形：平面形は楕円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：Ⅲ層中で検出した。坑底はやや丸みを持ち、壁は斜めに立ち上がる。土坑の上部は耕作と調査時の掘開で消失している。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。

土層：1 暗茶褐色土（H-2またはH-20の掘り揚げ土と考えられる）、

2 黒褐色土（少量の黄褐色土を含む）、

3 暗黄褐色土（黒褐色土と黄褐色土が斑状に混合）、

4 暗黄褐色土（少量の黒褐色土を含む）。

特徴：覆土は埋め戻され上部にH-2またはH-20の掘り揚げ土が覆う。

遺物出土状況：覆土上からⅢ群A-3類が2点、剥片1点、礫3点、覆土1からⅢ群A-3類が1点出土した。これらの遺物はH-2またH-20が構築時のものと思われP-32に伴うものではない。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類期以前に構築されたものと考えられる。（谷島）

P-33（図V-53、図版59-2・3）

位置・立地：O-41・42、調査区南西部、沢の稜線付近の斜面に位置する。標高は35.8~36.0mで北側約13mにP-31がある。

1 遺構

規模：1.03m/0.13m×0.87m/0.13m×0.52m

平面形：やや不整の楕円形。坑底はほぼ円形で、やや東側に寄る。

確認・調査：V層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積で、Ⅲ層土が主体である。坑底は緩く湾曲し、壁との境は不明瞭である。壁の立ち上がりは全体的に緩やかで、東側は特に緩やかである。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 Ⅲ>>Ⅳ ローム粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

2 暗褐色土 7.5YR3/4 Ⅲ>Ⅳ 炭化物粒子、焼土粒子ロームブロックを少量含む。

3 黒褐色土 10YR3/2 Ⅲ=Ⅳ ロームブロックを少量含む。しまりあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土から、Ⅲ群A-2類土器が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-2類土器の時期の可能性が高い。(広田)

P-38 (図V-53、図版61-2・3、129-6)

位置・立地：O-59、標高37.5mの南東向きのごく緩やかな斜面に位置する。

規模：1.11m/0.79m×(0.68m)/(0.29m)×0.43m

平面形：平面形は隅丸方形。比較的深い掘り込みである。

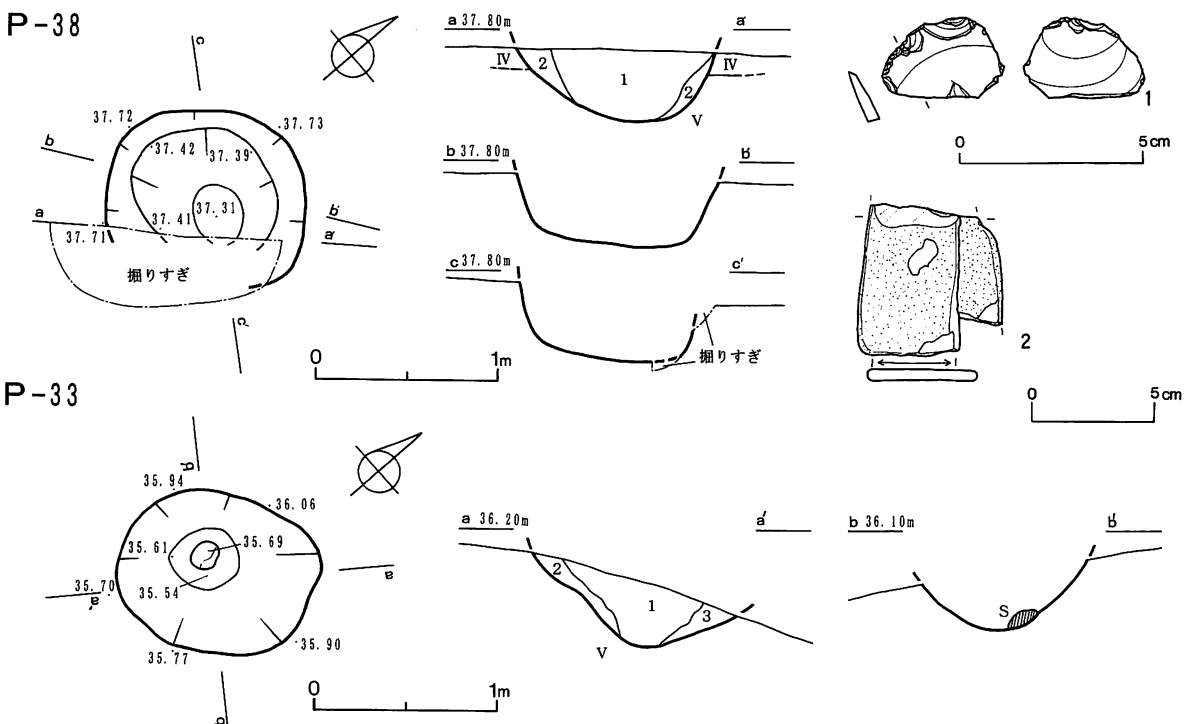
確認・調査：Ⅳ層で確認した。覆土は埋め戻しの可能性がある。坑底は部分的に窪んでいる。立ち上がりは丸みがあり、壁はひらく。

土層：1 黒褐色土 7.5YR3/2 ローム粒、焼土粒が少量混じる。

2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 しまりよい。粘性あり。ロームがモザイク状に混じる。

特徴：覆土の堆積状況から土壌墓の可能性もあるが、不明である。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類が2点、Ⅲ群A-3類が3点、Rフレイク1点、剥片2点、砥石1点、礫4点、計13点出土している。



図V-53 P-33・P-38

時期：出土遺物および周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。 (柳瀬)
掲載遺物：石器 1・2はともに覆土から出土したもの。1はRフレイク、2は凝灰岩製の砥石である。 (柳瀬)

P-40 (図V-54、図版62-2・3)

位置・立地：Q-57に位置する。M-55からR-54付近のゆるい沢地形に面する南向きの緩斜面に立地する。標高37.0m付近。周辺に、規模の近いP-41~43が分布する。

規模：(0.52m)／(0.31m)×0.54m／0.25m×0.36m

平面形：平面形はほぼ円形。比較的浅い掘り込みである。

確認・調査：周辺の包含層調査終了後、V層で確認した。覆土は埋め戻しである。掘り込み面はⅢ層中と考えられることから、本来は検出したより深い土壌であると思われる。壙底は丸みがあり、立ち上がりは緩やかで壁はやや開くようである。

土層：1 褐色土 10YR4/6 焼土粒、炭化物多く混じる。しまりあり。粘性あり。

特徴：上部は削平してしまっており、壙底付近のみが残存しているものと思われる。覆土の堆積状況と付近の遺構との関連から、土壌墓であると思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半と思われる。 (柳瀬)

P-41 (図V-54、図版62-4・5)

位置・立地：Q-57に位置する。M-55からR-54付近のゆるい沢地形に面する南向きの緩斜面に立地する。標高37.0m付近。P-42と重複しており、これより古い。また、周辺には規模の近いP-40・42・43が分布する。

規模：(0.52m)／(0.31m)×0.54m／0.25m×0.36m

平面形：平面形はほぼ円形、比較的深い掘り込みで、北側には段がある。

確認・調査：周辺の包含層調査終了後、V層で確認した。当初、P-42よりやや黒っぽい覆土であった本遺構のみを確認し調査を行い、完掘したところ、P-42に伴う石製品と、壁面にP-42の覆土を確認した。壙底がほぼ同レベルであったが、平面形と覆土の相違から重複する遺構であると判断した。完掘途中に本遺構が古いことを確認した。覆土は埋め戻しである。掘り込み面はⅢ層中と考えられることから、本来は検出したものより深い土壌であると思われる。壙底は丸みがあり、立ち上がりは緩やか。壁はややひらくが、北側では屈曲し段をなし、南側ではややオーバーハングする。

土層：1 暗灰黄色土 2.5YR4/2 ローム粒が多く混じる。焼土粒・炭化物わずかに混じる。しまり弱い。粘性強い。

2 黄褐色土 2.5YR5/6 ローム主体。炭化物わずかに混じる。しまり弱い。粘性強い。

3 暗褐色土 10YR3/3 炭化物わずかに混じる。しまり弱い。粘性強い。

特徴：上部は削平してしまっており、下半が残存しているものと思われる。覆土の堆積状況と付近の遺構との関連から、土壌墓であると思われる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類が4点、剥片が1点、礫が1点、計3点出土している。

時期：出土遺物および周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半と思われる。 (柳瀬)

1 遺構

P-42 (図V-54、図版63-1~3、130-1)

位置・立地：Q-57に位置する。M-55からR-54付近のゆるい沢地形に面する南向きの緩斜面に立地する。標高37.0m付近。P-41と重複しており、これより新しい。また、周辺には規模の近いP-40・43が分布する。

規模：(0.46m)／(0.35m)×0.40m／0.25m×0.33m

平面形：平面形ほぼ円形、比較的深い掘り込みである。

確認・調査：V層で、P-41調査中に確認した。当初、P-41のみを確認し、その完掘途中で、本遺構に伴う石製品と、壁面で本遺構の覆土を確認した。P-41の項のとおり、壙底がほぼ同レベルではあったが、別遺構と判断した。完掘中に本遺構が新しいことと石製品が本遺構に伴うことを確認した。覆土は埋め戻しである。掘り込み面はⅢ層中と考えられることから、本来は検出したものより深い土壙であると思われる。

土層：1 黄褐色土 2.5YR6/6~5/4 ローム主体。灰褐色土粒・炭化物が少量混じる。しまりは強い部分、弱い部分あり。粘性強い。

2 オリーブ褐色土 10YR4/3 ローム粒を多く混じる。炭化物が少量混じる。しまり弱い。粘性強い。

特徴：上部は削平してしまっており、下半が残存しているものと思われる。覆土の堆積状況と遺物の出土状況、付近の遺構との関連から、土壙墓であると思われる。

遺物出土状況：壙底から石製品が1点出土しており、副葬品と思われる。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半と思われる。(柳瀬)

掲載遺物：石製品 1は壙底から出土した砂岩製の石製品。全体に上端が窪む三角板状に整形され、左右の辺には、刻みと突起が施される。4ヵ所の穿孔は両面から行われている。全体の整形は、板状礫の両面をすって行われているようで、図の背面には素材に由来するくぼみと溝が残る。断面形はほぼ全周が角形に近く整形され、左右の辺の中央の突起の下側2cmほどは、突起の作出のためか、先細りである。非常にもろい砂岩製であったため、保存処理を行った。作業は当センター1部1課が担当し、OH100を30cmHgで減圧含浸した。(柳瀬)

P-43 (図V-54、図版63-4・5、130-2)

位置・立地：P-57に位置する。M-55からR-54付近のゆるい沢地形に面する南向きの緩斜面に立地する。標高37.0m付近。周辺に、規模の近いP-40~42が分布する。

規模：0.56m／0.38m×0.56m／0.53m×0.16m

平面形：平面形はほぼ円形、比較的浅い掘り込みである。

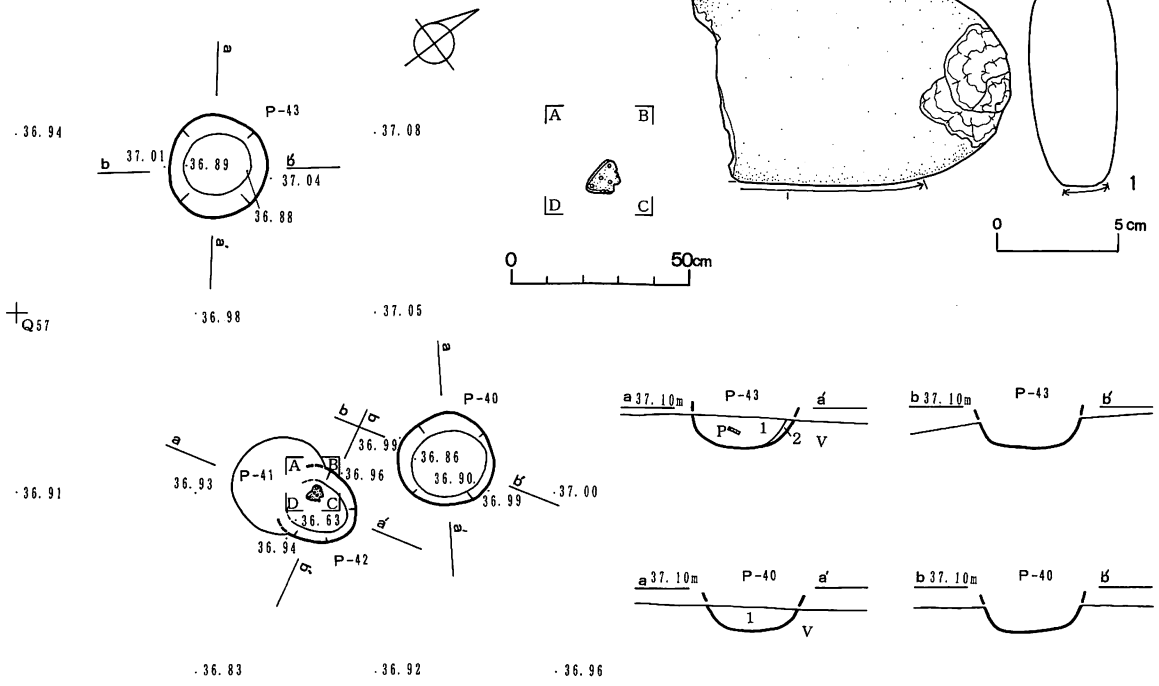
確認・調査：周辺の包含層調査終了後、V層で確認した。掘り込み面はⅢ層中と考えられることから、本来は検出したより深い土壙であると思われる。壙底は丸みがあり、立ち上がりは緩やかで壁はやや開くようである。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・焼土粒・ローム粒が多く混じる。しまりあり。粘性ややあり。

2 黄褐色土 2.5YR5/4 炭化物・ロームブロックが混じる。しまりあり。粘性あり。

特徴：上部は削平してしまっており、下半が残存しているものと思われる。隣接するP-40~42は規模がほぼ同じであり、これらと同様土壙墓の可能性もあるが、覆土の堆積状況が異なることから、断言はできない。

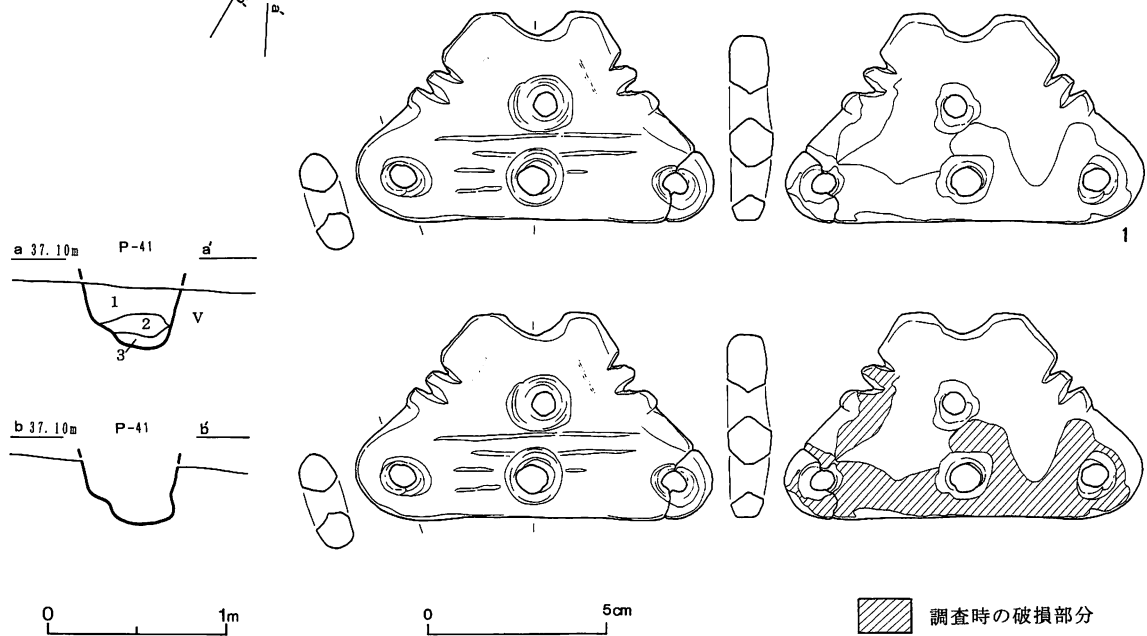
P-40 P-41 P-42 P-43



P-41



P-42



図V-54 P-40・P-41・P-42・P-43

1 遺構

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類が11点、Uフレイクが1点、すり石が1点、礫が1点、計14点出土している。

時期：出土土器と周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半と思われる。(柳瀬)

掲載遺物：石器 1は覆土から出土したすり石4類である。(柳瀬)

P-44 (図V-55、図版63-4・5、130-3)

位置・立地：N-45、調査区南西部、沢縁辺の緩斜面上に位置する。標高は36.9mで、H-23と隣接する。

規模：0.57m/0.30m×0.42m/0.23m×0.15m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：V層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。本遺構はH-23と切り合っているが、新旧関係は不明である。また、H-23に伴うピットの可能性もある。覆土は自然堆積と考えられる。坑底はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは、南側はやや急角度で、他は緩やかで坑底との境は不明瞭である。

土層：1 暗褐色土 10YR3/3 Ⅲ=Ⅳ ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。

2 褐色土 7.5YR4/4 V≫Ⅳ しまり非常にあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類、Ⅲ群A-3類、Ⅲ群B-2類土器、すり石が出土している。

時期：覆土出土の遺物と、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性が高い。(広田)

掲載遺物：土器 1・2は覆土出土で、分類はⅢ群A-3類である。1は口縁部で、LRの斜縄文が施される。2は胴部で横方向に沈線が施されている。(広田)

石器 3は覆土から出土したすり石6類：北海道式石冠。上端部とにぎり部にのみ敲打が加えられる。(柳瀬)

P-45 (図V-55、図版64-2・3)

位置・立地：N-44、調査区南西部、沢縁辺の緩斜面上に位置する。標高は36.9mで、南東側にF-31がある。

規模：0.40m/0.27m×0.37m/0.20m×0.13m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：V層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土は1層でⅢ層土主体である。坑底は全体的に平坦だが、南東側に少し傾く。壁の立ち上がりは全体的にやや急で、北側は特に急である。

土層：1 黒色土 10YR2/1 Ⅲ≫Ⅳ ロームブロック、焼土粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土から、Ⅲ群A-3類土器、礫剥片、礫が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

P-46 (図V-55、図版64-4・5)

位置・立地：O-44、調査区南西部、沢縁辺の緩斜面上に位置する。標高は36.6~36.7mで南側にH-15、東側にP-47がある。

規模：0.42m/0.16m×0.40m/0.21m×0.14m

平面形：不整円形。

確認・調査：V層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積と考えられ、2層からなる。坑底面はやや湾曲し、壁との境は不明瞭である。壁の立ち上がりは全体的に緩やかである。

土層：1 暗褐色土 7.5YR3/3 III>IV ローム粒子を少量含む。炭化物粒子を微量含む。しまりややあり。粘性あり。

2 褐色土 7.5YR4/4 IV>III=V しまりあり。粘性あり。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性が高い。(広田)

P-47 (図V-55、図版64-5・65-1)

位置・立地：O-44、調査区南西部、沢縁辺の緩斜面上に位置する。標高は36.7mで南西側にH-15、東側にP-46がある。

規模：0.44m/0.13m×0.31m/0.17m×0.14m

平面形：不整形。

土層：1 極暗褐色土 7.5YR2/3 焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。

2 極暗褐色土 7.5YR2/3 1とほぼ同じだが、ロームブロックを少量含む。

確認・調査：V層上面で極暗褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積で、III層土が主体である。坑底は緩やかに湾曲し、壁との境は不明瞭で全体の断面は碗状を呈する。壁の立ち上がりは比較的急である。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性が高い。(広田)

P-48 (図V-55、図版65-2・3)

位置・立地：O-44・45、調査区南西部、沢縁辺の緩斜面上にある。標高は36.7mで北東側にP-69・70がある。

規模：0.57m/0.08m×0.49m/0.06m×0.25m

平面形：不整形の長楕円形。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV ロームブロックを少量含む。しまりあり。粘性あり。

2 褐色土 7.5YR4/4 III>IV しまりあり。粘性あり。

確認・調査：V層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積で、2層からなる。坑底北東端に柱穴状の深い小さな円形の掘り込みがある。土層断面では切り合い関係は確認されなかった。坑底はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは全体的に緩やかである。

遺物出土状況：覆土から、III群A-3類土器、剥片が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半 III群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

P-49 (図V-55、図版65-4、66-1、130-4)

位置・立地：P-50 段丘緩斜面上に立地する。

規模：1.64m/0.77m×1.5m/0.69m×45m

平面形：平面形は円形、碗状の掘り込み。

確認・調査：III層中で検出した。坑底は丸く、壁は斜めに立ち上がる。土坑の上部は耕作と調査時の掘開で消失している。掘り込み面はIII層中と考えられる。

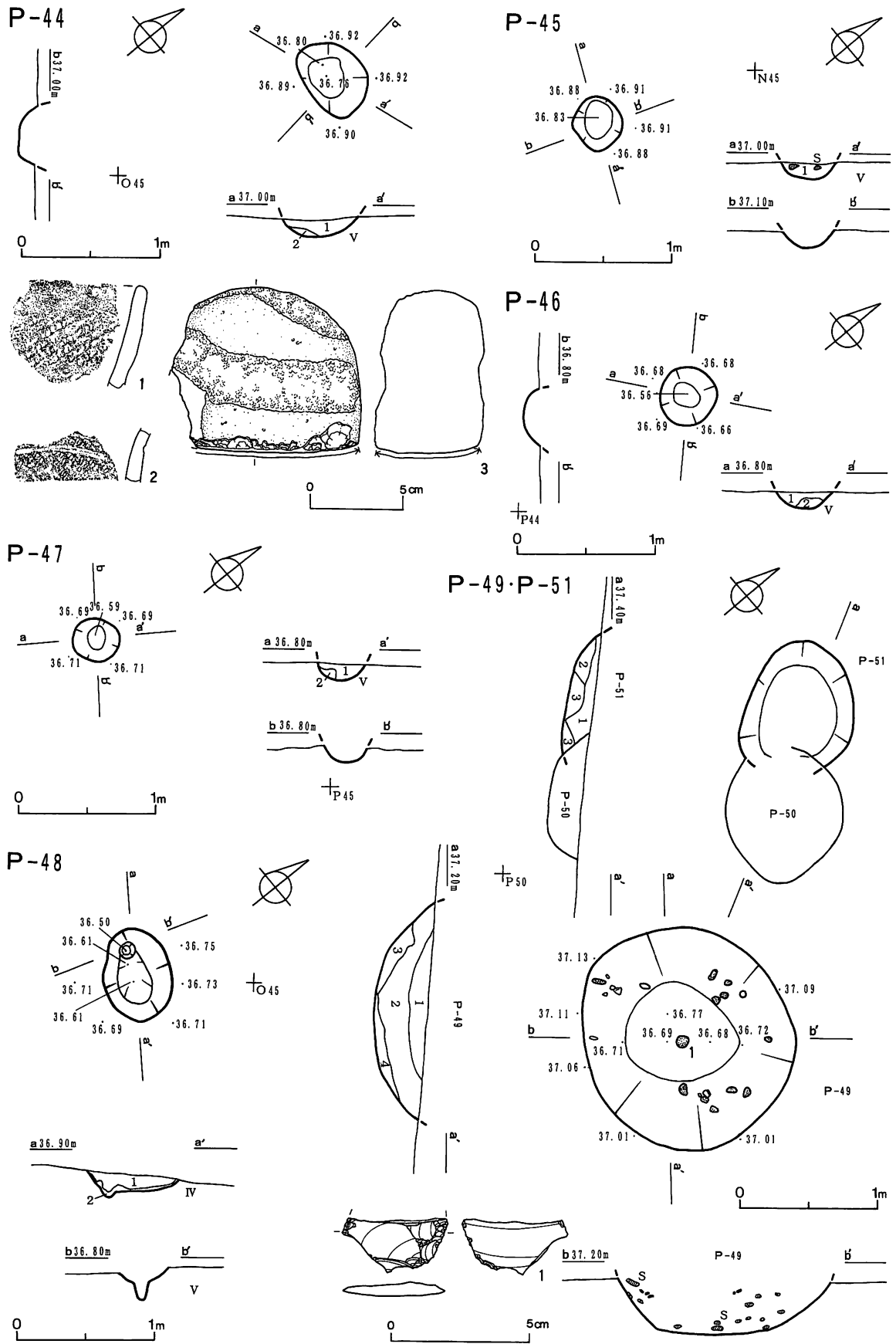


図 V-55 P-44・P-45・P-46・P-47・P-48・P-49・P-51

土層：1 黒褐色粘質土、2 黒色土、3 暗褐色土、4 暗黄褐色土。

特徴：覆土は自然堆積している。

遺物出土状況：覆土から剥片2点、覆土上から石皿・台石1点、覆土中からⅢ群A-3類が1点、礫10点、覆土底からⅢ群A-3類が1点、礫9点、坑底からⅢ群A-3類が8点、スクレイパー1点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半、Ⅲ群A-3類期以前に構築されたものと考えられる。（谷島）

掲載遺物：石器 1は坑底から出土したスクレイパー片。（柳瀬）

P-50（図V-56、図版66-2・3）

位置・立地：○-50 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.97m/0.55m×0.65m/0.44m×0.31m

平面形：平面形は円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：Ⅲ層中で検出した。坑底は平らで、壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。土坑の上部は耕作と調査時の掘開で消失している。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。

土層：1 黒色粘質土（ローム粒を含む）、2 暗褐色土（炭化物を含む）、3 暗黄褐色土。

特徴：P-51を切って掘り込まれている。覆土は埋め戻されていると思われる。

遺物出土状況：覆土1から剥片2点が出土している。

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期前半と考えられる。P-51より新しい。（谷島）

P-51（図V-55、図版67-4、68-1）

位置・立地：○-50 段丘緩斜面に立地する。

規模：(0.95m/0.7m)×0.78m/0.56m×0.28m

平面形：平面形は楕円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：Ⅲ層中で検出した。坑底は丸く、壁は斜めに立ち上がる。土坑の上部は耕作と調査時の掘開で消失している。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。

土層：1 暗褐色土（Ⅲ+Ⅴ）、2 褐色土、3 黄褐色土。

特徴：P-50に南東側を壊されている。覆土は埋め戻されていると思われる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類が1点出土している。

時期：遺構の形態や覆土、出土した遺物などから縄文時代中期前半と考えられる。P-50より古い。

（谷島）

P-52（図V-56、図版66-4・5）

位置・立地：○-50 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.63m/0.26m×0.61m/0.22m×0.25m

平面形：平面形は円形、浅い碗状の掘り込み。

確認・調査：Ⅲ層中で検出した。坑底は丸く、壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。土坑の上部は耕作と調査時の掘開で消失している。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。

土層：1 暗灰褐色土、2 褐色土、3 暗黄褐色土。

特徴：覆土は埋め戻されていると思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

1 遺構

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期前半と考えられる。 (谷島)

P-53 (図V-56、図版67-1・2)

位置・立地：I-45、標高38.3m付近の、沢へ向かう西向きの緩斜面に位置する。

規模：0.49m/0.26m×0.46m/0.22m×0.33m

平面形：平面形はほぼ円形で、柱穴状に近い、小形で比較的深い掘り込み。

確認・調査：周辺はIV～V層まで削平されており、I層除去後のV層で、灰黄褐色土の円形の落ち込みを確認した。坑底はほぼ平坦で、立ち上がりは急、壁はややひらく。

土層：1 灰黄褐色土 2.5YR4/2 炭化物が混じる。よくしまる。粘性強い。

2 灰黄褐色土 2.5YR5/2 よくしまる。粘性強い。

特徴：形態から柱穴跡の可能性もあるが、単独での検出であり、性格は不明である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性が高い。 (柳瀬)

P-54 (図V-56、図版67-3、130-5)

位置・立地：M-46 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.91m/0.52m×(0.56m/0.34m)×0.21m

平面形：現存する平面形は半円形、浅い掘り込み。

確認・調査：H-2・20の南西側壁で検出した。坑底はやや丸く、壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。掘り込み面はⅢ層下位である。

土層：1 暗灰褐色土、2 褐色土、3 暗黄褐色土。

特徴：北側半分をH-20に壊されている。覆土は埋め戻されていると思われる。

遺物出土状況：覆土下からⅢ群A-3類が1点、剥片1点、覆土底から礫剥片1点が出土している。

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期前半と考えられる。H-20より古い。 (谷島)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅢ群A-3類。胴部で上部の縄文はほぼ縦走し、下部の縄文は細かく、斜行する。 (広田)

P-55 (図V-56、図版67-4・68-1)

位置・立地：O-45、調査区南西部、沢縁辺の緩斜面上に位置する。標高36.9～37.0mで、北西側にH-23がある。

規模：0.86m/0.47m×0.73m/0.32m×0.16m

平面形：不整形円形。坑底面は不整形楕円形である。

確認・調査：V層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積でⅢ層土主体である。坑底面はゆるやかに湾曲し、壁との境は不明瞭である。壁は全体的に緩やかに立ち上がる。

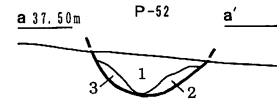
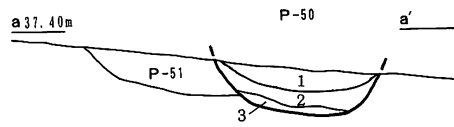
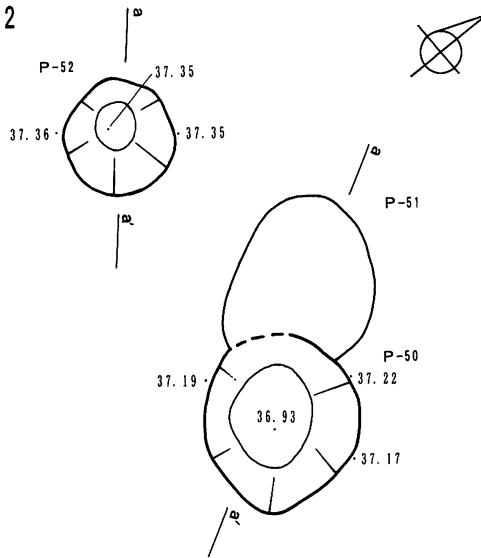
土層：1 黒褐色土 10YR2/3 Ⅲ>Ⅳ ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

2 暗褐色土 10YR3/4 Ⅲ>Ⅳ ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。 (広田)

P-50・P-52

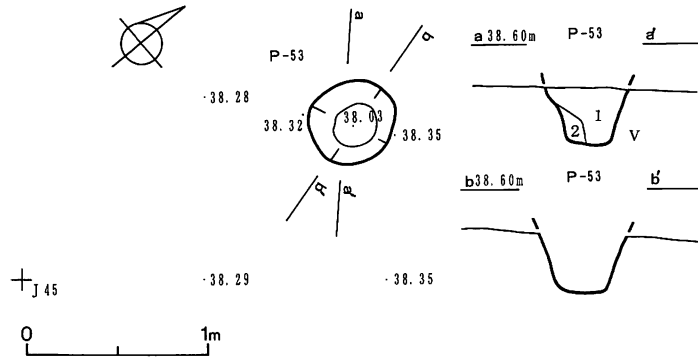


↑P50

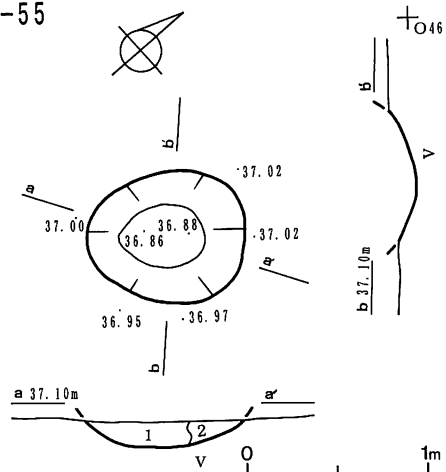
↑P51

0 1m

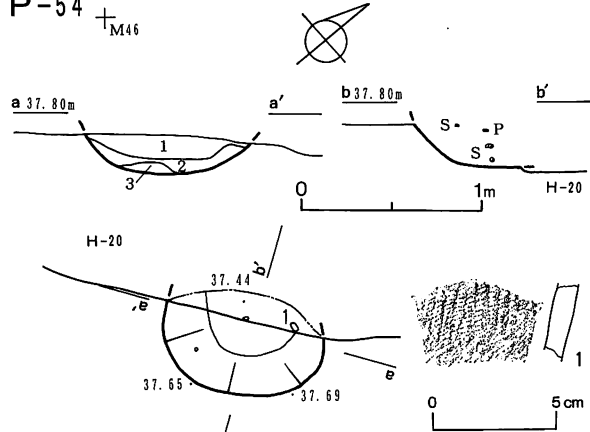
P-53



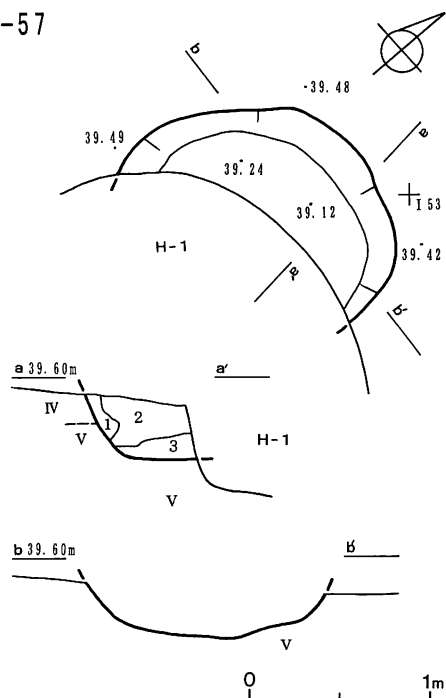
P-55



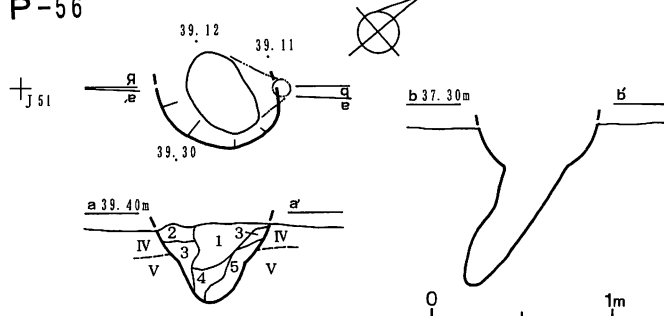
P-54



P-57



P-56



図V-56 P-50・P-52・P-53・P-54・P-55・P-56・P-57

1 遺構

P-56 (図V-56、図版68-2・3)

位置・立地：J-51、調査区西側の緩斜面上に位置する。標高は39.0mとやや高く、南側にはP-59がある。

規模：(0.55m)／0.48m×(0.50m)／0.30m×0.90m

平面形：不整楕円形？

- 土層：1 黒色土 10YR2/1 III>IV ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 黒色土 7.5YR2/1 III層土主体。ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。
- 3 黒褐色土 7.5YR2/2 III>IV しまりあり。粘性あり。
- 4 極暗褐色土 7.5YR2/3 III>IV>V 炭化物粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 5 暗褐色土 7.5YR3/3 IV>III>V しまりややあり。粘性あり。

確認・調査：V層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。J-50グリッドにかかる部分は誤って削平し、北西部の壁を壊した。上部で段を有し、掘り込みは深い。壁の立ち上がりは上部で強い屈曲を見せる。坑底は北東側に大きく偏る。性格は不明で、柱穴状ピットの可能性もある。

遺物出土状況：覆土から、III群A-3類土器、礫剥片、礫が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半III群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

P-57 (図V-56、図版68-4・5)

位置・立地：H-I-52、調査区北西端の緩斜面上に位置する。標高は39.4mと比較的高く、北東側約0.6mにP-94がある。

規模：1.57m／1.22m×0.58m／0.40m×0.37m

平面形：不整楕円形？

- 土層：1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 IV>V>III しまりややあり。粘性あり。
- 2 黒褐色土 10YR2/2 III>IV ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性やや弱い。
- 3 暗褐色土 10YR3/4 III=IV ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

確認・調査：V層上面でにぶい黄褐色土の落ち込みとして検出した。H-1と切り合っていて、H-1に南側部分を半分程壊されている。覆土は自然堆積と考えられ、壁際の覆土はV層土主体である。坑底は中央部に向かって緩やかに傾く。壁の立ち上がりは全体的に急だが、北側は比較的緩やかである。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半III群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

P-58 (図V-57、図版68-6、69-1、130-6)

位置・立地：N-53、標高38.2m付近の緩斜面上に位置する。H-19が隣接する。

規模：(2.22m)／(1.96m)×2.02m／1.69m×0.19m

平面形：平面形は隅丸長方形、比較的浅い掘り込みである。

確認・調査：IV層上面で、黄褐色土のまとまりと、その周囲にめぐる黒褐色系土を確認した。ベルトを残して掘り下げ、掘り込みを確認した。規模・形態からは非常に小形ではあるが、竪穴住居跡の可能性も考えられたが、坑底から焼土・柱穴状ピットなどの付属施設は確認されなかったため、土坑と

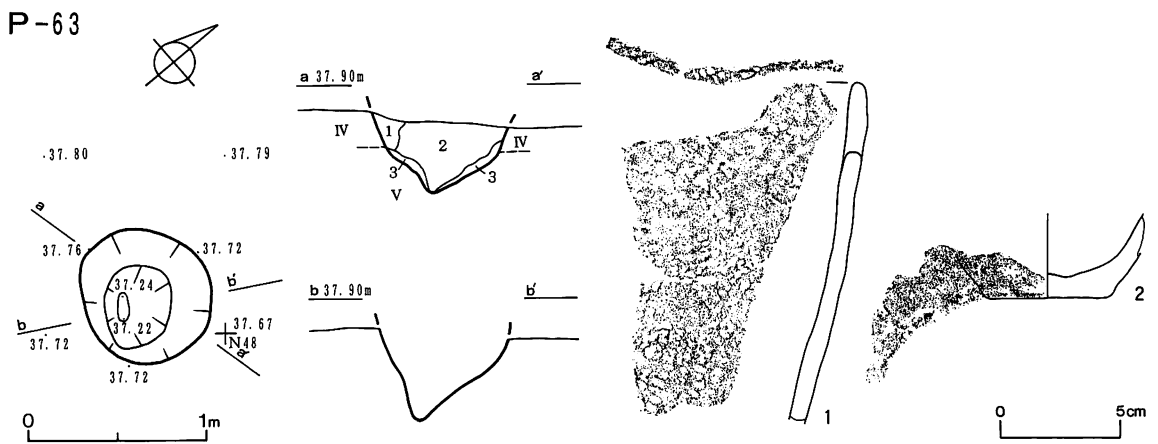
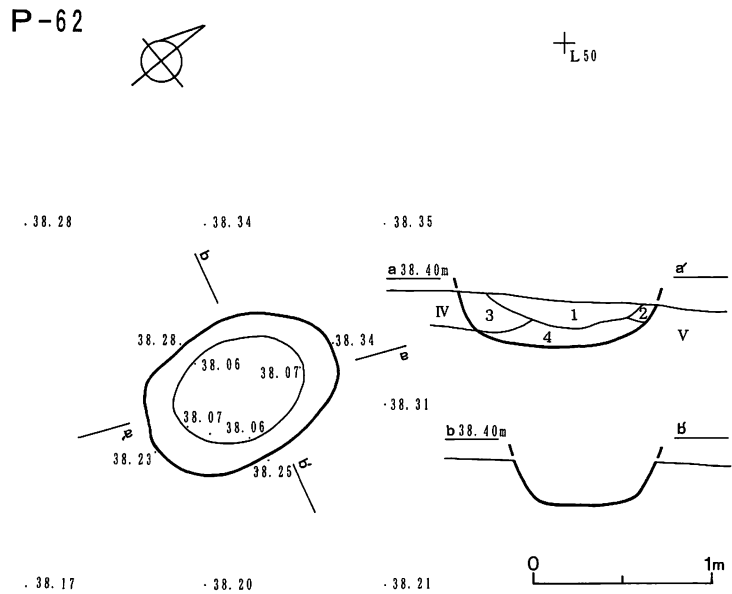
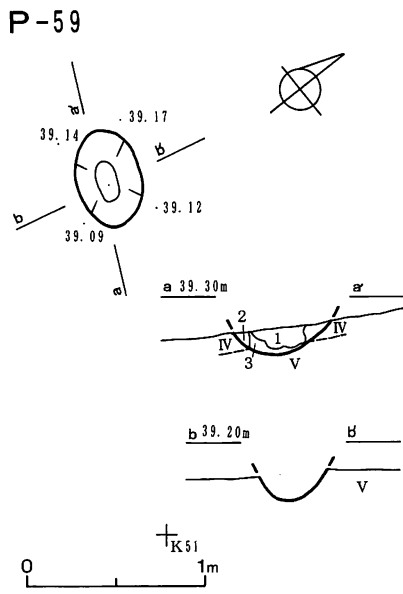
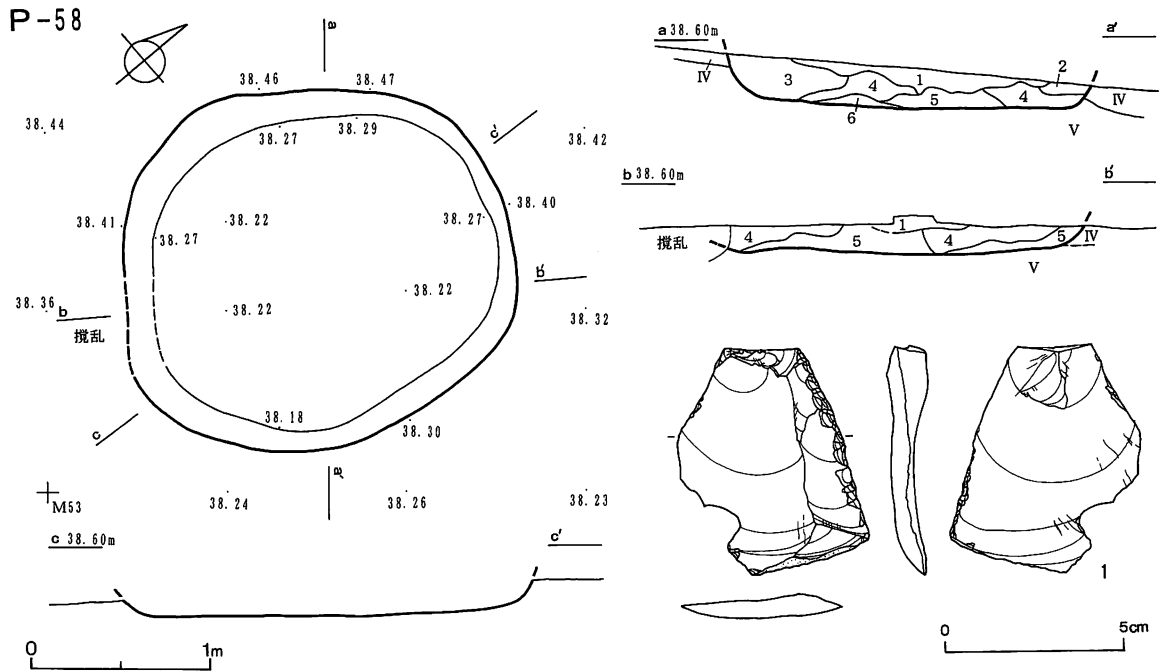


図 V-57 P-58・P-59・P-62・P-63

1 遺構

した。西半では立ち上がりが明瞭であるが、東半では不明瞭である。坑底はやや凹凸があり傾斜する。

- 土層：1 黄褐色土 2.5Y5/6 塊状のローム主体層。しまりよい。粘性強い。
2 暗灰褐色土 2.5Y4/2 しまり弱い。粘性強い。
3 黒色土 2.5Y3/1 ローム粒、炭化物を多く含む。しまり弱い。粘性強い。
4 黄褐色土 2.5Y5/3 しまりやや弱い。粘性強い。
5 黒褐色土 2.5Y3/2 ローム塊、炭化物が少量混じる。しまり弱い。粘性あり。
6 黄褐色土 2.5YR5/6 ロームがモザイク状に混じる。しまりやや弱い。粘性強い。

特徴：覆土上層にローム主体の黄褐色土が堆積しており、遺構廃棄後のややくぼんだ状態で別遺構の掘り上げ土が廃棄された可能性がある。性格は不明である。

遺物出土状況：覆土1層からⅢ群A-3類が4点、スクレイパーが1点、剥片が4点、礫が4点、覆土2層から礫が3点、計16点出土している。なお、遺物の取り上げ層位は、覆土1層はセクション図土層2・3に、覆土2層が土層4に対応する。

時期：遺構出土の土器と周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性ある。(柳瀬)

掲載遺物：石器 1は覆土から出土したスクレイパー1a類。(柳瀬)

P-59 (図V-57、図版69-2)

位置・立地：I-50・51、調査区北西部の緩斜面上に位置する。標高は39.0~39.1mで北側にP-56、西側にH-11・26、南側にP-99がある。

規模：0.55m/0.21m×0.37m/0.11m×0.20m

平面形：不整楕円形。

- 土層：1 黒褐色土 10YR2/2 Ⅲ>>Ⅳ ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
2 黒褐色土 10YR2/3 Ⅲ>>Ⅳ しまりあり。粘性ややあり。
3 黒褐色土 10YR2/3 Ⅲ>>Ⅳ ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

確認・調査：Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積でⅢ層土主体である。坑底はわずかにⅤ層を掘り込む。坑底面は中央が低く、壁との境は不明瞭である。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性ある。(広田)

P-62 (図V-57、図版70-4、71-1)

位置・立地：L-49、標高38.3m付近の南向きの緩斜面に位置する。

規模：1.13m/0.75m×0.78m/0.56m×0.25m

平面形：平面形は楕円形、比較的深い椀状の掘り込みである。

確認・調査：Ⅳ層で検出した。坑底はやや丸みがあり、立ち上がりは緩やかで、壁は垂直に近い。

- 土層：1 黒色土 2.5Y2/1 しまりあり。粘性あり。
2 黒褐色土 7.5YR2/2 しまりあり。粘性あり。
3 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや弱い。粘性強い。
4 褐色土 10YR4/4 ローム粒、黒色土粒が多量に混じる。かたくしまる。粘性強い。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：覆土1層から、Ⅲ群A-3類3点、礫2点、計5点出土している。

時期：遺構出土の土器と周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性が高い。（柳瀬）

P-63（図V-57、図版71-2・3、130-8）

位置・立地：M・N-47、標高37.7m付近の南向きの緩斜面に位置する。

規模：0.73m/0.16m×0.70m/0.06m×0.52m

平面形：平面形はやや不整な円形で、比較的深く、円錐形に近い掘り込みである。

確認・調査：IV層で確認した。坑底は非常に狭く楕円形で、尖る。壁は中ほどで屈曲する。

土層：1 黒褐色土 2.5Y3/2 ローム粒が混じる。しまりあり。粘性強い。
2 黒色土 2.5Y2/1 脱色した黄褐色ローム粒・炭化物が混じる。しまりあり。粘性強い。
3 褐灰色土 10YR4/1 脱色したローム（10YR5～6/1）が多く混じる。

特徴：性格は不明である。この周辺のみV層が脱色していたことと、形態の特殊性から、水場に関連のある施設、あるいは水流によって形成された自然地形の可能性もある。

遺物出土状況：検出面から剥片が8点、礫剥片が1点、覆土1層からⅢ群A-3類が13点、Ⅳ群A-1類が5点、剥片が6点、礫が1点、覆土2層から礫が1点、計36点出土している。

時期：遺構出土の土器および周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半、もしくは後期前半の可能性がある。（柳瀬）

掲載遺物：土器 1・2は覆土出土のⅢ群A-3類。同一個体で、胎土に砂粒をやや多く含む。1は口縁部で突起を有し、口唇部には縄文が施されている。2は底部で、残存部は無文である。（広田）

P-64（図V-58、図版71-4、72-1）

位置・立地：O-46、標高37.0m付近の緩斜面に立地する。周辺には規模の近いP-28・65や柱穴状小ピットがややまとまって分布する。

規模：0.59m/0.30m×0.57m/0.32m×0.23m

平面形：平面形はほぼ円形、碗状の掘り込みである。

確認・調査：IV層で確認した。坑底はほぼ平坦で立ち上がりは緩やか、壁はひらく。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 しまりあり。粘性あり。
2 オリーブ褐色土 2.5Y4/3 ローム粒が混じる。しまりあり。粘性あり。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類が3点、剥片が1点、計4点出土している。

時期：遺構出土の土器および周辺包含層出土の土器から、縄文時代中期前半の可能性がある。（柳瀬）

P-65（図V-58、図版72-2・3）

位置・立地：O-47、標高37.0m付近の緩斜面に立地する。周辺には規模の近いP-28・64や柱穴状小ピットがややまとまって分布する。

規模：0.44m/0.23m×0.36m/0.12m×0.36m

平面形：平面形は楕円形、比較的深い、柱穴状に近い掘り込みである。

確認・調査：IV層で確認した。坑底は丸みがあり、立ち上がりは緩やか、壁は垂直に近い。

土層：1 オリーブ黒色土 5Y3/2 ローム粒が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
2 暗灰黄褐色土 2.5Y4/2 ロームがモザイク状に混じる。しまりあり。粘性あり。
3 黒褐色土 2.5Y3/2 ロームがモザイク状に混じる。しまりやや弱い。粘性強い。

1 遺構

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：覆土から剥片が1点、礫が7点、計8点出土している。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性が高い。(柳瀬)

P-66 (図V-58、図版72-4・5)

位置・立地：L-52、調査区中央よりやや南西部寄りの緩斜面上に位置する。標高は38.5mで、H-19が北東側に隣接する。

規模：1.07m/0.38m×0.91m/0.20m×0.57m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積で、III層土が主体である。坑底、壁共に凹凸が見られる。壁の立ち上がりは、南東側は比較的緩やかだが、北西部は急である。平面形が不整であるため遺構ではない可能性もあるが、覆土の状態から遺構と判断した。

土層：1 黒色土 7.5YR1.7/1 III>>IV ローム粒子を微量含む。しまりあり。粘性あり。

2 黒色土 7.5YR2/2 III>>IV ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性あり。

3 黒褐色土 10YR3/2 III>>IV ロームブロックを少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

遺物出土状況：覆土から、III群A-3類、IV群A-1類土器が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半III群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

P-67 (図V-58、図版72-6・73-1)

位置・立地：J-47、調査区南西部の緩斜面上に位置する。標高は38.6~38.7mで、北側にP-12・16、東側にP-91がある。

規模：0.90m/0.65m×0.87m/0.69m×0.38m

平面形：不整円形。

確認・調査：III層中位で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積でIII層土主体である。坑底はIV層中に構築される。坑底は中央付近に向かってやや低くなり、壁との境は明瞭である。壁の立ち上がりは急である。

土層：1 黒色土 7.5YR2/1 III層土主体。ローム粒子を少量含む。しまりややあり。粘性やや弱い。

2 黒褐色土 10YR2/2 III>>IV ロームブロック、炭化物を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

3 黒褐色土 10YR2/3 III=IV ローム粒子を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。

4 暗褐色土 10YR3/3 IV>V>III しまりややあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土から、III群A-3類土器、Uフレイク、礫が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半III群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

P-68 (図V-58、図版73-2・3)

位置・立地：O-47・48。標高37.4m付近の南向きの緩斜面に位置する。

規模：0.81m/0.48m×0.74m/(0.43m)×0.42m

平面形：平面形は隅丸方形に近い。比較的深い掘り込みである。

確認・調査：IV層で検出した。覆土の下半はV層に類似し、堅くしまっており、木痕等による攪乱の

可能性もあったが、底部が比較的平坦になること、やや不明瞭ではあるが平面形が捉えられたことから、土坑とした。立ち上がりは概して急で、壁は垂直に近く、中ほどで屈曲するが南側では緩やかに立ち上がる。

- 土層：1 黒褐色土 2.5Y3/1 ローム塊が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2 黒褐色土 2.5Y3/2 ローム粒が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 3 オリーブ褐色土 2.5Y4/3 ローム質。ローム塊が多く混じる。暗灰褐色土粒・炭化物が混じる。かたくしまる。粘性強い。
 4 黄褐色土 2.5Y5/6 ローム主体。炭化物が混じる。かたくしまる。粘性強い。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：坑底から頁岩原石が1点出土している。

時期：周辺包含層出土の土器から、縄文時代中期前半の可能性ある。(柳瀬)

P-69 (図V-58、図版73-4、74-1)

位置・立地：N-44 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.67m/0.6m×0.47m/0.37m×0.31m

平面形：平面形は楕円形、浅い掘り込み。

確認・調査：V層上面で落ち込みを検出した。坑底はやや丸みを持ち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は埋め戻されている。

土層：1 暗褐色土、2 ロームブロック。

特徴：H-21の付属ピットの可能性がある。

遺物出土状況：坑底から礫2点が出土している。

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期前半と考えられる。(谷島)

P-70 (図V-58、図版74-2・3)

位置・立地：N-44 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.64m/0.51m×0.53m/0.42m×0.18m

平面形：平面形は円形、浅い掘り込み。

確認・調査：V層上面で落ち込みを検出した。坑底はやや丸みを持ち、壁は急角度に立ち上がる。覆土は埋め戻されている。

土層：1 暗褐色土、2 暗黄褐色土。

特徴：H-21の付属ピットの可能性がある。

遺物出土状況：覆土から剥片1点、礫1点が出土している。

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期前半と考えられる。(谷島)

P-77 (図V-58、図版77-3・4)

位置・立地：I-53、調査区北西部の緩斜面上に位置する。標高は39.3mと比較的高く、東側約2mにP-86がある。

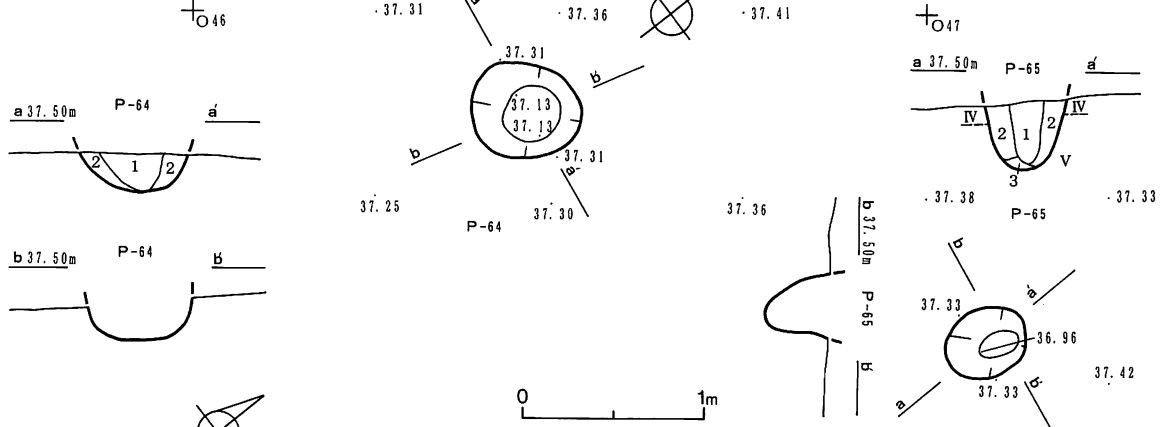
規模：1.07m/0.79m×0.96m/0.78m×0.56m

平面形：不整円形。

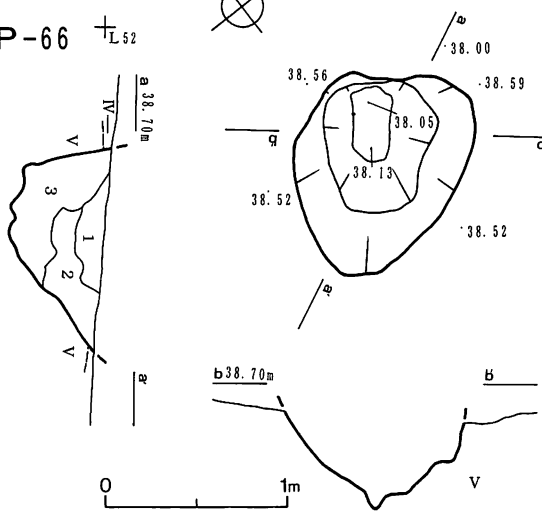
確認・調査：V層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積で、Ⅲ層土主体である。

1 遺構

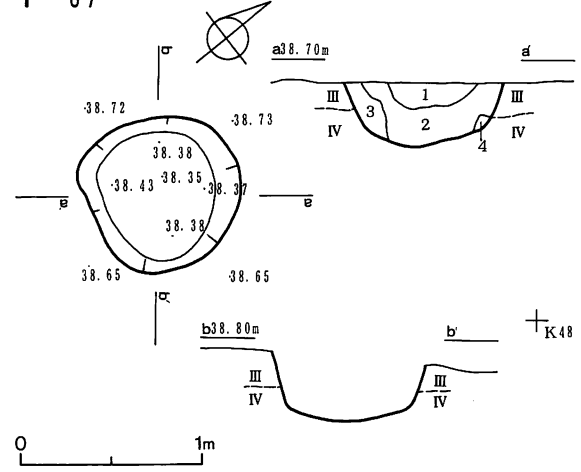
P-64・P-65



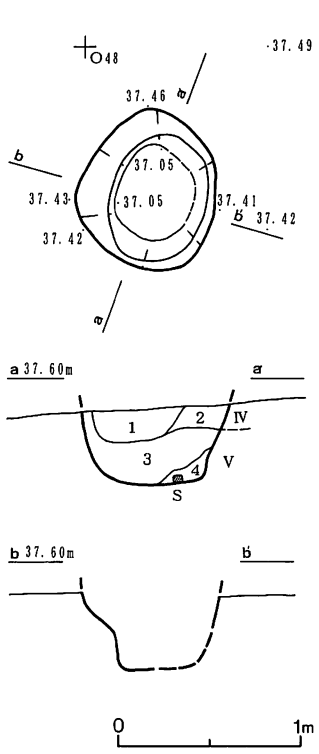
P-66



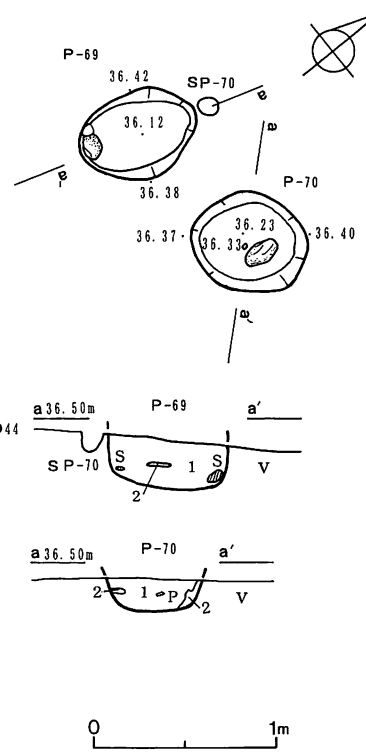
P-67



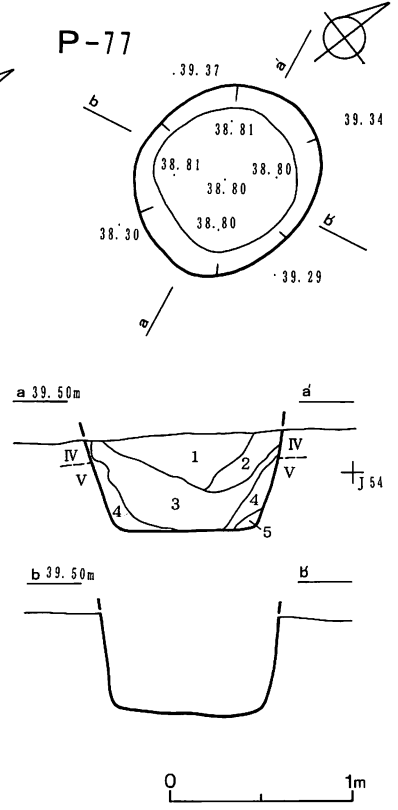
P-68



P-69・P-70



P-77



☒ V-58 P-64・P-65・P-66・P-67・P-68・P-69・P-70・P-77

比較的大形で掘り込みは深く、V層を大きく掘り込んでいる。坑底はほぼ平坦で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。

- 土層：1 黒色土 10YR1.7/1 III層土主体。ローム粒を微量含む。しまりややあり。粘性あり。
 2 黒色土 10YR2/1 III>>IV ローム粒を少量、炭化物を微量含む。しまりあり。粘性あり。
 3 黒褐色土 7.5YR6/4 III>>IV ローム粒を少量、炭化物を微量含む。しまりあり。粘性あり。
 4 暗褐色土 10YR3/3 III>IV>V しまりあり。粘性あり。
 5 黒褐色土 10YR2/2 III>>IV しまりやや弱い。粘性あり。

遺物出土状況：覆土から礫が1点出土している。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半 III群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

P-78 (図V-59、図版78-1・2)

位置・立地：H・I-53、調査区北西端の緩斜面上に位置する。標高は39.5mで、南側約13mにP-94がある。

規模：1.21m/0.88m×(0.80m)/0.50m×0.34m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：III層中位で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積で、III層土主体である。比較的大形で、坑底は南西側がやや高くなる。壁は全体的にやや急角度に立ち上がる。

- 土層：1 黒色土 10YR1.7/1 III>>IV しまりややあり。粘性あり。
 2 黒色土 0YR2/1 III>>IV ローム粒を少量含む。しまりあり。粘性あり。
 3 暗褐色土 10YR3/3 IV>III>V しまりあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土から、III群A-3類土器、剥片、たたき石、礫が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半 III群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

P-79 (図V-59、図版78-3・4)

位置・立地：H-54、調査区北西端の緩斜面上に位置する。標高は39.4mと高く、東側約13mにP-9・85がある。

規模：(0.30m)/(0.20m)×0.30m/0.15m×0.29m

平面形：楕円形？

- 土層：1 黒褐色土 10YR2/2 III>>IV ローム粒を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
 2 黒褐色土 10YR2/3 III>>IV ローム粒を微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

確認・調査：V層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。北側が調査区外に広がっているため、北側部分は未調査である。掘り込み面はIII層中位である。坑底は平坦で、壁の立ち上がりは急である。遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半 III群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

1 遺構

P-83 (図V-59、図版80-2・3、131-2)

位置・立地：K-48、調査区南西部の緩斜面上に位置する。標高は38.4~38.6mで北側にH-18、東側にP-105がある。

規模：1.36m/0.87m×1.18m/0.53m×0.36m

平面形：不整楕円形。

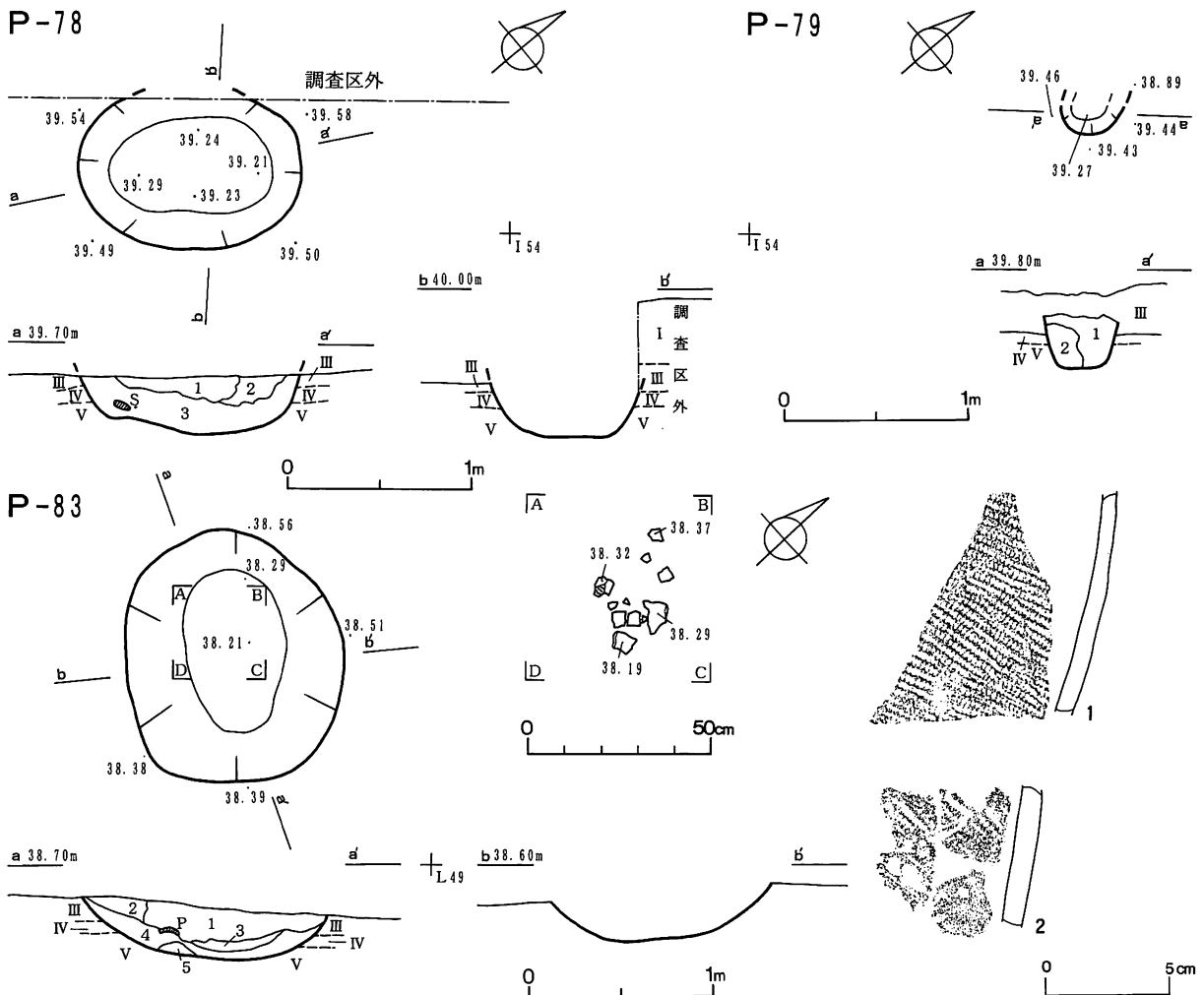
確認・調査：Ⅲ層中位で黒色土の落ち込みとして確認した。比較的大形の土壌だが、掘り込みは浅い。覆土は自然堆積で、Ⅲ層土が主体である。坑底は中央付近がやや低くなり、壁との境は不明瞭である。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

- 土層：1 黒色土 10YR2/1 Ⅲ層土主体。下部にわずかにⅣ層土を含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 2 黒色土 10YR2/1 1と同じだが、やや明るい。
- 3 黒褐色土 10YR2/2 Ⅲ≫Ⅳ しまりあり。粘性あり。
- 4 黒褐色土 10YR2/2 Ⅲ≫Ⅳ ローム粒を少量含む。しまりあり。粘性あり。
- 5 褐色土 10YR4/4 V>Ⅳ>Ⅲ しまりあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土から、Ⅲ群A-3類土器、Rフレイク、剥片、礫が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性が高い。(広田)

掲載遺物：土器 1・2は覆土出土のⅢ群A-3類で、どちらも胴部。1はRLの斜行縄文が施され



図V-59 P-78・P-79・P-83

ている。焼成は良好。2は2本1組の沈線文が加えられている。焼成は不良である。 (広田)

P-85 (図V-60、図版81-2・3、131-3)

位置・立地：H-54・55、調査区北西端の緩斜面上に位置する。標高は39.2mで、南側にP-9が隣接し、西側にはP-79がある。

規模：0.84m/0.75m×0.65m/0.60m×0.30m

平面形：不整隅丸方形。

確認・調査：V層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はロームが主体である。北西壁の一部がわずかに調査区外に広がる。坑底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急である。

土層：1 暗褐色土 7.5YR4/4 IV>III しまりあり。粘性かなりあり。

2 褐色土 7.5YR4/4 IV>III しまりあり。粘性かなりあり。

3 黒褐色土 7.5YR3/2 III>IV>V しまりややあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土から礫が、坑底からすり石が出土している。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性ある。

(広田)

掲載遺物：石器 1は坑底から出土したすり石4類である。

(柳瀬)

P-86 (図V-60、図版81-4・82-1)

位置・立地：J-54、調査区中央部西側の緩斜面上に位置する。標高は39.2mで、西側約2mにP-77がある。

規模：(0.31m)/(0.17m)×(0.34m)/(0.24m)×0.22m

平面形：楕円形？

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV ローム粒を少量含む。しまりややあり。粘性あり。

2 黒褐色土 10YR2/3 III>IV>V しまりややあり。粘性あり。

確認・調査：V層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。その時点でI-54グリッドはV層中位まですでに掘り下げていたため、北西部分は残っていなかった。覆土は自然堆積で、Ⅲ層土主体である。坑底部分は中央部が低い。坑底と壁との境は不明瞭で、壁の立ち上がりはゆるやかである。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性ある。

(広田)

P-87 (図V-60、図版82-2・3)

位置・立地：Q-47 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.99m/0.75m×0.86m/0.63m×0.17m

平面形：平面形は円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：IV層調査中に検出した。坑底は平坦で、壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。

土層：1 暗褐色土、2 暗黄褐色土(炭化物を少量含む)、

3 黄褐色土(暗黄褐色土をブロック状に含む)。

特徴：覆土は埋め戻されていると思われる。

遺物出土状況：覆土から礫1点が出土している。

1 遺構

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期の可能性が考えられる。 (谷島)

P-88 (図V-60、図版82-4、83-1)

位置・立地：R-48・49 段丘緩斜面に立地する。

規模：(0.64m/0.55m)×0.56m/0.38m×0.19m

平面形：形態：平面形は楕円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：IV層調査中に検出した。坑底は平坦で、壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。北東側は先行した調査区をV層まで削平してしまったため確認できなかった。

土層：1 暗褐色土。

特徴：覆土は単層で埋め戻されたと思われる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類が4点出土している。

時期：遺構の形態や覆土、出土した遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類期の所産と考えられる。 (谷島)

P-91 (図V-60、図版84-2・3)

位置・立地：J・K-48、調査区南西部の緩斜面上に位置する。標高は38.5~38.6mで北東部にH-19、南東部にP-83がある。

規模：0.59m/0.38m×0.44m/0.26m×0.21m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：V層上面で明褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は1層でⅢ層土主体である。坑底はほぼ平坦だが、西側にやや傾く。壁の立ち上がりは比較的なだらかである。

土層：1 明褐色土 7.5YR5/6 IV>Ⅲ=V Ⅲ層土とV層土をブロック状に含む。しまりややあり。粘性あり。

遺物出土状況：覆土から、Ⅲ群A-3類土器が出土している。

時期：覆土出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性が高い。 (広田)

P-93 (図V-60、図版85-2・3)

位置・立地：H-48、調査区西端の緩斜面上に位置する。標高は39.2~39.3mである。

規模：(0.34m)/0.26m×(0.28m)/(0.26m)×0.08m

平面形：円形?

土層：1 極暗褐色土 7.5YR2/2 V>IV>Ⅲ しまりあり。粘性ややあり。

確認・調査：V層上面で極暗褐色土の落ち込みとして確認した。北西側は調査区外に広がっている。小形の土壇で掘り込みは浅い。底面は中央部がやや低く、浅皿状である。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。 (広田)

P-94 (図V-60、図版85-4・86-1)

位置・立地：H・I-53、調査区北西部の緩斜面上に位置する。標高は39.4mで南側にH-1、P-57、北側にP-78がある。

規模：(0.42m)／－×0.28m／0.14m×0.20m

平面形：不整長楕円形？

確認・調査：V層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。遺構かどうか判然としないためトレンチを2ヶ所設定・調査し、その結果、遺構と判断した。細長いピットで、坑底面はやや南西部に傾く。壁の立ち上がりは比較的急である。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV>V しまりややあり。粘性弱い。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性がある。 (広田)

P-95 (図V-60、図版86-2・3)

位置・立地：J-52、調査区西部の緩斜面上に位置する。標高は38.8mで北西部にH-1、南東部にH-19、F-39がある。

規模：0.41m／0.21m×0.30m／0.20m×0.13m

平面形：不整楕円形。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 III>IV>V 炭化物粒子を少量含む。しまりややあり。粘性あり。
2 褐色土 7.5YR4/4 V>IV しまりあり。粘性あり。

確認・調査：V層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土は自然堆積で、2層からなる。坑底は中央付近がやや低く、南東側は壁との境が比較的明瞭である。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性がある。 (広田)

P-96 (図V-60、図版86-4、87-1)

位置・立地：Q-53 段丘緩斜面に立地する。

規模：1.22m／1.01m×1.15m／0.83m×0.26m

平面形：平面形は円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：IV層調査中に検出した。坑底は平坦で、壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。

土層：1 黒褐色粘質土、2 暗褐色土、3 暗黄褐色土。

特徴：覆土は自然堆積で、埋め戻されていない。

遺物出土状況：覆土から剥片2点が出土した。

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期の可能性が考えられる。 (谷島)

P-97 (図V-61、図版87-2・3、131-4)

位置・立地：L-50、標高38.3m付近の南向きの緩斜面に位置する。

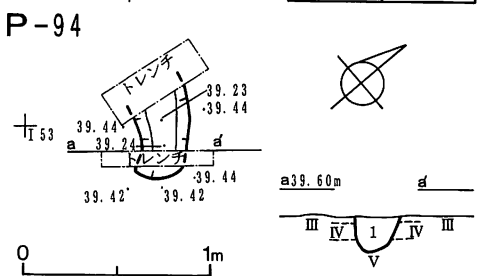
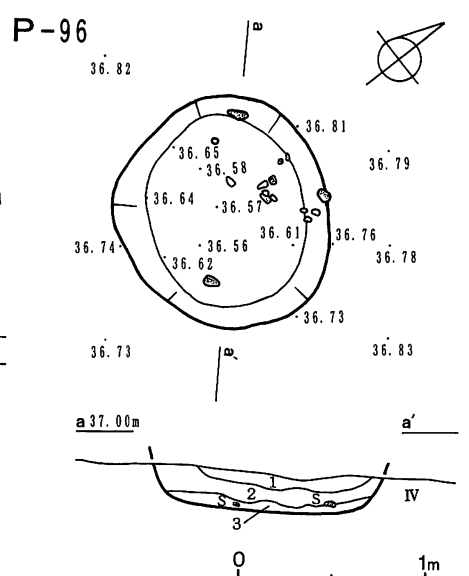
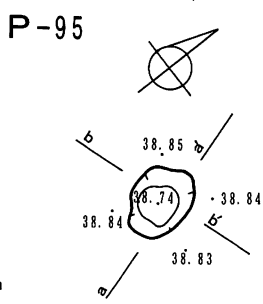
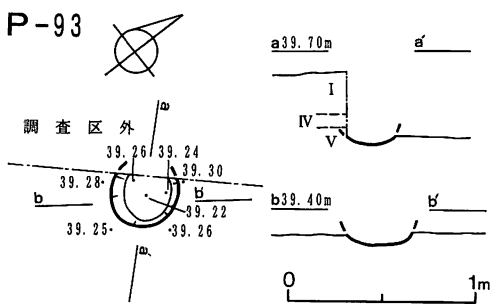
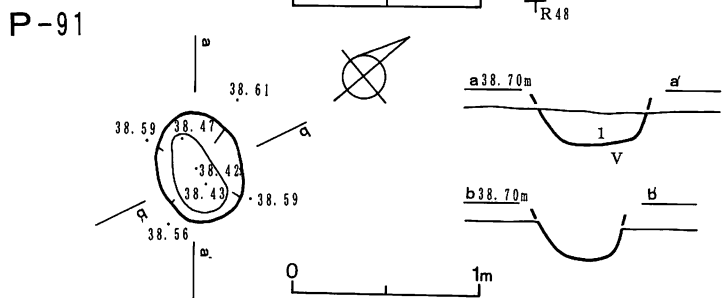
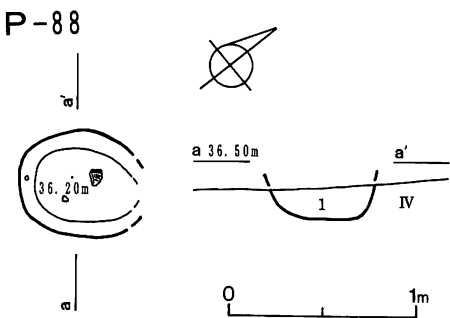
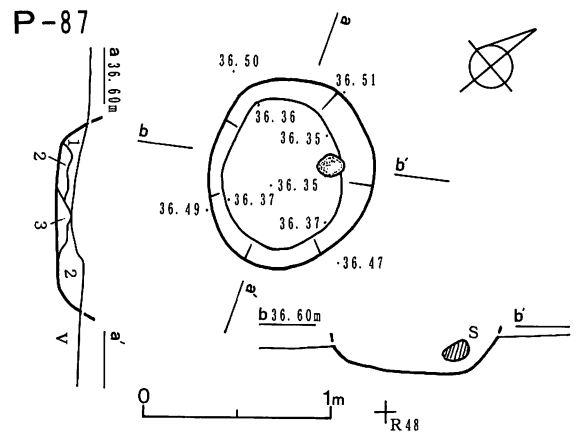
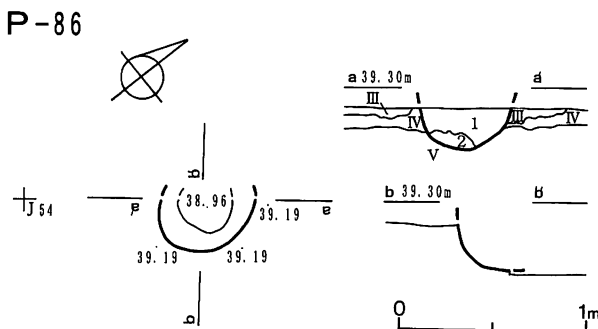
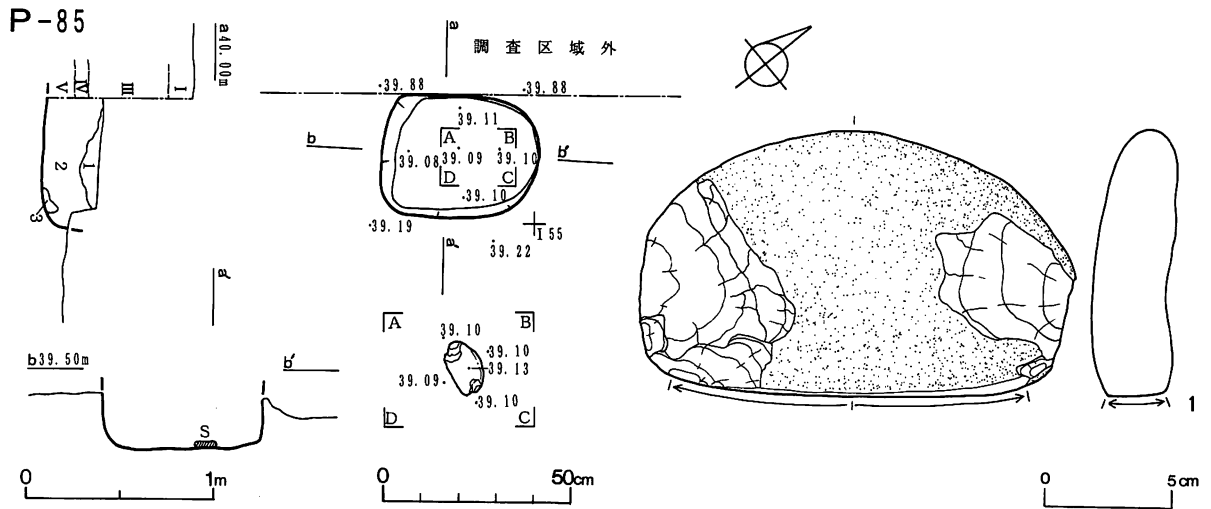
規模：1.19m／0.92m×0.81m／0.52m×0.39m

平面形：平面形は楕円形。比較的深い掘り込みである。

確認・調査：Ⅲ層下位で確認した。坑底はややくぼむ。立ち上がりは丸みがあり、壁はややひらく。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 しまりよい。粘性やや強い。

1 遺構



図V-60 P-85・P-86・P-87・P-88・P-91・P-93・P-94・P-95・P-96

- 2 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒が多く混じる。しまりよい。粘性やや強い。
 3 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒が多量に混じる。しまりよい。粘性やや強い。
 4 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子が少量混じる。かたくしまる。粘性強い。
 5 オリーブ褐色土 2.5Y4/3 黄褐色土粒が混じる。しまりよい。粘性強い。
 6 黄褐色土 10YR5/6 灰褐色土ブロックに混じる。しまりよい。粘性強い。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：覆土1層からスクレイパーが1点、剥片が1点、計2点出土している。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性ある。(柳瀬)

掲載遺物：石器 1は覆土から出土したスクレイパー片。

P-98 (図V-61、図版87-4、88-1、131-5)

位置・立地：L-50、標高38.3m付近の南向きの緩斜面に位置する。

規模：0.93m/0.65m×0.67m/0.40m×0.28m

平面形：平面形は楕円形である。

確認・調査：Ⅲ層下位で検出した。坑底は平坦で立ち上がりは長軸方向ではやや急、短軸方向では緩やかで、壁はやや開く。

- 土層：1 黒褐色土 10YR2/2 しまり弱い。粘性弱い。
 2 黒褐色土 2.5Y3/2 ローム粒が多く混じる。しまりあり。粘性やや強い。
 3 オリーブ褐色土 2.5Y4/3 黒褐色土がブロック状に混じる。かたくしまる。粘性あり。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類が13点、Ⅲ群A-3類が2点、Ⅳ群A-1類が1点、石槍が1点、すり石が1点、礫が2点、坑底直上からⅢ群A-2類が1点、計20点出土している。

時期：遺構出土の土器および周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性ある。(柳瀬)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅢ群A-2類。平底で器面調整は丁寧である。(広田)

石器 2は覆土から出土した石槍2a類。黒曜石製で、原産地同定を依頼したところ、赤井川産と判定された(第七章2節)。(柳瀬)

P-99 (図V-61、図版88-2・3)

位置・立地：K-50、調査区西部の緩斜面上に位置する。標高は38.7mで、西側にH-19がある。

規模：0.34m/0.12m×0.31m/0.15m×0.17m

平面形：不整形円形。

確認・調査：Ⅲ層下位で黒色土の落ち込みとして確認した。小形で浅いピットである。覆土はⅢ層土主体である。坑底は中央がやや低く、壁との境は不明瞭である。壁の立ち上がりは比較的緩やかである。

- 土層：1 黒色土 10YR2/1 ローム粒子を少量含む。しまり弱い。粘性あり。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性ある。(広田)

1 遺構

P-100 (図V-61、図版88-4・5、131-6)

位置・立地：Q-52 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.72m/0.53m×0.58m/0.41m×0.25m

平面形：平面形は楕円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：VI層調査中に検出した。坑底は平坦で、壁は丸みを持ってやや急角度に立ち上がる。

土層：1 暗褐色土。

特徴：覆土は単層で埋め戻されたと思われる。

遺物出土状況：覆土からすり石1点が出土している。

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期の可能性が考えられる。(谷島)

掲載遺物：石器 1は覆土から出土したすり石6類：北海道式石冠である。遺構から出土したものは小破片で、0-55-29のⅢ層から出土した破片と接合した。握り部と、上端部をわずかに敲打で整形している。(柳瀬)

P-102 (図V-61、図版89-1・2)

位置・立地：L・M-50、調査区中央よりやや南西側の緩斜面上に位置する。標高は38.1mで北東側にF-33、南西側にP-98がある。

規模：(0.36m)/(0.26m)×0.38m/0.20m×0.29m

平面形：楕円形？

確認・調査：L-50グリッドのV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。M-50グリッドはV層中まで掘り下げていたため、削平されて残っていなかった。覆土は2層で、Ⅲ層土主体である。坑底はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは比較的急である。

土層：1 黒褐色土 2.5YR3/1 Ⅲ層土主体。しまりよい。粘性あり。

2 黒褐色土 2.5YR3/1 Ⅲ層土主体。ローム粒子が多く混じる。しまりよい。粘性あり。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性が有る。(広田)

P-105 (図V-61、図版90-3・4)

位置・立地：K-49、調査区西部の緩斜面上に位置する。標高は38.4~38.5mで南東側にP-62、北西側にH-19、西側にP-83がある。

規模：0.53m/0.42m×0.44m/0.28m×0.19m

平面形：不整楕円形。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 Ⅲ>>Ⅳ>>Ⅴ 炭化物粒子を微量含む。しまりやや弱い。粘性やや弱い。

2 暗褐色土 7.5YR3/3 Ⅲ>Ⅳ>>Ⅴ しまりややあり。粘性ややあり。

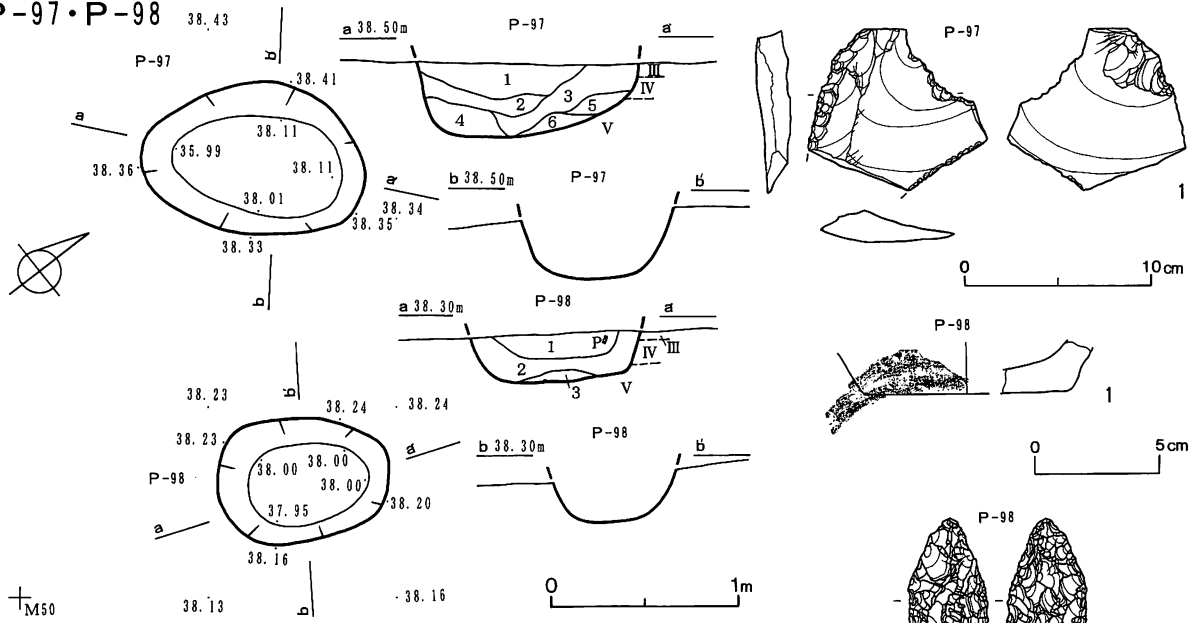
確認・調査：Ⅲ層下位で黒褐色土の落ち込みとして確認した。小形で掘り込みの浅いピットである。

覆土は2層からなり、Ⅲ層土主体である。坑底はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは急である。

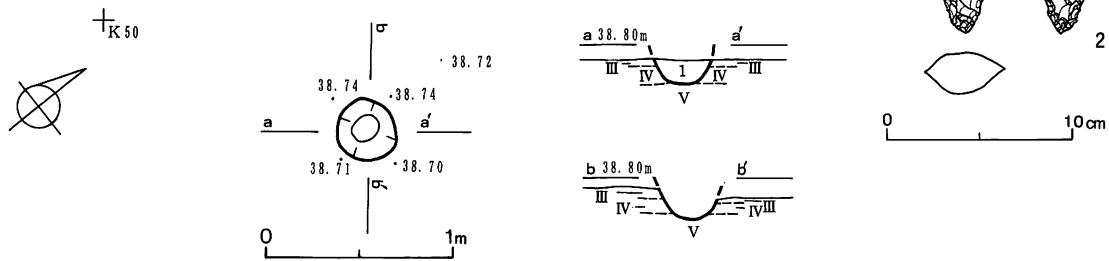
遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性が有る。(広田)

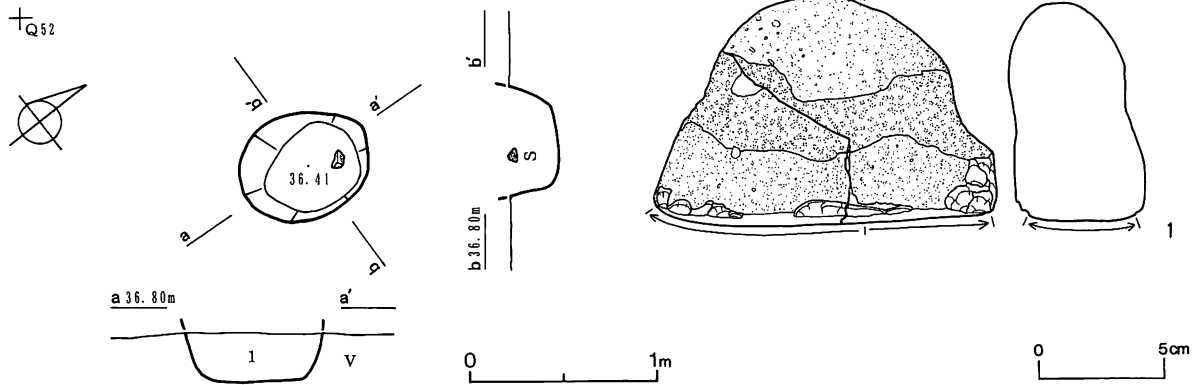
P-97・P-98



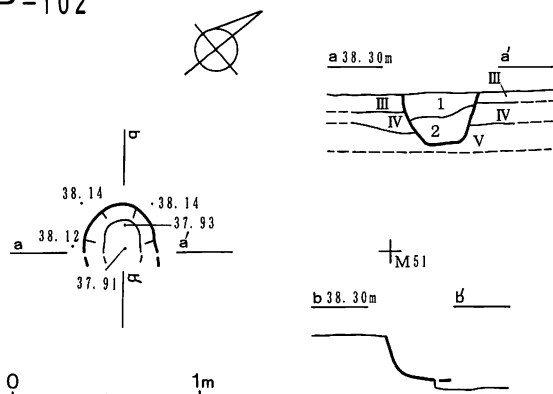
P-99



P-100



P-102



P-105

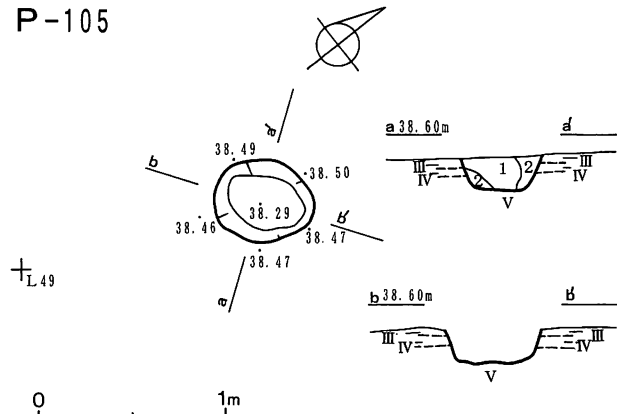


図 V-61 P-97・P-98・P-99・P-100・P-102・P-105

1 遺構

P-106 (図V-62、図版91-1・2)

位置・立地：N-50 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.79m/0.54m×0.77m/0.44m×0.23m

平面形：平面形は円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：IV層調査中に検出した。坑底はやや丸く、壁は丸みを持って斜めに立ち上がる。

土層：1 暗褐色土、2 褐色土。

特徴：覆土は埋め戻されたものと思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期から後期の可能性が考えられる。

(谷島)

P-108 (図V-62、図版91-3・4)

位置・立地：Q-50 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.62m/0.47m×0.47m/0.34m×0.19m

平面形：平面形は楕円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：V層調査時に検出した。坑底は平坦で、壁は丸みを持って急角度に立ち上がる。掘り込み面はV層上である。

土層：1 褐色土(黄褐色土粒を含む)、2 暗褐色土、3 暗黄褐色土。

特徴：覆土は埋め戻されたと思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：遺構の形態や覆土から縄文時代中期から後期の可能性が考えられる。

(谷島)

P-110 (図V-62、図版92-2・3)

位置・立地：L-49・50 段丘緩斜面に立地する。

規模：0.78m/0.61m×0.58m/0.48m×0.3m

平面形：平面形は円形、浅い皿状の掘り込み。

確認・調査：V層調査時に検出した。坑底は平坦で、壁は丸みを持って急角度に立ち上がる。掘り込み面はV層中である。

土層：1 黒褐色土(ごく少量のV層粒を含む)、

2 黒褐色土(少量の粒状のV層と焼土粒を含む)、

3 暗褐色土、

4 暗褐色土(Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層をブロック状に含む)、

5 暗黄褐色土(Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層をブロック状にやや多く含む)。

特徴：覆土中に焼土粒があり、覆土は埋め戻されたと思われる。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-2類が3点、剥片が1点、礫が3点出土した。

時期：遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代中期前半の所産と考えられる。

(谷島)

P-112 (図V-62、図版93-3)

位置・立地：J-49、標高38.9m付近の南向きの緩斜面に位置する。H-18と隣接する。

規模：0.61m/0.51m×0.59m/0.42m×0.21m

平面形：平面形は不整な楕円形、比較的浅い掘り込みである。

確認・調査：メイン・セクションベルトの調査中、IV層で確認した。坑底は凹凸があり、立ち上がりは緩やかで、壁はややひらく。

土層：1 灰黄褐色土 10YR3/2 ローム粒が混じる。炭化物がわずかに混じるしまりよい。粘性強い。

特徴：性格は不明である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構の時期および周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。

(柳瀬)

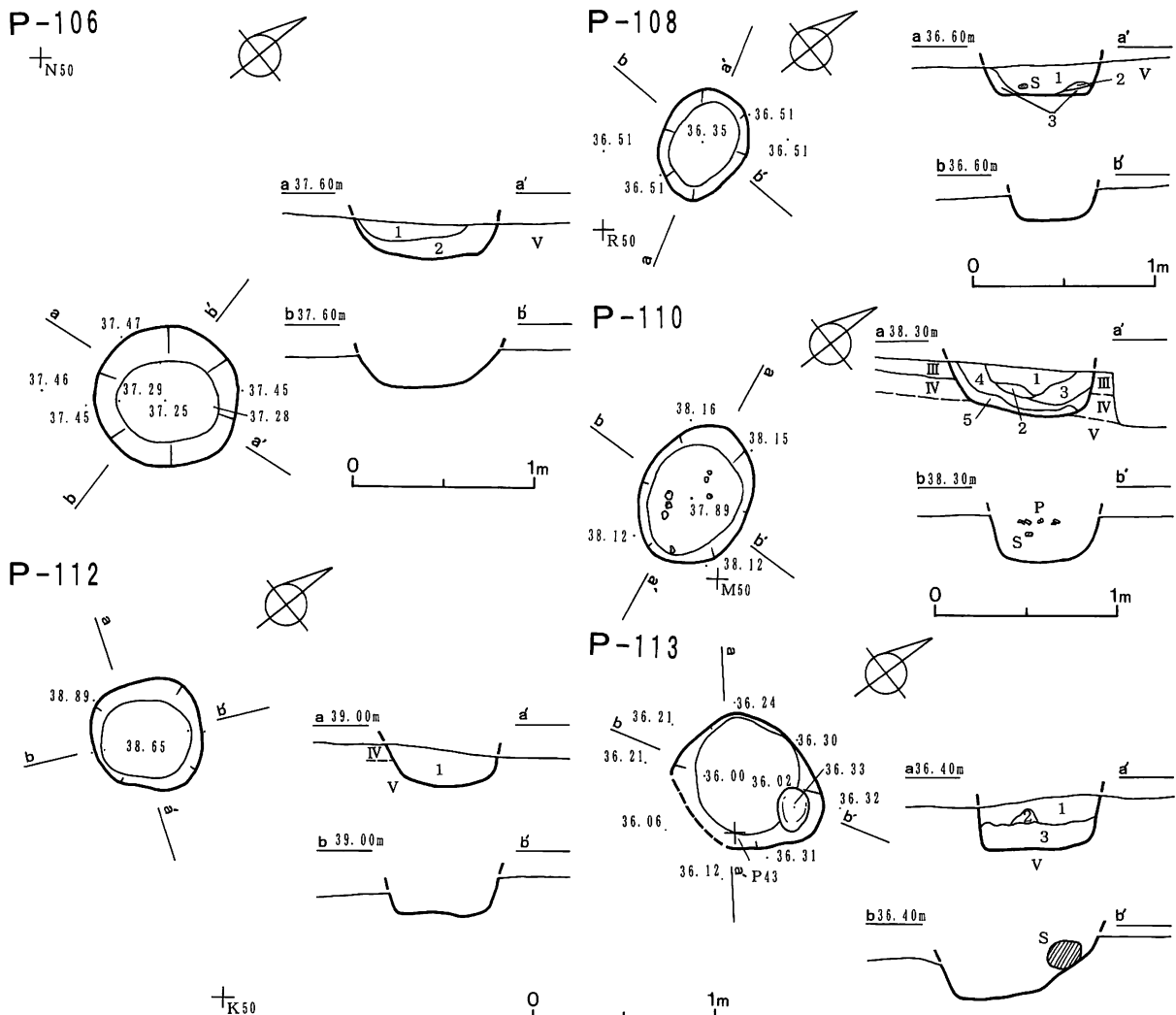
P-113 (図V-62、図版93-4・94-1)

位置・立地：O・P-43、調査区南西部の緩斜面上に位置する。標高は36.2~36.3mで南側にP-31、北西部にH-13、F-18、東側にH-15がある。

規模：0.84m/0.52m×0.69m/0.60m×0.38m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：V層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。南側の壁が部分的に耕作により削平を受けている。覆土は3層で、Ⅲ層土が主体である。坑底はほぼ平坦だが、やや東側に傾く。壁の立ち



図V-62 P-106・P-108・P-110・P-112・P-113

1 遺構

上がりは全体的に急だが、東側は緩やかである。

土層：1 黒褐色土 10YR2/3 III>>IV
ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。しまり弱い。粘性あり。

2 黒褐色土 10YR2/3 III>>IV>V
炭化物粒子を少量含む。しまりややあり。粘性あり。

3 黒褐色土 10YR2/2 III>>IV>V
炭化物粒子を含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。
(広田)

c 焼土

F-1 (図V-64、図版94-2)

位置・立地：P-43

規模：0.75m×0.72m×0.06m

平面形：不整形。

確認・調査：I層調査中に確認した。耕作土下部は深度耕作によりⅢ層がブロック状に起こされていた。

土層：1 赤褐色土。

特徴：耕作されているが位置的にさほど動いていない。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：耕作されているがⅢ層中の土であることから縄文時代後期ではないかと思われる。
(谷島)

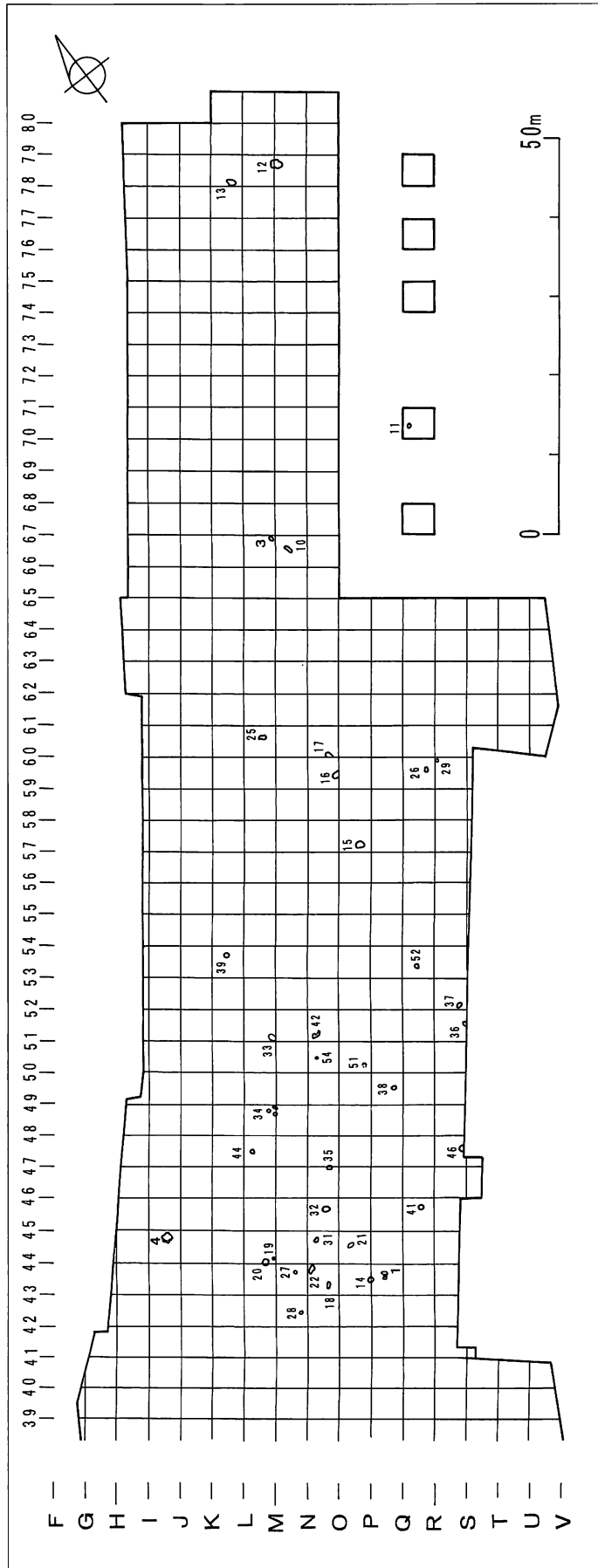
F-3 (図V-64、図版94-4)

位置・立地：L-66

規模：0.64m×0.21m×0.13m

平面形：不整な楕円形。

確認・調査：Ⅲ層の下位で検出した。形成面はⅢ層中と思われる。耕作による攪乱を受け、Ko-dを含む。平面形は不整な



図V-63 B地区焼土配置

楕円形で、断面形はほぼレンズ状を呈する。炭化物等は認められない。

土層：1 暗赤褐色土 10YR3/3 Ko-dを含む。粒子粗い。しまり弱い。粘性低い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：Ko-d降下以前の時期が考えられる。

(笠原)

F-4 (図V-64、図版94-5)

位置・立地：I-44に位置する。40ライン付近の沢へ注ぐ小沢に面した西向き斜面に立地する。標高37~38m付近。P-14・15と隣接する。

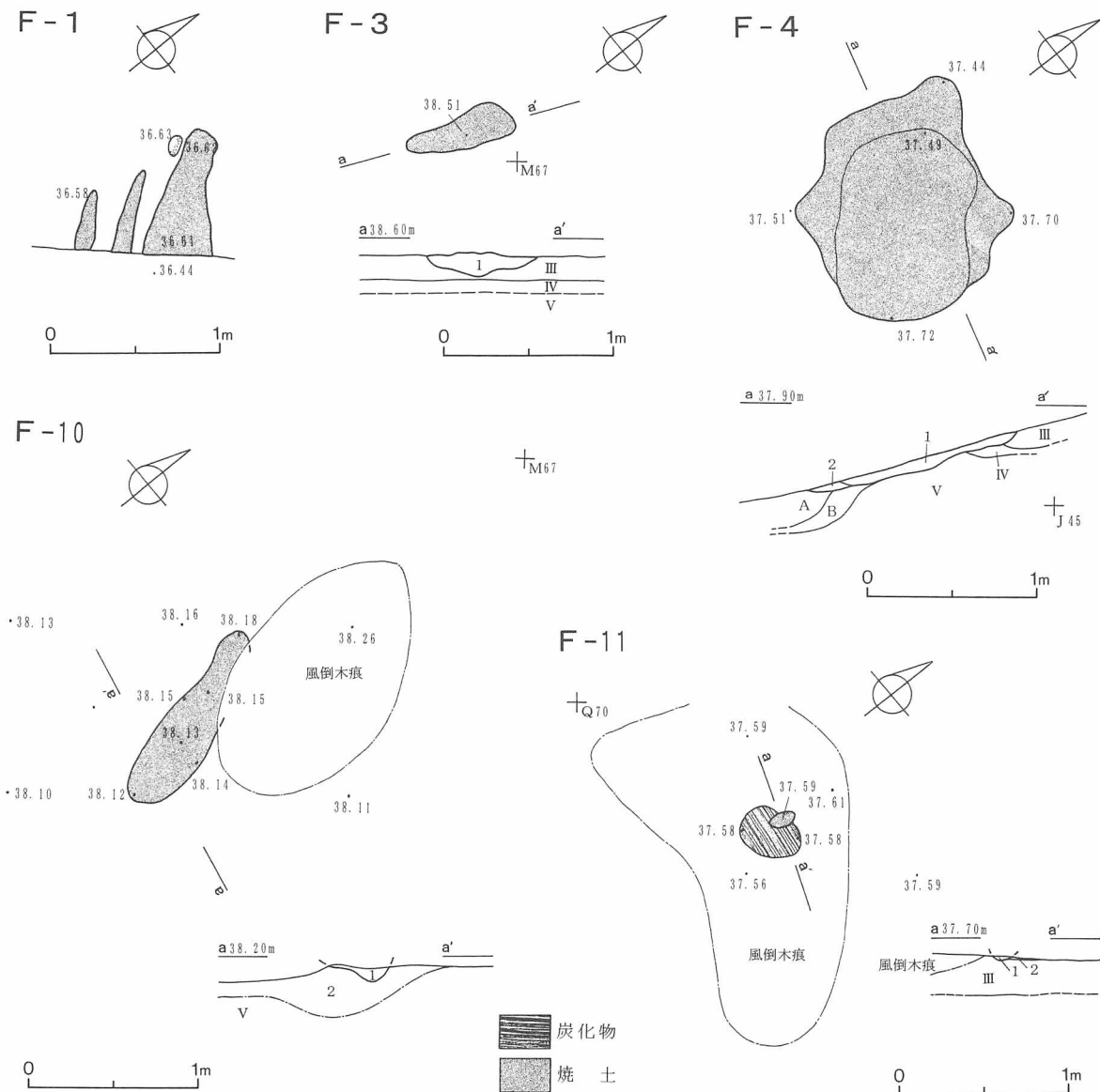
規模：1.44m×1.20m×0.37m

平面形：不整形。

確認・調査：斜面の包含層調査中、Ⅲ層下位相当で確認した。よく焼けた焼土である。

土層：1 明赤褐色焼土 5YR5/8 よく焼ける。しまり弱い。粘性強い。

2 暗赤褐色焼土 5YR3/4 やや焼ける。しまりあり。粘性あり。



図V-64 F-1・F-3・F-4・F-10・F-11

1 遺構

A 灰黄褐色土 10YR4/2 III層相当。しまりよい。粘性強い。斜面堆積。

B 黄褐色土 2.5Y5/3 IV層相当。しまりよい。粘性強い。斜面堆積。

特徴：隣接するP-14・15が土壌墓と考えられることから、位置関係から、これらに関して形成された可能性がある。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。(柳瀬)

F-10 (図V-64、図版95-6)

位置・立地：M-66 調査区中央を流れる沢近くの平坦面に位置する。

規模：1.17m×0.33m/0.07m

平面形：長円形。

確認・調査：V層まで掘り下げた際に、風倒木痕の落ち込みに焼土粒が散在していた。周辺にも炭化物が見られた。

土層：1 暗褐色土 7.5YR3/4 しまり弱。ロームブロックが混じる。径10mmほどの暗赤褐色(5YR3/6)焼土粒および炭化物が混じる。

2 黒褐色～暗褐色土 7.5YR3/2～4/3 しまり弱、風倒木痕攪乱。

特徴：風倒木痕の落ち込みに確認された焼土で、周辺に遺物が見られないことから人為的な焼土とは考え難い。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

時期：不明。(藤原)

F-11 (図V-64、図版95-7)

位置・立地：Q-70

規模：0.16m×0.09m×0.02m

平面形：楕円形。

確認・調査：III層調査中に風倒木痕の落ち込みで確認した。周辺にも炭化物が散在していた。

土層：1 焼土、暗赤褐色土(5YR3/6)境界明瞭。

2 暗褐色土 7.5YR3/4 しまり弱。風倒木痕の影響を受けたもの。

特徴：風倒木痕の落ち込みに確認された焼土である。焼土の境界が明瞭なこと、周辺に遺物が見られないことから人為的な焼土とは考え難い。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

時期：不明。(藤原)

F-13 (図V-65、図版96-2、132-1)

位置・立地：K-78、標高38.8m付近のB地区のややならかな斜面下に位置する。

規模：0.96m×0.72m×0.02m

平面形：不整形。

確認調査：III層下位で確認した。

土層：1 極暗赤褐色土 5YR2/3 粒子細かい。径2～4mmの炭化物を少量含む。径1mmの焼土粒を微量含む。

遺物出土状況：周辺の包含層からⅡ群B類土器1個体、Ⅲ群A-3類土器2点、Rフレイク1点、たたき石1点、礫2点が出土した。

時期：周辺の包含層出土土器から、縄文時代前期後半、Ⅱ群B類土器の時期と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：土器 1はⅡ群B類、円筒土器下層d式である。口唇部及び隆帯上には縄による圧痕が施されている。口縁部はゆるやかな波状で、口縁部には2本一組の縄の圧痕が加えられている。胴部には多軸絡条体の回転文による縄文が施文されている。(広田)

石器 2はたたき石3類である。(柳瀬)

F-14 (図V-65、図版96-3・105-6)

位置・立地：O・P-43、調査区南西部、沢縁辺部の緩斜面上に位置する。標高は36.5~36.6mで南側約0.6mにP-25が位置する。

規模：0.66m×0.55m/0.14m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：H-15の覆土中位を調査中に焼土粒の集中として検出された。H-15埋没過程の段階で形成されたと考えられ、H-15より新しい。下部の焼け方は漸移的で、その場で形成された焼土と考えられる。P-25と共にH-15の埋没途中のくぼみを用い、生活面が形成されていた可能性がある。

土層：1 黒褐色土 10YR2/3 炭化物粒子を少量、焼土粒子、ローム粒子を含む。しまりあり。粘性弱い。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、H-15より新しいため、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器以降の時期の可能性はある。(広田)

F-15 (図V-65、図版96-4)

位置・立地：O-57に位置する。M-55からR-54付近のゆるい沢地形に面する南向きの緩斜面上に立地する。

規模：1.03m×0.78m×0.12m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層下位で、焼土粒が集中する範囲を確認した。

土層：1 黒褐色土 7.5YR3/2 Ⅲ層に赤褐色焼土粒(2.5YR4/6)が多く混じる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。(柳瀬)

F-16 (図V-65)

位置・立地：N・O-59、ごく緩やかな、南東向きの斜面上に位置する。F-17に隣接する。

規模：0.96m×0.73m×0.18m

平面形：隅丸長方形。

確認・調査：Ⅲ層で、焼土粒が集中する範囲を確認した。

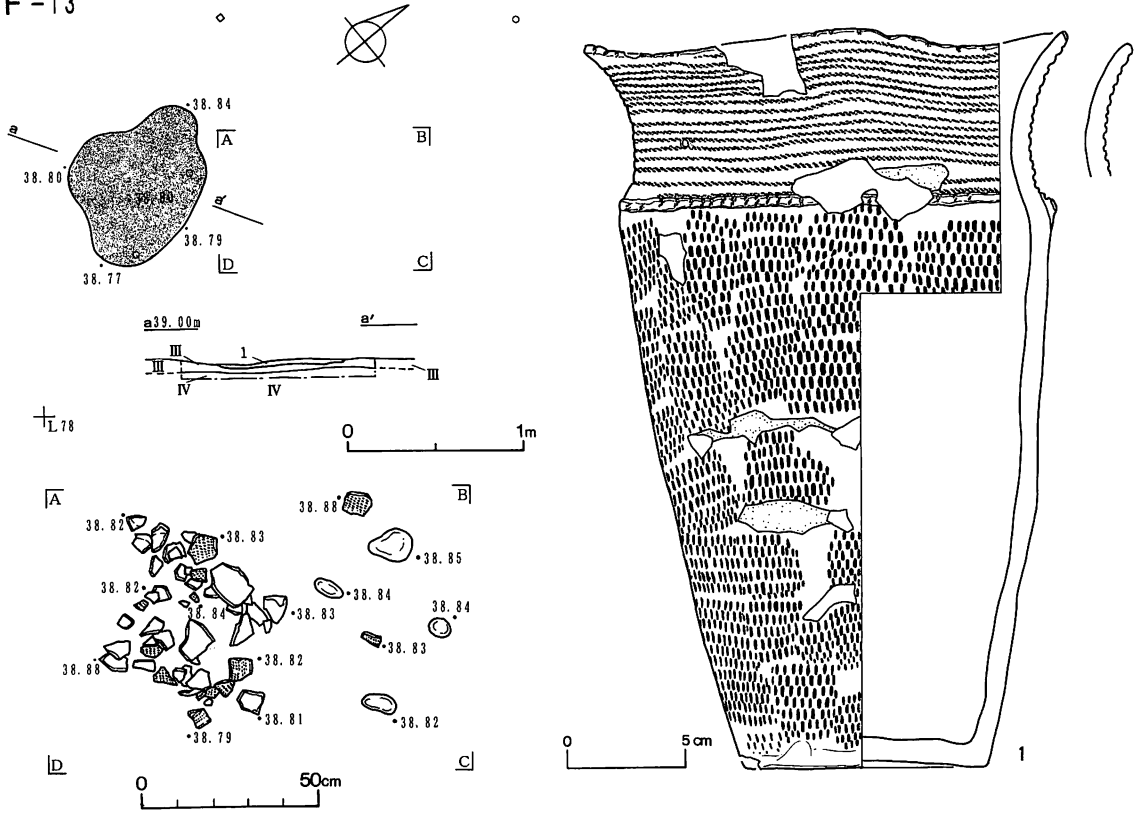
土層：1 黒褐色土 7.5YR3/2 Ⅲ層に赤褐色焼土粒(2.5YR4/6)が多く混じる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

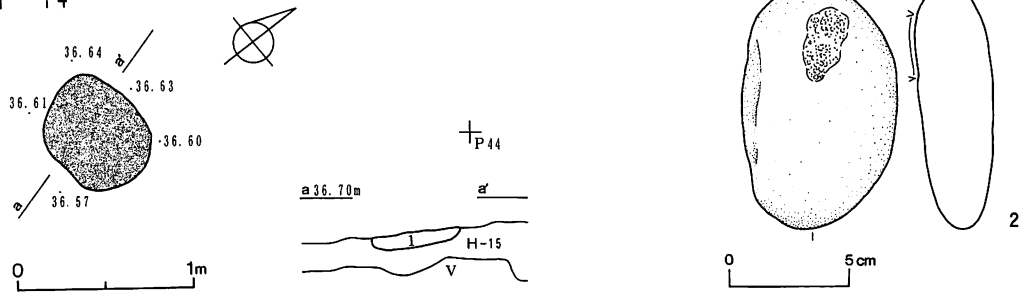
時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。(柳瀬)

1 遺構

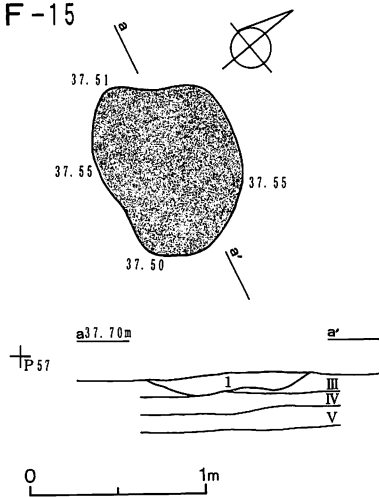
F-13



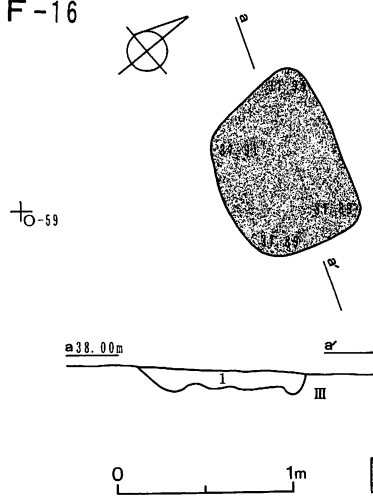
F-14



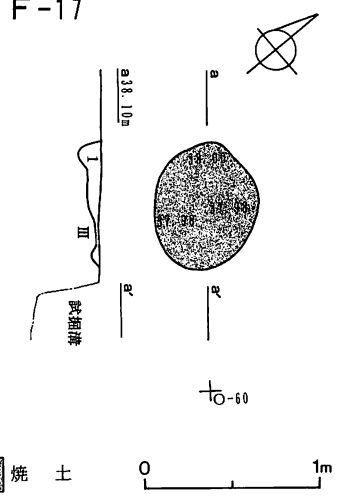
F-15



F-16



F-17



☒ V-65 F-13・F-14・F-15・F-16・F-17

F-17 (図V-65)

位置・立地：N-59・60、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。F-16に隣接する。

規模：0.73m×0.58m×0.13m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層下位で、焼土粒が集中する範囲を確認した。

土層：1 暗褐色土 10YR3/2 Ⅲ層にローム粒と赤褐色焼土粒 (2.5YR4/6) が少量混じる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性ある。(柳瀬)

F-18 (図V-66、図版96-5)

位置・立地：N-43、調査区南西部、沢縁辺部の緩斜面上に位置する。標高は36.9mで、西側にH-13、南側にP-31がある。

規模：0.82m×0.38m×0.14m

平面形：不整長楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中に暗赤褐色土のまとまりとして確認した。全体的に焼け方は弱く、断面形はレンズ状を呈する。

土層：1 暗赤褐色土 5YR3/4 しまりややあり。粘性やや弱い。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性ある。(広田)

F-19 (図V-66)

位置・立地：L-44

規模：0.39m×0.31m×0.08m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層下位で検出した。

土層：1 暗褐色土 (焼土粒を含む)。

特徴：粒状の焼土が混じり、この場で火が焚かれたものではないと思われる。約0.4m西側にF-20があり検出層位からほぼ同時にあったものと思われる。

遺物出土状況：焼土内から剥片9点が出土した。

時期：検出した層位から縄文時代中期前半と考えられる。(谷島)

F-20 (図V-66)

位置・立地：L-43・44

規模：0.93m×0.74m×0.11m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層下位で検出した。

土層：1 暗褐色土 (焼土粒を含む)。

特徴：粒状の焼土が混じり、この場で火が焚かれたものではないと思われる。約0.4m東側にF-19があり検出層位からほぼ同時にあったものと思われる。

遺物出土状況：焼土内からⅢ群A-3類土器4点が出土した。

1 遺構

時期：検出した層位や出土遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の頃と考えられる。(谷島)

F-21 (図V-66、図版96-6)

位置・立地：O-44、調査区南西部、沢縁辺部の緩斜面上に位置する。標高は35.8mで、南側にH-15、P-46・47、西側にP-70がある。

規模：0.95m×0.55m×0.07m

平面形：不整長楕円形。

土層：1 暗褐色土 7.5YR3/3 Ⅲ>Ⅳ 焼土粒子を多量、炭化物粒を微量含む。しまり弱い。粘性やや弱い。

2 暗褐色土 7.5YR3/3 Ⅲ>>Ⅳ 焼土粒子を多量、炭化物粒を微量含む。しまりあり。粘性弱い。

3 黒褐色土 7.5YR2/2 Ⅲ>>Ⅳ 焼土粒子を多量、炭化物粒を微量含む。しまりあり。粘性弱い。

確認・調査：Ⅲ層下位で焼土粒のまとまりとして確認した。全体的に焼け方は弱く、断面形はレンズ状を呈する。二次的に堆積した焼土の可能性が高い。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。(広田)

F-22 (図V-66、図版97-1)

位置・立地：N-43、調査区南西部、沢縁辺部の緩斜面上に位置する。標高は36.9~37.0mで、西側にH-13、東側にP-69・70がある。

規模：1.24m×0.67m×0.11m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅳ層上面で赤褐色土のまとまりとして確認した。よく焼けていて、断面形はレンズ状を呈する。下部が漸移的に焼けているため、その場で形成されたと考えられる。

土層：1 赤褐色土 2.5YR4/6 漸移的な焼け方。しまりややあり。粘性あり。

2 赤褐色土 2.5YR4/8 しまりややあり。粘性弱い。

遺物出土状況：焼土中から、礫が1点出土している。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。(広田)

F-25 (図V-66)

位置・立地：L-57、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。

規模：0.80m×0.52m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層で、焼土粒が集中する範囲を確認した。半截したところ、下位に風倒木に攪乱された、よく焼けた焼土を検出した。

土層：風倒木で攪乱されている。Ⅲ層の褐色土中にやや焼けている焼土及び焼土粒が多く混入。これより下位によく焼けた焼土(赤褐色2.5YR4/8)がある。最大厚10cm。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。(柳瀬)

F-26 (図V-66)

位置・立地：Q-59、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。

規模：0.50m×0.33m

平面形：楕円形。

確認・調査：風倒木中の黒褐色土で、焼土粒が集中する範囲を確認した。

土層：黒褐色土 5YR2/2 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8) が少量混じる。最大厚12cm。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。 (柳瀬)

F-27 (図V-66)

位置・立地：M-43

規模：0.23m×0.19m×0.08m

平面形：円形。

確認・調査：IV層調査中にIV層上面で検出した。レンズ状に焼けている。

土層：赤褐色土。

特徴：焼土上部は耕作で消失しているが、III層下位で使われたものと思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位から縄文時代中期から後期と考えられる。 (谷島)

F-28 (図V-66)

位置・立地：M-42

規模：0.35m×0.34m×0.07m

平面形：円形。

確認・調査：V層調査中にV層上面で検出した。レンズ状に焼けている。

土層：赤褐色土。

特徴：焼土上部は耕作で消失しているが、III層下位で使われたものと思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位から縄文時代中期から後期と考えられる。 (谷島)

F-29 (図V-66)

位置・立地：R-59、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。

規模：0.46m×0.30m

平面形：楕円形。

確認・調査：風倒木中の黒褐色土で、焼土粒が集中する範囲を確認した。周囲に少量の炭化物が分布する。

土層：黒褐色土 7.5YR2/2 明赤褐色焼土粒 (5YR5/8) が混じる。粒子粗い。しまり弱い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。 (柳瀬)

1 遺構

F-31 (図V-66、図版98-2、132-2)

位置・立地：N-44、調査区南西部、沢縁辺部の緩斜面上に位置する。標高は37.0mで、北側約0.5mにP-45がある。

規模：0.65m×(0.40m)×0.15m

平面形：楕円形？

確認・調査：Ⅲ層調査中に焼土粒子のまとまりとして確認した。焼け方は弱く、断面形状は不整で、凹凸がある。下部がやや漸移的に焼けているため、その場で形成された可能性が高い。本焼土の下位でH-21を検出したため、H-21に伴う可能性もある。

土層：1 黒褐色土 7.5YR2/2 Ⅲ≫Ⅳ 焼土粒子を少量含む。しまりややあり。粘性あり。

2 暗褐色土 7.5YR3/3 Ⅲ≫Ⅳ 焼土粒子を少量、炭化物粒を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

遺物出土状況：焼土周辺のⅢ層中から、Ⅲ群A-3類土器、スクレイパー、剥片が出土している。焼土から、Ⅲ群A-3類土器が出土している。

時期：焼土中の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：石器 1はスクレイパー1a類である。(柳瀬)

F-32 (図V-66、図版98-3)

位置・立地：N-45、調査区南西部、沢縁辺部の緩斜面上に位置する。標高37.1mで西側にH-21、南側にP-44がある。

規模：0.95m×0.66m×-

平面形：不整楕円形。

土層：断面図未作成のためなし。

確認・調査：Ⅲ層中位で焼土粒のまとまりとして確認した。焼け方は弱い。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。(広田)

F-33 (図V-66、図版98-4)

位置・立地：L-50・51、調査区南西部の緩斜面上に位置する。標高は37.9mで南西側約2mにP-98がある。

規模：0.79m×0.61m×0.23m

平面形：不整形。

土層：1 暗褐色土 7.5YR3/4 Ⅲ≫Ⅳ 焼土粒子を多量含む。しまりあり。粘性弱い。

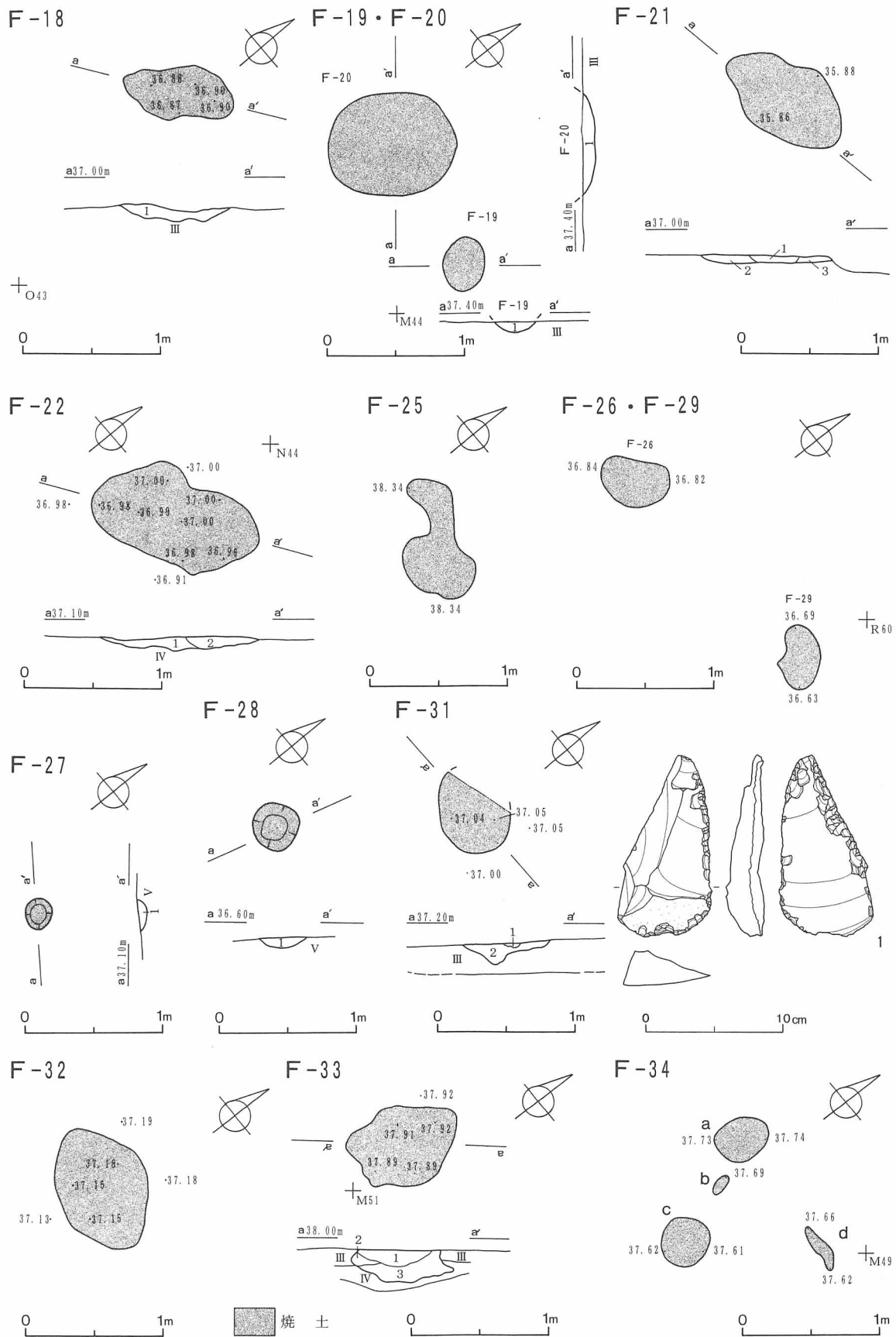
2 暗褐色土 7.5YR3/3 Ⅳ≫Ⅲ 焼土粒子を少量含む。しまりやや弱い。粘性弱い。ボソボソ。

3 暗褐色土 7.5YR3/4 Ⅲ=Ⅳ 焼土粒子を微量含む。しまりやや弱い。粘性やや弱い。

確認・調査：Ⅲ層中位で焼土粒のまとまりとして確認した。比較的良好に焼けていて、断面形状は凸レンズに近い。漸移的に焼けているため、その場で形成された焼土と考えられる。

遺物出土状況：焼土中から礫が1点出土している。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。(広田)



図V-66 F-18・F-19・F-20・F-21・F-22・F-25・F-26・F-27・F-28
・F-29・F-31・F-32・F-33・F-34

1 遺構

F-34 (図V-66)

位置・立地：L・M-48、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。

規模：(1.28m) × (1.24m)

(a : 0.38m × 0.31m、b : 0.16m × 0.18m、c : 0.36m × 0.34m、d : 0.34m × 0.10m)

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層下位で、焼土粒と炭化物が集中する範囲を確認した。焼土の形状と、周囲にも焼土粒と炭化物がまばらに分布していたことから、1カ所の焼土が木根により攪乱されたものと判断した。

土層：1 黒褐色土 10YR2/3~7.5YR3/2 明赤褐色焼土 (2.5YR5/8) が少量混じる。

2 黒褐色土 10YR2/3~7.5YR3/2 炭化物が少量混じる。

遺物出土状況：Ⅲ群A-3類が2点、剥片が2点、計4点出土している。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。

(柳瀬)

F-35 (図V-67)

位置・立地：N-46・47、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。

規模：0.61m × 0.53m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層下位で、焼土粒が集中する範囲を確認した。

土層：暗褐色土 7.5YR3/4 明赤褐色焼土粒 (2.5YR5/8) と炭化物が少量混じる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。

(柳瀬)

F-36 (図V-67)

位置・立地：R・S-51

規模：0.38m × 0.29m × 0.08m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層下位で検出した。

土層：暗褐色土 (焼土粒を含む)。

特徴：粒状の焼土が混じり、この場で火が焚かれたものではないと思われる。2m程北側にF-37があり、検出層位や土の状態から同時期と思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位から縄文時代中期から後期と思われる。

(谷島)

F-37 (図V-67)

位置・立地：R-52

規模：0.83m × 0.47m × 0.12m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層下位で検出した。

土層：暗褐色土 (焼土粒を含む)。

特徴：粒状の焼土が混じり、この場で火が焚かれたものではないと思われる。2m程南側にF-36があり、検出層位や土の状態から同時期と思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位から縄文時代中期から後期と思われる。

(谷島)

F-38 (図V-67)

位置・立地：P-49

規模：0.55m×0.43m×0.09m

平面形：不整形。

確認・調査：IV層調査中にIV層上面で検出した。

土層：1 茶褐色土（焼土粒を含む）。

特徴：粒状の焼土が混じり、この場で火が焚かれたものではないと思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位から縄文時代中期と思われる。

(谷島)

F-39 (図V-67)

位置・立地：K-53、調査区中央部からやや西側に寄った緩斜面上に位置する。標高は38.8mで、南側約2.5mにH-19がある。

規模：0.53m×0.42m×0.16m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：Ⅲ層中位で焼土粒のまとまりとして確認した。風倒木痕との切り合いのため南側は少し動いているため、断面形は不整である。焼け方は弱く、二次的に堆積した焼土である可能性が高い。

土層：1 黒褐色土 7.5YR2/2 Ⅲ>>Ⅳ 焼土粒子を含む。しまややあり。粘性ややあり。

2 褐色土 7.5YR4/4 Ⅳ>>Ⅲ しまりややあり。粘性あり。

3 黒色土 7.5YR1.7/1 Ⅲ層土主体。Ⅴ層土を少量含む。焼土粒子を微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

4 褐色土 7.5YR4/3 Ⅳ>Ⅲ>Ⅴ しまりあり。粘性あり。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期の可能性がある。

(広田)

F-41 (図V-67)

位置・立地：Q-45

規模：0.7m×0.6m×0.14m

平面形：円形。

確認・調査：IV層調査中にIV層上面で検出した。

土層：黒茶褐色土（焼土粒を含む）。

特徴：IV層からⅤ層上面まで粒状の焼土が混じり、掘り込まれている。下面は凹凸がある。粒状の焼土混じりの土が入っていることからこの場で火が焚かれたものではないと思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位から縄文時代中期から後期と思われる。

(谷島)

1 遺構

F-42 (図V-67)

位置・立地：N-51、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。

規模：1.12m×(0.44m)×0.10m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：IV層上面で、風倒木中で焼土粒の集中を確認した。風倒木によって攪乱されているものと思われる。

土層：1 黒色土 7.5YR2/1 焼土粒と炭化材が少量混じる。

2 黒色土 7.5YR2/1 焼土粒が多く混じる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。

(柳瀬)

F-44 (図V-67)

位置・立地：L-47、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。

規模：0.46m×0.31m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：風倒木内で、焼土粒と炭化物の集中範囲を確認した。層厚は0.05mである。

土層：1 暗褐色土 7.5YR3/4 赤褐色焼土粒(2.5YR4/6)が混じる。炭化物がやや多く混じる。

2 暗褐色土 7.5YR3/4 炭化物がやや多く混じる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。

(柳瀬)

F-46 (図V-67)

位置・立地：R-47

規模：0.71m×(0.27m)×0.15m

平面形：円形？

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層中位で検出した。S-47側は調査範囲外のため不明である。

土層：1 黒褐色土(焼土粒を少量含む)、2 茶褐色土(焼土粒を多量に含む)。

特徴：Ⅲ層中位からⅥ層にかけて掘り込まれ、焼土粒混じりの土が投棄されていると思われる。

遺物出土状況：焼土1から礫1点が出土した。

時期：検出層位から縄文時代後期頃と思われる。

(谷島)

F-51 (図V-67、図版100-5)

位置・立地：O-50

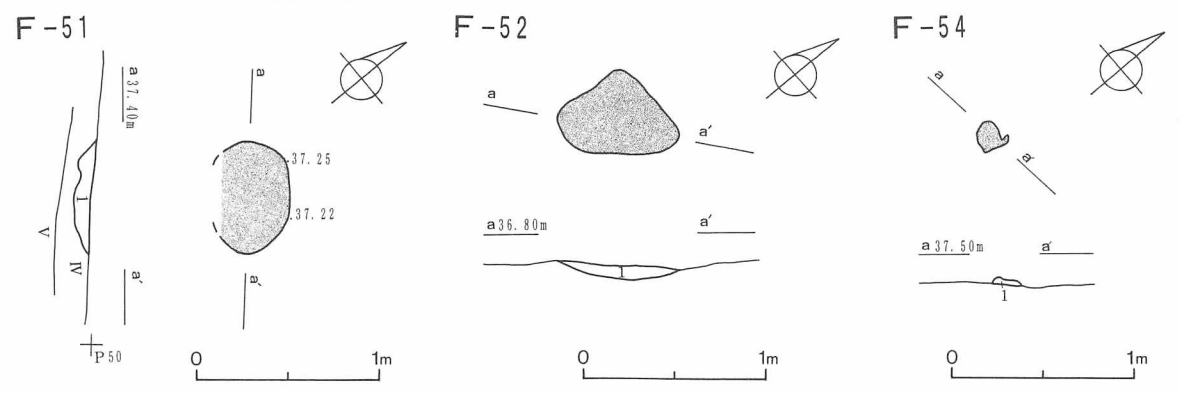
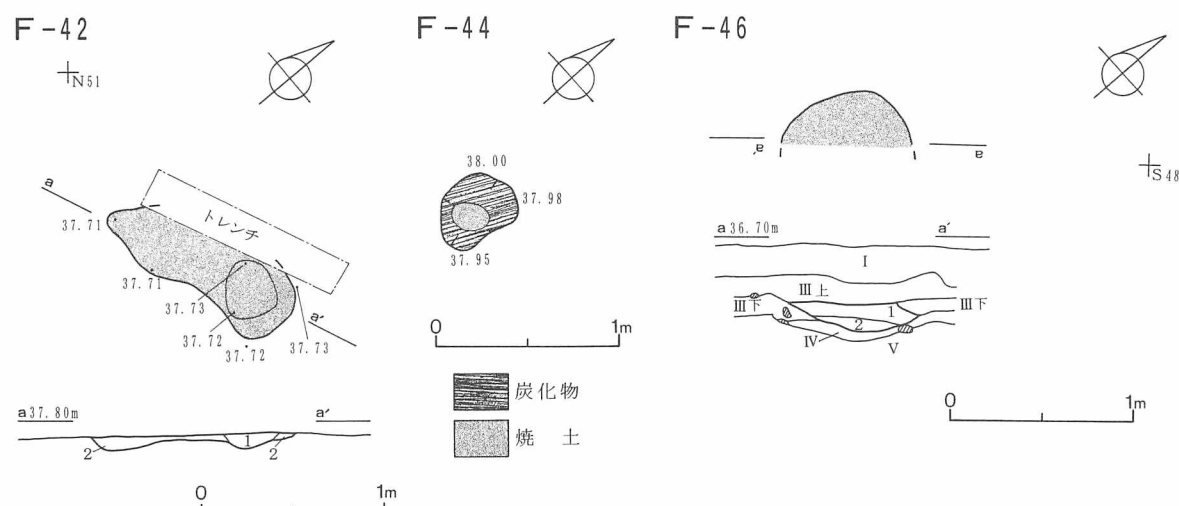
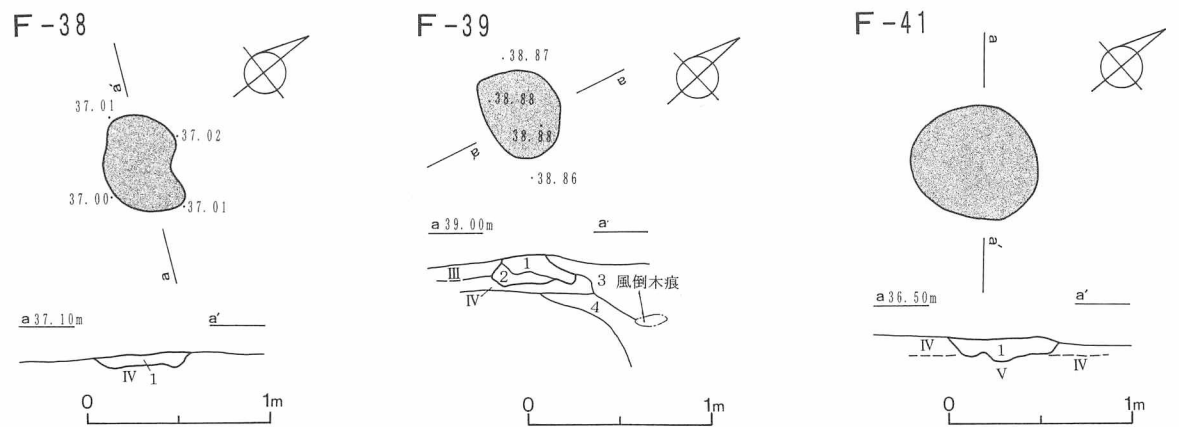
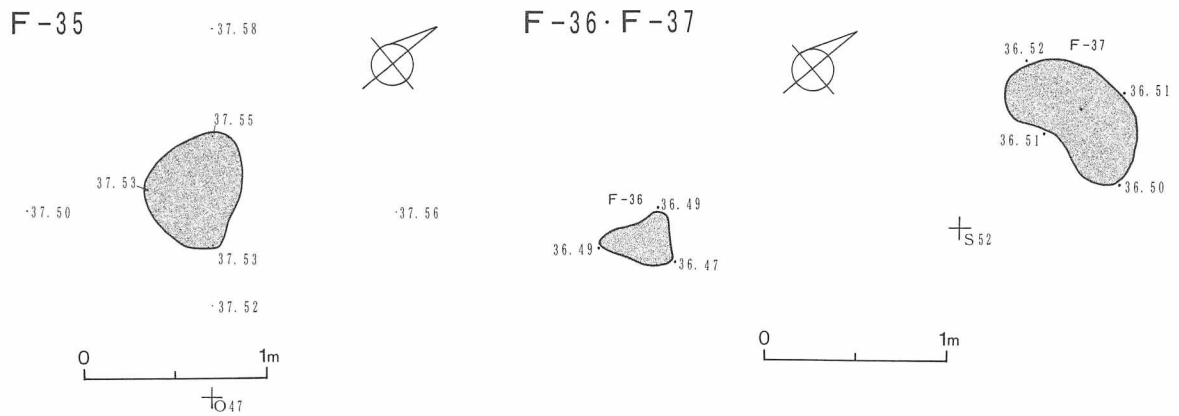
規模：0.61m×0.39m×0.13m

平面形：楕円形。

確認・調査：IV層調査中にIV層上面で検出した。南西側はトレンチで掘り下げたため確認できなかった。

土層：1 黒色土(焼土粒を含む)。

特徴：IV層に粒状の焼土が混じり、掘り込まれている。下面は凹凸がある。粒状の焼土混じりの土が入っていることからこの場で火が焚かれたものではなく投棄されていると思われる。



☒ V-67 F-35・F-36・F-37・F-38・F-39・F-41・F-42・F-44・F-46
・F-51・F-52・F-54

1 遺構

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位や覆土から縄文時代中期から後期と思われる。

(谷島)

F-52 (図V-67)

位置・立地：Q-53

規模：0.67m×0.47m×0.12m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層下位で検出した。

土層：1 茶褐色土（焼土粒を含む）。

特徴：粒状の焼土混じりの土が入っていることからこの場で火が焚かれたものではなく投棄されていると思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位や覆土から縄文時代中期から後期と思われる。

(谷島)

F-54 (図V-67、図版100-7)

位置・立地：N-50

規模：0.16m×0.13m×0.04m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層下位で検出した。風倒木痕の窪みにある。

土層：1 暗茶褐色土（焼土粒を含む）。

特徴：粒状の焼土混じりの土が入っていることからこの場で火が焚かれたものではなく投棄されていると思われる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位や覆土から縄文時代中期から後期と思われる。

(谷島)

d 小ピット

小ピットのうち、配列の認められるものは建物跡、列を成す5カ所は杭列として扱っている。これらのものを省いて、配列などの認められない柱穴跡などを小ピットとした。

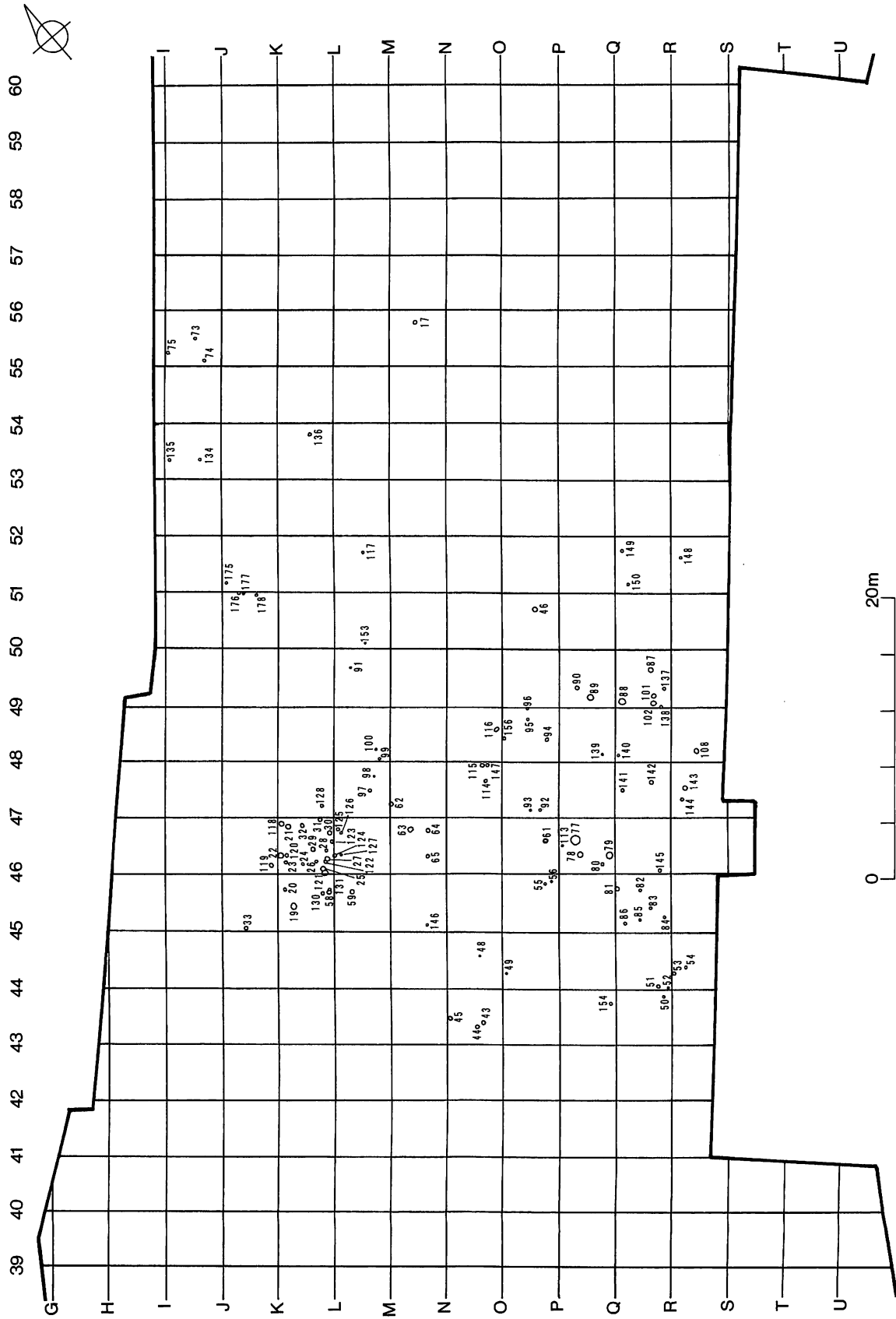
小ピットは108カ所検出され、B1地区の南西側に分布している。K・L-45・46区にまとまって分布する区域があるほか、北から南に3列の帯状の分布も認められる。ほとんどがⅣ層またはⅤ層から検出している。平面形は径15~30cmで円形のものが多く、確認面からの深さ10~20cmだが、やや深いもので30cm程のものがある。

挿図は平面的なまとまりをグリッド単位にまとめて掲載している。大半が縄文時代中期前半または後期前葉のものと考えられる。SP-19・62は覆土中から土器片が出土している。

J・K・L-45・46 (図V-69) SP-19~33・58・59・118~127・130・131は坑底の平らなものが多く、覆土はSP-59・120・124~126が黒褐色で他は暗褐色から褐色である。SP-24・120・126・127は杭状に坑底が尖り気味である。

J-50・51 (図V-70) SP-175~178は平面形がやや楕円形である。SP-175の坑底は丸く、SP-176の坑底は斜め、SP-177・178の坑底は平らである。覆土は暗褐色である。

K-53・54 (図V-70) SP-136は平面形が円形で坑底が平らなもので、覆土は上半が褐色で下半

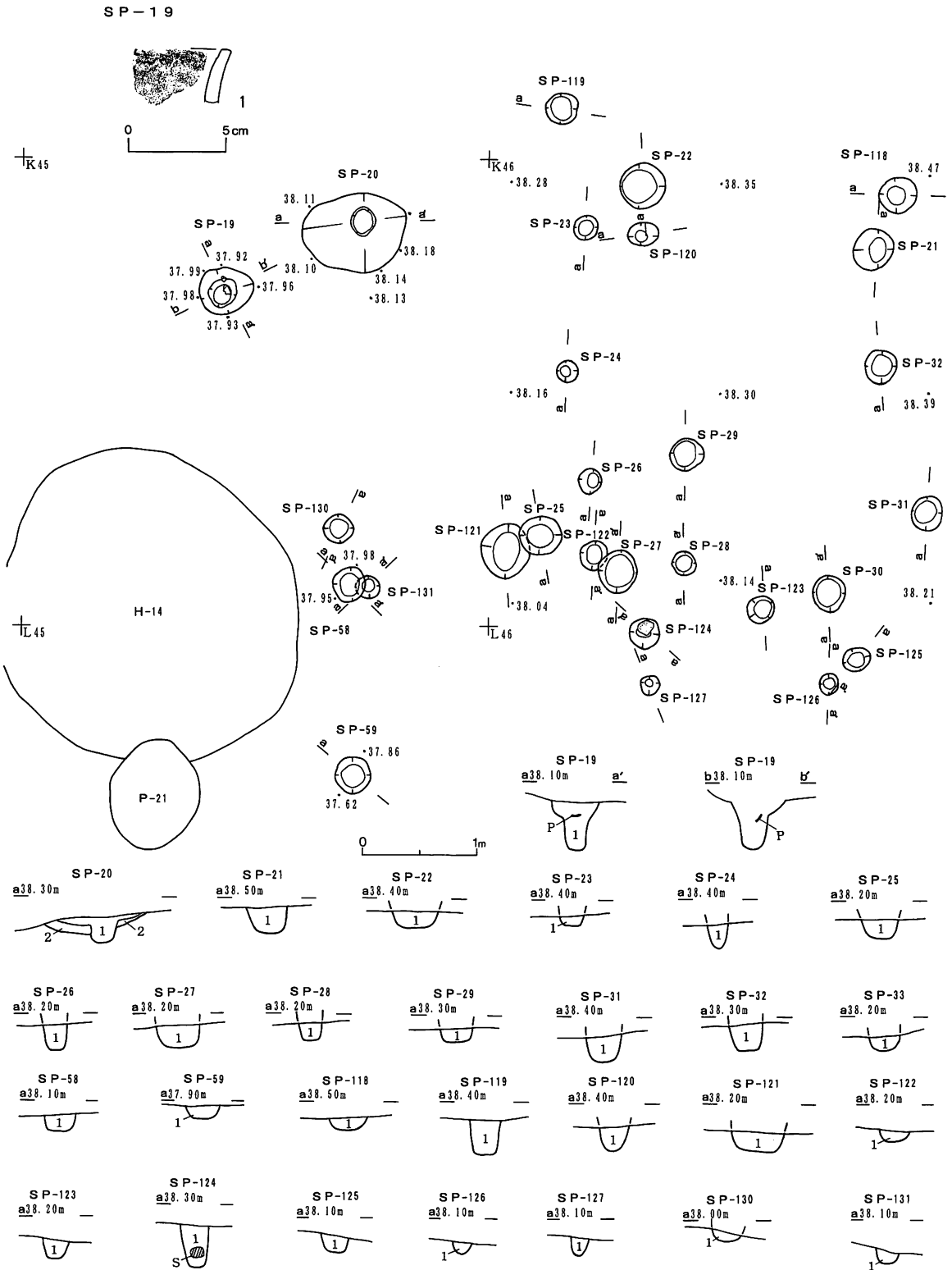


図V-68 B地区小ピット配置

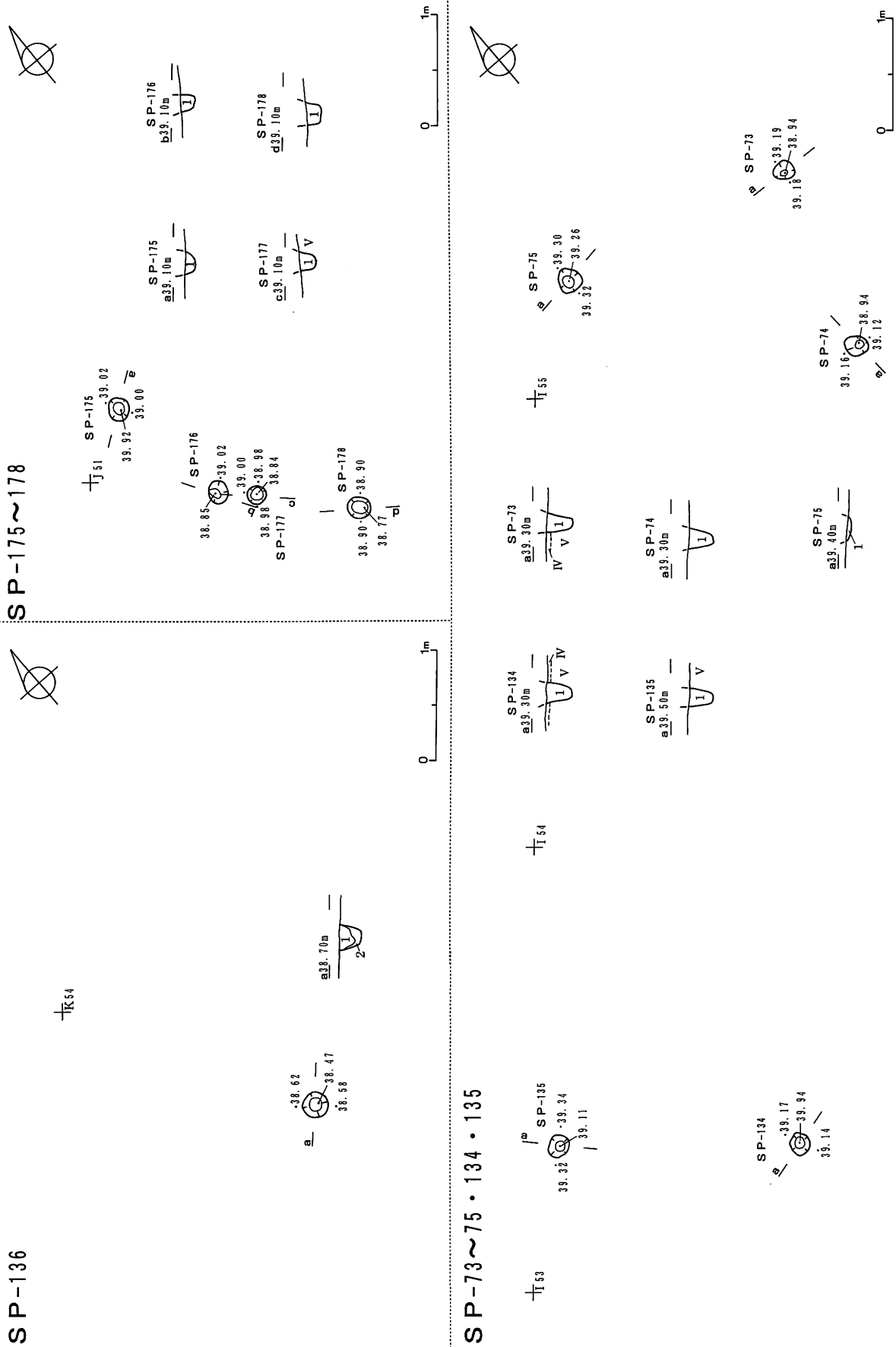
1 遺構



SP-19~33・58・59
 ・118~127・130・131

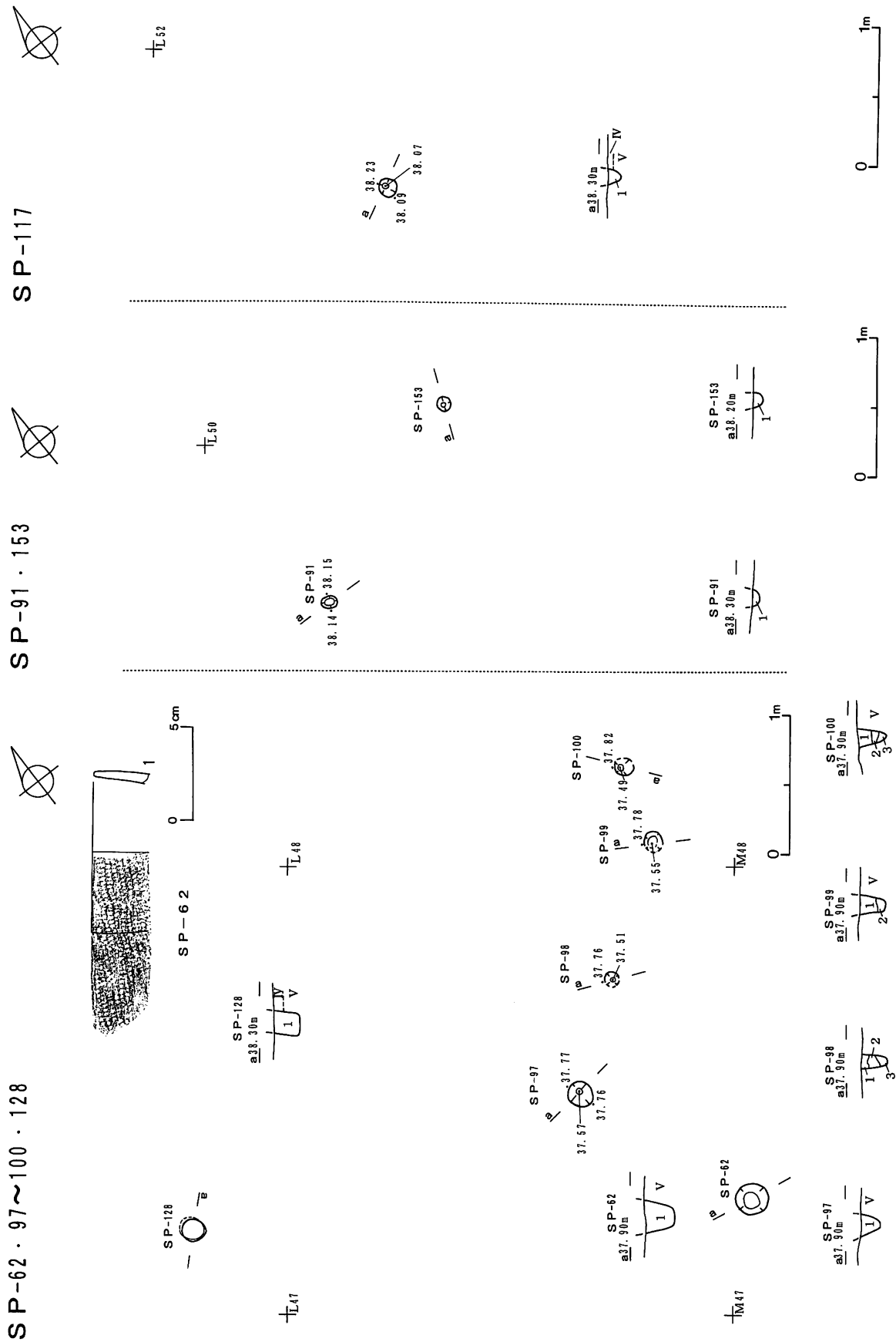


図V-69 小ピット (1) J・K・L-45・46

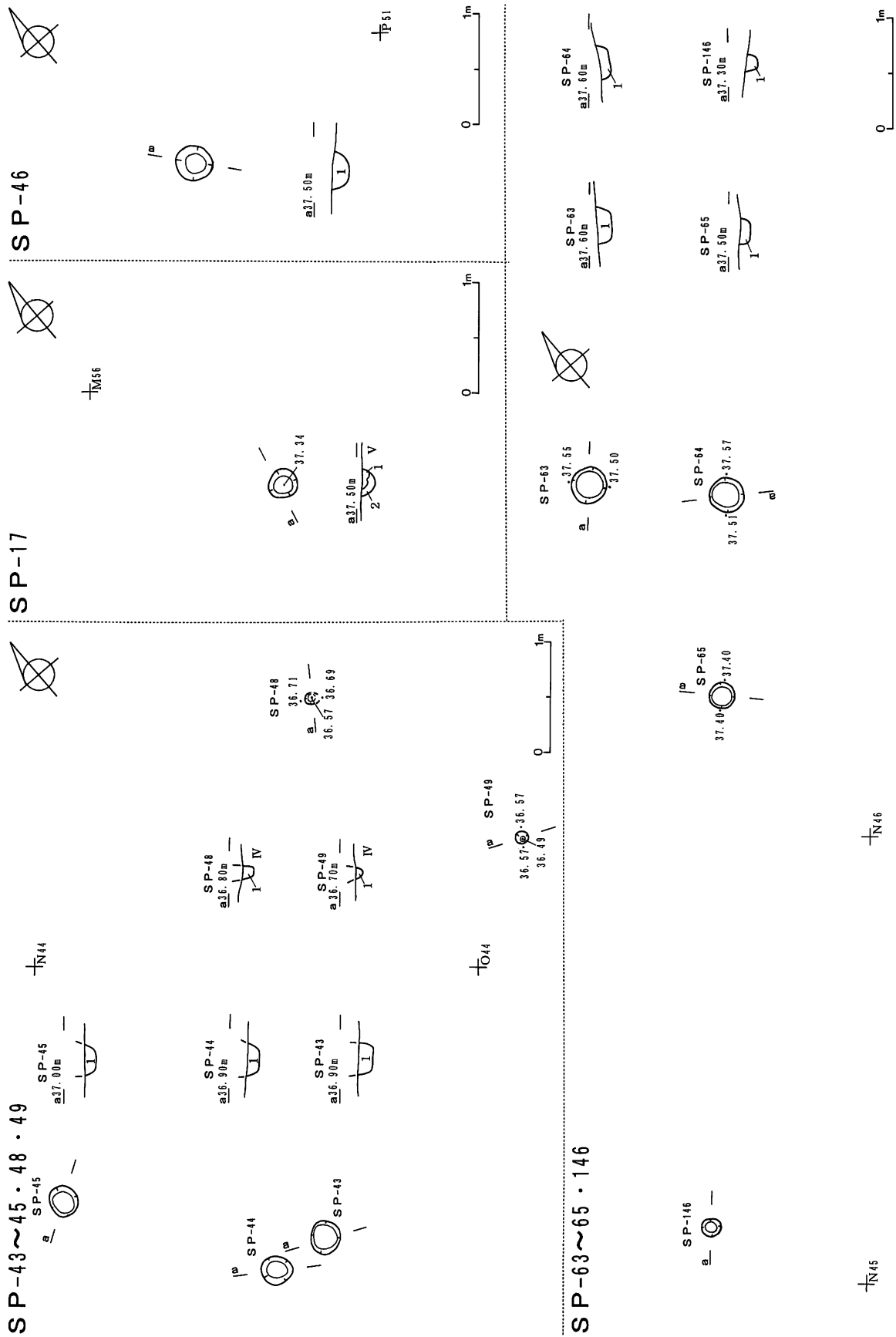


図V-70 小ピット (2) J-50・51、K-53・54、I-53・54・55

1 遺構



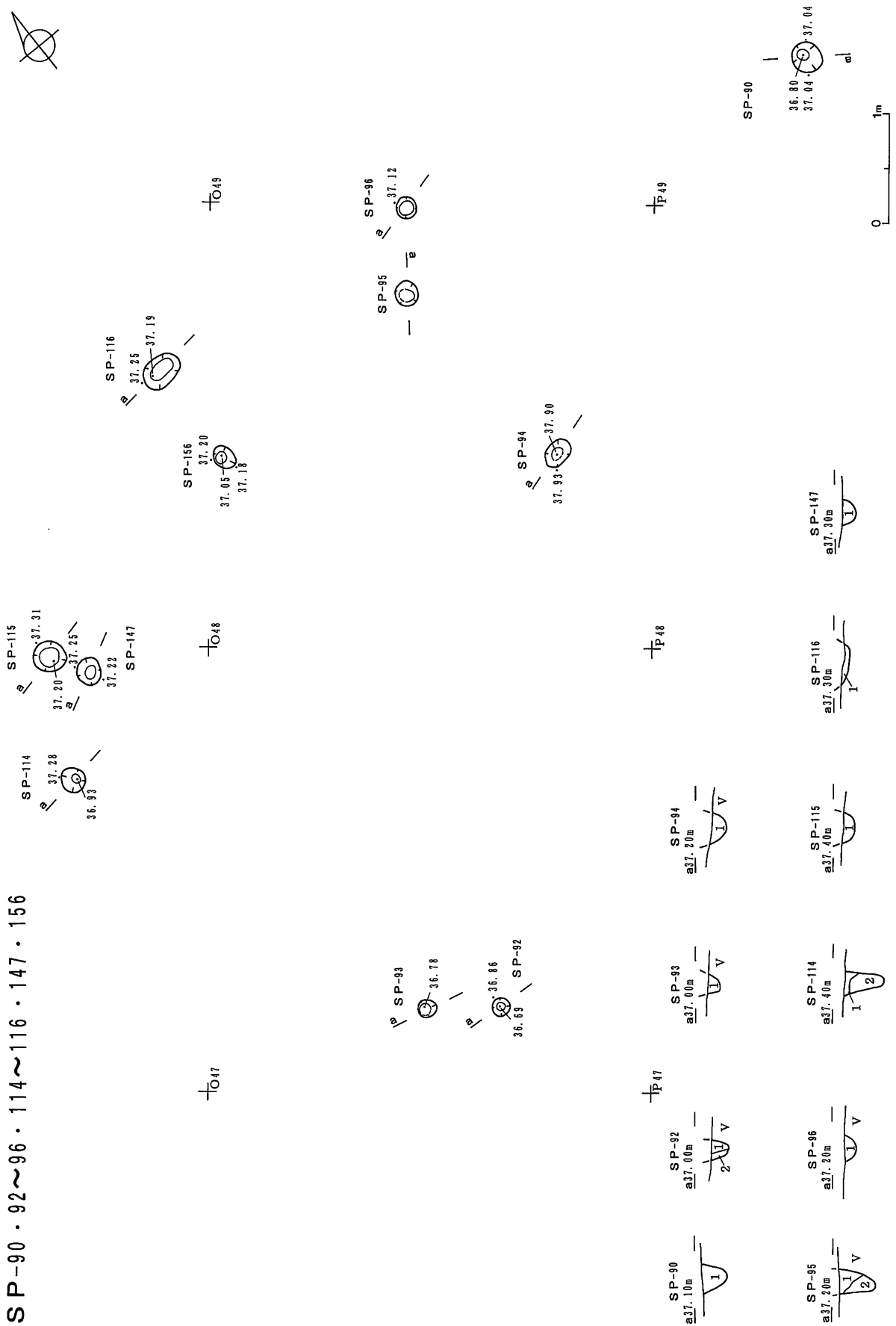
図V-71 小ピット(3) L・M-47・48, L-49・50, L-51



図V-72 小ピット(4) M-55, N-43・44, N-45・46, P-55

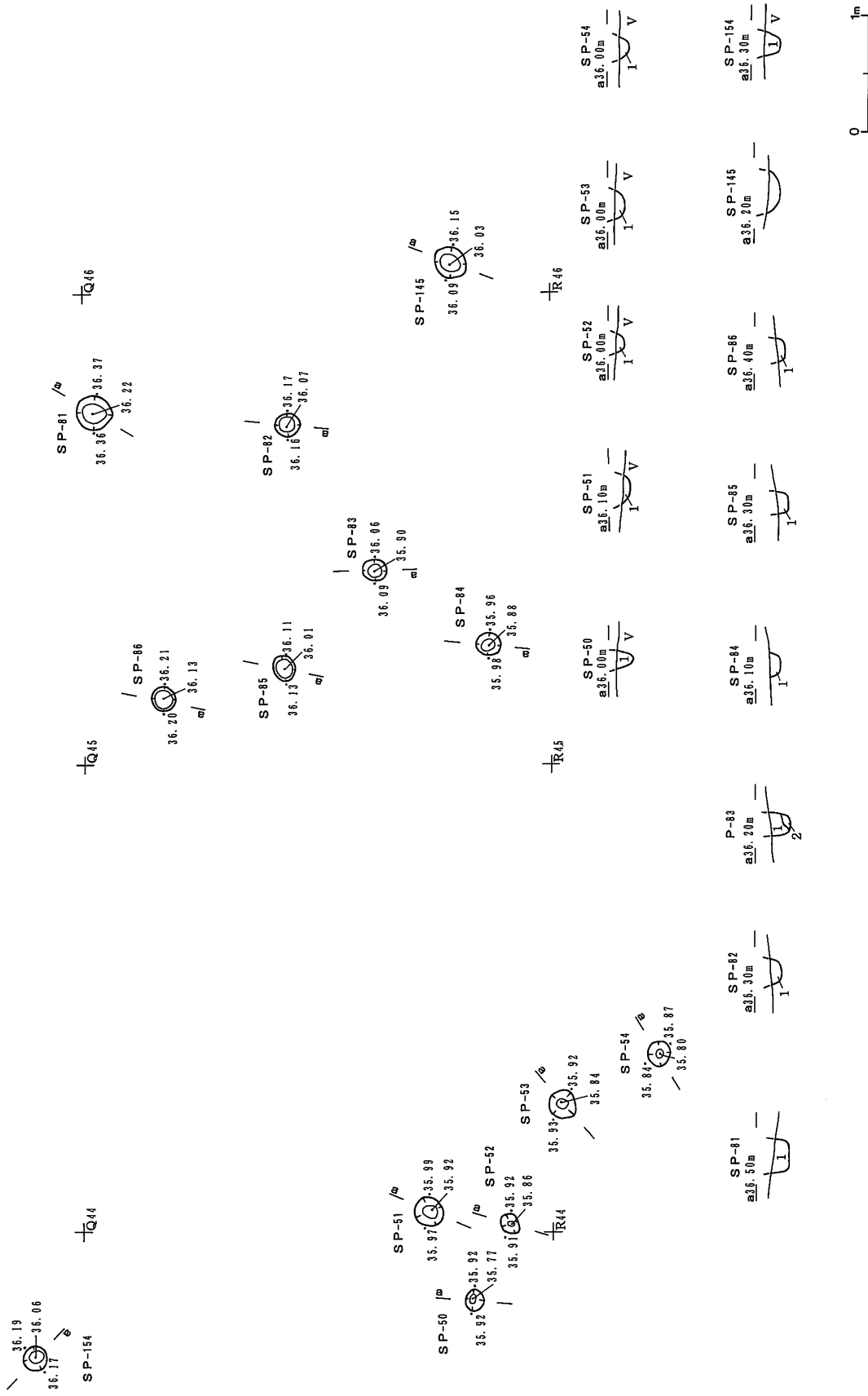
SP-90・92~96・114~116・147・156

1 遺構



図V-73 小ピット (5) N・O-47・48, P-49

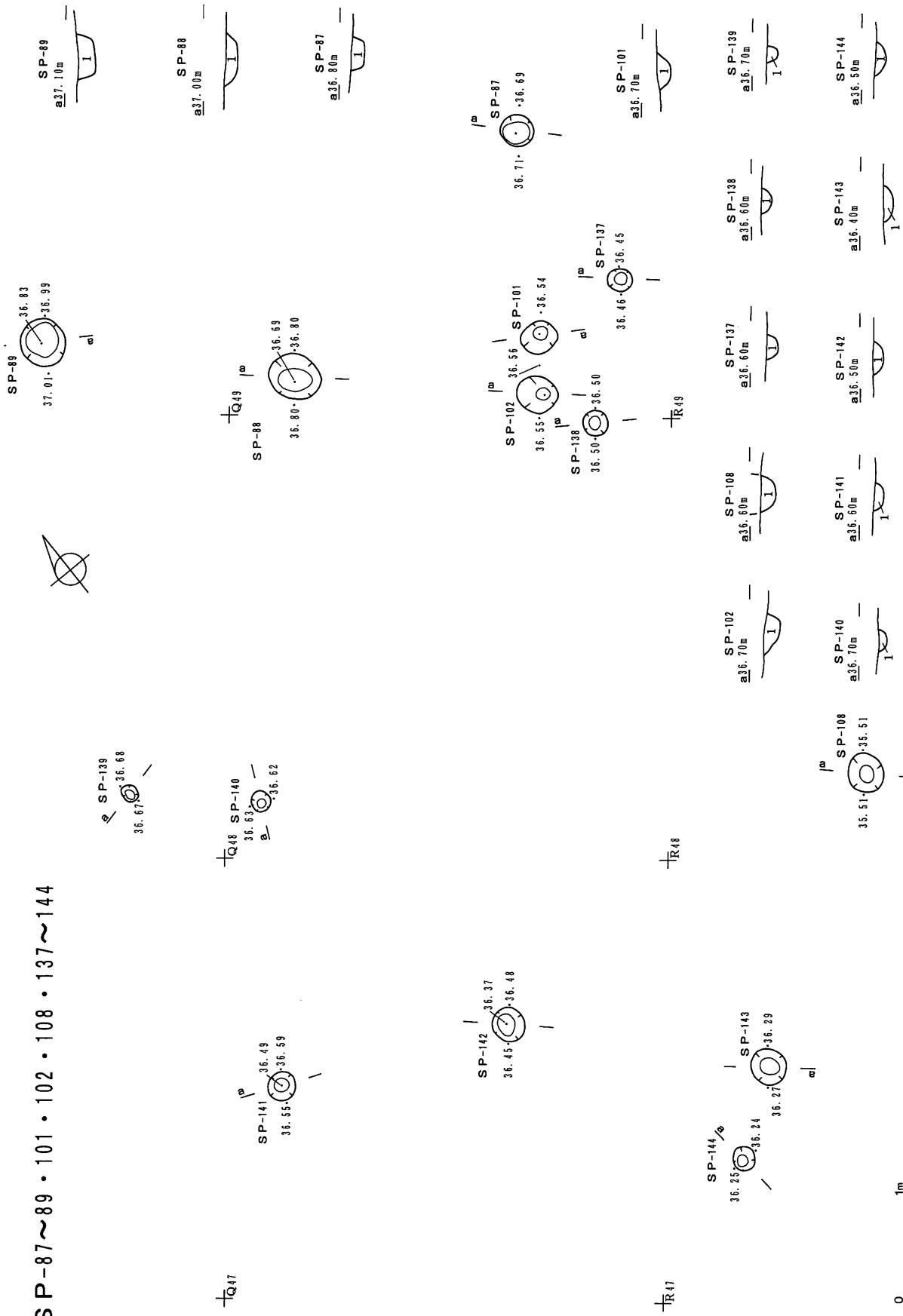
SP-50~54 · 81~86 · 145 · 154



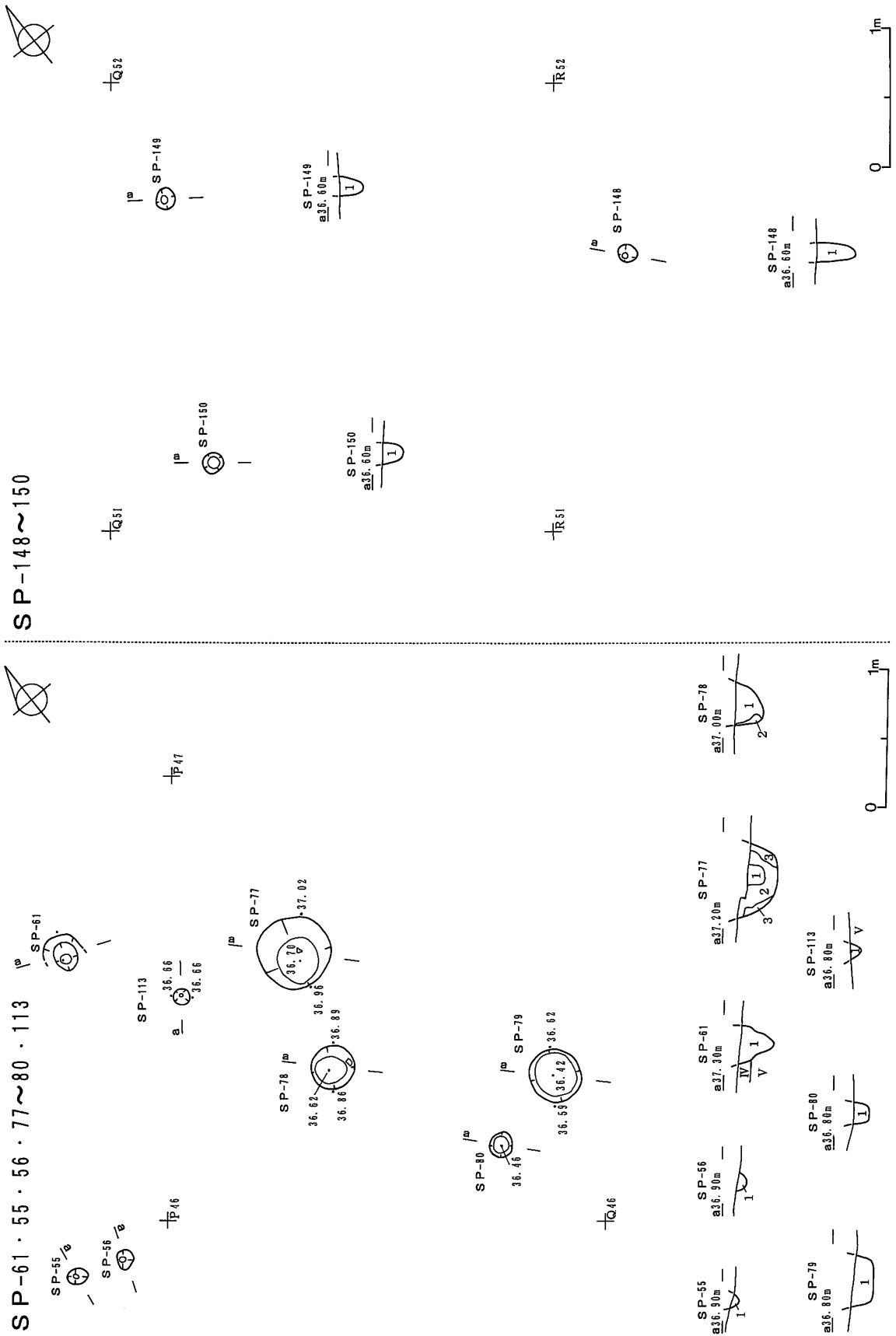
図V-74 小ピット(6) P・Q・R-43~46

1 遺構

SP-87~89・101・102・108・137~144



図V-75 小ピット (7) P・Q・R-47~49



図V-76 小ピット(8) O・P-45・46, Q・R-51

1 遺構

は黒色である。

I-53~55 (図V-70) SP-73~75・134・135の平面形はやや楕円形気味で、坑底は尖り気味である。覆土は黒褐色から暗褐色である。

K-47、L-47・48、M-47 (図V-71) SP-62・97~100・128の平面形は円形で、SP-62・128の坑底は平らだがSP-128は斜めに立ち上がる。他はやや尖る。覆土は黒褐色から暗褐色である。

L-49・50 (図V-71) SP-91・153は径が15cm程の円形で坑底の丸いもの。覆土は黒色である。

L-51 (図V-71) SP-117はやや楕円で尖り気味である。覆土は黒褐色。

M-55 (図V-72) SP-17はやや楕円で坑底は丸く、覆土は上半が暗褐色で下半は黒褐色である。

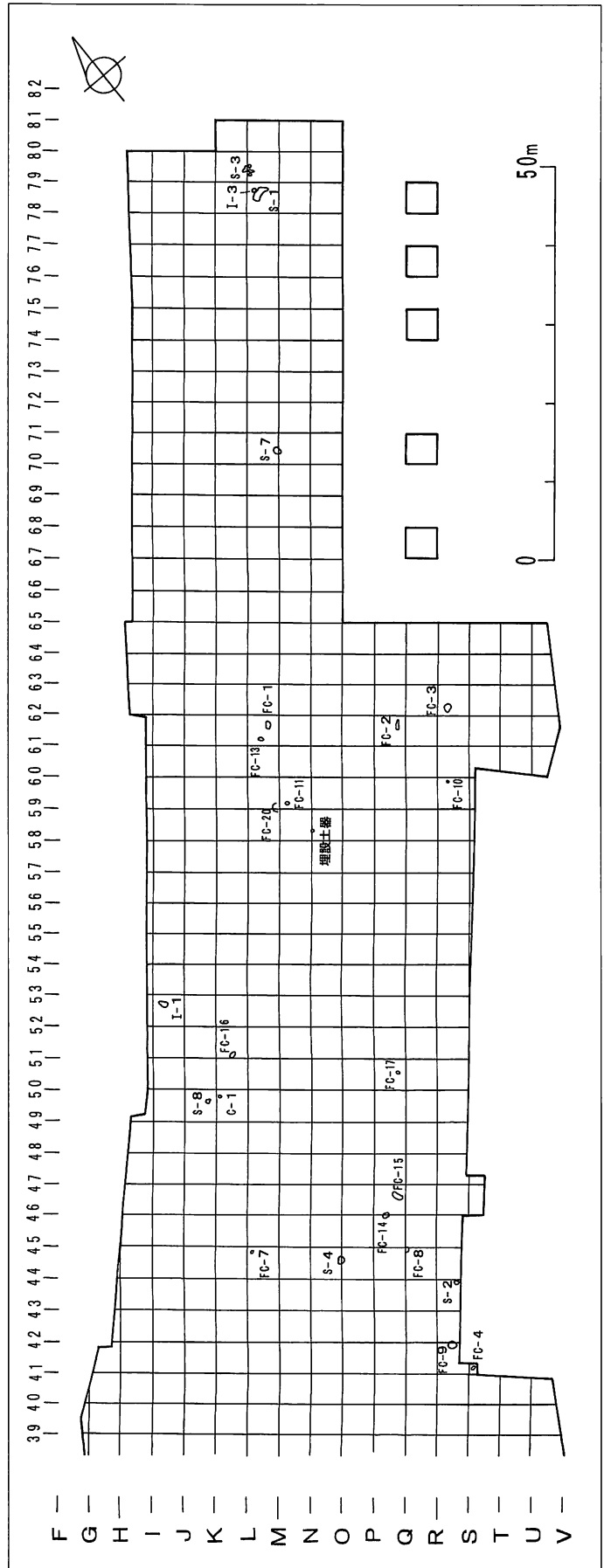
N-43・44、O-44 (図V-72) SP-43~45の平面形は円形で坑底は平らなもの。覆土は暗褐色である。SP-48・49は径が10cm程の円形で尖り、覆土は黒褐色。

O-49 (図V-72) SP-46の平面形は円形で坑底は丸いもの。覆土は暗褐色である。

M-45・46 (図V-72) SP-63~65・146の平面形は円形で坑底は平らなもの。覆土は暗褐色である。

N・O-47・48、P-49 (図V-73) SP-90・92~96・114~115・147・156は円形で坑底は丸からやや尖り気味のもの。SP-95・114は掘り込みが深い。SP-116は楕円形で浅く、坑底は平ら。覆土はSP-93・94・97は灰黄褐色で、他は暗褐色から黒褐色である。

P・Q・R-43~46 (図V-74) SP-50~54・82~86・145・154は円形で浅く、坑底の丸いもの。SP-81は坑底が



図V-77 B地区その他の遺構配置

平ら。覆土はSP-154が黒褐色、50~54・85が暗褐色、他は褐色である。

P・Q・R-47~49 (図V-75) SP-87~89は円形で坑底が平らなもの。SP-101・102は楕円形で斜めに立ち上がるもの。SP-108・137~144は円形で、坑底の丸いもの。覆土は褐色である。

O・P-45・46 (図V-76) SP-55・56・113は径が15cmのやや楕円形で、坑底の丸いもの。覆土は暗褐色。SP-61は円形と思われ、断面形の中程に段を有し先の尖るもので、覆土は黒褐色。SP-77・79は径が65cmと50cmの円形で坑底が平らなもので、覆土は褐色から暗褐色。SP-78は径が40cmの円形で、坑底が斜めになり、覆土は褐色。

Q・R-51 (図V-76) SP-148~150は径が15~20cmの円形で尖り気味のもので、覆土は暗褐色である。 (谷島)

掲載遺物：SP-19 (図V-69) : 土器 1は覆土出土のIV群A-1類。無文の口縁部である。二次焼成のため赤褐色を呈する。

SP-62 (図V-71) : 土器 1は覆土出土のIII群A-3類。口縁部で、横位にLRの縄文が施される。器厚は薄い。 (広田)

e その他の遺構

(1) 石組

I-1 (図V-78、図版101-2)

位置・立地：I-52

規模：1.02m×0.61m×-

平面形：円形。

確認・調査：H-1の覆土中から円形に配置された石組みを検出した。明瞭な焼土は確認されていないが、礫そのものには被熱痕が認められる。H-1の覆土埋没中に窪みを利用して設置されたものと思われる。

遺物出土状況：これに伴う遺物は出土していない。

時期：縄文時代中期前半以降の時期が考えられる。 (笠原)

I-3 (図V-78)

位置・立地：L-78、B地区北東端のなだらかな斜面の下。

規模：0.46m×0.39m×0.30m

平面形：不明（円形または長方形）。

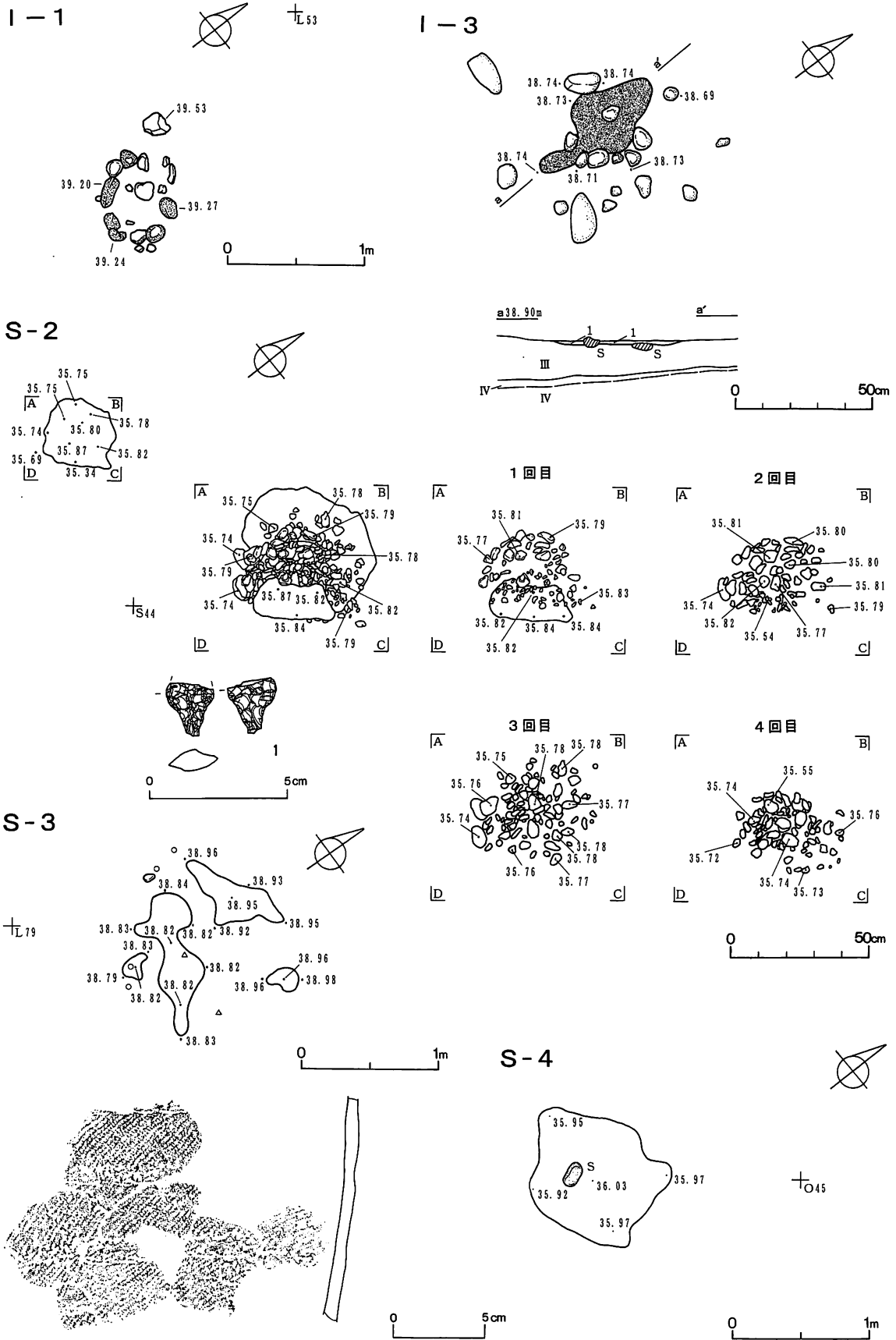
確認・調査：III層中位でS-1のまとまりの中の、斜面側で確認した。内側に炭化物粒の分布がみられる。S-1とは同一平面状にあり、層位的な上下関係はみられなかったことから、同一時期と考えられる。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 粒子細かい。径2mm程の炭化物粒を含む。

遺物出土状況：S-1から石皿片1点、斜面のL-79でIII群A-2類土器1個体、スクレイパー1点が出土した。

時期：出土土器から、縄文時代中期前半、III群A-2類土器の時期と考えられる。 (佐藤)

1 遺構



図V-78 I-1・I-3・S-2・S-3・S-4

(2) 集石

S-1 (図V-79・80、図版105-3、134-2)

位置・立地：L-78・79、B地区北東端のなだらかな斜面の下、標高38.6m~39.0m付近に位置する。**規模**：4.68m×3.36m×-**平面形**：不整形。**確認・調査**：Ⅲ層中位で礫のまとまりとして確認した。S-1のまとまりの中の斜面側に、I-3（白ヌキの礫）がある。I-1とは同一平面状にあり、層位的な上下関係はみられなかったことから、同一時期と考えられる。**遺物出土状況**：礫92点、礫のまとまりのなかに石皿片1点、斜面のL-79でⅢ群A-2類土器1個体、スクレイパー1点が出土した。**時期**：出土土器から、縄文時代中期前半、Ⅲ群A-2類土器の時期と考えられる。(佐藤)**掲載遺物**：土器 全てⅢ群A-2類である。1・4・9は同一個体。4個の弁状突起を有し、文様帯下端は、縄による圧痕を加えられた貼付帯により区画されている。突起下には貼付によって文様が描かれ、口唇部及び貼付上には撚りの異なる2本の縄を一組にしたものによる圧痕が施されている。突起間には2本1組の縄による横位の圧痕が3段施され、その間は同じ原体により波状の文様が描き出される。

2~5は口縁部。2・5・6・8は同一個体。口縁部の突起は2個一対で、口縁部文様帯は太い貼付で区画され、口唇部・貼付上及び文様帯内に2本1組の縄による圧痕と馬蹄形圧痕文が加えられている。3は口縁部。貼付と3本1組の縄に圧痕によって文様が描かれる。隆帯が横位に1本めぐらされ、横方向の縄の圧痕と隆帯間には半截竹管状工具による刺突が施される。焼成は良好である。7は縄による圧痕が加えられた貼付が横位にめぐり、貼付下には綾絡文と斜縄文が施される。10は底部。LRの斜行縄文が施される。(広田)

石器 11はスクレイパー4類で、メノウ製。12はたたき石2類とした。背面に被熱による焼けはじけがみられる。(柳瀬)

S-2 (図V-78、図版105-4、134-3)

位置・立地：L-78、調査区南部、沢縁辺の緩斜面上に位置する。標高は35.7mで、北西側約12mにH-5がある。**規模**：0.60m×0.52m**平面形**：不整形。**確認・調査**：H-16調査中に覆土中位で小礫のまとまりとして確認された。H-16の埋没過程で形成されたと考えられ、H-16より新しい。礫は小範囲に密に分布する。確認面の南東側では小砂利の広がる範囲が認められたが、全体的には小礫で構成されている。中位ではやや礫の分布範囲が広がり、下位では、分布がやや狭くなる。掘り込みは確認できなかった。焼土は中位~下位で検出されていて、火に関連する性格を持つと考えられる。また、H-16の調査範囲が狭いこともあったため、明瞭な生活面を確認できなかったが、S-2の検出面にH-16のくぼみを利用した遺構があった可能性もある。礫は全体的に焼けている。**遺物出土状況**：Ⅲ群A-2類、Ⅲ群A-3類土器、石鏃、剥片が出土している。**時期**：切り合い関係、出土遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器以降の時期と考えられる。**掲載遺物**：石器 1は石鏃2a類の基部破片。黒曜石製で、原材産地同定を依頼したところ、豊浦町豊泉産と判定された(第七章2節)。(柳瀬)

1 遺構

S-3 (図V-78、図版105-5、134-4)

位置・立地：K・L-79、B地区北東端のなだらかな斜面の下、標高38.8m付近に位置する。

規模：1.23m×1.25m×-

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層中位で小礫のまとまりとして確認した。

遺物出土状況：礫373点、Ⅲ群A-2類土器30点、Ⅲ群B-2類土器1点、フレイク5点(黒曜石1点、頁岩4点)が出土した。

時期：出土土器から、縄文時代中期前半、Ⅲ群A-2類土器の時期と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：土器 1はⅢ群A-2類。胴部で斜縄文と綾絡文が交互に施される。(広田)

S-4 (図V-78、図版105-6)

位置・立地：N・O-44、調査区南西部、沢縁辺の緩斜面上に位置する。標高は35.9~36.0mで、東側にH-23、南側にF-31、北西部にP-45がある。

規模：1.16m×0.86m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層中位で小礫のまとまりとして確認した。構成する礫の大きさは1円玉前後の小形の礫だが、数点大形の礫も検出されている。礫の分布は垂直方向には薄く、面的に広がっている。平面の分布は比較的散漫である。礫は被熱しているものもあるため、火に関連する性格を持つと考えられる。S-4の下位約20cmでH-21の床面が検出されているため、H-21に伴うもの、もしくはH-21覆土中に形成されたものの可能性がある。

遺物出土状況：Ⅲ群A-3類土器、剥片が出土している。

時期：出土遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器以降の時期と考えられる。(広田)

S-7 (図V-79、図版105-8)

位置・立地：L-70

規模：0.73m×0.06m

平面形：円形。

確認・調査：Ⅲ層上面で検出した1~2cm程の小礫の集中である。被熱などの痕跡は認められない。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：近世以降である可能性が考えられる。(笠原)

S-8 (図V-79、図版106-2、135-2)

位置・立地：J-49、調査区西部の緩斜面上に位置する。標高は39.0mで、東側にC-1、北側にP-99、北東側にH-11・26がある。

規模：0.62m×0.40m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層中位でやや大形の礫が近接して確認された。周辺から遺物がややまとまった状況で出土したため、集石として調査を行った。礫は15~20cm程で3点出土している。下位でH-18が検出されているため、生活面は検出できなかったものの、H-18の埋没過程のくぼみを利用した遺構である可能性がある。



図V-80 S-1出土の遺物

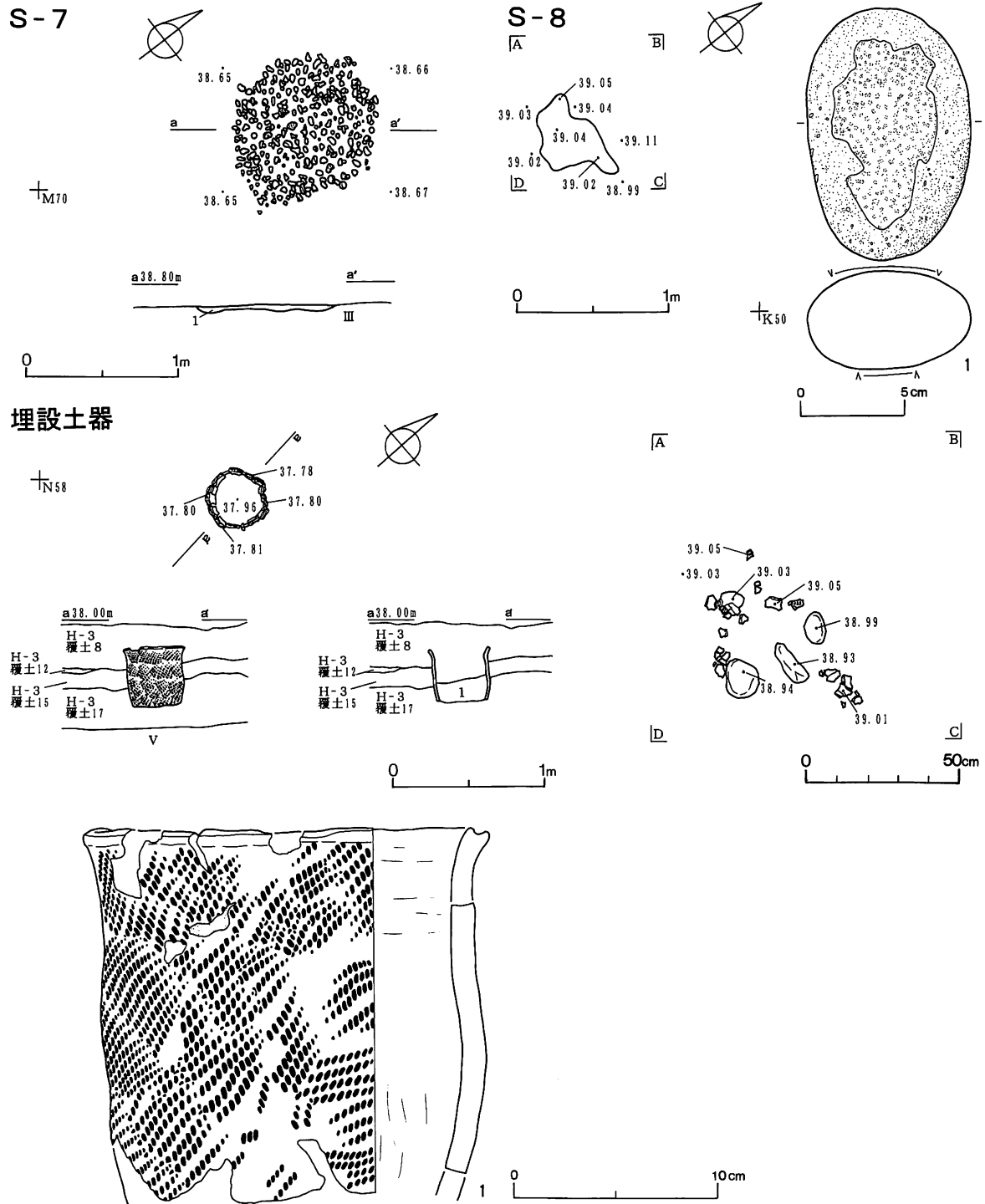
遺物出土状況：Ⅲ群A-3類、剥片、礫が出土している。

時期：出土遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器以降の時期と考えられる。

(広田)

掲載遺物：石器 1はたたき石3類である。

(柳瀬)



図V-81 S-7・S-8・埋設土器

1 遺構

(3) 埋設土器

埋設土器 (図V-81、図版15-3、136-1)

位置・立地：M・N-58、調査区中央部付近の緩斜面上に位置する。標高は37.8mで北側にFC-11、東側にFC-16がある。

規模：0.41m×0.40m/0.40m

確認・調査：H-3調査中に、覆土中位において確認した。掘り込み面はH-3の覆土15層と考えられる。掘り込みは検出できなかった。埋設された土器はほぼ正立した状態で出土し、底部は欠いている。埋設土器内の土からは炭化物粒子、焼土粒子と共に骨片と考えられる細かい白色物質が検出されている。確認面を精査したが、生活面と考えられる痕跡は認められなかった。H-3の埋没過程のくぼみを利用した遺構と考えられる。

土層：1 黒褐色土 10YR3/2 III>>IV>V 炭化物粒子、焼土粒子を含む。

白色粒子(骨片?)を少量含む。しまりややあり。粘性あり。

遺物出土状況：Ⅲ群A-2類、Ⅲ群A-3類土器、礫が出土している。

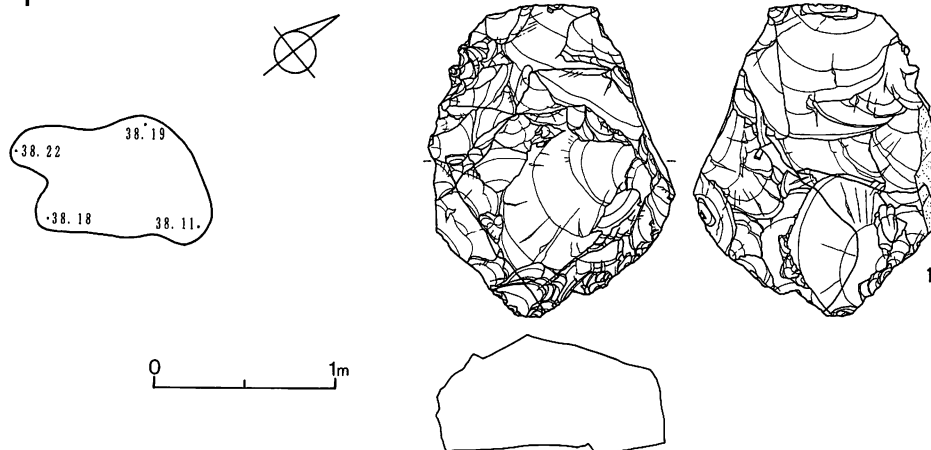
時期：切り合い関係、出土遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期以降と考えられる。

(広田)

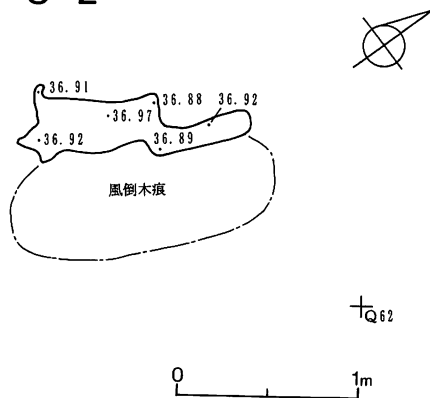
掲載遺物：土器 1はⅢ群A-3類。口縁部が部分的に残存し、波状口縁の可能性もある。口唇部に沈線が施され、器面全体に不規則な太いLRの斜行縄文が施される。二次焼成により色調は赤褐色化している。

Ⅲ群A-3類に分類したが、遺物の出土状況及び地文の縄文等からⅢ群B類の可能性もある。(広田)

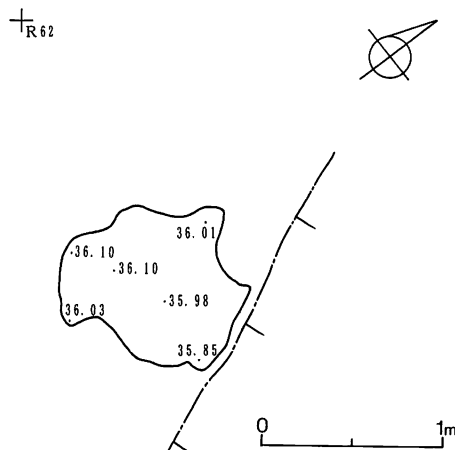
FC-1



FC-2



FC-3



図V-82 FC-1・FC-2・FC-3

(4) フレイク・チップ集中

FC-1 (図V-80)

位置・立地：L-61

規模：1.14m×1.14m×-

平面形：不整形。

確認・調査：沢の調査中に斜面で検出した。頁岩製の剥片がまとまって出土した。

土層：Ⅲ層黒色土。

特徴：沢の斜面に投げ捨てられたものと思われる。

遺物出土状況：I層から両面加工石器1点、剥片257点、Ⅲa層から両面加工石器1点、Rフレイク1点、剥片349点、礫5点、土壌サンプルから剥片277点、土層不明から剥片314点、礫1点が出土した。

時期：出土した遺物から縄文時代の頃と考えられる。(谷島)

掲載遺物：石器 少なくとも2種類の母岩からなると思われる。黒曜石の剥片碎片が4点含まれるほかはすべて頁岩。剥片の点数は多いが、未成品やRフレイクは非常に少ない。剥片のほとんどは5cm程度までの不定形のものである。摂理面で剥離している例が多くみられる。

1は両面加工石器とした。図では3点が接合しており、ほかに剥片が6点接合する(図版136-3右下)。左右側面と背面に摂理面がみられる。両面加工石器あるいは石槍の未成品と思われる。また、図示したほかに得られた接合資料の写真を掲載した(図版136-3左)。剥片12点が接合しており、上・下面が原石面のほか、摂理面で剥離する部分が目立つ。(柳瀬)

FC-2 (図V-80)

位置・立地：P-61

規模：1.26m×0.24m×-

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層と風倒木痕中で検出した。頁岩製の剥片がまとまっていた。

土層：Ⅲ層黒色土。

特徴：風倒木痕に絡んで検出されたが、風倒木痕より前のものと考えられる。

遺物出土状況：覆土から剥片365点、風倒木痕から剥片862点、石斧3点が出土した。

時期：出土した遺物から縄文時代と思われる。(谷島)

FC-3 (図V-80)

位置・立地：R-62

規模：1.04m×0.8m×-

平面形：不整形。

確認・調査：沢の調査中に斜面で検出した。頁岩製の剥片がまとまって出土した。

土層：Ⅲ層黒色土。

特徴：沢の斜面に投げ捨てられたものと思われる。

遺物出土状況：層位不明からⅢ群A-2類土器9点、Ⅲ群A-3類土器6点、剥片245点、礫1点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半の頃と考えられる。(谷島)

1 遺構

FC-4 (図V-83、図版136-2)

位置・立地：S-41、調査区南部、沢の落ち込み部分に位置する。沢の下部にあるため、標高は34.1～34.2mと低くなっている。

規模：0.64m×0.40m

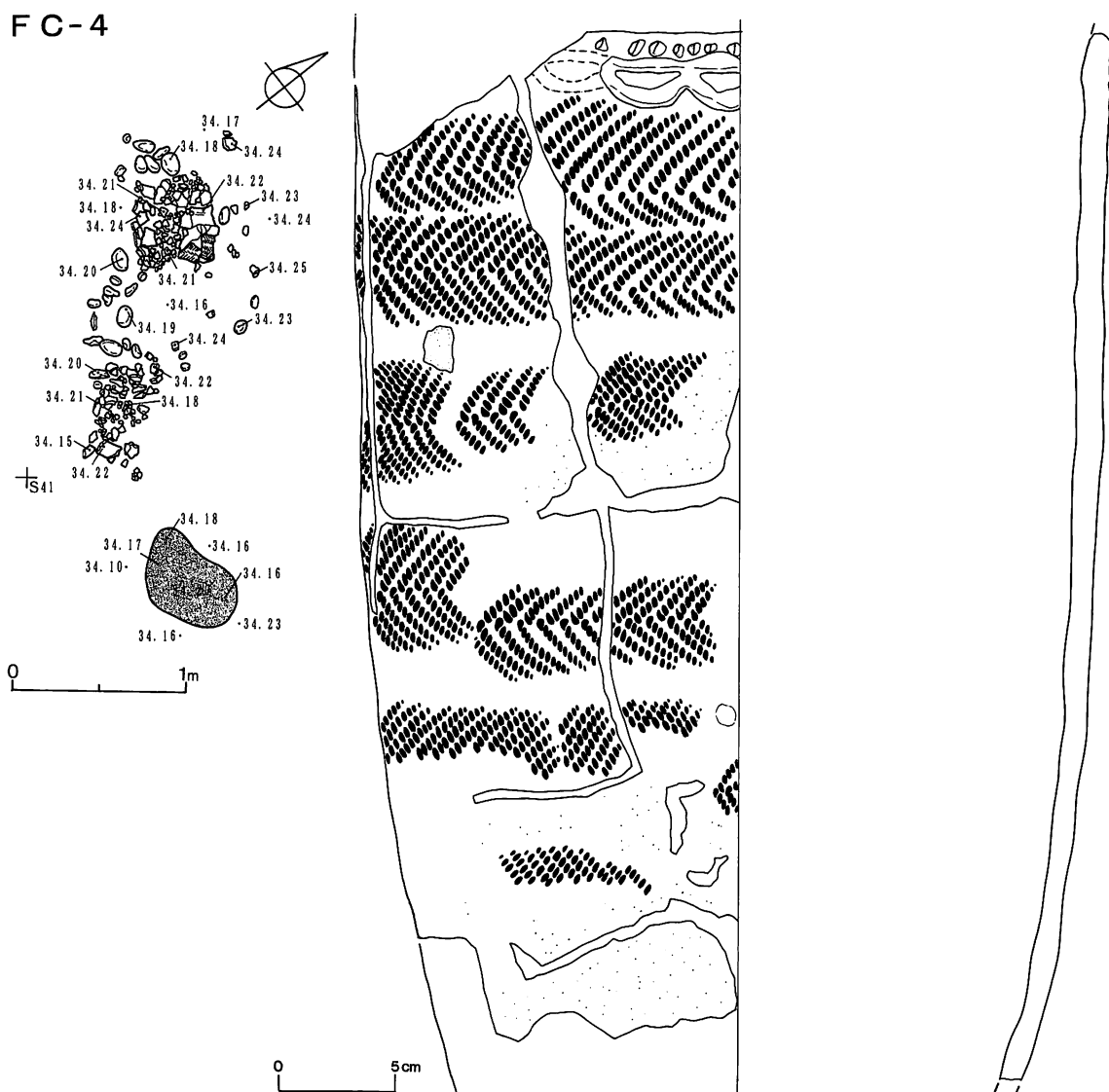
平面形：不整形。

確認・調査：沢部分においてⅢ層を調査中、剥片のまとまりとして確認した。頁岩製の剥片で小形の物が多い。剥片は全て同一母岩のものと考えられ、比較的狭い範囲からまとまって出土している。

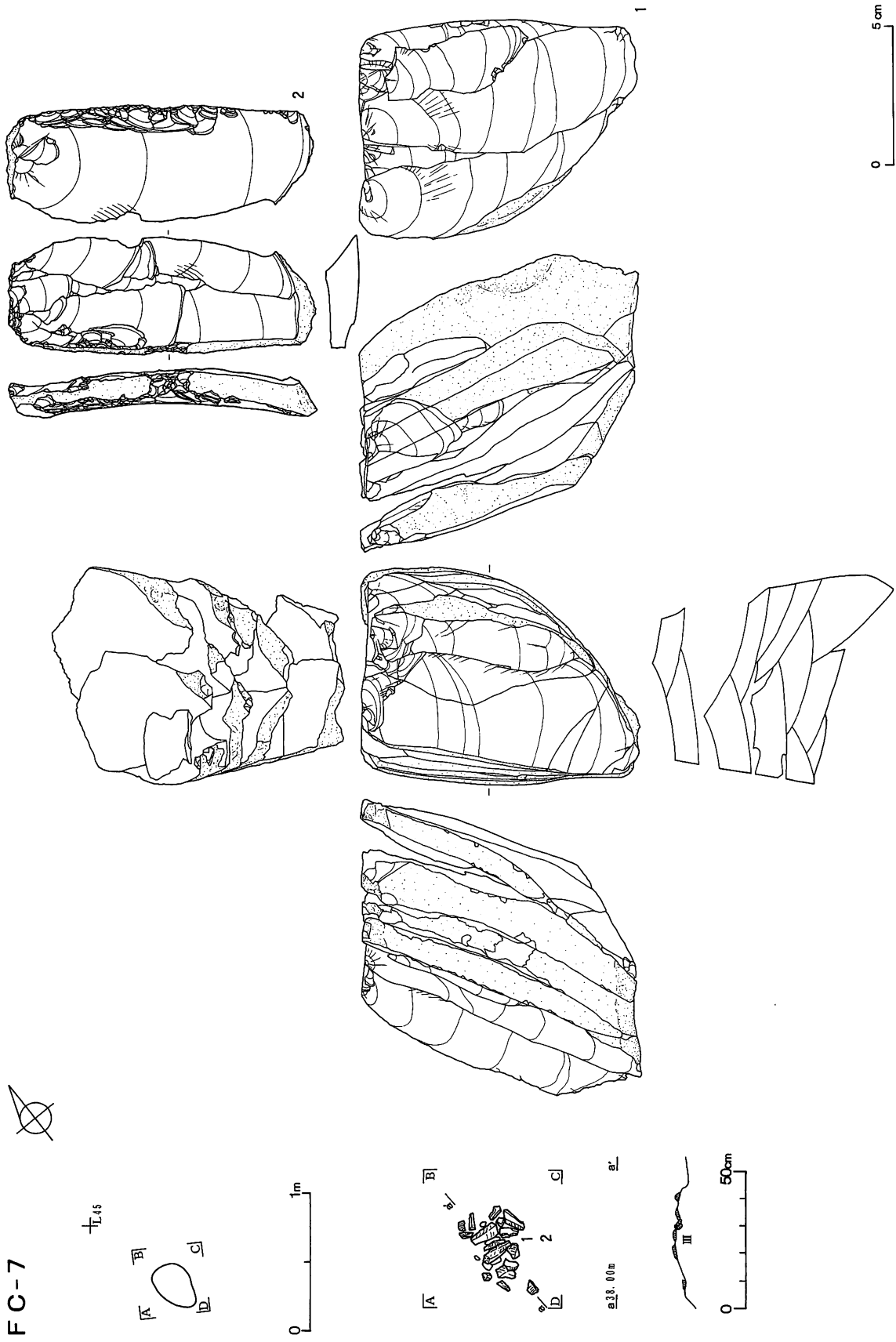
遺物出土状況：周辺包含層から、Ⅲ群A-2類、Ⅲ群A-3類土器が出土している。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-2類土器の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：土器 1はⅢ群A-2類。胴部で、器面の磨耗が著しい。口縁部には貼付と、丸棒状工具によると考えられる刺突が施されている。胴部には結束の羽状縄文が施される。(広田)



図V-83 FC-4



図V-84 FC-7

1 遺構

FC-7 (図V-84、図版106-5、137-1・2、138-1)

位置・立地：L-44

規模：0.37m×0.24m×0.1m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層中位で検出した。頁岩製の大きめの剥片が、数は少ないがまとまっていた。

土層：Ⅲ層黒色土。

特徴：広がりはいささか小さいが、層厚が無い。作業後、寄せ集められたものであろうか。

遺物出土状況：Ⅲ群A-Ⅲ類土器1点、Rフレイク5点。剥片18点が出土した。

時期：出土した遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の頃と考えられる。(谷島)

掲載遺物：石器 同一母岩の縦長剥片が主体である。1はFC-7の剥片およびRフレイクとL-44のⅢ層から出土した剥片、計15点が接合したもの。腹背面以外は原石面である。平坦な原石面を打点とし、連続して縦長剥片を剥離している。剥片は写真で掲載した(図版137)。接合しなかったが、ほかにFC-7・L-44から、同一母岩の剥片が15点ほど出土している。2は接合資料のうちのRフレイク。接合資料の断面図の左列、背面から3点目である。左側縁の腹背に二次加工が施される。

(柳瀬)

FC-8 (図V-85)

位置・立地：Q-44・45

規模：0.43m×0.41m×0.03m

平面形：円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層中位で検出した。頁岩製の剥片がまとまっていた。

土層：Ⅲ層黒色土。

特徴：広がりはいささか小さく、ほとんどがチップである。

遺物出土状況：剥片1,018点が出土した。

時期：検出した層位から縄文時代中期から後期と思われる。(谷島)

FC-9 (図V-85、図版106-6、138-2)

位置・立地：R-41・42、調査区南端、沢上部の斜面に位置する。標高は35.3~35.4mで、北東側約13mにH-16がある。

規模：0.85m×0.78m

平面形：不整形円形。

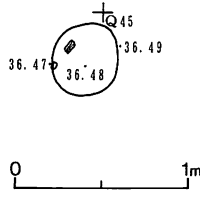
確認・調査：Ⅲ層中位で剥片のまとまりとして確認した。南東部はわずかに調査区外に広がる。分布密度は濃い。ほとんどが頁岩製の剥片で、メノウ製、黒曜石製もわずかに含む。細片~中形の剥片が多く、二次加工時の所産と考えられる。数点を除いてほぼ同一母岩のものと考えられ、比較的狭い範囲からまとまって出土している。

遺物出土状況：Ⅲ群A-3類、石鏃、石槍、石斧が出土している。

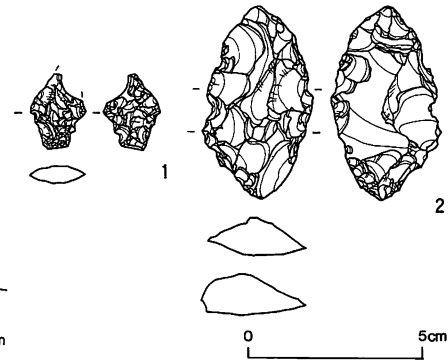
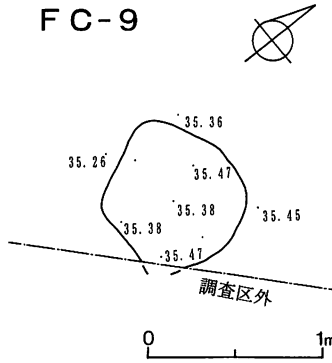
時期：出土遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。(広田)

掲載遺物：石器 1は石鏃2a類。黒曜石製で、原材産地同定を依頼したところ、豊浦町豊泉産と判定された。2は石槍未成品。(柳瀬)

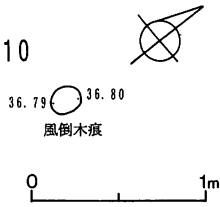
FC-8



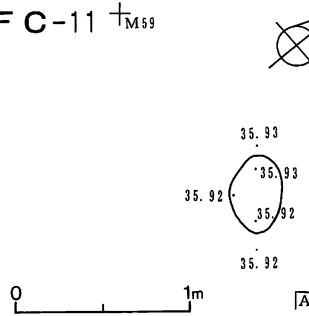
FC-9



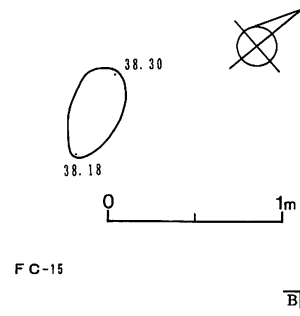
FC-10



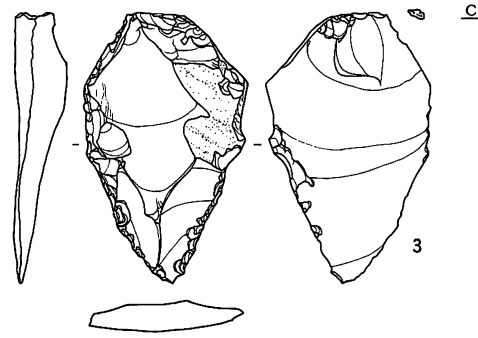
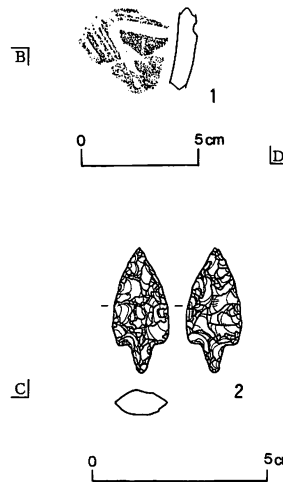
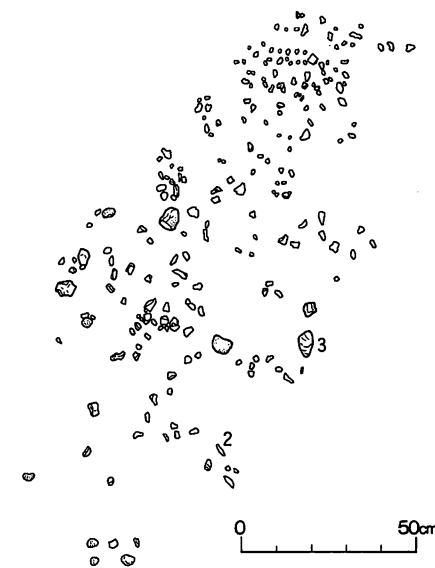
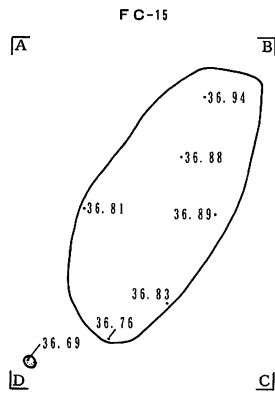
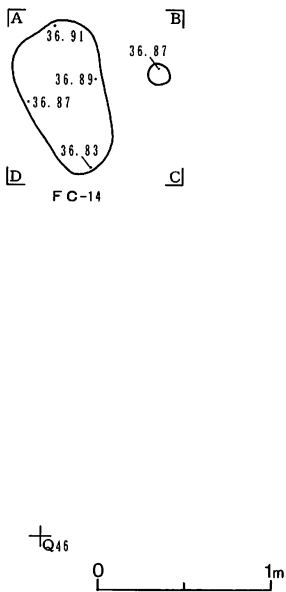
FC-11 \pm M59



FC-13



FC-14・FC-15



図V-85 FC-8・FC-9・FC-10・FC-11・FC-13・FC-14・FC-15

1 遺構

FC-10 (図V-85)

位置・立地：L-47、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。

規模：0.18m×0.15m

平面形：円形。

確認・調査：風倒木痕内で確認した。分布はごく薄い。

遺物出土状況：剥片が89点出土している。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。

(柳瀬)

FC-11 (図V-85)

位置・立地：M-59、調査区中央部の緩斜面上に位置する。西側約13mにFC-20がある。

規模：0.44m×0.30m

平面形：やや不整の長楕円形。

確認・調査：H-3覆土中位で剥片のまとまりとして確認した。そのためH-3より新しいと考えられる。剥片はほとんどがメノウ製で、わずかに頁岩製がある。どちらも小形のものが多く、二次加工時の所産と考えられる。メノウ製のものは全て同一母岩と考えられ、狭い範囲にまとまって出土している。本遺跡ではメノウ製の石器として、石鏃・ドリル・つまみ付きナイフなどが出土している。

遺物出土状況：剥片以外は出土していない。

時期：不明だが、周辺包含層出土の遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。

(広田)

FC-13 (図V-85)

位置・立地：L-61、ごく緩やかな、南東向きの斜面に位置する。

規模：0.54m×0.29m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層中で確認した。分布はごく薄い。

遺物出土状況：剥片が350点出土している。

時期：周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性はある。

(柳瀬)

FC-14 (図V-85、図版107-2)

位置・立地：P-45・46

規模：0.83m×0.5m×0.08m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層中位で検出した。頁岩製の剥片がややまとまっていた。北側に礫があった。

土層：Ⅲ層黒色土。

特徴：広がり小さく、小さな剥片が多い。東側2mにFC-15があり、検出層位も同レベルである。

FC-14とFC-15の間で作業を行い、残った剥片をそのまま遺棄した様である。

遺物出土状況：Ⅲ群A-3類土器12点、石槍1点、剥片1,138点、礫4点が出土した。

時期：検出した層位やFC-15との関係などから縄文時代後期前葉Ⅳ群A-1類土器の頃と考えられる。

(谷島)

FC-15 (図V-85、図版107-3、138-3)

位置・立地：P-46

規模：1.72m×0.78m×0.18m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層中位で検出した。頁岩製の剥片がややまとまっていたが濃淡がみられる。南側に礫があった。

土層：Ⅲ層黒色土。

特徴：南北に広がり、大きな剥片が多い。西側2mにFC-14があり、検出層位も同レベルである。

FC-14とFC-15の間で作業を行い、残った剥片をそのまま遺棄した様である。

遺物出土状況：Ⅲ群A-3類土器6点、Ⅳ群A-1類土器30点、石鏃1点、スクレイパー1点、剥片1,116点、礫1点が出土した。

時期：出土した遺物や検出した層位などから縄文時代後期前葉Ⅳ群A-1類土器の頃と考えられる。

(谷島)

掲載遺物：土器 1はⅣ群A-1類。胴部破片で太い沈線で区画され、沈線内にはササラ状工具により擦痕が加えられている。

(広田)

石器 2は石鏃2a類。3はスクレイパー1a類である。

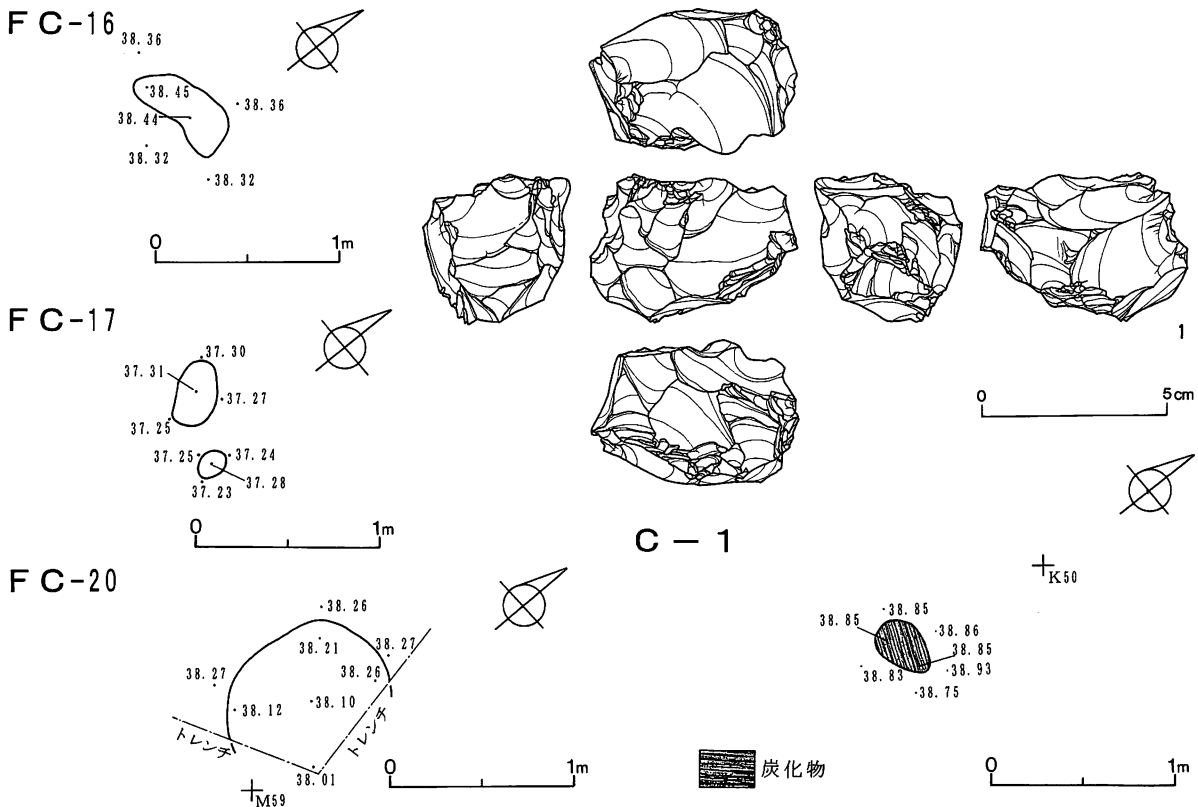
(柳瀬)

FC-16 (図V-83、107-4、図版138-4)

位置・立地：K-51、調査区西部の緩斜面上に位置する。西側約3.6mにP-99がある。

規模：0.57m×0.26m

平面形：不整楕円形。



図V-86 FC-16・FC-17・FC-20・C-1

1 遺構

確認・調査：Ⅲ層中位で剥片のまとまりとして確認した。狭い範囲にまとまって出土している。剥片は全て頁岩製で小～中形の剥片が多く、狭い範囲にまとまって出土している。石核が1点出土している、一次加工時の所産と考えられる。

遺物出土状況：Ⅲ群A-3類土器、石核、礫が出土している。

時期：出土遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。

掲載遺物：石器 1は石核である。

(柳瀬)

FC-17 (図V-86)

位置・立地：P-50

規模：0.36m×0.24m×0.04m 0.16m×0.14m×0.04m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層調査中にⅢ層中位で検出した。15cm程間を空け2ヵ所に分かれている。頁岩製の剥片がややまとまっていた。

土層：Ⅲ層黒色土。

特徴：広がり小さく、小さな剥片が多い。

遺物出土状況：剥片42点が出土した。

時期：検出した層位から縄文時代中期から後期と思われる。

(谷島)

FC-20 (図V-83)

位置・立地：L-58・59、調査区中央部の緩斜面上に位置する。標高38.1～38.2mで、東側約13mにFC-11がある。

規模：(0.82m)×(0.68m)

平面形：楕円形？

確認・調査：H-3覆土中位で、FC-11・20の下位から、剥片のまとまりとして確認した。そのためH-3より新しく、FC-11・20よりは古いと考えられる。南東側はH-3調査時のトレンチで壊されている。細片が多く、二次加工時の所産と考えられ、やや広い範囲から散漫に出土している。

遺物出土状況：剥片以外は出土していない。

時期：切り合い関係から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期以降と考えられる。

(広田)

(5) 炭化物集中

C-1 (図V-86、図版101-3)

位置・立地：K-49、調査区西部の緩斜面上に位置する。標高38.8～38.9mで、西側約12mにS-8がある。

規模：0.34m×0.23m

平面形：不整楕円形。

確認・調査：Ⅲ層中位で炭化物粒のまとまりとして確認した。下位にH-18があり、本遺構の方が新しい。狭い範囲から炭化物が比較的濃い密度で分布している。

遺物出土状況：出土遺物はない。

時期：切り合い関係、出土遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期以降と考えられる。

(広田)

2 包含層出土の遺物

a 土器

B地区包含層からはI層出土のものも含めて、20,757点の土器が出土している。出土した土器には縄文時代早期～後期に属するもので、全体的に小破片が多い。このうち、Ⅲ群A-3類が15,406点と最も多く、次いでⅢ群A-2類が3,874点、Ⅳ群A類が1,030点を数え、Ⅰ群A類・Ⅳ群B類も少量出土している。

全体的な土器の分布傾向として、調査区西部の沢縁辺部及びI～L-48～55グリッド付近の標高38.0～39.0m付近に濃く分布しており、遺構の分布密度とほぼ重なる。遺構との重複のみならず、B地区の中央に検出された浅い沢地形による地形的な制約を見てとれる。各時期の土器の分布を見ると、Ⅱ群B類はM-50、Q-59グリッドにおいてやや集中しているが、全体的には散漫な分布傾向を示す。Ⅲ群A-2類はI層、Ⅲ層共に、調査区39～41ライン近辺と61～64ラインにある沢の縁辺部から多く出土している。ただし、61～64ラインの沢の北東部側からの出土量は少ない。Ⅲ群A-3類は42～61ライン近辺の沢にはさまれた台地上の部分において、全般的に出土しており、分布密度の濃い部分は遺構の分布とほぼ重なる。Ⅲ群B類は調査区南側から散漫に出土している。Ⅳ群A類もⅢ群B類とほぼ同様の分布傾向を示すが、沢縁辺部、L～V-39～41グリッド近辺の分布密度が濃い。

遺物集中1 G-30・31グリッド近辺でややまとまった遺物が検出された（下図）

Ⅱ群B類土器（図V-90-20～25）

1群（図V-90-20・21）

20・21は同一個体。平縁でRLの縦走気味の斜行縄文が施される。器壁は厚い。焼成は良好で、内面調整は粗く、全体的に凹凸を残す。不明な点も多く、便宜的に本類とした。

2群（図V-90-22～25）

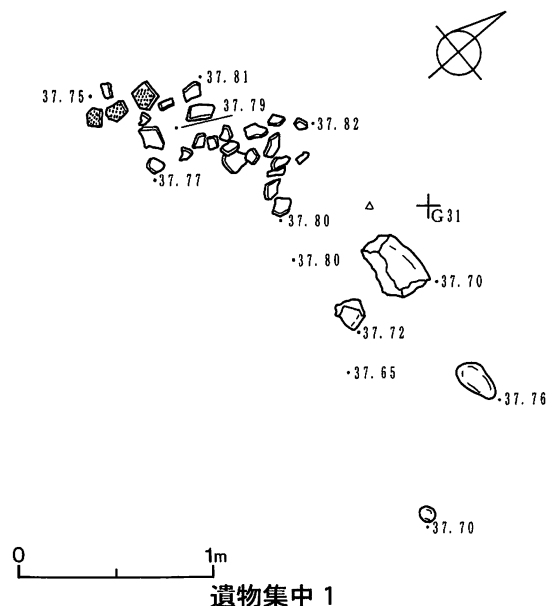
22は口唇部に縄による刻みが加えられる。口縁部には縄線文が施される。24は横位の撚糸文と縦位の撚糸文が施されている。25はいわゆるスタレ状縄文が施されるもので、縦位の撚糸文と結束羽状縄文が交互に施文されている。内面は丁寧に磨かれている。いずれも胎土中に繊維を含み、焼成は良好なものが多い。

22～25は円筒土器下層c～d式に相当するものと考えられる。

Ⅲ群A-1類（図V-90-26・28・29）

撚糸の左痕が加えられた太い貼付帯に区画された無文地の文様帯に主に縄線による文様が施されているもの。26は口唇部と口縁部に撚糸圧痕が矢羽状に横位に施されている。その間には3本1組の縄線が加えられている。28は口縁部に太い貼付が縦位に施されている。貼付上にも縄による圧痕が施文されている。焼成は不良。29は口唇部に波状の貼付帯がめぐらされ、口唇部及び貼付上には縄の圧痕が加えられている。貼付帯下には3本1組の縄の圧痕により、波状及び山形の文様が描き出される。

28は円筒土器上層a式、26・29は円筒土器上層a～b式に比定される。



遺物集中1

2 包含層出土の遺物

Ⅲ群A-2類 (図V-90-33・37~42)

1群 (図V-87-1、90-27・30~32・34~36)

貼付及び縄線により文様が描き出されるもの。内面調整には丁寧な磨きが施されているものが多い。1・30・31・34・35はC字状の馬蹄形圧痕文が施文されている。1は4個の弁状突起を有する口唇部断面は切り出し状で、波頂部及び突起付近には貼付が加えられ、口縁部文様帯の下部は貼付帯によって区画されている。突起下は縦位の貼付が2本施されて、貼付に沿って3本1組の縄の圧痕が加えられる。貼付上には縄の圧痕が施文されていて、縄の圧痕の間には馬蹄形圧痕文が施されている。27は細い貼付により文様が描き出されている。貼付上には縄の圧痕が施され、貼付間には縄の短い圧痕と、3本1組の縄の圧痕が施文されている。31・32は同一個体。太い貼付により文様が描き出され、貼付上には縄の圧痕が施されている。貼付間には2~3本1組の縄線と馬蹄形圧痕文が加えられている。34・35は同一個体。平縁で、口唇部には波状の貼付が施されている。口縁部文様帯下端には、2本の貼付帯がめぐらされ、貼付帯間には馬蹄形圧痕文が、貼付帯下にも山形の貼付が地文上に加えられている。内面は丁寧に磨かれている。36は胎土に砂粒を多く含み、焼成は不良である。

1群は円筒土器上層b式に比定される。

2群 (図V-90-33・37~42)

貼付及び縄線による文様が描き出され、半截竹管状工具による刺突が施されるもの。突起は2個一対の形状で、貼付は細い。口唇部及び貼付上には縄の圧痕による刻みが施されている。

33は扁平な棒状工具による刺突が施されている。37は突起間の口唇部に沿って2本1組の縄による圧痕が加えられている。38は半截竹管状工具による刺突列の下に、円形の文様を2本1組の縄の圧痕により描き出している。40は貼付内に1本の縄の圧痕により曲線文様を描き出している。41は口唇部から垂下する2本1組の貼付の両脇にドーナツ状の貼付が施されている。

2群は円筒土器上層c式に比定される。

3群 (図V-87-2~4・90-43~81)

1群・2群の判別がし難いものを一括してここで取り上げる。

2~4・50・53・54は口縁部文様帯をもたないもの。2~4・53・54は地文に結束の羽状縄文が施される。2・3の結束羽状縄文は、原体の上下を逆転することによって部分的に菱形状の文様を作り出している。2は胴部で緩く屈曲し、口縁部がやや外反する器形で底部を欠く。口唇部断面は切り出し形である。貼付上にも羽状縄文が加えられている。また口縁内面にも斜行縄文が施されている。口縁部には2個の補修孔が認められる施されている。全体的に器面は磨耗している。3・50は口唇部に細い縄による圧痕が施される。4は胴部で緩く屈曲する器形で、底部を欠く。地文の結束羽状縄文はやや不整である。54は口唇部に縄文が施され、地文の羽状縄文は斜行している。不明な点が多く便宜上本類として扱う。

43~47・49・51・52・55は口縁部文様帯に貼付による文様が描き出されているもの。43~47は口唇部に貼付を有する。43は突起部近辺にのみ貼付が施される。焼成は不良である。44・45の貼付は波状を呈する。46・47は口縁部にも貼付が施文されている。51は貼付上に縄の圧痕が加えられている。55は3本1組の縄により文様が描かれるもの。49・52は口縁部に無文の貼付により小波状が描き出されている。51は貼付瘤が加えられている。

56~66は胴部である。56~61は羽状縄文が施されている。56~59は結束の羽状縄文である。57の焼成は不良である。59は羽状縄文の間に縄末端が認められている。62は不整の斜行縄文が施文されている。63はごく浅い斜行縄文が施されている。64・65は無文のもので、Ⅲ群B類ないしⅣ群A類の可能

性もある。

66～81は底部。66・67は結束の羽状縄文が施されている。70～77・80は底部がやや張り出す。68・70・72・75・76・81はやや上げ底気味である。

Ⅲ群A-3類 (図V-90-48、92-82～92-143)

1群 (図V-90-48、92-82～83)

48・82は突起下に横位の貼付帯が施され、その上部には8の字状の貼付と棒状の貼付が縦位に加えられている。貼付上には縄の圧痕が施される。83の突起は棒状で横断面は楕円形である。

1群はサイベ沢Ⅶ式に比定される。

2群 (図V-87-5、92-94-84～143)

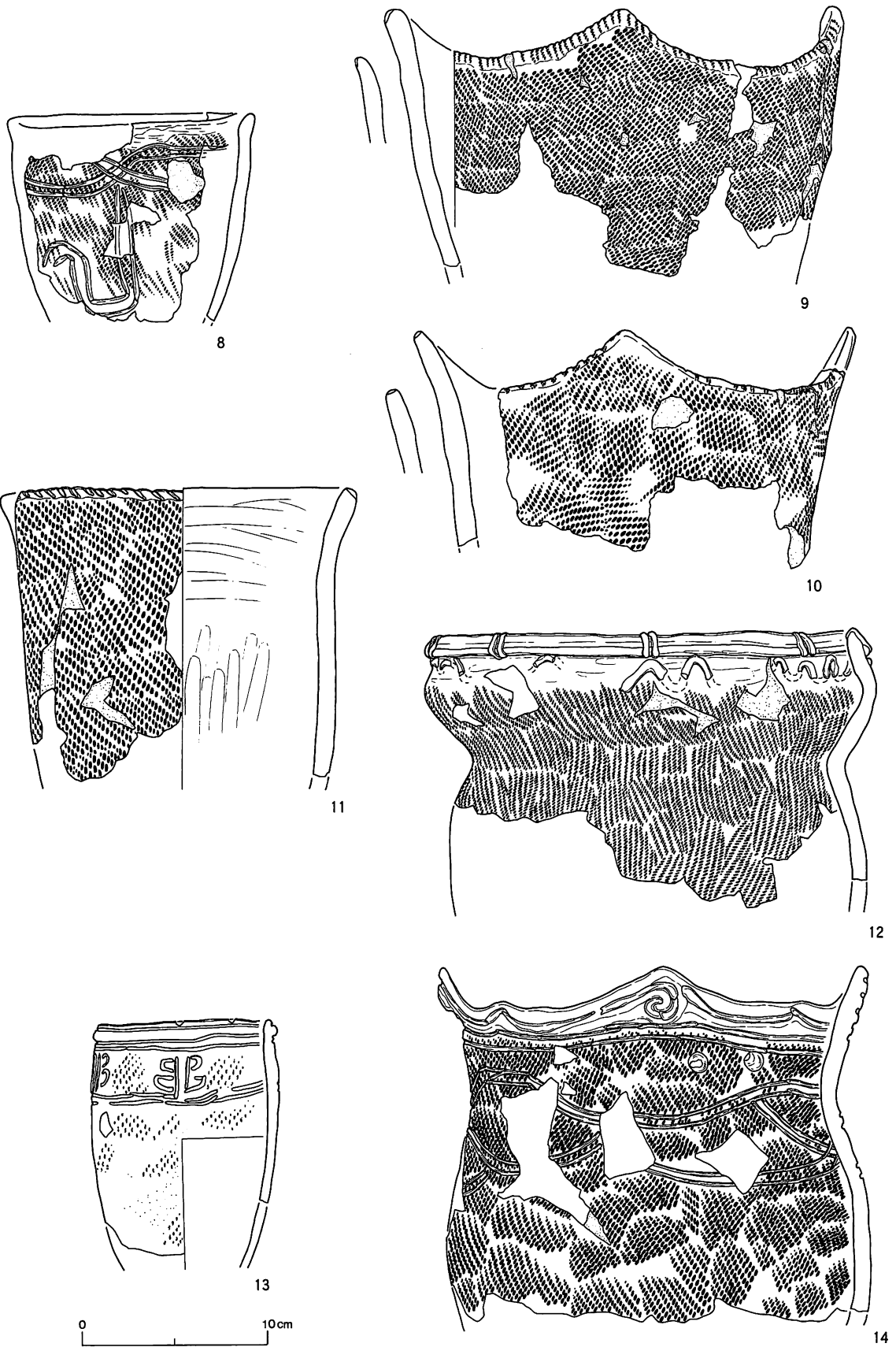
口唇部に貼付、縄の圧痕、刻み等が施されているものが多い。胴上半部に沈線文が加えられているものもある。地文は単節の斜行縄文が施文されているものがほとんどである。

5・84～95は波頂部周辺に貼付が施されているもの。5は波状口縁で口縁部がやや外反する。波頂部直下に横位の貼付が施されている。貼付上にも縄文が施されている。7・84～86は口唇部に縄による圧痕が施されている。7は3単位の波状口縁で口縁部は外反する。口唇部の断面形状は切り出し形である。波頂部には3個の棒状の貼付が縦位に加えられている。口縁部文様帯は2本1組の沈線で区画され、文様帯内には波頂部直下から垂下する縦位の沈線が施され、文様帯下端の横位の沈線との交点には瘤状の貼付が加えられている。縦位の沈線間には竹管状工具による刺突が施文されている。84はゴーグル状の貼付が加えられている。口縁部には横位に2本1組の沈線文が2段施され、沈線間には縦位の沈線文が加えられている。85の波頂部には3個の棒状の貼付が縦位に加えられ、波頂間にもドーナツ状の貼付が加えられている。86は波頂部に楕円形の貼付が施された後、指頭による押圧が加えられている。貼付下には半截竹管状工具内面による2本1組の沈線が垂下している。地文のRLの縄文は、縦位の沈線を境に斜行する部分と横走気味に施される部分に分かれる。87～91は口唇部に縄文が施されているもの。地文はRLの斜行縄文である。87は波頂部にドーナツ状の貼付をもち、両側に縦長の棒状の貼付を加えている。88は波頂部を欠き、波頂部横に棒状の貼付が1カ所認められる。地文の斜行縄文は不整である。90は突起下に横長の棒状の貼付が施されている。地文の斜行縄文は貼付上にも施される。91は波頂部に三角形の貼付が施されている。92～95は口唇部が無文地のもの。92～95は波頂部で、貼付が加えられるもの。92・93は下向きの矢印状の、94・95は不整楕円形の貼付が施されている。また、器面は磨耗している。

6・96～110は口縁部に沈線が施されているものである。6は胴部がわずかに膨らみ、口縁部はやや外反する。地文の縄文は無節の斜縄文で口縁部文様帯は2本1組の沈線文で区画される。文様帯内には波頂部直下から垂下する縦位の沈線が加えられる。96～98は口縁に沿って、1～2本の沈線文が施されている。96・97は口唇部に刻みが施されている。98・99は口唇部に縄の圧痕が加えられているもの。99は口縁部に横位の沈線が施されている。100・101は、口唇部に半截竹管状工具による刺突が施されているもの。100・101は同一個体である。波頂部直下に半円状の沈線文が施され、その下部には横位と縦位の沈線文が加えられている。102は口唇部に刻みが施されているもの。口唇部直下には口縁に沿って2本1組の沈線文が施文されている。109は口唇部にRLの斜縄文が施されている。口唇直下の沈線文は1本である。103～108・110は口唇部が無文のもの。109・110以外は2本1組の沈線文が1～2段施されている。地文の斜行縄文は106のみLRで、他はRLである。103は横走する沈線文の下位に波状の沈線が加えられている。104の沈線は浅く、補修孔がある。105は口唇部の断面形状が切り出し形である。2本1組の横走する沈線間には2本1組の沈線により弧状の文様が描かれる。106～108



図V-87 包含層出土の土器(1)



図V-88 包含層出土の土器(2)

2 包含層出土の遺物

の口唇部の断面形状は角形である。110は口縁部がやや外反する。

9・10・111～123・126～128・136は口唇部に縄の圧痕が施されているもの。口唇部断面形状は切り出し形のものと同丸みをもつものに分かれる。9・10は4単位の波状口縁で胴下半部を欠く。9は胴部から口縁部にかけてほぼ直線的に立ち上がる器形で、口唇部はやや肥厚する。地文はRLの斜行縄文が施されている。10は口縁部が外反する。口唇部の縄の圧痕は浅く、施されていない部分もある。地文は不整なLRの斜行縄文で、胴部では部分的に横走する。111は波頂部に横位の縄の圧痕が施されている。口縁端部にも斜位の縄の圧痕が加えられている。112～115は波頂部である。112は波頂部直下に縦位の縄の圧痕が加えられている。113は波頂部直下に、縄の圧痕により下向きの矢印状に施される。114は波頂部直下にやや太い縄の圧痕が縦位に施され、両脇に2本ずつ縄の圧痕が加えられる。波頂部直下の縄の圧痕下部は深くなっており、縄の端部が刺突と考えられる。115は緩い波状口縁で、波頂部に貼付等は加えられない。焼成は不良である。116～123・126～128は波頂部以外の口縁部。地文は、単節の斜行縄文が施されているものが多い。117は地文に斜行縄文と綾絡文が施されている。118は地文のRLの斜行縄文がやや深く施文されている。120は地文の縄文が横走する。123は口唇部に細い縄による圧痕が加えられている。128は器面がやや磨耗している。136の口唇部断面は角形で、器面にはLRの斜行縄文が施文されている。

124・135・137・138・140～142は口唇部に縄文が施されているもの。124の波頂部には縦位の縄の圧痕が施されている。口唇部の縄文の条は口唇にはほぼ口唇部に並行している。135は波頂部に棒状工具の押圧が施され、二股になっている。137・138・140・141の口唇部断面形状は切り出し形である。

11・125・129～134・139は口唇部に刻みが施されているもの。刻みは棒状もしくは篋状工具等によるものである。11は平縁で底部を欠く。口縁部がやや外反する器形である。口唇部の刻みは棒状工具による深い押圧により施されている。地文は整然としたRLの斜行縄文が施文されている。125は波頂部である。口唇部全体に棒状工具による押圧が施され、波頂部には同じ棒状工具で、深い押圧が加えられている。129は半截竹管状工具による刺突が施されている。130～134の刻みは細く篋状工具によるものと考えられる。130・131は篋状工具による刻みが加えられ、口縁部には半截竹管状工具内面による2本1組の沈線文が施文されている。131の沈線文は半截竹管状工具内面によるものである。132・133は同一個体で、地文は結束の羽状縄文であるため、Ⅲ群A-2類の可能性はある。134の刻みはやや太く、間隔は広めである。

8・143は口唇部に文様が施されていないもの。8は底部を欠き、底部から胴部にかけて開き気味に立ち上がり口縁部はやや外反する器形である。口縁部には2本1組の沈線で横位にレンズ状の文様を、胴部にはJ字状の文様を描き出している。地文はRLの斜行縄文である。8は2群に類似するものである。143は口縁部に穿孔途中のくぼみがある。1群は見晴町式に比定される。

2群 (図V-88-12・94-145)

口縁部に隆帯をもつもの。12はキャリパー形の器形で、口縁端部にナデ調整で無文帯を作出した後、横環する粘土紐を貼り付け、部分的に2本組の貼付を縦位に加えている。横位の貼付帯をもち、貼付帯の下には無文地上に波状の貼付が加えられている。頸部から胴部にかけて縦走するRLの縄文が施文されている。145は口縁部が内傾する。口縁部文様帯下端は貼付帯と半截竹管状工具内面による2本1組の沈線で区画される。文様帯内には貼付帯が施されていて、貼付帯上部はRLの斜行縄文が施文され、下部は無文である。

2群は大木8a式に比定される。

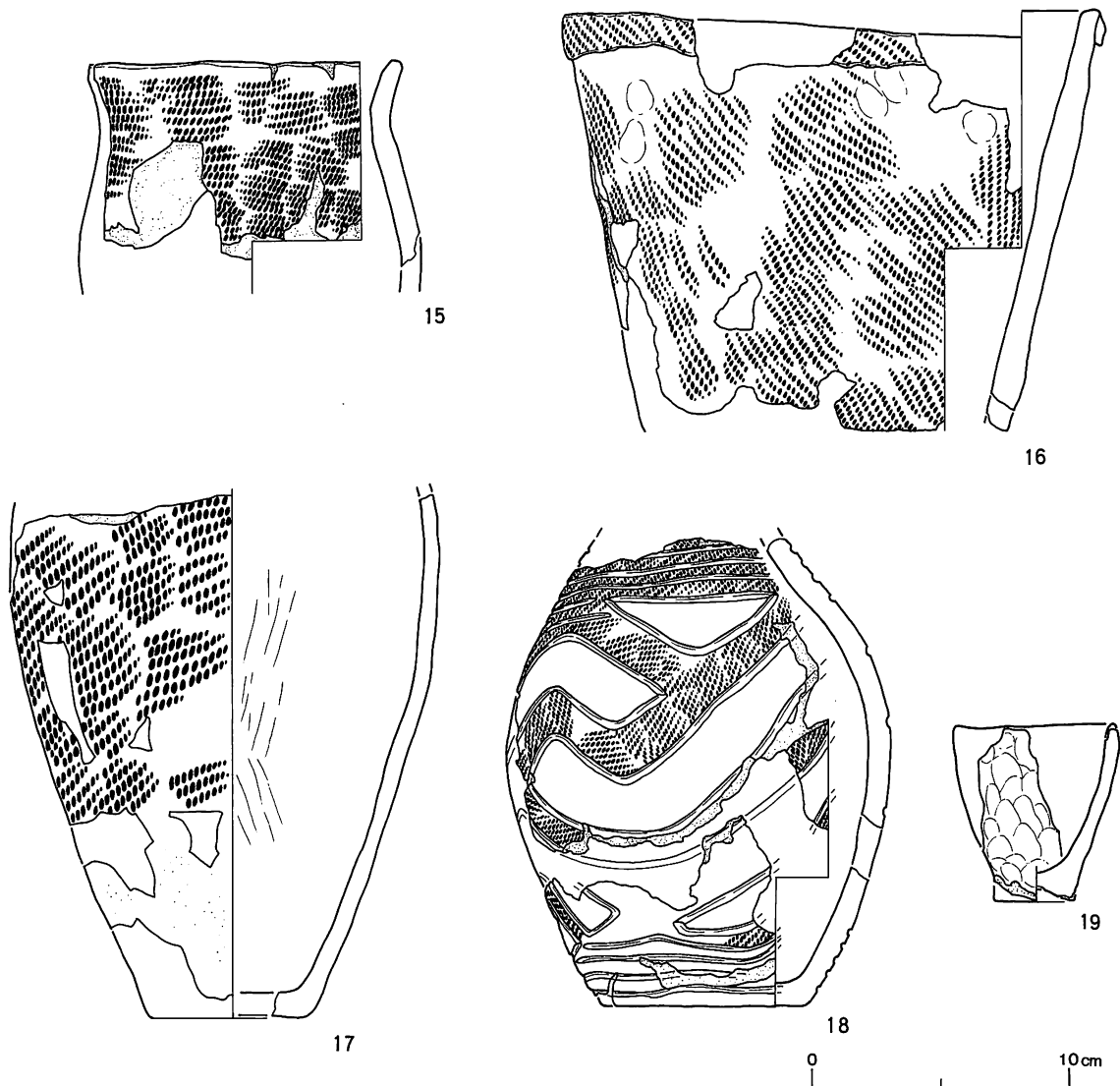
3群 (図V-94-144・146~178)

口唇部に沈線が施されるもの。波頂部には渦巻状の文様が施文されているものが多い。また口縁から胴部にかけて、2~3本1組の沈線により文様を描き出されているものが一般的である。地文の縄文はRLの斜行縄文がほとんどである。

144は波頂部に渦巻状の粘土紐の貼付が施されている。口縁部には渦巻から垂下する粘土紐が加えられている。口唇部に沈線は施されていないが、文様に共通性がみられるため、3群として扱う。

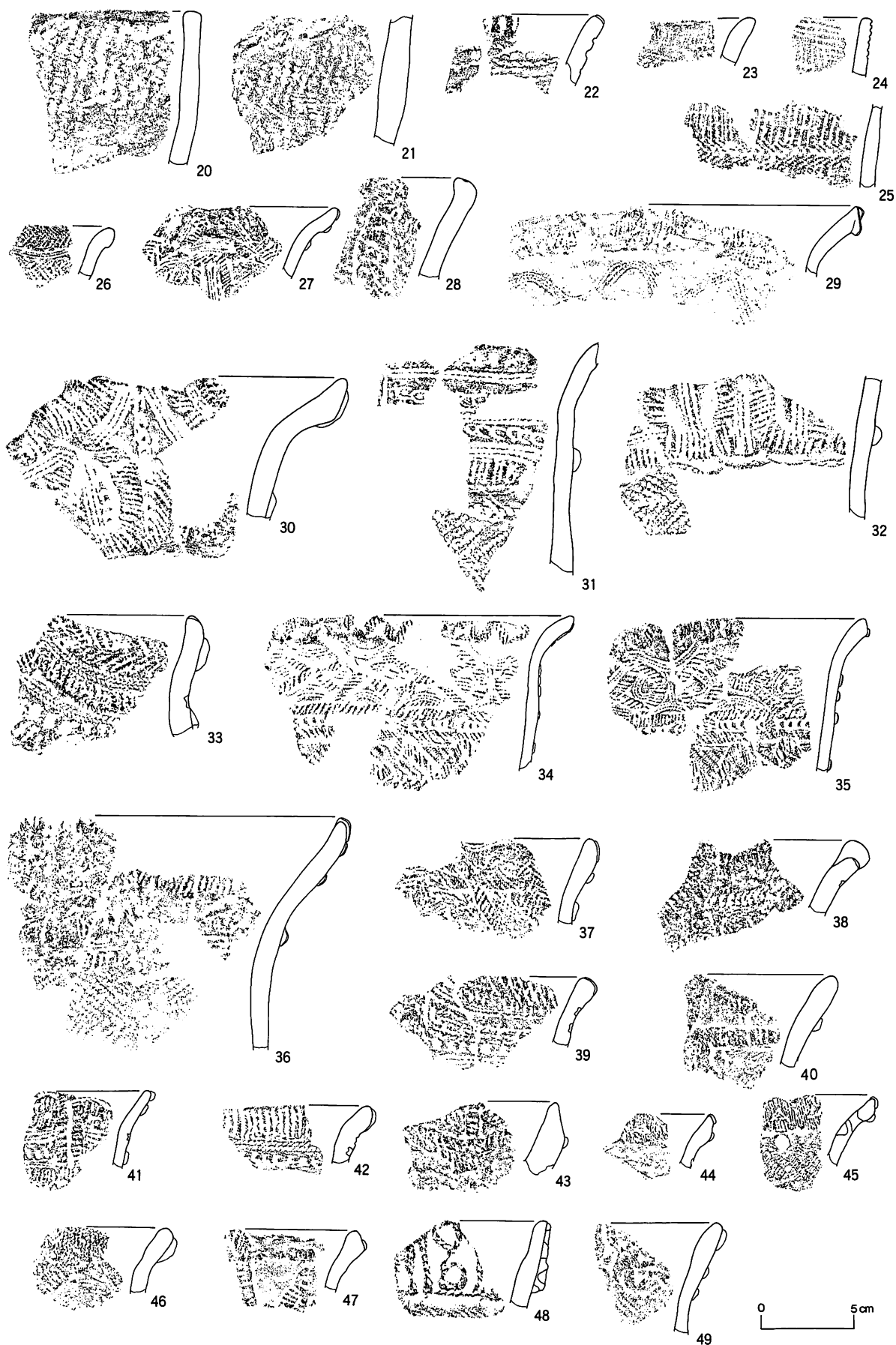
14・146~155・157~159は口唇部に渦巻文様が施されているもの。14は4単位の波状口縁で、胴部がやや膨らみ口縁部が外反する器形である。口唇部はあまり肥厚しない。口唇部直下には2本1組の沈線文が横位に施され、頸部も2本1組の沈線によりレンズ状の文様を描き出される。地文の縄文はRLの斜行縄文である。

146・147は波頂部に2個の渦巻が沈線により描かれるもの。口唇部直下には口縁に沿って1~2本の沈線文が施されている。146は波頂部から垂下する2本1組の沈線文が施され、胴部には2本1組の弧状の沈線が加えられている。147は波頂部直下に横位の貼付が施され、口縁部には2本1組の沈線が2段加えられる。148は胴部がやや膨らむ器形である。波頂部横の小波頂部にも沈線による渦巻文様が

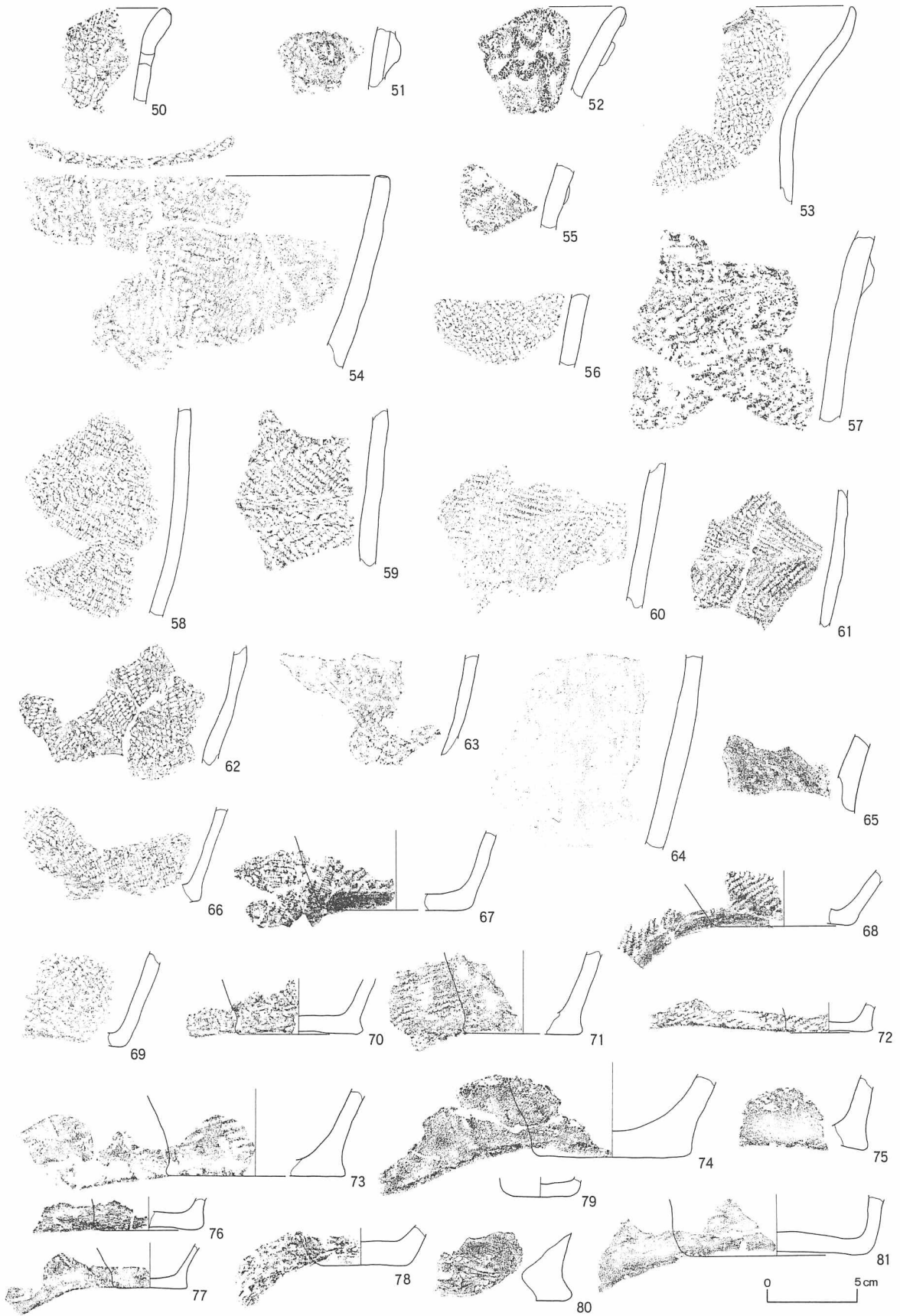


図V-89 包含層出土の土器 (3)

2 包含層出土の遺物

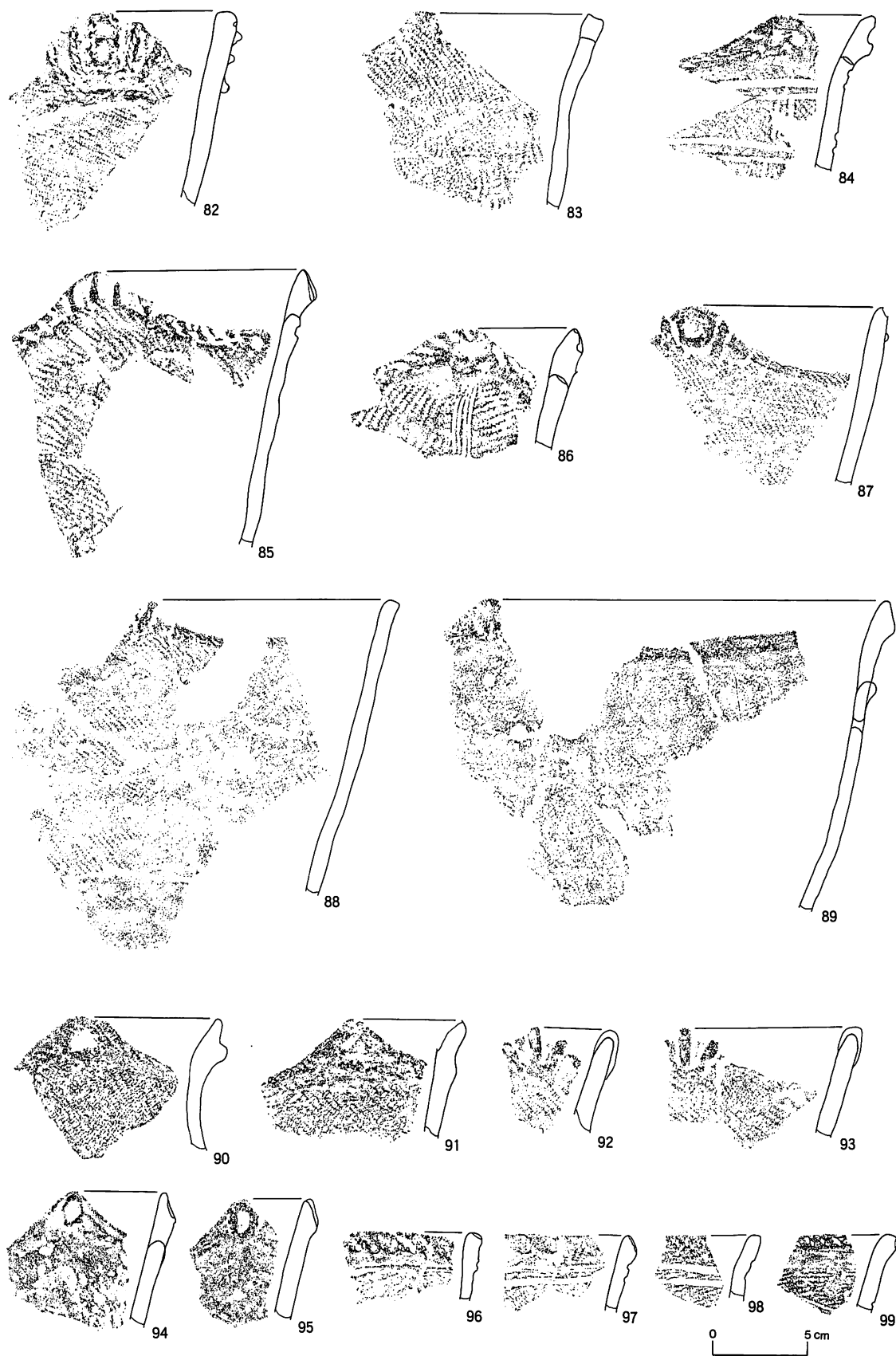


図V-90 包含層出土の土器(4)



図V-91 包含層出土の土器(5)

2 包含層出土の遺物



図V-92 包含層出土の土器(6)

描き出されている。口縁部には2本1組の横位の沈線文が施され、その下位には凸レンズ状の文様が描き出されている。149～155・157～159は波頂部にのみ渦巻文様が施されているもの。いずれも口縁部には2～3本1組の沈線文により直線状、レンズ状等の文様が描き出されている。149・150の沈線文は3本1組である。149の胴部には大きな渦巻状の文様が描き出されている。150の波頂部はやや大形で、口縁部にはレンズ状の文様とそこから垂下する沈線文が描かれている。151は文様帯が2本1組の沈線で区画され、文様帯内にも沈線文様が描かれている。152は波頂部直下がやや膨らむ。153は緩い波状口縁である。154の口唇部はあまり肥厚せず、口縁に沿った2本1組の沈線文の下位には沈線によって不整の山形が描き出されている。155・158は平縁部分に渦巻文様が施されている。157の口縁部は地文の斜行縄文が施されるのみである。159の地文はLRの斜行縄文である。

156は緩い波状口縁で、小波頂部には渦巻ではなく、棒状工具による刺突が施されている。口縁部文様帯は横位の2本1組の沈線で区画され、波頂部下の文様帯内には縦位の沈線が加えられている。

160は波頂部に沈線により馬蹄形の文様が施文されている。

13は平縁で小形のもの。底部を欠き、胴部はやや丸みを帯びる。口縁部文様帯は2本1組の沈線で区画され、文様帯内にはほぼ等間隔で4ヵ所に幾何学的な文様が描き出されている。地文はLRの斜行縄文で、器面の磨耗が著しいため、縄文自体も全体的に摩滅している。

161～172・175・176・178は波頂部以外の口縁部。2～3本1組の沈線で横位、縦位、レンズ状の文様が施されている。161は3本1組の沈線文で横位と縦位の文様が描き出され、縦横の交点には指頭による圧痕が加えられている。164・166・168・170は2本1組の沈線によりレンズ状の文様が描かれている。172は1本の沈線が口縁沿いに施されている。175・176は口縁部に沈線文様が描かれないものである。

173・174・177は波頂部に貼付が施されているもの。173は小波頂部にドーナツ状の貼付と、縦位の棒状の貼付が3本加えられている。174は貼付により渦巻風の文様を施文している。貼付下には弧状の文様と、そこから垂下する直線が3本1組の沈線により描き出されている。177は口唇部に縄の圧痕が施されているものである。波頂部には三日月状の貼付が加えられ、下位には孔が穿たれている。15は底部を欠き、胴部が膨らむ器形である。口縁部はやや外反する。地文はLRの縄文で横走する。

3群は大木8aに相当するものと考えられる。

4群 (図V-96-179・97-194)

隆帯をもち、隆帯上には半截竹管状工具内面による押し引きが施されているもの。胎土は砂粒を多く含む。

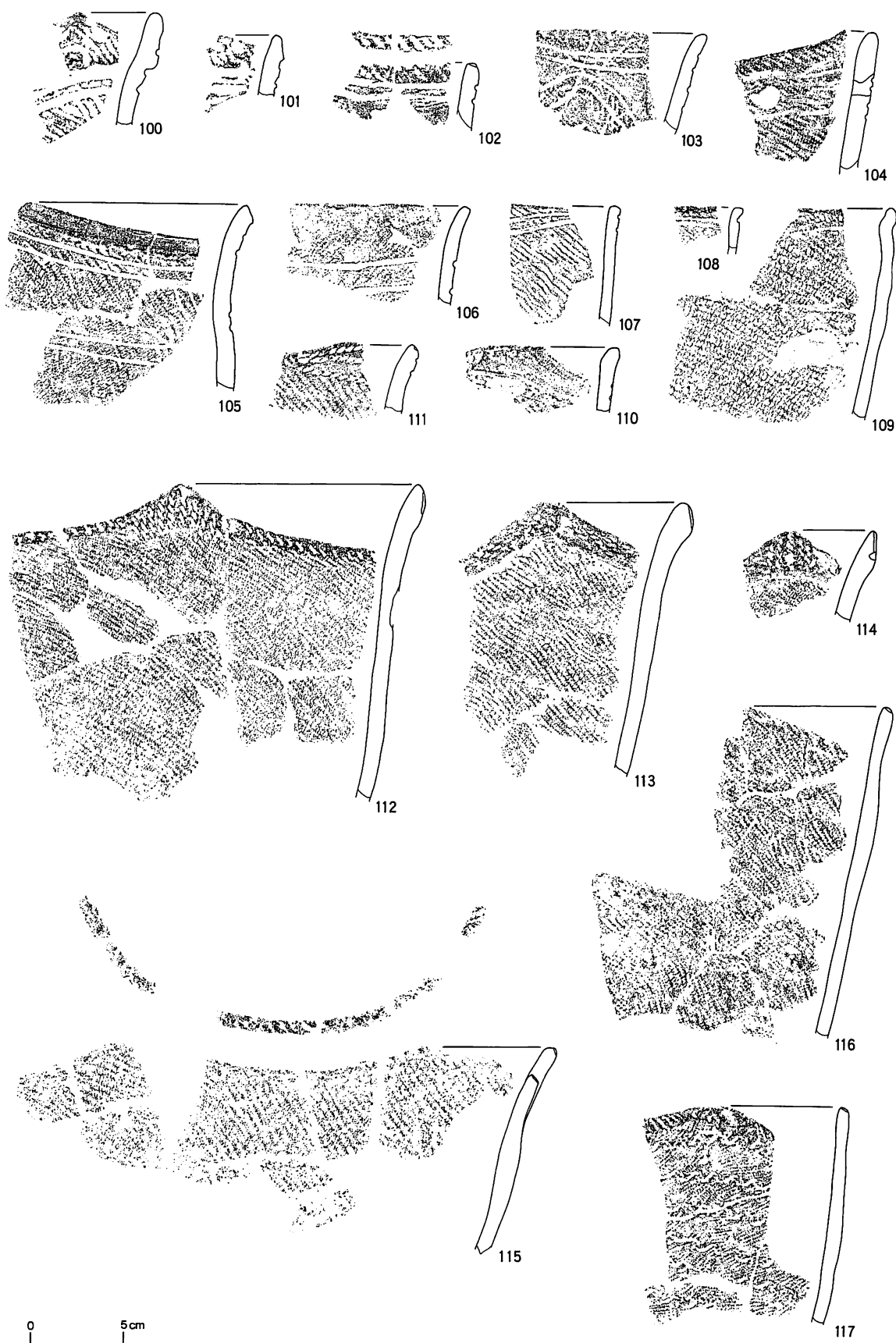
5群 (図V-96-180～193)

文様が地文の縄文のみか、全く施されないもの。180～186・192・193は斜行縄文が施されているもの。180～182は波状口縁の波頂部。183の地文はLRの斜行縄文である。186・193は綾線文が施されている。187～191は無文のもの。187～189は波状口縁である。187は2個一対の波頂部を有する。191は孔が1ヶ所開けられている。

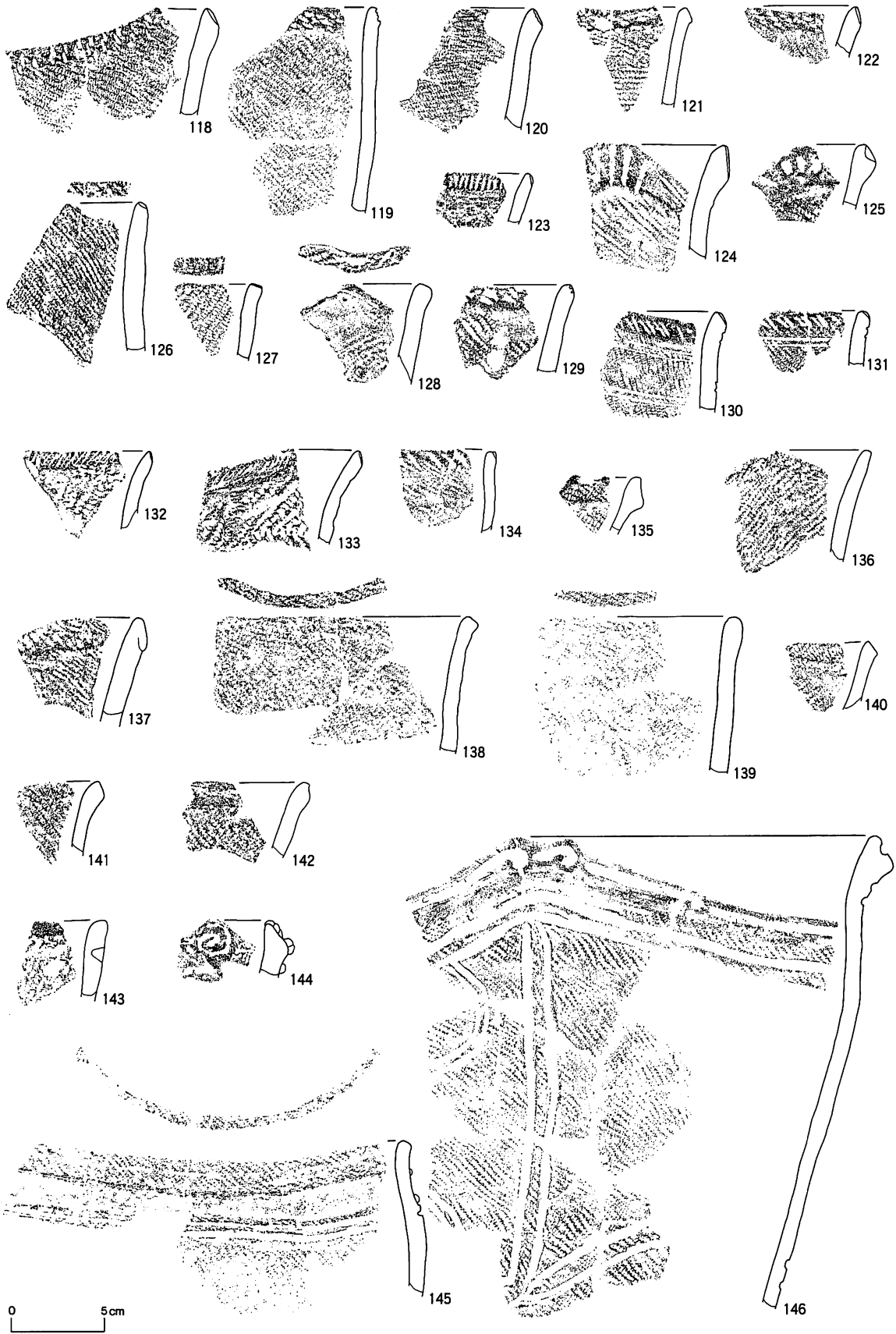
6群 (図V-97-195～218・98-219～251)

1～5群に入らないものを一括してここで扱う。196～227は胴部である。地文には多くのものにRLの斜行縄文が施されている。196～218は沈線により文様が描き出されるものである。196～197は3本1組の縦位の沈線文が施されるもの。198～202は3本1組の縦位と横位の沈線文が加えられている。203～206は沈線により曲線文様が描かれる。207～217は横位の沈線文が施文される。207～209・211は横位と斜位の沈線の組み合わせにより文様が描き出される。210・212～217は横位の沈線文が施される。218は小波状の沈線文が描き出される。195・219～227は地文の縄文のみ施されているもの。RL

2 包含層出土の遺物

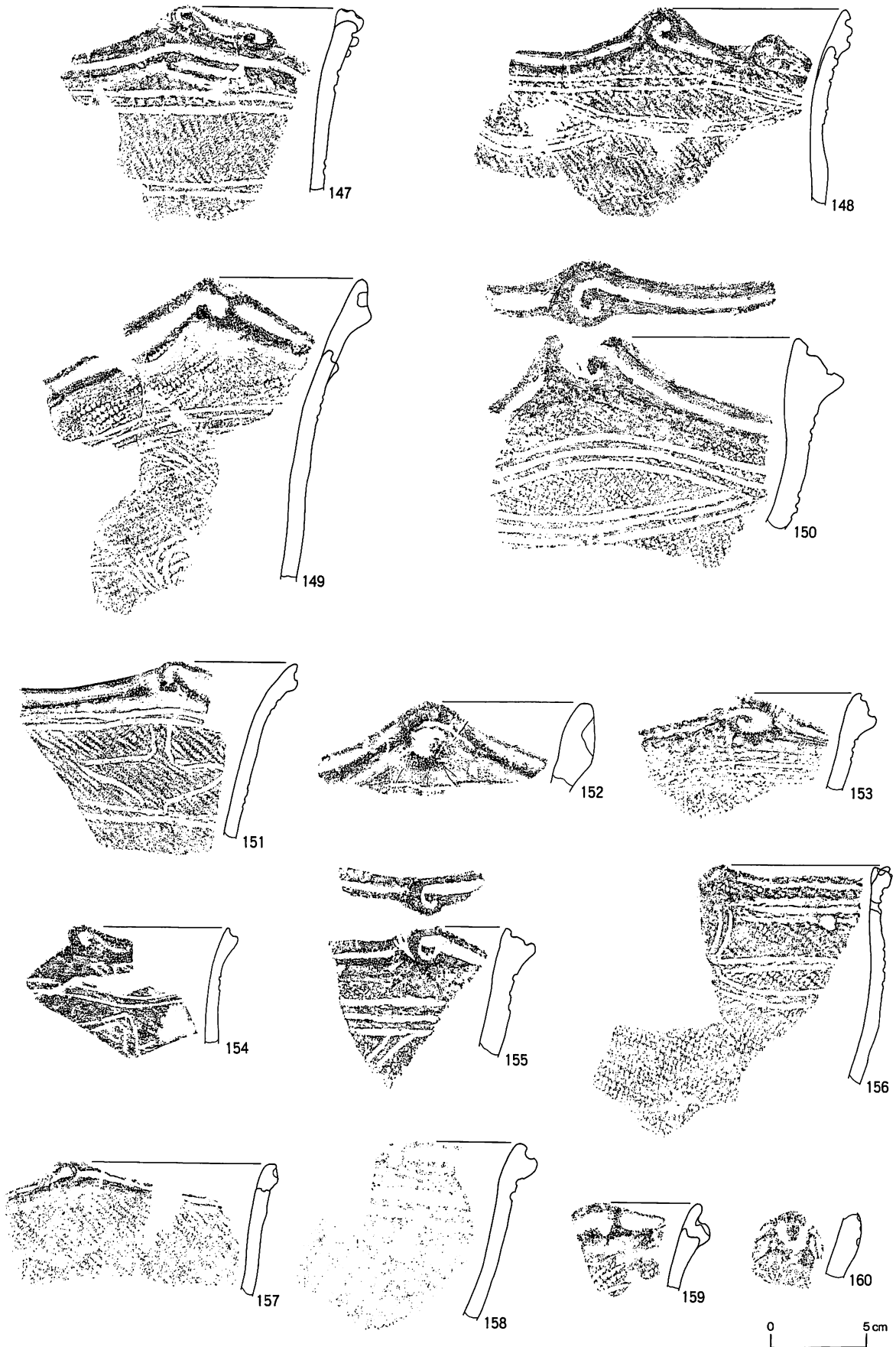


図V-93 包含層出土の土器(7)



図V-94 包含層出土の土器(8)

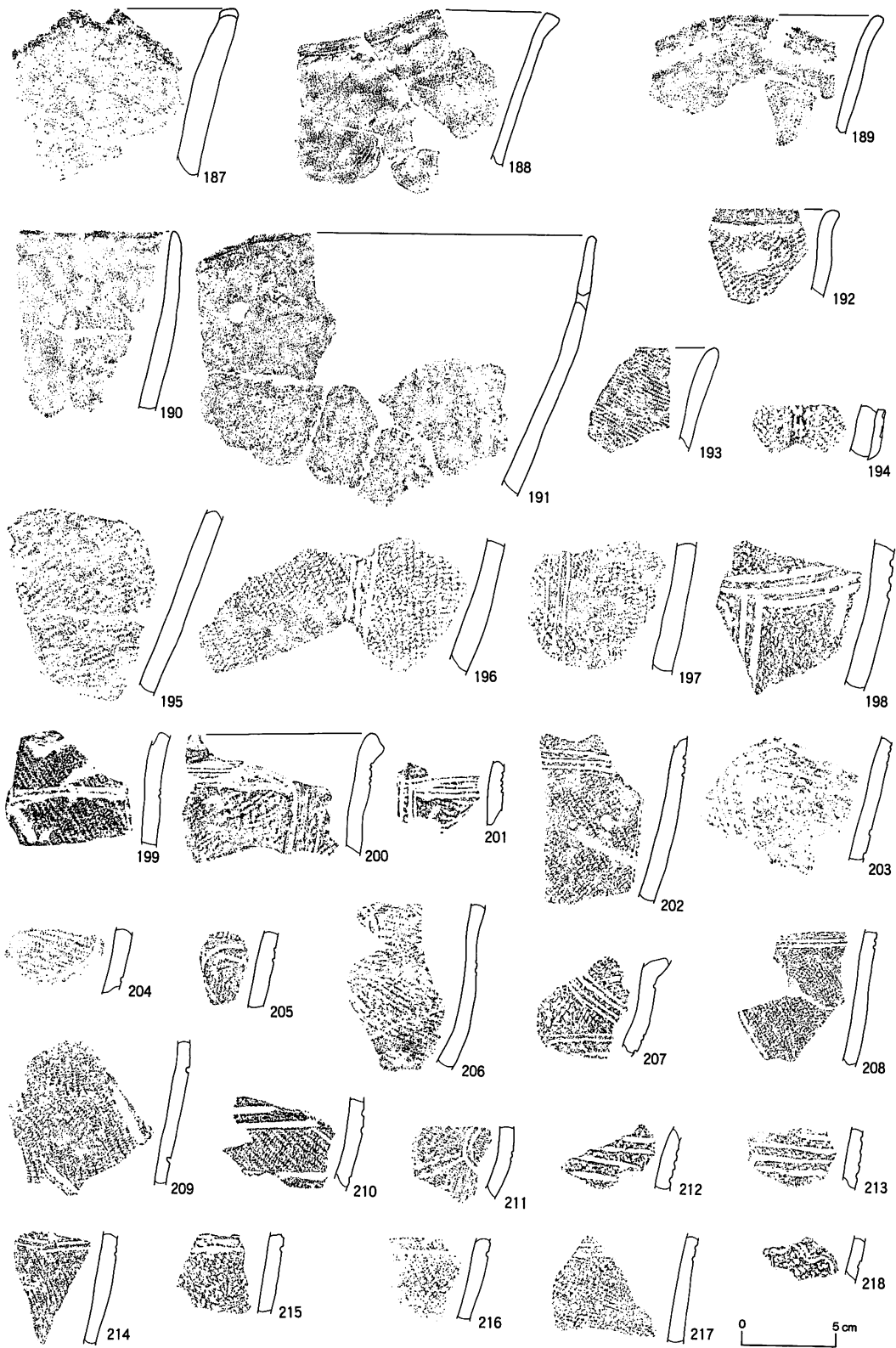
2 包含層出土の遺物



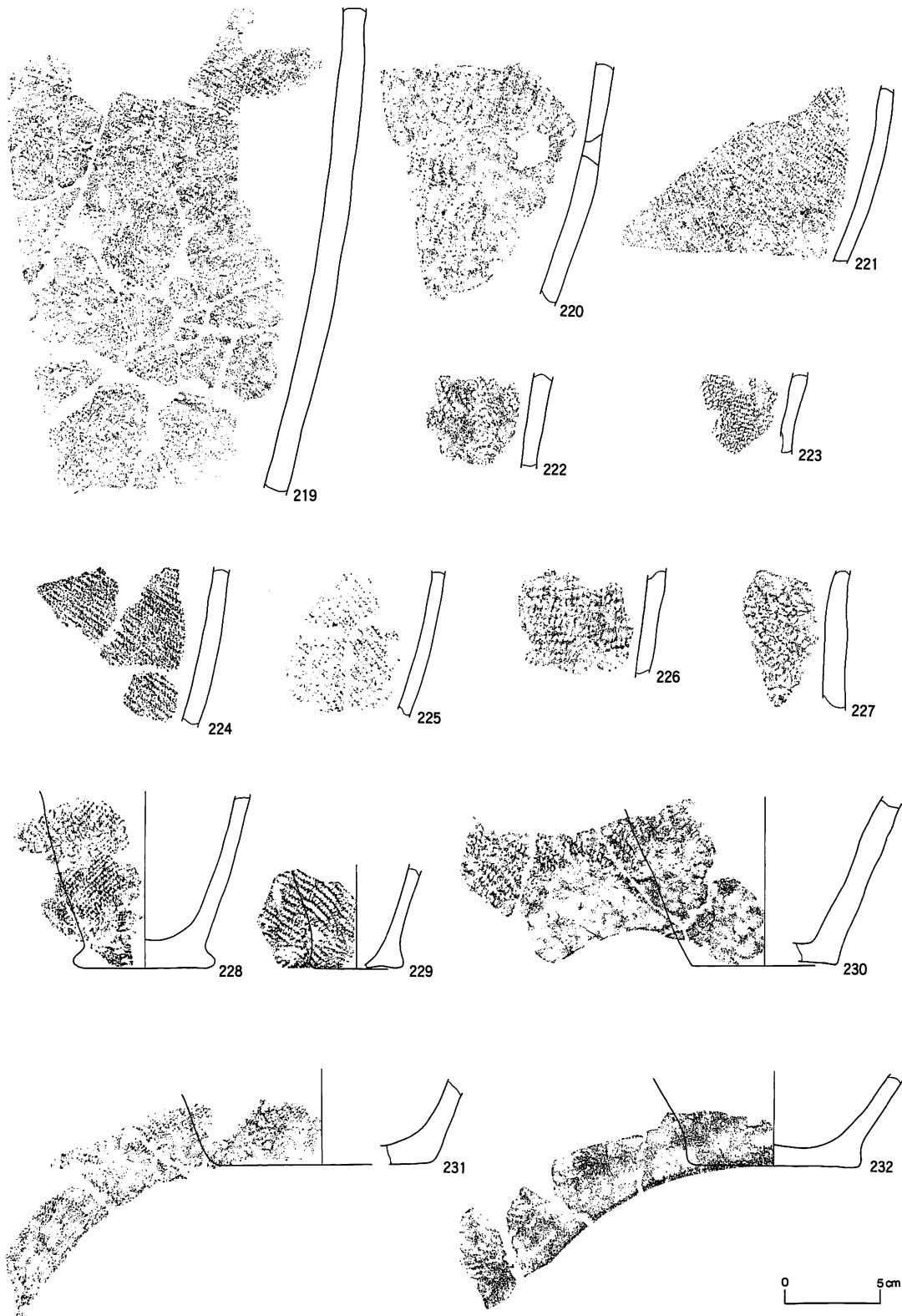
図V-95 包含層出土の土器(9)



図V-96 包含層出土の土器 (10)

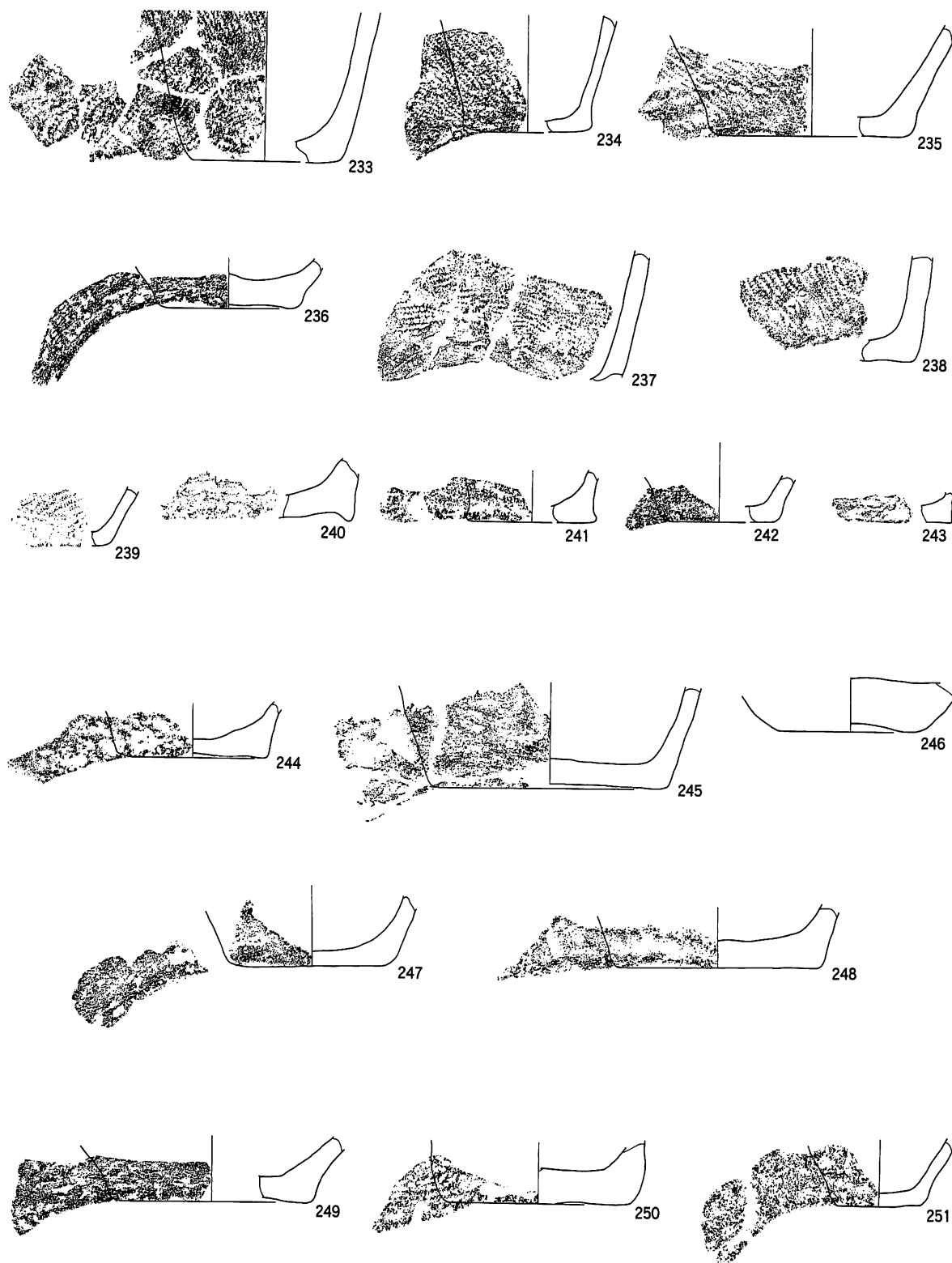


図V-97 包含層出土の土器 (11)

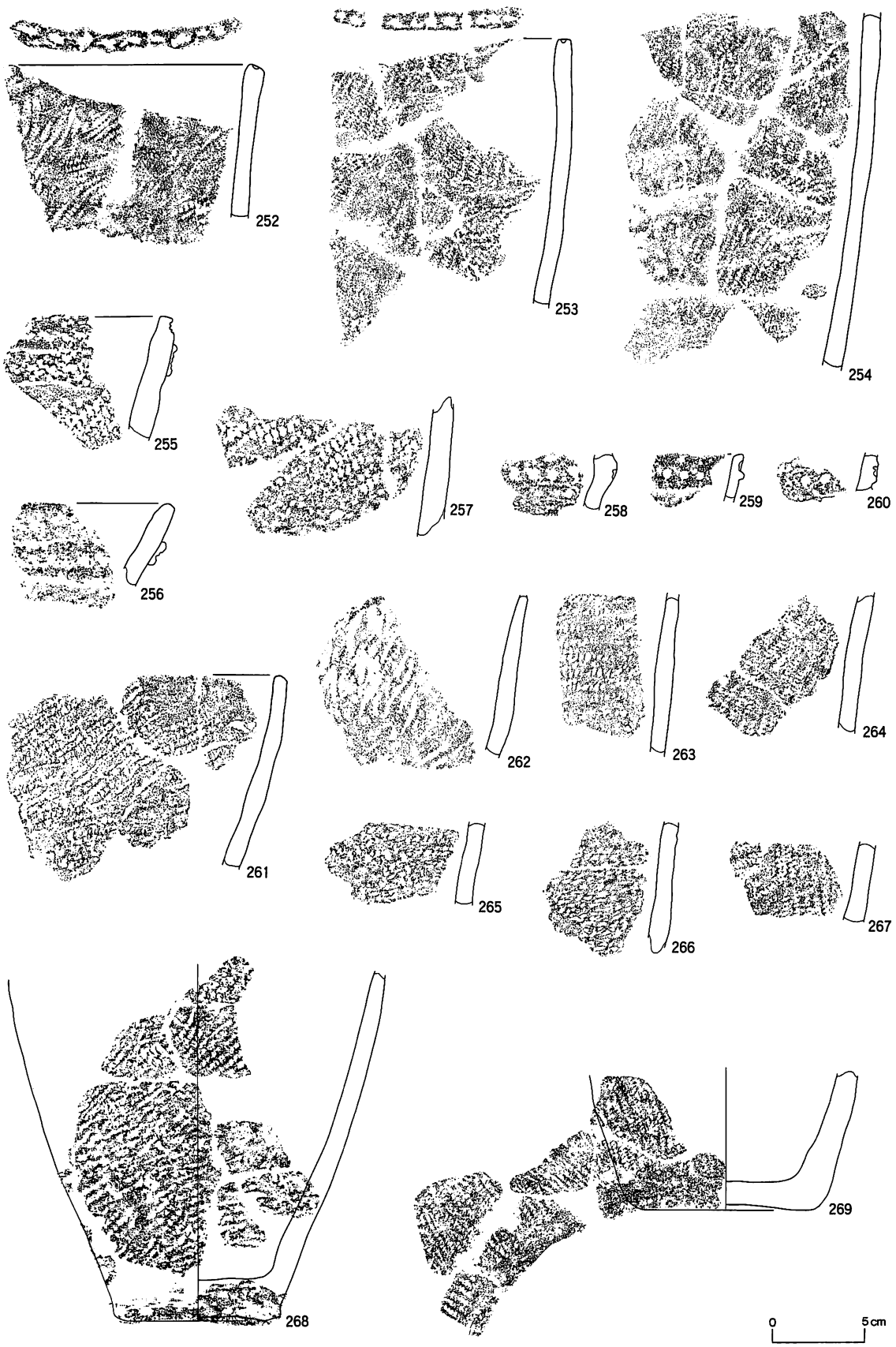


図V-98 包含層出土の土器 (12)

2 包含層出土の遺物

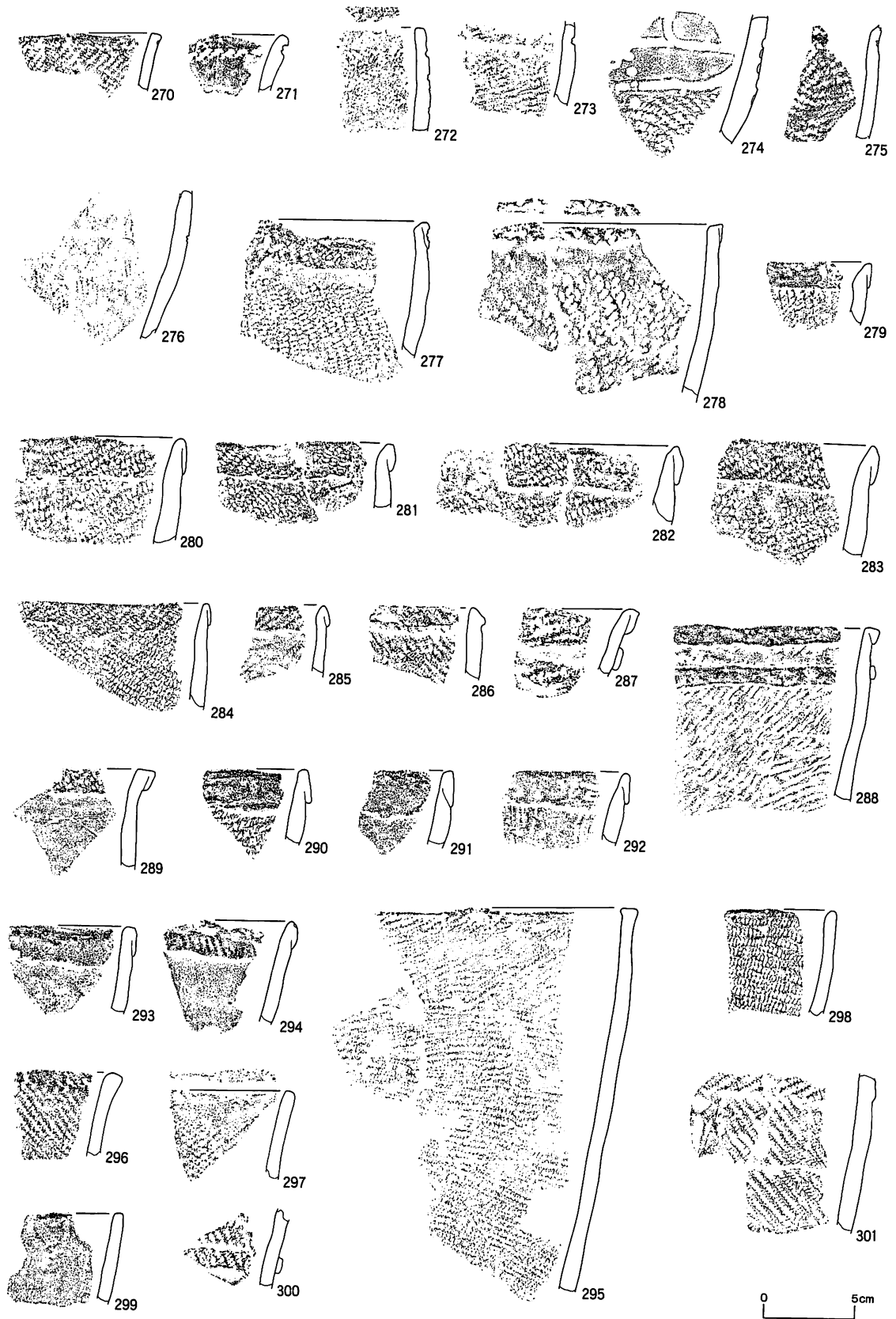


図V-99 包含層出土の土器 (13)

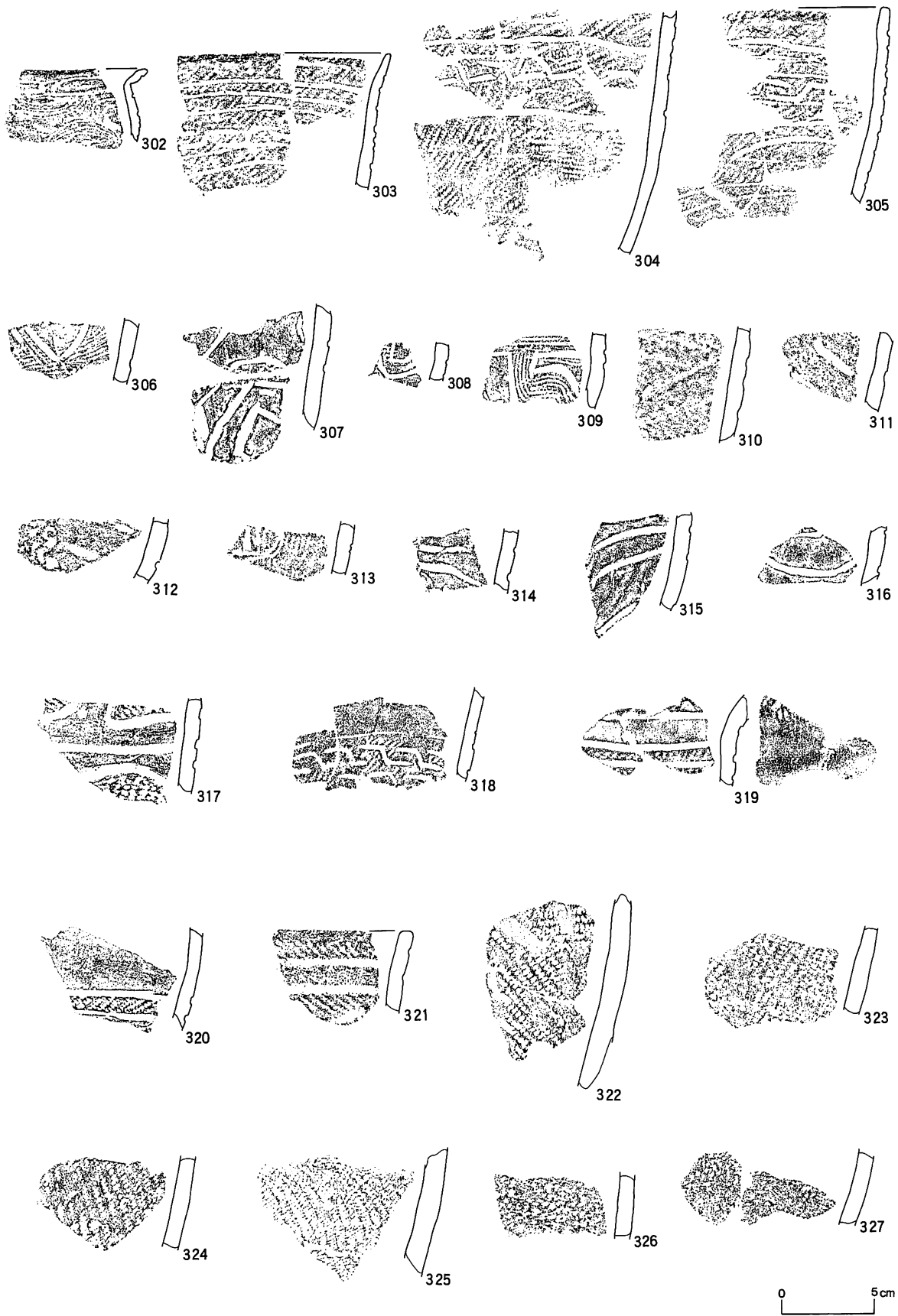


図V-100 包含層出土の土器 (14)

2 包含層出土の遺物

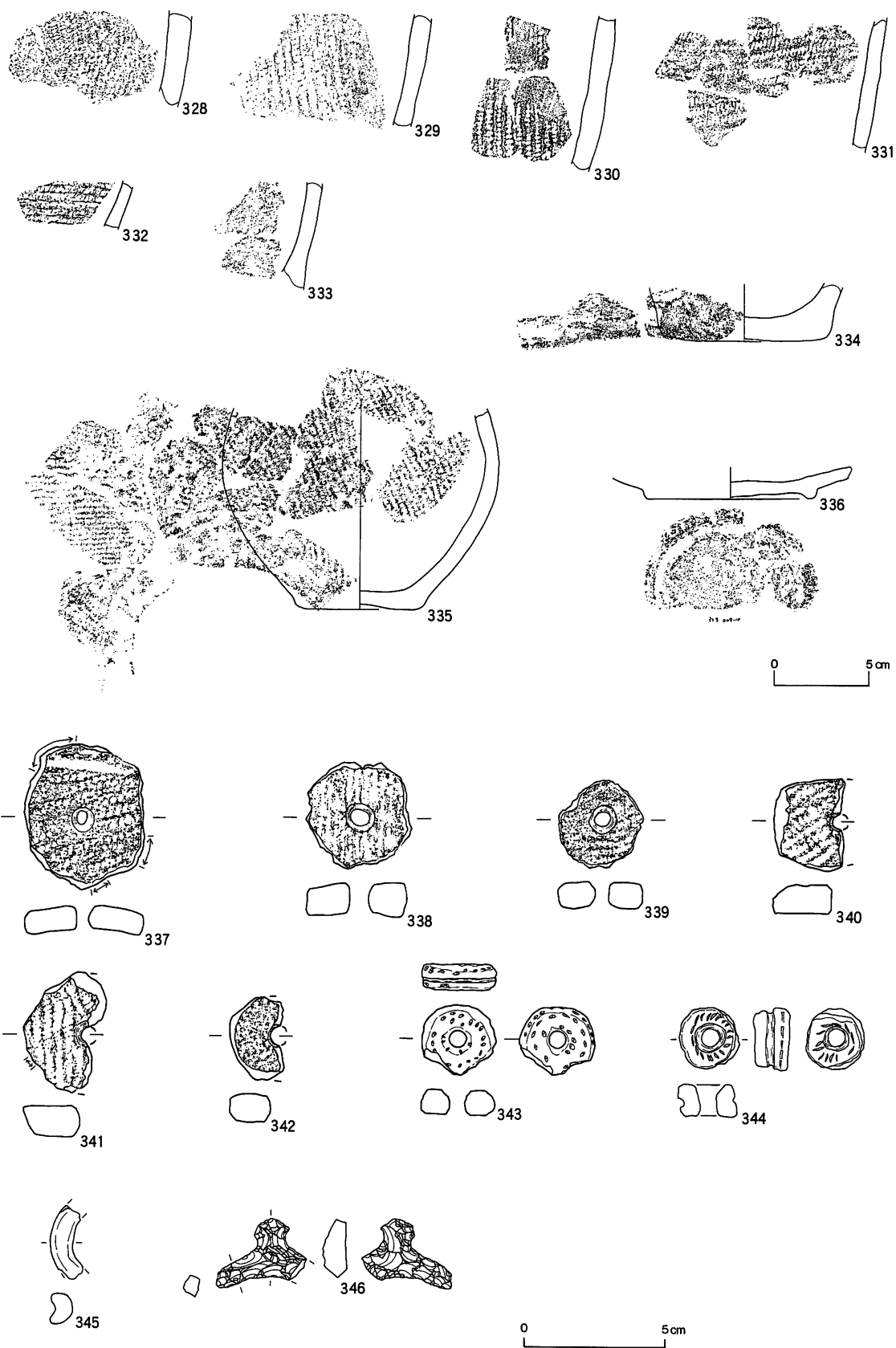


図V-101 包含層出土の土器 (15)

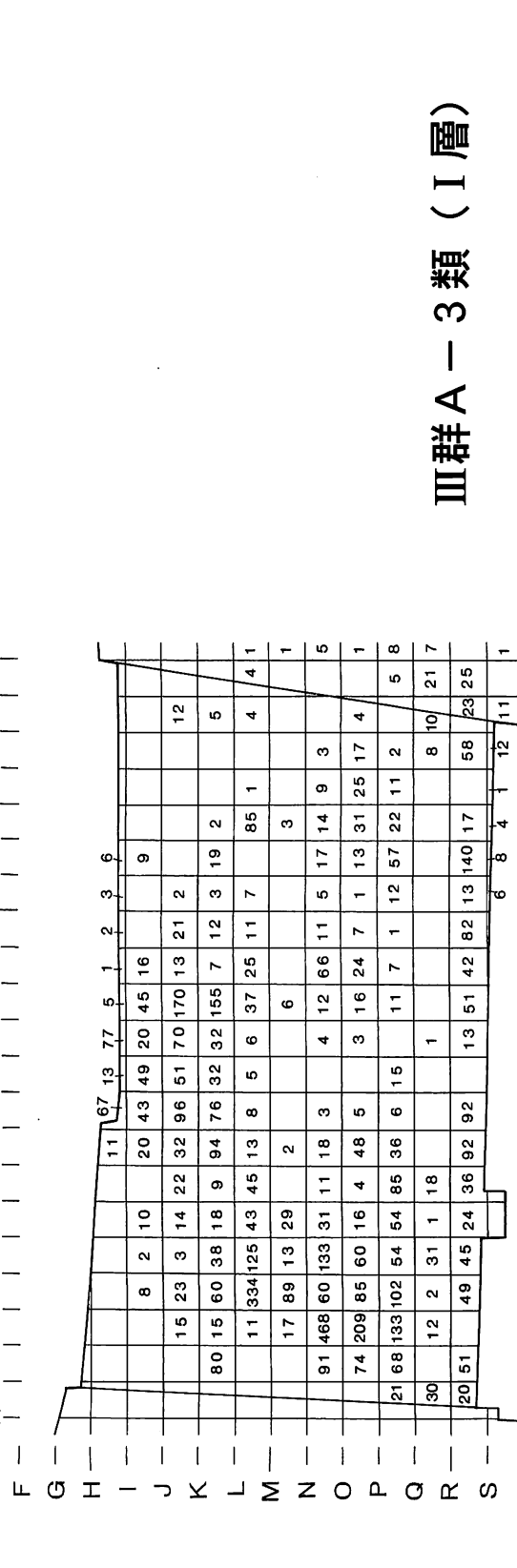
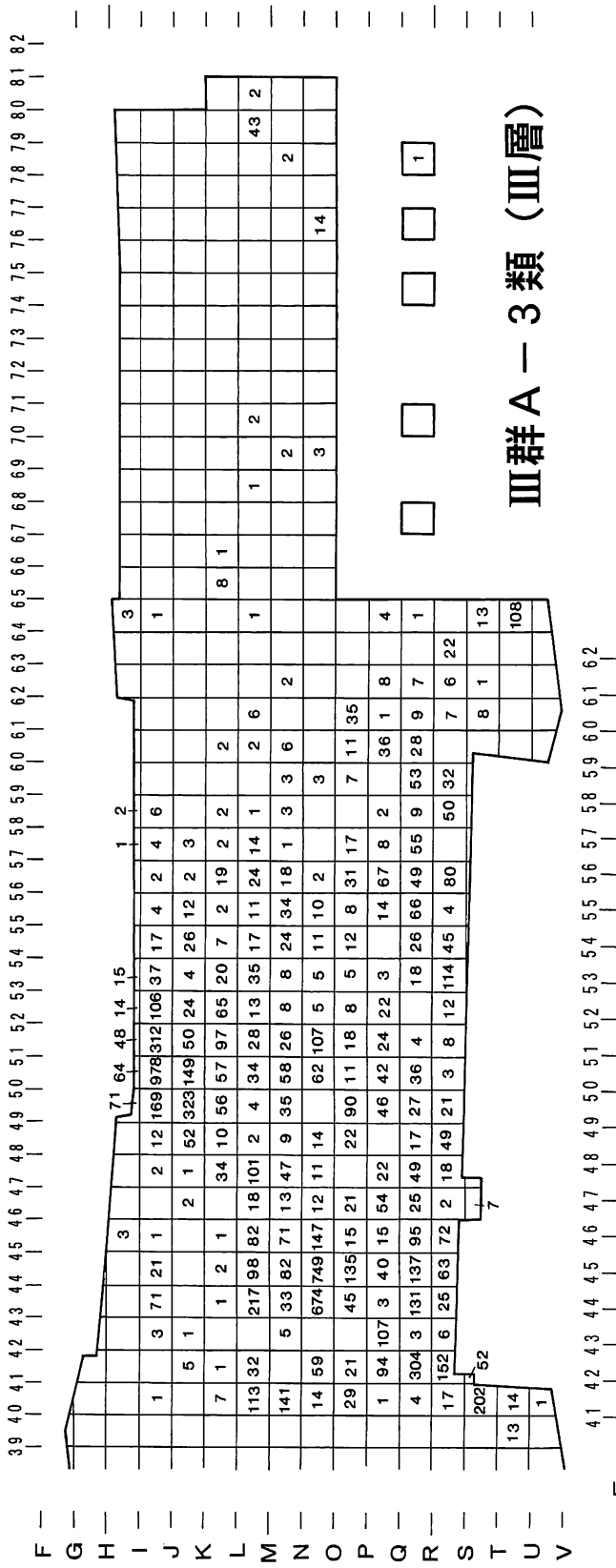


図V-102 包含層出土の土器 (16)

2 包含層出土の遺物



図V-103 包含層出土の土器(17)・土製品・石製品



図V-106 出土土器分布 (3)

の斜行縄文が多いが、195・220は地文にLRの斜行縄文が施されている。220は穿孔が1ヶ所施されている。224の縄文は縦走気味である。226はLRの縄文が横走する。227は綾線文が施されている。

228～251は底部。228・229・232・234は底部がやや張り出す。232・235・249・251は胴部がやや開き気味になる。236・240・246・249はやや上げ底気味のものである。237の地文はRLの縄文で横走する。

Ⅲ群B類 (図V-100-252～269)

出土量が少ない点と、小片が多いため、細かな時期の特定をし難いものが多い。全体的に胎土に砂粒を多く含み、やや脆い作りのものが多い。焼成は全般的に不良である。地文の縄文は不整な単節の斜行縄文が施されるものが多い。

17は口縁部を欠く。胴部がやや膨らむ器形である。地文の縄文はLRの斜行縄文である。252～254は同一個体。波状口縁で、底部を欠くが底部からほぼ直線的に立ち上がる器形と考えられる。口唇部には竹管状工具によると考えられる刺突が施されている。地文にはLRの不整な斜行縄文が施文されている。内面調整は粗く、胎土には砂粒を多く含む。255～260・262～267は胴部。255・256は横位の貼付が施され、貼付上には縄の圧痕が加えられている。255は貼付上部に縄の圧痕が横位に巡っている。256と257は同一個体。LRの斜行縄文が施されている。258～260は貼付上に竹管状工具による刺突が施されるものである。259は口縁部で、口唇部断面形状は角形である。261～269は地文の縄文のみ施されるものである。261は平縁である。262～267は胴部である。263は縄文が横走する。265～267は地文に複節の縄文が施されるもの。265・266はLRの縄文が横走する。267はRLの縄文が向きを変えて施文されている。268・269は底部。どちらもやや上げ底である。268は底部から胴部にかけて緩く湾曲する。269は縦走気味の斜行縄文が施されている。

Ⅳ群A類 (図V-101-103-270～335)

1群 (図V-270～301)

全体的に胎土に砂粒を含むものが多く、焼成はやや不良である。270～273・276は縄線文が施されているもの。270・271口縁部で、横位に縄の圧痕が巡らされている。272・273・276は縄文地に縄の圧痕により文様が描き出されている。274は地文の縄文を沈線で区画し、無文部に沈線により文様を描き出している。また、半截竹管状工具による刺突が縦位に施されている。276の口縁部には半截竹管状工具の小さな刺突が横位に巡らされている。

16・277～294・300・301は貼付帯が巡らされるものである。16・277～294は全て折り返し口縁である。貼付帯上は縄文が施されているもの、縄による圧痕が加えられているもの、無文のものがある。口唇部は平坦で、口唇部断面は角形のものが多い。地文はほとんどのものがLRかRLの斜行縄文を施文されている。16は底部を欠き、胴部～底部にかけて直線的に立ち上がる器形である。口唇部断面は角形で、口縁端部の貼付上と器面には不整なLRの斜行縄文が施されている。277は口縁端部の横位の貼付から斜方向に垂下する貼付が加えられている。貼付上には部分的に縄の圧痕が施されている。278・280～287・289は貼付帯上に斜行縄文が施されているもの。278は粗雑な貼付帯をもち、口唇部にも斜行縄文が施されている。280～286の調整が粗雑では口唇部が平坦でなく、やや丸みを帯びるもの。287・288は口縁部に2本の貼付帯で区画された無文帯をもつもの。289の口縁部は無文である。279・290は貼付帯上が無文のものである。279は縄文がほぼ縦走する。290は無節の縄文が施されている。291～294は無文のもので、291の口唇部は平坦だが、他は丸みを帯びる。295～299は貼付帯をもたないものである。295～298は地文に斜行縄文が施されているもの。口唇部断面は角形である。295は縄文が横走する。297は口唇部にも斜行縄文が加えられている。299は無文のものである。1群は天祐寺

2 包含層出土の遺物

式～涌元式に比定される。

2群 (図V-102-302)

302は口縁部がくの字に屈曲するものである。無文地で胴部には弧状の文様が沈線によって描き出されている。トリサキ式に比定される。

3群 (図V-102-303～321)

磨消し縄文と沈線により文様が描き出されるもの。303～305・318は縄文地の横位の沈線間にクランク文が施されるもの。306・309は太い沈線で区画し、ササラ状工具による擦痕が加えられるものである。306は沈線下部に擦痕が加えられている。309は沈線に沿って擦痕が加えられている。307・308・310～316は無文地に太い沈線により曲線文様が描き出されている。313は半截竹管状工具による2本1組の沈線が加えられている。317・319～321は磨消し縄文が施され、縄文は沈線により区画されている。3群は大津式に比定される。

4群 (図V-102・103-322～333)

1群～3群に入らないものをここで一括して扱う。19は小形の鉢で、底部は上げ底である。無文で、器面全体に手ひねりによるもので指頭痕跡が認められる。焼成は不良で、胎土は砂粒をやや含む。焼成・胎土からIV群A類とした。322～333は胴部である。333は無文で、地文の縄文のみが施されているもの。332は無節で、他は全て単節の縄文である。326・332は縄文が横走する。330は縄文が縦走する。334・335は底部である。335は胴部が膨らむ器形でR Lの斜縄文が施されている。底部はやや上げ底である。

IV群B類 (図V-103-336)

浅鉢の底部で、台部をもつ。器面は磨耗している。器形から本群に含めた。

土製品

円板状土製品 (図V-103-337～342)

全てⅢ群A-3類土器の胴部破片を転用している。337・341は部分的に擦って整形している。340～342はほぼ半分を欠損している。

耳栓 (図V-103-343～345)

343・344は表裏面に細かい刺突が施されている。345は約2/3を欠損している。 (広田)

石製品 (図V-103-346)

346は三脚石器である。両面加工で、図の右側は欠損している。黒曜石製で、原産地同定を依頼したところ、赤井川産と判定された (第七章2節)。 (柳瀬)

b 石器・石製品 (図V-108～122・103-346、図版154～163、153-2)

B地区包含層からは、石器類が合計14,980点出土した。その内訳は、剥片石器類が10,482点、礫石器類が4,494点、石製品が4点である。

剥片石器類では、剥片が約9割を占めており、石核・原石・剥片を除いた剥片石器は927点である。剥片石器の中では、Rフレイク、スクレイパーが多く、それぞれ279点、249点出土している。次いで石鏃が115点、Uフレイクが113点で比較的多く出土しており、ほかにはドリルが43点、つまみ付きナイフが27点、石槍が20点、両面加工石器が18点、石器未成品が10点、楔形石器が2点出土している。楔形石器はいずれも黒曜石製で、側縁の槌状剥離は明瞭ではないが、上下端につぶれがみられる、厚みのある剥片である。

礫石器類では、礫が約9割を占めており、礫剥片が118点出土している。これらを除く礫石器は577点

で、その中では、すり石が多く257点、次いでたたき石が119点、石錘が9点出土している。石斧・砥石・石皿は破片が多く、そのまま個体数を表すものではないが、それぞれ60点、55点、70点出土している。加工痕のある礫は7点出土しており、扁平礫の周縁にまばらに剥離が加えられるものなどがある。礫剥片は、緑色泥岩・片岩などの石斧製作に伴うものと、安山岩などのすり石などの製作・使用に伴うものがあり、前者は15点、後者は103点出土している。石製品は三脚石器などが4点出土している。

石器類の分布は、調査区の地形に影響されている。H-51付近からR-42付近にかけての尾根地形の部分に最も集中しており、これは竪穴住居跡の分布状況とも一致している。調査区中央部の南東向きの緩斜面では、比較的少数が均一に分布する。60～63ライン付近は、63ラインを中心とする沢地形に面する斜面にあたっており、剥片石器および剥片が集中して出土しているのに対し、礫石器類は少ない。65ラインより東側では石器の分布が極端に希薄になる。器種による分布傾向の違いは、先述した60ライン付近のほかは、顕著ではない。

石材は、各器種に共通して、剥片石器類では頁岩が、礫石器類では安山岩が圧倒的に多い。このため、掲載石器一覧表においては全点について石材の記載を行っているが、本文中では頁岩あるいは安山岩以外の石材についてのみ記載した。また、黒曜石製の石器の一部では原産地同定を依頼した（第VII章2節）。

なお、掲載した石器出土分布図には、出土位置の特定できない表採等のものは除いている。

石鏃（図V-108-1～14）

115点出土している。2類：有茎のものが約7割の84点、1類：無茎のものは7点、9類：未成品が15点出土した。1類では、1b類：柳葉形のものが3点、1c類：菱形のもの、1d類：五角形のもの、1e類：木葉形のものがそれぞれ1点ずつ出土している。2類の中では2a類：茎の明瞭なものが多く63点、b類：茎の不明瞭なものが13点出土している。石材は約半数の63点が頁岩、約25%の32点が黒曜石、約15%の18点が流紋岩で、ほかにはメノウ、玄武岩が少数見られる。

1～14は石鏃。1～4は1類、5～14は2類。1～3は1b類である。3は黒曜石製で、右側縁が部分的に磨耗している。4は1d類：五角形のものである。基部がやや窪む。5～11は2a類：茎部の明瞭なもので、5・6は平基のもの、7～11は凸基のもの。10・11は、茎部が湾曲するもの。12～14は2b類：茎部の不明瞭なものである。3・5・6・10・14は黒曜石製、12・13は流紋岩製、11は玄武岩製である。

石槍（図V-108-15～18）

20点出土している。ほとんどが細分不能な破片あるいは未成品と思われるものである。形態のわかるものでは、1a類：無茎で柳葉形のものが1点、1b類：無茎で木葉形のものが1点、2a類：有茎で茎の明瞭なものが1点、2b類：有茎で茎の不明瞭なものが3点出土している。石材は、頁岩製のものが約半数を占め、ほかには玄武岩・黒曜石がそれぞれ5点ずつ、流紋岩が1点みられる。

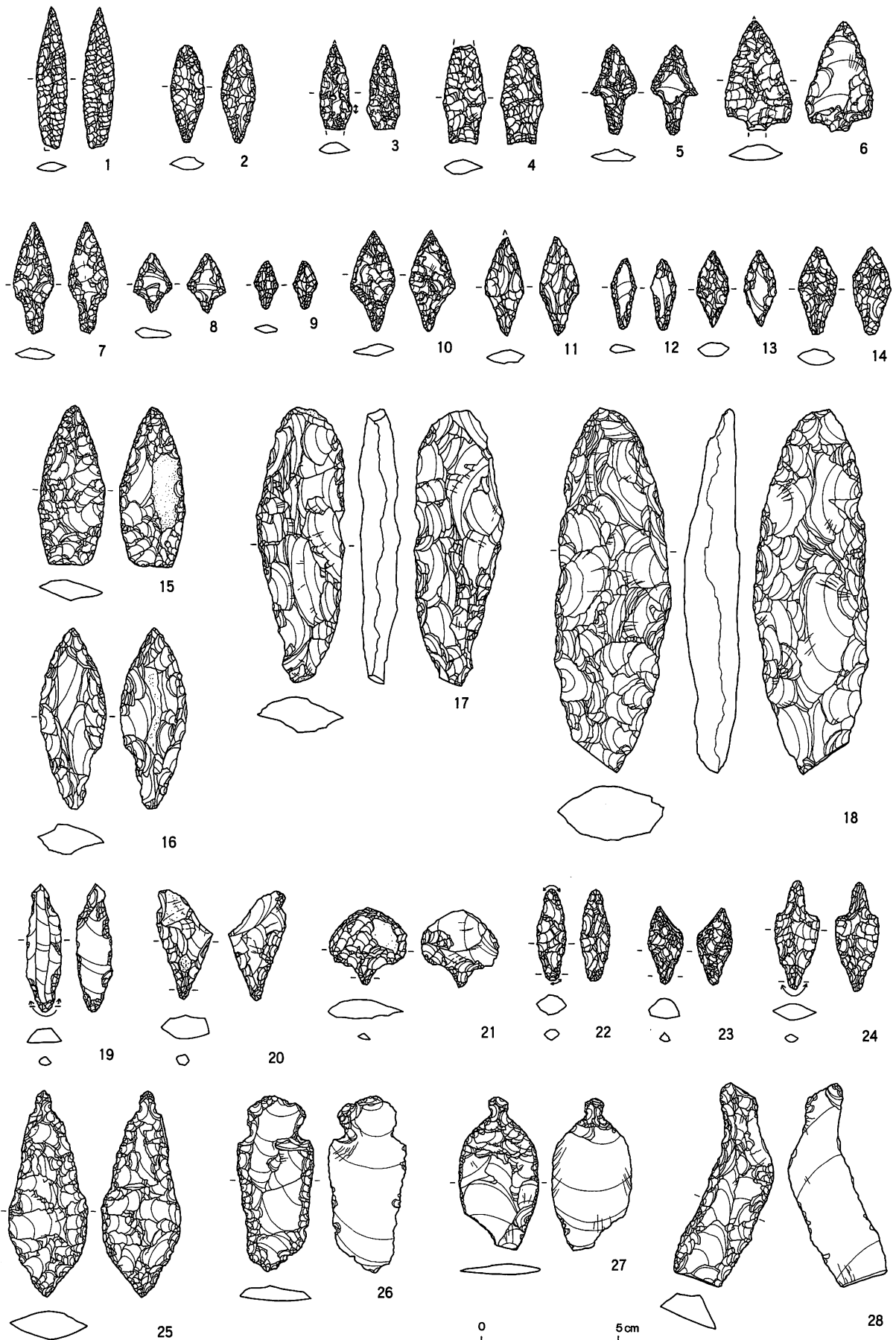
15～18は石槍。15は1b類、16は玄武岩製の2b類、17・18は未成品である。17は上下端に、18は下端に原石面が残る。

ドリル（図V-108-19～24）

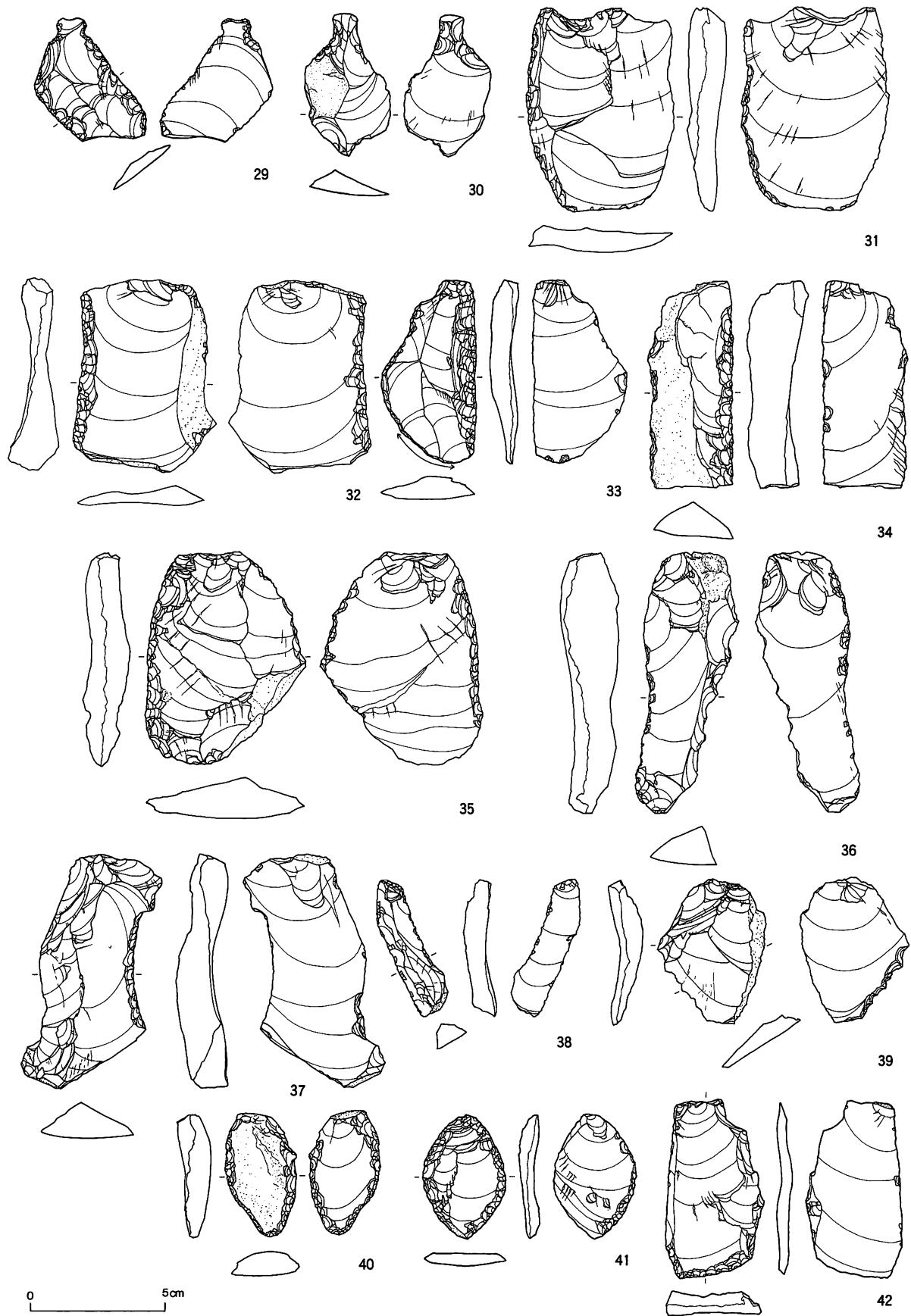
43点出土している。1類：剥片の一部に機能部を作出するものと、3類：つまみ部の不明瞭なものが多くそれぞれ16点、15点出土しており、ほかには4類：棒状のものが6点、5類：他石器からの転用品が2点、2類：つまみ部の明瞭なものが1点見られる。石材は、頁岩が大部分の32点を占め、流紋岩が4点、黒曜石が3点のほか、メノウが見られる。

19～24はドリル。19・20は1類、21は2類、22・23は3類、24は5類である。19は上下両端に機能部

2 包含層出土の遺物



図V-108 包含層出土の石器(1)



図V-109 包含層出土の石器(2)

2 包含層出土の遺物

をもつ。21は機能部が非常に短いもの。22は機能部の磨耗が顕著である。24は石鏃からの転用品で、機能部は磨耗している。23は黒曜石製である。

つまみ付きナイフ (図V-108・109-25~30)

27点出土している。2類が2点みられるほかは、形態のわかるものはすべて1類である。1d類：粗雑なつくりのもの14点と、1c類：周縁加工のもの8点で大半を占める。ほかは、1a類：片面全面加工のもの、1b類：両面加工のものが少数出土している。石材は、9割近くが頁岩製で、黒曜石製とメノウ製がわずかずつ見られる。

25~30はつまみ付きナイフ。掲載したものはすべて1類である。25は1b類。26~29は1c類。28はつまみ部が不明瞭で、スクレイパーの可能性もある。30は1d類。加工はつまみ部のみで、右側縁に使用痕がみられる。

スクレイパー (図V-109・110-31~51、図VI-56-26)

249点出土した。7割が1類：縦形のもので、2類：横形のもので1割程度、ほかは3類：ラウンドスクレイパー、4類：筥状石器が少数ずつ出土している。また、細分不能な破片が1割程度を占めている。1類では、1a類：長辺に刃部をもつものが154点、1b類：端部に刃部をもつものが12点、1d類：側縁から端部にかけて連続する刃部をもつものが11点、1c類：尖頭部を作出するものが2点出土している。2類では、2b類：端部に刃部を持つものが18点、2a類：側縁に刃部をもつものが4点出土している。石材は、9割近くが頁岩製で、そのほか流紋岩製が21点、黒曜石製、玄武岩製、メノウ製が少数ずつ出土している。

31~51およびVI-56-26はスクレイパー。31~46・VI-56-26は1類、47・48は2類、49~51は4類である。31~41・VI-56-26は1a類。31~35は直線的な刃部をもつもので、31・33・34は片面加工、32・35は両面加工のもの。33は左側縁から下端部にかけても使用されており、磨耗が顕著である。36~38はやや内湾する刃部をもつもので、36は両面加工、38・39は片面加工のもの。VI-56-26は外湾する刃部をもつもの、39は鋸歯状の刃部をもつもの。40・41は木葉形で、両側縁に刃部をもつもの。42・43・44は1b類。43は、腹背面の端部ぎわに磨耗が顕著である。44は3類：ラウンドスクレイパーの可能性もある。黒曜石製。45・46は1c類。45は先端部に磨耗が見られ、ドリルと兼用されている。47・48は2b類。48は、上下両端部が著しく磨耗している。49~51は4類で、49・51は撥形のもの。49は腹面下端に縦方向の擦痕が見られる。51の腹面下端には光沢が認められる。

両面加工石器 (図V-110-52・53)

18点出土している。形態の不明な破片が多いが、木葉形のもの、楕円形のものなどがある。石材は、頁岩製が16点、黒曜石製が1点、玄武岩製が1点である。

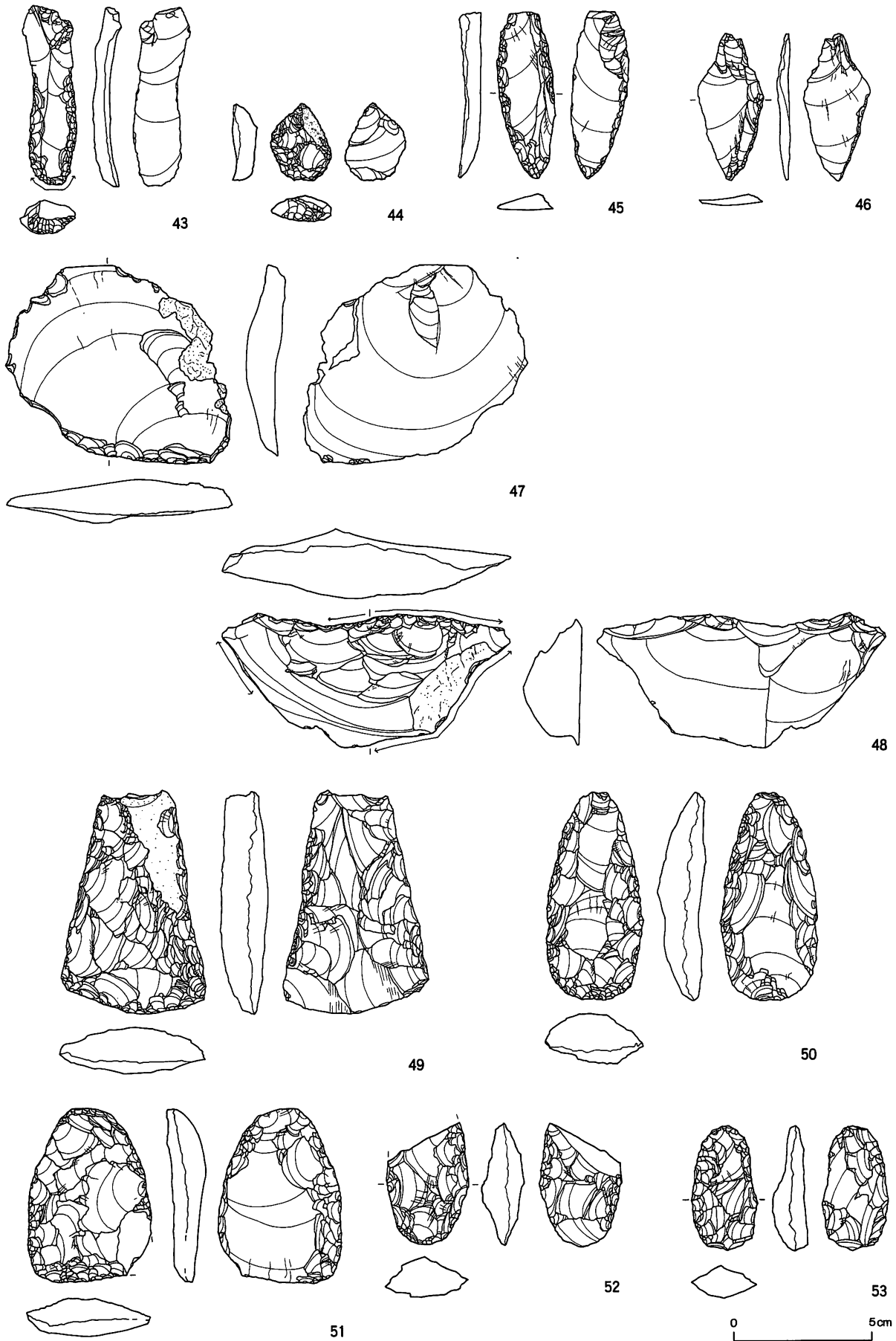
52・53は両面加工石器で、いずれも楕円形のもの。53は未成品の可能性もある。

石核 (図V-111-54~57)

64点出土している。大部分が頁岩で、ほかに流紋岩が2点、メノウが2点見られる。規則的に剥片が剥離されているものは少ない。節理面が目立つものが比較的多く見られる。

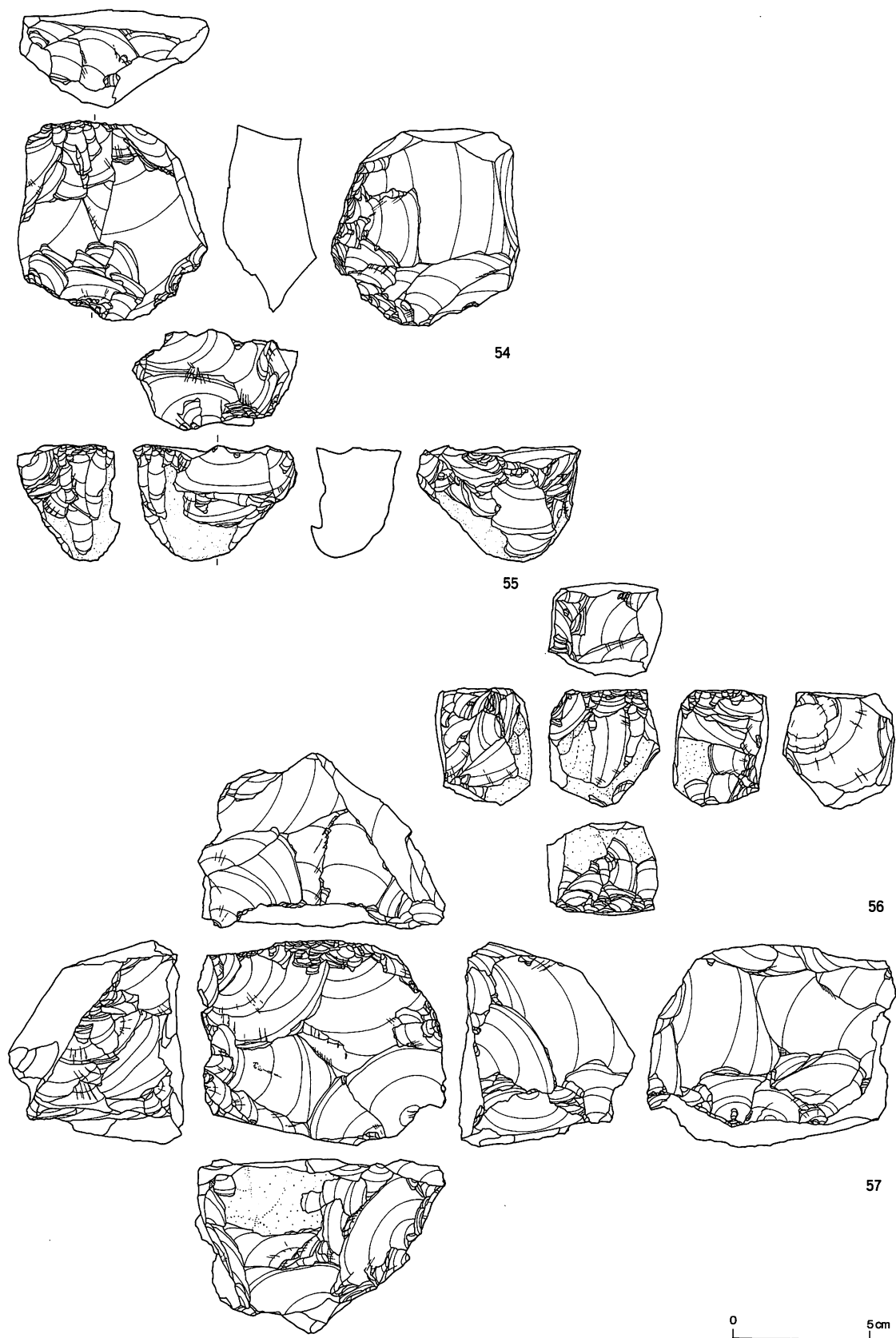
54~57は石核。54・55・57は頁岩、56は流紋岩のもの。54は石核としたが、FC-1に見られるような両面加工石器の加工初期の段階のもの可能性もある。55・56は原石面が残る。

なお、黒曜石製の3・5・6・10・14・23・44について原産地同定を依頼したところ、3・5・6・44は赤井川産、14・23は豊浦町豊泉産、10については、札幌市K-39遺跡19次調査で出土した産地不明の遺物で形成される、K-19遺物群と判定された(第VII章2節)。

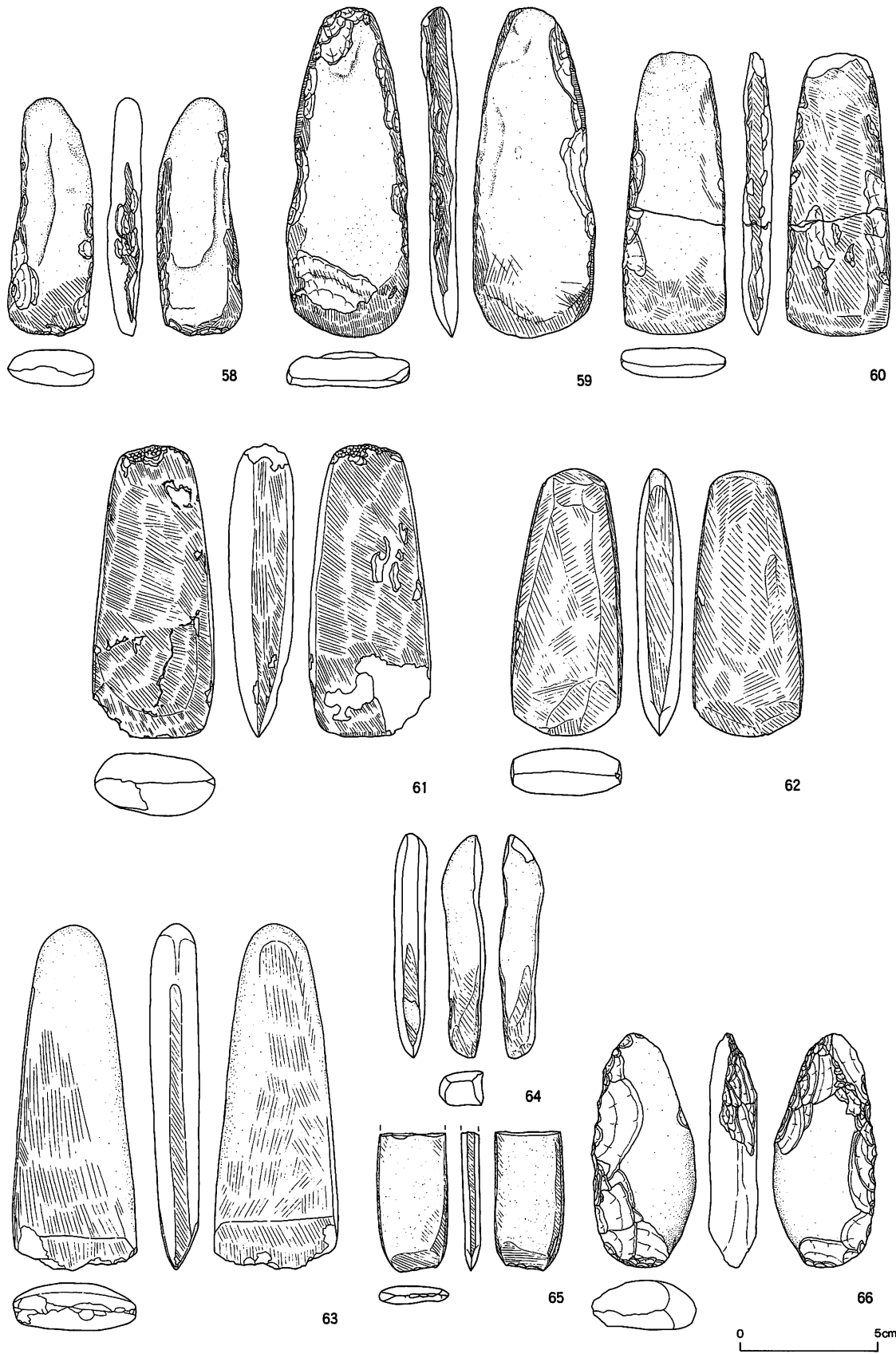


図V-110 包含層出土の石器(3)

2 包含層出土の遺物



図V-111 包含層出土の石器(4)



図V-112 包含層出土の石器(5)

2 包含層出土の遺物

石斧 (図V-112-58~66)

60点出土している。半数近くが細分不能な破片である。形態のわかるものでは、2類：撥形のもものが12点、1類：短冊形のもものが7点、3類：小形のもものが2点出土している。また、未成品は8点である。石材は、片岩、緑色泥岩のもものが多く、ほかに凝灰岩、蛇紋岩のもものが少数見られる。

58~66は石斧。58は1類、59~63は2類である。58は素材の形状は大きく変えられず、側縁と刃部のみ粗割と磨りで整形している。59・60は板状礫を素材としており、59は素材の形状は大きく変えられず、主に側縁と刃部が粗割・磨りで加工されており、60はさらに片面全面が磨りで整形される。61・62は全面が粗割・敲打・磨りで整形される。61は刃部に縦方向の擦痕が見られる。62は基部にのみ原石面が残る。63は腹背面には若干磨りが加えられるのみで、刃部の加工が顕著である。64・65は3類で、いずれも素材の形状が大きく変えられないもの。64は、刃部のみが加工される。65はもおもに刃部が加工され、側縁もごくわずかに磨られている。65は粗割のみ加えられた未成品である。

たたき石 (図V-113-67~76)

119点出土している。半数近くが3類：平坦面に使用痕がみられるもので、ほかには、1類：端部に使用痕がみられるものが30点ほど、2類：周縁に使用痕がみられるものが25点ほど出土している。4類：球状礫の全周に使用痕がみられるものは1点のみである。使用痕が複合するものもみられる。石材はほとんどが安山岩で、珪岩、泥岩、砂岩などが少数みられる。

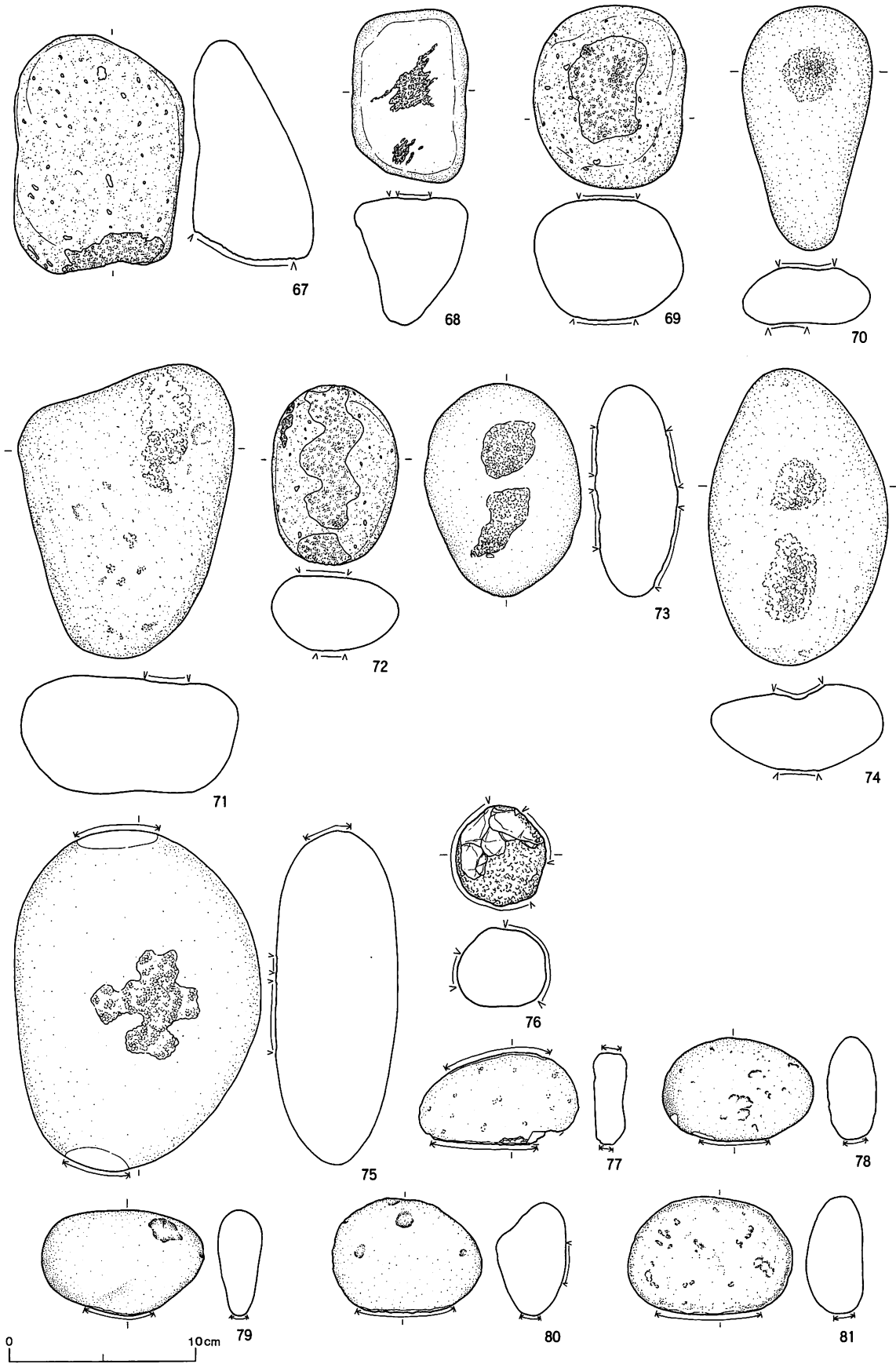
67~76はたたき石。67は1類、68~75は3類、76は4類である。68は断面が三角形の礫を素材としており、右側面にも使用痕がみられる。75は端部にすり痕がみられる。今回の調査では、すり石としてはほかに例がみられないため、たたき石に含めた。端部のすり痕は平坦である。68は珪岩、76は泥岩を素材としている。

すり石 (図V-113-116-77~112)

257点出土した。5類：半円状扁平打製石器が3割強、2類：側縁に使用痕がみられるものが2割強、4類：両端に打ち欠き加えられるものが2割弱で、この3種で8割近くを占める。このほか、1類：断面三角形の礫を素材とするもの、3類：平坦面に使用痕がみられるもの、6類：北海道式石冠が少数出土している。また、4類あるいは5類と同様の加工が加えられているが、使用痕が認められないものが、それぞれ4点、6点出土しており、未成品と思われる。4類の未成品については、石錘の可能性も考えられるが、使用痕のあるものと同程度の大きさであることから、すり石に含めた。石材はたたき石同様、安山岩が大半を占め、砂岩、流紋岩、凝灰岩等が少数見られる。

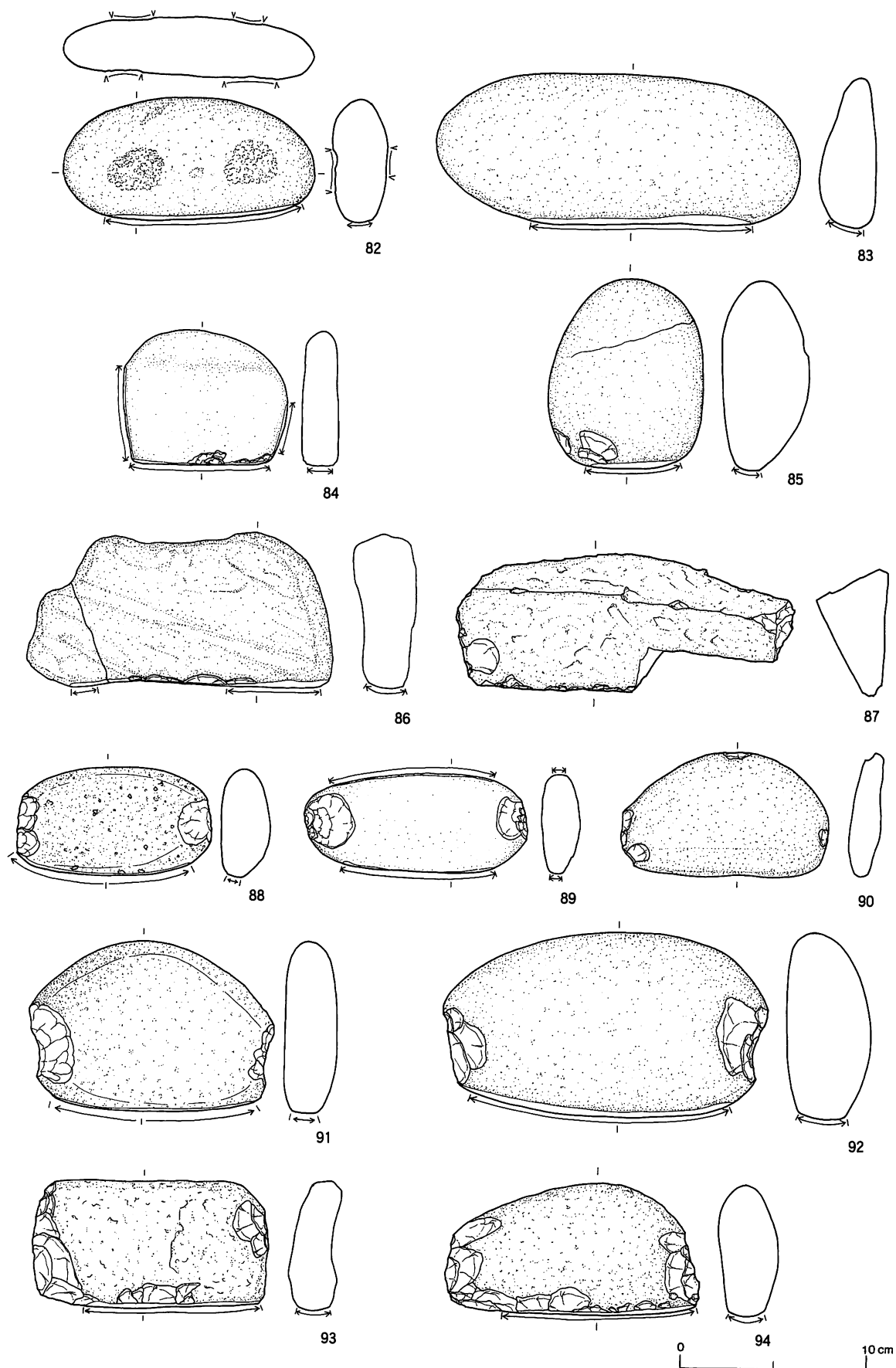
77~112はすり石。77~87・101は2類、88~96は4類、97~100・102~109は5類、110~112は6類である。

77~85は使用面が加工されないもの、86・87・101は使用面に剥離が加えられるもの。77~81は小形のものである。82はたたき石3類と複合したもの。84は三辺に使用痕がみられるもので、他のすり石よりも長幅比の近い素材を使用している。砂岩製。85は短辺に使用痕がみられる。86は板状の、87は断面が三角形に近い角礫を素材としたもので、ともに流紋岩製。101は比較的小形のもので、被熱によるはじけがみられる。88~96は4類。88~92は使用面が加工されないもの、93~96は使用面に剥離が加えられるもの。88~90は比較的小形のもの。90には使用痕がみられない。93・94はそれぞれ、流紋岩・閃緑岩と思われる。97~109は5類。97~99は使用面が加工されないもの、100・102~109は使用面に剥離が加えられるもの。100・102は比較的小形のもの。100は腹面の周縁に加工が加えられている。104は凝灰岩製。107は同一地点から出土した2点が接合した。被熱により、部分的に赤化している。110~112は6類。110・111はにぎり部のみが敲打で作られ、112は、にぎり部が敲打で作られ

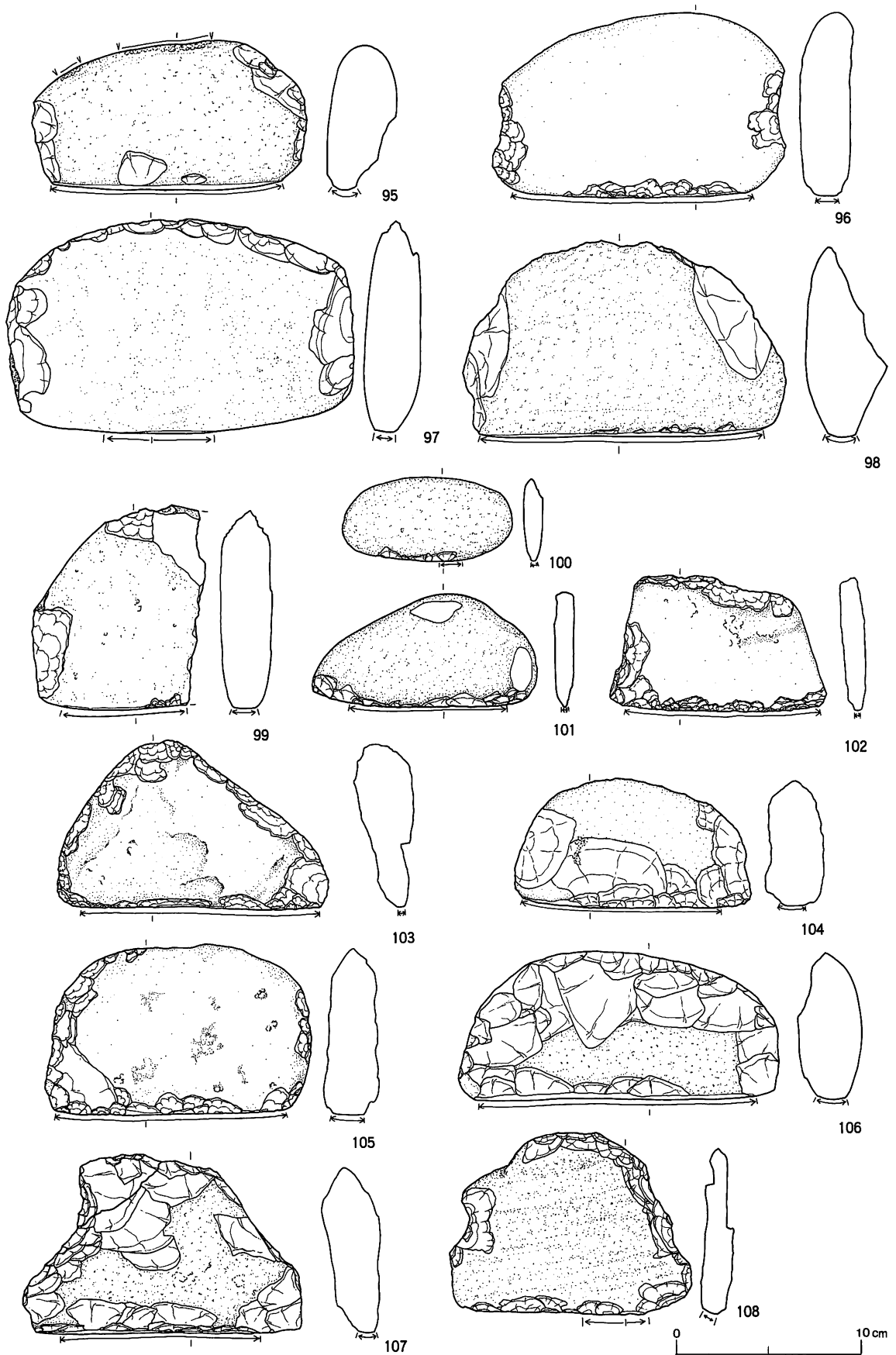


図V-113 包含層出土の石器(6)

2 包含層出土の遺物

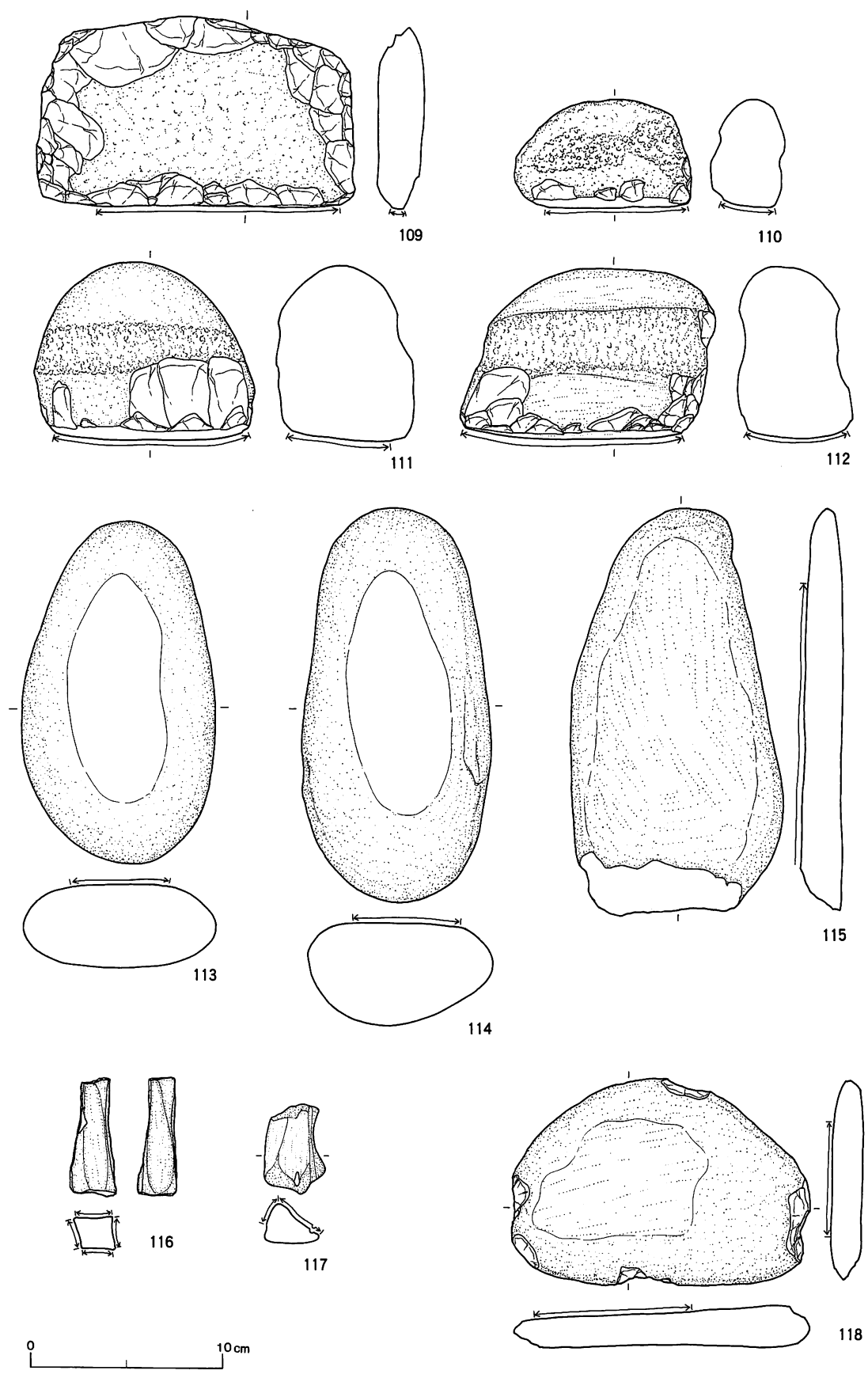


図V-114 包含層出土の石器 (7)

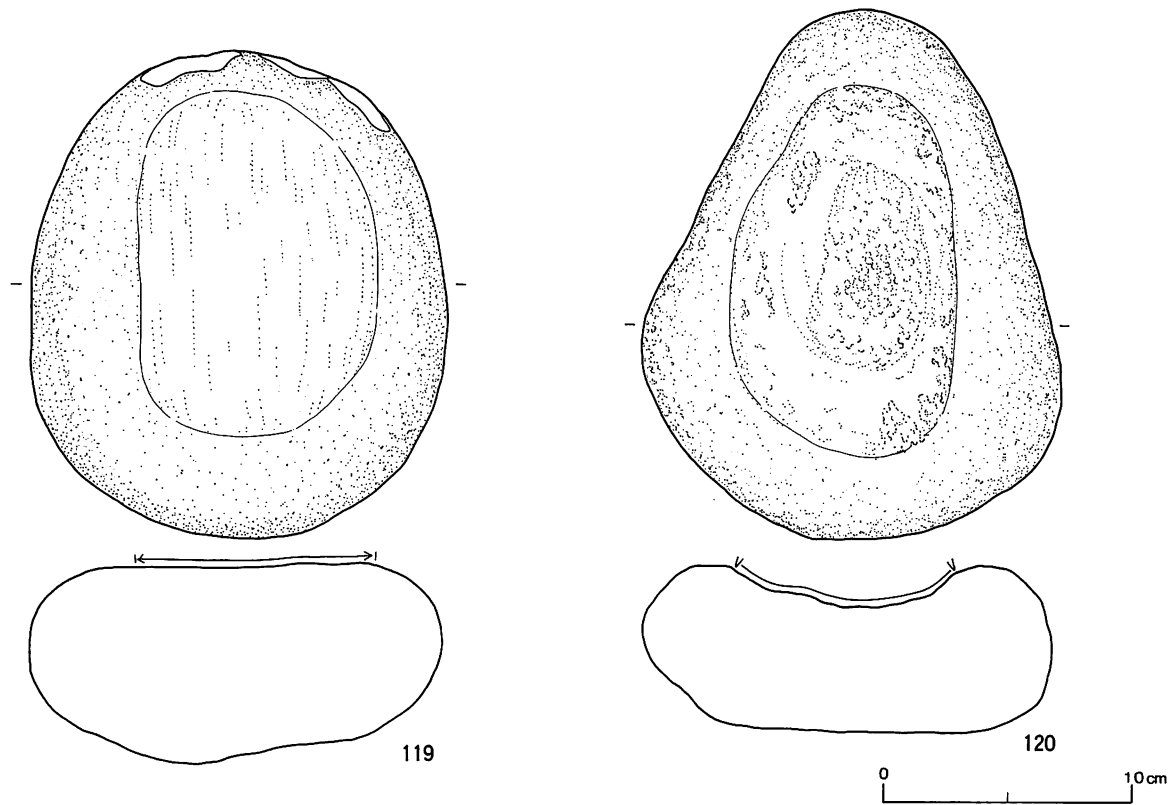


図V-115 包含層出土の石器(8)

2 包含層出土の遺物



図V-116 包含層出土の石器(9)



図V-117 包含層出土の石器 (10)

出され、背面のみ、にぎり部の上下に磨りが加えられている。

砥石 (図V-116-113~117)

55点出土した。形態の不明な破片が多いが、それ以外では、図示したような楕円形の安山岩を素材として、ゆるいU字状の使用面が見られるものが比較的多い。凝灰岩や砂岩を用いるものは少ない。

113~117は砥石。113~115は安山岩製のもの。使用痕は平坦か、あるいはわずかに窪む。116・117は凝灰岩製のもの。117はU字形の溝状の使用痕と、ほぼ平坦な使用痕が見られる。

石錘 (図V-116-118)

9点出土している。ほとんどが安山岩の扁平礫を素材としたものである。

118は2対の打ち欠き加えられるもの。平坦面にはすり痕が見られ、砥石として使用されたものと思われる。

石皿・台石 (図V-117-119~120)

70点出土しているが、形態の不明な破片が大部分である。ほとんどが安山岩製で、わずかに砂岩製のものが見られる。

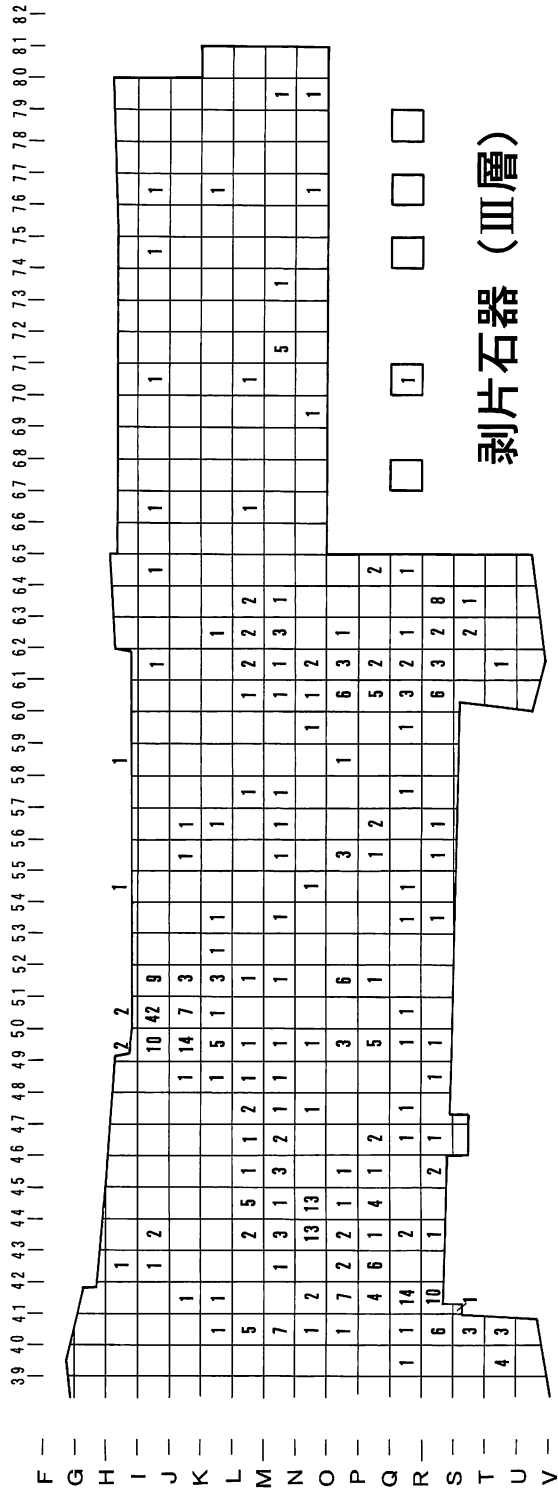
119は石皿で、使用面はわずかに窪んでいる。120は台石。明瞭に窪んだ使用面がみられる。腹面は平坦に加工されているようである。

石製品 (図V103-346、図版153-2)

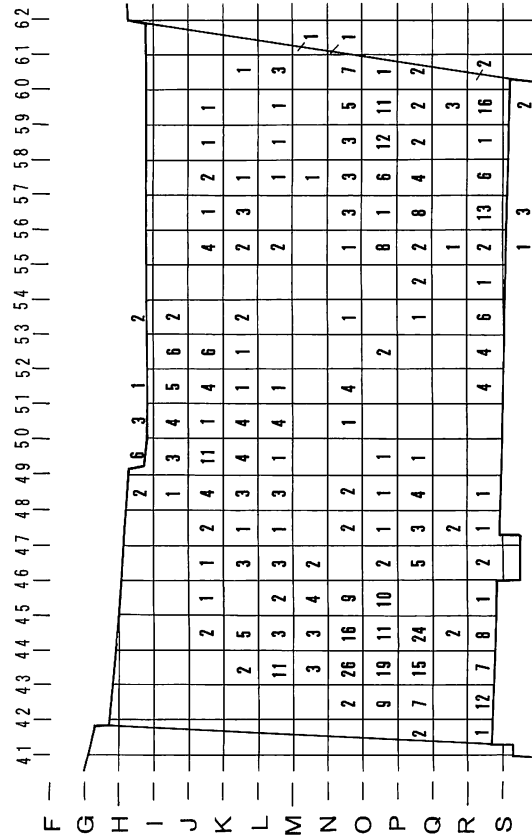
4点出土している。三脚石器・ヒスイの再加工品などがある。ヒスイの再加工品はN-60のI層から出土した。大形の石製品と思われるものの破片を再加工し、割れ面に磨りが加えられている。今回は掲載していないが、13年度に原材産地同定等を行う予定である。これ以外は破片のため形態が不明なもので、礫を素材とし全面研磨されているものなどがある。

なお、掲載した遺物の事実記載および一覧表は、土器の末尾、図V-103-346の項で行っている。

(柳瀬)



剥片石器 (Ⅲ層)



剥片石器 (Ⅰ層)

図V-119 出土石器分布 (2)

VI C・D地区の調査

C・D地区の概要

C地区は平成10年度に沢の調査を行い、平成11年度は25%調査を行った。平成12年度は本調査に取り掛かった。

C地区の沢の中は、B地区、C地区両側からの流れ込みがあるため、39ラインを境に分けている。D地区との境は、農道が間にあり攪乱部分が広がっているため、19ラインで分けている。

D地区は平成11年度に25%調査を行った後、9月から本格的な発掘調査に取り掛かった。平成12年度は平成11年度に残った320㎡の調査を行った。

C地区で検出された遺構は建物跡が9軒、土壇が29基、焼土13ヵ所、集石2ヵ所、フレイク・チップ3ヵ所である。

建物跡1・8は縄文時代中期と思われ、建物跡10は近代の可能性がある。他の6軒の建物跡は縄文時代早期と思われる。

土坑は29基検出され、大半が縄文時代中期前半のものと考えられる。P-111は建物跡10と関るものと思われ近代の炭焼きに関連する遺構と考えられる。

D地区で検出された遺構は、縄文時代早期の竪穴住居跡が3軒、建物跡1軒、土坑2基、焼土4ヵ所、フレイク・チップ3ヵ所である。

遺物の出土状況から、縄文時代早期はD地区を主体にC地区の南西側に広がっている。縄文時代中期はC・D地区全体で出土するがC地区北東側に主体を移している。中期後半は僅かに出土する程度となり、後期は北側に多く出土している。

1 遺構

a 竪穴住居跡

H-7 (図VI-3、図版18-1・2・3)

位置・立地：L-8

規模：—/—×4.16m/3.20m×0.30m

平面形：不明。

確認・調査：平成11年度に調査したK-8グリットの周辺の精査を行ったところ、南側に半円形に広がる落ち込みを確認した。遺構の覆土を想定し、土層観察用のベルトを設定して掘り下げを行った。約20cm程掘り下げたところで、礫の集中を確認した。礫は地山に含まれる円礫と同種のもので、流れ込みによるものと判断した。D地区は北西側の標高が高く、南側が低い地形になっているため、包含層中にも流れ込みによる礫を多く含んでいた。この礫集中を取り上げた後、約10cm程掘り下げたところで緩やかに立ち上がる壁面を確認した。そこで再度K-8グリットの精査を行ったところ、この落ち込みに伴うと思われる小ピットを確認したため、住居跡と判断した。覆土1層はⅢ層を主体にした黒色腐植土で、ブロック状のKo-gを含んでいた。覆土2・3層は共に礫を多く含んでいる。

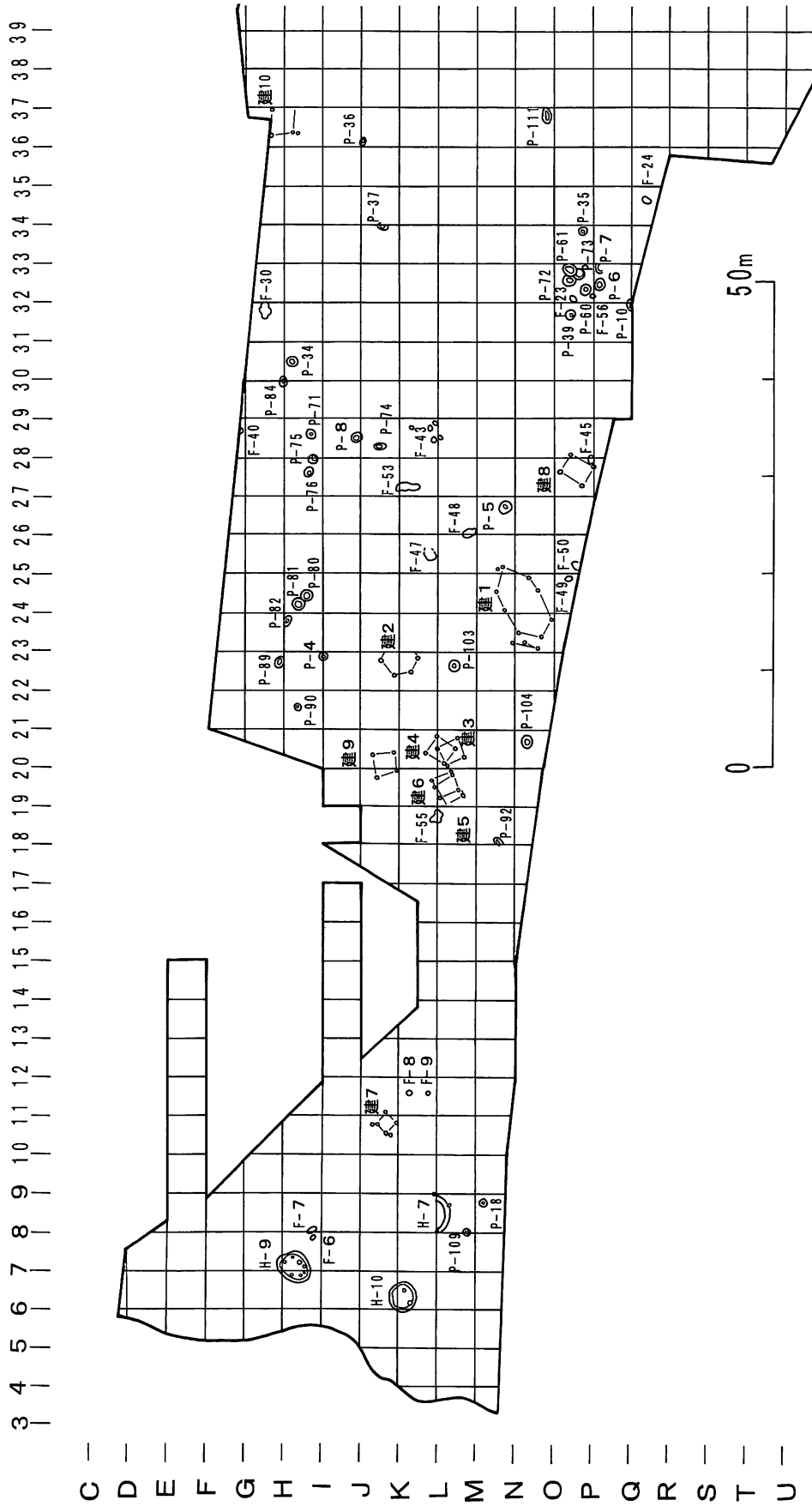
土層：1 黒色土 7.5YR3/1 粒子粗く、粘性高い。Ko-gブロック状に混じる。

2 黒褐色土 7.5YR3/1 粒子細かく、粘性高い。小礫を多く含む。

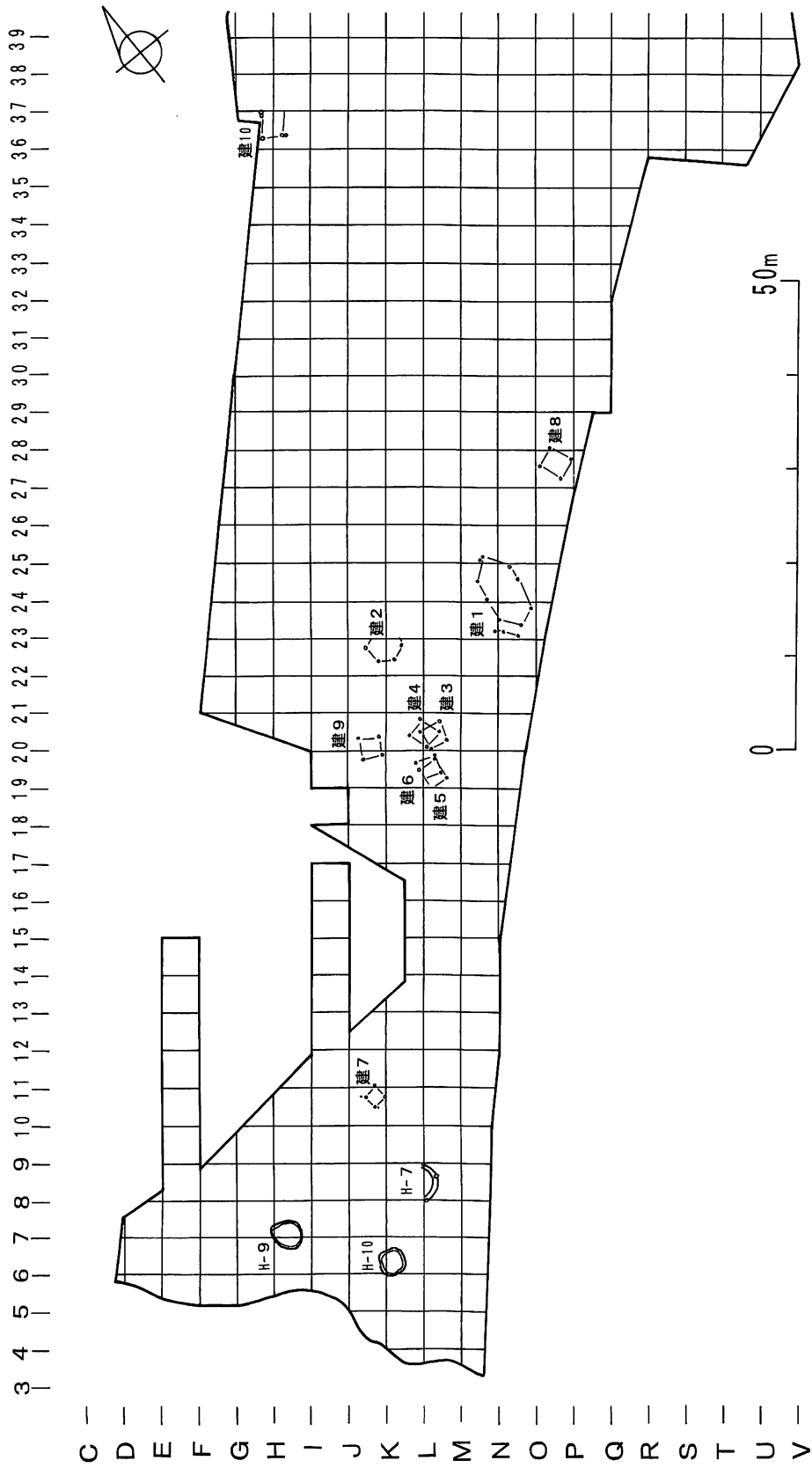
3 灰褐色土 7.5YR4/2 粒子細かく、しまり強い。礫を多く含む。

HP 1 1 黒色土 粒径約0.5mmのVを含む。

HP 2 1 黒褐色土 粒径約0.5mmのVを少量含む。



图VI-1 C·D地区遺構配置



図VI-2 C・D地区竪穴住居跡・建物跡配置

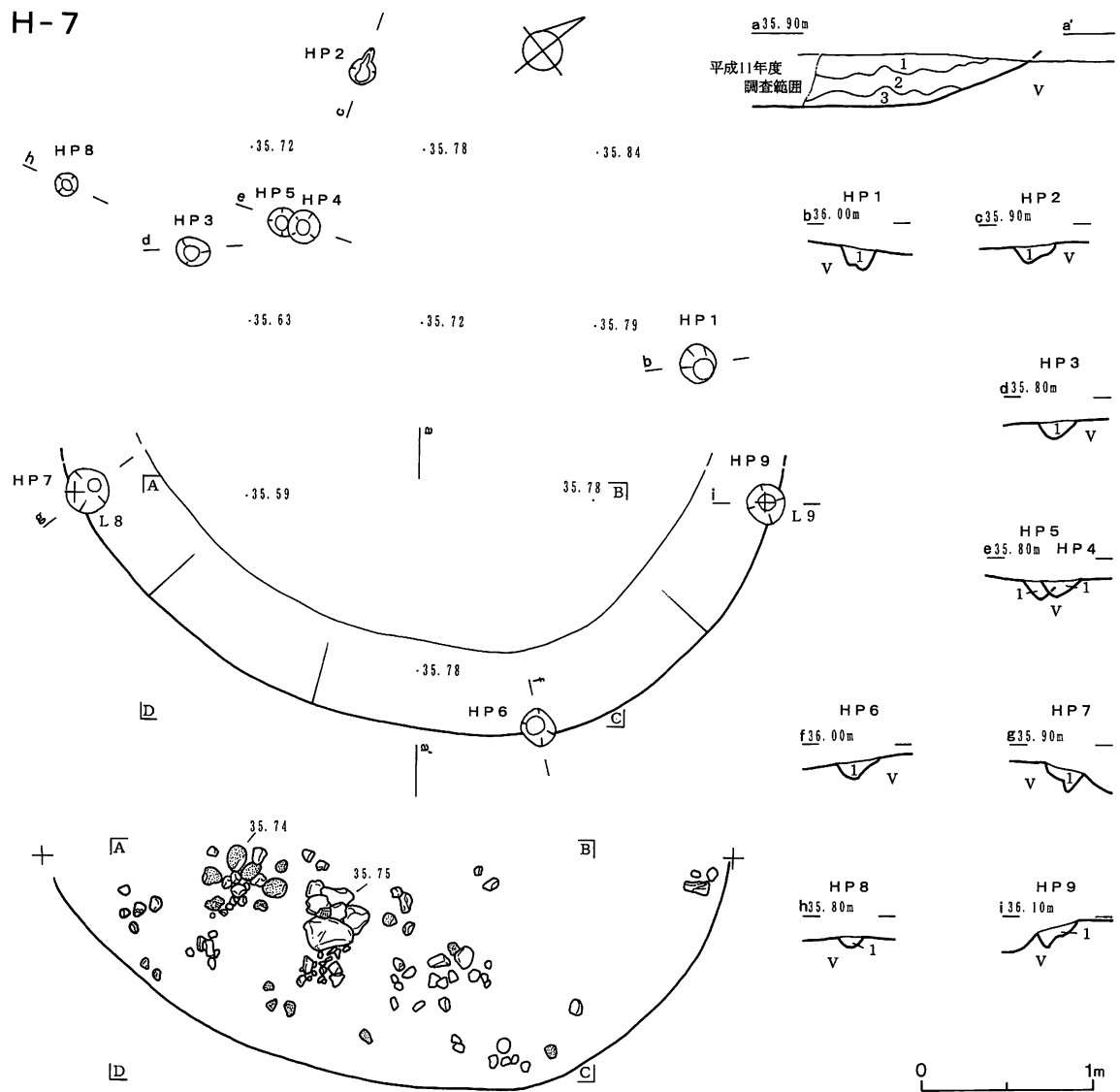
1 遺構

- HP 3 1 黒褐色土 しまり強い。
- HP 4 1 黒褐色土 しまり強く、小礫を含む。
- HP 5 1 褐灰色土 しまり強く、小礫を含む。
- HP 6 1 黒褐色土 粒径約0.5mmのVを少量含む。
- HP 7 1 黒褐色土 しまり弱く、粘性高い。
- HP 8 1 黒褐色土 しまり強い。粘性やや高い。
- HP 9 1 黒褐色土 しまり弱く、粘性高い。

特徴：ピットを9基検出した（HP-1～9）。平成11年度にK-8グリットはV層まで調査されているため、残存するピットの規模は口径が約20cm、深さは約15cm程である。

遺物出土状況：Ko-g直下の覆土中からI群A類が1点出土している。

時期：出土した遺物から縄文時代早期前半I群A類の時期と考えられる。 (笠原)



図VI-3 H-7

H-9 (図VI-4・5、図版20-1・2、114-1)

位置・立地：G-6、G-7、H-6、H-7 調査区南西側の段丘縁に近く、より低位の段丘面のやや微高地に位置する。

規模：3.71m×3.64m/3.46m×2.82m/0.27m

平面形：不整形円形（本来は円形もしくは隅丸方形に近い）。

確認・調査：表土除去時に石皿がまとまって出土した。そのため、住居跡が近くにあることを想定しグリットに沿ってベルトを残し掘り進めると、IV層上面において暗褐色土のまとまりを確認した。トレンチを設定し、更に掘り進めると床面に炭化物が散在し、また周囲から流れ込んだように遺物がレベル差をもって出土したため、住居跡と考えた。なお、北東側の壁は不明瞭で柱穴の位置からもやや掘り過ぎと考えられ、本来の平面形は円形もしくは隅丸方形に近いと推測される。

土層：1 黒色土 7.5YR2/1 粘性なく、しまりやや強。乾燥するとクラックが入る(Ⅲ)。
 2 黒褐色土 7.5YR2/2 粘性弱、しまりやや強(Ⅳ上)。
 3 極暗褐色土 7.5YR2/3 粘性やや強、しまりやや弱。ロームが混じる(Ⅳ)。
 4 暗褐色土 7.5YR3/3 粘性やや強、しまりやや弱。ロームが多く混り、所々に炭化物と焼土粒が見られる(Ⅳ>Ⅴ)。
 5 暗褐色土 7.5YR3/4 粘性強、しまりやや弱。最も多くロームが混じる(Ⅴ>Ⅳ)。
 6 暗褐色土 7.5YR3/4 粘性強、しまりやや弱。5よりも若干暗い(Ⅳ+Ⅴ)。
 HF-1 1 にぶい赤褐色土(7.5YR4/3) 周囲よりも若干赤味を帯びる程度で不明瞭。炭化物・焼土粒がごく微量混じる。

HP-1 1 暗褐色土 10YR3/3 粘性やや強、しまりやや弱。

HP-2 1 褐色土 10YR4/4 粘性やや強、しまり弱。

HP-3 1 暗褐色土 10YR3/3 粘性やや強、しまりやや弱。

HP-4 1 極暗褐色土 10YR4/3 粘性やや強、しまりやや弱。

HP-5 1 暗褐色土 10YR3/3 粘性やや弱、しまりやや弱。砂質で炭化物が混じる。

HP-6 1 黒褐色土 10YR3/2 粘性やや強、しまり弱。下方はボソボソ。

HP-7 1 褐灰色土 10YR4/1 粘性やや弱、しまり弱。

2 褐色土 10YR4/3 ボソボソでしまり弱。

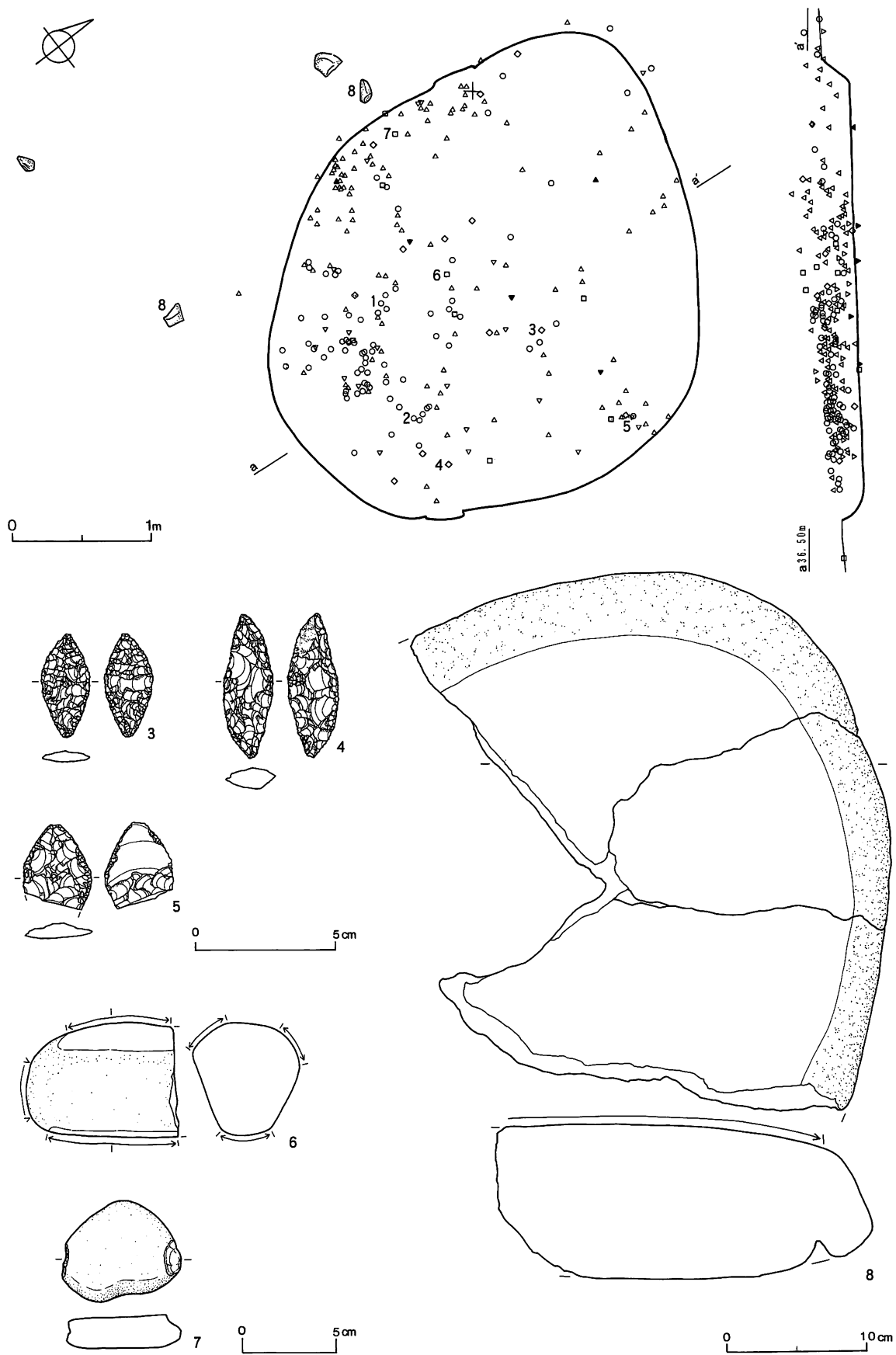
HP-8 1 褐色土 10YR4/3 粘性強、しまりやや強。暗褐色土がブロック状に混じる。

2 にぶい褐色土 10YR5/4 粘性強、しまりやや強。

床面・壁面：床面は北西から南東にかけてやや傾斜がついている。壁は不明瞭でなだらかに立ち上がる。

特徴：IV層中の掘り込みと考えられ、浅く不明瞭な住居跡である。炉は地床炉で、住居中央からはずれて位置し、あまり焼成を受けていないようである。柱穴は全部で8ヶ所検出された。深さは10~20cm前後で、壁際近くを等間隔で巡っている。

遺物出土状況：現地での遺物の取り上げはロームの混じり具合で判断した。よって、取り上げの1層は覆土1層、2層は覆土2層、3層は覆土3・6層、4層は覆土4・5層に対応する。取り上げの1層からはI群a類土器24点・石器など56点、2層からは同土器80点・石器など143点、3層からは同土器14点・石器など66点、4層からは同土器1点・石器など10点、床面からは石器など6点が出土した。住居の西壁際では頁岩のフレイクがまとまっていた。また、住居に近接して台石・石皿片が散在しており、接合したものもある。周辺のグリットからは小型の石錘が出土した。



図VI-5 H-9出土の遺物

1 遺構

時期：覆土中出土の土器および周辺の遺物から、縄文時代早期前半 I 群 A 類土器の時期の遺構と考えられる。 (藤原)

掲載遺物：土器 1・2は覆土出土の I 群 A 類。1・2は同一個体。口縁部はゆるい小波状を呈し、細い隆帯がめぐらされる。器面全体に縦方向の浅い条痕が施されている。 (広田)

石器 3～7は覆土から、8は遺構外 IV 層から出土したものである。3は石鏃 1 e 類。黒曜石製。4・5は石槍とした。4は 1 b 類。5未成品。石槍としたが、大きさから、石鏃の可能性もある。6はすり石 1 類。7は珪岩製の石錘。8は石皿。L-4 の IV 層から出土したものと接合している。

(柳瀬)

H-10 (図 VI-6・7、図版 21-1・2、22-1、114-2)

位置・立地：J-6、K-6 H-9 と同じく段丘縁で低位段丘面の微高地上に位置する。

規模：2.61m×2.50m/2.31m×2.29m/0.17m

平面形：隅丸方形。

確認・調査：耕作土除去後、Ko-d のまともを確認した。ベルトを設定して掘り進めると、東側を中心に礫が多く流れ込んでいた。さらに掘り下げると礫が極端に少なくなり、ロームが硬くしまっていた。また、壁が南側を除いて明瞭に検出できたので、住居跡と考えた。

土層：1 Ko-d

- 2 黒色土 7.5YR2/1 粘性なく、しまり弱。ボール状の黒色土が混じる (Ⅲ)。
- 3 黒褐色土 7.5YR2/2 粘性弱、しまりやや強。ロームが少量混じる (IV 上)。
- 4 黒褐色土 7.5YR3/2 粘性やや強、しまりやや弱。3 よりも若干明るい (IV)。
- 5 暗褐色土 7.5YR3/4 粘性強、しまり強。ロームが多く混じる (V > IV)。
- 6 黒褐色土 7.5YR3/2 粘性やや強、しまり強。ロームが混じる。炭化物・焼土粒が散在する (IV+V)。

HP-1 1 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや弱、しまりやや強。ごく少量のロームと炭化物が混じる。

HP-2 1 灰オリーブ褐色砂 (2.5YR3/3) 上面に炭化物が散在。

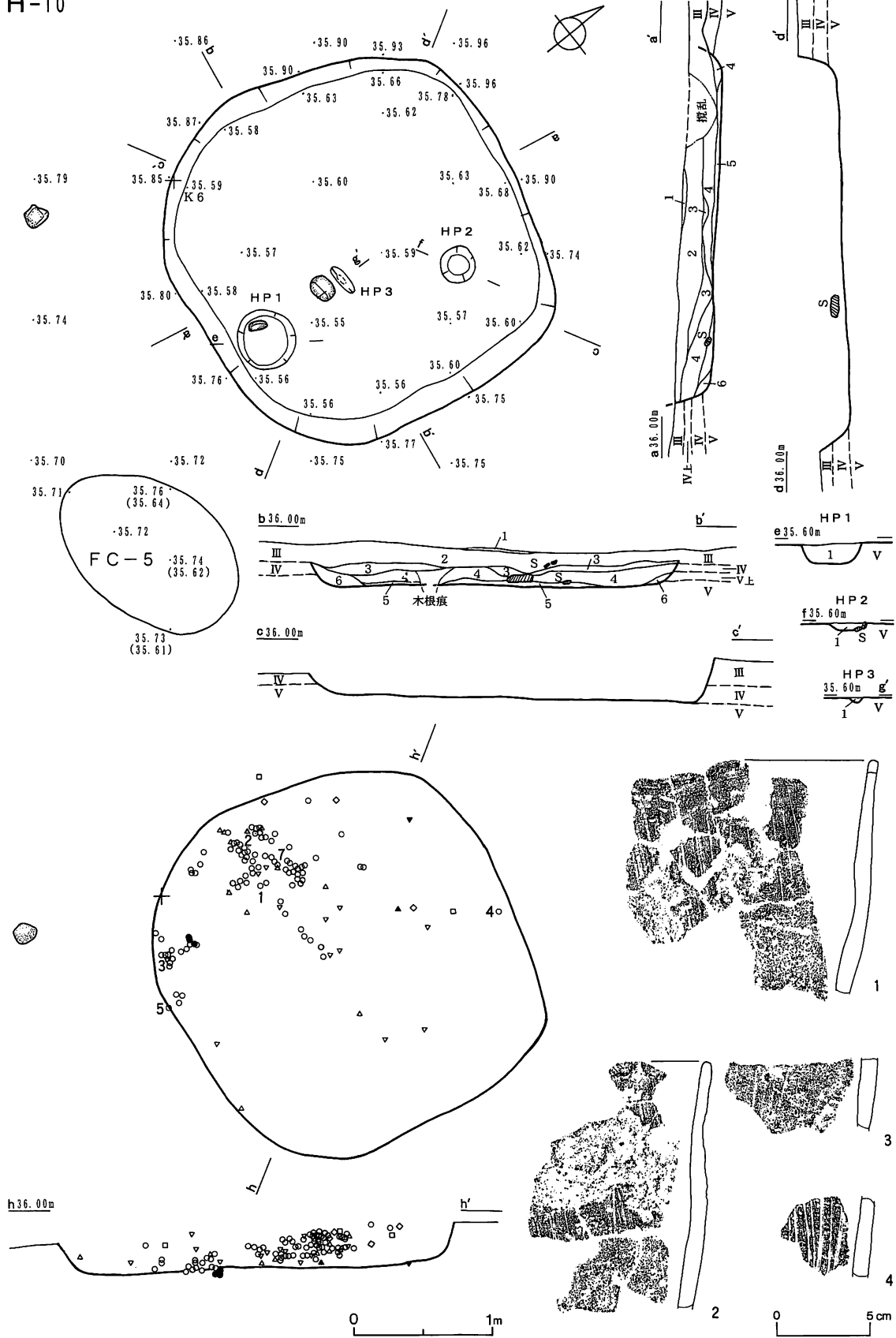
HP-3 1 灰オリーブ褐色砂 (2.5YR3/3)。

床面・壁面：床面は平坦で硬くしまっていた。壁は南側を除いて明瞭にとらえられた。

特徴：セクションの観察からⅢ層下位もしくはⅣ層上面からの掘り込みと考えられる。小型で明瞭な掘り込みの住居である。炉と柱穴は確認できなかった。近接して台石とフレイク・チップ集中 (FC-5) が検出された。HP-1 は床面から構築された付属土壇で、覆土中から使用痕があまりない断面三角形のすり石が出土した。また、HP-2・3 は浅い皿状の土壇で、ほぼ純粋な砂が詰まっていた。砂は当センター第一調査部第一調査課花岡の鑑定によると水成砂と断定できるものである。

遺物出土状況：現地での遺物の取り上げはロームの混じり具合で判断した。よって、取り上げの 1 層は覆土 2 層、2 層は覆土 3 層、3 層は覆土 4・6 層、4 層は覆土 5 層に対応する。取り上げの 1 層からは I 群 a 類土器 21 点・石器など 5 点、2 層からは同土器 83 点・石器など 6 点、3 層からは同土器 23 点・石器など 12 点、4 層からは同土器 1 点・石器など 1 点、床面からは同土器 11 点・石器など 4 点が出土した。多くの遺物は住居跡の西側から流れ込んだ状態で出土している。住居の中央からは床面からやや浮いた状態で、使用痕がほとんど無いが台石に使用したと考えられる腹背面が平坦な礫が出土した。

H-10



図VI-6 H-10

1 遺構

時期：覆土中の遺物、および周辺の遺物から縄文時代早期前半 I 群 A 類土器の時期の遺構と考えられる。
(藤原)

掲載遺物：土器 1～5は覆土出土で、6は床面出土である。分類は全て I 群 A 類。いずれも焼成はやや不良。1・2は同一個体と考えられる。口縁部はゆるい小波状で、口唇部断面はやや角形を呈する。器面には縦方向の浅い条痕が認められる。3～5は胴部。3・4は縦方向に浅い条痕が加えられている。5は器面が全体的に磨耗している。6は平底の底部で器面は磨耗している。
(広田)

石器 7は覆土から出土したつまみ付きナイフ 1c 類。8は HP 1 から出土したすり石 1 類である。
(柳瀬)

b 建物跡

建物跡 1 (図 VI-8、図版 40-2)

位置・立地：M・N-23～25、C 地区段丘緩斜面の、標高 37.6～38.1m 付近に位置する。

規模：9.10m×4.10m

平面形：六角形の配置。

確認・調査：IV 層上面で黒褐色土の落ち込みを確認したが、明瞭でなかったため V 層上面まで掘り進めたところ、HP のまとまりを確認した。HP 1～8 は主柱穴と考えられ、六角形に組み合う。HP 9～11 はやや小さめで、HP 1・2 の辺に平行し位置する。HP 12・13 は他と組み合わないことから、建て替えもしくは他の遺構の可能性もある。土層の堆積状況から HP の掘り込み面は III 層中と考えられる。浅い皿状のくぼみもしくは浅い掘り込みが伴う可能性もある。

土層	HP	土質	色	層	特徴
HP 1	1	暗褐色土	10RY3/4	Ⅲ+Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 2	1	暗褐色土	10RY3/4	Ⅲ+Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 3	1	暗褐色土	10RY3/4	Ⅲ+Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 4	1	暗褐色土	10RY3/3	Ⅲ>Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 5	1	暗褐色土	10RY3/4	Ⅲ+Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 6	1	暗褐色土	10RY3/3	Ⅲ>Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 7	1	暗褐色土	10RY3/4	Ⅲ+Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 8	1	暗褐色土	10RY3/3	Ⅲ>Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 9	1	暗褐色土	10RY3/4	Ⅲ+Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 10	1	暗褐色土	10RY3/4	Ⅲ+Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。
HP 11	1	暗褐色土	10RY3/4	Ⅲ+Ⅳ	粒子細かい。しまりややあり。

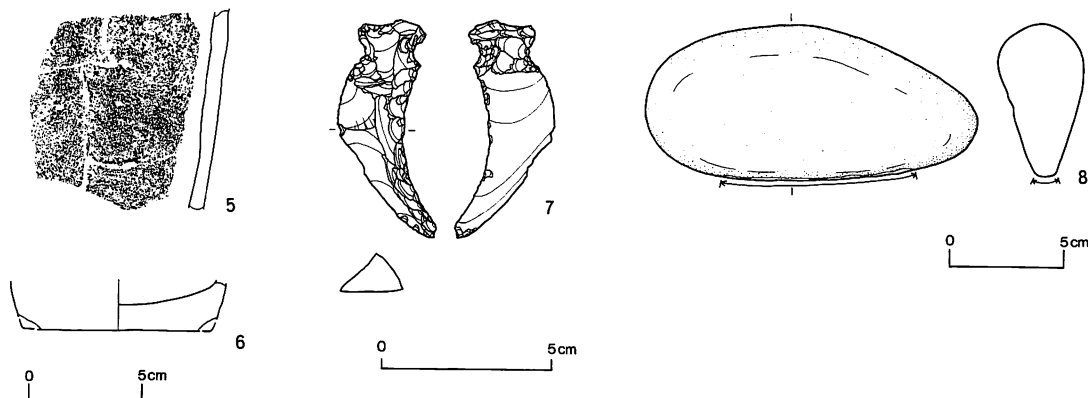
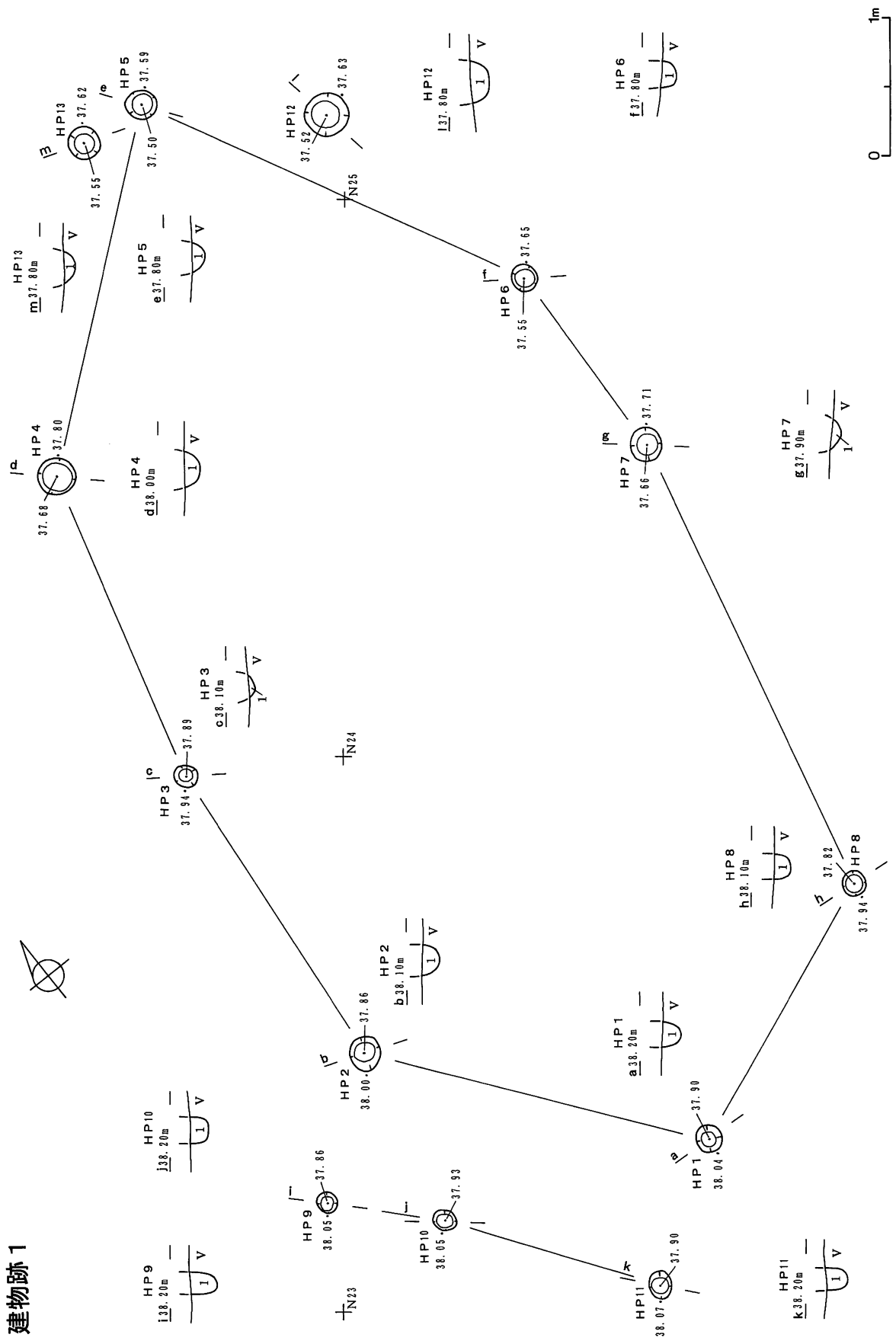


図 VI-7 H-10 出土の遺物



建物跡 1

図VI-8 建物跡 1

1 遺構

HP12 1 暗褐色土 10RY3/3 III>IV 粒子細かい。しまりややあり。

HP13 1 暗褐色土 10RY3/4 III+IV 粒子細かい。しまりややあり。

遺物出土状況：出土していない。

時期：HPの掘り込み面と、N-23、24の包含層からⅢ群B類土器が出土していることから、縄文時代中期前半の可能性はある。
(佐藤)

建物跡 2 (図VI-9、図版41-1)

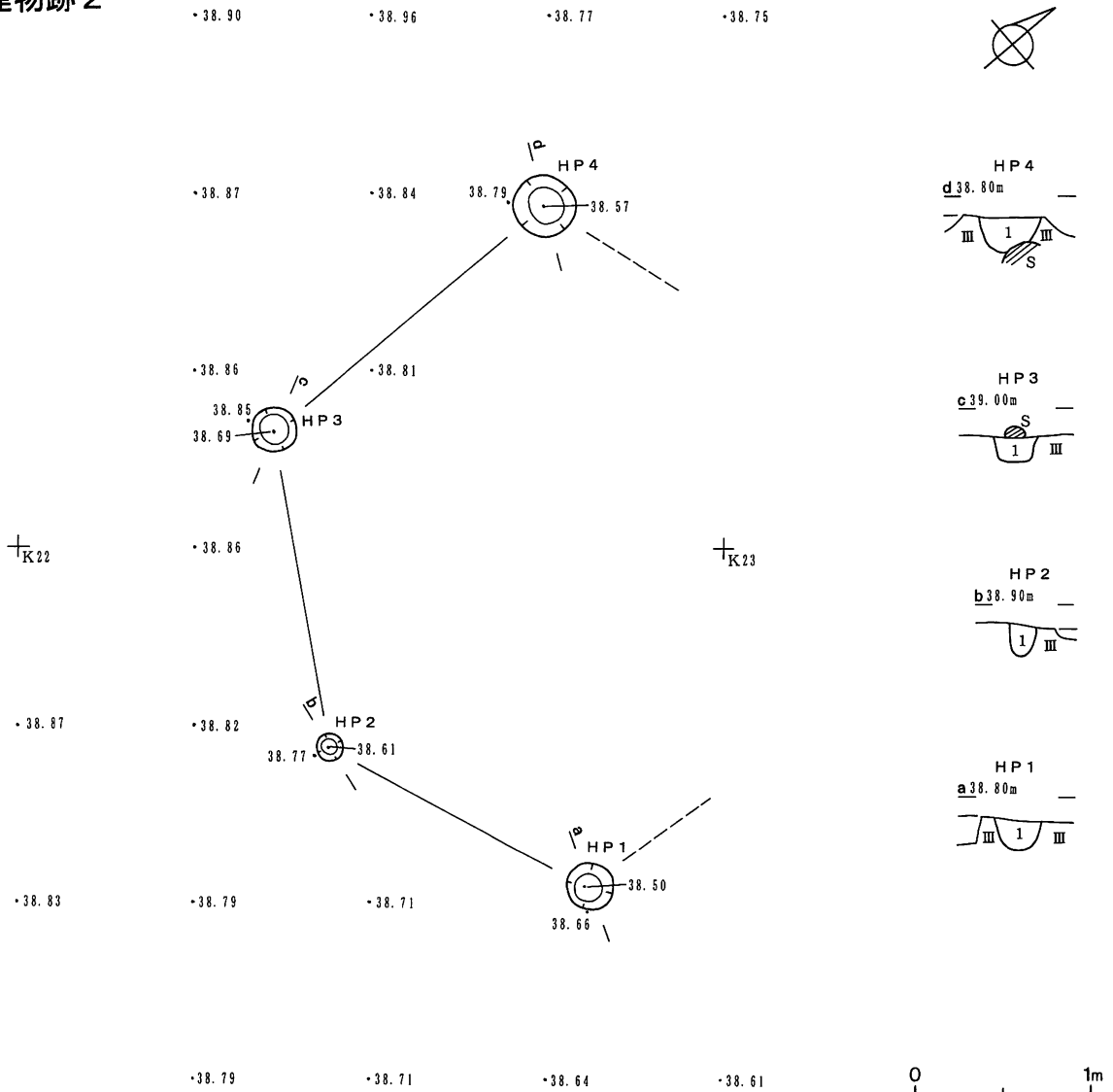
位置・立地：J・K-22、C地区段丘緩斜面の、標高38.8m付近に位置する。

規模：3.98m×(1.90m)×-

平面形：六角形の配置の可能性はある。

確認・調査：Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みを確認したが、明瞭でなかったためⅤ層上面まで掘り進めたところ、HPのまとまりを確認した。HP1~4は支柱穴と考えられる。土層の堆積状況などから、HPの掘り込み面はⅢ層中~Ⅳ層上面と考えられる。浅い皿状のくぼみもしくは浅い掘り込みが伴う

建物跡 2



図VI-9 建物跡 2

可能性もある。

- | | | | | | |
|---------|---|------|---------|-----|-----------------|
| 土層：HP 1 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/4 | Ⅲ+Ⅳ | 粒子細かい。しまりあまりなし。 |
| HP 2 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/4 | Ⅲ+Ⅳ | 粒子細かい。しまりあまりなし。 |
| HP 3 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/4 | Ⅲ+Ⅳ | 粒子細かい。しまりあまりなし。 |
| HP 4 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/3 | Ⅲ>Ⅳ | 粒子細かい。しまりあまりなし。 |

遺物出土状況：HP 3の1層から礫が1点出土した。

時期：HPの掘り込み面と、J・K-22包含層からI群A類土器が出土していることから、縄文時代早期前半の可能性はある。
(佐藤)

建物跡 3 (図VI-10、図版41-2)

位置・立地：K・L20、C地区とB地区の間段の丘緩斜面の一番高い部分、標高39.1m付近に位置する。

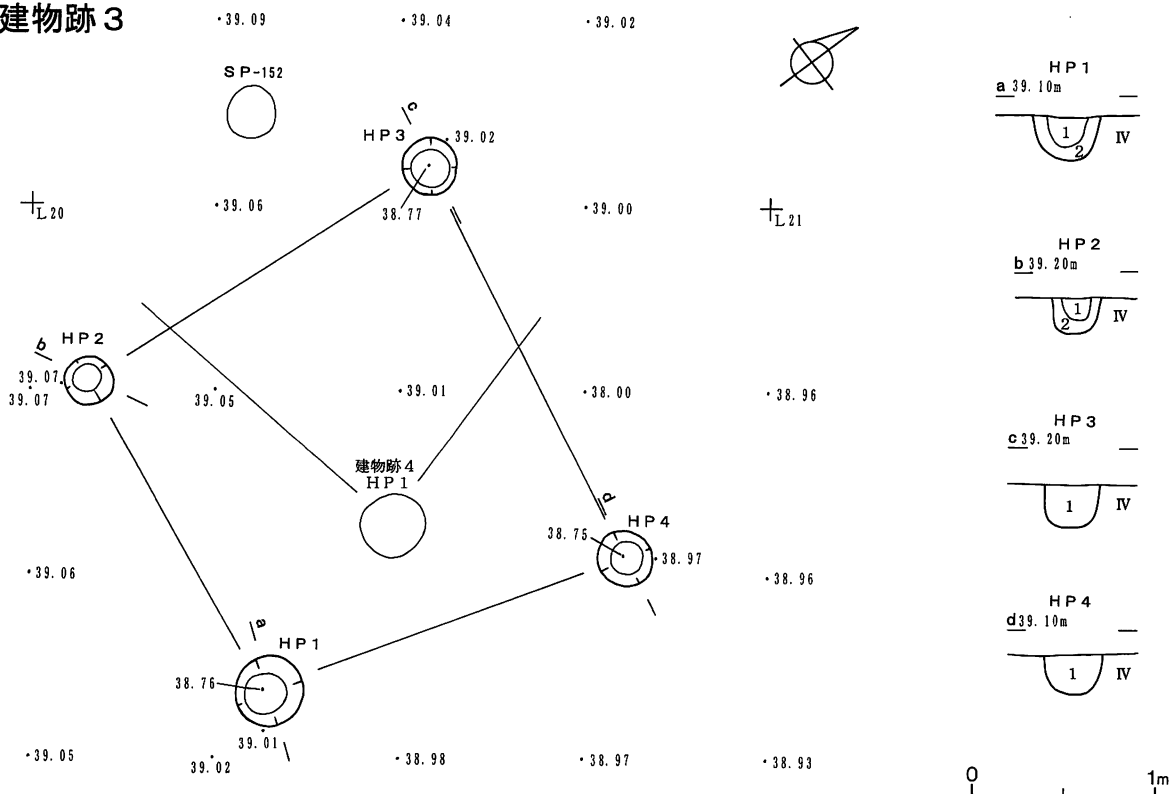
規模：2.60m×2.30m×-

平面形：4本柱である。

確認・調査：Ⅳ層上面でHPのまとまりを確認した。HP 1～4は主柱穴と考えられる。周辺のⅢ層は削平のためほとんど残っていなかったが、Ⅳ層上面の遺物出土状況から、HPの掘り込み面はⅢ層下位～Ⅳ層上面と考えられる。

- | | | | | | |
|---------|---|------|---------|---------|------------------|
| 土層：HP 1 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/3 | 粒子細かい。2 | にぶい黄褐色土 10RY4/3。 |
| HP 2 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/3 | 粒子細かい。2 | にぶい黄褐色土 10RY4/3。 |
| HP 3 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/4 | 粒子細かい。 | |
| HP 4 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/4 | 粒子細かい。 | |

建物跡 3



図VI-10 建物跡 3

1 遺構

遺物出土状況：HP 3 の 1 層からフレイクが 1 点出土した。

時期：HP の掘り込み面と、L 20 の包含層から I 群 A 類土器が出土していることから、縄文時代早期前半の可能性はある。
(佐藤)

建物跡 4 (図VI-11、図版41-2)

位置・立地：K・L 20、C 地区と D 地区の間の段丘緩斜面の一番高い部分、標高 39.0m 付近に位置する。

規模：2.55m×2.30m×-

平面形：4 本柱である。

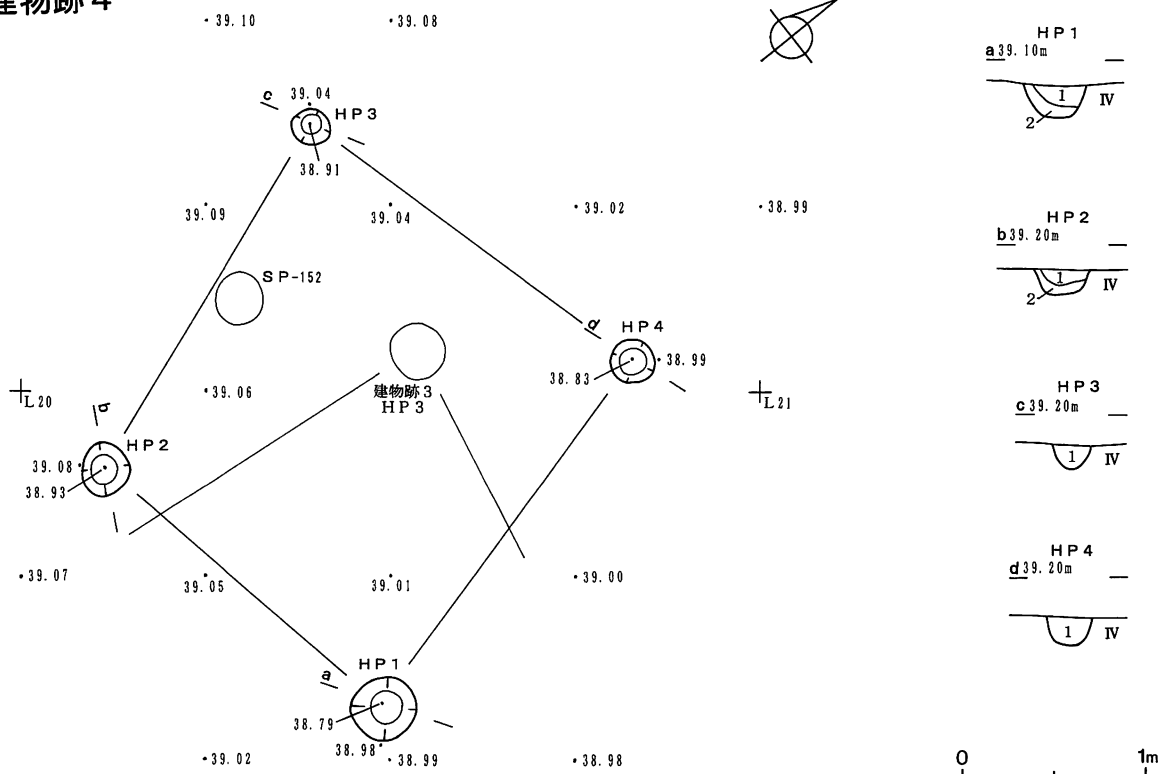
確認・調査：IV 層上面で HP のまともを確認した。HP 1～4 は支柱穴と考えられる。周辺の III 層は削平のためほとんど残っていなかったが、IV 層上面の遺物出土状況から HP の掘り込み面は III 層下位～IV 層上面と考えられる。

- | | | | | | | | | |
|-----|------|---|------|---------|--------|---|---------|----------|
| 土層： | HP 1 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/4 | 粒子細かい。 | 2 | にぶい黄褐色土 | 10RY4/3。 |
| | HP 2 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/3 | 粒子細かい。 | 2 | にぶい黄褐色土 | 10RY4/3。 |
| | HP 3 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/3 | 粒子細かい。 | | | |
| | HP 4 | 1 | 暗褐色土 | 10RY3/3 | 粒子細かい。 | | | |

遺物出土状況：出土していない。

時期：HP の掘り込み面と、L 20 の包含層から I 群 A 類土器が出土していることから、縄文時代早期前半の可能性はある。
(佐藤)

建物跡 4



図VI-11 建物跡 4

建物跡 5 (図VI-12、図版41-3)

位置・立地：K・L19、C地区とD地区の間の段丘緩斜面の一番高い部分、標高39.2m付近に位置する。

規模：2.50m×2.25m×-

平面形：4本柱と考えられる。

確認・調査：IV層上面でHPのまとまりを確認した。HP 1～3は支柱穴と考えられる。1本は攪乱で壊されたと考えられる。周辺のIII層は削平のためほとんど残っていなかったが、IV層上面の遺物出土状況から、HPの掘り込み面はIII層下位～IV層上面と考えられる。FC-19の分布と重なる。

土層：HP 1 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

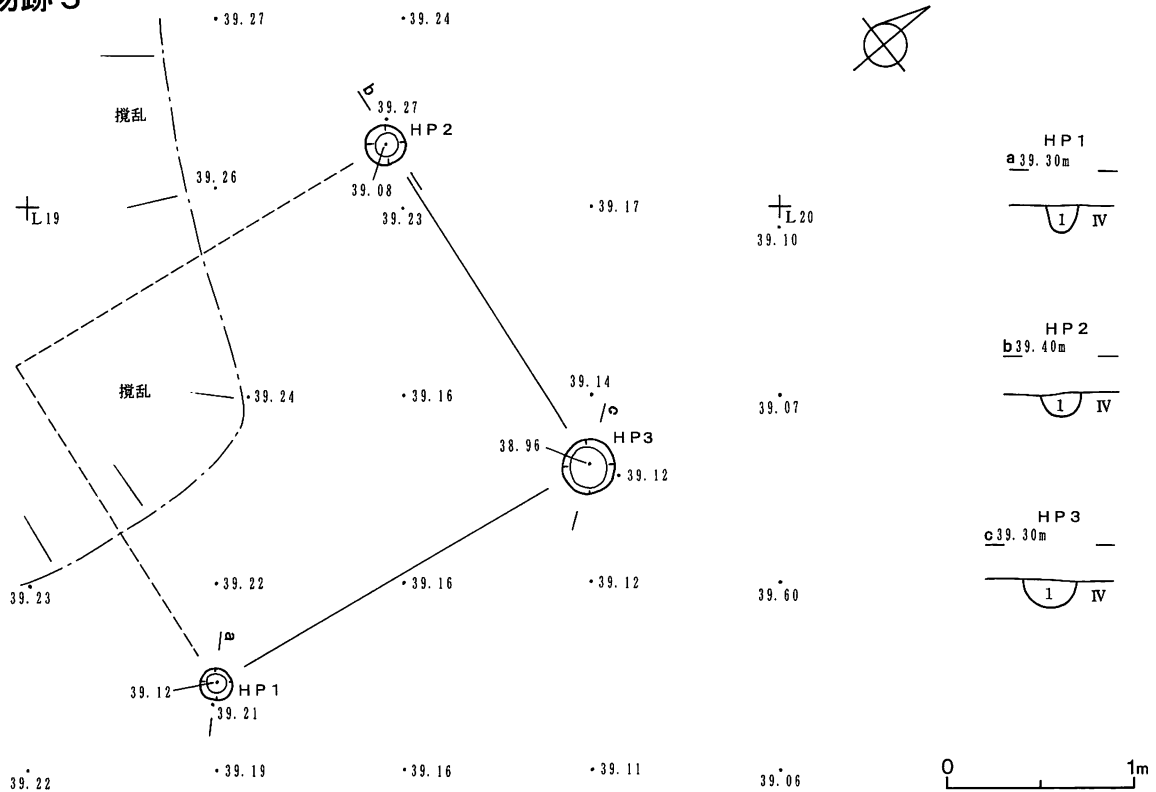
HP 2 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

HP 3 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

遺物出土状況：出土していない。

時期：HPの掘り込み面と、K・L19の包含層からI群A類土器が出土していることから、縄文時代早期前半の可能性はある。
(佐藤)

建物跡 5



図VI-12 建物跡 5

1 遺構

建物跡 6 (図VI-13、図版41-3)

位置・立地：K・L19、C地区とD地区の間の段丘緩斜面の一番高い部分、標高39.3mに位置する。

規模：2.55m×2.12m×-

平面形：4本柱と考えられる。

確認・調査：IV層上面でHPのまとまりを確認した。HP 1～4は支柱穴と考えられる。周辺のⅢ層は削平のためほとんど残っていなかったが、IV層上面の遺物出土状況から、HPの掘り込み面はⅢ層下位～IV層上面と考えられる。FC-19の分布と重なる。

土層：HP 1 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

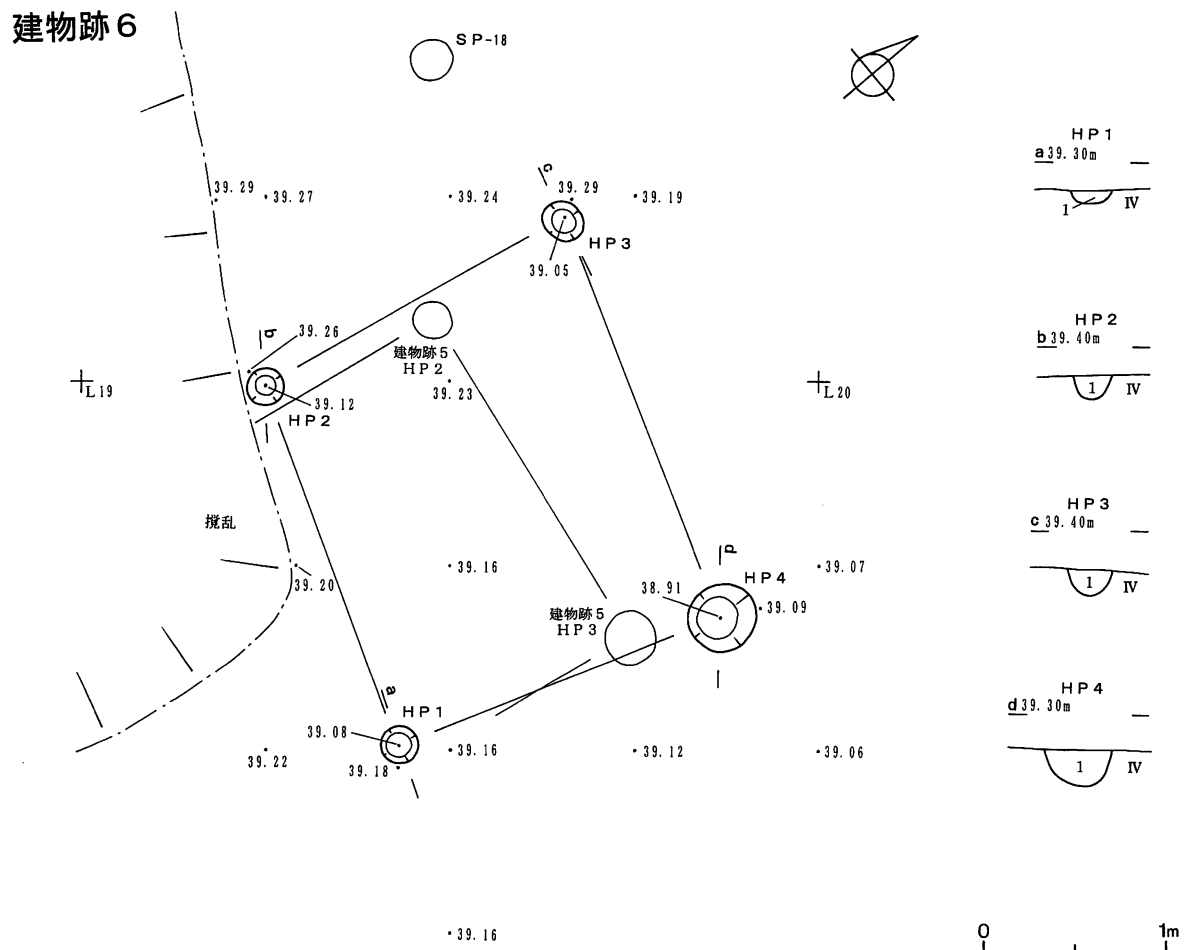
HP 2 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

HP 3 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

HP 4 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

遺物出土状況：出土していない。

時期：HPの掘り込み面と、K・L-19の包含層からI群A類土器が出土していることから、縄文時代早期前半の可能性はある。
(佐藤)



図VI-13 建物跡 6

建物跡 7 (図VI-3、図版41-4、42-1・2)

位置・立地：J-10

規模：1.51m/—×1.42m/—×—

平面形：不明。

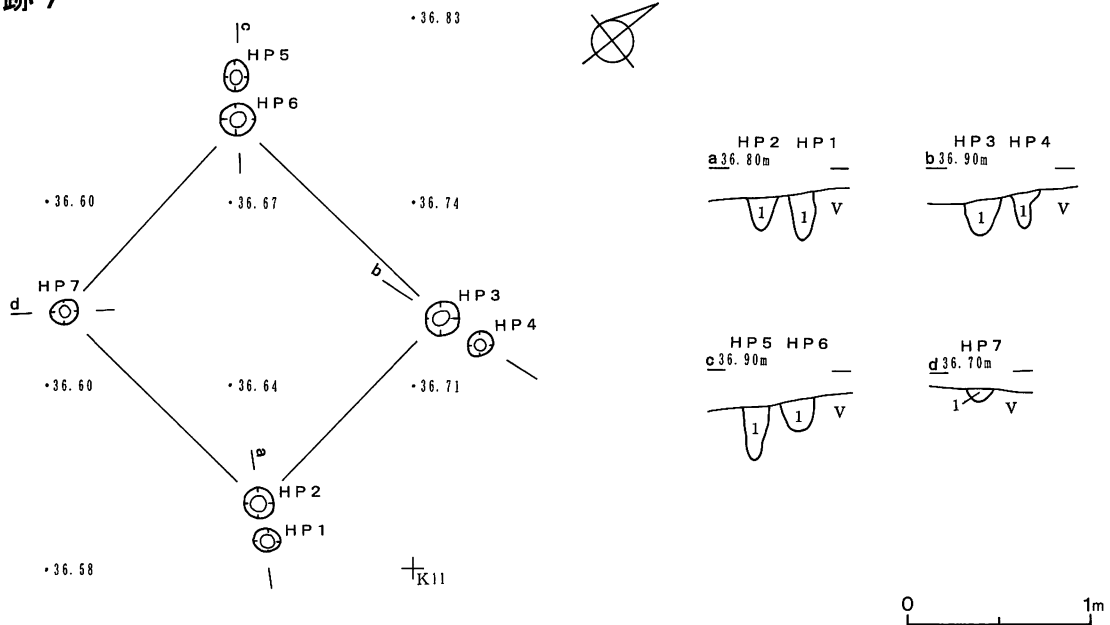
確認・調査：V層上面で方形に配置された口径約20cm程の小ピットを7基検出した。掘り込みを確認出来なかったが、建物跡を想定し調査を行った。覆土はⅢ層を主体にした腐植土に、ブロック状のV層が混じるものが多い。口径は約15cm~20cm、深さ約20cmで、HP 5だけが深さ約30cmを計る。

- 土層：HP 1 1 黒褐色土 10YR3/2 しまり強く粒径約0.5mmのV層を少量含む。
 HP 2 1 暗褐色土 10YR3/3 しまり強く粒径約0.5mmのV層を微量含む。
 HP 3 1 褐色土 7.5YR4/3 しまり強く粒径約0.5mmのV層を微量含む。
 HP 4 1 暗褐色土 7.5YR3/3 しまり強くV>Ⅲ。
 HP 5 1 褐色土 7.5YR3/2 しまり強く粒径約0.5mmのV層を微量含む
 HP 6 1 にぶい褐色土 7.5YR5/3 しまり強くV>Ⅲ。
 HP 7 1 にぶい褐色土 7.5YR5/4 しまり強くV≫Ⅲ。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：D地区の遺構、遺物の出土状況から縄文時代早期I群A類の時期が考えられる。(笠原)

建物跡 7



図VI-14 建物跡 7

1 遺構

建物跡 8 (図VI-15、図版42-3)

位置・立地：O-27・28、C地区中央の段丘緩斜面、標高36.9m付近に位置する。

規模：2.95m×2.60m×-

平面形：4本柱と考えられる。

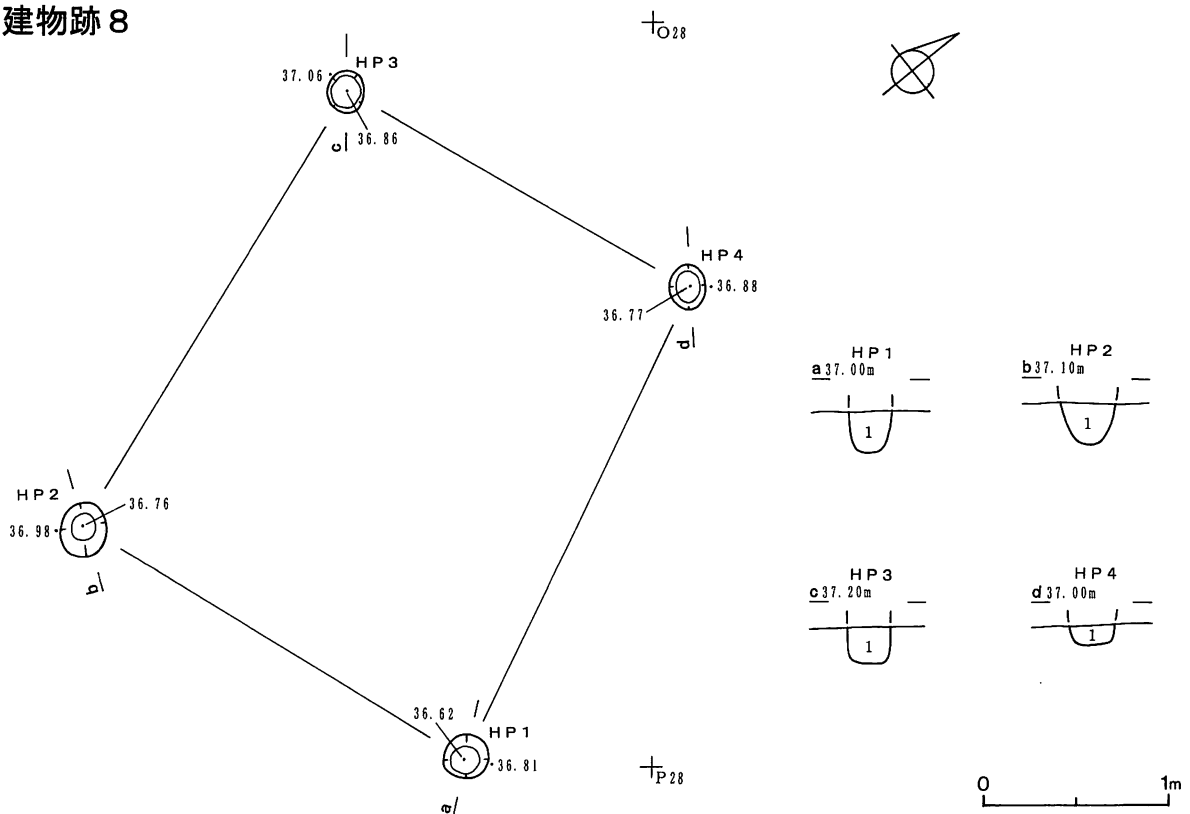
確認・調査：V層上面まで掘り進めたところ、HPのまとまりを確認した。HP 1～4は支柱穴と考えられる。土層の堆積状況などから、HPの掘り込み面はⅢ層中～Ⅳ層上面と考えられる。

土層：HP 1 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。
 HP 2 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。
 HP 3 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。
 HP 4 1 にぶい黄褐色土 10RY4/3 粒子細かい。

遺物出土状況：出土していない。

時期：HPの掘り込み面と、O-27・28の包含層からⅢ群土器が出土していることから、縄文時代中期の可能性はある。
 (佐藤)

建物跡 8



図VI-15 建物跡 8

建物跡 9 (図VI-16、図版42-4)

位置・立地：J・K-19・20、C地区とD地区の間の段丘緩斜面の一番高い部分、標高39.2m付近に位置する。

規模：2.55m×2.48m×-

平面形：4本柱と考えられる。

確認・調査：IV層上面でHPのまとまりを確認した。HP 1～4は支柱穴と考えられる。周辺のIII層は削平のためほとんど残っていなかったが、IV層上面の遺物出土状況から、HPの掘り込み面はIII層下位～IV層上面と考えられる。

土層：HP 1 1 にぶい黄褐色土 10RY4/3 粒子細かい。

HP 2 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

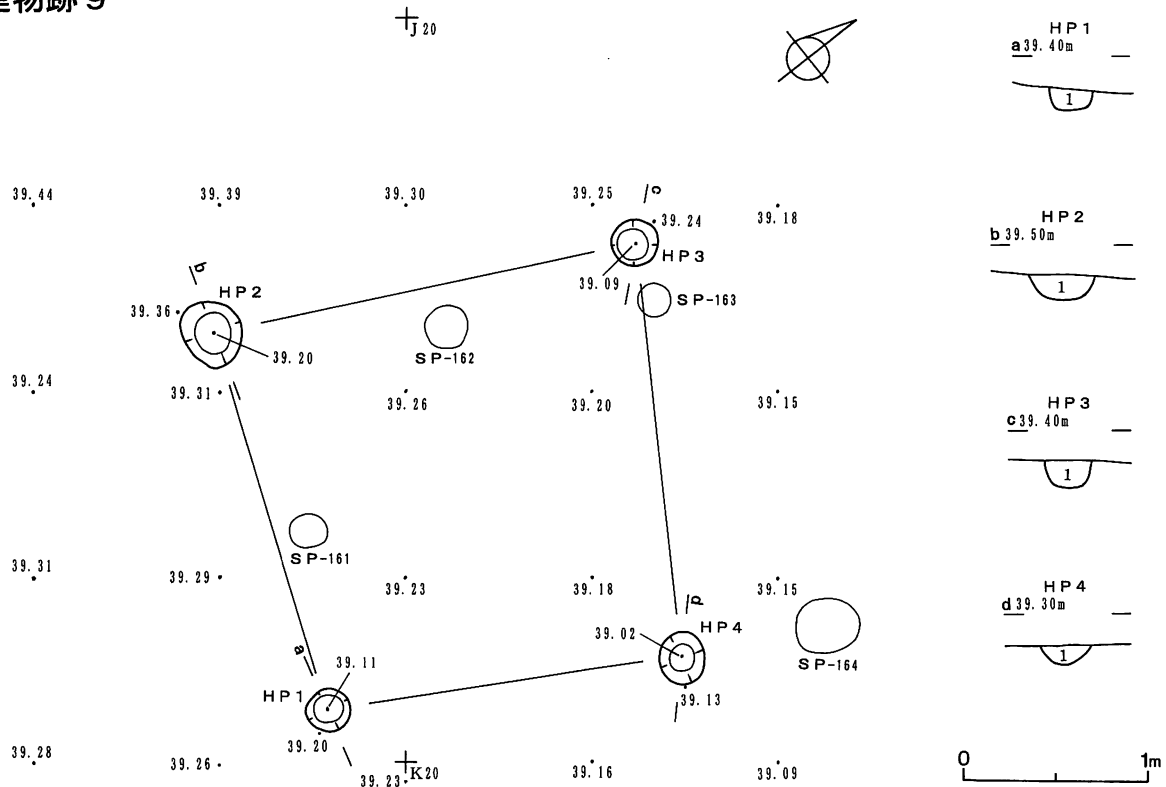
HP 3 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

HP 4 1 暗褐色土 10RY3/4 粒子細かい。

遺物出土状況：出土していない。

時期：HPの掘り込み面と、J・K-19・20の包含層からI群A類土器が出土していることから、縄文時代早期前半の可能性はある。
(佐藤)

建物跡 9



図VI-16 建物跡 9

1 遺構

建物跡10 (図VI-17、図版42-5・6)

位置・立地：G・H-36、B地区とC地区の間の沢の、左岸に面して位置する。

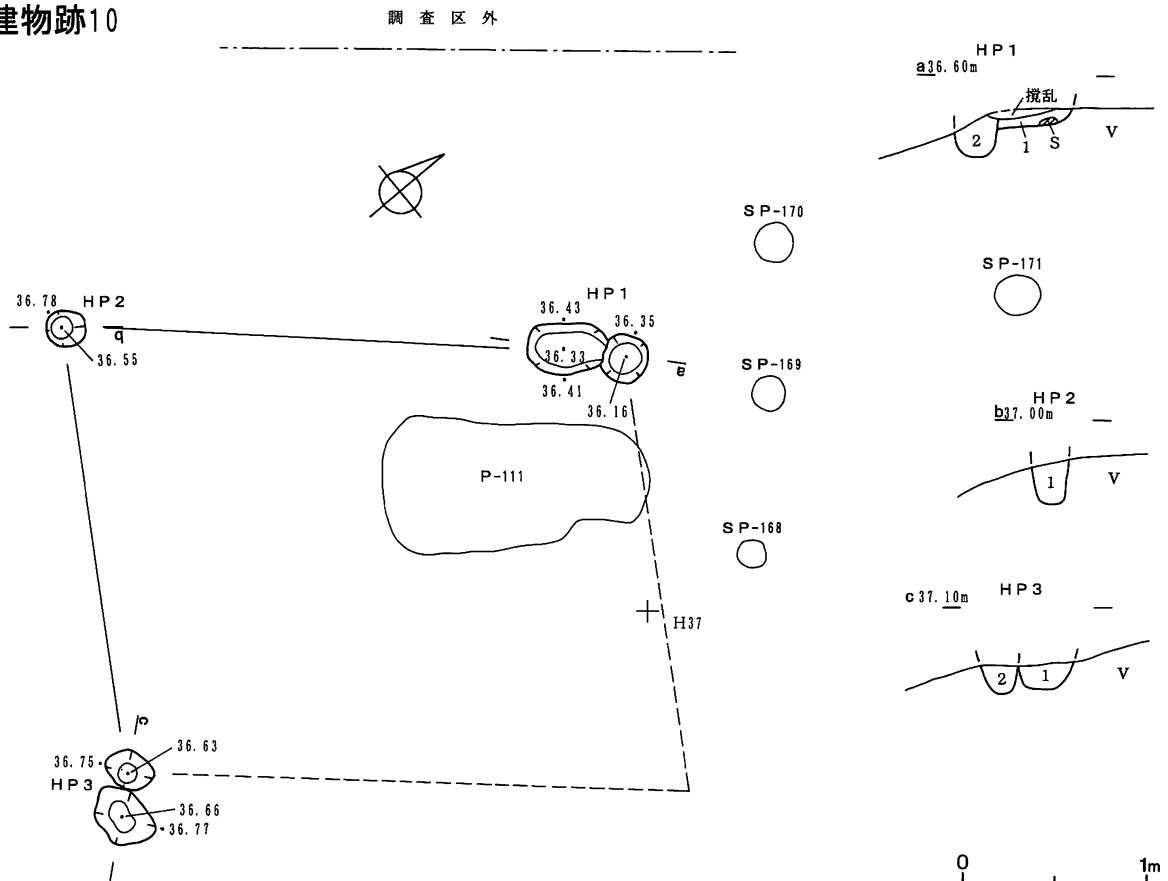
規模：3.20m×2.84m×-

平面形：4本柱と考えられる。

確認・調査：周辺は沢の埋立てに伴う攪乱がV層上面までおよんでおり、最終的にはV層上面でHPのまとまりを確認した。HP 1と2の間は小さな沢が入るが、建物構築時の状況は不明である。HP 1～3は支柱穴と考えられる。1本は攪乱で壊されたと判断した。土層中に焼土、炭化物がみられることから焼失している。HP 1・3の1層は柱跡そのものではなく、木柱が焼け落ちた際に周辺の土を乱したものと考えている。周辺のⅢ層は削平のためほとんど残っていなかったが、IV層上面の遺物出土状況から、HPの掘り込み面はⅢ層～IV層上面と考えられる。

- 土層：HP 1 1 灰褐色砂質土 5YR4/2 径4mmの炭化物を多く含む。径2mmの焼土粒を含む。径4～10mmの灰黄褐色粘土粒を若干含む。
- 2 褐灰色砂質土 5YR4/1 径4mmの炭化物を多く含む。径4～10mmの焼土粒を含む。径4～10mmの灰黄褐色粘土粒を多く含む。
- HP 2 1 褐灰色砂質土 5YR4/1 径4mmの炭化物を多く含む。径4～10mmの焼土粒を含む。径4～10mmの灰黄褐色粘土粒を多く含む。
- HP 3 1 灰褐色砂質土 5YR4/2 径4mmの炭化物を多く含む。径2mmの焼土粒を含む。径4～10mmの灰黄褐色粘土粒を若干含む。
- 2 褐灰色砂質土 5YR4/1 径4mmの炭化物を多く含む。径4～10mmの焼土粒を含む。径4～10mmの灰黄褐色粘土粒を多く含む。

建物跡10



図VI-17 建物跡10

遺物出土状況：出土していない。

時期：P-111と同時期とすると、アイヌ文化期以降近代までと考えられる。

(佐藤)

c 土坑

P-4 (図VI-19、図版47-3・4、127-2)

位置・立地：H・I-22

規模：2.09m/1.66m×1.82m/1.48m×0.49m

平面形：平面形は円形、鍋状の掘り込み。

確認・調査：平成11年度、25%調査時にVI層除去中に半円状の黒色土の落ち込みを確認した。25%調査予定範囲外に半分掛かっていたため拡張して調査を行った。III層中まで耕作されているため掘り込み面の確認は出来なかった。坑底は平坦で急角度に壁は立ち上がる。壁の上部は斜めに広がり気味である。覆土は埋め戻しと考えられる。

土層：1 黒褐色土 (粒状)。

2 暗褐色土 (粘質)。

特徴：北側に同様な遺構の広がりが見られることから、土壌墓の可能性はある。

遺物出土状況：覆土からIII群A-3類1点、剥片1点、すり石1点、礫2点が出土した。

時期：遺構の形態や出土遺物から縄文時代中期前半、III群A-3類土器の時期と考えられる。(谷島)

掲載遺物：石器 1は覆土から出土したすり石。両端が打ち欠かれるが、使用痕は認められず、4類の未成品と思われる。(柳瀬)

P-5 (図VI-19、図版47-5、図版48-1)

位置・立地：M-26

規模：1.33m/0.42m×1.32m/0.51m×0.40m

平面形：円形。

確認・調査：包含層をV層上面まで掘り下げたところで円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截したところ、坑底と壁面を確認し遺構と判断した。平面形は円形で、断面の形状はすり鉢状を呈する。覆土はIII層を主体とした黒色腐植土で流れ込みと考えられる自然堆積である。掘り込み面はIII層中と思われる。

土層：1 黒色土 10YR2/1 粒子細かく、しまり強い。

2 褐色土 7.5YR4/6 III≫IV 粒子細かく、しまり強い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代中期後半頃と思われる。

(笠原)

P-6 (図VI-19、図版48-2・3、127-3)

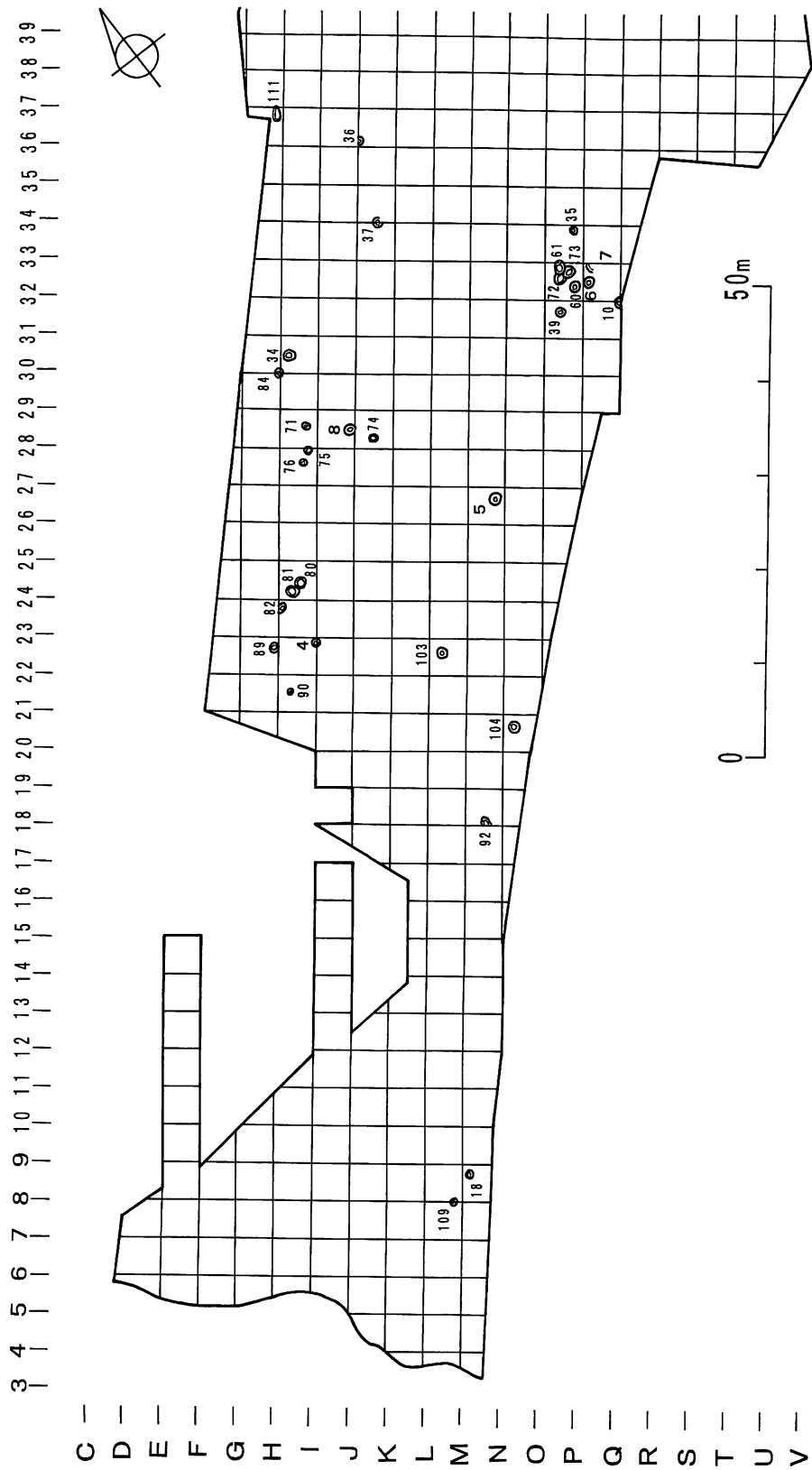
位置・立地：P-32、標高36.4m付近の、ごく緩やかな西向きの斜面に位置する。周辺にP-7など8基ほどの土坑と、柱穴状小ピットが多く分布する。

規模：1.01m/0.68m×0.85m/0.60m×0.13m

平面形：平面形は不整な楕円形、検出した部分では、浅い皿状の掘り込みである。

確認・調査：周辺はV層まで削平を受けており、I層除去後に、楕円形の褐色土のプランを確認した。

坑底はほぼ平坦で、立ち上がりは丸みがある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。



图VI-18 C·D地区土坑配置

土層：1 黒褐色土 7.5YR2/2 炭化物が混じる。ローム粒が多く混じる。しまりあり。粘性ややあり。

2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム塊が混じる。しまりあり。粘性あり。

特徴：上部は削平により失われており、坑底付近のみが残存している。性格は不明である。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類が1点、Ⅳ群B類が1点、坑底からⅢ群A-3類が1点出土している。

時期：坑底出土の遺物および周辺の包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(柳瀬)

掲載遺物：土器 1は坑底出土のⅢ群A-3類。胴部片でRLの斜行縄文が施されている。(広田)

P-7 (図VI-19、図版48-4、127-4)

位置・立地：P-32、標高36.4m付近の、ごく緩やかな西向きの斜面に位置する。周辺にP-6など8基ほどの土坑と、柱穴状小ピットが多く分布する。

規模：0.81m/0.66m×(0.34m)/(0.28m)×0.09m

平面形：平面形は楕円形、検出した部分では、ごく浅い皿状の掘り込みである。

確認・調査：周辺はV層まで削平を受けており、I層除去後に、楕円形の褐色土のプランを確認した。半截した際に、誤って東側を掘りすぎてしまった。坑底はほぼ平坦で、立ち上がりは丸みがある。壁の状態は不明である。

土層：1 暗褐色土 7.5YR3/2 炭化物が混じる。しまりよい。粘性あり。

2 暗褐色土 7.5YR3/2 炭化物・ローム粒が混じる。しまりよい。粘性あり。

特徴：上部は削平により失われており、坑底付近のみが残存している。性格は不明である。

遺物出土状況：覆土からⅣ群A-1類が1点出土している。

時期：出土遺物から、縄文時代後期前半の可能性もあるが、隣接する遺構の時期および周辺の包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。(柳瀬)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅣ群A-1類。無文で、口唇断面は角形を呈する。(広田)

P-8 (図VI-20、図版48-5、図版49-1)

位置・立地：I・J-28

規模：1.06m/0.68m×0.99m/0.54m×0.28m

平面形：円形。

確認・調査：包含層をV層上面まで掘り下げたところで円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截したところ、坑底と緩やかに立ち上がる壁面を確認し、遺構と判断した。平面形は円形で、断面形状は皿状を呈する。覆土はⅢ層を主体とした黒色腐植土で、流れ込みと考えられる自然堆積である。掘り込み面はⅢ層中と思われる。

土層：1 黒色土 7.5YR2/1 しまりやや強い。粘性高い。

2 にぶい橙色土 10YR6/4 IV>Ⅲ しまり強い。粘性高い。

遺物出土状況：覆土中からⅢ群A-3類2点、フレイクが1点出土している。

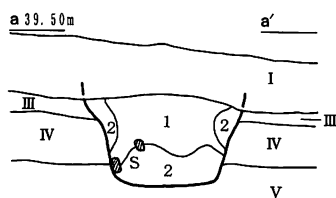
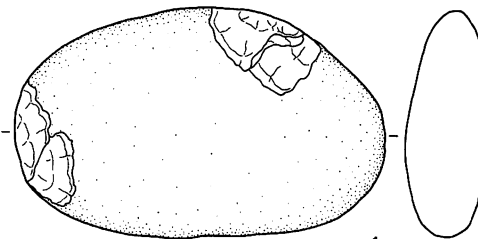
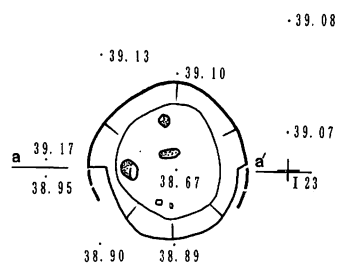
時期：出土した遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類の時期と考えられる。(笠原)

P-10 (図VI-20、図版49-4・5)

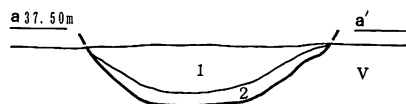
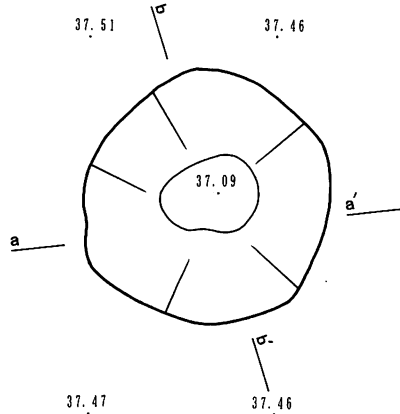
位置・立地：P・Q-31・32、標高36.4m付近の、ごく緩やかな西向きの斜面に位置する。周辺にP

1 遺構

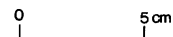
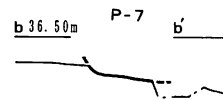
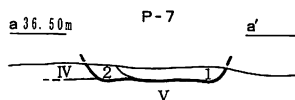
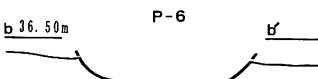
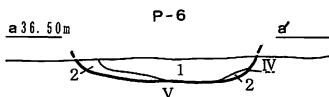
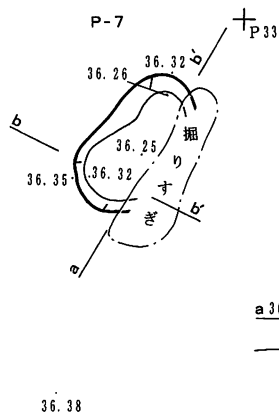
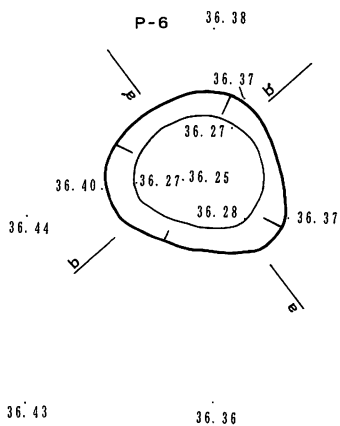
P-4



P-5



P-6 · P-7



图VI-19 P-4 · P-5 · P-6 · P-7

－6・7など8基ほどの土坑と柱穴状の小ピットが多く分布する。

規模：0.82m/0.52m×0.65m/0.38m×0.25m

平面形：平面形は楕円形で、椀状の掘り込みである。

確認・調査：平成11年度トレンチ調査の際に、IV層上面で確認した。南東側が、調査区域外に広がっていたため、部分的に拡張して調査を行った。SP-4と重複しているが、新旧関係は不明である。坑底はやや丸みがあり、立ち上がりは緩やか。壁はやや開く。

土層：1 暗黄褐色土 10YR4/4 ローム粒が混じる。しまりよい。粘性弱い。

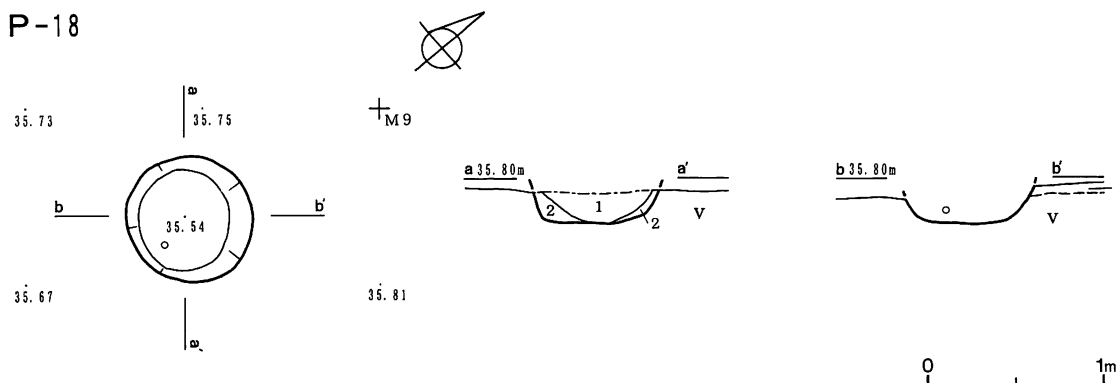
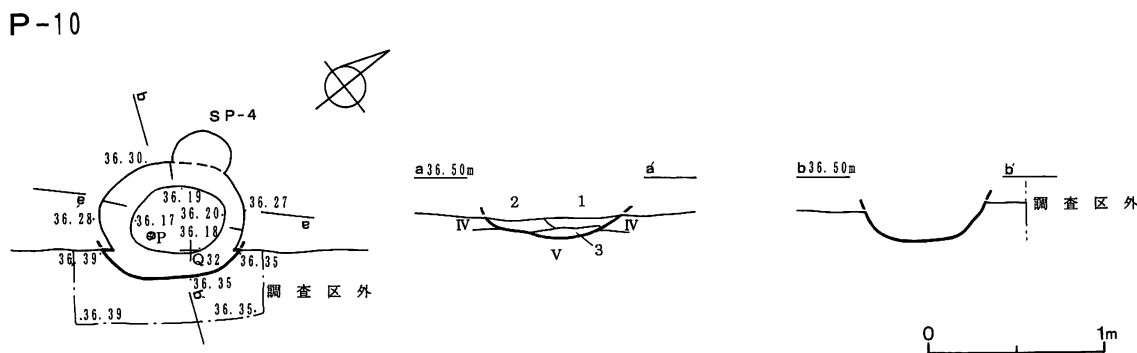
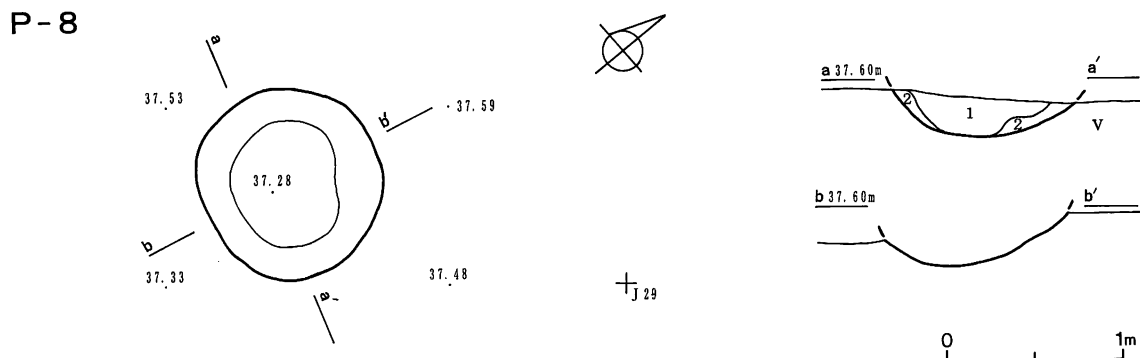
2 暗灰黄褐色土 10YR4/1 径1cmのローム粒が混じる。しまりよい。粘性あり。

3 黒褐色土 10YR3/1 径1cmのローム塊が混じる。しまりよい。粘性強い。

特徴：Qラインの壁面の観察により、実際の掘り込み面はⅢ層下位付近であることが確認された。性格は不明である。

遺物出土状況：覆土からⅢ群A-3類が1点出土している。

時期：出土遺物および周辺の包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(柳瀬)



図VI-20 P-8・P-10・P-18

1 遺構

P-18 (図VI-20、図版53-1・2)

位置・立地：M-18-d。調査区南西段丘縁の低位段丘面から高位段丘面にかけての緩斜面に位置する。

規模：(0.72m×0.71m)／0.57m×0.52m／(0.21m)

平面形：円形。

確認・調査・土層：V層まで掘り下げた段階で円形に黒褐色土がまとまっていた。半截すると平坦な墳底面としっかりとした立ち上がりが確認できた。墳底面は平坦で、壁は急角度で立ち上がる。

土層：1 黒褐色土 7.5YR3/2 IV 粘性、しまりとも強。

2 黒褐色土 7.5YR3/2 IV>V 粘性、しまりとも強。ロームブロックが混じる。

特徴：円形の土層で、覆土は人為的埋め戻しと考えられる。

遺物出土状況：覆土中からI群a類の土器片が1点出土した。

時期：覆土中出土の土器および、覆土がIV層を主体とすることから、縄文時代早期前半の遺構と考えられる。
(藤原)

P-34 (図VI-21、図版59-4・5、129-4)

位置・立地：H-30、C地区段丘緩斜面中央の沢の右岸に面して、標高37.4m付近に位置する。

規模：(1.07m)／0.64m×(1.01m)／0.61m×(0.38m)

平面形：円形。

確認・調査：IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。墳底はほぼ平坦で、壁面はややなだらかに立ち上がる。埋土は埋め戻しである。堆積状況から掘り込み面はIII層中と考えられる。遺物出土状況と埋土の堆積状況から墓壇の可能性はある。

土層：1 黒褐色土 10YR2/2 III>>IV 粒子細かい。

2 黒褐色土 10YR2/2 III>>IV (ブロック) 粒子細かい。しまりややあり。

3 暗褐色土 10YR3/4 III (ブロック) +IV+V 粒子細かい。しまりあり。

4 にぶい黄褐色土 10YR4/3 V>IV>>III 粒子細かい。しまりあり。

5 暗褐色土 10YR3/3 III (ブロック) +IV+V (ブロック) 粒子細かい。しまりあり。

遺物出土状況：墓壇中央の確認面、覆土1層上面でIII群A-3類土器1個体が出土した。他に近くのIV層上面から礫が1点出土した。

時期：出土土器から、縄文時代中期前半、III群A-3類土器の時期と考えられる。
(佐藤)

掲載遺物：土器 1・2は覆土出土のIII群A-3類。同一個体で、平縁で、底部からやや開いて立ち上がる器形である。器面全体に不規則なLRの斜行縄文が施されている。
(広田)

P-35 (図VI-21、図版59-6、図版60-1、129-5)

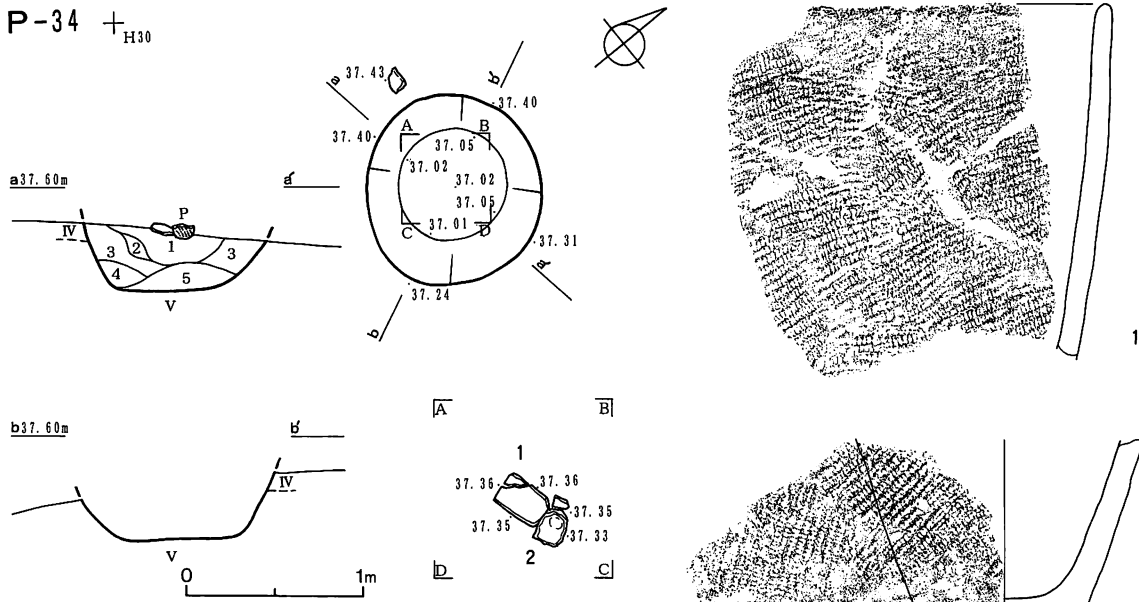
位置・立地：O-33

規模：0.59m／0.44m×0.58m／0.42m×0.50m

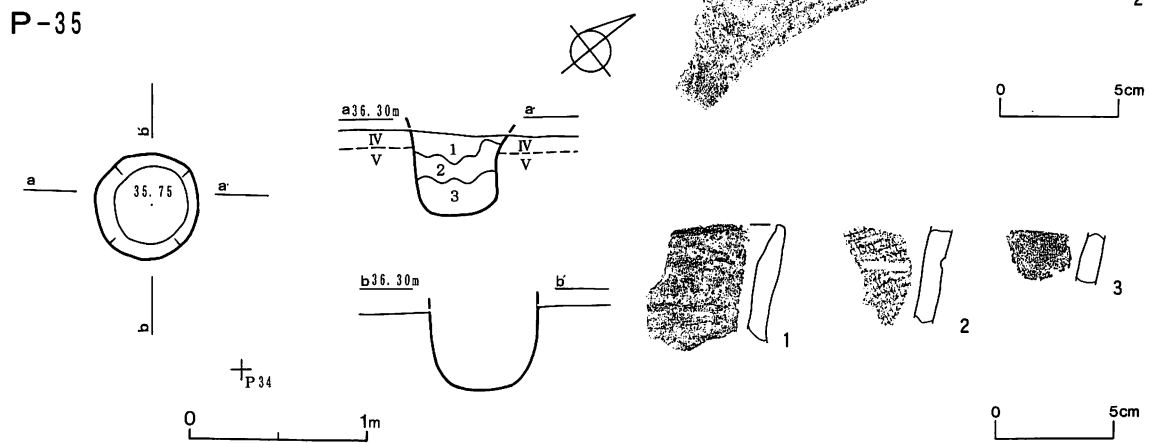
平面形：円形。

確認・調査：包含層をIV層上面まで掘り下げたところで円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截したところ、やや丸みのある坑底と、ほぼ垂直に立ち上がる壁面を確認し、土坑と判断した。覆土は大きく3層に分けられ、しまりが強く、覆土の各層には焼土粒と炭化物を多く含む。埋め戻しの可能性が考えられる。プランはほぼ円形で、掘り込み面はIII層中と思われる。性格は不明である。

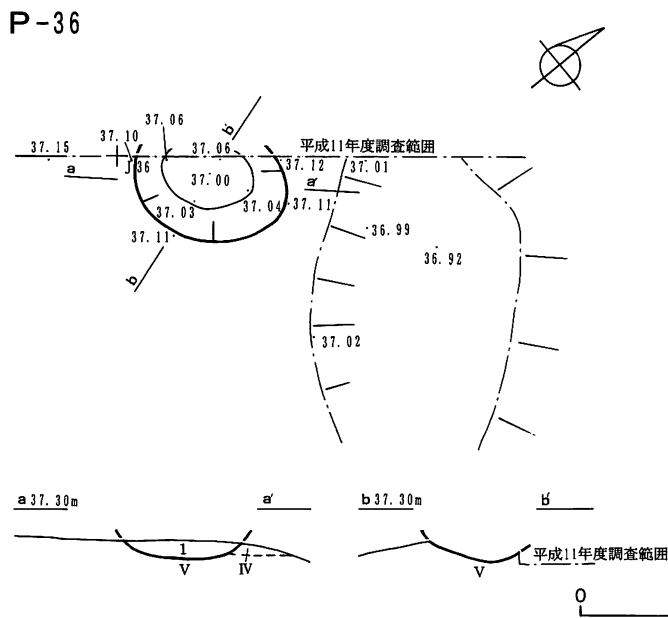
P-34 \perp_{H30}



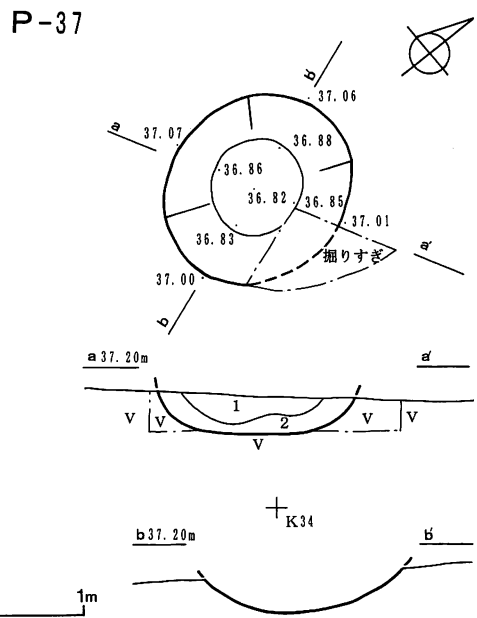
P-35



P-36



P-37



図VI-21 P-34・P-35・P-36・P-37

1 遺構

- 土層：1 黒褐色土 5YR2/1 炭化物、焼土粒が多い。ロームブロック状含む。しまり強い。
2 暗赤褐色土 5YR3/3 炭化物、焼土粒が多い。ロームブロック状含む。しまり強い。
3 黒褐色土 7.5YR3/1 炭化物、焼土粒が多い。ロームブロック状含む。しまりやや強い。

遺物出土状況：覆土中からⅢ群A-3類4点、剥片9点、円板状土製品等が1点出土している。

時期：出土した遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類の時期と考えられる。 (笠原)

掲載遺物：土器 1～3は覆土出土のⅢ群A-3類。1は無文の口縁部。2・3は胴部。2は沈線が施される。3は無文である。 (広田)

P-36 (図VI-21、図版60-2)

位置・立地：J 36、C地区とB地区間の沢の左岸に面して、標高37.1m付近に位置する。

規模：(0.88m)／0.53m×(0.62m)／0.35m×(0.12m)

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅳ層中位で暗褐色土の落ち込みとして確認した。坑底は中央がくぼみ、壁面はなだらかに立ち上がる。覆土の堆積状況は自然堆積である。堆積状況から掘り込み面はⅢ層中と考えられる。

土層：1 暗褐色土 10YR4/3 Ⅳ+Ⅴ (ブロック) >Ⅲ (ブロック) しまりややあり。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代早期後半～続縄文時代と考えられる。 (佐藤)

P-37 (図VI-21、図版60-3)

位置・立地：J-33・34、C地区段丘緩斜面中央の沢の右岸、標高37.1m付近に位置する。

規模：(1.11m)／0.55m×(0.98m)／0.50m×(0.25m)

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅴ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。坑底はほぼ平坦で、壁面はなだらかに立ち上がる。覆土の堆積状況は埋め戻しの可能性がある。堆積状況から掘り込み面はⅢ層中と考えられる。

土層：1 黒褐色土 10YR2/3 Ⅲ>Ⅳ 粒子細かい。径2mmの炭化物粒を少量含む。しまりややあり。

2 暗褐色土 10YR3/3 Ⅴ (ブロック) >Ⅲ (ブロック) +Ⅳ。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代早期後半～続縄文時代と考えられる。 (佐藤)

P-39 (図VI-22、図版61-4、図版62-1)

位置・立地：O-31

規模：0.93m／0.31m×0.92m／0.27m×0.24m

平面形：円形。

確認・調査：包含層をⅤ層上面まで掘り下げたところで円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截したところ、緩やかではあるが掘り込みと、丸みのある坑底を確認し、土坑と判断した。プランはほぼ円形で、断面形は皿状を呈する。覆土は大きく3層に分けられが、主にⅢ層の黒色腐植土で構成され、流れ込みによる自然堆積と考えられる。掘り込み面はⅢ層中と思われる。性格は不明。

土層：1 黒褐色土 5YR2/1 粒子粗い。しまり強い。粘性高い。

- 2 暗褐色土 7.5YR3/3 粒子粗い。しまり強い。粘性高い。ロームブロック状に含む。
 3 橙色土 7.5YR6/8 III≫IV 粒子細かい。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代中期頃と考えられる。

(笠原)

P-60 (図VI-22、図版69-3、図版70-1)

位置・立地：O-32

規模：1.13m/0.58m×1.07m/0.55m×0.41m

平面形：不整形円形。

確認・調査：包含層をV層上面まで掘り下げたところで円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。半截したところ、掘り込みと、やや丸みのある坑底を確認し、土坑と判断した。プランは不整形な円形で、開口部に向かって壁は開きながら立ち上がる。覆土は大きく5層に分けられ、主にⅢ層の黒色腐植土にV層がブロック状に含まれている。埋め戻しの可能性が考えられる。掘り込み面はⅢ層中と思われる。性格は不明。

- 土層：1 黒褐色土 7.5YR3/1 しまりやや強い。粘性高い。III≫IV ローム粒を多く含む。
 2 暗褐色土 7.5YR3/3 しまりやや強い。粘性高い。III≫IV ローム粒を多く含む。
 3 褐色土 7.5YR4/6 しまり弱い。粘性高い。
 4 明褐色土 7.5YR5/8 しまりやや強い。粘性高い。
 5 橙色土 7.5YR6/8 しまりやや強い。粘性高い。V層ブロック状含む。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期頃と考えられる。

(笠原)

P-61 (図VI-22、図版70-2・3、130-7)

位置・立地：O-32・33

規模：(1.63m)/0.81m×1.22m/0.85m×0.34m

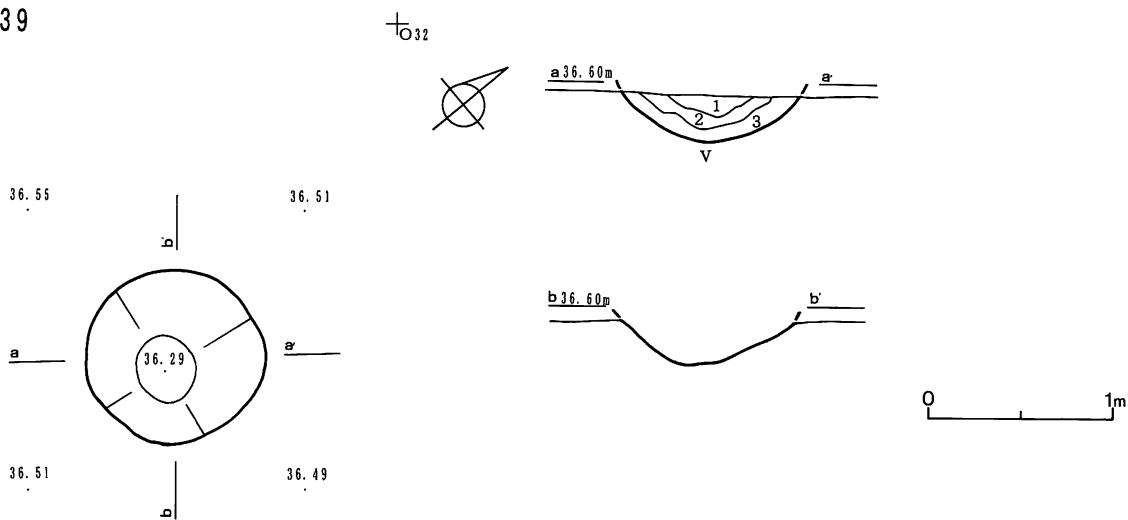
平面形：楕円形。

確認・調査：包含層をV層上面まで掘り下げたところで風倒木と切り合う黒色土の落ち込みを確認した。検出した黒色土のプランは推定し難かったため、一部トレンチをいれ、断面観察により掘り込みの確認とプランを推定し調査を行った。堆積状況を記録していく段階で2つの切りあう落ち込み(P-61・72)を確認した。両落ち込みの覆土の堆積状況からP-61が西側の落ち込み(P-72)より新しいと判断した。風倒木により上部が一部壊されているが、楕円形のプランと緩やかに立ち上がる壁を確認することができた。覆土は主にローム粒の混じる黒色腐植土で構成される。覆土は自然堆積の可能性が高い。掘り込み面はⅢ層中と思われる。性格は不明。

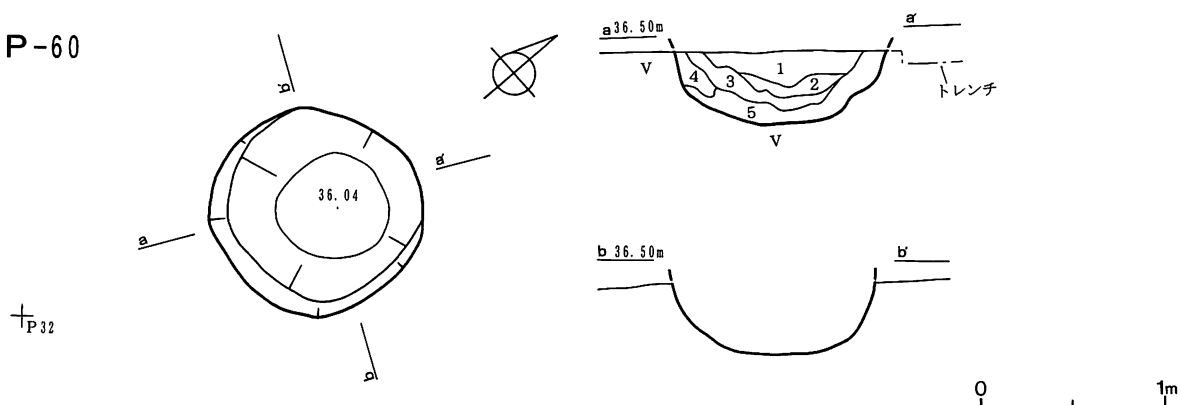
- 土層：1 黒色土 N2/ 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
 2 褐色土 7.5YR4/6 木の根？
 3 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒多い。粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
 4 黒褐色土 7.5YR2/2 ローム粒多い。粒子粗い。しまりやや強い。粘性高い。
 5 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多い。粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
 6 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多い。粒子粗い。しまりやや強い。粘性高い。
 7 黒色土 7.5YR2/1 粒子粗くしまりやや強い。粘性高い。

1 遺構

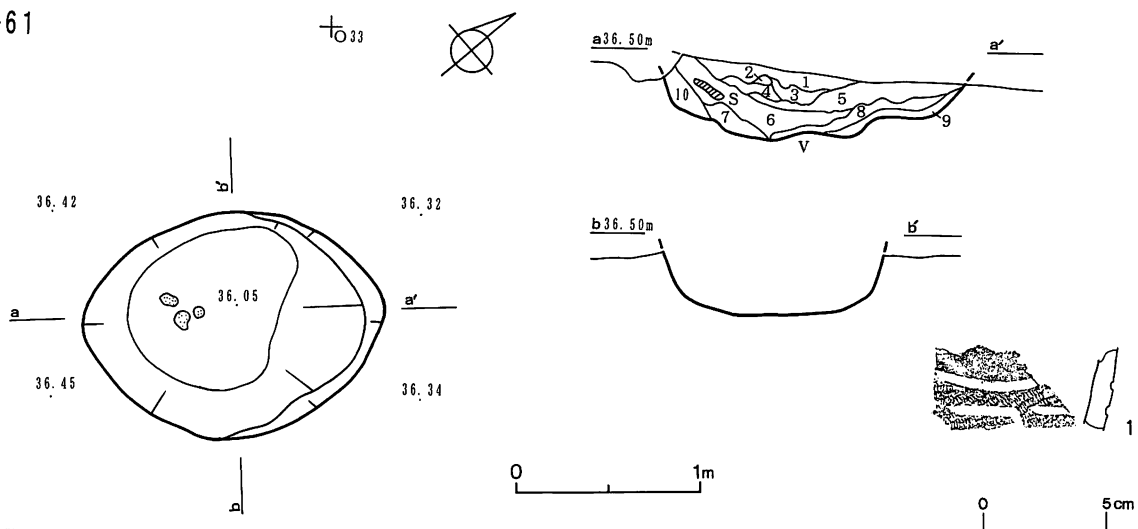
P-39



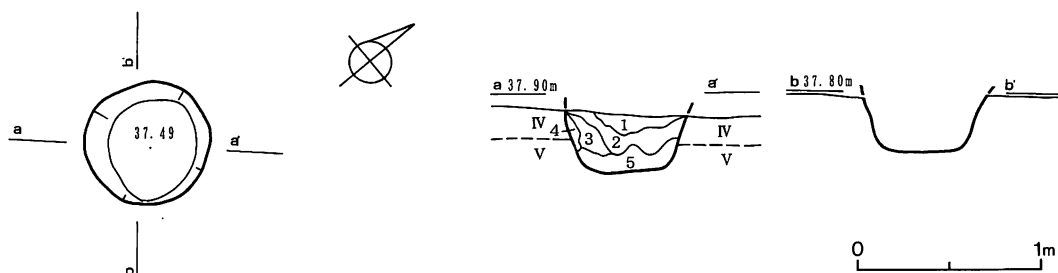
P-60



P-61



P-71



図VI-22 P-39・P-60・P-61・P-71

- 8 褐色土 7.5YR4/4 ロームブロック状含む。粒子やや粗い。
 9 黒褐色土 5YR3/1 ロームブロック状含む。粒子細かくしまり強い。粘性高い。
 10 黒褐色土 7.5YR3/1 粒子細かくしまり強い。粘性高い。

遺物出土状況：覆土中からⅢ群A-2類1点、Ⅲ群A-3類2点、Ⅳ群A類6点、剥片3点、床面から礫が6点出土している。

時期：遺物の出土状況から縄文時代中期前半～後期前半の時期と考えられる。(笠原)

掲載遺物：土器 1は覆土出土のⅣ群A-1類。沈線により文様帯が区画され、文様帯内には地文上にクランク状の沈線が加えられている。焼成は良好である。(広田)

P-71 (図VI-22、図版74-4、図版75-1)

位置・立地：H-28

規模：0.67m/0.49m×0.66m/0.54m×0.32m

平面形：円形。

確認・調査：包含層をⅣ層上面まで掘り下げたところで黒色土の落ち込みを確認した。半截し、坑底と壁面を確認した。プランはほぼ円形で、平坦な坑底から壁は緩やかに立ち上がる。覆土はローム粒の混じる黒色腐植土で構成され、自然堆積であると思われる。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

- 土層：1 黒色土 N2/ Ⅲ 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
 2 黒色土 7.5YR2/1 Ⅲ 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
 3 暗褐色土 7.5YR3/3 ロームブロック状を含む。粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
 4 褐色土 7.5YR4/4 ロームブロック状を含む。粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
 5 褐灰色土 10YR4/1 粒子粗い。しまり強い。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期前半頃の時期と考えられる。(笠原)

P-72 (図VI-23、図版75-2、図版75-3)

位置・立地：O-32

規模：(1.48m/0.50m)×1.33m/0.43m×0.38m

平面形：楕円形。

確認・調査：包含層をⅤ層上面まで掘り下げたところで風倒木と切り合う黒色土の落ち込みを確認した。黒色土のプランは推定し難かったためトレンチをいれ、断面観察によって掘り込みの確認を行った。その結果P-61とこれに切られるもう一つの落ち込みを検出し、これをP-72とした。東側上部をP-61に切られているが、楕円形を呈するプランと緩やかな壁面の立ち上がりを確認できた。覆土は主にⅢ層黒色腐植土で構成され自然堆積と思われる。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

- 土層：1 黒色土 7.5YR3/1 Ⅲ 粒子細かい。粘性高い。
 2 褐灰色土 7.5YR4/1 Ⅲ 粒子粗い。粘性高い。
 3 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム粒子を多く含む。粒子粗い。しまり弱い。
 4 褐色土 7.5YR4/4 ローム粒を少量含む。粒子やや粗い。しまり弱い。
 5 明褐色土 7.5YR5/6 V>Ⅲ 粒子粗い。しまりやや強い。

1 遺構

6 にぶい橙色土 7.5YR6/4 III≫IV 粒子粗い。しまり強い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：P-61との重複関係から縄文時代中期頃と考えられる。

(笠原)

P-73 (図VI-23、図版75-4)

位置・立地：O-32

規模：(1.41m/1.36m)×1.08m/0.95m×0.30m

平面形：楕円形。

確認・調査：P-61、P-72の調査中に重複するもう一つの落ち込みを南側で確認した。半截し、断面観察によって落ち込みと新旧関係について確認を行った。その結果P-61より古くP-72より新しい土坑であることがわかった。北側の一部をP-61に切られているが、楕円形を呈するプランと坑底、壁面の立ち上がりを確認できた。覆土は主にⅢ層黒色腐植土で構成され自然に流入し堆積したものであると考えられる。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

土層：1 暗赤色土 2.5YR3/3 粒子粗い。しまり弱い。粘性なし。

2 黒褐色土 7.5YR3/1 粒子細かい。しまりあり。粘性あり。

3 黒褐色土 10YR3/1 粒子細かい。しまりやや強い。粘性高い。

4 褐灰色土 2.5YR5/6 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。

5 褐色土 7.5YR4/1 V≫Ⅲ 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。

6 にぶい褐色土 7.5YR5/4 V≫Ⅲ 粒子やや粗い。しまりやや強い。粘性高い。

7 明褐色土 7.5YR5/6 V≫Ⅲ 粒子やや細かい。しまりやや強い。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：P-61・72との重複関係から縄文時代中期頃と考えられる。

(笠原)

P-74 (図VI-23、図版76-1・2)

位置・立地：j-28

規模：1.03m/0.93m×0.80m/0.62m×0.23m

平面形：楕円形。

確認・調査：東西に流れる沢部分の南側斜面で検出した。確認面はV層で、平面は楕円形を呈し、断面が皿形の土坑である。覆土はⅢ層黒色腐植土で構成され、自然堆積によって埋没したと思われる。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

土層：1 黒色土 N1.5/ 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。

2 にぶい黄橙色土 10YR7/3 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。

遺物出土状況：覆土中からIV群A類が1点出土している。

時期：縄文時代後期前葉IV群A類土器の時期と考えられる。

(笠原)

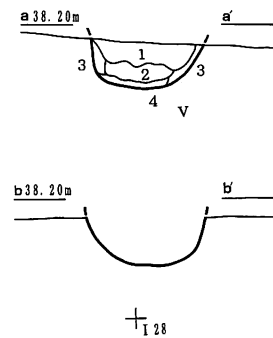
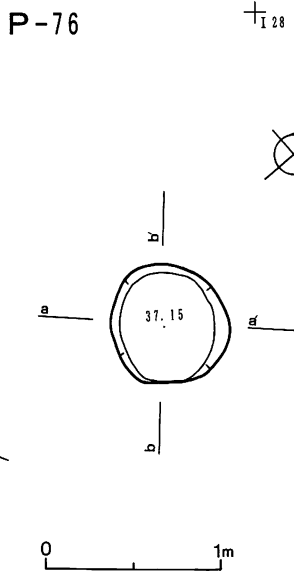
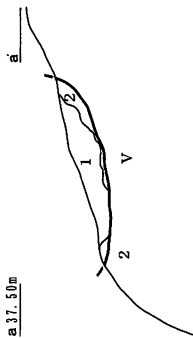
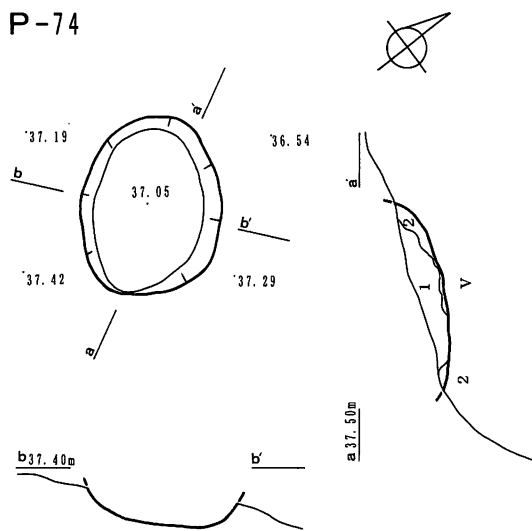
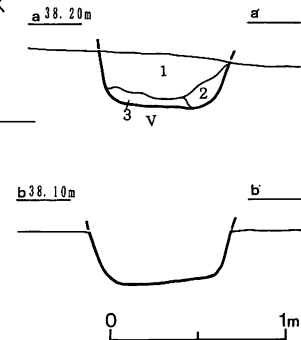
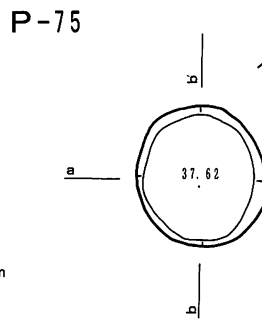
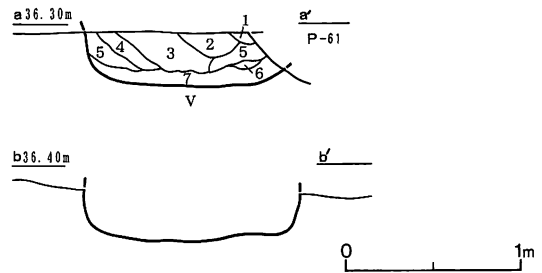
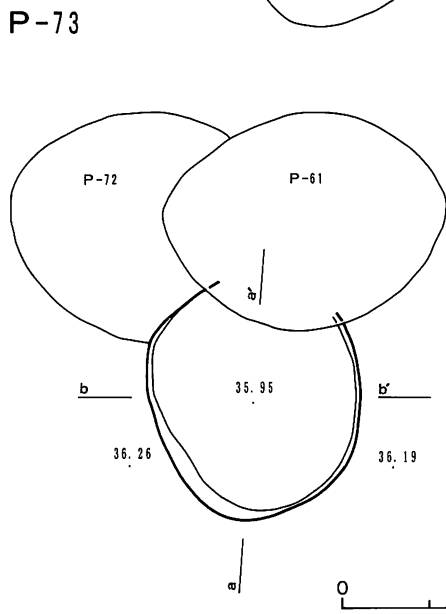
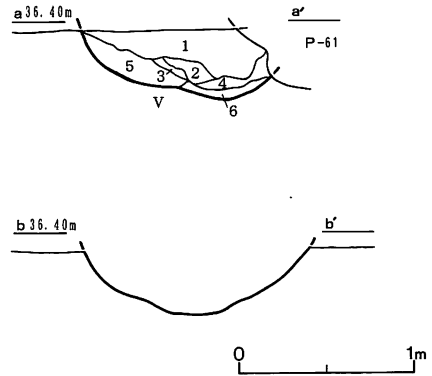
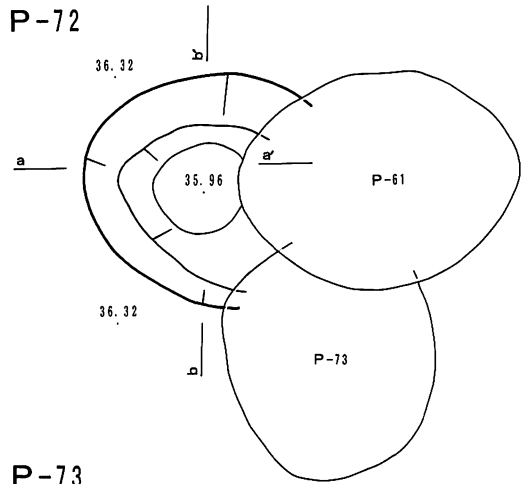
P-75 (図VI-23、図版76-3・4)

位置・立地：H-27・28

規模：0.80m/0.71m×0.72m/0.61m×0.30m

平面形：円形。

確認・調査：V層上面で確認した平面が円形を呈する土坑である。西側には隣接する様にP-76があ



図VI-23 P-72・P-73・P-74・P-75・P-76

1 遺構

る。

坑底面はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は微量のロームを含む黒色腐植土で占められ、覆土1層の状態から埋め戻された可能性が考えられる。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

土層：1 黒褐色土 7.5YR3/1 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
2 黒褐色土 10YR3/1 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
3 黒色土 10YR2/1 粒子粗い。しまり強い。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期前半の時期が考えられる。 (笠原)

P-76 (図VI-23、図版77-1・2)

位置・立地：H-27

規模：0.68m/0.54m×0.65m/0.61m×0.28m

平面形：円形。

確認・調査：V層上面で確認した平面が円形を呈する土坑である。東側に隣接するP-75と規模、形態が類似する。覆土は主に黒色腐植土で占められ、堆積状況から見て埋め戻された可能性が考えられる。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

土層：1 黒色土 N2/Ⅲ 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
2 黒褐色土 10YR2/3 Ⅲ>>V 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
3 にぶい橙色土 7.5YR7/4 V>>Ⅲ 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
4 浅黄橙色 7.5YR8/3 V 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期前半の時期が考えられる。 (笠原)

P-80 (図VI-24、図版78-5、図版79-1)

位置・立地：H-24

規模：1.10m/0.81m×1.09m/0.75m×0.37m

平面形：円形。

確認・調査：V層上面で確認した平面が円形を呈する土坑である。西側には隣接してP-81がある。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土の上部を掘りすぎたため、堆積状況についての判断が出来なかった。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

土層：1 褐灰色土 7.5YR4/1 粒子細かい。しまり弱い。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期前半の時期が考えられる。 (笠原)

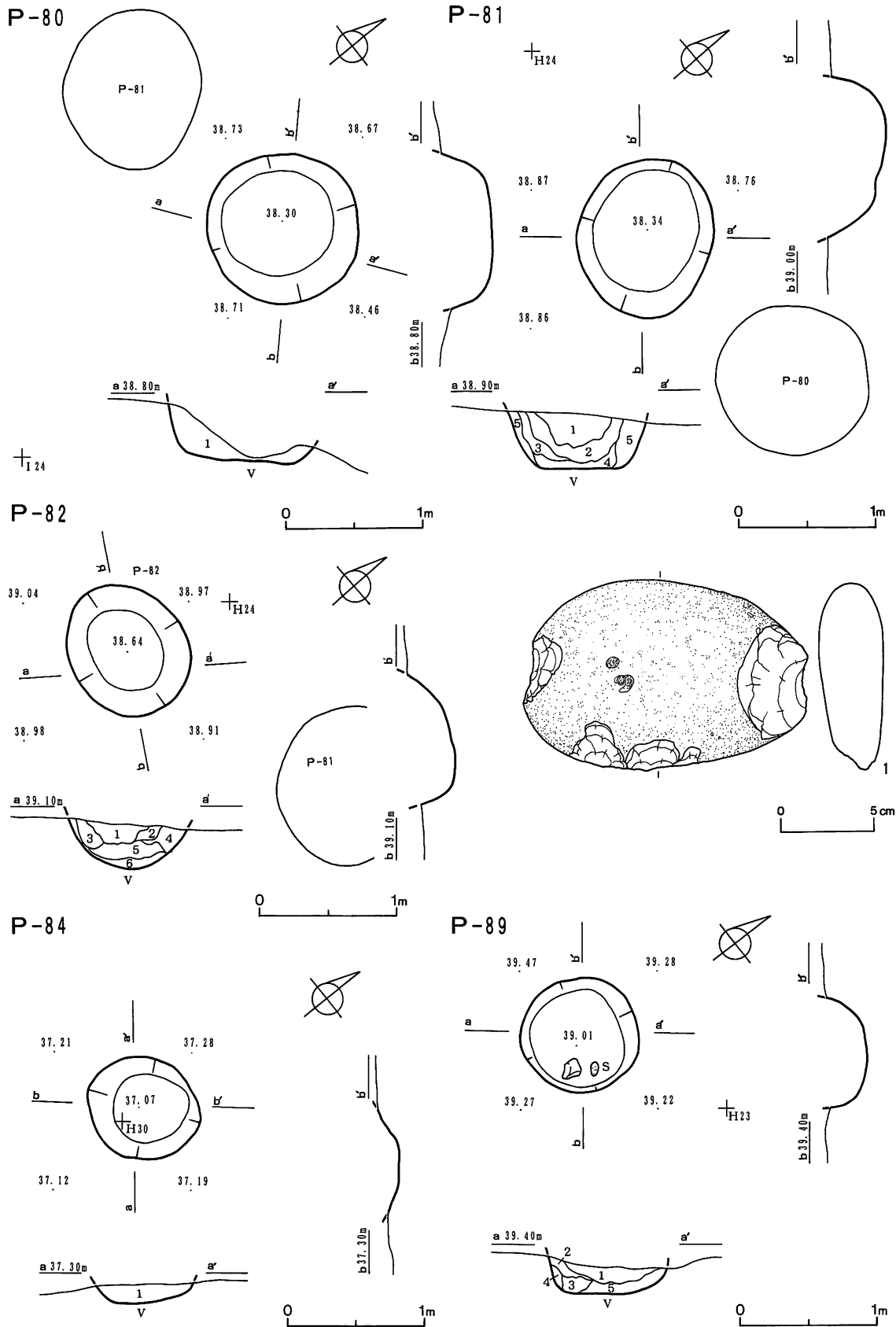
P-81 (図VI-24、図版79-2・3、131-1)

位置・立地：H-24

規模：1.16m/0.90m×0.98m/0.75m×0.43m

平面形：円形。

確認・調査：V層上面で確認した平面が円形を呈する土坑である。東側に隣接するP-80と規模、形



図VI-24 P-80・P-81・P-82・P-84・P-89

1 遺構

態が類似する。覆土は少量のロームを含む腐植土で構成され、埋め戻された可能性も考えられる。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

- 土層：1 黒色土 N2/ Ⅲ 粒子細かい。しまりやや強い。粘性高い。
2 黒褐色土 7.5YR3/1 ロームブロック状含む。粒子粗い。しまりやや弱い。粘性高い。
3 黒褐色土 10YR3/1 粒子やや粗い。しまり強い。粘性高い。
4 暗褐色土 7.5YR8/3 粒子粗い。しまり弱い。粘性やや高い。
5 褐色土 7.5YR4/3 ロームブロック状含む。粒子細かい。しまり強い。粘性やや高い。

遺物出土状況：覆土中からすり石が1点出土している。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期前半の時期が考えられる。(笠原)

掲載遺物：石器 1は覆土から出土したすり石。両端が打ち欠かれ、下側縁にも加工が加えられるが、使用痕は認められず、4類の未成品と思われる。(柳瀬)

P-82 (図VI-24、図版79-4、図版80-1)

位置・立地：H-22・23

規模：1.00m/0.65m×0.83m/0.51m×0.35m

平面形：円形。

確認・調査：V層上面で確認した平面が円形を呈する土坑である。東側には隣接してP-81とP-80がある。坑底は丸く、そのまま壁は開きながら立ち上がる。断面の形状はP-80・81とは異なる。覆土は粒子が粗く、少量のロームを含んだ腐植土で構成されている。堆積状況から埋め戻された可能性が考えられる。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

- 土層：1 黒色土 7.5YR2/1 粒子粗い。しまり強い。粘性高い。
2 黒褐色土 5YR2/1 ローム粒を多く含む。粒子粗い。しまり強い。粘性高い。
3 黒褐色土 7.5YR3/1 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。
4 暗褐色土 7.5YR3/3 粒子粗い。しまり強い。粘性高い。
5 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒子を多く含む。粒子細かい。しまり強い。粘性やや高い。
6 明褐色土 7.5YR5/6 粒子細かい。ロームブロック状含む。しまり強い。粘性やや高い。

遺物出土状況：覆土中から礫が2点出土している。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期前半の時期が考えられる。(笠原)

P-84 (図VI-24、図版80-4、図版81-1)

位置・立地：G・H-29・30

規模：0.84m/0.52m×0.74m/0.50m×0.17m

平面形：円形。

確認・調査：V層上面で確認した平面が円形を呈する土坑で、断面形は皿形を呈する。覆土は黒色腐植土の単層で、自然に流入し堆積したものと思われる。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。性格は不明。

- 土層：1 黒色土 N2/ Ⅲ 粒子細かい。しまり強い。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期前半の時期が考えられる。(笠原)

P-89 (図VI-24、図版83-2・3)

位置・立地：G-22

規模：0.87m/0.68m×0.83m/0.69m×0.29m

平面形：円形。

確認・調査：V層上面で確認した平面が円形を呈する土坑である。東側にはP-80~82がある。

覆土は主にⅢ層の腐植土と、その下位にはロームの多く混じる腐植土で構成されている。堆積状況から埋め戻された可能性も考えられる。掘り込み面はⅢ層中と思われる。性格は不明。

- 土層：1 褐色土 7.5YR4/4 Ⅲ 粒子粗い。しまりやや弱い。粘性高い。
 2 褐灰色土 7.5YR4/1 粒子細かい。しまりやや強い。粘性高い。
 3 褐灰色土 10YR4/1 粒子やや粗い。しまりやや強い。粘性やや高い。
 4 明褐色土 7.5YR5/6 粒子細かい。しまりやや強い。粘性高い。
 5 橙色土 7.5YR6/6 Vブロック状。粒子細かい。しまり強い。粘性高い。

遺物出土状況：覆土中と床面から礫がそれぞれ1点出土している。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期前半の時期が考えられる。(笠原)

P-90 (図VI-25、図版83-4、図版84-1)

位置・立地：H-21

規模：0.66m/0.42m×0.59m/0.42m×0.33m

平面形：円形。

確認・調査：近現代の攪乱層除去中に、円形の落ち込みがあることを確認した。平面が円形を呈する土坑である。覆土上部は攪乱層除去の際にわずかに掘り込んでしまった。覆土は主にⅢ層の腐植土と、ロームの混じる腐植土で構成されている。堆積状況から自然に流入し堆積したものと考えられる。掘り込み面はⅢ層中と思われる。性格は不明。

- 土層：1 黒褐色土 7.5YR3/1 Ⅲ 粒子やや粗い。しまり強い。粘性高い。
 2 明褐色土 7.5YR5/6 Vブロック状含む。粒子やや粗い。しまり強い。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代中期前半の時期が考えられる。(笠原)

P-92 (図VI-25、図版84-4)

位置・立地：M-17・18、C地区とD地区の間の段丘緩斜面の一番高い部分、標高39.3m付近に位置する。

規模：(0.96m)/0.82m×(0.83m)/0.54m×(0.51m)

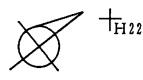
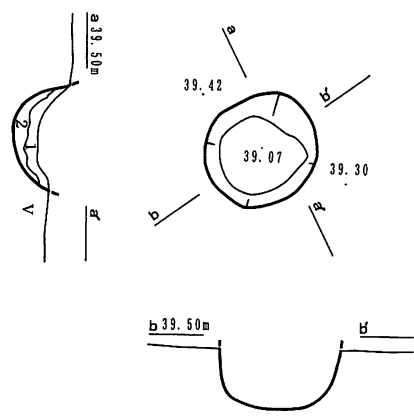
平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。壙底はほぼ平坦で、壁面は垂直に立ち上がったあと開く。埋土は埋め戻しである。堆積状況から掘り込み面はⅢ層中と考えられる。埋土の堆積状況から墓壇の可能性はある。

- 土層：1 黒褐色土 10YR2/2 Ⅲ>>V (ブロック) 粒子やや粗い。
 2 黒褐色土 10YR2/3 Ⅲ>>Ⅳ>>V (小さいブロック) 粒子やや粗い。しまりややあり。
 3 暗褐色土 10YR3/3 Ⅲ+Ⅳ+V 粒子細かい。
 4 にぶい黄褐色土 10YR4/3 V>Ⅳ>Ⅲ (ブロック) 粒子細かい。

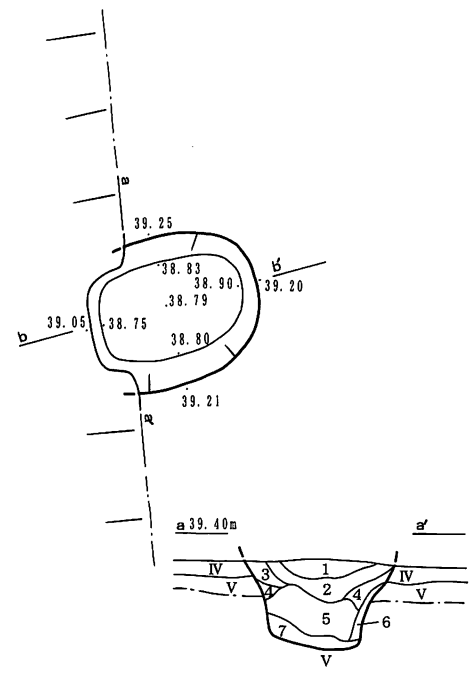
1 遺構

P-90

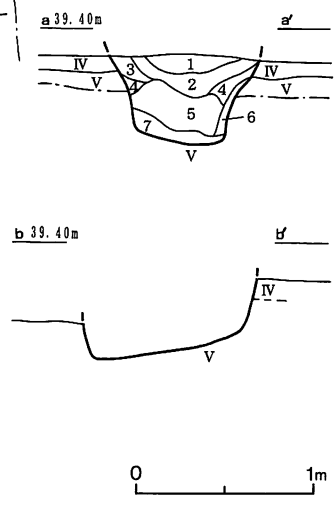
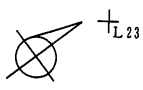
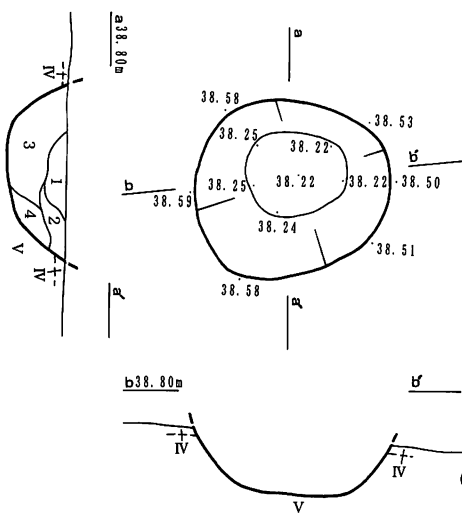


P-92

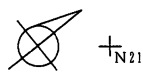
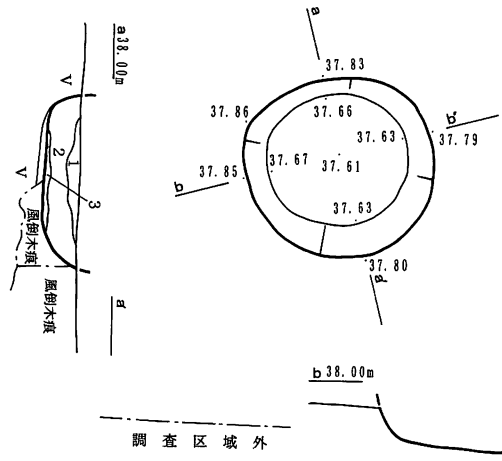
M18



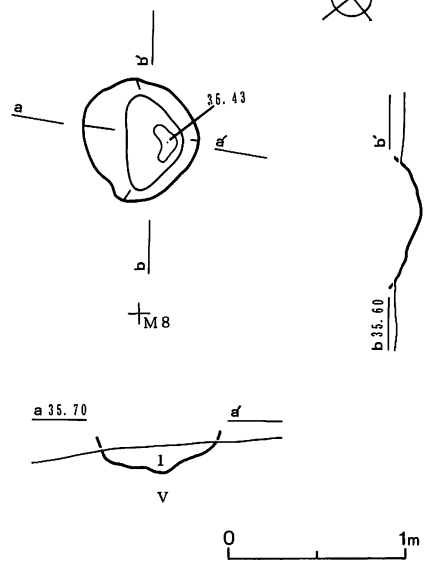
P-103



P-104



P-109



調査区域外

図VI-25 P-90・P-92・P-103・P-104・P-109

5 暗褐色土 10YR4/3 IV>III+V 粒子細かい。しまりあまりなし。

6 褐色土 10YR4/4 V>>IV 粒子細かい。しまりあまりなし。

7 にぶい黄褐色土 10YR4/3 V>IV>III 粒子細かい。しまりあまりなし。

遺物出土状況：覆土5層からメノウ原石1点、フレイク2点、覆土4層からRフレイク1点、覆土2層からフレイク2点出土した。

時期：周辺の包含層からI群B類土器が出土していることから、縄文時代早期後半の可能性はある。
(佐藤)

P-103 (図VI-25、図版89-3・4)

位置・立地：L-22、C地区段丘緩斜面中央の、標高38.6m付近に位置する。

規模：(1.11m)/0.56m×(0.99m)/0.47m×(0.37m)

平面形：楕円形。

確認・調査：IV層中位で黒褐色土の落ち込みとして確認した。坑底はほぼ平坦で、壁面はなだらかに立ち上がる。覆土の堆積状況は自然堆積である。掘り込み面はIII層中と考えられる。

土層：1 黒褐色土 10YR2/3 III+IV>>V 粒子細かい。

2 暗褐色土 10YR3/3 IV>>V>>III 粒子細かい。

3 暗褐色土 10YR3/4 IV>V(ブロック)>>III。

4 にぶい黄褐色土 10YR4/3 IV+V。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺の包含層からIII群B類土器が出土していることから、縄文時代中期後半の可能性はある。
(佐藤)

P-104 (図VI-25、図版90-1.2)

位置・立地：N-20、C地区とD地区の間の段丘緩斜面の一番高い部分、標高37.9m付近に位置する。

規模：(1.05m)/0.79m×(1.01m)/0.73m×(0.25m)

平面形：円形。

確認・調査：V層上面で確認した。坑底はほぼ平坦で、壁面はやや急に立ち上がる。覆土の堆積状況は埋め戻しの可能性がある。掘り込み面はIII層中と考えられる。

土層：1 褐色土 10YR4/4 V(ブロック)>II+III+IV 粒子細かい。

2 黒褐色土 10YR2/2 II+III+IV 粒子細かい。

3 黒褐色土 10YR2/3 II+III+IV>>V(ブロック) 粒子細かい。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代中期～続縄文時代と考えられる。
(佐藤)

P-109 (図VI-25、図版91-5、図版92-1)

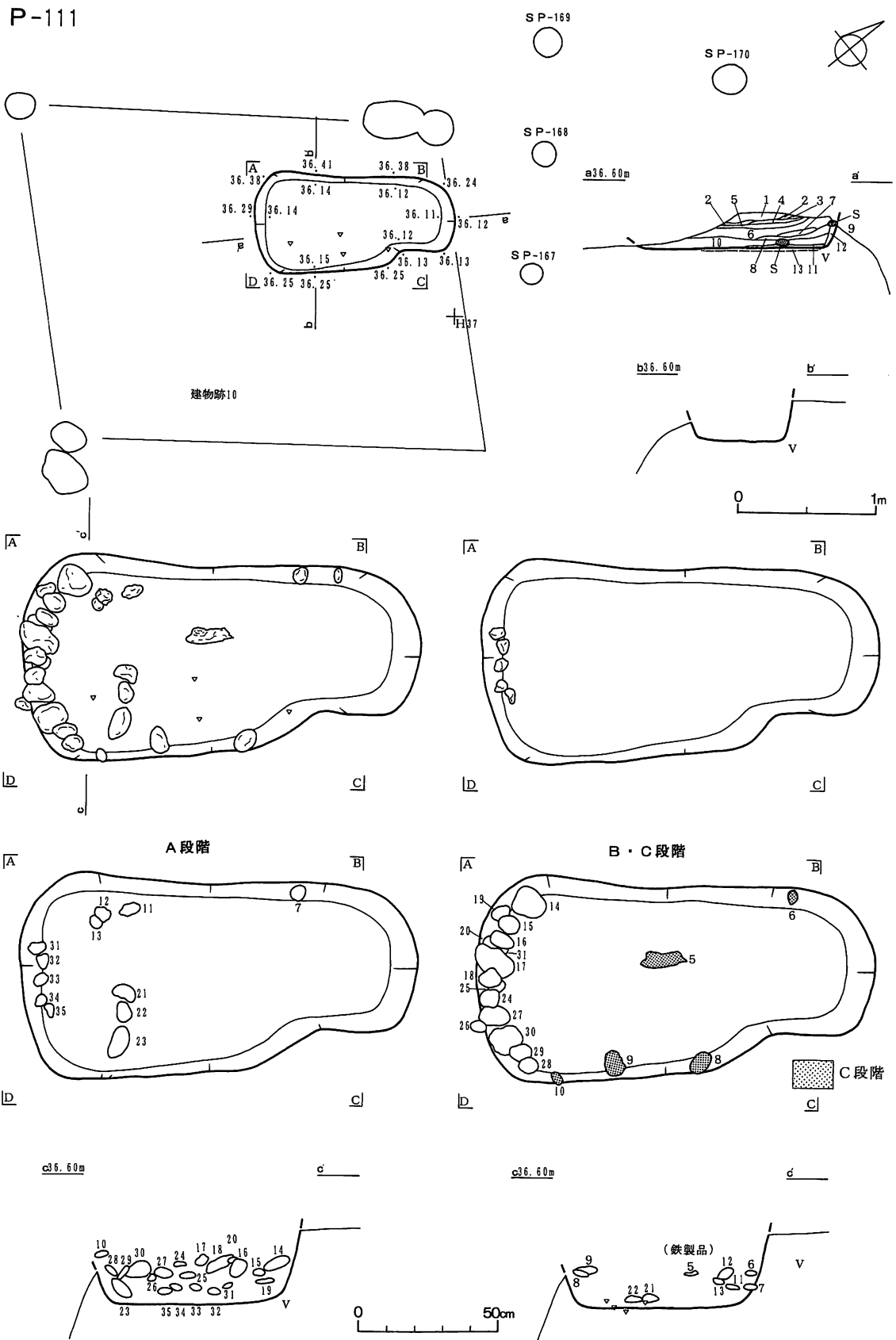
位置・立地：L-7・8

規模：0.68m/0.49m×0.63m/0.32m×0.14m

平面形：不整形。

確認・調査：H-7の調査終了後、周辺包含層調査中に不整形の落ち込みを確認した。半截し、坑底と壁面を確認した。覆土はIII層腐植土の単層で、自然に流入し堆積したものと思われる。

1 遺構



図VI-26 P-111

土層：1 黒色土 7.5YR2/1 III 粒子粗い。しまり弱い。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物から縄文時代早期I群A類の時期が考えられる。

(笠原)

P-111 (図VI-26、図版92-4・5、93-1・2、131-7)

位置・立地：G-36、C地区とB地区間の沢の左岸に面して、標高36.4m付近に位置する。

規模：(1.44m)／1.26m×(0.75m)／0.65m×(0.30m)

平面形・形態：片袖状に張出しのある長方形。

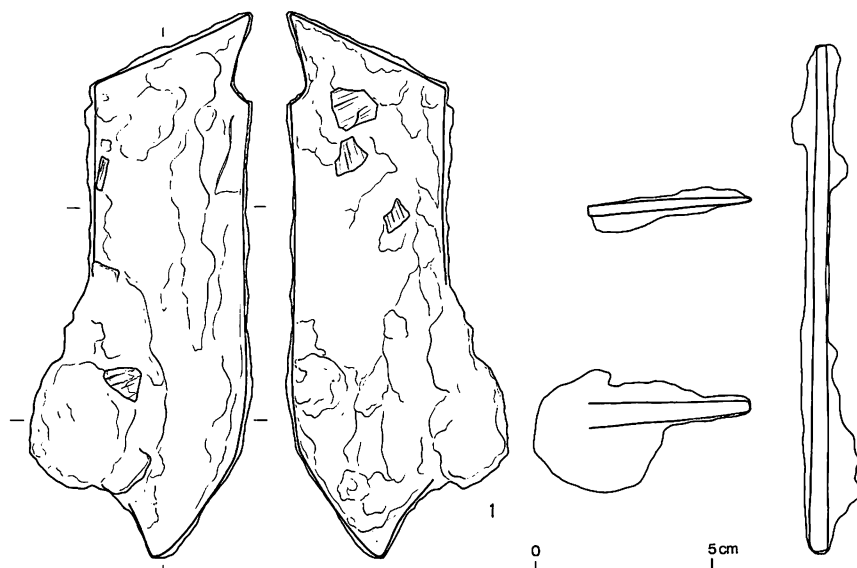
確認・調査：周辺は沢の埋立てに伴う攪乱がV層上面までおよんでおり、最終的にはV層上面で確認した。坑底はほぼ平坦で、張出し部分を除き被熱のため硬化している。壁面は急に立ち上がる。掘り込み面はI層～Ⅲ層上面と考えられる。覆土中に炭化物層(覆土2、5、11層)がみられ、その下層(覆土6層、坑底(覆土13層))が被熱していることから、炭窯と判断した。炭化物層には細かな炭化物粒のほか、小枝状のものがみられる。上部の構造は攪乱のため不明である。周辺には建物跡10及びSP167～170があり、上屋を持っていた可能性がある。

炭窯は覆土の観察と礫の出土状態から2度改築され、最低4度使用されている。貼り床や壁面の再構築により規模は改築のたび縮小している。

A段階：炭窯は外形を掘り込んだあと、奥の壁面に覆土12層を貼ったときに31～35の礫を置き、張出し部分手前の右側壁面上部に7の礫を置いている。その状態で覆土13層を坑底として一度使用している。

B段階：坑底は覆土9、10層を貼り構築し、覆土10層を貼ったときに21～23を置いている。壁面は右側壁面に覆土10層を貼り、その上部に11～13の礫を置いている。奥の壁面には覆土10層を貼ったのち、覆土9層を貼り、14～20、24～30の礫を積んでいる。坑底には炭化物層がみられないため、全て掻き出していると考えられる。

C段階：坑底は覆土6、7層を貼り構築している。壁面は左側壁面、張出し部分手前の右側壁面に覆土6層を貼り、その上に8、9および6の礫を置いている。奥の壁面はB段階の壁面をそのまま使用している。炭化物層が灰と考えられる層を挟み2つに分かれることから、2度使用していると考え

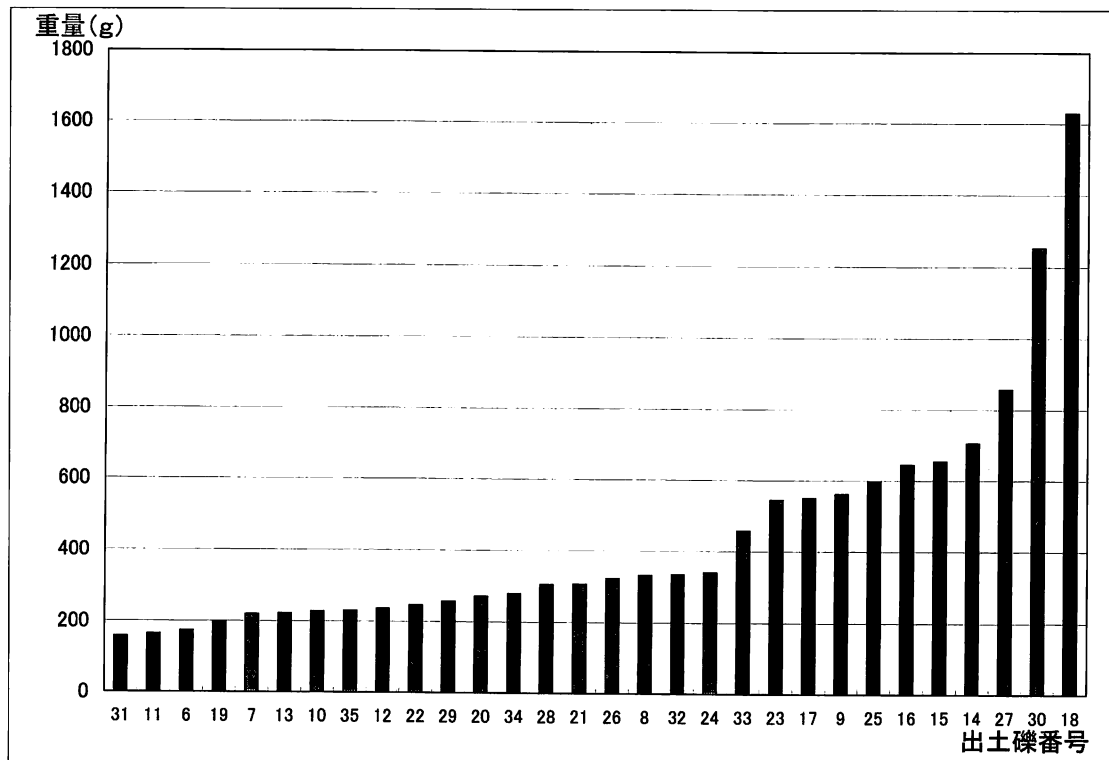


図VI-27 P-111出土の遺物

1 遺構

P-111 出土礫一覽表

出土礫番号	層位	重さ(g)	石材	備考
6	6層	173	安山岩	
7	12層	220	安山岩	風化
8	6層	333	砂岩	
9	6層	562	安山岩	
10	6層	228	安山岩	
11	10層	164	安山岩	
12	10層	236	不明	被熱著しい
13	10層	222	安山岩	風化
14	9層	706	安山岩	
15	9層	654	安山岩	風化
16	9層	644	安山岩?	被熱著しい
17	9層	550	珪岩	
18	9層	1630	珪岩	
19	9層	198	不明	被熱著しい
20	9層	272	花崗岩	
21	11層上面	308	珪岩	
22	11層上面	246	不明	被熱著しい
23	10層	545	安山岩	
24	9層	342	安山岩	風化
25	9層	598	安山岩	
26	9層	324	珪岩	
27	9層	857	安山岩?	被熱著しい
28	9層	306	安山岩	風化
29	9層	257	安山岩?	風化
30	9層	1253	砂岩	
31	12層上面	157	頁岩	
32	12層上面	336	安山岩	風化
33	12層上面	460	安山岩?	風化
34	12層上面	280	安山岩	
35	12層上面	230	不明	被熱著しい



P-111 出土礫重量分布

ている。

坑底及び壁面に組まれる礫は重量分布により、3つのまとまりがとらえられる。A：157～336g。B：460～706g。C：857～1630g。見た目の印象は、Aは握りこぶしより小さいもの、Bは握りこぶし大、Cはそれ以上のものである。利用方法は大きくはB・Cを組み、その間をAで埋めたと考えられる。

- 土層：1 にぶい赤褐色砂質土 5YR4/3 径2～10mm炭化物粒と、径40mmの焼土（ブロック）を含む。
 2 黒色土 5YR1.7/1 径2～10mm炭化物粒と、径2～4mmの焼土粒、長さ40mm程度の小枝状のものを含む。
 3 明赤褐色粘土 5YR5/6 4が赤化したもの。
 4 灰白色粘土 5YR8/2。
 5 黒色土 5YR1.7/1 径2～10mmの炭化物粒と、径2～4mmの焼土粒、長さ40mm程度の小枝状のものを含む。
 6 にぶい赤褐色粘質土 5YR5/3 径2～10mmの炭化物粒と、径2～4mmの焼土を多く含む。
 4+V（ブロック）
 7 灰褐色粘質土 5YR4/2 6>V。
 8 にぶい赤褐色粘質土 5YR5/4 V>6。
 9 にぶい橙色粘質土 5YR7/3 Vが若干赤化したもの。
 10 8と同じ。
 11 黒色炭化物 5YR1.7/1 2より径2～4mmの焼土粒を多く含む。
 12 にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4 V≫Ⅲ。
 (13) にぶい橙色粘質土 5YR7/3 被熱のため赤化、硬化した基盤（V層）。

遺物出土状況：覆土2層上面から板状の鉄製品が出土した。

時期：アイヌ文化期以降近代までと考えられる。（佐藤）

掲載遺物：石器 出土した礫は安山岩・珪岩の円礫が多くみられる。また、特に安山岩には、基盤層の礫にみられるような、風化層の厚いものや酸化鉄と思われる層が形成されているものも多くある。これらのことから、礫の多くは付近の沢などで容易に採取できるものと考えられる。（柳瀬）

金属製品 板状の鉄製品である。大きさは15.9×6.4×3.5cm上端及び下端は欠損している可能性がある。縦断面は下に向いやや厚みを増し、横断面は右側縁に向かい厚みは減じている。上下左右の端部及び辺縁は尖っている部分はなく、刃部を構成しているようには見えない。左下端には、瘤状の錆があり、X線写真では厚さ1mm程度の鉄の剥片が含まれていることが分かったが、詳細は不明である。天井部分の吊り道具の破片または灰を掻き出す道具の破片の可能性はある。（佐藤）

d 焼土

F-6（図VI-29、図版95-2）

位置・立地： H-7-c。H-9に隣接し、F-7と並ぶ。

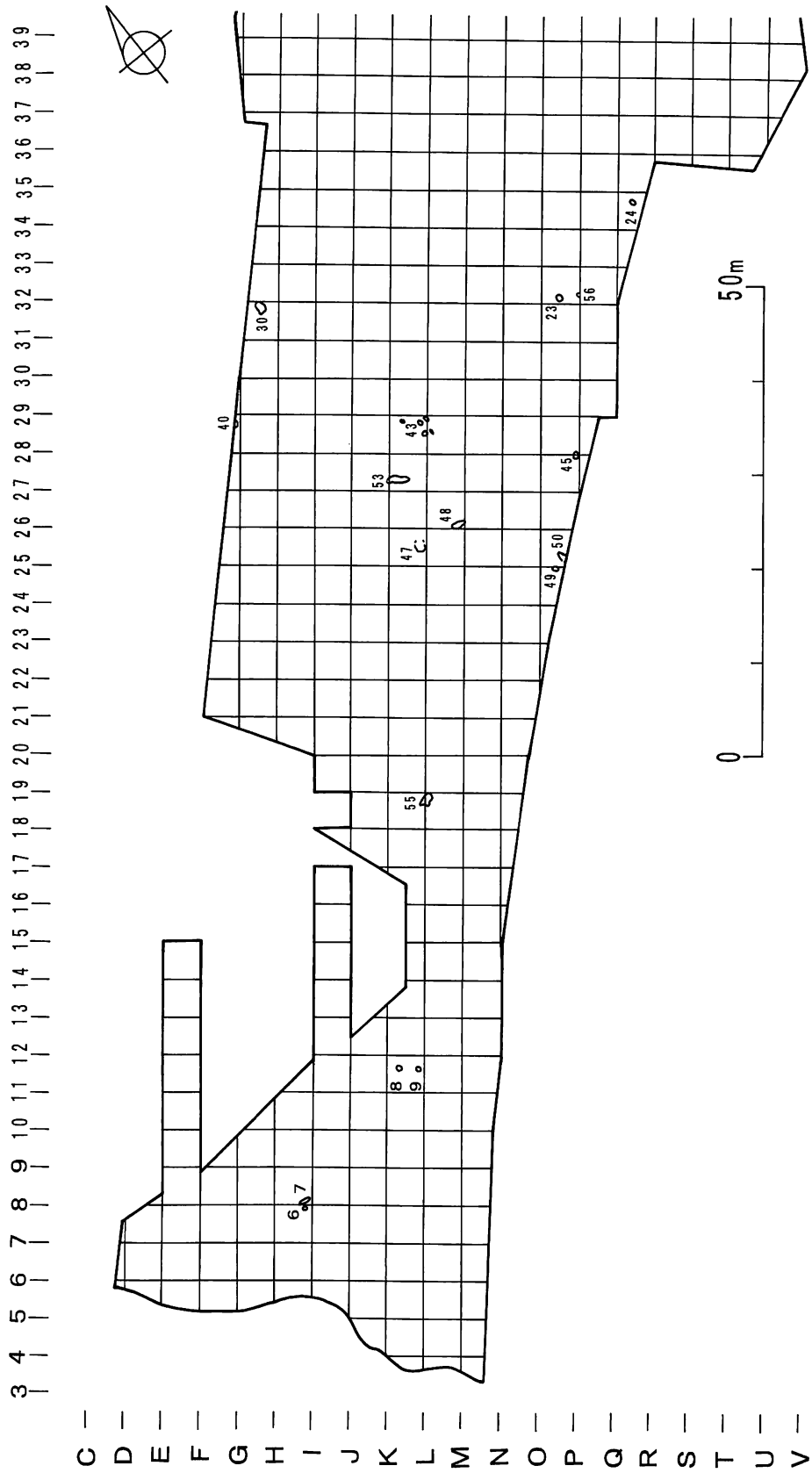
規模：0.43m×0.33m/0.07m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層下位で確認した。

土層：1 黒褐色土（7.5YR2/2）に径10mmほどの赤褐色焼土粒（5YR4/6）が混じる。

特徴：風倒木痕が近くにあり、また焼土粒のまとまりであったことからその場で焚かれたものではない。



图VI-28 C·D地区烧土配置

く、隣接するF-7が風倒木の影響を受けた二次堆積と考えられる。

遺物出土状況：焼土中からフレイクが10点出土した。

時期：H-9との関連が考えられることおよび、確認時の層位から縄文時代早期前半の遺構と考えられる。 (藤原)

F-7 (図VI-29、図版95-3)

位置・立地： H-8-b。H-9に隣接し、F-6と並ぶ。

規模：1.10m×0.52m/0.07m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層中で焼土粒が散在しており、さらに掘り下げたⅢ層下位で明瞭な焼土として確認した。

土層：1 焼土、暗赤褐色土(5YR3/4)粘性やや強。

特徴：非常に鮮明で明瞭な焼土である。

遺物出土状況：焼土中からフレイクが1点、礫片1点が出土した。

時期：H-9との関連が考えられることおよび、確認時の層位から縄文時代早期前半の遺構と考えられる。 (藤原)

F-8 (図VI-29、図版95-4)

位置・立地： K-11-d。調査区南西段丘縁の低位段丘面から高位段丘面にかけての緩斜面に位置する。F-9と隣接する。

規模：0.60m×0.51m/0.09m

平面形：円形。

確認・調査：Ⅲ層を2cmほど掘り下げた段階で焼土粒が散在していた。さらに2~3cmほど掘り下げた明瞭な焼土を確認した。

土層：1 焼土、暗赤褐色焼土(5YR3/4)粘性、しまりとも弱。

遺物出土状況：焼土中からⅢ群a類土器が出土した。

時期：確認時の層位および焼土中出土の遺物から縄文時代中期前半の遺構と考えられる。 (藤原)

F-9 (図VI-29、図版95-5)

位置・立地： K-11-c。調査区南西段丘縁の低位段丘面から高位段丘面にかけての緩斜面に位置する。F-8、FC-6と隣接する。

規模：0.52m×0.49m/0.20m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層を2cmほど掘り下げた段階で焼土粒が散在していた。さらに2~3cmほど掘り下げた明瞭な焼土を確認した。

土層：1 焼土、暗赤褐色焼土(5YR3/3)粘性、しまりとも弱。径10mmほどの赤褐色(5YR4/6)焼土粒が混じる。

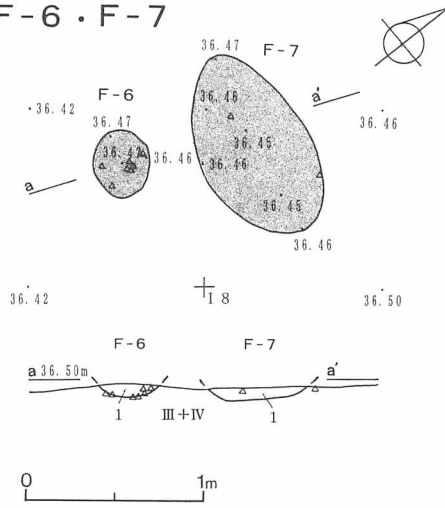
特徴：非常に厚い焼土であり、断面から掘り込みを持つかと推測される。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

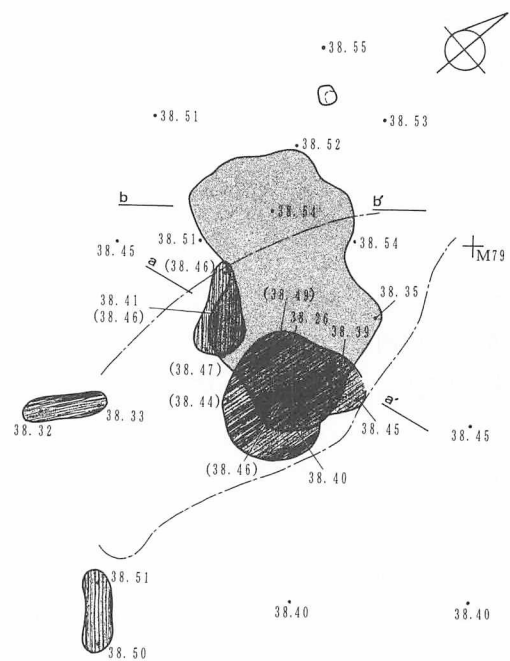
時期：確認時の層位および焼土中出土の遺物から縄文時代中期前半の遺構と考えられる。 (藤原)

1 遺構

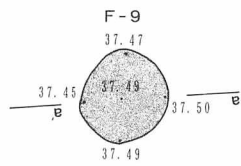
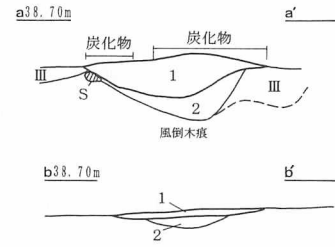
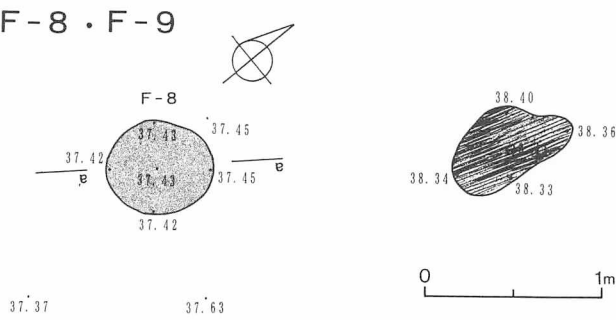
F-6・F-7



F-12



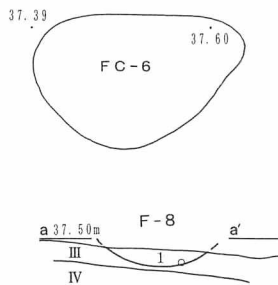
F-8・F-9



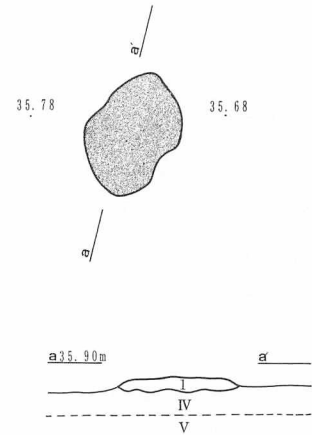
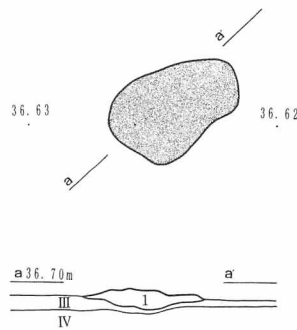
F-23



F-24



L12



炭化物
焼土



図VI-29 F-6・F-7・F-8・F-9・F-12・F-23・F-24

F-12 (図VI-29、図版95-8)

位置・立地：M-78

規模：1.00m×0.96m/0.18m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層調査中に風倒木痕の落ち込みで炭化物が集中し、焼土粒が散在していた。更に5cmほど掘り下げ、明瞭な焼土を確認した。

土層：1 焼土、暗赤褐色土(5YR3/6)しまり弱。炭化物が大量に混じる。

特徴：焼土は風倒木痕の落ち込みに沿ってレンズ状に検出された。炭化物は焼土よりも上位でレベル差を持って散在していた。検出状況から人為的な焼土とは考え難い。

遺物出土状況：遺物は出土しなかった。

時期：不明。

(藤原)

F-23 (図VI-29、図版97-2)

位置・立地：O-32

規模：0.75m×0.50m×0.13m

平面形：不整な楕円形。

確認・調査：Ⅲ層の下位で検出した。形成面はⅢ層中位～下位と思われる。平面形は不整な楕円形で、断面形はレンズ状を呈する。

土層：1 赤色土 7.5YR4/6 粒子粗い。しまりやや弱い。粘性なし。炭化物を微量に含む。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物からⅢ群A-3類土器の時期と推測される。

(笠原)

F-24 (図VI-29、図版97-3)

位置・立地：Q-34

規模：0.68m×0.48m×0.10m

平面形：不整形。

確認・調査：調査区南東隅のⅢ層の下位で検出した。形成面はⅢ層中位～下位と思われる。平面形は不整な楕円形で、断面形はレンズ状を呈する。しまりが強く微細な剥片を含んでいた。

土層：1 赤色土 7.5YR4/6 粒子粗い。しまり強い。粘性低い。

遺物出土状況：微細なフレイク・チップが29点出土した。

時期：周辺包含層の遺物からⅢ群A-2類～Ⅲ群A-3類土器の時期と推測される。

(笠原)

F-30 (図VI-30・31、図版98-1、133-1)

位置・立地：G-31・32、C地区段丘緩斜面中央の標高37.6m付近に位置する。

規模：1.57m×1.17m×0.15m

平面形：不整形。

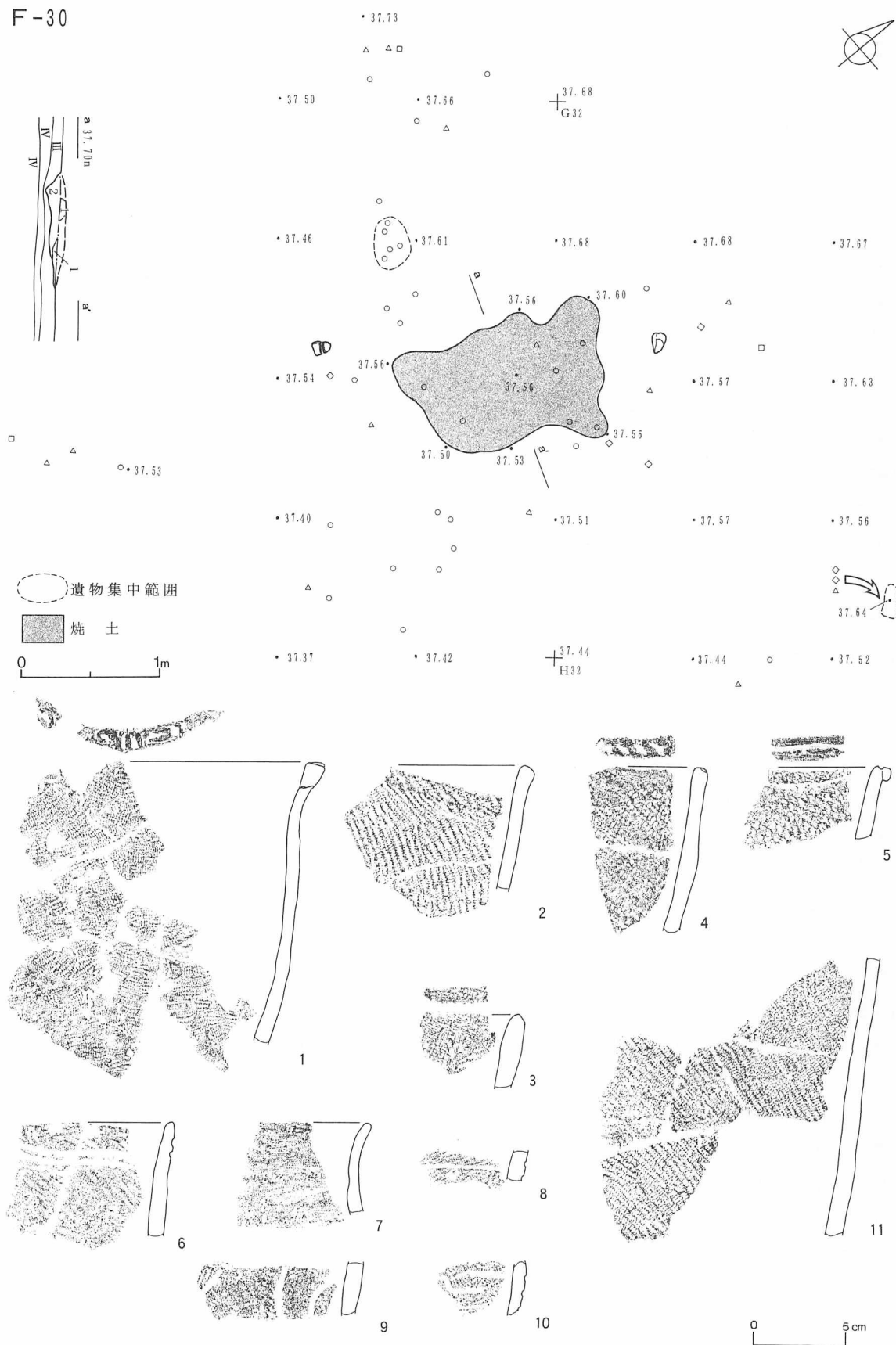
確認・調査：Ⅲ層中位で確認した。

土層：1 黒褐色土 5YR2/2 粒子細かい。径10～20mmの炭化物を多く、径1mmの焼土粒を少量含む。しまりあまりなし。

2 極暗赤褐色土 5YR2/3 径1～2mmの炭化物を少量と径1～4mmの焼土粒を含む。

1 遺構

F-30



圖VI-30 F-30

遺物出土状況：焼土中からⅢ群A-3類土器1点、周辺の包含層からⅢ群A-3類土器131点、Ⅳ群A-1類土器38点、石鏃2点、石槍1点、スクレイパー1点、Uフレイク1点、石核1点、北海道式石冠1点、半円状扁平打製石器1点、礫剥片1点、礫6点（内メノウ1点）、フレイク14点が出土した。
 時期：周辺の包含層出土土器から、縄文時代中期前半、Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。

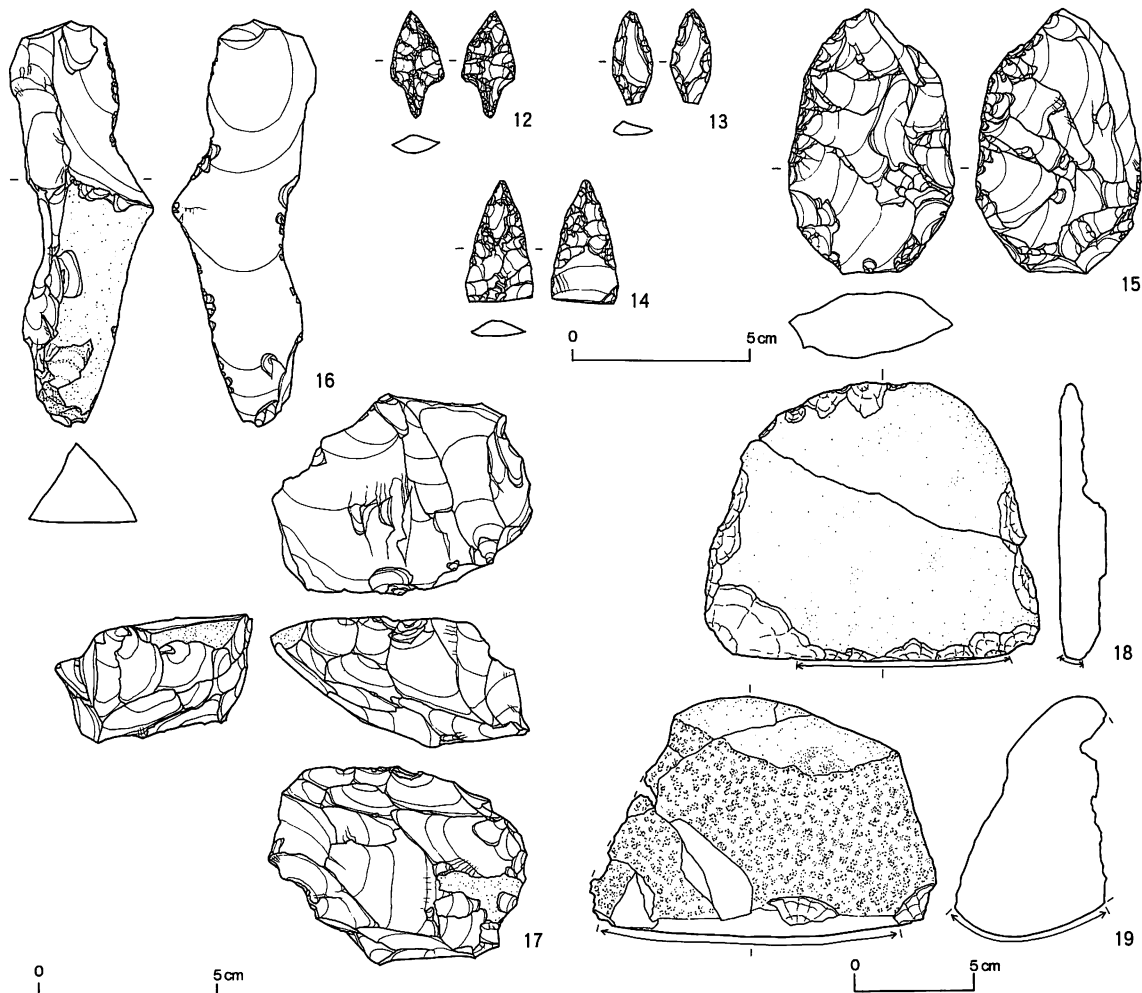
（佐藤）

掲載遺物：土器 9・10はⅣ群A-1類で、他はⅢ群A-3類である。1～7は口縁部。1は2個一組の突起を有し、突起頂部には細い粘土紐の貼付を有する。焼成は良好である。2はやや口唇部が肥厚し、RL斜縄文が施される。3・4は口唇部に縄による押圧が施される。5は口縁端部に貼付帯を有し、口唇部には沈線が施される。地文の縄文は複節である。6は口縁部に2本沈線が施されている。7は無文である。8～11は胴部。8～10は沈線により文様が描き出される。9は二次焼成により赤褐色化している。10はクランク文が施されている。

（広田）

石器 12～14は石鏃。12は2 a類、13は2 b類。14は未成品と思われる。15は両面加工石器。石槍の未成品の可能性がある。16はUフレイク。右側縁下半に使用痕がみられる。17は石核である。18・19はすり石。18は5類：半円状扁平打製石器、19は6類：北海道式石冠で、被熱により細かく破損して出土した。

（柳瀬）



図VI-31 F-30出土の遺物

1 遺構

F-40 (図VI-32、図版99-2)

位置・立地：F-28

規模：0.40m×0.29m×0.11m

平面形：不整な楕円形。

確認・調査：調査区西側隅のIV層の上面で検出した。形成面はIII層下位と思われる。平面形は不整な楕円形で、断面形はレンズ状に近い。微細な炭化物を含んでいる。

土層：1 赤色土 10YR5/8 粒子粗い。炭化物を少量含む。しまり強い。粘性やや高い。

2 黒色土 7.5YR2/1 粒子粗い。炭化物少量含む。しまりやや強い。粘性高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物からIII群A-3類土器の時期と推測される。

(笠原)

F-43 (図VI-32、33、図版99-5、133-2)

位置・立地：K・L-28、C地区段丘緩斜面中央の、標高37.5m付近に位置する。

規模：(0.63m)×(0.46m)×(0.10m) 0.84m×0.43m×0.03m 0.36m×0.11m×0.02m

(0.25m)×(0.15m)×0.01m

平面形・形態：不整形。

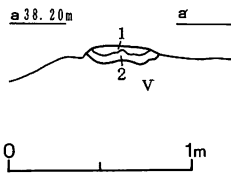
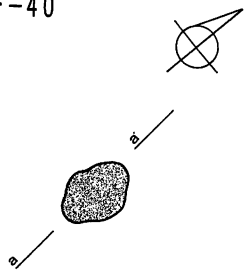
確認・調査：III層中位で確認した。

土層：(a-a') 1 極暗赤褐色土 2.5YR2/4 粒子細かい。径2~4mmの炭化物粒を多く含む。

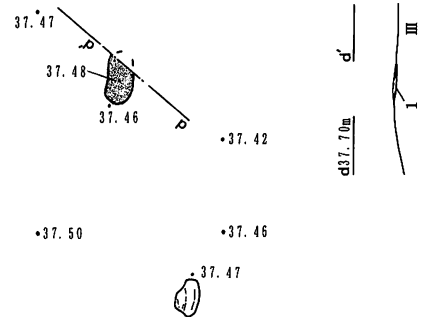
2 赤褐色土 2.5YR4/6

(b-b') 1 極暗赤褐色土 2.5YR2/4 粒子細かい。径2~4mmの炭化物粒を多く含む。

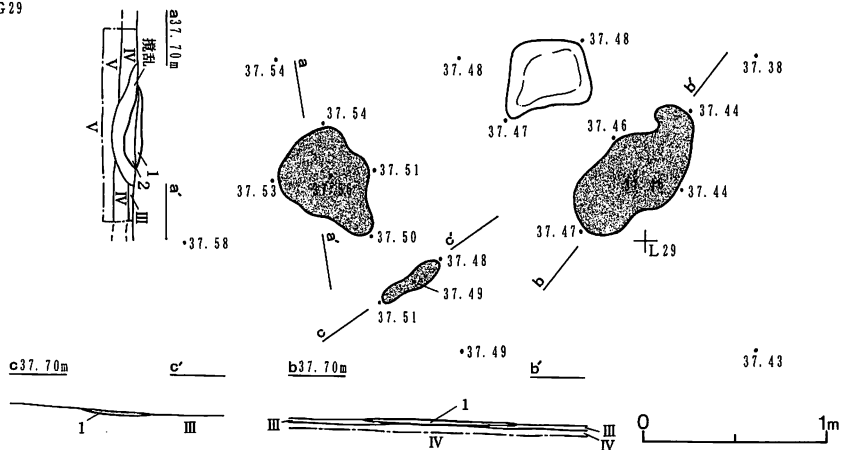
F-40



F-43



†G29



図VI-32 F-40・F-43

(c-c') 1 極暗赤褐色土 2.5YR2/4 粒子細かい。径2～4mmの炭化物粒を多く含む。

(d-d') 1 極暗赤褐色土 2.5YR2/2 粒子細かい。径2～4mmの焼土粒を少量含む。

径2～4mmの炭化物粒を非常に多く含む。

遺物出土状況：周辺の包含層から北海道式石冠1点、石皿1点、K-28の包含層からⅢ群A類土器が出土した。

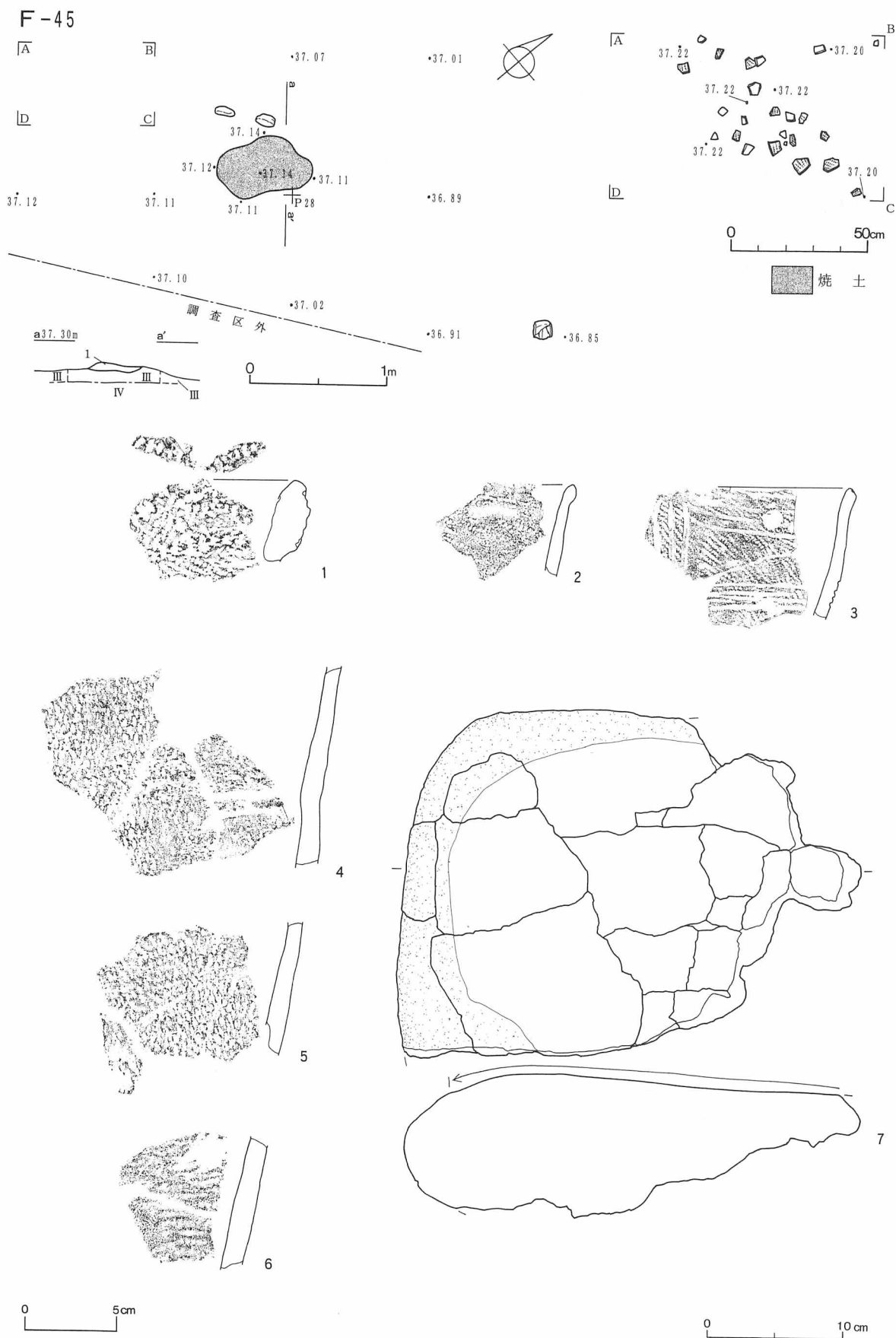
時期：周辺の包含層出土土器から、縄文時代中期前半、Ⅲ群A類土器の時期と考えられる。（佐藤）

掲載遺物：石器 1は石皿。図の腹面を上にして出土した。腹背両面に使用痕が見られる。写真で掲載したすり石は、6類：北海道式石冠の可能性があるもので、加工痕・明瞭な使用痕は認められないが、石材自体の形状が北海道式石冠に類似する。（柳瀬）



図VI-33 F-43出土の遺物

1 遺構



図VI-34 F-45

F-45 (図VI-34、図版99-7・8)

位置・立地：O-27・28、C地区段丘緩斜面中央の、標高37.1m付近に位置する。

規模：0.69m×0.48m×0.07m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層中位で確認した。

土層：1 暗赤褐色土 5YR3/4 粒子細かい。径2～4mmの炭化物を多く含む。径1～20mmの焼土粒を含む。

遺物出土状況：周辺の包含層からⅢ群A-2類土器が1個体と4点、Ⅲ群A-3類土器3点、Ⅳ群A-1類土器5点、石皿1点、礫剥片3点、礫23点が出土した。

時期：周辺の包含層出土土器から、縄文時代中期前半、Ⅲ群A-2類土器の時期と考えられる。

(佐藤)

掲載遺物：土器 4～6はⅡ群B類、1・3はⅢ群A-3類、1～3は口縁部。1は突起を有し、口唇部に刻みが施される。口縁部には低い貼付帯を有し、半截竹管状工具による刺突が施される。2は口唇部がやや肥厚する。3は縦と横方向の沈線文が施される。4～6は胴部。多軸絡条体回転文が施される。

(広田)

石器 7は石皿。被熱のため、細かく破損して出土した。

(柳瀬)

F-47 (図VI-35、図版100-1)

位置・立地：K-25、C地区段丘緩斜面中央の、標高38.2m付近に位置する。

規模：1.15m×(0.68m)×0.06m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層中位で確認した。

土層：1 極暗赤褐色土 5YR2/3 粒子細かい。径1～4mmの炭化物を含む。径1～3mmの焼土粒を少量含む。

遺物出土状況：周辺の包含層から礫1点、K-25の包含層からⅢ群B類土器4点が出土した。

時期：周辺の包含層出土土器から、縄文時代中期後半、Ⅲ群B類土器の時期と考えられる。(佐藤)

F-48 (図VI-35、図版100-2)

位置・立地：L-26、C地区段丘緩斜面中央の、標高37.9m付近に位置する。

規模：(1.54m)×(0.79m)×0.06m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層中位で確認した。

土層：1 極暗赤褐色土 5YR2/3 粒子細かい。径1～4mmの炭化物を含む。径1～4mmの焼土粒を含む。

遺物出土状況：覆土1層から礫5点出土した。

時期：確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

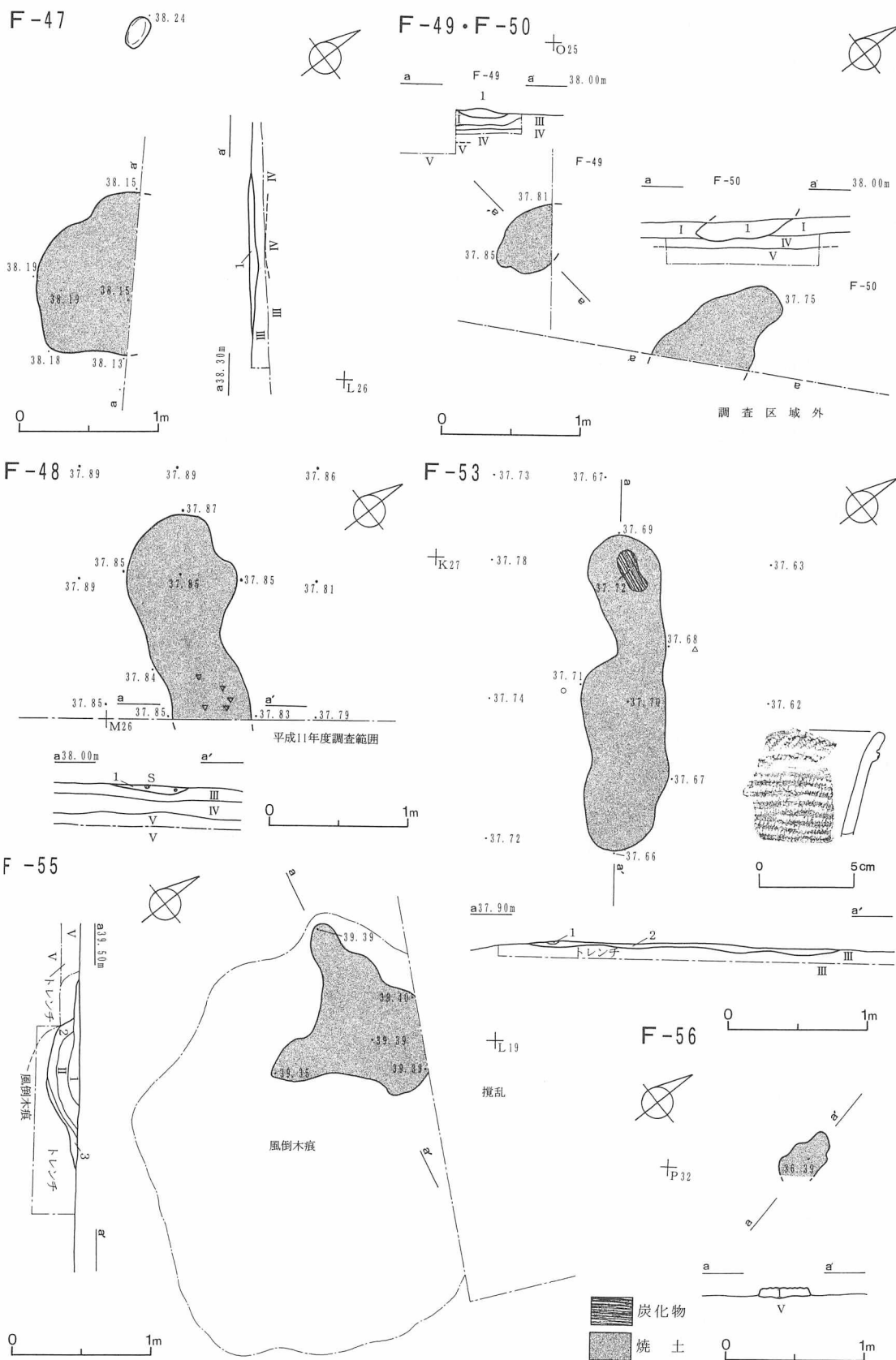
(佐藤)

F-49 (図VI-35、図版100-3)

位置・立地：O-24、C地区段丘緩斜面中央の、標高37.8m付近に位置する。

規模：(0.56m)×(0.42m)×(0.06m)

1 遺構



図VI-35 F-47・F-48・F-49・F-50・F-53・F-55・F-56

平面形：不整形。

確認・調査：I層下位で確認した。耕作のための攪乱が及んでいたが、土層の状況から本来はIII層中の焼土と考えられる。

土層：1 極暗赤褐色土 5YR2/4 III層相当。粒子細かい。径1～4mmの炭化物を含む。
径1～3mmの焼土粒を含む。

遺物出土状況：O-24の包含層からII群B類土器4点が出土した。

時期：周辺の包含層出土土器から、縄文時代前期後半、II群B類土器の時期と考えられる。（佐藤）

F-50（図VI-35、図版100-4）

位置・立地：O-24、C地区段丘緩斜面中央の、標高37.8m付近に位置する。

規模：(0.92m)×(0.60m)×(0.17m)

平面形：不整形。

確認・調査：I層下位で確認した。耕作のための攪乱が及んでいたが、土層の状況から本来はIII層中の焼土と考えられる

土層：1 極暗赤褐色土 5YR2/3 III層相当。粒子細かい。径1～4mmの炭化物を含む。
径1～8mmの焼土粒を少量含む。

遺物出土状況：O-24の包含層からII群B類土器4点が出土した。

時期：周辺の包含層出土土器から、縄文時代前期後半、II群B類土器の時期と考えられる。（佐藤）

F-53（図VI-35、図版100-6）

位置・立地：J・K-27、C地区段丘緩斜面中央の標高37.7m付近に位置する。

規模：2.24m×0.64m×0.06m

平面形：不整形。

確認・調査：III層中位で確認した。

土層：1 黒色土 5YR1.7/1 径4mm程度の炭化物を多く含む。
2 極暗赤褐色土 5YR2/3 径2～4mmの炭化物と径2mmの焼土粒を若干含む。

遺物出土状況：覆土2層中からII群A類土器1点、III群A-2類土器1点、周辺の包含層からII群A類土器6点、III群A-3類土器1点が出土した。

時期：確認状況と周辺の包含層出土土器から、縄文時代中期前半、III群A-2類土器の時期と考えられる。（佐藤）

F-55（図VI-35、図版100-8）

位置・立地：K・L-18、C地区とD地区の間の段丘緩斜面の一番高い部分、標高39.4m付近に位置する。

規模：1.33m×(1.18m)×0.24m

平面形：不整形。

確認・調査：III層風倒木痕中で確認した。風倒木痕にはKo-dが堆積している。

土層：1 灰黄褐色土 10YR4/2 II (ko-d) + III 径2～30mmの炭化物を多く含む。
2 黒褐色土 10YR2/3 径2～10mmの炭化物を含む。
3 赤褐色土 5YR4/6。

1 遺構

4 黒褐色土 10YR2/3 III 風倒木痕。

5 にぶい黄褐色土 10YR4/3 V 風倒木痕。

遺物出土状況：風倒木痕中からI群A類土器4点が出土した。

時期：確認状況から、アイヌ文化期（Ko-d降下に近い時期）と考えられる。

（佐藤）

F-56（図VI-35、図版101-1）

位置・立地：O-32

規模：0.46m×0.24m×0.09m

平面形：不整な楕円形。

確認・調査：V層上面で検出した。非常に硬く締まる焼土で、他の焼土と締まりや形状などが異なる。

形成面はⅢ層中が考えられる。平面形は不整な楕円形で、南側は平成11年度のトレンチ調査で壊されている。

土層：1 暗赤褐色土 2.5YR3/4 非常に固くしまる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺包含層の遺物からⅢ群A-2～3類の時期と推測される。

（笠原）

e 小ピット

小ピットで配列の認められるものは建物跡として扱っている。これは竪穴などの上部の掘り込みが消失しているものと思われ、上屋があったものと考えられる。これらのものを省いて、以下の小ピットとした。

C地区で小ピットは57カ所検出された。このうち列を成す5カ所は（1）杭列として掲載している。その他は配列の認められなかったもので、ほとんどが柱穴跡と考えられる。

配列の認められなかったもの52カ所については（2）小ピットとして、平面的なまとまりをグリッド単位にまとめて掲載している。

（1）杭列

杭列（図VI-37、図版101-4）

位置・立地：N-31、O-31・32

確認・調査：V層上面で確認した。南北方向に、ほぼ等間隔に配列された杭列である。最も南に位置するSP-37の口径は約25cm、深さ約20cmで坑底がやや尖る。SP-34は口径約40cm、深さ約40cmで最も大型である。SP-35は直径約25cm、長さ約20cmの炭化材が直立し、覆土にはKo-dが混じる。掘り込みの深さは約30cmである。SP-36は口径約25cm、深さ約35cmで坑底はやや尖る。最も北に位置するSP-39は口径約20cm、深さ約15cmで坑底には凸凹がある。

土層：SP-37 1 褐灰色土 7.5YR5/1 ko-d>V。

2 黒褐色土 10YR3/1 V>Ⅲ。

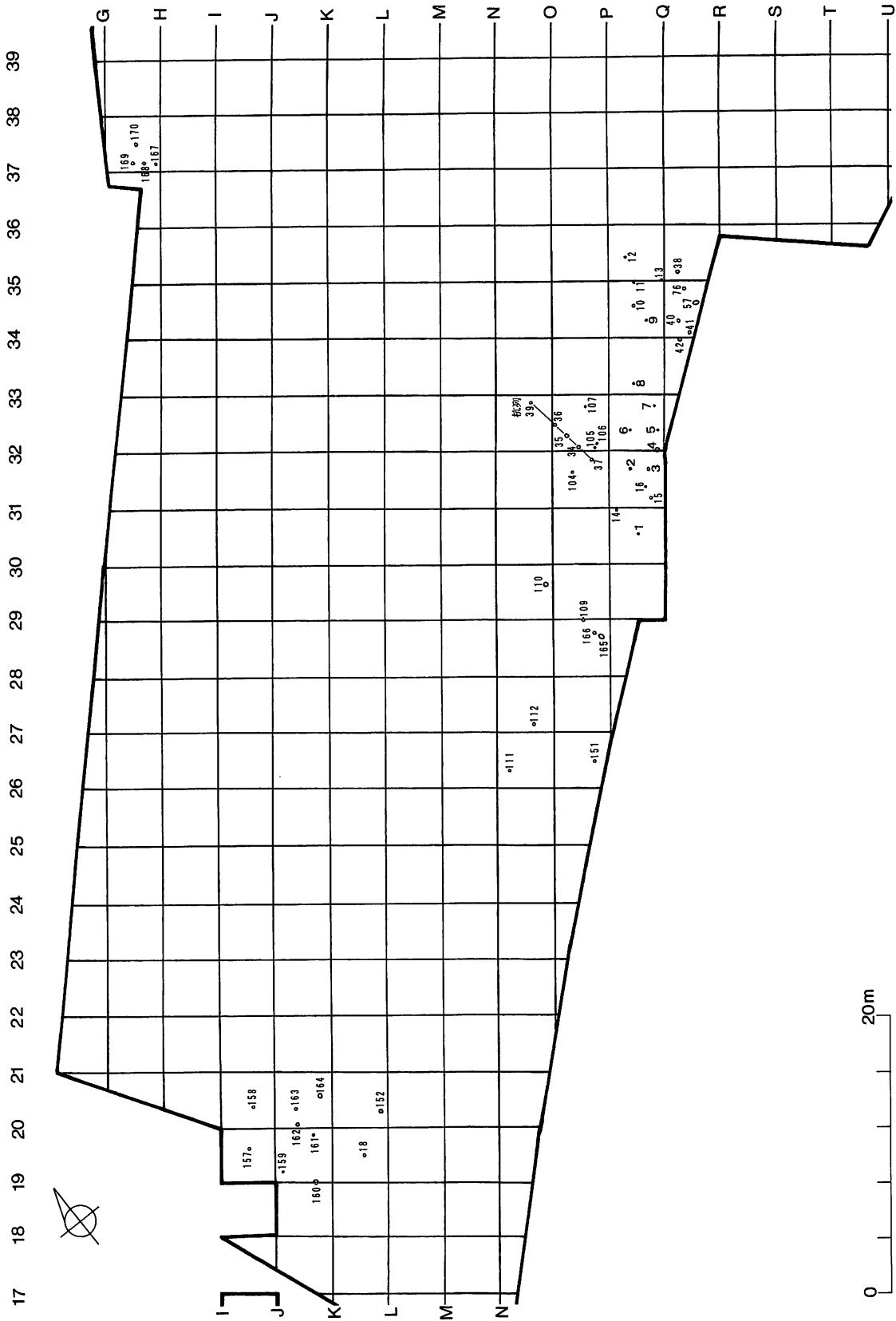
SP-34 1 褐灰色土 7.5YR5/1 ko-d>V。

2 黒褐色土 10YR3/1 Ⅲ>>V しまり弱い。

3 黒褐色土 7.5YR3/1 Ⅲ>V しまり弱い。

4 暗褐色土 7.5YR3/3 Ⅲ>V しまりやや強い。

SP-35 1 黒色炭化材 N2/。



図VI-36 C・D地区杭列・小ピット配置

1 遺構

- 2 褐灰色土 10YR3/1 ko-d≫Ⅲ しまり弱い。
- 3 黒褐色土 7.5YR3/1 Ⅲ≫Ⅴ しまり弱い。
- SP-36 1 褐灰色土 7.5YR6/1 ko-d≫Ⅴ。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/1 Ⅲ>Ⅴ。
- SP-39 1 褐灰色土 7.5YR5/1 ko-d≫Ⅴ。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/1 Ⅲ>Ⅴ しまり弱い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：覆土の堆積状況から近世以降の時期が考えられる。

(笠原)

(2) 小ピット

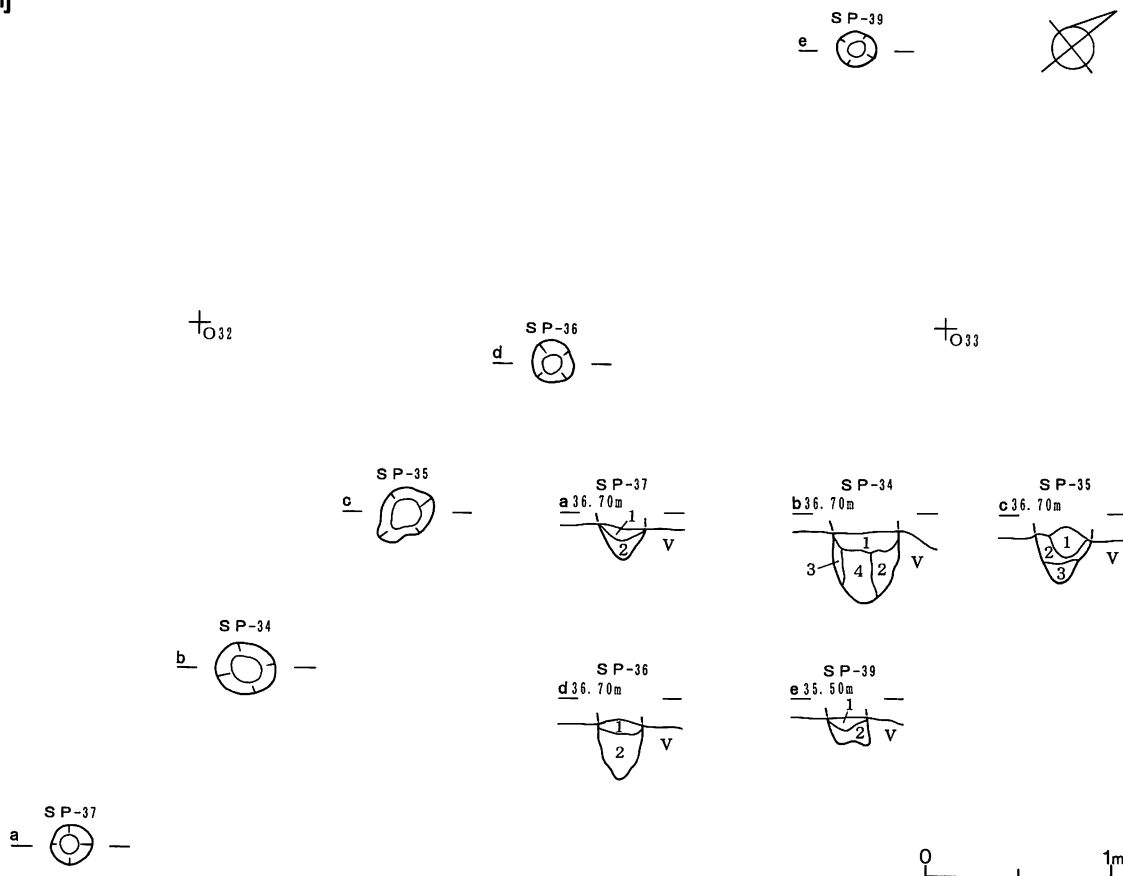
配列の認められない小ピットは52カ所検出され、木の根の跡を誤認しているものがあるかもしれないが、ほとんどは柱穴跡や杭跡と考えられる。SP-9・12・109・110はⅥ層で検出し、この4カ所を除き他はⅤ層上面で検出した。平面形は径15~30cmで円形のものが多く、確認面からの深さ10~20cmだが、やや深いもので30cm程のものがある。

I・J・K-19・20 (図VI-38) SP-18・152・157~164は坑底の丸いものも多く、覆土は暗褐色土である。SP-158・160・164は坑底が平らである。

N・O-26・27 (図V-39) SP-111・112・151は坑底が平らで、覆土は褐色である。

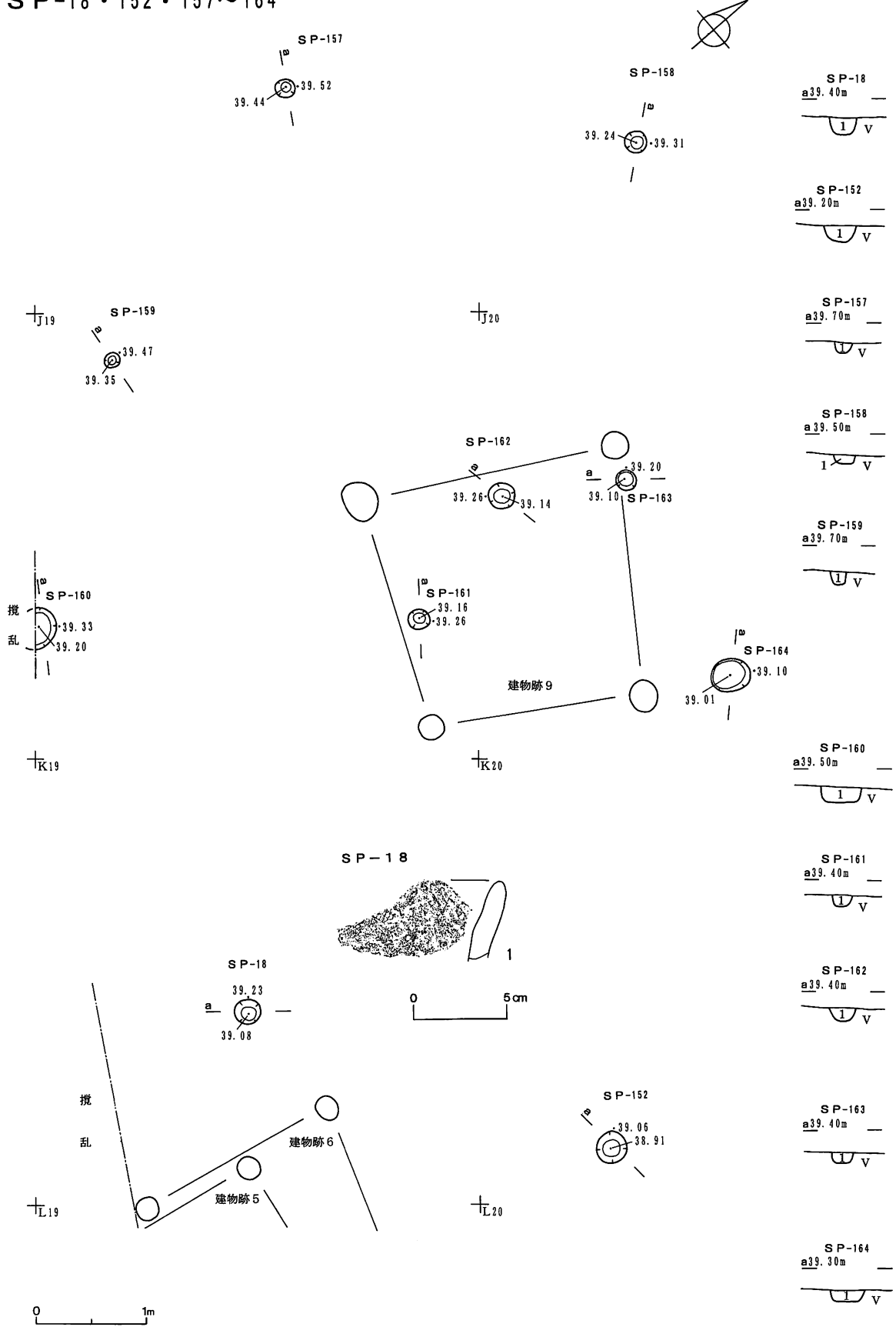
N・O-28・29 (図V-39) SP-109・110・165・166は坑底がほぼ平らで、覆土は暗褐色である。SP-109は斜めである。

杭列

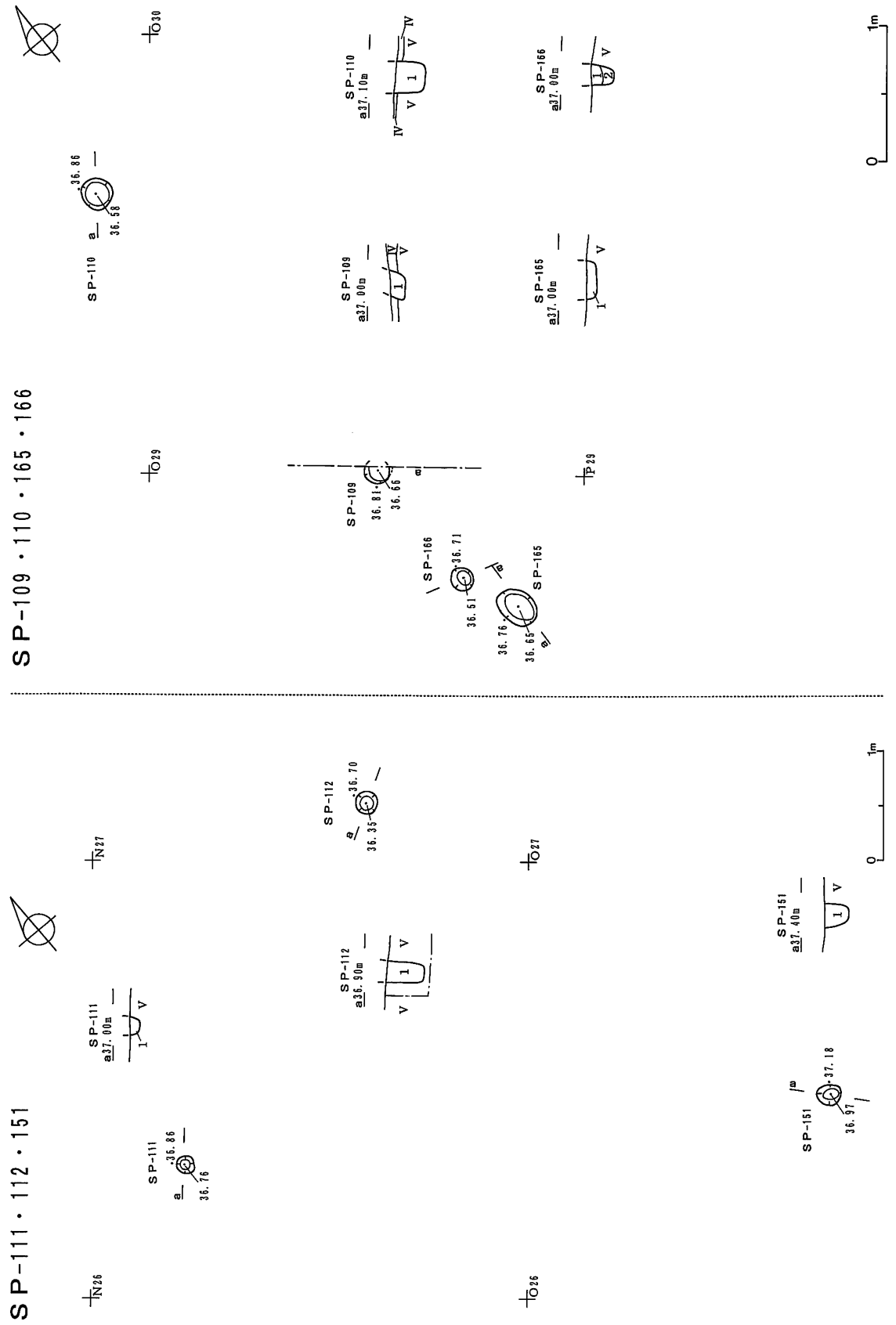


図VI-37 杭列

SP-18・152・157~164



図VI-38 小ピット (1) I・J・K-19・20



図VI-39 小ピット (2) N・O-26・27、N・O-28・29

SP-1~8・14~16・104~107

SP-104



SP-107

SP-105
SP-106

SP-31
36.37
36.22
36.37 SP-14

SP-32

SP-33

SP-2

SP-1
36.13
36.35

SP-6
36.19
36.31

SP-8
35.97
36.01

SP-16
36.22
36.01

SP-3
36.39

SP-15
36.20
36.07
36.20

SP-7
35.99
36.11

SP-2
36.60m

SP-5
36.02
36.22

SP-4
P-10

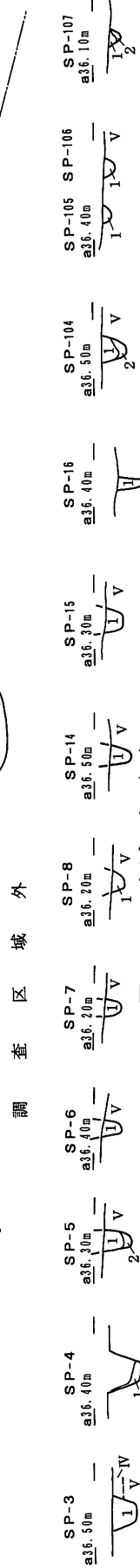
SP-7
35.99
36.11

Q31

Q33

Q33

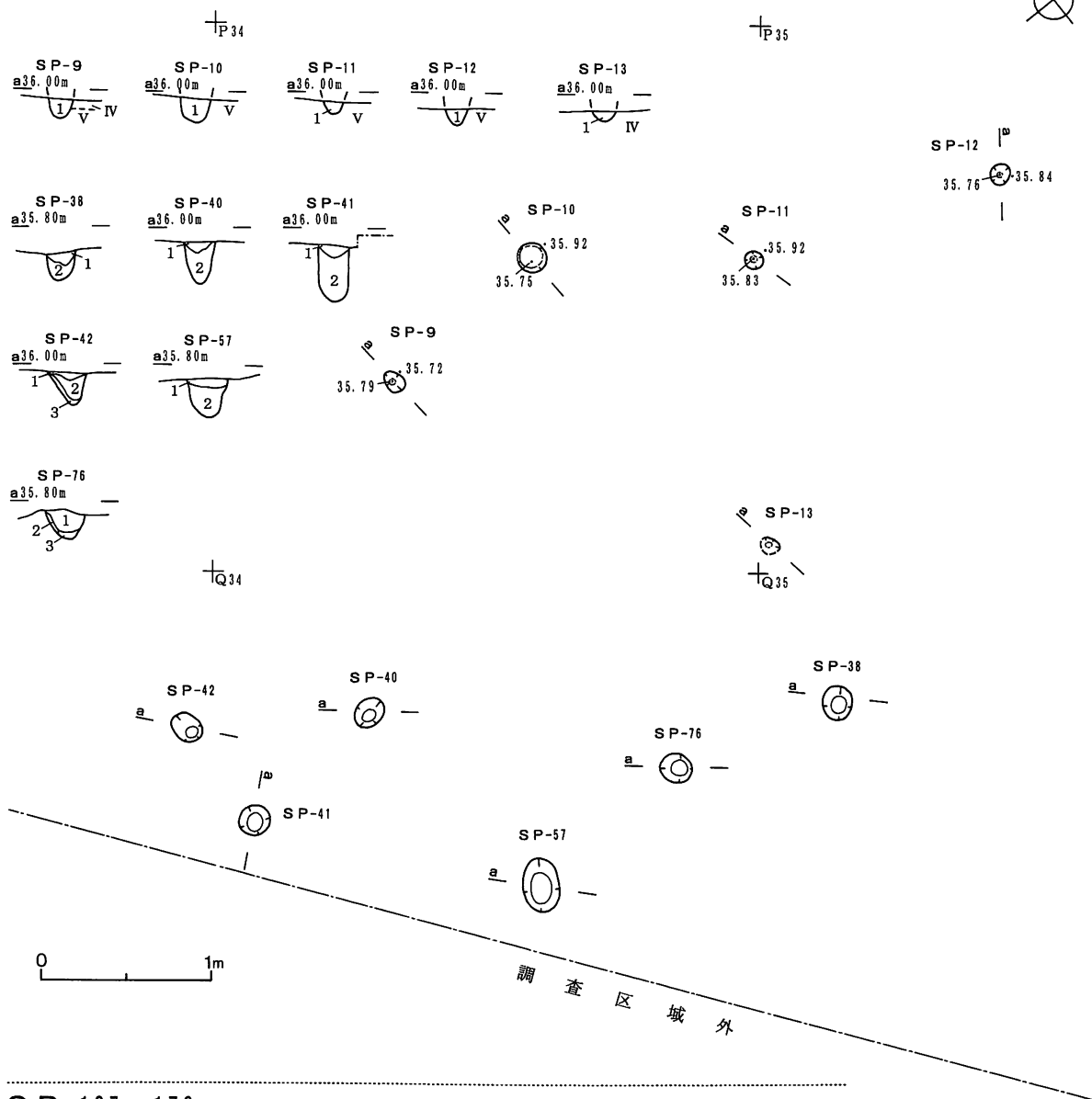
調査区域外



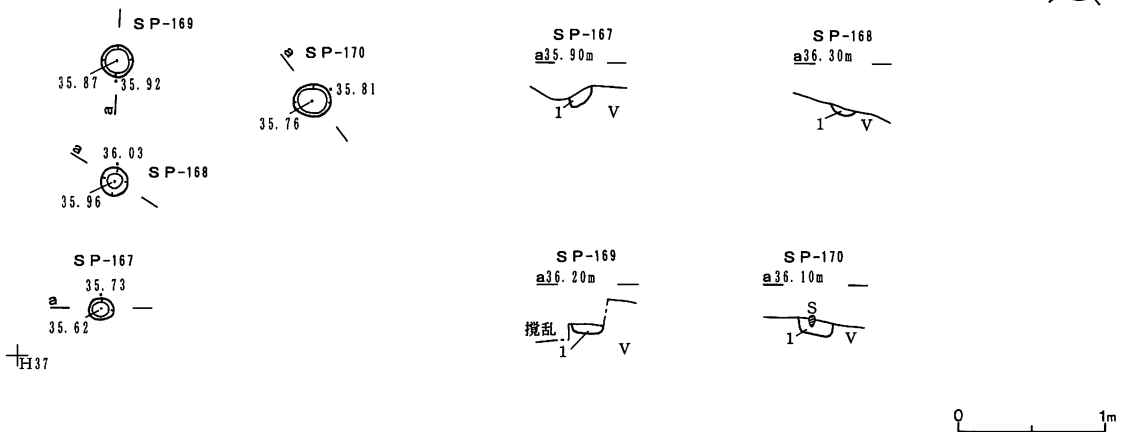
図VI-40 小ピット(3) O・P・-30~33

1 遺構

SP-9~13 . 38 . 40~42 . 57 . 76



SP-167~170



図VI-41 小ピット (4) P・Q-33~35、I-37

O・P-30~33 (図VI-40) SP-1~8・14~16・104~107は径の小さなものが多い。SP-7・104~107は覆土が黒褐色のもの。SP-1・2・6・13・15は覆土が暗褐色のもの。SP-3~5・8・11・12・16は覆土が暗灰黄色から灰黄色のもの。

I-37 (図VI-41) SP-167~170は浅く小さなもので、覆土は黒褐色~暗褐色である。

P・Q-33~35 (図VI-41) SP-9~13・38・40~42・57・76は坑底が尖り気味のものが多い。SP-9~13は覆土が暗褐色~黒褐色のもの。SP-40~42・76は覆土の上が褐色で下が黒褐色のもの。SP-57は覆土が褐色のもの。 (谷島)

掲載遺物：SP-18 (図VI-38) 土器：1はⅢ群A-3類土器。無文の波状口縁である。 (広田)

f その他の遺構

S-5 (図IV-45、図版106-1、135-1)

位置・立地：O-32

規模：2.73m×—

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層上面で確認した大型の礫集中である。配石遺構とするには礫の配置に規則性等が見られない事から集石として扱った。出土した礫は計69点で材質は安山岩が主である。ほぼすべての礫に被熱が認められ赤く変色している。このうち石皿あるいは台石に使用された痕跡のあるものが2点含まれていた。被熱を受けていることから見て、石組み炉として使用された礫を廃棄したものである可能性が考えられる。

遺物出土状況：Ⅳ群A類が9点出土した他、スクレイパーが2点、剥片1点、すり石が1点出土した。

時期：縄文時代後期前葉Ⅳ群A類の時期が考えられる。 (笠原)

掲載遺物：土器 2はⅢ群A類、1・3はⅣ群A類である。1は無文の口縁部。口唇部断面は角形を呈する。2・3は胴部。2は羽状縄文が施される。3は縄文が沈線で区画され、区画内には2列のクランク文が横位に施される。 (広田)

石器 4・5はスクレイパー1a類。6はすり石5類：半円状扁平打製石器。7は石皿。腹背両面に使用痕が見られ、被熱による赤化やはじけが見られる。8は台石。 (柳瀬)

S-6 (図VI-43、図版105-7)

位置・立地：L-25、C地区段丘緩斜面中央の、標高37.9m付近に位置する。

規模：1.28m×0.81m×—

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅲ層中位で確認した。

遺物出土状況：小礫689点(内メノウ2点)が出土した

時期：確認状況から縄文時代中期と考えられる。 (佐藤)

FC-5 (図VI-44、図版106-3)

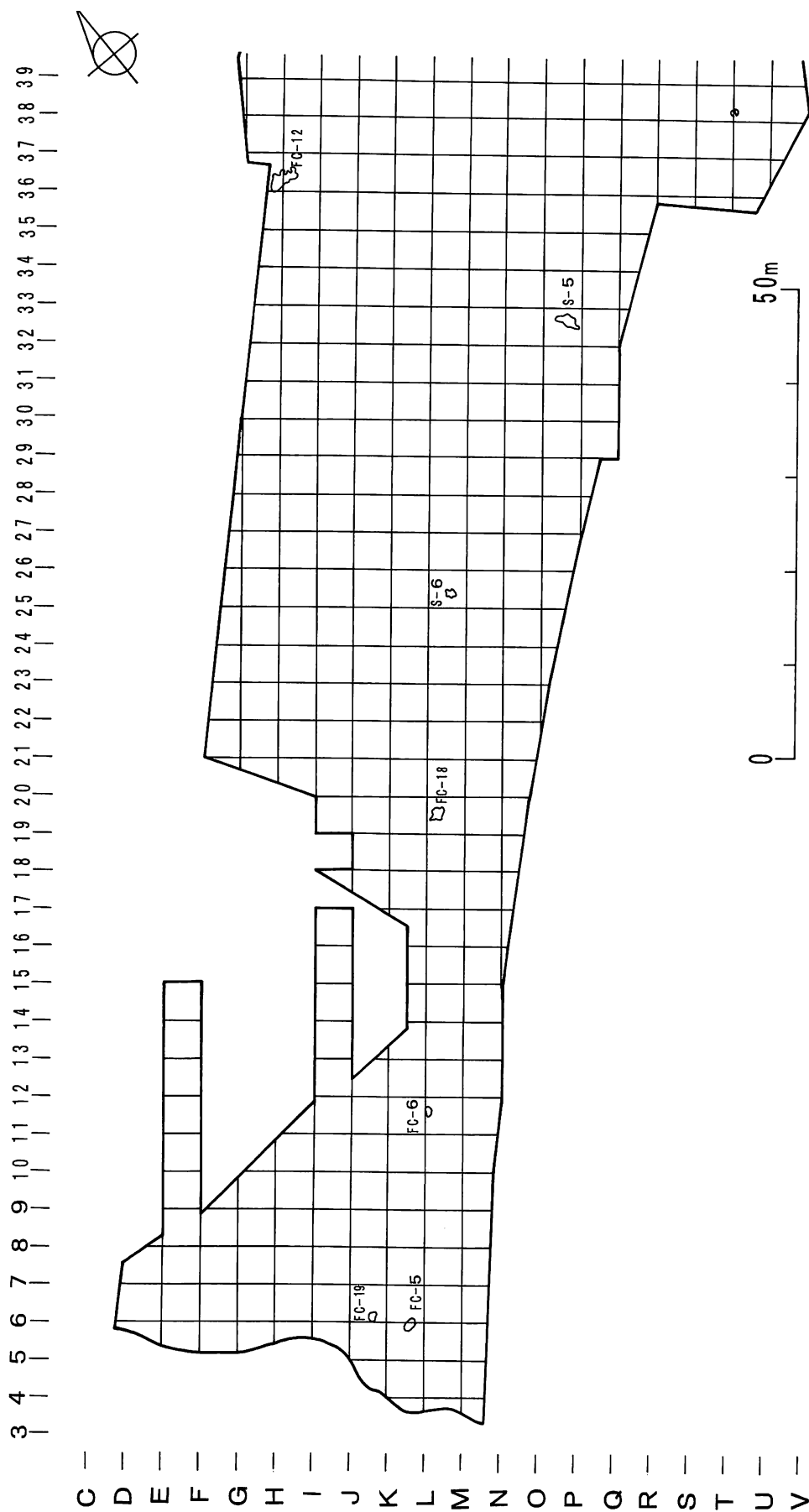
位置・立地：L-5-d、L-6-a。H-10に隣接する。

規模：1.43m×0.97m/0.12m

平面形：楕円形。

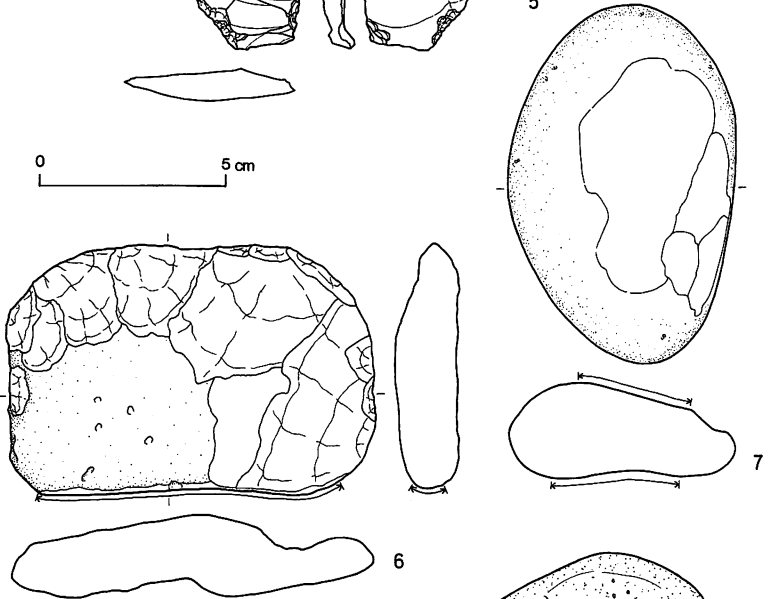
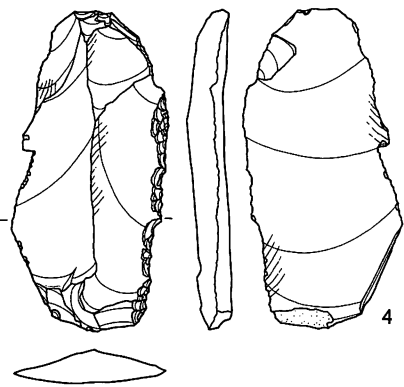
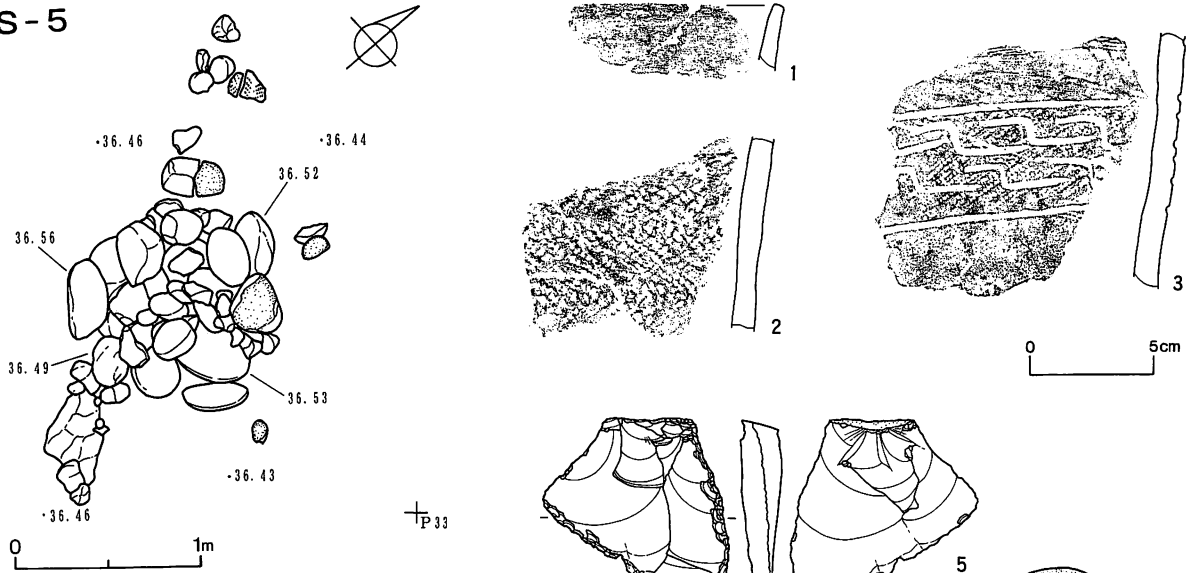
確認・調査：Ⅲ層を10cmほど掘り下げた際に確認した。

1 遺構

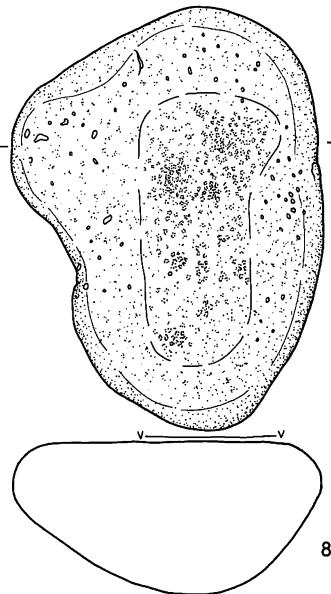
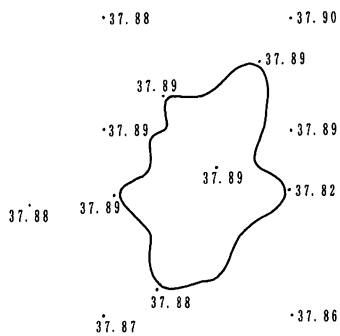


図VI-42 C・D地区その他の遺構配置

S-5



S-6



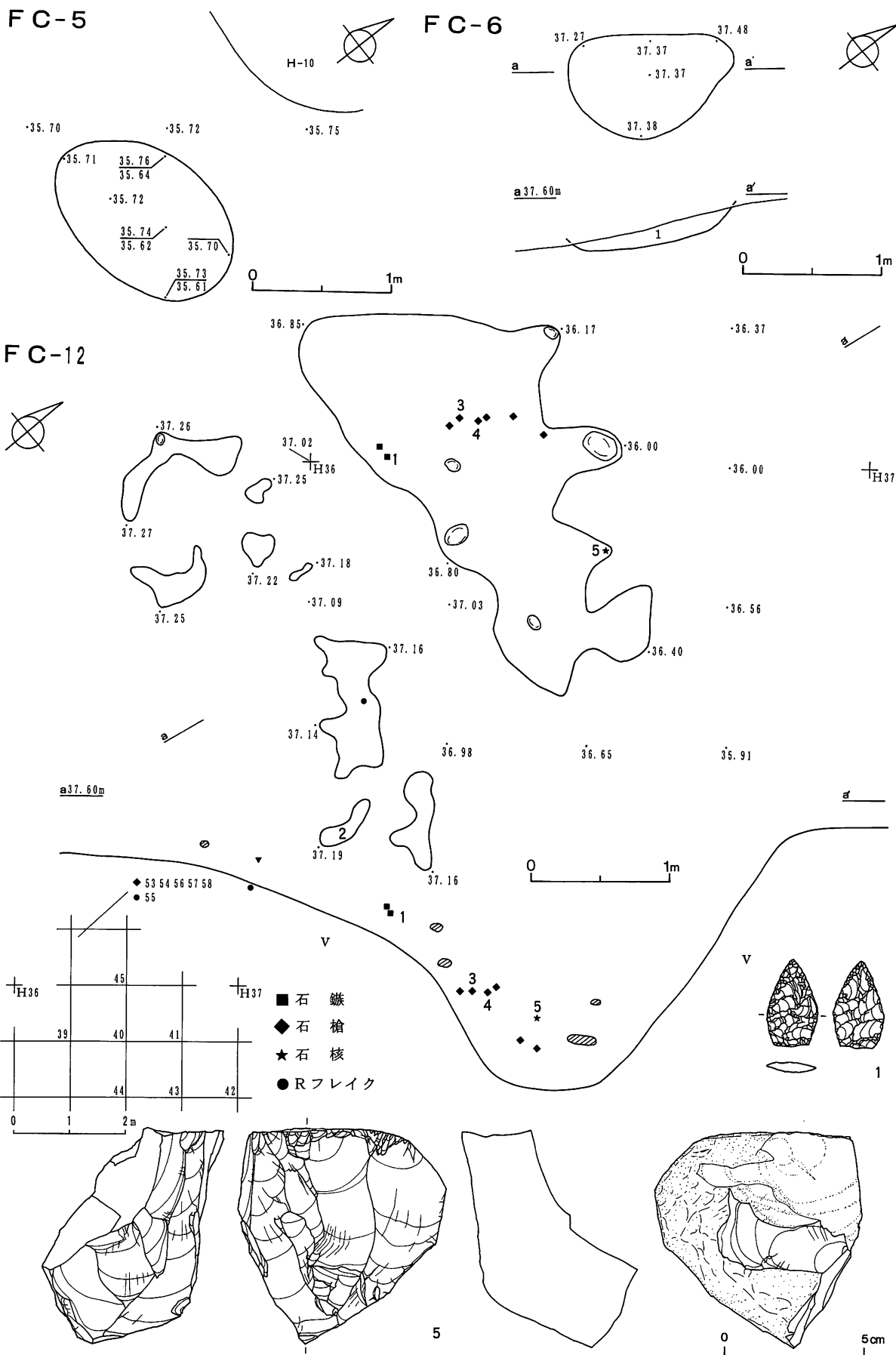
M25

0 1m

0 5cm

VI-43 S-5・S-6

1 遺構



図VI-44 FC-5・FC-6・FC-12

特徴：H-10に隣接して検出した。10cm以上の厚さでフレイク・チップがまとまっていた。

遺物出土状況：フレイク・チップが389点出土した。

時期：確認した層位および、隣接するH-10との関連から縄文時代早期前半の遺構と考えられる。

(藤原)

FC-6 (図VI-44、図版106-4)

位置・立地：L-11-d。調査区南西段丘縁の低位段丘面から高位段丘面にかけての緩斜面に位置する。F-8・9と隣接する。

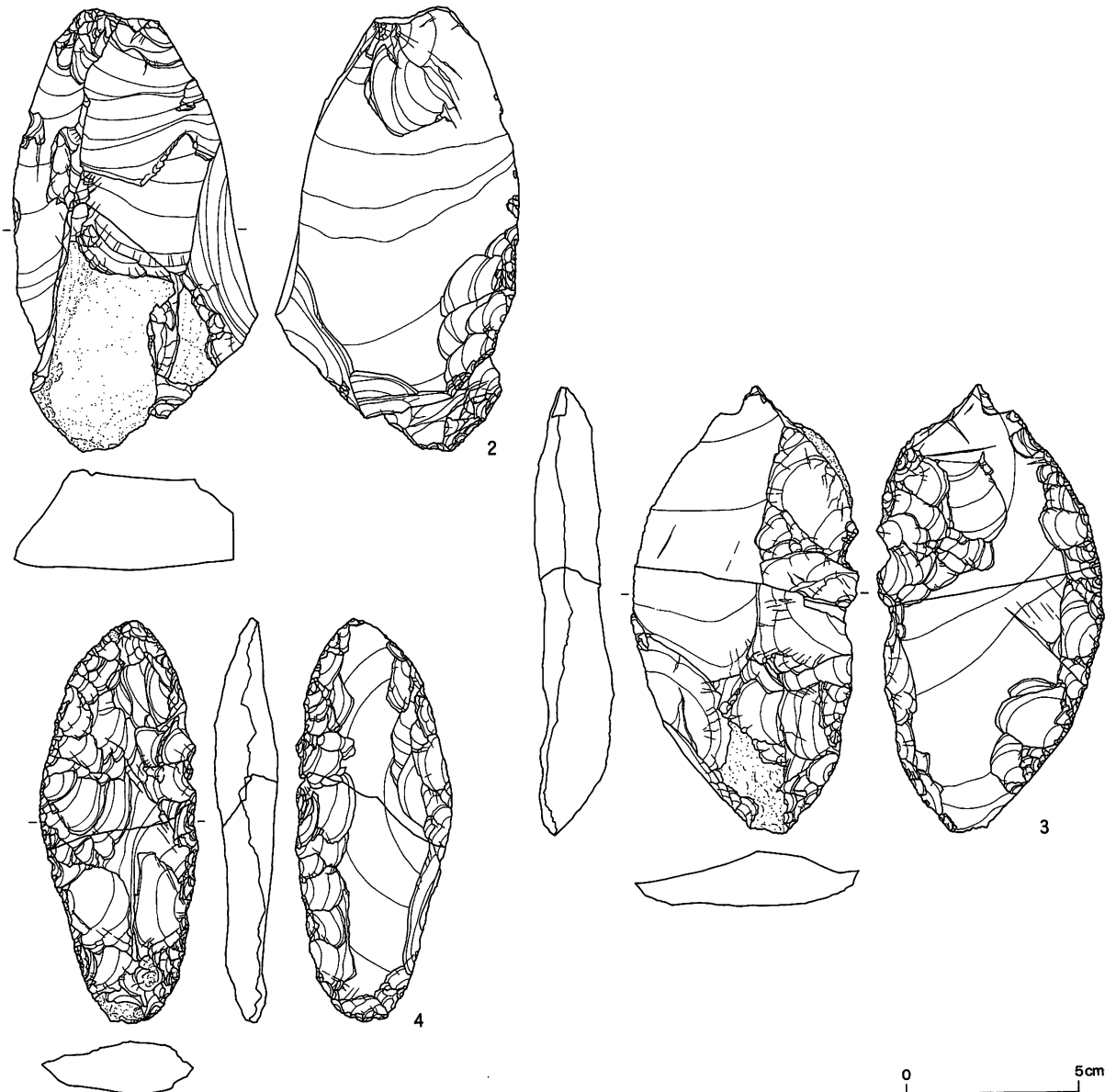
規模：1.17m×0.75m/0.13m

平面形：楕円形。

確認・調査：Ⅲ層中位で確認した。

特徴：緩斜面に位置し、出土状況から上位の段丘面から流れ込んだものと考えられる。

遺物出土状況：フレイク・チップが311点出土した。



図VI-45 FC-12出土の遺物

1 遺構

時期：確認した層位および、隣接するF-8・9との関連から縄文時代中期前半の遺構と考えられる。
(藤原)

FC-12 (図VI-44・45、図版107-1、139-1、140-1)

位置・立地：G・H-35・36、C地区とB地区間の沢の左岸に面している。

規模：3.69m×3.50m×1.47m

平面形：不整形。

確認・調査：周囲は沢の埋立てに伴う攪乱がⅢ層～Ⅴ層上面までおよんでいたが、Ⅲ層中位で、沢の肩部分と沢の斜面に流れ込んでいる状態で確認した。剥片以外の石器のほとんどは、沢の斜面及びその下で出土していることから、斜面への意図的な廃棄の可能性もある。周囲の攪乱層からも石器及び2,000点以上の剥片が出土している。

遺物出土状況：Ⅲ群A-3類土器17点、石鏃2点（内未成品1点）、両面加工石器6点（内未成品5点）、石槍7点（内未成品7点）、Rフレイク2点、石核1点、たたき石1点、礫5点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類土器の時期と考えられる。
(佐藤)

掲載遺物：石器 石槍の各段階の未成品と、石槍作製に伴う剥片が大部分を占めている。検出状況や接合状況から、G・H-35・36の攪乱層などから出土している、9点の石槍の破片もしくは未成品、および合計2,000点以上の剥片も、本来的には本遺構に含まれていたものと思われる。剥片は2～3cm内外のものが多く、すべて頁岩である。母岩は、未成品から最低で13種類認められ、そのほか、フレイクでのみ確認できるものもある。未成品と同一母岩と思われる剥片も多くあるが、それぞれ数点ずつしか接合していない。加工される素材には、縦長剥片のものと横長剥片のものがある。

1は石鏃1e類。2～4は石槍未成品。2は、G-36から出土した石槍未成品にFC-12の剥片が接合したもの。図示したほかに2点の剥片が接合している。原石面の残る縦長剥片を素材としている。

3・4は同一石材。3は同一地点から出土した2点が接合したもの。上下端部に原石面が残る縦長剥片を素材としている。4は2点が接合したもの。図示したほかに、剥片が1点接合している。下端に原石面が残る横長剥片を素材としている。5は石核。上面から右側縁・下面にかけてと、腹面の大部分は原石面である。

図示したほかに、石槍未成品6点の写真を掲載した（図版140）。1は背面に原石面が大きく残る横長剥片を素材とするもの。2は2点が接合したもので、上下端は原石面である。3は右側面上半と左側面下端が原石面である。4は2点にさらに剥片が1点接合したもの。背面に原石面が残る縦長剥片を素材とする。5はG-36から出土したもので、原石面を残す縦長剥片素材。6はほぼ完成品と思われる。
(柳瀬)

FC-18 (図VI-46、図版107-6)

位置・立地：L-19、C地区とD地区の間の段丘緩斜面の一番高い部分、標高39.3m付近に位置する。

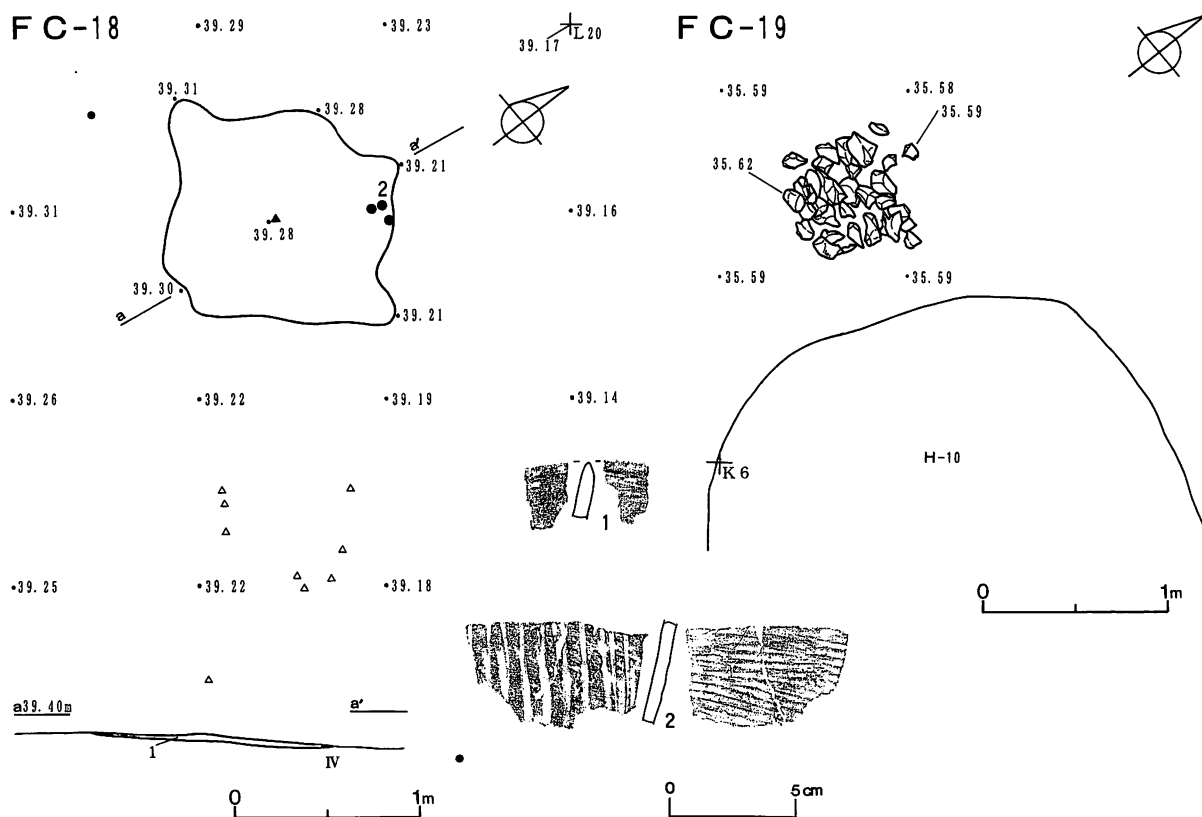
規模：1.64m×1.32m×0.03m

平面形：不整形。

確認・調査：Ⅳ層上面で確認した。建物5・6が周囲にならぶが、同時に存在したかは不明である。

遺物出土状況：覆土から剥片513点、Ⅲ下～Ⅳ上面からⅠ群A類土器5点、Ⅰ群B類土器5点が出土した。

時期：確認状況から縄文時代早期と考えられる。
(佐藤)



図VI-46 FC-18・FC-19

掲載遺物：土器 1・2はI群A類。1は口縁部で表裏面に横方向に条痕が加えられている。2は胴部。表面は縦方向に沈線が施される。裏面は横方向の条痕が認められる。(広田)

FC-19 (図VI-46、図版107-6)

位置・立地：j-6

規模：0.73m×0.70m×—

平面形：円形。

確認・調査：平成11年度に調査したI群A類の時期の住居跡であるH-10の西側で見つかった、頁岩製のフレイク・チップ集中である。検出面はⅢ層であるが、これに伴うと思われる剥片がⅠ層中からも5点出土している。

遺物出土状況：54点出土したフレイク・チップ集中のうち使用痕の認められるものが1点含まれている。他の遺物は出土していない。

時期：D地区の遺構、遺物からみて縄文時代早期I群A類の時期が考えられる。(笠原)

掲載遺物：2種類以上の母岩からなる。剥片は3～5cm程度のものである。石器未成品としたものは、剥片に整形と思われる加工が加えられたもので、器種を特定できないもの。大きさからは、石鏃もしくは石槍の可能性はある。(柳瀬)

2 包含層の遺物

2 包含層の遺物

a 土器

C・D地区は全体的に削平を受けているため、包含層の残存状況は悪く、土器は小片のものが多く、包含層からはI層出土のものを含めて、9,875点の土器が出土している。出土した土器には縄文時代早期～後期、続縄文時代に属するものがある。この内、Ⅲ群A-3類が3,254点と最も多く、次いでⅢ群A-2類が2,244点、I群A類が2,142点を数え、I群B類、Ⅱ群B類、Ⅲ群B類、Ⅳ群B類、Ⅵ群が少量出土している。

全体的な土器の分布傾向としては3～8ライン、25～35ライン付近に比較的分布密度が濃く、竪穴住居跡、土壌の分布とほぼ重なる。また、B地区と異なり、36～39ラインにある沢の縁辺部からの遺物の出土量は少ないが、この部分は特に削平及び、攪乱が著しく、包含層がほとんど残っていないためと考えられる。S・T-37グリッドの様に沢部分でも包含層が部分的に残っている場所では1グリッドから遺物が多量に出土しているため、本来的には相当数の遺物を包含していたと考えられる。調査区の南西側は深い沢地形で、比較的包含層の残りも良好だったため、遺物の出土点数も多い。

各時期の土器の分布をみると、I群A類は3～24ライン近辺の分布密度が濃い。これは竪穴住居跡や建物跡の分布と重なるため、この集落に伴うものと考えられる。Ⅲ群A-2類は3～9ラインと26～33ラインに比較的密に分布する。Ⅲ群A-3類は調査区のほぼ全体から出土しているが、25～38ラインに比較的まとまって出土している。Ⅳ群A類はⅢ群A-3類同様25～38ラインからの出土量が多い。他の分類のものは散点的な出土に留まっている。

遺物集中2

H-10南西部のK-5グリッド北側からI群A類土器がややまとまって出土した(下図参照)。

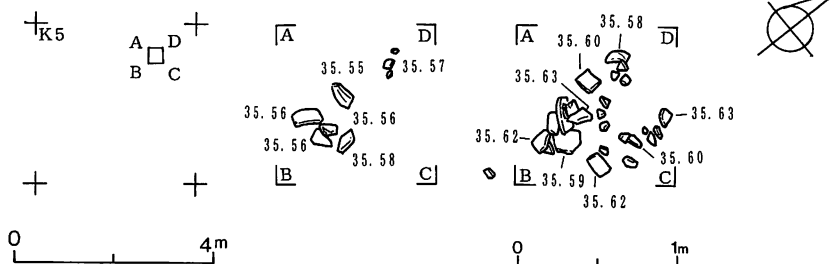
I群A類(図VI-47-1・48-4～70)

全体的に焼成は良好である。大きく分けて条痕沈線が加えられているものと無文のものがある。

1は小形の鉢である。底部はわずかにはりだし、口縁部にかけて直線状に立ち上がる。器面には横位の貝殻条痕文が施されているが、内面においては顕著ではない。口縁部に隆帯を2条巡らされ、隆帯上部は小さな棒状工具の、隆帯下部は半截竹管状工具の刺突が加えられている。

4～26・29は口縁部で、4・6・13・14・22は小波状口縁である。4・5・8～10・29は隆帯をもつものである。4・5は内面には浅い横位の貝殻条痕が加えられている。4は2条の隆帯が施され、隆帯上には斜位の絡条体圧痕文が加えられている。隆帯間と隆帯の上下には横位の絡条体圧痕文が加えられている。5は隆帯上に刻みが施されている。隆帯直上は横位の沈線、隆帯直下には斜位の沈線が加えられている。8・10は2条の低い隆帯が施されている。10は隆帯上に斜位の刻みが施され、その上下部には斜位の沈線が加えられている。29は2条の隆帯をもち、隆帯下部には横位の貝殻条痕と縦位の沈線文が施されている。焼成は良好である。6・7・11は沈線文が施されているものである。9

は口唇部が肥厚する。口唇端部には篋状工具による刻みが施され、中央部には刺突が加えられている。6・7は同一個体である。口縁に沿って隆帯が巡らされ、縦位、斜位、横位に沈線が



遺物集中2

施されている。口縁端部、隆帯上、沈線に沿って、半截竹管状工具による刺突が加えられている。11の口唇部断面形は切り出し形で、口縁部に斜位の沈線文が施されている。内面には横位の貝殻条痕が認められる。12～20は器面に貝殻等の条痕が認められるものである。19・20の条痕は貝殻以外のものによる。12・13は条痕が斜位に加えられている。14～20は条痕が横位に認められるもの。いずれも内面の条痕は顕著ではない。19・20は同一個体で細かい条痕が加えられている。21～26は無文のもの。

27・28・30～59は胴部である。ほとんどのものに横位の貝殻等の条痕が施されている。27は上部に貝殻背面の押し引き移動による文様が、下部に貝殻背面の波状押し引き移動による文様が施文されている。28は貝殻腹縁圧痕文が施されている。30・32・33は刺突が施されるものである。30・33は棒状工具による刺突、32は半截竹管状工具による刺突である。31・34・37～43は沈線による文様が施されているものである。内面に条痕が加えられるものは少ない。31は器面に横位の貝殻条痕を加えた後、上部と下部に横位の沈線文が施され、その間に斜位の沈線文が加えられているものである。34・37は器面に横位の条痕が加えられた後、沈線文が施文される。34は斜位の沈線文が加えられている。37は沈線により連続する菱形の文様が描き出されている。38～41は沈線文が横位に施されているもの。38は横位の沈線文間に斜位の沈線が加えられている。内面には横位の貝殻条痕が認められる。41の沈線は細く、浅い。42は横位の貝殻条痕文が施された後、縦位の沈線文が加えられる。内面には横位の貝殻条痕が施分される。43は横位の細かい条痕文が施された後、横位の沈線文が加えられる。内面には縦位の細かい条痕が認められる。44～53は条痕のみ加えられているものである。51は斜位に施されるが、他の施文方向は横位である。50～52は浅い条痕が加えられている。内面に条痕が認められるものは47のみで、横位に加えられている。53～59は無文のもので、53・58は内面に横位の条痕が認められる。60～70は底部。61・62・64・66は底部がやや張り出す。60～62・64・65は条痕が認められものである。64は縦位で他は横位に施文される。60は斜位の沈線が加えられている。61はわずかに縦位に条痕が加えられている。63・66～70は無文のものである。63・65～67・69は器面が磨耗しているため、条痕が摩滅している可能性がある。68は胎土に砂粒を多く含む。

I 群A類はアルトリ式に比定される。

I 群B類 (図VI-49-71～75)

71～75は同一個体。同一個体がややまとまって出土したが、接合はほとんどしなかった。

I 群B類は東釧路IV式に比定される。

II 群B類 (図VI-50-76～87)

全般的に胎土に繊維を含み、内面調整は丁寧である。76～79は口縁部である。口縁部文様帯には全て横位の縄線文が施され、口唇部には縄の圧痕が施されている。76は小突起をもつ。78・79は同一個体。砂粒を多く含み、器面が磨滅している。内面は丁寧に磨かれている。80の口縁部の縄線文は比較的短い縄を使用している。胴部は縦位の単軸絡条体の回転文が施されている。81～86は胴部。81はRLの斜行縄文が縦走気味に施されている。この土器は胎土から、III群B類の可能性もある。82・85・86は縦位に単軸絡条体の回転文が施文されている。83・84・87は櫛状工具による縦位の細かい沈線が施されているものである。

II 群B類は円筒土器下層d式に比定されるものである。

III 群A-1類 (図V-50-88)

88は突起をもち、口唇部には縄の圧痕が加えられている。突起部直下には貼付が施文され、口縁部文様帯には横位の縄線文が施され、貼付上にも加えられている。

1 群は円筒土器上層a式に比定される。

2 包含層の遺物

Ⅲ群A-2類 (図VI-47-2・50-89~100)

2は胴部がやや膨らみ、口縁部は外反する器形である。底部はやや張り出す。突起を4ヵ所もち、2個一対である。突起部直下には孔が穿たれ、口唇部には小波状の貼付が加えられている。口縁部文様帯下端には2本の貼付帯が横位に施され、下部の貼付は突起部下において逆U字状を呈する。

文様帯内には貼付により山形の文様が描き出され、貼付上には細い縄による圧痕が加えられている。胴部には結束の羽状縄文が段ごとに方向を変えて施文されている。

89~95は口縁部である。89・91は同一個体である。厚みのあるボタン状の突起をもち、口唇部には小波状の貼付が施されている。口縁部にはLRの斜行縄文が施文されている。器面は全体的に磨耗している。90・92・93は馬蹄形圧痕文が施されているもの。90・93は同一個体である。2個一対の突起をもち、突起部直下には縦位の貼付が施文される。口縁部文様帯下端は貼付帯によって区画されている。突起部直下の貼付と文様帯下端の交点にはボタン状の貼付が施されている。口唇部及び貼付上には縄の圧痕が加えられ、ボタン状の貼付上には渦巻の文様が描き出されている。貼付に沿って3本1組の縄の圧痕が施文されている。縄の圧痕の間には馬蹄形圧痕文が施されている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は不良である。92は口縁部文様帯下端を貼付帯で区画され、文様帯内には貼付、3本1組の横位の縄線文と馬蹄形圧痕文が交互に施されている。貼付上には細い縄による圧痕が深く施されている。94・95は平縁のもので、口縁部は外反する。94はLRの斜行縄文と横位の綾線文が施され、口唇部には縄の圧痕が施されている。96~98は胴部。96は結束の羽状縄文が施されている。97・98はLRの斜行縄文が施されている。99・100は底部。どちらも底部がやや張り出す。99は羽状縄文が施されている。胎土には砂粒を多く含む。100は焼成が不良である。94・95はⅢ群B-2類(大安在B式)の可能性もある。

89~93は円筒土器上層b式、2は円筒土器上層c式、他は円筒土器上層b~c式に比定される。

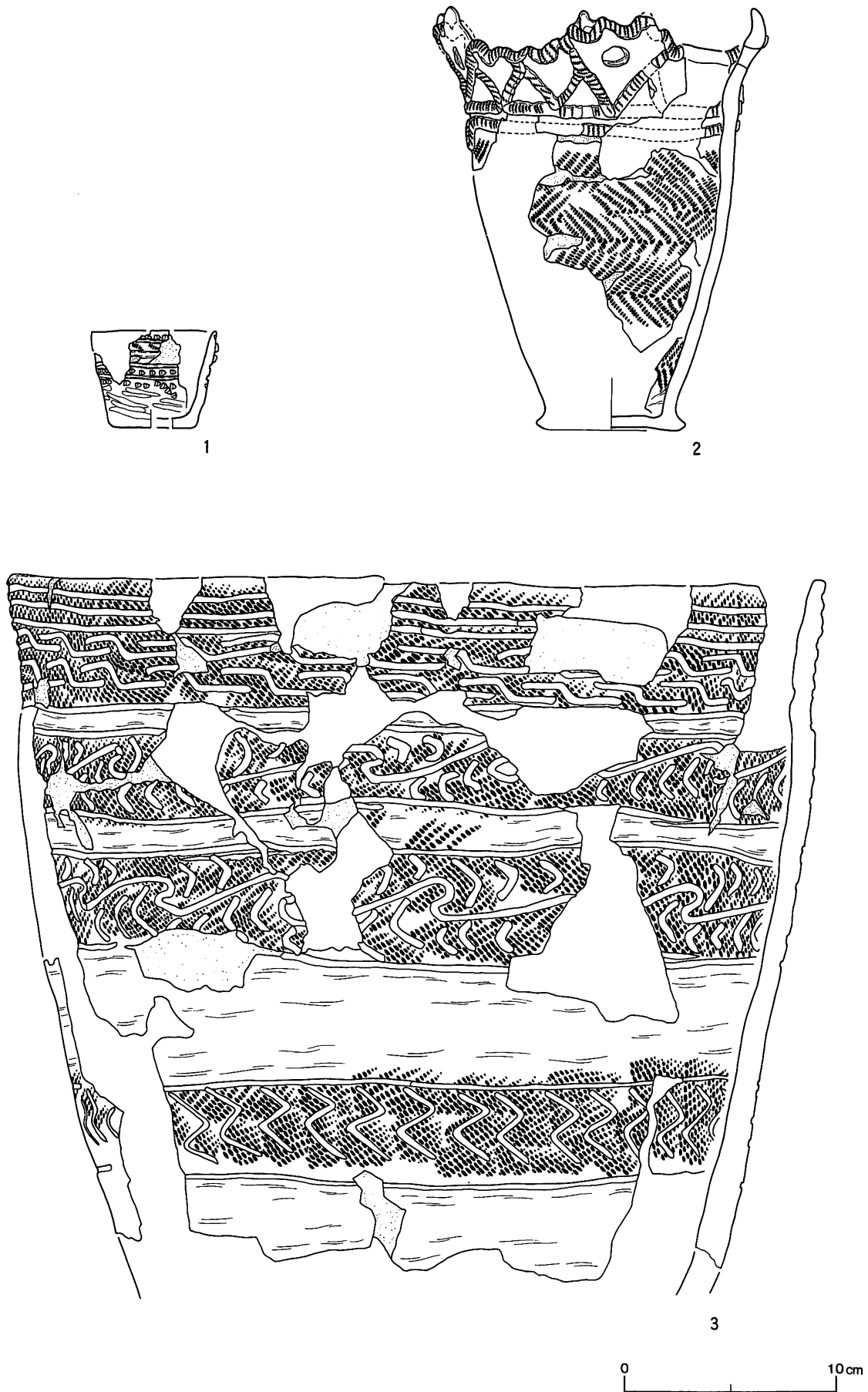
Ⅲ群A-3類 (図VI-50・51-101~119)

101~111は口縁部である。口唇部に貼付が施されるもの、縄の圧痕が施されるもの、刻みが施されるもの、沈線が加えられるもの、縄文が施されるものがある。地文はRLの斜行縄文が施されるものが多い。

101は波状口縁で波頂部に貼付が施されているものである。突起部に棒状の貼付が施され、貼付間には縄の圧痕が加えられている。波頂部直下には横位の縄線文が加えられている。102~104・108は口唇部に縄の圧痕が施されるものである。102は胴部がやや膨らみ、口縁部はわずかに外反する。地文の縄文はRL斜行縄文で、口縁に沿って2本1組の沈線文が横位に施され、波頂部下位ではレンズ状の文様が描き出される。文様帯下部にも横位に2本1組の沈線文が加えられている。胎土に砂粒を多く含み、やや脆い。103・104は同一個体である。緩い波状口縁で、口縁に沿って沈線文が施され、波頂部下位では渦巻状の文様を描く。その下部にも横位の2本1組の沈線文が加えられている。胎土は砂粒を多く含み、脆い。108は口縁部に横位の縄線文が施され、その下位にRLの斜縄文が施文されている。105・106は口唇部に沈線が施されるものである。105は地文にRLの斜行縄文が施され、口縁部には横位の沈線文が加えられている。器面が磨耗しているため、文様は不明瞭である。106は口縁部に横位の2本1組の沈線文が施文されている。107・109・110は口唇部に縄文が施されるものである。107の口唇部の断面形状は切り出し形である。111は口唇端部に棒状工具による浅い押圧が施されている。

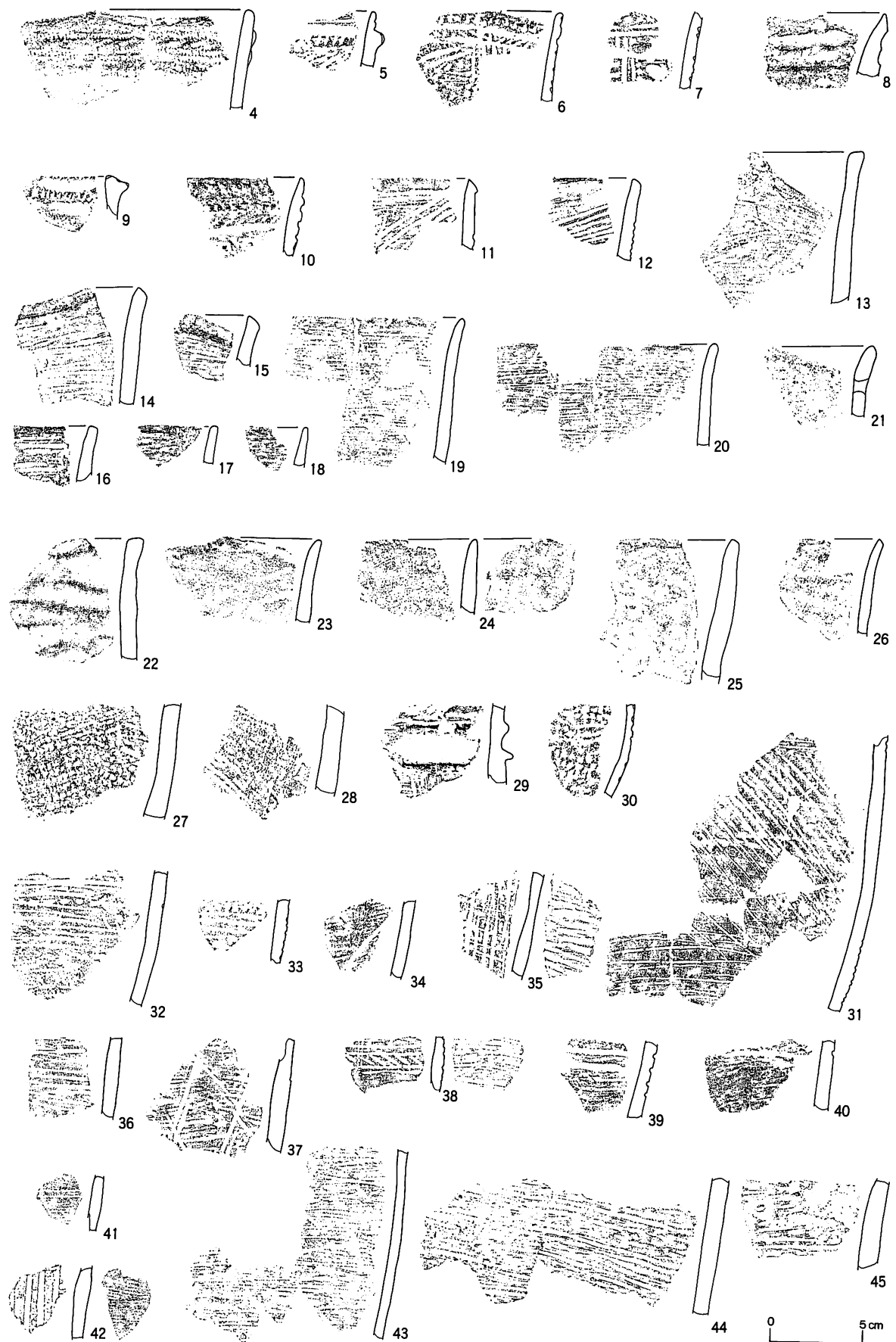
112~114は胴部で、沈線により文様が描かれる。113・114は器面が磨耗しており、文様は不明瞭である。

115~119は底部である。116・117はやや上げ底である。117~119は底部から開き気味に立ち上がる。



図VI-47 包含層出土の土器(1)

2 包含層の遺物

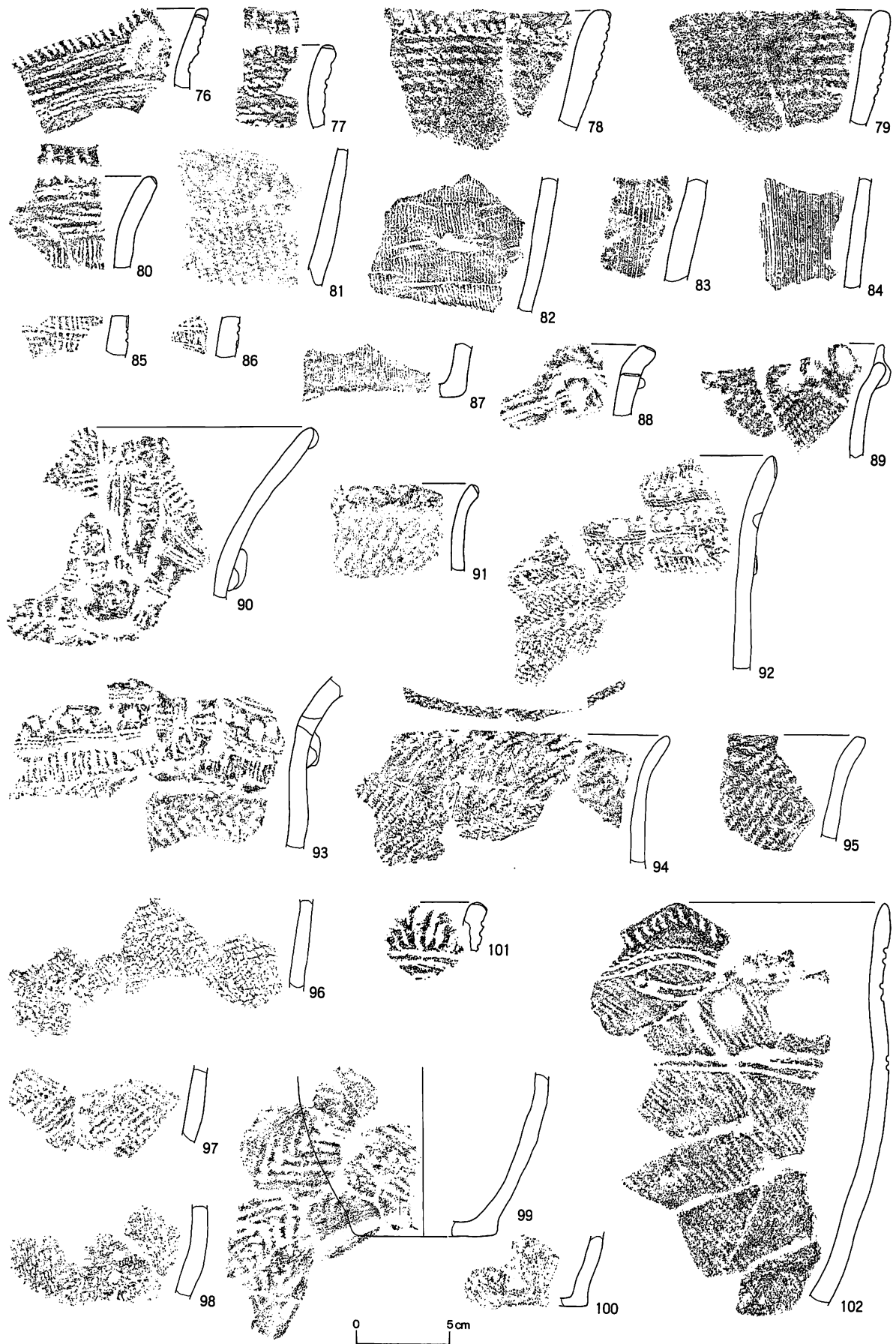


図VI-48 包含層出土の土器(2)

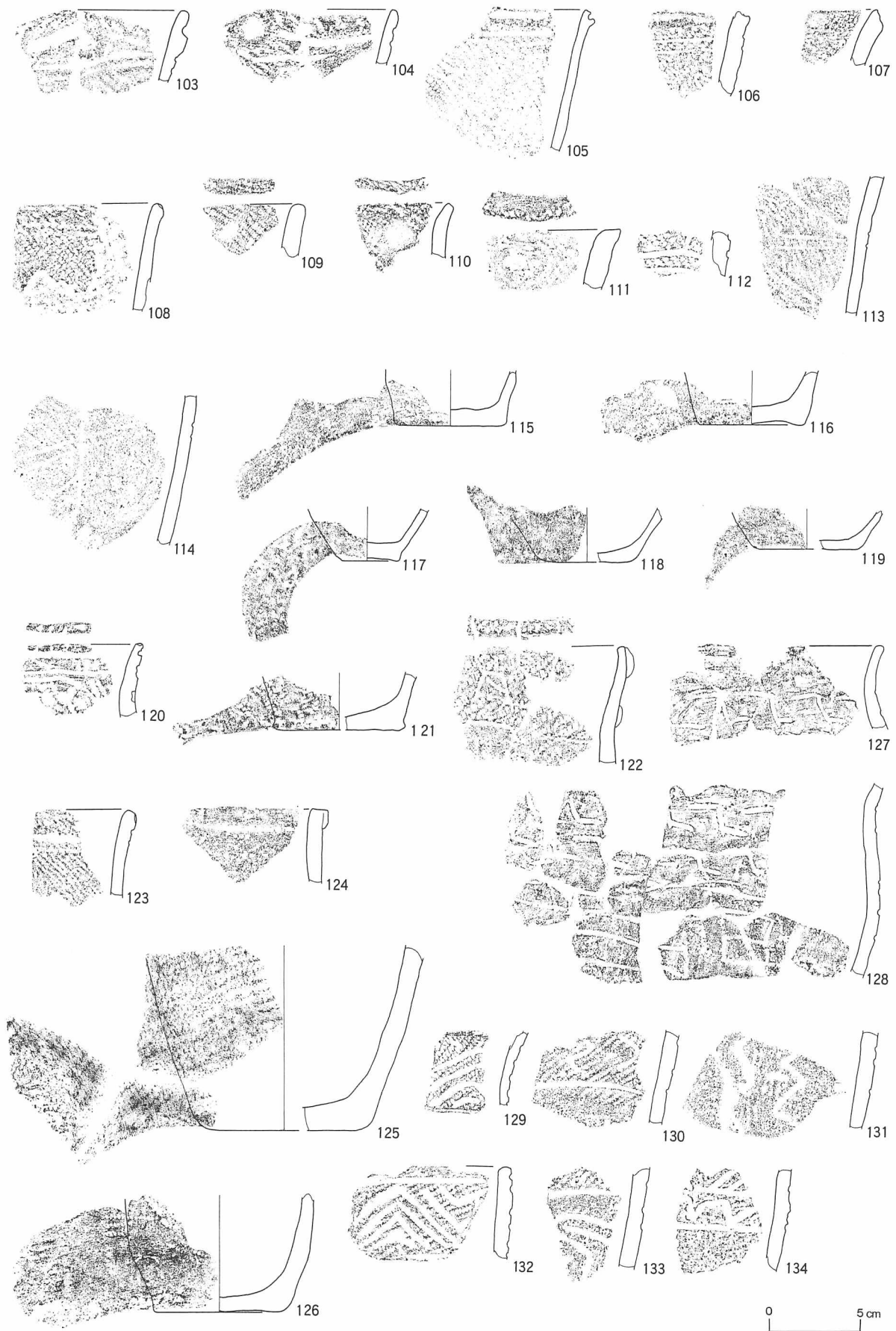


図VI-49 包含層出土の土器 (3)

2 包含層の遺物

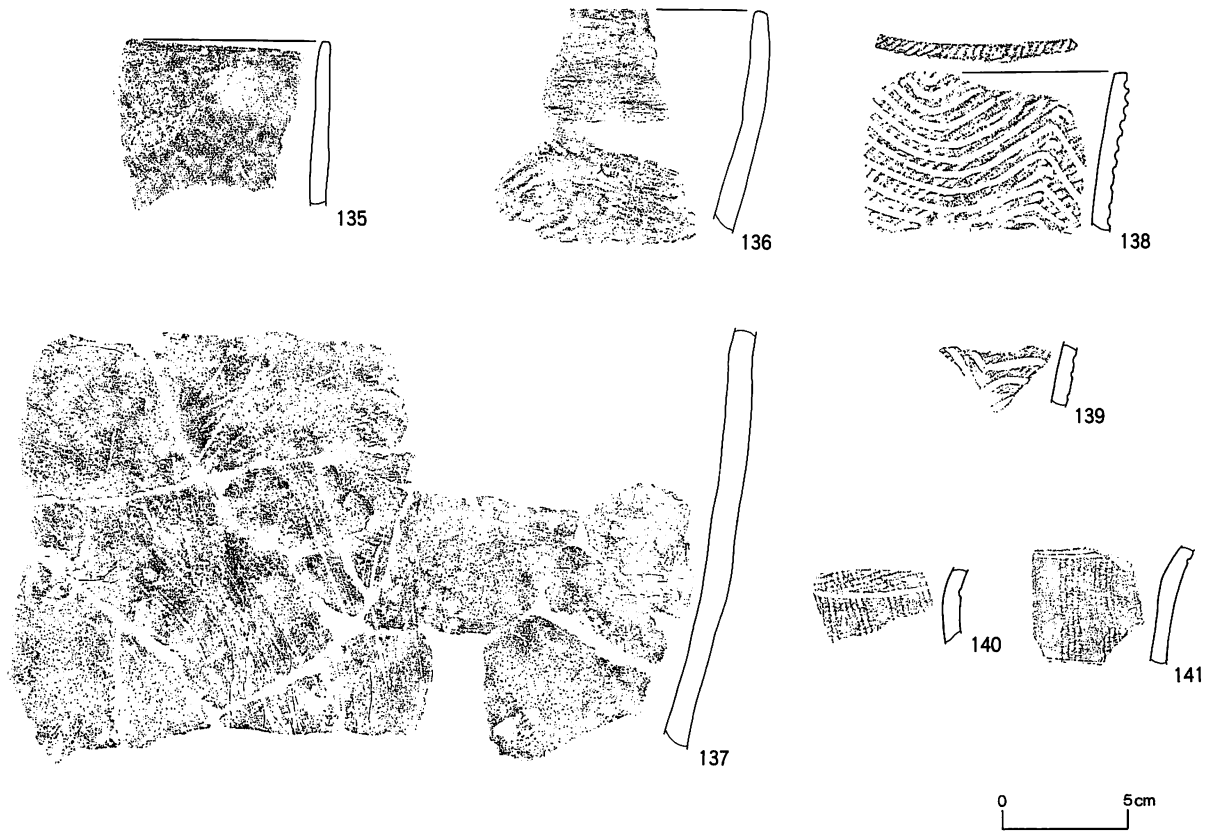


図VI-50 包含層出土の土器(4)



図VI-51 包含層出土の土器(5)

2 包含層の遺物



図VI-52 包含層出土の土器(6)

Ⅲ群B類 (図VI-51-120・121)

120は口縁部で、地文にRLの斜行縄文が施文されている。口唇部と、口縁部に2列の棒状工具による刺突が施されている。口縁部の刺突列間には2本一組の沈線文が横位に加えられている。121は底部である。やや張り出し、地文にはLRの斜行縄文が施されている。

Ⅳ群A類 (図VI-51・52-122~137)

1群 (図VI-51-122~126)

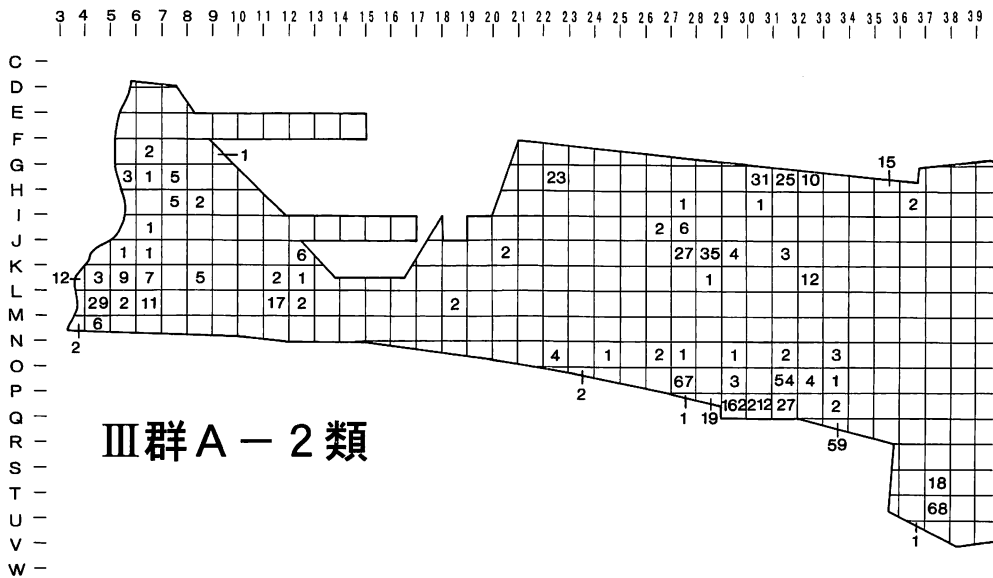
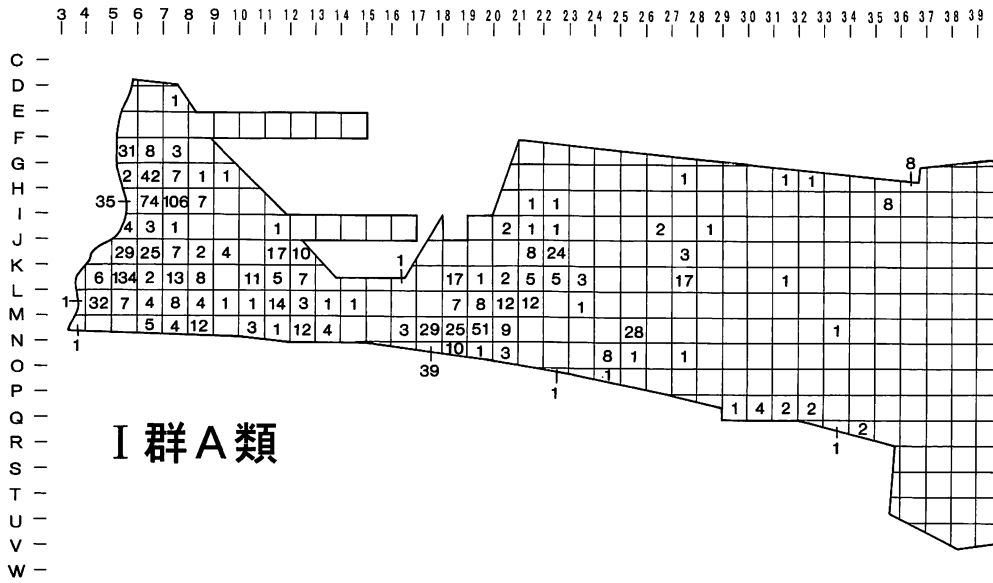
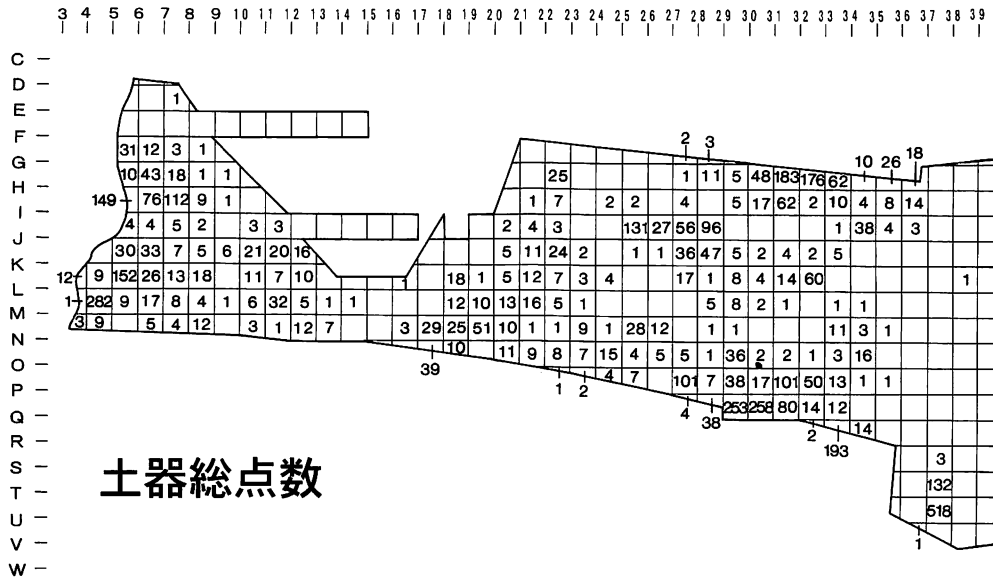
122~124は貼付帯をもつ折り返し口縁である。122は横位の貼付帯が2本巡らされ、横位の貼付帯間には斜位気味の貼付が施される。口唇部と貼付帯上にはLRの斜行縄文が加えられる。124は無文で、口唇部の断面形は角形である。125・126は底部で、底部から胴部にかけてゆるく湾曲する。

1群は天祐寺~湧元式に比定される。

2群 (図VI-47-51-127~137)

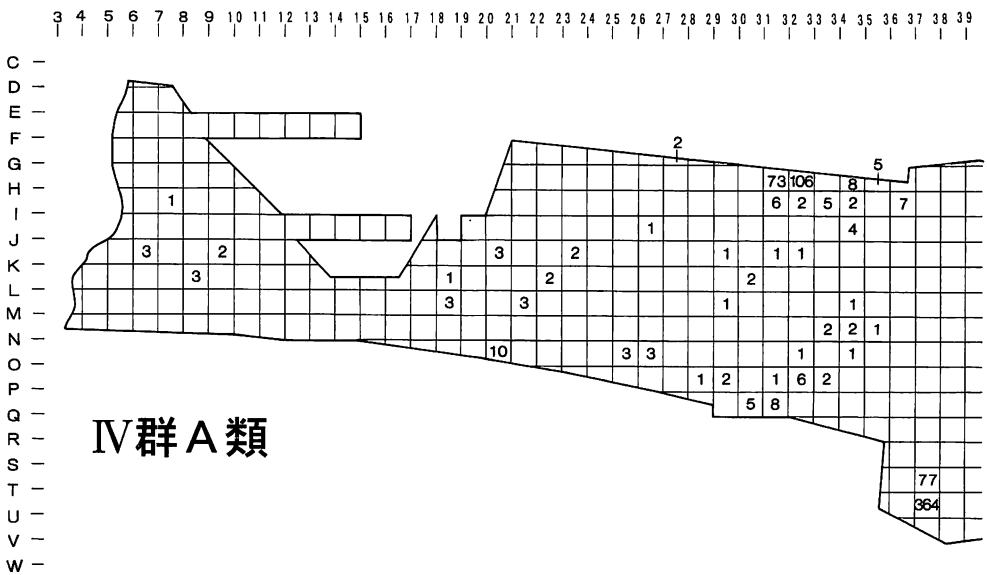
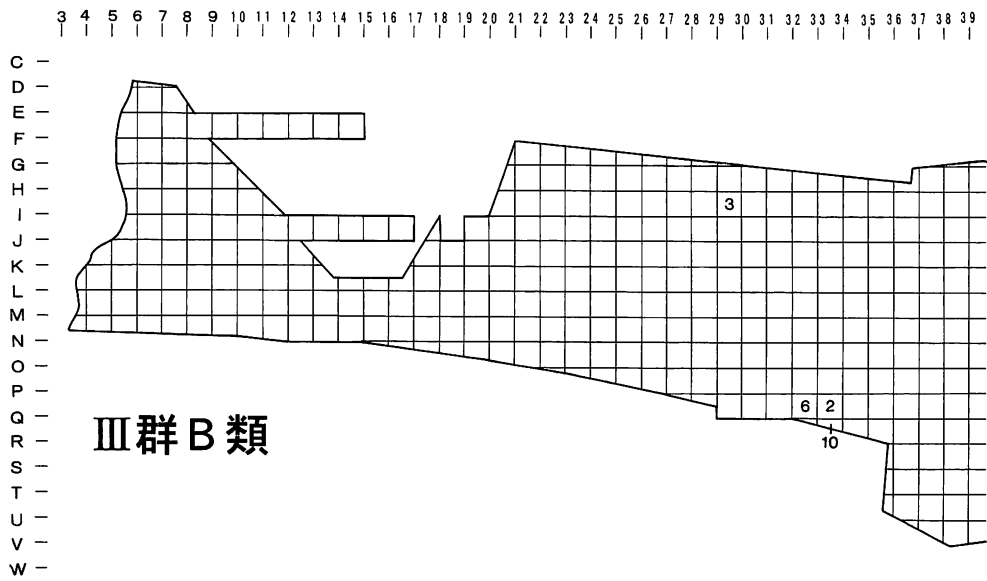
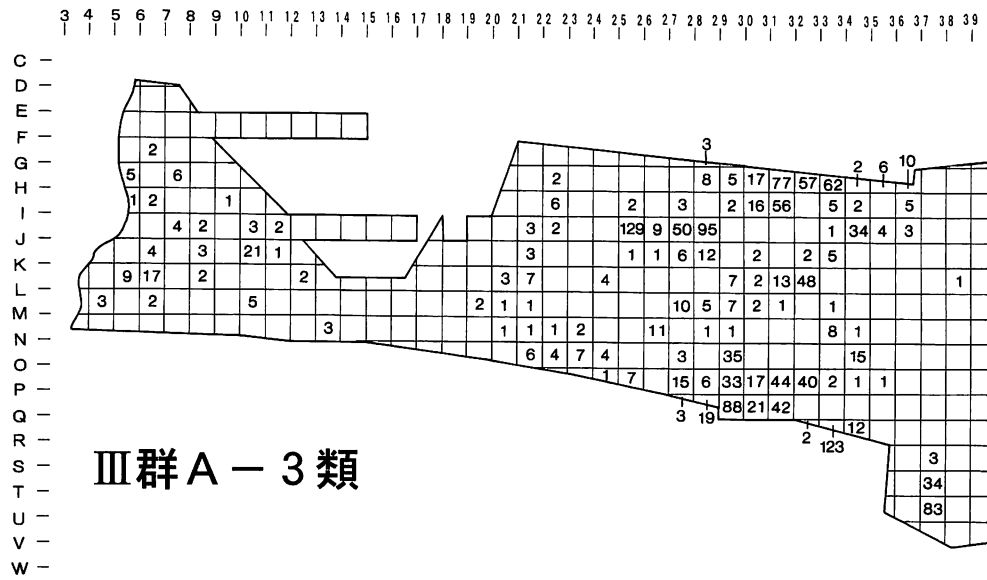
その間には波状の沈線が施文される。最下部の縄文帯内には間延びした「乙」字文が加えられている。焼成は良く、胎土には砂粒がやや含まれる。

127・128は同一個体である。胴部がやや膨らむ器形で口縁部は外反する。口縁から胴上半部にかけては沈線によって横位にクランク状の文様が描かれ、その下には四角を基調とした幾何学的な文様が描き出されている。129~134は胴部である。129・130・132は縄文地に沈線で文様を描くものである。縄文は沈線で区画されている。131・133・134は無文地に沈線で文様を描くものである。129は弧状の沈線が同心円状に施されている。130・131は縦に蛇行する沈線文が描かれている。131は胎土に砂粒を



図VI-53 出土土器分布 (1)

2 包含層の遺物



図VI-54 出土土器分布 (2)

多く含む。132は沈線で鋸歯状文が描かれる。133は沈線で曲線文様が描かれる。134は沈線により連続する弧状の文様が描かれその上下部に横位と斜位の沈線が施されている。135～137は無文のものである。135・136は口縁部である。135は胴部から口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。136は胎土に砂粒を多く含む。

2群は大津式に比定される。

3群 (図VI-47-3.52-138・139)

3は復原された深鉢である。底部を欠き、口頸部はわずかにくびれ頸部に幅の狭い無文帯をもつ。口唇部の断面形は角形である。口縁部の縄文帯内には3本の横位の沈線と2列のクランク文が施されている。沈線で区画された縄文帯が4段設けられ、胴部の縄文帯内には上部に逆C字状の文様、下部にC字状の文様が横環させている。

138・139は縄文地に沈線により、連続した弧状の文様を重ねて描いている。138は口縁部で小波状を呈し、口唇部には単節の斜縄文が施されている。

3群は白坂3式に比定される。

VI群 (図VI-52-140・141)

140は甕の頸部である。横位の沈線が巡らされ、その上部は斜位の、下部は縦位の縄文が施されている。141は地文には縞縄文が施され、横位の沈線が加えられている。

VI群は恵山式に比定される。

(広田)

b 石器

石器 (図VI-55～61、図版168～173)

C地区包含層からは、石器類が合計10,697点出土した。内訳は、剥片石器類が9,196点、礫石器類が10,697点である。剥片石器類では、95%以上を剥片が占めており、石核・原石・剥片を除いた石器は、336点である。剥片石器の中ではスクレイパーが多く72点、次いでUフレイクが70点、Rフレイクが51点、石鏃が45点、石槍が44点でやや多く、ほかに両面加工石器が27点、つまみ付きナイフが18点、ドリルが6点、石器未成品が3点出土している。礫石器類では、8割ほどが礫で、礫石器は277点である。礫石器のうち、すり石、たたき石が多く、それぞれ66点、62点出土しており、次いで、石錘が44点、石鋸が2点出土している。石斧、石皿・台石は破片が多く個体数を示すものではないが、それぞれ9点、42点出土している。砥石は48点出土しているが、そのうち38点は同一個体の破片である。加工痕のある礫は3点出土しており、扁平礫の周縁にまばらに剥離が加えられるものなどがある。

石器類の分布は地形と遺構の分布に対応している。13～15ライン付近は、ちょうどF-20付近から南へのびる尾根付近にあたるが、私道と攪乱により包含層が削平されていたため、遺物が極めて希薄である。これより西側の、南向きの斜面では、縄文時代早期の竪穴住居跡の分布と対応し、石器が多く分布している。尾根から東へ下る斜面では、尾根に近い建物の集中部分で石器にも集中がみられる。これより下の斜面では、少数が均一に分布するが、C地区北隅にあたり、沢地形に区切られたH・G-35・36で、フレイク集中FC-12に由来すると思われる剥片・剥片石器が集中している。またO・P-29～31付近にも集中がみられ、やや窪んだ地形による流れ込みと思われる。器種ごとでは、つまみ付きナイフ・両面加工石器・石錘で、尾根付近から西側の斜面に偏る傾向が認められる。また、石鏃では、1c類：菱形のものは調査区西側の斜面に大きく偏り、2類：有茎のものは調査区東側にやや偏って分布している。

石材は、各器種に共通して、剥片石器類では頁岩が、礫石器類では安山岩が圧倒的に多い。このた

2 包含層の遺物

め、掲載石器一覧表においては全点について石材の記載を行っているが、本文中では頁岩あるいは安山岩以外の石材についてのみ記載した。また、黒曜石製の石器の一部では原材産地同定を依頼した（第七章2節）。

なお、掲載した石器出土分布図には、出土位置の特定できない表採等のものは除いている。

石鏃（図VI-55-1~7）

45点出土している。1類：無茎のものが13点、2類：有茎のものが14点、未成品が10点で、ほかは細分不能の破片である。1類では、1c類：菱形のものが12点、1e類：木葉形のものが1点である。2類では、2a類：茎の明瞭なものが10点、2b類：茎の不明瞭なものが4点みられる。石材は8割が頁岩で、ほかには黒曜石が4点、流紋岩が2点、メノウが1点出土している。1c類は1点の黒曜石製を除いてすべて頁岩製で、また流紋岩はいずれも2b類のものである。

1~7は石鏃である。1~5は1類、6は2類、7は未製品である。1~4は1c類：菱形のものである。5は1e類：木葉形のもの。6は2a類：茎部が明瞭なものである。

石槍（図VI-55-8~10）

44点出土している。うち9点はH・G-35・36から出土したものである。1a類：柳葉形のものが1点、1b類：木葉形のものが9点、2a類：茎の明瞭なものが6点、2b類：茎の不明瞭なものが3点出土している。ほかは、未成品としたものが12点、細分不能な破片が13点である。石材は、頁岩が8割で、ほかには黒曜石7点（うち3点が接合し5個体）、玄武岩が1点みられる。黒曜石製のもものは、細分不能の1点を除き4個体が2a類である。これらはG-6~8およびH-7の狭い範囲で集中して出土している。

8~10は石槍である。8は1a類、9は1b類、10は2a類で、G-7周辺で集中して出土したうちの1点である。これを含め、G-7周辺で出土した黒曜石製の2a類の4個体について原材産地同定を依頼したところ、3個体が赤井川産と判定され、1個体は被熱による風化のために不明であった。

ドリル（図VI-55-11）

6点出土している。1類：剥片の一部に機能部を作出するもの、3類：つまみ部が不明瞭なもの、4類：棒状のものがそれぞれ2点ずつ出土している。石材は、頁岩4点、黒曜石1点、メノウ1点である。

11は4類である。上端部には原石面が残る。

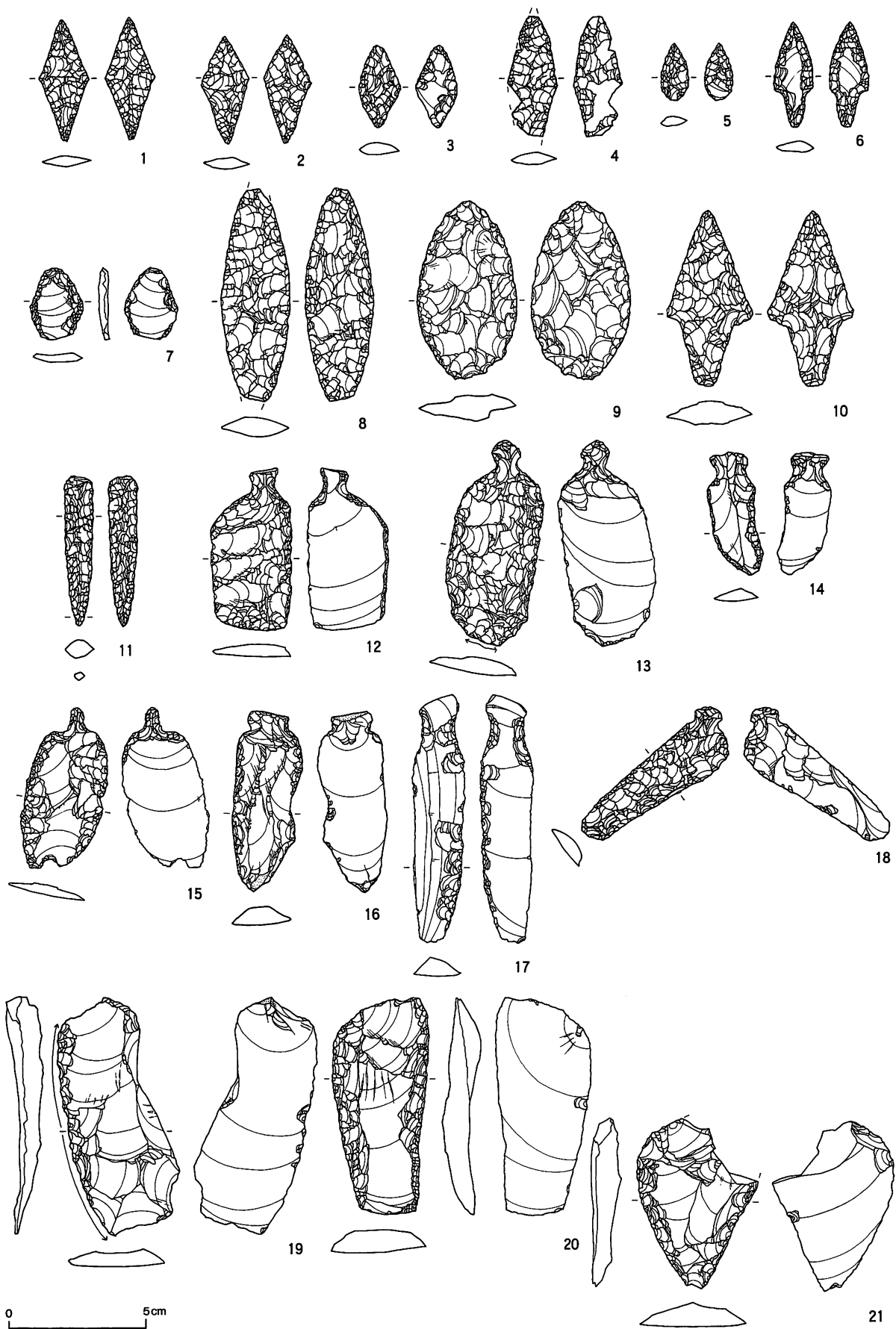
つまみ付きナイフ（図VI-55-12~18）

18点出土している。2類：横形のものが1点みられるほかは、すべて1類：縦形のものである。1類では、1a類：片面全面加工のものが7点、1c類：周縁加工のものが6点、1d類：粗雑なつくりのものが4点である。石材はすべて頁岩である。

12~18はつまみ付きナイフである。12~17は1類、18は2類。12・13は1a類。12は左側縁で腹面の加工が先行するもの。13は下端と腹面のつまみ付近が磨耗している。いずれも、右側縁では急角度の刃部が作出されている。14・15は1c類。16・17は1d類である。18は2類：横形とした。片面全面加工のものである。

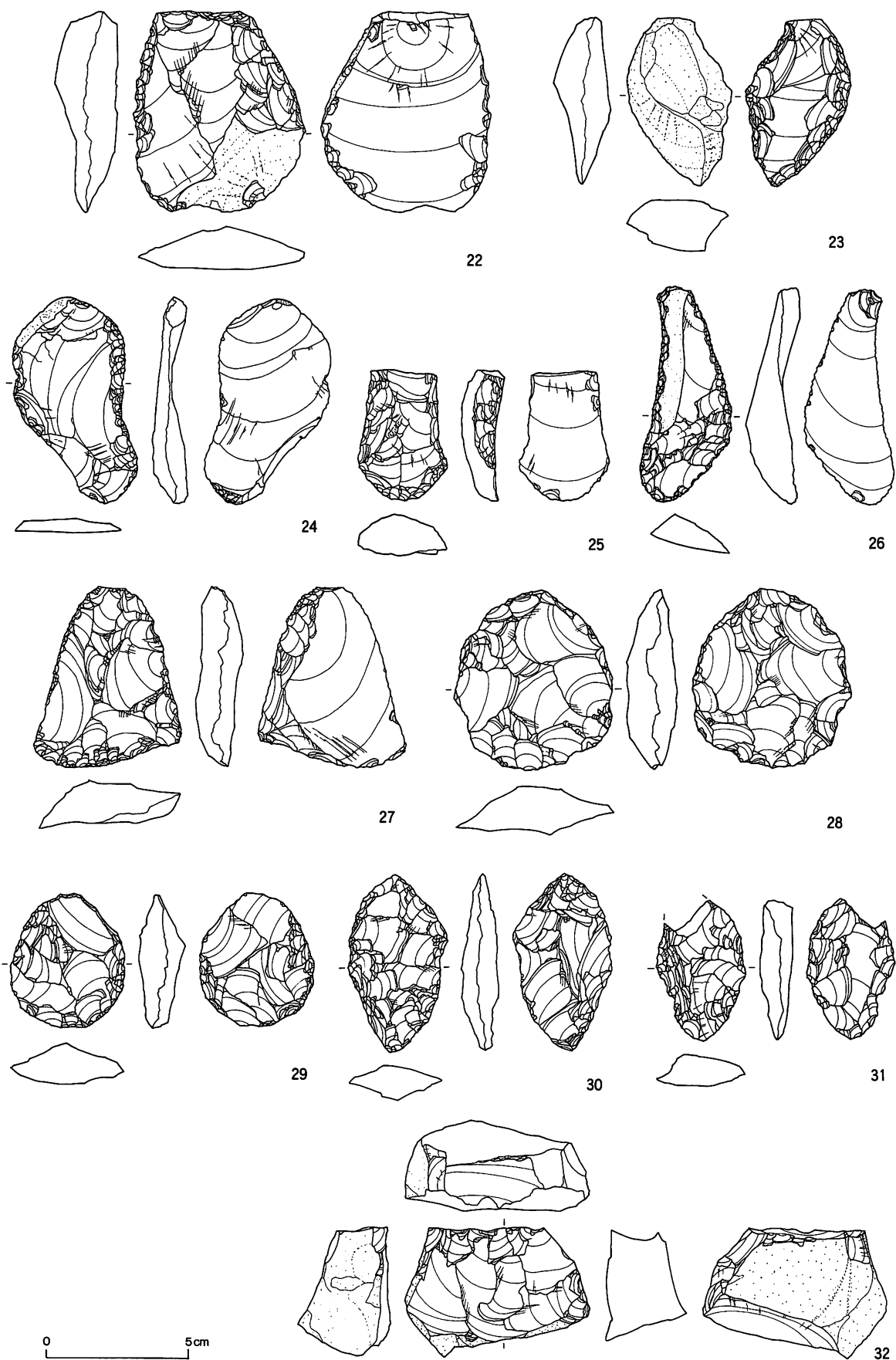
スクレイパー（図VI-55・56-19~27）

72点出土した。7割以上の54点が1類：縦形のもので、2類：横形のものが2点、4類：篋状石器が1点、8類：他にあてはまらないものが2点、分類不能の破片が13点である。1類では、1a類：側縁に刃部をもつものが多数で49点、1b類：端部に刃部を持つものが2点、1c類：尖頭部を作出するものが1点である。2類は2点とも2b類：端部に刃部を持つものである。石材は、ほとんどが



図VI-55 包含層出土の石器(1)

2 包含層の遺物



図VI-56 包含層出土の石器(2)

頁岩で、流紋岩とメノウが数点ずつ出土している。

19～27はスクレイパー。19～25は1類、27は4類。19～24は1 a類である。19～22は刃部が直線的なもの。19～21は片面加工のもの。19は左側縁に磨耗がみられる。21は下端部が尖頭状になる可能性がある。22は両面加工のもの。23は刃部が外湾するもの、24は刃部が内湾するもの。25は1 b類。両側縁にも急角度の剥離が加えられる。27は4類で、バルブの部分以外は片面加工である。なお、26はB地区出土のもので、第V章2節bで記載している。

両面加工石器 (図VI-56-28~31)

27点出土している。細分類は行わなかったが、形態のわかるものでは、木葉形のものが多く、円形のものや長方形のものも少数見られる。石材は、すべて頁岩である。

28～31は両面加工石器。28・29は円形のもの、30・31は木葉形のものである。30は左側縁下部に原石面が残るが、端部が尖り気味で、石槍の未成品の可能性もある。

石核 (図VI-56・57-32・33)

22点出土している。図示したような連続して剥離が行われるものは少なく、不規則に剥離が行われ、作業面が一定しないものや、節理面での割れがみられるものも多い。石材はすべて頁岩である。

32・33は石核。32は小形のもので、左側面から腹面にかけて原石面が残る。33は大形のもの。上面から左側面は原石面である。

石斧 (図VI-57-34・35)

9点出土している。形態のわかるものは3点のみで、1点が1類：短冊形のもの、2点が2類：撥形のものである。石材は、蛇紋岩が4点で、ほかに泥岩、緑色泥岩、片岩がみられる。

34は2類で、片岩製。全面粗割・磨りで整形される。35は破片のため細分不明のもの。緑色泥岩製で、背面に原石面が残る。

たたき石 (図VI-57-36~42)

62点出土している。1類：端部に使用痕がみられるものと、3類：平坦面に使用痕がみられるものがほぼ同数で、あわせて9割を占め、ほかには2類：側縁に使用痕がみられるものが少数見られる。使用痕が複合するものも見られた。石材はほとんどが安山岩で、砂岩、凝灰岩、珪岩、泥岩などが少数見られる。

36～42はたたき石。36・37は1類、39は2類、40～42は3類、38は4類。38は泥岩製で、細かいたたき痕が広範囲に見られる。39は2類。橄欖岩製と思われる、敲打状のたたき痕が広範囲にみられる。40～42は3類。42はやや大形のもので、広範囲に細かいたたき痕がみられる。台石的に使用された可能性がある。38は、泥岩製で、細かいたたき痕が広範囲に見られる。素材の形状から、4類とした。

すり石 (図VI-58・59-43~58)

66点出土した。1類：断面三角形の礫を素材とするもの、2類：側縁に使用痕がみられるもの、5類：半円状扁平打製石器がそれぞれほぼ2割ずつ出土している。ほかには、6類：北海道式石冠、4類：両端に打ち欠き加えられるものがやや多く、3類：平坦面に使用痕がみられるものが2点出土している。また、4類あるいは5類と同様の加工が加えられているが、使用痕が認められないものが、それぞれ3点、2点出土しており、未成品と思われる。4類の未成品については、石錘の可能性も考えられるが、使用痕のあるものと同程度の大きさであることから、すり石に含めた。また、6類の未成品も1点出土している。石材はたたき石と同様ほとんどが安山岩で、流紋岩、砂岩、凝灰岩のものがわずかに見られる。

43～58はすり石。43～45は1類、46～48は2類、49は4類、50～54は5類、55～58は6類である。

2 包含層の遺物

45は下側縁にたたき痕とすり痕、左端部にすり痕、右端部にたたき痕がみられる。被熱し、赤化・はじけが見られる。46～48は2類。46は使用面が加工されないもの、47・48は使用面に剥離が加えられるもの。46は右半部にのみ剥離が加えられている。49は4類で、角礫を素材としている。50～54は5類。すべて使用面に剥離が加えられる。50は使用面の剥離はわずかである。52は小形のもので、凝灰岩製。53は板状の流紋岩製である。54は破損した半円状扁平打製石器片を再加工したものと思われる。55～58は6類。55・56はほぼ全面が敲打で整形されるもの。55は被熱のため、全面にひび割れている。57はにぎり部のみを敲打で作出すもの。58は未成品。上端部や下面を敲打で平坦に整形している。

砥石 (図VI-59-59~61)

48点出土した。うち38点は同一個体で、59で図示したものである。石材は砂岩のものがやや多く、ほかに流紋岩、凝灰岩、安山岩が見られる。

59～61は砥石。59は砂岩のもの。使用面はU字状にわずかに窪む。60は流紋岩、61は凝灰岩のものである。

石鋸 (図VI-59-62)

2点出土した。砂岩製と流紋岩製がある。

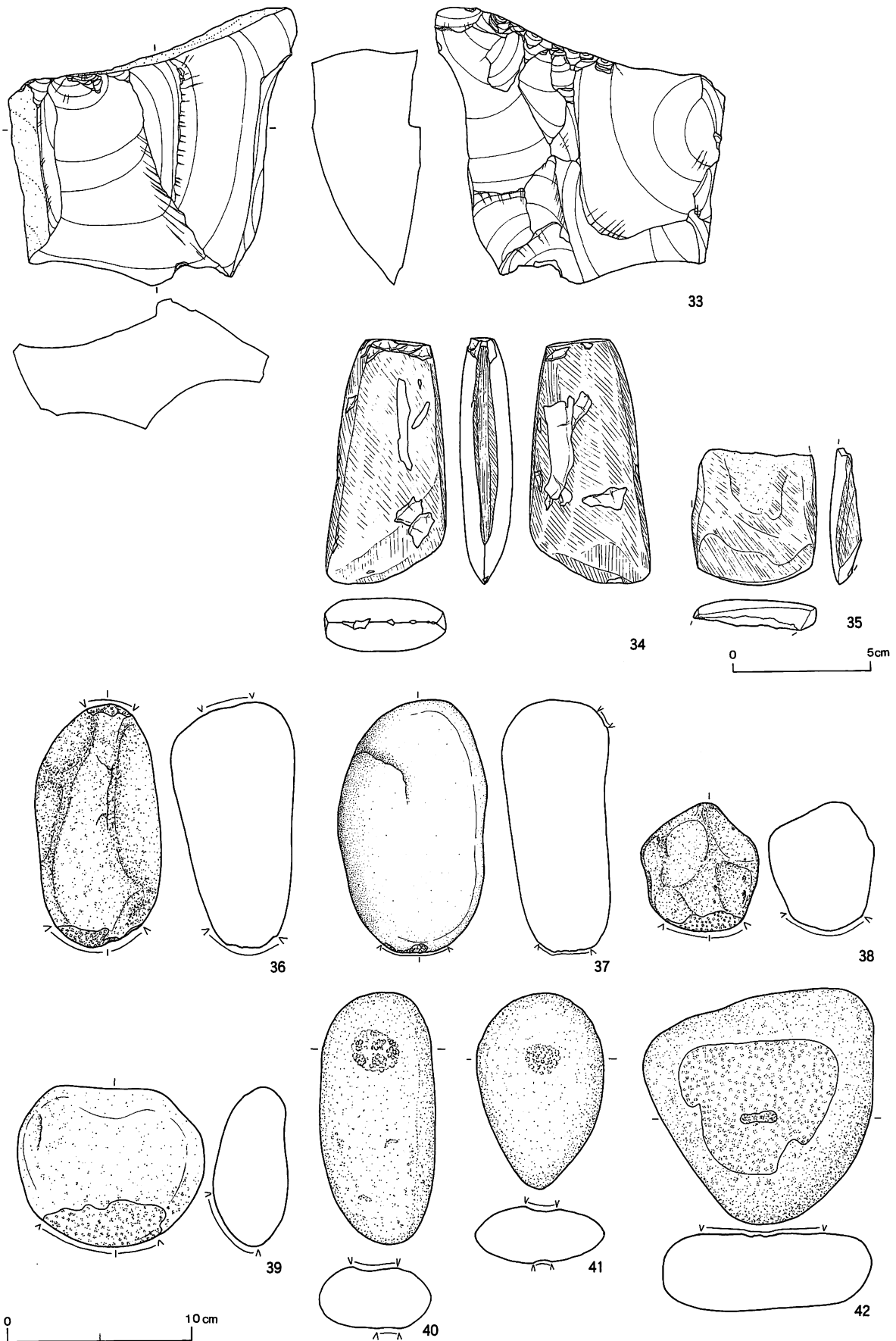
62は砂岩製のもの。背面にすり痕が見られ、砥石的な機能を併せもつものと思われる。

石錘 (図VI-59-63~70)

44点出土している。大きさは5～8 cmにほぼ収まる。円礫を素材としたものがほとんどであるが、凝灰岩の角礫を用いたものも数点みられる。石材は安山岩が7割ほどで、ほかに砂岩、凝灰岩がやや多く、流紋岩、片岩も少数見られる。

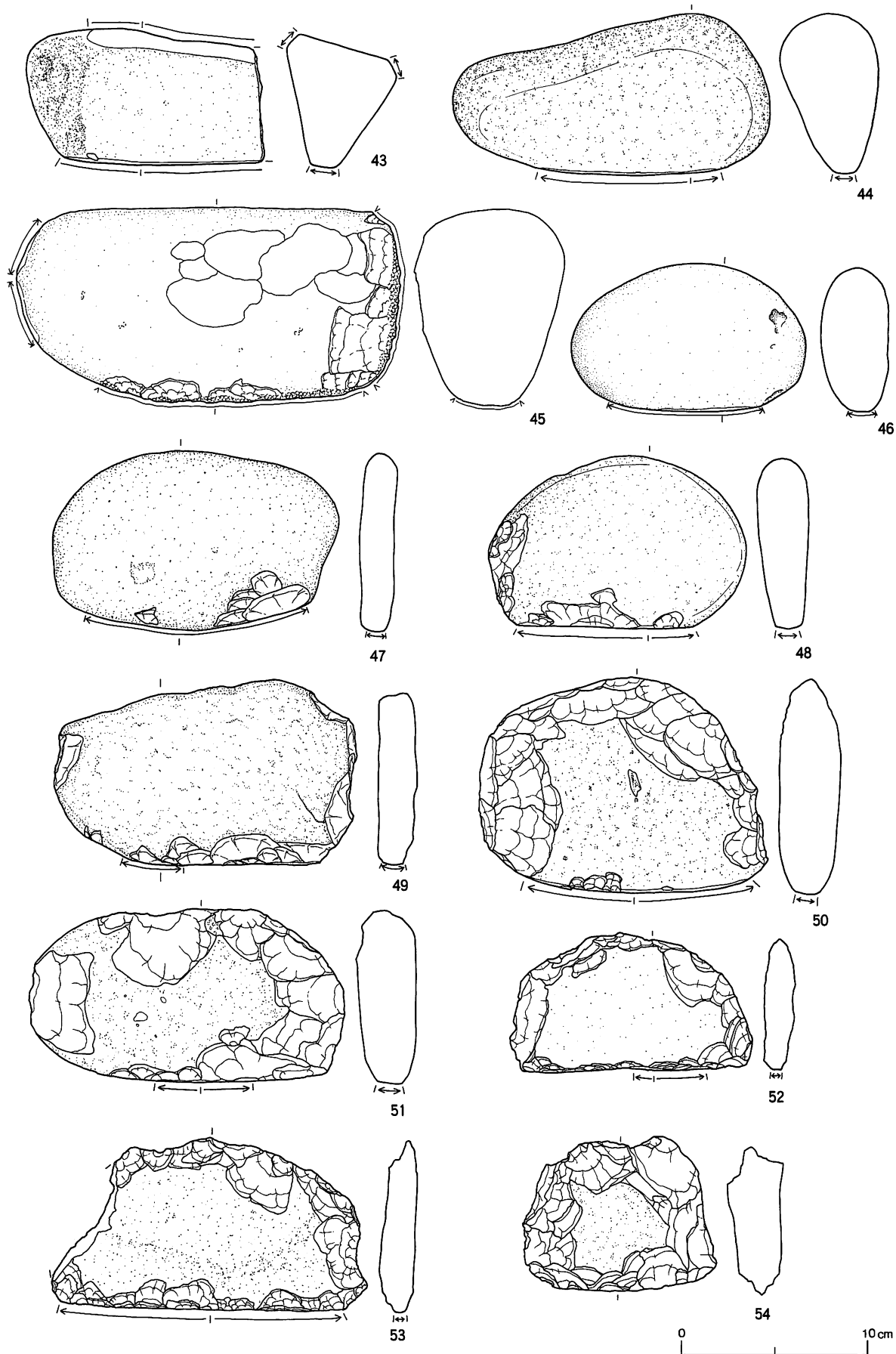
63～70は石錘。63は片岩製のもの。65は基盤層に含まれる風化した凝灰岩を用いたもの。68は主に片面からの打ち欠きが加えられており、上下の側縁にたたき痕・すり痕が、背面に横方向のすり痕がみられる。69の左端部は礫の自然のくぼみを利用している。70は凝灰岩の角礫を素材としたものである。

(柳瀬)

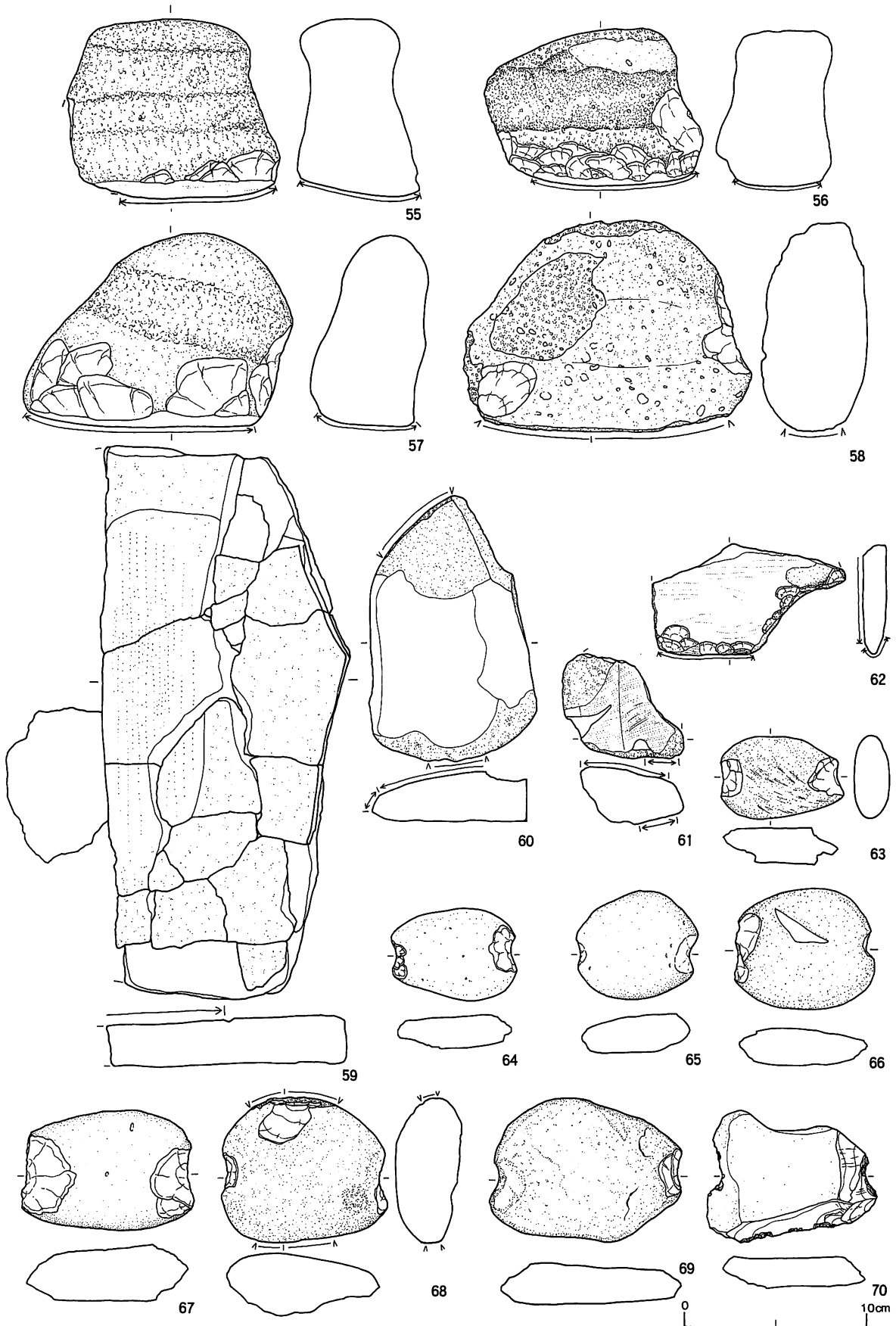


図VI-57 包含層出土の石器 (3)

2 包含層の遺物

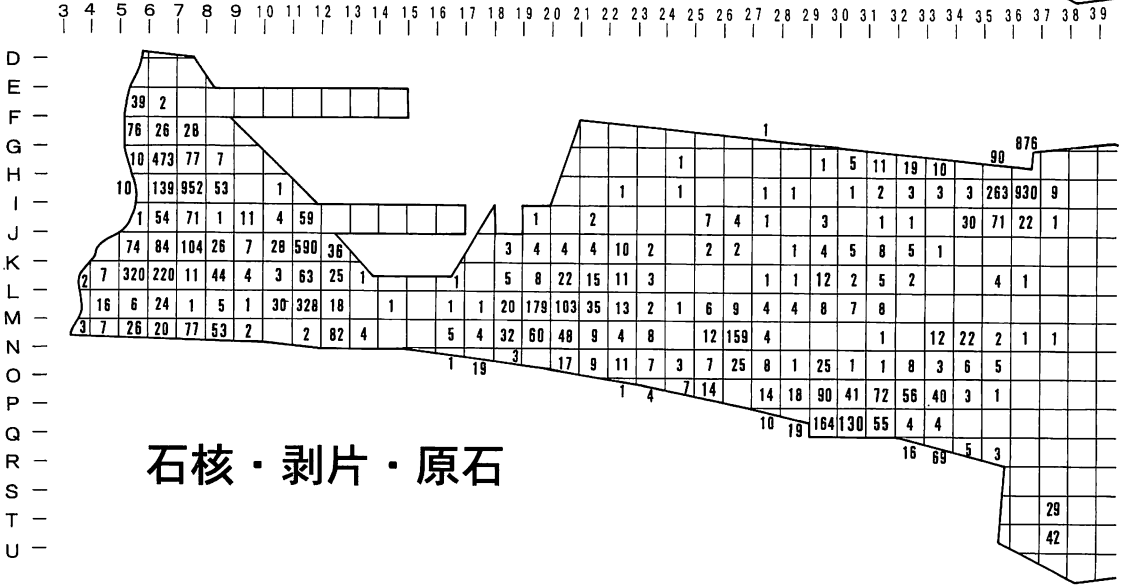
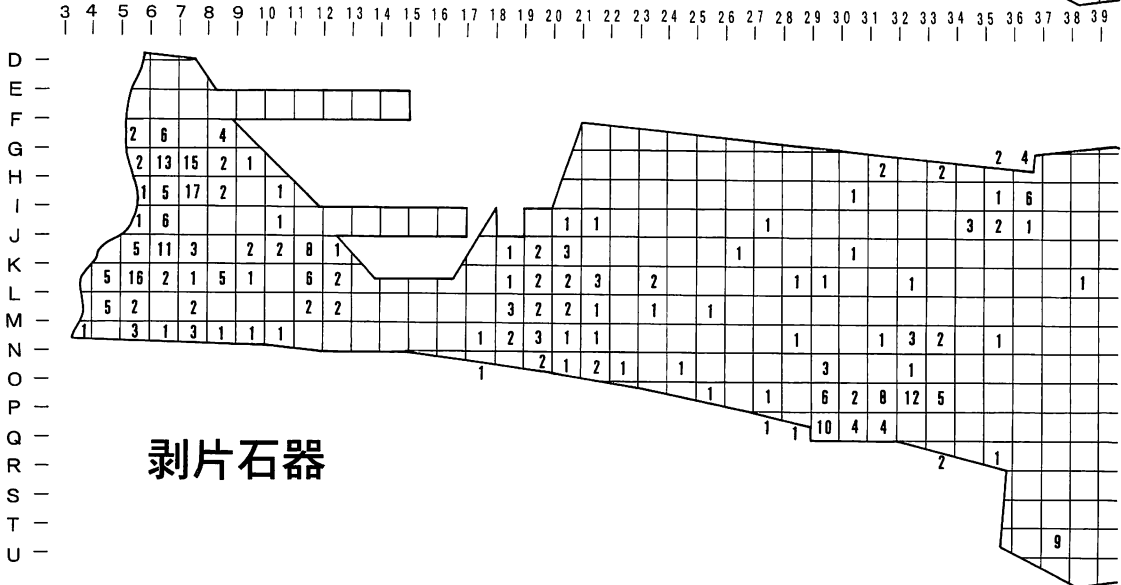
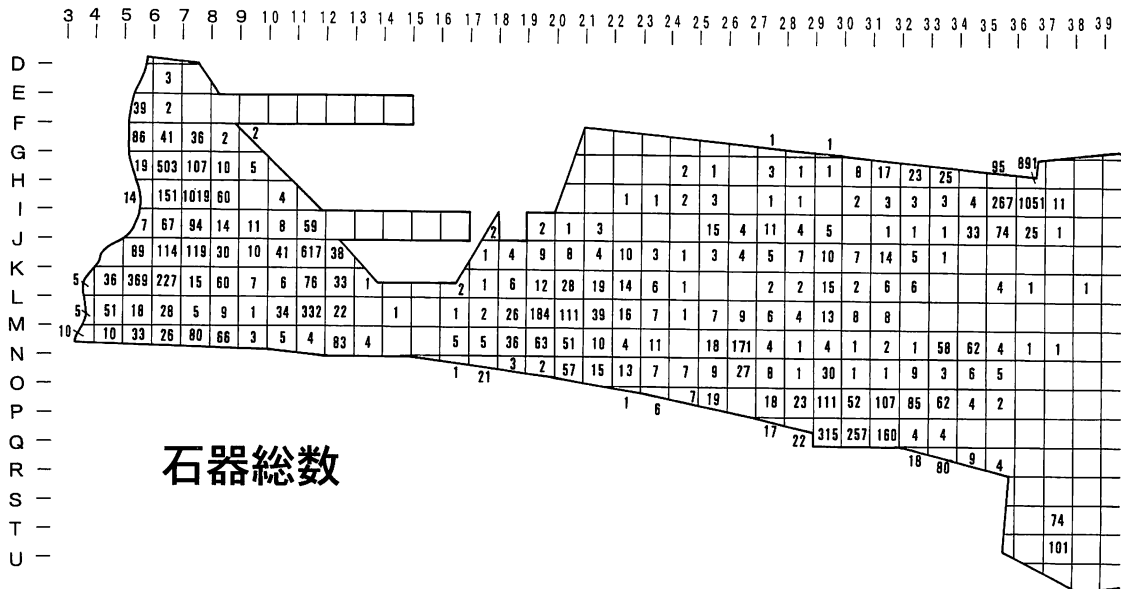


図VI-58 包含層出土の石器(4)

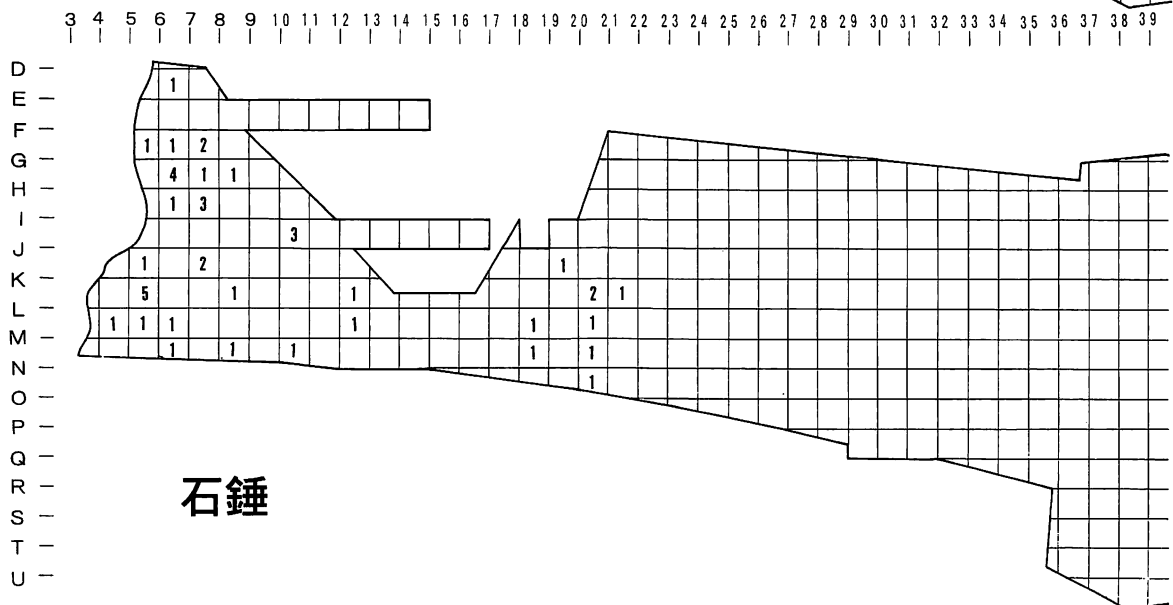
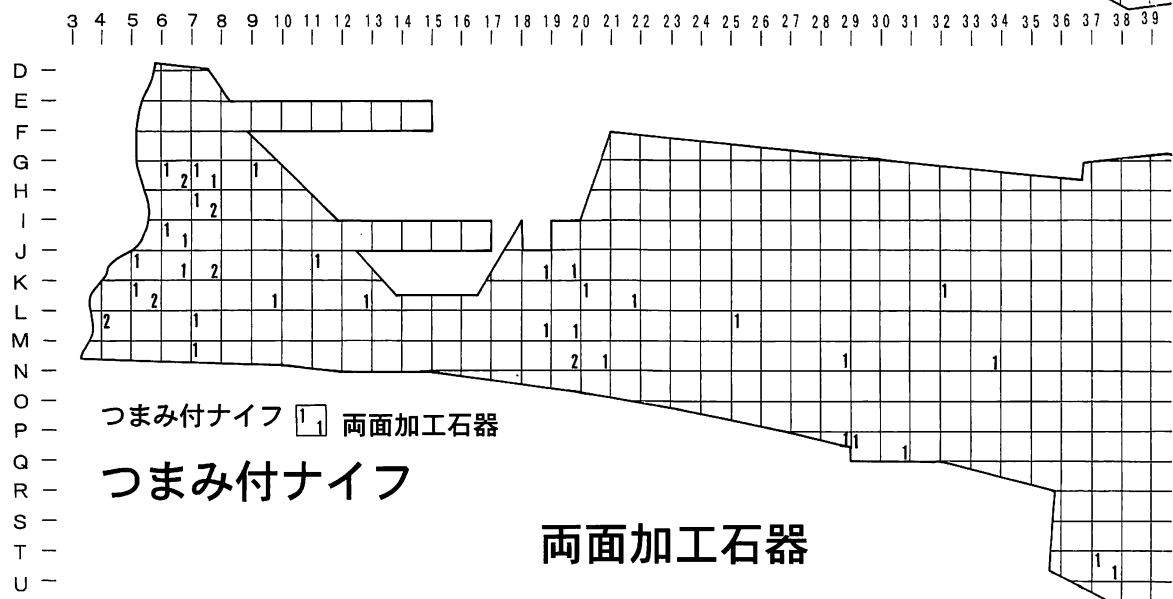
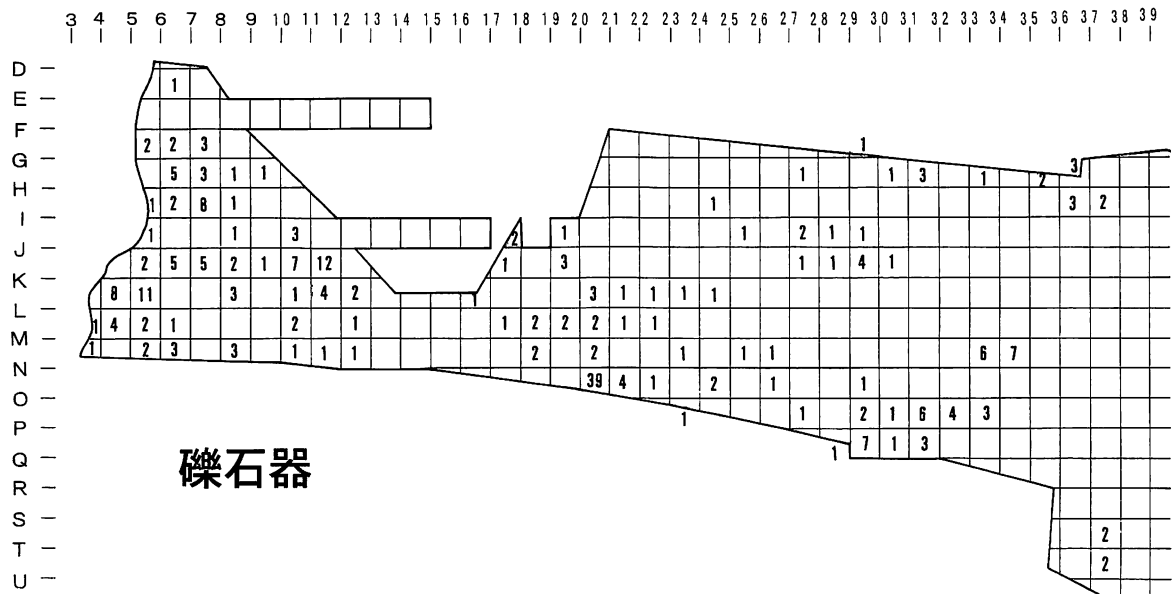


図VI-59 包含層出土の石器(5)

2 包含層の遺物



図VI-60 出土石器分布(1)



図VI-61 出土石器分布 (2)

表1 遺構規模一覽 (竪穴住居跡)

遺構名	地区	位置	規 模 (m)			重複関係
			長 軸		深さ	
			上場 / 下場	上場 / 下場		
H-1	B1	H・I52	3.01 / 2.50	2.61 / 2.39	0.56	
H-2	B1	L・M45・46	4.62 / 4.36	4.27 / 3.79	0.52	H-22>H-20>H-2
H-3	B1	L~N57~59	9.40 / 3.26	5.89 / 2.68	0.74	
H-5	B1	PQ42・43	5.88 / 5.76	3.93 / 3.53		
H-6	B1	Q・R50・51	2.63 / 2.31	2.27 / 2.02	0.31	
H-7	D	L8	— / —	4.16 / 3.20	0.30	
H-8	A	X0119・120	1.93 / 1.68	1.51 / 1.24	0.27	
H-9	D	G・H6・7	3.71 / 3.64	3.46 / 2.82	0.27	
H-10	D	J・K5・6	2.61 / 2.50	2.31 / 2.29	0.17	
H-11	B1	I・J49・50	4.24 / 4.10	3.43 / 2.98	0.62	
H-12	B1	J44,K44・45	3.74 / 3.19	3.53 / 2.93	0.38	
H-13	B1	M・N42・43	5.72 / 5.43	3.68 / 3.53	0.60	H-13>P-22
H-14	B1	K・L44・45	2.84 / 2.26	2.53 / 2.14	0.30	
H-15	B1	O・P43・44	2.67 / 2.37	2.64 / 2.09	0.43	H-14>P-21
H-16	B1	R43・44	— / —	— / —	0.49	
H-17	B1	K・L43	2.96 / 2.44	2.81 / 2.48	0.48	P-26>H-17
H-18	B1	J・K49	4.15 / 3.71	3.38 / 2.86	0.58	
H-19	B1	K・L52・53	3.12 / 2.58	(2.80) / 2.51	0.60	
H-20	B1	L・M45・46	4.74 / 4.32	4.40 / 4.00	0.65	H-22>H-20>H-2 P-54>H-20
H-21	B1	N44・45	— / —	— / —		
H-22	B1	L45~47	4.57 / 4.11	(1.48) / (1.10)	—	H-22>H-20>H-2
H-23	B1	N45	(2.35) / —	3.72 /	0.25	
H-24	B1	R・S46・47	4.01 / 3.68	3.33 / 2.96	0.43	
H-26	B1	I・J49・50	5.23 / 4.89	(4.90) / 3.40	0.51	

(建物跡)

遺構名	地区	位置	規 模 (m)			重複関係
			長 軸		深さ	
			上場 / 下場	上場 / 下場		
建物跡1	C	M・N23~25	8.67 / —	4.23 / —	—	
建物跡2	C	J・K22	4.13 / —	(3.44) / —	—	
建物跡3	C	K・L20	2.68 / —	2.23 / —	—	建物3≠建物4
建物跡4	C	K・L20	2.59 / —	2.37 / —	—	建物3≠建物4
建物跡5	C	K・L19	2.53 / —	2.27 / —	—	建物5≠建物6
建物跡6	C	K・L19	2.60 / —	2.17 / —	—	建物5≠建物6
建物跡7	D	J10・11	1.51 / —	1.42 / —	—	
建物跡8	C	O27	3.02 / —	2.50 / —	—	
建物跡9	C	J19・20	2.58 / —	2.49 / —	—	
建物跡10	C	G・H36	(3.24) / —	2.60 / —	—	

遺構規模一覽 (土坑)

遺構名	地区	位置	規模 (m)				重複関係	
			長 軸		短 軸			深さ
			上場 / 下場	上場 / 下場	上場 / 下場	上場 / 下場		
P-1	A	Z0・A142	2.02 / 1.58	1.56 / 1.22	0.42			
P-2	A	F・G144	2.09 / 1.66	1.82 / 1.48	0.49			
P-3	A	C126	2.05 / 1.80	1.66 / 1.42	0.20			
P-4	C	H22	0.84 / 0.56	(0.82) / 0.61	0.09			
P-5	C	M26	1.33 / 0.42	1.32 / 0.51	0.40			
P-6	C	P32	1.01 / 0.68	0.85 / 0.60	0.13			
P-7	C	P32	0.81 / 0.66	(0.34) / (0.28)	0.14			
P-8	C	I・J8	1.06 / 0.68	0.99 / 0.54	0.28			
P-9	B1	I54	0.74 / 0.62	0.72 / 0.51	0.38			
P-10	C	P・Q31・32	0.82 / 0.52	0.65 / 0.38	0.25			
P-11	B1	Q51	0.95 / 0.37	0.86 / 0.39	0.44			
P-12	B1	I・J47	0.73 / 0.40	0.71 / 0.42	0.35			
P-13	B1	I45・46	0.65 / 0.46	0.59 / 0.49	0.28			
P-14	B1	I44	1.26 / 0.54	1.22 / 0.61	0.57			
P-15	B1	I44・45	1.06 / 0.72	0.90 / 0.50	0.64			
P-16	B1	I・J47・48	0.98 / 0.58	(0.92) / (0.50)	0.32			
P-17	A	G・H131・132	1.47 / 1.12	1.42 / 1.08	0.78			
P-18	D	M8	(0.72) / (0.71)	0.57 / 0.52	(0.21)			
P-19	A	A129	1.90 / 1.85	1.48 / 1.43	0.31			
P-20	B1	I43・44	(0.77) / (0.28)	0.80 / 0.22	0.47			
P-21	B1	L45	0.97 / 0.79	0.77 / 0.63	0.23			
P-22	B1	M・N43	1.46 / 1.33	0.69 / 0.60	0.39			
P-23	B2	L79・80	(1.23) / 0.93	(0.95) / 0.37	0.25			
P-24	B1	N41・42	1.21 / 0.39	(0.81) / 0.46	0.59			
P-25	B1	P43	1.18 / 0.12	0.59 / 0.05	0.48			
P-26	B1	K・L43	1.73 / 1.60	1.67 / 1.42	0.49	P-26>H-17		
P-27	B2	L80	(0.77) / 0.43	(0.72) / 0.43	(0.24)			
P-28	B1	O46	0.65 / 0.43	0.48 / 0.32	0.17			
P-29	B1	P42	0.60 / 0.11	0.58 / 0.10	0.55			
P-30	B1	P42	0.75 / 0.20	0.53 / 0.14	0.22			
P-31	B1	O42	1.75 / 0.83	(1.43) / 0.63	0.37			
P-32	B1	L・M44	1.85 / 1.72	1.45 / 1.28	0.33			
P-33	B1	O41・42	1.03 / 0.13	0.87 / 0.13	0.52			
P-34	C	H30	(1.07) / 0.64	(1.01) / 0.61	(0.38)			
P-35	C	O33	0.59 / 0.44	0.58 / 0.42	0.50			
P-36	C	J36	(0.88) / 0.53	(0.62) / (0.35)	(0.12)			
P-37	C	J33・34	(1.11) / 0.55	(0.98) / 0.50	(0.25)			
P-38	B1	O59	1.11 / 0.79	(0.68) / (0.29)	0.39			
P-39	C	O31	0.93 / 0.31	0.92 / 0.27	0.24			
P-40	B1	Q57	0.52 / 0.42	0.51 / 0.36	0.16			
P-41	B1	Q57	(0.52) / (0.31)	0.54 / 0.25	0.36			
P-42	B1	Q57	(0.46) / (0.35)	0.40 / 0.25	0.33			
P-43	B1	P57	0.56 / 0.38	0.58 / 0.33	0.16			
P-44	B1	N45	0.57 / 0.30	0.42 / 0.23	0.15			
P-45	B1	N44	0.40 / 0.27	0.37 / 0.20	0.13			
P-46	B1	O44	0.42 / 0.16	0.40 / 0.21	0.14			
P-47	B1	O44	0.44 / 0.13	0.31 / 0.17	0.14			
P-48	B1	O44・45	0.57 / 0.08	0.49 / 0.06	0.25			
P-49	B1	P50	1.64 / 0.77	1.50 / 0.69	0.45			
P-50	B1	O・P50	0.97 / 0.55	0.85 / 0.44	0.31	P-51>P-50		
P-51	B1	O50	(0.95) / (0.70)	0.78 / 0.56	0.28	P-51>P-50		
P-52	B1	O50	0.63 / 0.26	0.61 / 0.22	0.25			
P-53	B1	I45	0.49 / 0.26	0.46 / 0.22	0.33			
P-54	B1	M46	0.91 / 0.52	(0.56) / (0.34)	0.21	P-54H-20		
P-55	B1	O45	0.86 / 0.47	0.73 / 0.32	0.16			
P-56	B1	J51	(0.55) / 0.48	(0.50) / 0.30	0.90			

遺構規模一覽 (土坑)

遺構名	地区	位置	規 模 (m)				重複関係	
			長 軸		短 軸			深さ
			上場 / 下場	上場 / 下場	上場 / 下場	上場 / 下場		
P-57	B1	H・I52	1.57 / 1.22	0.58 / 0.40	0.37			
P-58	B1	N53	(2.22) / (1.96)	2.02 / 1.69	0.19			
P-59	B1	J50・51	0.55 / 0.21	0.37 / 0.11	0.20			
P-60	C	O32	1.13 / 0.58	1.07 / 0.55	0.41			
P-61	C	O32・33	(1.63) / 0.81	1.22 / 0.85	0.34	72・73>61		
P-62	B1	L49	1.13 / 0.75	0.78 / 0.56	0.25			
P-63	B1	M・N47	0.73 / 0.16	0.70 / 0.06	0.52			
P-64	B1	O46	0.59 / 0.30	0.57 / 0.32	0.23			
P-65	B1	O47	0.44 / 0.23	0.36 / 0.12	0.36			
P-66	B1	L52	1.07 / 0.38	0.91 / 0.20	0.57			
P-67	B1	J47	0.90 / 0.65	0.87 / 0.69	0.38			
P-68	B1	O47・48	0.81 / 0.48	0.74 / (0.43)	0.42			
P-69	B1	N44	0.67 / 0.60	0.47 / 0.37	0.31			
P-70	B1	N44	0.64 / 0.51	0.53 / 0.42	0.18			
P-71	C	H28	0.67 / 0.49	0.66 / 0.54	0.32			
P-72	C	O32	(1.48) / (0.50)	1.33 / 0.43	0.38	61・73>72		
P-73	C	O32	(1.41) / (1.36)	1.08 / 0.95	0.30	73>61>72		
P-74	C	J28	1.03 / 0.93	0.80 / 0.62	0.23			
P-75	C	H27・28	0.80 / 0.71	0.72 / 0.61	0.30			
P-76	C	H27	0.68 / 0.54	0.65 / 0.61	0.28			
P-77	B1	I53	1.07 / 0.79	0.96 / 0.78	0.56			
P-78	B1	H・I53	1.21 / 0.88	(0.80) / 0.50	0.34			
P-79	B1	H54	(0.30) / (0.20)	0.30 / 0.15	0.29			
P-80	C	H24	1.10 / 0.81	1.09 / 0.75	0.37			
P-81	C	H24	1.16 / 0.90	0.98 / 0.75	0.43			
P-82	C	H22・23	1.00 / 0.65	0.83 / 0.51	0.35			
P-83	B1	K48	1.36 / 0.87	1.18 / 0.53	0.36			
P-84	C	G・H29・30	0.84 / 0.52	0.74 / 0.50	0.17			
P-85	B1	H54・55	0.84 / 0.75	0.65 / 0.60	0.30			
P-86	B1	J54	(0.31) / (0.17)	(0.34) / (0.24)	0.22			
P-87	B1	Q47	0.99 / 0.75	0.86 / 0.63	0.17			
P-88	B1	R48・49	(0.64) / (0.55)	0.56 / 0.38	0.19			
P-89	C	G22	0.87 / 0.68	0.83 / 0.69	0.29			
P-90	C	H21	0.66 / 0.42	0.59 / 0.42	0.33			
P-91	B1	J・K48	0.59 / 0.38	0.44 / 0.26	0.21			
P-92	C	M17・18	(0.96) / 0.82	(0.83) / 0.54	(0.51)			
P-93	B1	H48	(0.34) / 0.26	(0.28) / (0.26)	0.08			
P-94	B1	H・I53	(0.42) / —	0.28 / 0.14	0.20			
P-95	B1	J52	0.41 / 0.21	0.30 / 0.20	0.13			
P-96	B1	Q53	1.22 / 1.01	1.15 / 0.83	0.26			
P-97	B1	L50	1.19 / 0.92	0.81 / 0.52	0.39			
P-98	B1	L50	0.93 / 0.65	0.67 / 0.40	0.28			
P-99	B1	K50	0.34 / 0.12	0.31 / 0.15	0.17			
P-100	B1	Q52	0.72 / 0.53	0.58 / 0.41	0.25			
P-102	B1	L・M50	(0.36) / (0.26)	0.38 / 0.20	0.29			
P-103	C	L22	(1.11) / 0.56	(0.99) / 0.47	(0.37)			
P-104	C	N20	(1.05) / 0.79	(1.01) / 0.73	(0.25)			
P-105	B1	K49	0.53 / 0.42	0.44 / 0.28	0.19			
P-106	B1	N50	0.79 / 0.54	0.77 / 0.44	0.23			
P-108	B1	Q50	0.62 / 0.47	0.47 / 0.34	0.19			
P-109	D	L7・8	0.68 / 0.49	0.63 / 0.32	0.14			
P-110	B1	L49・50	0.78 / 0.61	0.58 / 0.48	0.30			
P-111	C	G36	(1.44) / 1.26	(0.75) / 0.65	0.30			
P-112	B1	J49	0.61 / 0.50	0.59 / 0.42	0.21			
P-113	B1	O・P43	0.84 / 0.52	0.69 / 0.60	0.38			

遺構規模一覧 (Tピット)

遺構名	地区	位置	規 模 (m)				深さ	重複関係
			長 軸		短 軸			
			上場 / 下場	上場 / 下場	上場 / 下場	上場 / 下場		
TP-1	A	H・I123・124	1.67 / 1.87	0.55 / 0.31	1.09			
TP-2	A	G・H121	1.53 / 1.88	0.42 / 0.25	1.42			
TP-3	A	K126	1.46 / (1.88)	0.51 / 0.23	1.22			
TP-4	A	G130・131	3.84 / 3.93	1.00 / 0.32	1.45			
TP-5	A	J125	1.57 / 2.02	0.42 / 0.22	1.14			
TP-6	A	W0120	(1.84) / (2.00)	0.68 / 0.30	1.37			
TP-7	A	R0117・118	2.95 / 2.92	1.07 / 0.18	1.25			

(焼土)

遺構名	地区	位置	規 模 (m)			重複関係
			長 軸	短 軸	層厚	
F-1	B1	P43	0.75	0.72	0.06	
F-2	A	F127	1.51	0.61	0.24	
F-3	B2	L66	0.64	0.21	0.13	
F-4	B1	I44	1.44	1.20	0.37	
F-5	A	H・I139	0.50	0.40	0.06	
F-6	D	H7	0.43	0.33	0.07	
F-7	D	H7・8	1.10	0.52	0.07	
F-8	D	K11	0.60	0.51	0.09	
F-9	D	K11	0.52	0.49	0.20	
F-10	B2	M66	1.17	0.33	0.07	
F-11	B2	Q70	0.16	0.09	0.02	
F-12	B2	L・M78	1.00	0.96	0.18	
F-13	B2	K78	0.96	0.72	0.02	
F-14	B1	O・P43	0.66	0.55	0.14	
F-15	B1	O57	1.03	0.78	0.12	
F-16	B1	N・O59	0.96	0.73	0.18	
F-17	B1	N59・60	0.73	0.58	0.13	
F-18	B1	N43	0.82	0.38	0.14	
F-19	B1	L44	0.39	0.31	0.08	
F-20	B1	L43・44	0.93	0.74	0.11	
F-21	B1	O44	0.95	0.55	0.07	
F-22	B1	N43	1.24	0.67	0.11	
F-23	C	O32	0.75	0.50	0.13	
F-24	C	Q34	0.68	0.48	0.10	
F-25	B1	L60	0.80	0.52	—	
F-26	B1	Q59	0.50	0.33	—	
F-27	B1	M43	0.23	0.19	0.08	
F-28	B1	M42	0.35	0.34	0.07	
F-29	B1	R59	0.46	0.30	—	
F-30	C	G31	1.57	1.17	0.15	
F-31	B1	N44	0.65	(0.40)	0.15	
F-32	B1	N45	0.95	0.66	—	
F-33	B1	L50・51	0.79	0.61	0.23	
F-34	B1	L・M48	(1.28)	(1.24)	—	
F-35	B1	N46・47	0.61	0.53	—	
F-36	B1	R・S51	0.38	0.29	0.08	
F-37	B1	R52	0.83	0.47	0.12	
F-38	B1	P49	0.55	0.43	0.09	
F-39	B1	K53	0.53	0.42	0.16	
F-40	C	F28	0.40	0.29	0.11	
F-41	B1	Q45	0.70	0.60	0.14	
F-42	B1	N51	1.12	(0.44)	0.10	
F-43	C	K・28・29、L28	(0.63) 0.84 0.36 (0.25)	(0.46) 0.43 0.11 (0.15)	(0.10) 0.03 0.02 0.01	

遺構規模一覧 (焼土)

遺構名	地区	位置	規 模 (m)			重複関係
			長 軸	短 軸	層厚	
F-44	B1	L47	0.46	0.31	—	
F-45	C	O27・28	0.69	0.48	0.07	
F-46	B1	R47	0.71	—0.27	0.15	
F-47	C	K25	1.15	(0.68)	0.06	
F-48	C	L26	(1.54)	(0.79)	0.06	
F-49	C	O24	(0.56)	(0.42)	(0.06)	
F-50	C	O25	(0.92)	(0.60)	(0.17)	
F-51	B1	O50	0.61	—0.39	0.13	
F-52	B1	Q53	0.67	0.47	0.12	
F-53	C	K26・27	2.24	0.64	0.06	
F-54	B1	N50	0.16	0.13	0.04	
F-55	C	K・L18	1.33	(1.18)	0.24	
F-56	C	O32	0.46	0.24	0.09	

(その他の遺構)

遺構名	地区	位置	規 模 (m)			重複関係
			長 軸	短 軸	深さ	
I-1	B 1	I52	1.02	0.61	—	
I-3	B 2	L78	0.46	0.39	0.30	
S-1	B 2	L78	4.68	3.36	—	
S-2	B 1	R43	0.60	0.52	—	
S-3	B 2	L78・79	1.23	1.25	—	
S-4	B 1	N・O44	1.16	0.86	—	
S-5	C	O32	2.73	1.17	—	
S-6	C	L25	1.28	0.81	—	
S-7	B 2	L70	0.73	1.00	0.06	
S-8	B 1	J49	0.62	0.40	—	
埋設土器	B 1	M・N58	0.41	0.40	0.40	
FC-1	B	L61	1.14	0.64	—	
FC-2	B	P61	1.26	0.24	—	
FC-3	B	R62	1.04	0.80	—	
FC-4	C	S41	0.64	0.40	—	
FC-5	D	K5・6	1.43	0.97	0.12	
FC-6	D	L11	1.17	0.75	0.13	
FC-7	B 1	L43	0.37	0.24	0.10	
FC-8	B 1	Q44・45	0.43	0.41	0.03	
FC-9	B 1	R41・42	0.85	0.78	—	
FC-10	B 1	R59	0.18	0.15	—	
FC-11	B 1	M59	0.44	0.30	—	
FC-12	C	G35, H35・36	3.69	3.50	1.47	
FC-13	B 1	L61	0.54	0.29	—	
FC-14	B 1	P45・46	0.83	0.50	0.08	
FC-15	B 1	P46	1.72	0.78	0.18	
FC-16	B 1	K51	0.57	0.26	—	
FC-17	B 1	O51	0.36 0.16	0.24 0.14	0.04 0.04	
FC-18	C	L19	1.64	1.32	0.03	
FC-19	D	J6	0.73	0.70	—	
FC-20	B 1	L58・59	(0.82)	(0.68)	—	H-3>FC-20
C-1	B 1	K49	0.34	0.23	—	

表3 遺構出土掲載復原土器一覽 A地区

図番号	掲載番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	計	大きさ (cm)	
図IV-4	1	P-3	7	床	ⅢB-2	24	31	30.7	23.2
			8	床	ⅢB-2	1			
			9	床	ⅢB-2	6			
図IV-4	2	P-3	9	床	ⅢB-2	20	20	24.6	21.1
図IV-4	3	P-3	8	床	ⅢB-2	55	55	29.4	22.5
						10	10	復元残	

表4 遺構出土掲載拓本土器一覽 A地区

図番号	掲載番号	拓本番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図IV-2	1	37	H-8	1	焼土	ⅢA-3	3	
				2	焼土	ⅢA-3	1	
				3	焼土	ⅢA-3	1	計5点
図IV-4	5	111	P-3	3	フク土	ⅢB-2	1	
図IV-4	4	112	P-3	11	床	ⅢB-2	1	

表5 遺構出土掲載復原土器一覽 B地区

図番号	掲載番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	計	大きさ (cm)		
								高さ	口径	
図V-4	1	H-1	5	床	ⅢA-3	17	18	30.3	20.3	
			46	フク土2		1				
図V-3	2	H-1(ⅢP-1)	13	床	ⅢA-3	2	10	18.4	16.3	
			56			4				
			60			1				
図V-9	1	H-3	128	フク土2	ⅢA-3	2	3	17.5	18	
			193			1				
図V-9	2	H-3	182	フク土2	ⅢA-3	1	18	15.3	12	
			205			8				
図V-13	1	H-5	228	フク土	ⅢA-3	22	24	13.4	8.7	
			H-11	434		フク土1				1
			H-18	16		フク土				1
			H-5	228		フク土				3
図V-19	1	H-11	271	フク土	ⅢA-3	34	66	35	21.2	
			381			32				
			381			3				復元残3
図V-19	2	H-11	306	床	ⅢA-3	27	27	17.6	-	
			9			復元残3				
図V-19	3	H-11	422	埋設	ⅢA-3	56	56	25.8	18.7	
			422			6				復元残6
図V-25	1	H-14	6	フク土	ⅢA-3	1	8	9.4	7.4	
			11			1				
			12			4				
			1			1				
			9			1				
図V-28	1	H-15	15	床直	ⅢA-3	1	33	36	24	
			20			1				
			32	床		1				
			34			2				
			35			1				
			37	床直		1				
			42	床		2				
			48	床直		3				
			73	床		1				
			102	フク土上		16				
			103	フク土		3				
			不明	不明		1				復元残3
			H-15	6		フク土3				1
			44	床直		1				
H-13	80	フク土	1							
図V-32	1	H-18	60	フク土	ⅢA-3	3	6	14.9	23.9	
			62			1				
			188			2				

遺構出土掲載復原土器一覽 B地区

図番号	掲載番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	計	大きさ (cm)									
図V-32	2	H-18	278	埋設	ⅢA-3	25	25	16	-								
図V-37	1	H-19	5	フク土1	ⅢA-3	4	35	27.7	24.3								
			6	フク土2		1											
			12			1											
			16	フク土1		4											
			21			1											
			25	フク土2		2											
			28	フク土1		9											
			31	フク土2		1											
			33			2											
			36	フク土1		3											
			40	フク土		3											
			49	床面直		3											
			K-53	22		風倒木				2							
			L-47	15		Ⅲ				1							
			H-19	5		フク土				2	復元残9						
				16		フク土2				1							
				25		フク土2				2							
				28		フク土1				4							
				88		床				1							
				58						1							
64		1															
68		3															
70		1															
72		2															
74		1															
75	床面	1															
76		1															
78		1															
106		1	28	11.8	20.3												
86		1															
91		3															
95		1															
96		1															
100	床	1															
101		1															
104	床面	1															
107	床	2															
108		2															
114		1															
89	床面	1	復元残2														
115		1															
図V-37	3	H-19	26	フク土2	ⅢA-3	11	11	16.2	12.9								
図V-38	4	H-19	62	床面	ⅢA-3	8	8	17	-								
図V-37	5	H-19	54	床面	ⅢA-3	4	18	23.5	23.2								
			63			3											
			65			3											
			66			1											
			80			2											
			81			1											
			82			3											
			83			1											
			69							1	復元残5						
			73			1											
			88			1											
			90			2											
			図V-38			6				H-19	16	フク土1	ⅢA-3	7	19	16.5	20.9
											22	フク土2		12			
図V-65	1	F-13	1	Ⅲ	ⅡB-2	87	90	31	20.5								
			2			1											
			3			1											
			11			1											
			1			93				復元残93							
図V-80	1	S-1	1	Ⅲ中	ⅢA-2	69	69	43	34.6								
						100	復元残100										

遺構出土掲載復原土器一覧 B地区

図番号	掲載番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	計	大きさ (cm)
図V-81	1	埋設土器	213	H-3覆土	ⅢB-2	29	29	19.8
						3	復元残3	
						11		
図V-83	1	FC-4	Ⅲ	ⅣA-1	Ⅲ	7	61	44.8
						32		
						33		
						34		
						35	復元残4	
						39		
						32		
						33		
						34		
						35		
						39		

表6 遺構出土掲載拓本土器一覧 B地区

図番号	掲載番号	拓本番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図V-3	3	2	H-1	59	HP-2フクド	ⅢA-3	1	
図V-3	4	3	H-1	46	フクド2	ⅢA-3	1	
図V-3	5	1	H-1	1	床底	ⅢA-3	1	
図V-3	6	4	H-1	1	床	ⅢA-3	1	
図V-3	7	5	H-1	54	フクド2	ⅣA-1	1	
図V-3	8	6	H-1	11	床	ⅢA-3	1	
図V-3	9	20	H-1	15	床	ⅢA-3	1	
図V-6	1	7	H-2	17	フクド	ⅢA-3	1	
図V-6	2	11	H-2	17	フクド2	ⅣA-1	1	
図V-6	3	10	H-2	165	フクド1	ⅣA-1	1	
図V-6	4	8	H-2	77	床	ⅣA-1	1	
図V-6	5	12	H-2	33	フクド	ⅣA-1	1	
図V-6	6	13	H-2b	22	フクド	ⅣA-1	1	
図V-6	7	15a	H-2	147	フクド2	ⅣA-1	6	
図V-6	8	15b	H-2	147	フクド2	ⅣA-1	3	
図V-6	9	14	H-2d	2	フクド	ⅢB-2	1	
図V-6	10	17	H-2	63	床	ⅢB-2	1	
図V-6	11	18	H-2	137	フクド2	ⅢA-2	1	
図V-6	12	19	H-2a	12	フクド	ⅢA-3	4	
図V-9	3	27	H-4	2	フクド	ⅢA-3	2	
図V-9	4	22	H-3	231	フクド	ⅢA-3	3	
図V-9	5	28	H-4	34	フクド	ⅣA-1	1	
図V-9	6	21	H-3	142	フクド1	ⅢA-3	7	
図V-9	7	26	H-3	174	フクド1	ⅢA-3	1	計8点
図V-9	8	25	H-4	47	フクド	ⅢA-3	1	
図V-9	9	23	H-3	166	床	ⅢA-3	1	
図V-9	10	24	H-3	144	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-13	2	34	H-5	121	床	ⅢA-3	15	
図V-14	3	33	H-5	132	床	ⅢA-3	22	
			H-5	109	床	ⅢA-3	2	
			H-5	135	床	ⅢA-3	3	
			H-5	141	床	ⅢA-3	11	計38点
図V-14	4	32b	H-5	113	床	ⅢA-3	19	
			H-5	147	床	ⅢA-3	2	計21点
図V-14	5	30	H-5	18	床	ⅢA-2	1	
図V-14	6	31	H-5	228	フクド	ⅢA-2	1	
図V-14	7	32a	H-5	113	床	ⅢA-3	2	
図V-14	8	29	H-5	112	床	ⅢA-3	2	
図V-16	1	35	H-6	7	フクド	ⅢA-2	2	
図V-19	4	40	H-11	302	床	ⅢA-3	2	
図V-19	5	47	H-11	31	フクド	ⅢA-3	1	
図V-19	6	39	H-11	355	床	ⅢA-3	8	
図V-20	7	109	H-11	114	フクド	ⅢA-3	1	
			H-11	115	フクド	ⅢA-3	1	
			H-11	116	フクド	ⅢA-3	1	
			H-11	117	フクド	ⅢA-3	1	
			H-11	120	フクド	ⅢA-3	1	
			H-11	121	フクド	ⅢA-3	1	

遺構出土掲載拓本土器一覧 B地区

図番号	掲載番号	拓本番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
			H-11	125	フクド	ⅢA-3	2	
			H-11	148	フクド	ⅢA-3	1	
			H-11	149	フクド	ⅢA-3	1	
			H-11	151	フクド	ⅢA-3	1	
			H-11	154	フクド	ⅢA-3	1	計12点
図V-20	8	44	H-11	218	フクド	ⅢA-3	1	
図V-20	9	45	H-11	299	フクド	ⅢA-3	1	
図V-20	10	49	H-11	4	フクド	ⅢA-3	1	
図V-20	11	41	H-11	434	フクド1	ⅢA-3	4	
			H-11	93	フクド	ⅢA-3	1	計5点
図V-20	12	46	H-11	163	フクド	ⅢA-3	1	
図V-20	13	43	H-11	242	フクド	ⅢA-3	1	
図V-20	14	42	H-11	285	フクド	ⅢA-3	1	
図V-20	15	48	H-11	405	フクド1	ⅢA-3	2	
図V-20	17	50	H-11	219	フクド	ⅢA-3	2	
図V-20	18	51	H-11	24	フクド	ⅢA-3	1	
			H-11	188	フクド1	ⅢA-3	1	計2点
図V-20	19	52	H-11	359	床	ⅢA-3	1	
図V-20	20	173	H-11	264	フクド	円板状土製品	1	
図V-20	21	175	H-11	124	床	円板状土製品	2	
図V-20	22	174	H-11	272	フクド1	円板状土製品	1	
図V-20	16	323c	H-11	44	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-22	1	53	H-12C	1	フクド上	ⅢA-3	3	
図V-22	2	54	H-12C	2	フクド上	ⅣA-1	1	
図V-23	1	62	H-13	77	フクド	ⅢA-3	1	
図V-23	2	55	H-13	61	フクド	ⅢA-3	3	
図V-23	3	56	H-13	6	フクド1.3	ⅣA-1	5	
図V-23	4	61	H-13	63	フクド	ⅢA-3	1	
図V-23	5	59	H-13	1	フクド	ⅢA-3	8	
			N-43	96	Ⅲ	ⅢA-3	4	計12点
図V-24	6	60	H-13	68	フクド	ⅢA-3	5	
図V-24	7	57	H-13	39	フクド	ⅢA-3	1	
図V-24	8	110a	H-13	115	フクド	ⅢA-3	2	
図V-24	9	110b	H-13	114	フクド	ⅢA-3	4	
図V-25	2	63	H-14d	2	フクド	ⅣA-1	7	
図V-25	3	64	H-14d	2	フクド	円板状土製品	2	
図V-26	2	167	H-15b	6	フクド	ⅢA-2	3	
図V-26	3	65a	H-15	15	床直	ⅢB-2	4	
図V-26	4	67a	H-15b	13	フクド2	ⅢA-3	3	
図V-26	5	67b	H-15b	13	フクド2	ⅢA-3	8	
図V-27	6	66	H-15a	12	フクド	ⅢA-3	6	
			H-15a	6	フクド1	ⅢA-3	1	計7点
図V-27	7	68	H-15a	5	フクド1	ⅣA-1	1	
図V-27	8	70a	H-15	77	フクド	ⅣA-1	2	
図V-27	9	70b	H-15	77	フクド	ⅣA-1	1	
図V-27	10	69a	H-15a	6	フクド1	ⅢB-2	1	
図V-27	11	158	H-15a	6	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-27	12	69b	H-15a	12	フクド	ⅢB-2	4	
			H-15a	17	フクド	ⅢB-2	1	計5点
図V-30	1	71	H-16	88	フクド	ⅢB-2	1	
図V-30	2	72	H-16	20	フクド	ⅣA-1	1	
図V-30	3	73	H-16	13	フクド	ⅣA-1	1	
図V-31	1	74	H-17b	3	フクド	ⅢA-3	2	
			P-26	30	壙底	ⅢA-3	1	計3点
図V-34	3	88	H-18	252	床面	ⅢA-3	2	
			H-18	221	床直	ⅢA-3	1	
			H-18	223	床直	ⅢA-3	1	
			H-18	251	床面	ⅢA-3	1	
			H-18	253	床面	ⅢA-3	1	計6点
図V-34	4	76	H-18	101	フクド	ⅢA-3	3	
			H-18	43	フクド	ⅢA-3	1	
			H-18	94	フクド	ⅢA-3	3	
			H-18	97	フクド	ⅢA-3	1	計8点
図V-34	5	77a	H-18	63	フクド	ⅢA-3	1	
			I-51	9	I	ⅢA-3	1	

遺構出土掲載拓本土器一覽 B地区

図番号	掲載番号	拓本番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図V-34	5	77b	H-18	14	フクド	ⅢA-3	3	計4点
			L-50d	4	Ⅲ	ⅢA-3	1	包含層出土
図V-34	6	78a	H-18	52	フクド	ⅢA-3	1	
			H-18	205	床直	ⅢA-3	1	計2点
図V-34	7	75	H-18	122	フクド	ⅢA-3	2	
			H-18	95	フクド	ⅢA-3	1	
			H-18	120	フクド	ⅢA-3	1	
			H-18	147	フクド	ⅢA-3	2	
			H-18	148	フクド	ⅢA-3	1	計7点
図V-34	8	78b	H-18	60	Ⅲ	ⅢA-3	2	包含層出土
			K-50	38	Ⅲ	ⅢA-3	1	計3点
図V-34	9	81	H-18	64	フクド	ⅢA-3	1	
図V-34	10	82	H-18	138	フクド	ⅢA-3	2	
図V-34	11	79	H-18	85	フクド	ⅢA-3	1	
図V-34	12	80	H-18	92	フクド	ⅢA-3	1	
図V-34	13	86	H-18	127	フクド	ⅢA-3	1	
図V-34	14	83	H-18	128	フクド	ⅢA-3	1	
図V-34	15	84	H-18	231	床直	ⅢA-3	2	
図V-34	16	85	H-18	242	床面	ⅢA-3	1	
図V-34	17	87	H-18	117	フクド	ⅢB-2	1	
図V-34	18	178	H-18	150	フクド	円板状土製品	1	
図V-34	19	176	H-18	13	フクド	円板状土製品	1	
図V-34	20	177	H-18	40	フクド	円板状土製品	2	
図V-38	7	89	H-19	55	床面	ⅢA-3	3	
図V-38	8	90	H-19	53	床面	ⅢA-3	1	
図V-38	9	91	H-19	26	フクド2	ⅢA-3	1	
図V-38	10	92	H-19	62	床面	ⅢA-3	1	
図V-38	11	93	H-19b	3	フクド	ⅣA-1	1	
図V-40	2	9	H-20	126	フクド	ⅢA-3	1	
図V-40	1	16	H-20	68	床	ⅣA-1	1	
			H-20	114	床	ⅣA-1	1	計2点
図V-43	1	99	H-22	1	フクド	ⅢB-2	1	
図V-45	1	100	H-24	21	フクド	ⅢA-3	1	
図V-45	2	103	H-24	26	フクド中	ⅣA-1	1	
図V-45	3	101	H-24	1	フクド	ⅢA-3	3	
			H-22	1	フクド	ⅢA-3	1	計4点
図V-45	4	102	H-24	29	フクド	ⅣA-1	1	
図V-46	1	108	H-26	5	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-48	1	116	P-9	14	フクド	ⅢB-2	1	
図V-48	2	115	P-9	12	フクド	ⅢB-2	1	
			P-9	7	フクド	ⅢB-2	1	計2点
図V-48	3	180	P-9	5	フクド	円板状土製品	1	
図V-48	4	181	P-9	6	フクド	円板状土製品	1	
図V-49	1	117	P-14	7	フクド2	ⅢA-3	1	
図V-49	2	120	P-14	6	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-49	3	118a	P-14	6	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-49	4	118b	P-14	6	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-49	5	119a	P-14	6	フクド1	ⅢA-3	2	
図V-49	6	119c	P-14	6	フクド1	ⅢA-3	2	
図V-49	7	119b	P-14	5	フクド上	ⅢA-3	1	
図V-49	8	121	P-14	6	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-50	1	122	P-21	8	フクド上	ⅢA-2	1	
図V-50	1	123	P-22	6	フクド1	ⅢA-3	2	
図V-50	1	125	P-24	4	フクド	ⅢA-2	1	
図V-50	2	124	P-24	4	フクド	ⅢA-3	1	
図V-51	1	126	P-26c	2	フクド上	ⅢB-2	2	H-17の遺物
図V-51	2	127	P-26	22	フクド下	ⅢA-3	1	
図V-51	3	128	P-26	17	フクド下	ⅢA-3	1	
			P-26	24	フクド下	ⅢA-3	1	計2点
図V-52	1	166	P-30	2	フクド	ⅢA-2	1	
図V-55	1	133	P-44	4	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-55	2	134	P-44	11	フクド1	ⅢA-3	1	
図V-56	1	135	P-54	2	フクド	ⅢA-3	1	
図V-57	1	137	P-63	8	フクド1	ⅢA-3	3	
図V-57	2	138	P-63	8	フクド1	ⅢA-3	1	

遺構出土掲載拓本土器一覽 B地区

図番号	掲載番号	拓本番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図V-59	1	171	P-83	13	フクド	ⅢA-3	1	
図V-59	2	170	P-83	10	フクド	ⅢA-3	3	
図V-61	1	172	P-98	5	フクド	ⅢA-3	1	
図V-69	3	164	SP-19	2	フクド	ⅢA-3	1	
図V-71	2	165	SP-62	1	フクド	ⅢB-2	2	
			M-47	20	Ⅲ	ⅢB-2	1	計3点
図V-80	2	158c	S-1	3	Ⅲ中	ⅢA-2	3	
図V-80	3	158a	S-1	85	Ⅲ中	ⅢA-2	14	
図V-80	4	160a	S-1	81	Ⅲ中	ⅢA-2	3	
	5	158d	S-1	3	Ⅲ中	ⅢA-2	1	
図V-80	6	158f	S-1	78	Ⅲ中	ⅢA-2	1	
	7	158e	S-1	3	Ⅲ中	ⅢA-2	2	
	8	158g	S-1	3	Ⅲ中	ⅢA-2	1	
図V-80	9	160b	S-1	83	Ⅲ中	ⅢA-2	4	
	10	159	S-1	3	Ⅲ中	ⅢA-2	2	
図V-78	1	158b	S-3	7	Ⅲ	ⅢA-2	5	
			S-3	8	Ⅲ	ⅢA-2	3	
			S-3	16	Ⅲ	ⅢA-2	1	計9点
図V-85	2	155	FC-15	16	Ⅲ中	ⅣA-1	2	

表7 遺構出土掲載拓本土器一覽 C・D地区

図番号	掲載番号	拓本番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図VI-4	1	169	H-9	225	フクド1	ⅠA	2	
			H-9	39	フクド1	ⅠA	1	
			H-9	49	フクド1	ⅠA	2	
			H-9	195	フクド2	ⅠA	1	
			H-9	208	フクド2	ⅠA	2	
			H-9	215	フクド2	ⅠA	2	
			H-9	216	フクド2	ⅠA	2	
			H-9	218	フクド2	ⅠA	2	計14点
図VI-4	2	168	H-9	4	フクド1	ⅠA	1	
			H-9	11	フクド1	ⅠA	1	
			H-9	12	フクド1	ⅠA	1	
			H-9	13	フクド1	ⅠA	1	
			H-9	14	フクド2	ⅠA	3	
			H-9	25	フクド2	ⅠA	1	
			H-9	63	フクド2	ⅠA	2	
			H-9	66	フクド2	ⅠA	1	
			H-9	75	フクド2	ⅠA	2	
			H-9	78	フクド2	ⅠA	1	
			H-6	1	Ⅲ	ⅠA	1	
			H-6	13	Ⅳ上	ⅠA	1	
			H-6	14	Ⅳ上	ⅠA	1	計17点
図VI-6	1	184a	H-10	89	フクド3	ⅠA	4	
			H-10	30	フクド2	ⅠA	1	
			H-10	31	フクド1	ⅠA	1	
			H-10	32	フクド1	ⅠA	1	
			H-10	88	フクド2	ⅠA	1	
			H-10	97	フクド2	ⅠA	1	
			H-10	101	フクド3	ⅠA	1	計10点
図VI-6	2	184b	H-10	103	フクド3	ⅠA	1	
			H-10	107	フクド2	ⅠA	1	
			H-10	108	フクド2	ⅠA	3	
			H-10	109	フクド3	ⅠA	1	
			H-10	114	フクド2	ⅠA	1	
			H-10	120	フクド2	ⅠA	1	計8点
図VI-6	3	182	H-10	54	フクド2	ⅠA	1	
図VI-6	4	183	H-10	60	フクド3	ⅠA	1	
図VI-7	5	185	H-10	48	フクド2	ⅠA	1	
			H-10	49	フクド2	ⅠA	1	
			H-10	50	フクド2	ⅠA	1	
			H-10	59	フクド3	ⅠA	1	
			H-10	63	フクド3	ⅠA	1	計5点
図VI-7	6	38	H-10	130	床面	ⅠA	1	

遺構出土掲載拓本土器一覧 C・D地区

図番号	掲載番号	拓本番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図VI-19	1	113	P-6	1	底	ⅢA-3	1	
図VI-19	3	180	P-6	5	フクド	円板状土製品	1	
図VI-19	1	114	P-7	2	フクド	ⅣA-1	1	
図VI-19	2	181	P-7	6	フクド	円板状土製品	1	
図VI-21	1	129 a	P-34	1	フクド1	ⅢA-3	6	
図VI-21	2	129 b	P-34	1	フクド1	ⅢA-3	2	
図VI-21	2	130	P-35	3	フクド	ⅢA-3	1	
図VI-21	1	131	P-35	5	フクド	ⅢA-3	1	
図VI-21	3	132	P-35	5	フクド	ⅢA-3	1	
図VI-22	1	136	P-61	6	フクド1	ⅣA-1	1	
図VI-30	1	139	F-30	68	Ⅲ	ⅢA-3	12	
図VI-30	11	140	F-30	48	Ⅲ	ⅢA-3	6	
図VI-30	6	141	F-30	49	Ⅲ	ⅢA-3	4	
図VI-30	5	142	F-30	60	フクド	ⅢA-3	1	
図VI-30	4	143	F-30	44	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図VI-30	7	144	F-30	39	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-30	3	145	F-30	21	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-30	2	146	F-30	44	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図VI-30	9	147	F-30	18	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図VI-30	8	148	F-30	18	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-30	10	149	F-30	17	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図VI-34	1	150 a	F-45	5	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-34	4	150 b	F-45	6	Ⅲ	ⅢA-2	4	
図VI-34	5	150 c	F-45	6	Ⅲ	ⅢA-2	4	
図VI-34	6	150 d	F-45	6	Ⅲ	ⅢA-2	2	
図VI-34	3	151	F-45	4	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図VI-34	2	152	F-45	4	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図VI-35	1	153	F-53	4	Ⅲ	I A	1	
図VI-38	1	163	S P-18	1	フクド	ⅢA-3	1	
図VI-43	3	161 a	S-5	1	Ⅲ	ⅣA-1	2	
図VI-43	2	161 b	S-5	2	Ⅲ	ⅢA-2	2	
図VI-43	1	162	S-5	1	Ⅲ	ⅣA-2	3	
図VI-46	1	154	F C-18	16	Ⅲ上~Ⅳ上	I A	1	
図VI-46	2	156	F C-18	15	Ⅳ下	I A	2	計3点
			F C-18	18	Ⅲ下	I A	1	

表8 遺構出土掲載石器一覧 B地区

種別 番号	遺構名 区画	遺物 番号	層位	器種	細 分類	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
V-3	H-1	43	覆土1	石槍	9	頁岩	6.4	3.3	3.0	30.8	
		3	床面	スクレイパー	1 a	頁岩	9.1	5.7	1.4	56.4	
		18	床面	スクレイパー	8	頁岩	6.1	4.1	0.6	19.0	
		31	床面	スクレイパー	8	頁岩	5.4	6.0	1.5	36.6	
		14	覆土1	すり石	2	安山岩	(8.9)	7.7	2.8	(287)	焼熱(平坦面はじつ)
V-6	H-2	121	覆土下	ドリル	3	珪質頁岩	3.5	2.1	1.0	7.4	
		190	覆土2	スクレイパー	2 c	頁岩	4.5	6.8	1.6	29.7	
		175	覆土2	スクレイパー	9	頁岩	(3.6)	(2.9)	0.6	(3.6)	
		3	覆土中	石斧	1	片岩	10.0	3.6	1.7	84.3	
		18	覆土中	すり石	2	安山岩	10.5	5.6	2.8	251	
		2	覆土中	すり石	4	安山岩	16.3	8.0	2.7	570	焼熱(平坦面)
	a	7	壁	砥石	1	安山岩	11.9	6.9	2.7	365	
V-9	H-3	78	床面	石鏃	2 a	頁岩	4.4	1.9	0.8	4.7	
		H 4-106	床面	石鏃	2 a	頁岩	4.4	1.7	0.6	4.1	
		H 4-65	床面	石鏃	2 a	頁岩	4.1	1.5	0.4	2.7	
		199	覆土1	石鏃	2 a	黒曜石	(3.8)	1.6	0.5	(2.1)	分析No.73691
		154	覆土	石鏃	2 a	頁岩	3.1	1.1	0.5	0.9	
		200	覆土1	石鏃	2 a	頁岩	2.7	1.2	0.4	1.1	
		153	覆土2	石鏃	2 a	玄武岩	2.4	1.0	0.3	0.6	
		H 4-55	床面	石槍	0	頁岩	(6.2)	4.8	1.9	(37.0)	
		H 4-128	床面	ドリル	1	頁岩	3.3	2.4	0.6	3.3	
		146	覆土2	ドリル	1	頁岩	5.1	2.6	0.8	8.4	
		161	覆土1	つまみ付きナイフ	1 d	頁岩	11.5	3.6	1.1	46.8	鏡面光沢
V-10		H 4-23	覆土4	つまみ付きナイフ	1 d	頁岩	5.1	3.1	0.9	12.0	
		65	床面	スクレイパー	1 a	頁岩	4.7	4.4	1.0	19.8	

遺構出土掲載石器一覧 B地区

種別 番号	遺構名 区画	遺物 番号	層位	器種	細 分類	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
		215	ⅡP-7覆土	スクレイパー	1 a	頁岩	5.0	3.0	1.2	16.4		
		H 4-131	床面	スクレイパー	1 a	頁岩	7.1	4.4	0.5	16.3		
		155	覆土2	スクレイパー	1 a	頁岩	13.6	7.6	2.8	217.8		
		H 4-103	床面	スクレイパー	1 a	頁岩	9.9	7.1	1.1	77.7		
		175	覆土1	スクレイパー	1 a	頁岩	6.5	5.0	1.0	40.0		
		171	覆土2	スクレイパー	1 a	頁岩	7.2	3.6	1.0	28.0		
		24	床面	スクレイパー	1 a	頁岩	7.8	4.3	1.7	26.1		
		H 4-24	覆土4	スクレイパー	1 a	黒曜石	3.0	2.3	1.4	6.1	分析No.73692	
		12	床面	スクレイパー	8	珪質頁岩	3.0	3.4	1.3	10.6		
V-11		H 4-111	床面	石器未成品		黒曜石	2.7	1.9	0.8	3.5		
		H 4-86	床面	石斧	0	緑色泥岩	(6.1)	(3.8)	(2.5)	(98.3)	すり切り技法	
		105	床面	たたき石	1	安山岩	13.3	6.5	3.7	410		
		H 4-137	覆土3	たたき石	3	安山岩	15.0	8.6	4.6	881		
V-11	H-5	199	覆土	石鏃	2 a	珪質頁岩	3.8	1.3	0.1	1.7		
		40	床面	石鏃	2 a	メノウ	(2.6)	1.8	0.1	(1.7)		
		161	床面	石鏃	2 a	黒曜石	(2.2)	1.3	0.7	(1.2)	分析No.65750	
		263	F-2	石鏃	2 b	流紋岩	2.2	1.2	0.4	0.8		
		49	床面	石鏃	2 b	流紋岩	2.9	1.2	0.4	1.3		
		240	覆土1	石鏃	9	流紋岩	2.6	1.2	0.5	1.6		
		270	ⅡP-1	ドリル	1	頁岩	4.7	2.6	0.5	4.5		
		229	覆土	つまみ付きナイフ	1 c	頁岩	9.2	3.2	0.8	22.8		
		230	覆土	スクレイパー	1 a	頁岩	11.3	2.5	2.1	47.0		
		9	床面	スクレイパー	1 a	頁岩	7.5	4.0	1.1	25.9		
V-15		166	床面	スクレイパー	1 a	頁岩	6.1	4.2	0.8	24.7		
		96	床面	スクレイパー	1 a	頁岩	11.3	6.0	1.3	86.7		
		138	床面	石斧	0	緑色泥岩	6.7	3.9	2.0	75.9		
		185	H F1埋土	すり石	5	安山岩	9.5	16.2	2.7	710	焼熱	
		129	床面	砥石		凝灰岩	20.0	15.6	3.8	(838)		
V-16	H-6	4	覆土中	つまみ付きナイフ	1 d	珪質頁岩	3.1	2.0	0.5	2.6		
V-20	H-11	38	覆土1	石鏃	2 a	流紋岩	2.9	1.1	0.4	1.0		
		179	覆土1	石鏃	2 a	頁岩	4.5	2.1	0.4	3.7		
		286	覆土	石鏃	2 b	黒曜石	2.1	0.9	0.4	0.7	分析No.73697	
		428	覆土	石鏃	9?	頁岩	3.8	1.9	0.4	3.2		
		14	覆土1	石槍	1 b	玄武岩	4.9	2.0	0.6	7.0		
		360	床面	ドリル	1	珪質頁岩	4.3	2.9	0.9	8.5		
		81	覆土1	ドリル	3	頁岩	3.4	1.9	0.4	1.9		
V-21		213	覆土1	スクレイパー	1 a	頁岩	6.1	3.5	1.3	27.3		
		352	床面	スクレイパー	1 a	頁岩	6.5	4.1	1.1	31.2		
		393	覆土1	スクレイパー	1 a	流紋岩	8.2	2.9	1.8	43.9		
		33	33	覆土1	スクレイパー	3	頁岩	6.2	3.3	1.9	23.6	
		94	覆土1	石斧	2	片岩	10.7	4.6	2.0	150.3		
		307	床面	たたき石	3	安山岩	12.2	5.8	3.9	408		
	a	1	覆土1	すり石	3	泥岩	8.0	6.0	4.6	353		
		300	床面	すり石	4	安山岩	9.3	17.7	3.8	996		
		169	覆土1	すり石	5	安山岩	9.9	16.0	4.2	869		
		348	床面	石皿		安山岩	22.2	16.6	6.6	3440		
V-24	H-13	81	床面直上	石鏃	2 a	流紋岩	(3.1)	1.0	0.6	(1.1)		
		97	床面直上	石鏃	2 b	流紋岩	3.3	1.2	0.6	1.5		
		108	床面直上	石鏃	2 b	頁岩	2.6	1.1	0.5	0.6		
		94	床面直上	石鏃	2 b	流紋岩	2.4	1.0	0.4	0.9		
		91	床面直上	石鏃	9	流紋岩	2.6	1.2	0.5	1.3		
		107	床面直上	石鏃	9	流紋岩	(2.3)	1.5	0.4	(1.3)		
		83	床面直上	ドリル	1	頁岩	3.8	1.6	0.4	1.7		
		105	床面直上	ドリル	3	流紋岩	3.7	1.2	0.5	1.8		
		70	覆土中	ドリル	3	流紋岩	4.4	1.5	0.8	4.8		
		23	覆土中	つまみ付きナイフ	1 d	頁岩	7.4	3.2	0.9	16.6		
		86	床面直上	スクレイパー	1 a	流紋岩	7.1	6.2	2.2	58.0		
		57	覆土中	すり石	2	安山岩	3.8	10.4	2.5	239		
V-25	H-14	39	床面	ドリル	1	流紋岩	8.2	3.4	0.7	22.9		
		1	覆土上	スクレイパー	1 a	頁岩	4.9	4.1	1.7	29.2		
	b	8	覆土上	すり石	2	安山岩	7.6	14.1	3.2	501		
		28	覆土下	たたき石	1	頁岩	11.8	7.9	4.5	615		
V-27	H-15	109	ⅡP-1覆土	石鏃	2 b	流紋岩	3.7	1.3	0.6	2.1	ドリル?	
		21	床面直上	スクレイパー	1 a	玄武岩	9.3	7.1	1.0	70.6		

遺構出土掲載石器一覽 B地区

探区 番号	遺構名	区画	遺物 番号	層位	器種	細分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考		
V-28		b	4	覆土1	スクレイパー	2c	頁岩	9.1	6.7	1.2	89.1			
			47	床面	石斧	3c	緑色泥岩	5.6	3.7	1.4	35.0	片刃		
		c	7	床面	たたき石	4c	安山岩	11.4	8.0	3.2	387			
			79	覆土9	たたき石	5c	安山岩	9.4	9.5	4.3	506			
			104	HP-11壊底	たたき石	6c	安山岩	9.5	7.9	4.4	434			
		b	1	覆土1	砥石		凝灰岩	12.7	9.3	1.1	211			
			75	床面	砥石		安山岩	13.7	9.3	5.5	1038			
			10	床面直上	石皿		安山岩	12.5	11.3	9.8	1850			
V-29			76	床面	台石		安山岩	33.3	16.3	11.2	7950			
V-30		H-16	66	床面直上	石器未成品		メノウ	3.2	2.2	0.6	3.9	石器未成品?		
			44	床面	スクレイパー	1a	頁岩	8.5	4.1	0.6	39.4			
			36	覆土	スクレイパー	1a	頁岩	9.0	4.4	1.5	43.1			
			27	床面直上	石核		頁岩	4.9	3.7	2.8	45.1			
			80	HP-3覆土	たたき石	1	安山岩	6.5	8.5	4.7	355			
			38	床面	たたき石	3	安山岩	10.4	6.3	2.7	246			
V-31		H-17	a	覆土上	スクレイパー	1a	頁岩	9.3	8.1	1.5	77.0			
		c	1	覆土上	スクレイパー	2b	頁岩	7.6	7.6	2.2	82.4			
		d	5	覆土上	すり石	5	安山岩	8.9	15.6	3.8	671			
V-33		H-18	186	床面直上	石鏃	2a	頁岩	(2.9)	1.1	0.5	(1.4)			
			281	埋設土器内	石鏃	2b	流紋岩	2.6	1.1	0.6	1.2			
			234	床面直上	石鏃	2b	流紋岩	3.7	1.3	0.4	1.8			
			244	床面	ドリル	3	流紋岩	3.0	1.2	0.3	1.1	石鏃?		
			241	床面	ドリル	3	流紋岩	3.4	1.2	0.4	1.7	石鏃?		
			245	床面	ドリル	3	流紋岩	3.5	1.0	0.5	1.5			
			187	床面直上	スクレイパー	1a	頁岩	6.8	3.8	1.4	35.0			
			219	床面直上	スクレイパー	1a	頁岩	4.7	2.8	0.8	11.6			
			11	覆土	スクレイパー	2a	流紋岩	4.7	5.7	1.3	29.2			
			235	床面	石斧	1	緑色泥岩	7.7	5.1	1.9	124.3			
			248	床面	すり石	2	安山岩	8.9	13.7	4.7	668			
			249	床面	すり石	4	安山岩	12.1	18.9	3.8	1107	被熱 (平均面はじわ)		
			250	床面	石皿		安山岩	31.6	31.0	13.0	13500			
			35	覆土	石製品?		黒曜石	1.0	0.6	0.2	0.1	極小形 石鏃形?		
V-38		H-19	124	床面	石鏃	2a	黒曜石	2.5	1.3	0.5	1.3	分析No.73702		
		b	6	覆土1	つまみ付きナイフ	1c	頁岩	7.1	4.2	1.1	17.9			
			112	床面	スクレイパー	1a	珪質頁岩	7.0	3.8	1.3	26.4			
			44	床面直上	スクレイパー	1a	頁岩	8.3	4.3	1.9	41.2			
			121	床面	スクレイパー	1b	頁岩	10.0	6.2	2.6	111.7			
V-39			45	床面直上	スクレイパー	1b	頁岩	11.9	4.7	2.4	92.4			
			129	床面	スクレイパー	2c	頁岩	6.7	5.3	1.5	45.9			
			113	床面	スクレイパー	3?	頁岩	4.0	3.5	1.2	17.0			
			116	床面	スクレイパー	8	玄武岩	13.5	4.9	1.1	80.0			
			34	覆土2	石斧	1	砂岩?	8.9	3.8	2.4	114.0			
		b	13	覆土3	すり石	2	安山岩	7.5	10.5	3.5	374			
			84	床面	すり石	2	安山岩	6.8	9.8	4.6	405			
			39	覆土1	石皿		流紋岩	38.5	20.9	7.9	11500			
V-41		H-20	127	HP-2壊底	石鏃未成品	9	頁岩	10.1	8.3	2.5	175.4			
			103	床面	ドリル	1	頁岩	8.1	4.6	1.0	17.1			
			111	床面	スクレイパー	1b	珪質頁岩	4.7	2.8	0.9	6.6			
			109	床面	スクレイパー	1b	頁岩	4.9	3.1	1.1	10.3			
V-43		H-22	6	覆土上	たたき石	3	安山岩	10.0	7.8	3.5	387			
V-46		H-26	1	覆土1	石鏃	2a	黒曜石	3.0	1.4	0.5	1.6	分析No.73705		
V-49		P-15	4	覆土1	スクレイパー	8	頁岩	6.5	7.1	1.6	32.6			
			2	P-15	2	壊底	すり石	9	安山岩	9.5	14.4	6.6	1321	6類の未成品
V-50		P-21	5	覆土上	たたき石	1	珪質頁岩	10.0	7.7	4.8	486			
V-51		P-26	15	覆土下	つまみ付きナイフ	1c	頁岩	7.8	3.1	0.9	16.4			
			2	覆土中	スクレイパー	1a	頁岩	8.7	6.0	1.2	49.5	H-17の遺物		
		b	2	覆土下	すり石	2	安山岩	6.1	11.7	3.0	309			
		c	4	覆土上	すり石	5	安山岩	11.1	16.1	3.4	753	H-17の遺物		
V-52		P-29	8	覆土1	石核		頁岩	4.3	5.3	2.8	45.6			
V-53		P-38	7	覆土	Rフレイク		頁岩	2.2	3.3	0.3	3.5			
			2	覆土	砥石		凝灰岩	6.1	5.9	0.4	19			
V-54		P-42	1	壊底	石製品			5.8	10.0	1.2	44.0			
			1	P-43	3	覆土	すり石	4	安山岩	(9.5)	13.2	3.8	(734)	
V-55		P-44	1	覆土1	すり石	6	安山岩	(8.8)	10.2	3.9	(816)			

遺構出土掲載石器一覽 B地区

探区 番号	遺構名	区画	遺物 番号	層位	器種	細分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考			
			1	P-49	3	壊底	スクレイパー	0	頁岩	(2.0)	3.3	0.5	(4.0)		
V-57			1	P-58	d	4	覆土1	スクレイパー	1a	頁岩	6.7	5.3	1.5	20.2	
V-60			1	P-85	2	壊底	すり石	4	安山岩	10.6	17.2	3.5	387		
V-61			1	P-97	1	覆土1	スクレイパー	0	頁岩	(4.3)	(4.7)	0.8	(10.3)		
			2	P-98	7	覆土	石鏃	2a	黒曜石	5.0	2.2	1.1	8.0	分析No.73708	
			1	P-100	1	覆土	すり石	6	安山岩	8.9	13.6	5.1	910		
					0-55-29	Ⅲ									
V-65			2	F-13	5	Ⅲ	たたき石	3	安山岩	10.3	6.6	3.3	315		
V-66			1	F-31	1	Ⅲ	スクレイパー	1a	頁岩	6.5	3.4	1.3	23.1		
V-78			1	S-2	21	H-16覆土	石鏃	2a	黒曜石	(1.9)	1.7	0.7	(1.8)	分析No.73709	
V-79			11	S-1	95	Ⅲ中	スクレイパー	4	メノウ	6.8	3.7	1.6	44.6		
			12		3	Ⅲ中	たたき石	2	安山岩	4.1	14.3	2.8	250		
V-81			1	S-8	18	Ⅲ	たたき石	3	安山岩?	12.1	7.9	4.7	690		
V-82			1	FC-1	11	Ⅱa	両面加工石器		頁岩	8.5	6.3	3.4	163.4	未成品	
					265	Ⅰ									
図版136-3左					14-132-200 227-291	Ⅲa	接合資料		頁岩	12.9	8.6	7.3	540.8	写真のみ掲載	
					1-62-C-8	Ⅲb									
図版136-3下					1-4-10 11-264- 265	Ⅲa	接合資料		頁岩	10.1	8.2	5.1	394.1	写真のみ掲載 図V-82-1を含む	
V-84			1	FC-7	7-1-13 14-16	Ⅲ	接合資料		頁岩	10.1	7.9	10.8	599.5		
					1-44-4-8	Ⅲ									
			2		13	Ⅲ	Rフレイク			4.1	11.1	4.1	86.9		
V-85			1	FC-9	3	Ⅲ	石鏃	2a	黒曜石	(2.1)	1.5	0.5	(1.1)		
			2		4	Ⅲ	石鏃	9	頁岩	5.4	3.0	1.5	18.0		
			2	FC-15	1	Ⅲ中	石鏃	2a	頁岩	3.6	1.6	0.7	2.6		
			3		3	Ⅲ中	スクレイパー	1a	頁岩	7.7	4.7	1.4	38.2		
V-86			1	FC-16	3	Ⅲ	石核		頁岩	4.0	5.6	4.0	84.3		

表9 遺構出土掲載石器一覽 C・D地区

探区 番号	遺構名	区画	遺物 番号	層位	器種	細分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考		
V-5		H-9	46	覆土2	石鏃	1e	黒曜石	3.7	1.7	0.4	2.1			
			199	覆土3	石鏃	1b	珪質頁岩	5.1	1.8	0.7	6.6			
			137	覆土4	石鏃	9	頁岩	(3.0)	2.4	0.5	(3.3)			
			210	覆土2	すり石	1	安山岩	6.0	(8.2)	5.7	(405)			
			149	覆土3	石鏃		珪岩?	5.4	6.3	1.8	82			
			246	遺構外IV下	石皿		安山岩	27.5	23.3	8.2	8300			
			247	遺構外IV下										
				L-4-14	IV									
V-7		H-10	13	覆土1	つまみ付きナイフ	1c	頁岩	6.4	2.9	0.7	11.9			
			126	HP-1覆土	すり石	1	安山岩	6.7	14.5	3.8	478			
V-19		P-4	4	覆土	すり石	9	安山岩	9.2	14.8	3.4	637	4類の未成品		
V-24		P-81	1	覆土1	すり石	9	安山岩	10.1	15.3	3.4	737	4類の未成品		
V-31		F-30	6	Ⅲ	石鏃	2a	頁岩	2.9	1.5	0.5	1.5			
			13	30	Ⅲ	石鏃	2b	玄武岩	2.6	1.1	0.4	1.0		
			14	33	Ⅲ	石鏃	9	頁岩	3.4	1.9	0.5	2.4		
			15	65	Ⅲ	両面加工石器		頁岩	7.4	4.7	1.8	67.2	石鏃未成品?	
			16	3	Ⅲ	Uフレイク		頁岩	11.3	4.0	2.5	64.8		
			17	26	Ⅲ	石核		頁岩	3.6	7.3	5.6	119.8	両面加工石器?	
			18	5	Ⅲ	すり石	5	安山岩	11.5	14.0	2.0	360		
			19	35	Ⅲ	すり石	6	安山岩	10.1	14.3	(6.3)	(372)	被熱	
V-33		F-43	2	Ⅲ	石皿		安山岩	47.5	46.3	16.6	62500			
図版133-2			1	Ⅲ	すり石?	6?	安山岩	18.9	13.4	10.1	2970	写真のみ掲載		
V-34		F-45	1	Ⅲ	石皿		安山岩?	(65.0)	(18.8)	(8.2)	(3490)	被熱		
V-43		S-5	23	Ⅲ	スクレイパー	1a	頁岩	8.5	4.3	0.9	35.4			
			5	24	Ⅲ	スクレイパー	1a	珪質頁岩	5.1	5.0	0.9	19.5		
			6	4	Ⅲ	すり石	5	安山岩	10.5	14.8	3.3	505		
			7	14	Ⅲ	石皿		安山岩	19.1	12.2	5.1	1621	被熱	
			8	13	Ⅲ	台石		安山岩	22.6	16.7	3.3	3850		
V-44		FC-12	24	Ⅲ	石鏃	1e	頁岩	(3.2)	1.9	0.4	(2.1)			
V-45			2	G-36-6	脱臼									他、FC12-7-40 (剥片)と接合
				6	Ⅲ	石鏃	9	頁岩	12.7	7.1	2.9	294.5		

遺構出土掲載石器一覧 C・D地区

図番号	遺構名	区画	遺物番号	層位	器種	細分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
4			54	Ⅲ	石槍	9	頁岩	11.6	4.6	1.6	86.2	他、FC12-7 (剥片)と接合
			20	Ⅲ								
VI-44	5		23	Ⅲ	石核		頁岩	7.7	7.5	6.5	294.5	他、FC12-7、G98-7 (剥片)と接合
図版140-1			57-58	Ⅲ	石槍		頁岩	12.1	5.2	2.5	171.2	写真のみ掲載
図版140-2			19-56	Ⅲ	石槍		頁岩	15.3	9.7	2.8	304.4	写真のみ掲載
図版140-3			63	Ⅲ	石槍		頁岩	16.4	6.1	2.5	275.9	写真のみ掲載
図版140-4			17-40-62	Ⅲ	石槍		頁岩	9.2	5.3	2.0	86.0	写真のみ掲載
図版140-5			G-36-12	攪乱	石槍		頁岩	14.8	5.3	2.2	152.5	写真のみ掲載
図版140-6			64	Ⅲ	石槍		頁岩	8.7	3.6	1.4	36.6	写真のみ掲載

表10 包含層出土掲載拓本土器一覧 A地区

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図IV-8	1	U0-121	1	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図IV-8	2	U0-121	1	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図IV-8	3	U0-121	1	Ⅲ	ⅣA-1	1	

表11 包含層出土復元土器一覧 B地区

実測番号	図番号	番号	出土区	遺物番号	出土層位	分類	点数	計		大きさ (cm)	
								高さ	口径	高さ	口径
18	図V-87	1	H-19b	1	フク土	ⅢA-2	1	22	18.7	27	
				60							
				98							
				104							
				108							
9	図V-87	2	R-41b	1	Ⅲ	ⅢA-2	1	44	21.5	19.9	
				31							
				36							
				1							
				31							
19	図V-87	3	R-41-b	1	Ⅲ	ⅢA-2	1	34	14.8	16.4	
				31							
				36							
				1							
				31							
14	図V-87	4	I-51	1	Ⅲ	ⅢA-2	1	17	11.8	9.8	
				20							
				38							
				10							
				20							
6	図V-87	5	L-53	16	Ⅲ	ⅢA-3	14	14	12.8	16.8	
				3							
				1							
				26							
				16							
17	図V-87	6	M-40d	6	Ⅲ	ⅢA-3	1	27	18.5	22.9	
				7							
				6							
				16							
				34							
23	図V-87	7	I-50-a	1	Ⅲ	ⅢA-2	56	56	-	19.5	
				39							
				7							
				20							
				3							
22	図V-88	8	R-53	39	Ⅲ	ⅢA-3	13	17	11.1	13	
				7							
				20							
				3							
				8							
3	図V-88	9	H-49	34	堀り上げ土	ⅢA-3	8	16	14.7	24.6	
				38							
				39							
				2							
				1							
2	図V-88	10	H-50	7	Ⅲ	ⅢA-3	1	5	13.3	23.6	
				20							
				23							
				39							
				23							
1	図V-88	11	J-50	13	Ⅲ	ⅢA-3	1	14	16	19.1	
				14							
				5							
				1							
				5							

包含層出土復元土器一覧 B地区

実測番号	図番号	番号	出土区	遺物番号	出土層位	分類	点数	計		大きさ (cm)	
								高さ	口径	高さ	口径
1	図V-88	11	K-52	14	Ⅲ	ⅢA-3	3	14	16	19.1	
				6							
				13							
				64							
				80							
7	図V-88	12	H-49	39	堀り上げ土	ⅢA-3	19	19	15	24.2	
				1							
				1							
				1							
				1							
4	図V-88	13	N-44	140	Ⅲ	ⅢA-3	13	14	13.3	9.9	
				1							
				1							
				1							
				1							
16	図V-87	14	I-50 a	29	Ⅲ	ⅢA-3	1	27	19.5	23	
				12							
				20							
				30							
				33							
				41							
				42							
				66							
				72							
				1							
				6							
				60							
				132							
				29							
				13			図V-89				
54											
67											
1											
1											
12	図V-89	16	N-44	51	Ⅲ	ⅣA-1	2	23	16.1	20.9	
				109							
				142							
				62							
				142							
21	図V-89	17	R-41b	7	Ⅲ a	ⅢB-2	16	64	20.2	-	
				11							
				15							
				15							
				5							
5	図V-89	18	Q-41 a	33	Ⅲ	ⅣA-1	3	31	18.1	-	
				4							
				44							
				不明							
				2							
11	図V-89	19	P-42	1	I	ⅣA-1	1	2	6.8	6.4	
				14							
				1							
				1							
				1							

表12 包含層出土掲載拓本土器一覧 B地区

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図V-90	20	P-58	9	I	ⅡB-1	1	
図V-90	21	Q-59	39	風倒木	ⅡB-1	1	
図V-90	22	Q-60 c	13	I	ⅡB-2	4	
		Q-60 c	9	I	ⅡB-2	1	
図V-90	23	M-61d	5	Ⅲ	ⅡB-2	1	
図V-90	24	L-54	16	I	ⅢB-2	1	
図V-90	26	R-44	21	I	ⅢA-2	1	
図V-90	27	R-44	6	I	ⅢA-2	1	
図V-90	28	R-56	33	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-90	29	P-42	58	Ⅲ	ⅢA-2	3	
図V-90	30	R-60	3	I	ⅢA-2	4	
図V-90	31	R-60	3	I	ⅢA-2	4	
図V-90	32	R-60	3	I	ⅢA-2	2	
		R-59	1	I	ⅢA-2	1	
図V-90	33	S-85	2	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-90	34	P-42	98	Ⅲ	ⅢA-1	3	
		P-42	41	Ⅲ	ⅢA-1	1	
		P-42	60	Ⅲ	ⅢA-1	2	
		P-42	85	Ⅲ	ⅢA-1	1	
図V-90	35	P-42	60	Ⅲ	ⅢA-1	1	

包含層出土掲載拓本土器一覽 B地区

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
		P-41	41	Ⅲ	ⅢA-1	1	
		P-41	14	Ⅲ	ⅢA-1	2	
		P-42	8	Ⅲ	ⅢA-1	1	
図V-90	36	P-42	114	Ⅲ	ⅢA-2	4	
図V-90	37	O-41	4	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-90	38	O-60	38	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-90	39	L-60	4	I	ⅢA-2	2	
図V-90	40	M-61 d	5	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-90	41	Q-58	19	Ⅳ	ⅢA-2	1	
図V-90	42	R-60	3	I	ⅢA-2	1	
図V-90	43	O-48	5	I	ⅢA-2	1	
図V-90	44	O-43	23	I	ⅢA-2	1	
図V-90	45	P-42	48	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-90	46	P-46	1	I	ⅢA-2	1	
図V-90	47	P-43	14	I	ⅢA-2	1	
図V-90	48	P-41 a	2	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-90	49	J-55	9	I	ⅢA-2	1	
図V-91	50	P-42	58	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	51	K-51	23	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	52	O-55	12	I	ⅢA-2	1	
図V-91	53	P-42	58	Ⅲ	ⅢA-2	1	
		P-42	50	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	54	Q-41	25	Ⅲ	ⅢA-2	6	
図V-91	55	M-61 d	5	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	56	S-60	3	I	ⅢA-2	2	
図V-91	57	S-65	2	Ⅲ	ⅢA-2	3	
図V-91	58	P-42	58	Ⅲ	ⅢA-2	1	
		P-44	63	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	59	P-42	98	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	60	P-41	2	I	ⅢA-2	1	
図V-91	61	P-42	104	Ⅲ	ⅢA-2	2	
図V-91	62	I-50 a	29	Ⅲ	ⅢA-2	5	
図V-91	63	I-50 a	29	Ⅲ	ⅢA-2	3	
図V-91	64	P-42	58	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	65	N-43	144	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	66	L-43	24	Ⅲ	ⅢA-2	1	
		L-43	29	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	67	P-44	91	Ⅲ	ⅢA-2	9	
図V-91	68	P-44	91	Ⅲ	ⅢA-2	5	
図V-91	69	P-60	46	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	70	O-41	4	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	71	P-49	16	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	72	N-47	14	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	73	K-44	1	I	ⅢA-2	1	
		L-45	9	I	ⅢA-2	1	
		L-45	11	I	ⅢA-2	1	
図V-91	74	P-41	16	Ⅲ	ⅢA-2	2	
図V-91	75	R-58	80	風倒木	ⅢA-2	1	
図V-91	76	R-52	13	I	ⅢA-2	2	
図V-91	77	I-50 b	19	Ⅲ	ⅢA-2	2	
図V-91	78	Q-44	56	風倒木	ⅢA-2	1	
図V-91	79	R-42	30	I	ⅢA-2	3	
図V-91	80	N-43	144	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図V-91	81	R-60 c	68	Ⅲ	ⅢA-2	9	
		R-60 d	8	I	ⅢA-2	3	
		R-60 d	10	I	ⅢA-2	1	
		R-60 d	13	I	ⅢA-2	3	
図V-92	82	I-51	35	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-92	83	I-51	72	Ⅲ	ⅢA-3	5	
図V-92	84	R-56	54	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-92	85	N-44	102	Ⅲ	ⅢA-3	1	
		N-44	113	Ⅲ	ⅢA-3	5	
図V-92	86	O-42	90	I	ⅢA-3	1	
図V-92	87	I-50 a	29	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図V-92	88	I-50 a	29	Ⅲ	ⅢA-3	12	

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図V-92	89	O-44	52	Ⅲ	ⅢA-3	7	
		O-44	51	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-92	90	L-45	42	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-92	91	H-50	3	I	ⅢA-3	1	
図V-92	92	I-50	2	I	ⅢA-3	1	
図V-92	93	I-51	57	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-92	94	N-45	81	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-92	95	L-45	57	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-92	96	I-47	69	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-92	97	I-49	26	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図V-92	98	I-50 b	2	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-92	99	R-56	27	I	ⅢA-3	1	
図V-93	100	N-43	39	I	ⅢA-3	2	
図V-93	101	N-43	39	I	ⅢA-3	2	
図V-93	102	N-43	20	I	ⅢA-3	2	
図V-93	103	K-51	1	I	ⅢA-3	2	
図V-93	104	L-53	6	I	ⅢA-3	1	
図V-93	105	R-58	12	I	ⅢA-3	3	
		R-59	31	I	ⅢA-3	1	
図V-93	106	R-56	7	I	ⅢA-3	3	
図V-93	107	L-44	17	I	ⅢA-3	1	
図V-93	108	I-50 c	9	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-93	109	Q-44	43	風倒木	ⅢA-3	2	
図V-93	110	R-54	19	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-93	111	I-50 b	19	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-93	112	I-51	64	Ⅲ	ⅢA-3	6	
		I-51	65	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図V-93	113	J-49	34	Ⅲ	ⅢA-3	4	
図V-93	114	R-56	43	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-93	115	S-40 d	3	Ⅲ上	ⅢA-3	9	
図V-93	116	Q-56	17	風倒木	ⅢA-3	6	
		Q-56	3	Ⅲ	ⅢA-3	2	
		Q-56	11	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-93	117	H-50	13	Ⅲ	ⅢA-3	1	
		H-49	20	Ⅲ	ⅢA-3	1	
		I-49	2	Ⅲ	ⅢA-3	1	
		K-32	11	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	118	I-50	18	Ⅲ	ⅢA-3	1	
		I-50 d	4	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	119	I-49	58	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-94	120	R-56	43	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-94	121	K-47	19	I	ⅢA-3	1	
		K-50	29	I	ⅢA-3	1	
図V-94	122	I-60 b	6	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	123	I-50 b	19	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	124	Q-59	17	風倒木	ⅢA-3	1	
図V-94	125	L-45	20	I	ⅢA-3	1	
図V-94	126	L-52	13	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	127	R-55	14	I	ⅢA-3	1	
図V-94	128	N-43	84	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	129	M-47	18	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	130	R-59	31	I	ⅢA-3	1	
図V-94	131	R-59	2	I	ⅢA-3	2	
図V-94	132	P-41	16	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	133	P-42	59	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	134	I-50 b	19	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	135	I-50 b	19	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	136	N-43	9	I	ⅢA-3	1	
図V-94	137	H-45	3	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	138	I-40	13	風倒木	ⅢA-3	2	
		I-48	10	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	139	R-59	31	I	ⅢA-3	2	
		R-59	38	風倒木	ⅢA-3	4	
図V-94	140	I-50	12	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	141	H-50	48	Ⅲ	ⅢA-3	1	

包含層出土掲載拓本土器一覧 B地区

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図V-94	142	K-44	1	I	ⅢA-3	2	
図V-94	143	I-50	12	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	144	J-49	69	I	ⅢA-3	1	
図V-94	145	H-50	50	Ⅲ	ⅢA-3	2	
		I-50	39	Ⅲ	ⅢA-3	1	
		I-50a	16	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-94	146	Q-62 a	8	Ⅲ	ⅢA-3	11	
		Q-61d	9	I	ⅢA-3	2	
図V-95	147	H-49	20	Ⅲ	ⅢA-3	8	
		J-49	40	Ⅲ	ⅢA-3	5	
図V-95	148	I-51	63	Ⅲ	ⅢA-3	5	
		I-51	81	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-95	149	N-43	20	I	ⅢA-3	4	
図V-95	150	I-50 b	11	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-95	151	M-40 d	11	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-95	152	J-49	130	風倒木	ⅢA-3	1	
図V-95	153	J-52	20	I	ⅢA-3	1	
		J-51	21	I	ⅢA-3	1	
図V-95	155	I-50 a	1	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-95	156	I-50 a	20	IV	ⅢA-3	3	
図V-95	157	J-49	40	Ⅲ	ⅢA-3	3	
		I-49	19	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-95	158	Q-62 a	2	Ⅲ中	ⅢA-3	2	
		Q-62 a	3	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-95	159	N-43	84	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-95	160	R-58	20	風倒木	ⅢA-3	1	
図V-96	161	I-50 b	11	Ⅲ	ⅢA-3	4	
図V-96	162	I-50 b	1	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-96	163	J-53	2	I	ⅢA-3	1	
図V-96	164	H-51	18	Ⅲ	ⅢA-3	1	
		H-51	2	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	165	L-50 b	11	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図V-96	166	R-41	5	I	ⅢA-3	1	
図V-96	167	I-50 b	19	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	168	M-26	1	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-96	169	I-51	1	I	ⅢA-3	2	
		I-52	1	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	170	N-42	15	Ⅲ	ⅢA-3	6	
		N-43	96	Ⅲ	ⅢA-3	3	
		N-43	114	I	ⅢA-3	1	
		N-43	123	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	171	H-51	16	Ⅲ	ⅢA-3	8	
図V-96	172	I-50 b	2	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	173	J-50	25	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	174	I-50 b	1	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	177	I-50 b	1	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	178	H-49	18	I	ⅢA-3	1	
図V-96	179	H-43	18	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	180	I-50 b	14	IV	ⅢA-3	1	
図V-96	181	I-50 b	1	Ⅲ	ⅢA-3	1	
		I-50 b	2	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-96	182	I-27	13	川フク底	ⅢA-3	7	
図V-96	183	N-44	117	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-96	184	I-51	57	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-96	185	J-48	18	I	ⅢA-3	1	
図V-96	186	K-50	40	I	ⅢA-3	1	
図V-97	187	J-50	34	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	188	M-70	14	Ⅲ上	ⅢA-3	6	
図V-97	189	M-70	21	Ⅲ上	ⅢA-3	4	
		M-70	17	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	190	P-42	14	I	ⅢA-3	3	
図V-97	191	R-45	14	Ⅲ	ⅢA-3	5	
		R-45	26	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図V-97	192	L-44	21	I	ⅢA-3	1	
図V-97	193	K-50	16	Ⅲ	ⅢA-3	1	

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図V-97	194	N-43	36	I	ⅢA-3	1	
図V-97	195	N-44	117	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-97	196	I-50	12	Ⅲ	ⅢA-3	2	
		I-50 b	11	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	197	I-50 b	14	IV	ⅢA-3	1	
図V-97	198	L-44	17	I	ⅢA-3	1	
図V-97	199	L-43	31	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-97	200	K-50	29	I	ⅢA-3	2	
図V-97	201	J-50	14	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	202	N-43	123	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-97	203	N-43	20	I	ⅢA-3	1	
		N-43	89	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-97	204	J-51	72	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	205	N-43	35	I	ⅢA-3	1	
図V-97	206	I-51	1	I	ⅢA-3	3	
図V-97	207	J-51	35	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	208	P-56	7	I	ⅢA-3	1	
		R-56	43	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	209	K-53	17	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	210	Q-59	22	風倒木	ⅢA-3	1	
図V-97	211	N-43	39	I	ⅢA-3	1	
図V-97	212	L-44	8	I	ⅢA-3	1	
図V-97	213	L-44	35	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	214	R-59	77	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	215	N-44	100	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	216	L-43	52	風倒木	ⅢA-3	1	
図V-97	217	K-49	35	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-97	218	I-50 a	29	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-98	219	I-51	72	Ⅲ	ⅢA-3	16	
		H-51	12	Ⅲ	ⅢA-3	4	
		H-51	23	I	ⅢA-3	3	
図V-98	220	N-44	62	Ⅲ	ⅢA-3	2	
		N-44	102	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-98	221	I-50 b	11	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-98	222	R-47	19	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-98	223	L-45	21	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図V-98	224	R-59	2	I	ⅢA-3	1	
		R-59	31	I	ⅢA-3	2	
		R-59	61	風倒木	ⅢA-3	1	
図V-98	225	N-44	62	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図V-98	226	R-44	23	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-98	227	L-55	6	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-98	228	N-50	31	風倒木	ⅢA-3	11	
図V-98	229	L-50	18	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-98	230	I-50 a	29	Ⅲ	ⅢA-3	10	
図V-98	231	P-62 b	1	I	ⅢA-3	4	
		Q-62	3	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-98	232	I-50 b	4	Ⅲ	ⅢA-3	8	
図V-99	233	H-43	37	堀り上げ土	ⅢA-3	5	
		H-49	39	堀り上げ土	ⅢA-3	3	
図V-99	234	Q-56	11	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-99	235	I-50 a	29	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-99	236	P-53	23	I	ⅢA-3	1	
図V-99	237	J-51	13	Ⅲ	ⅢA-3	4	
		J-50	13	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図V-99	238	N-52	13	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図V-99	239	P-44	5	I	ⅢA-3	1	
図V-99	240	N-43	96	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-99	241	L-44	1	I	ⅢA-3	2	
図V-99	242	P-42	40	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-99	243	L-45	9	I	ⅢA-3	1	
図V-99	244	J-50	14	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-99	245	R-44	32	風倒木	ⅢA-3	4	
		R-44	21	I	ⅢA-3	2	
		R-44	40	風倒木	ⅢA-3	1	

包含層出土掲載拓本土器一覽 B地区

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図V-99	246	L-43	58	風倒木	ⅢA-3	1	
図V-99	247	H-50	52	堀り上げ土	ⅢA-3	2	
図V-99	248	N-44	102	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図V-99	249	I-51	1	I	ⅢA-3	1	
図V-99	250	L-44	35	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図V-99	251	N-44	20	I	ⅢA-3	2	
図V-100	252	N-43	138	Ⅲ	ⅢB-2	3	
図V-100	253	N-43	138	Ⅲ	ⅢB-2	10	
図V-100	254	N-43	138	Ⅲ	ⅢB-2	14	
図V-100	255	L-44	21	I	ⅢB-2	2	
図V-100	256	R-42	28	I	ⅢB-2	2	
図V-100	257	R-41	5	I	ⅢB-2	3	
図V-100	258	R-49	1	I	ⅢB-2	1	
図V-100	259	I-50c	9	Ⅲ	ⅢB-2	1	
図V-100	260	I-50	12	Ⅲ	ⅢB-2	1	
図V-100	261	P-42	61	Ⅲ	ⅢB-2	4	
図V-100	262	Q-41	16	Ⅲ	ⅢB-2	1	
図V-100	263	N-50	1	Ⅲ	ⅢB-2	1	
図V-100	264	S-49	8	Ⅲ	ⅢB-2	2	
図V-100	265	R-47	13	Ⅲ	ⅢB-2	1	
図V-100	266	N-49	1	I	ⅢB-2	2	
図V-100	267	S-49b	1	I	ⅢB-2	2	
図V-100	268	P-42	60	Ⅲ	ⅢB-2	6	
		P-42	61	Ⅲ	ⅢB-2	7	
図V-100	269	O-46	7	I	ⅢB-2	5	
		O-46	13	Ⅲ	ⅢB-2	3	
		O-46	15	Ⅲ	ⅢB-2	1	
図V-101	270	N-48	29	Ⅲ	ⅢB-2	1	
		N-50	44	風倒木	ⅢB-2	1	
図V-101	271	K-45	7	I	ⅢB-2	2	
図V-101	272	J-49	34	Ⅲ	ⅢB-2	1	
図V-101	273	S-49	8	Ⅲ	ⅢB-2	1	
図V-101	274	Q-40d	3	I	ⅢB-2	1	
図V-101	275	M-47	7	Ⅲ	ⅢB-2	1	
図V-101	276	O-48	12	Ⅲ	ⅣA-1	3	
図V-101	277	R-47	22	風倒木	ⅣA-1	1	
図V-101	278	P-42	67	Ⅲ	ⅣA-1	1	
		P-42	97	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	279	N-45	73	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	280	N-44	48	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	281	N-44	18	I	ⅣA-1	1	
		N-44	72	I	ⅣA-1	1	
図V-101	282	N-44	48	Ⅲ	ⅣA-1	2	
図V-101	283	N-44	48	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	284	Q-44	43	風倒木	ⅣA-1	1	
図V-101	285	R-48	3	Ⅲ	ⅣA-1	2	
図V-101	286	L-43	58	風倒木	ⅣA-1	1	
図V-101	287	P-46	56	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	288	R-43	17	Ⅲ	ⅣA-1	3	
図V-101	289	K-65	9	Ⅲ	ⅣA-1	2	
図V-101	290	N-45	92	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	291	N-44	100	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	292	R-44	8	I	ⅣA-1	1	
図V-101	293	P-46	60	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	294	P-44	2	I	ⅣA-1	1	
図V-101	295	Q-41	20	Ⅲ	ⅣA-1	6	
		P-41	2	I	ⅣA-1	1	
図V-101	296	L-55	6	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	297	L-44	21	I	ⅣA-1	1	
図V-101	298	N-44	142	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	299	N-45	73	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-101	300	L-45	8	I	ⅣA-1	1	
図V-101	301	K-51	36	Ⅲ	ⅣA-1	1	
図V-102	302	I-78	3	Ⅲ上	ⅣA-2	1	
図V-102	303	S-37c	8	Ⅲ	ⅣA-2	1	

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
		S-37d	4	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	304	T-37a	8	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	305	S-37d	4	Ⅲ	ⅣA-2	6	
		S-37c	8	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	306	Q-45	21	Ⅲ	ⅣA-2	2	
図V-102	307	N-43	35	I	ⅣA-2	2	
図V-102	308	R-44	52	風倒木	ⅣA-2	1	
図V-102	309	Q-45	15	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	310	Q-45	8	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	311	N-43	39	I	ⅣA-2	1	
図V-102	312	N-43	39	I	ⅣA-2	1	
図V-102	313	R-54	6	I	ⅣA-2	1	
図V-102	314	N-43	35	I	ⅣA-2	1	
図V-102	315	N-43	20	I	ⅣA-2	1	
図V-102	316	N-43	20	I	ⅣA-2	1	
図V-102	317	L-47	22	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	318	R-44	42	風倒木	ⅣA-2	1	
		R-44	52	風倒木	ⅣA-2	2	
図V-102	319	R-41b	48	Ⅲ	ⅣA-2	2	
		R-41	20	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	320	R-41	20	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	321	K-45	6	I	ⅣA-2	1	
図V-102	322	N-44	48	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	323	P-42	58	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	324	S-46	1	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	325	L-45	42	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	326	N-44	42	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-102	327	N-47	13	Ⅲ	ⅣA-2	1	
		N-47	17	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-103	328	N-45	93	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-103	329	H-48	6	I	ⅣA-2	1	
図V-103	330	Q-48	5	Ⅲ	ⅣA-2	1	
		Q-49	6	Ⅲ	ⅣA-2	2	
図V-103	331	S-48	1	I	ⅣA-2	6	
図V-103	332	M-45	45	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-103	333	R-44	21	I	ⅣA-2	1	
		R-44	41	Ⅲ	ⅣA-2	1	
図V-103	334	R-53	19	I	ⅣA-2	3	
図V-103	335	I-51	20	Ⅲ	ⅣA-2	5	
		I-51	29	Ⅲ	ⅣA-2	1	
		I-51	31	Ⅲ	ⅣA-2	11	
図V-103	336	O-47	10	Ⅲ	ⅣA-2	4	
図V-103	337	K-50	16	Ⅲ	円板状土製品	1	
図V-103	338	K-49	16	Ⅲ	円板状土製品	2	
図V-103	339	I-50b	20	Ⅲ	円板状土製品	1	
図V-103	340	I-50d	4	Ⅲ	円板状土製品	1	
図V-103	341	I-50c	9	Ⅲ	円板状土製品	1	
図V-103	342	K-50	16	Ⅲ	円板状土製品	1	
図V-103	343	R-56	26	I	耳栓	1	
図V-103	344	Q-56	4	Ⅲ	耳栓	1	
図V-103	345	M-46	7	Ⅲ	耳栓	1	

包含層出土掲載石製品

挿入番号	器種	グリッド	区画	遺物番号	層位	細分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
図V-103 346	石製品	Q-60	9	Ⅲ			黒曜石	3.1	2.4	0.9	(3.5)	三脚石器 分析番号55748

表13 包含層出土掲載復原土器一覧 C・D地区

実測番号	図番号	番号	出土区	遺物番号	出土層位	分類	点数	計	大きさ (cm)	
									高さ	口径
15	図VI-47	1	M-23	5	Ⅲ	IA	8	8	4.5	5.8
20	図VI-47	2	F-30	2	Ⅲ	ⅢA-2	23	36	19.7	15.7
			G-31	28			13			
			F-30	2			2			
			G-31	28			8			
8	図VI-47	3	T-37c	5	Ⅲ	IVA-1	1	47	33.7	38.1
			T-37d	10			5			
				11			17			
				15			18			
				18			3			
			S-37b	5			2			
			S-37c	8			1			
			S-37b	5			1			
			T-37a	6			2			
			T-37d	1			1			
				11			1			
				15			24			
				18			2			
			T-37d (未接合)	10			2			
				11			7			
	15	3								

表14 包含層出土掲載拓本土器一覧 C・D地区

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図VI-48	4	G-36	29	IV	IA	1	
		G-32	3	Ⅲ	IA	1	
図VI-48	5	L-11	17	Ⅲ上	IA	1	
図VI-48	6	H-6	13	IV上	IA	3	
		H-6	14	IV上	IA	1	
図VI-48	7	H-6	13	IV上	IA	1	
		YH-9	32	フクド1	IA	1	
図VI-48	8	K-21	1	I	IA	1	
図VI-48	9	M-10	2	IV下	IA	1	
図VI-48	10	M-25	7	Ⅲ	IA	1	
図VI-48	11	I-11	2	IV上	IA	1	
		I-11	4	IV上	IA	1	
図VI-48	12	J-22	1	I	IA	1	
図VI-48	13	J-22	6	Ⅲ	IA	1	
図VI-48	14	J-21	4	I	IA	1	
図VI-48	15	M-19	9	I	IA	1	
図VI-48	16	M-19	2	IV	IA	1	
図VI-48	17	H-7	36	IV中	IA	1	
図VI-48	18	H-7	17	Ⅲ上	IA	2	
図VI-48	19	K-5	52	Ⅲ中	IA	3	
		K-5	55	Ⅲ上	IA	3	
図VI-48	20	H-6	13	IV上	IA	1	
		H-6	34	IV上	IA	1	
		G-6	11	Ⅲ上	IA	1	
図VI-48	21	K-5	50	Ⅲ上	IA	1	
図VI-48	22	J-11	10	Ⅲ上	IA	1	
図VI-48	23	K-7	8	IV	IA	1	
図VI-48	24	L-4	23	Ⅲ上	IA	1	
図VI-48	25	M-8	5	IV上	IA	1	
図VI-48	26	K-11	10	風樹木	IA	2	
		K-11	21	IV中	IA	1	
図VI-48	27	L-19	13	IV	IA	1	
図VI-48	28	M-17	7	IV中	IA	2	
図VI-48	29	H-24	1	Ⅲ	IA	1	
図VI-48	30	H-7	1	Ⅲ中	IA	7	
図VI-48	31	H-5	8	IV上	IA	6	
		H-5	9	I	IA	2	
		H-6	4	IV上	IA	3	
		H-6	14	IV上	IA	1	

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図VI-48	32	K-5	46	IV上	IA	4	
図VI-48	33	M-25	2	Ⅲ	IA	1	
図VI-48	34	J-11	10	Ⅲ上	IA	1	
図VI-48	35	L-11	33	IV上	IA	1	
図VI-48	36	K-8	14	IV	IA	1	
図VI-48	37	K-12	12	Ⅲ	IA	1	
図VI-48	38	K-20	5	I	IA	1	
図VI-48	39	F-6	14	IV	IA	1	
図VI-48	40	H-7	39	IV上	IA	2	
図VI-48	41	H-5	1	風樹木	IA	1	
図VI-48	42	I-20	2	IV	IA	1	
図VI-48	43	F-5	2	Ⅲ上	IA	8	
図VI-48	44	M-17	7	IV中	IA	2	
			9	IV中	IA	1	
図VI-48	45	G-7	39	IV中	IA	3	
図VI-49	46	K-11	27	Ⅲ上	IA	1	
図VI-49	47	G-6	10	IV中	IA	1	
図VI-49	48	J-11	2	IV上	IA	1	
図VI-49	49	H-8	10	IV上	IA	1	
図VI-49	50	H-7	1	Ⅲ中	IA	1	
図VI-49	51	M-19	2	IV	IA	2	
図VI-49	52	N-17	2	IV上	IA	1	
図VI-49	53	K-5	18	Ⅲ中	IA	1	
図VI-49	54	L-11	8	IV上	IA	2	
図VI-49	55	H-35	1	IV	IA	1	
図VI-49	56	H-35	1	IV	IA	2	
図VI-49	57	N-17	5	攪乱	IA	1	
図VI-49	58	M-19	2	IV	IA	2	
図VI-49	59	H-7	52	Ⅲ	IA	1	
図VI-49	60	M-17	7	IV中	IA	1	
図VI-49	61	K-27	3	Ⅲ	IA	6	
図VI-49	62	H-7	1	Ⅲ中	IA	6	H-7,39と接合
		H-7	39	IV上	IA	5	
		G-6	37	IV下	IA	2	
図VI-49	63	K-16	1	I	IA	1	
図VI-49	64	H-35	2	攪乱	IA	1	
図VI-49	65	N-17	3	攪乱	IA	1	
図VI-49	66	K-5	18	Ⅲ中	IA	2	
図VI-49	67	J-6	1	Ⅲ	IA	1	
図VI-49	68	L-19	12	Ⅲ	IA	1	
図VI-49	69	K-7	9	Ⅲ	IA	1	
図VI-49	70	N-17	3	攪乱	IA	3	
図VI-49	71	L-4	10	Ⅲ	IB-4	2	
図VI-49	72	L-4	1	Ⅲ	IB-4	3	L-4・10と接合
		L-4	10	Ⅲ	IB-5	1	
図VI-49	73	L-4	1	Ⅲ	IB-4	2	L-4・10と接合
		L-4	10	Ⅲ	IB-4	1	
図VI-49	74	L-4	1	Ⅲ	IB-4	1	
図VI-49	75	L-4	1	Ⅲ	IB-4	2	
図VI-50	76	O-27	9	Ⅲ	IB-2	1	
図VI-50	77	O-24	3	Ⅲ	IB-2	2	
図VI-50	78	I-26	10	川フク土下	IB-2	2	
図VI-50	79	I-26	12	川フク土下	IB-2	2	
図VI-50	80	O-31	51	Ⅲ	IB-2	1	
図VI-50	81	M-78	6	Ⅲ上	IB-2	2	
図VI-50	82	R-29	5	Ⅲ	IB-2	1	
図VI-50	83	P-30	183	I	IB-2	1	
図VI-50	84	K-28	2	Ⅲ	IB-2	1	
図VI-50	85	F-7	15	IV中	IB-2	1	
図VI-50	86	F-7	4	I	IB-2	1	
図VI-50	87	O-33	19	Ⅲ	IB-2	1	
図VI-50	88	Q-33	13	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図VI-50	89	G-35	20	Ⅲ	ⅢA-2	2	
図VI-50	90	M-79	11	IV・IV上	ⅢA-2	1	
		M-79	8	Ⅲ上	ⅢA-2	1	

包含層出土掲載拓本土器一覽 C・D地区

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
		M-79	10	IV上	ⅢA-2	1	
		M-79	12	IV	ⅢA-2	3	
図VI-50	91	G-35	20	Ⅲ	ⅢA-2	1	
図VI-50	92	M-79	5	Ⅳ・Ⅲ上・Ⅲ中・Ⅳ	ⅢA-2	3	
		M-79	8	Ⅲ上	ⅢA-2	1	
		M-79	13	Ⅲ	ⅢA-2	1	
		M-79	14	IV	ⅢA-2	1	
図VI-50	93	M-79	10	IV・IV上	ⅢA-2	1	
		M-79	11	IV上	ⅢA-2	2	
		M-79	12	IV	ⅢA-2	1	
図VI-50	94	M-79	5	Ⅲ中	ⅢA-2	7	
		M-79	8	Ⅲ上	ⅢA-2	1	
図VI-50	95	M-79	8	Ⅲ上	ⅢA-2	1	
図VI-50	96	M-79	10	IV上	ⅢA-2	7	
		M-79	14	IV	ⅢA-2	1	
図VI-50	97	M-79	5	Ⅲ中	ⅢA-2	3	
		M-79	10	IV上	ⅢA-2	1	
図VI-50	98	M-79	8	IV上	ⅢA-2	1	
		M-79	10	IV上	ⅢA-2	2	
図VI-50	99	R-41 b	31	Ⅲ	ⅢA-2	6	
		R-41 b	30	Ⅲ	ⅢA-2	1	
		R-41 b	36	Ⅲ	ⅢA-2	5	
図VI-50	100	M-6	5	Ⅲ	ⅢA-2	3	
図VI-50	101	P-33	6	I	ⅢA-3	1	
図VI-50	102	I-28	10	川底	ⅢA-3	7	
		I-28	8	川フクド	ⅢA-3	3	
図VI-51	103	H-1-25	1	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図VI-51	104	H-1-25	1	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図VI-51	105	H-1-25	1	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-51	106	K-24	3	I	ⅢA-3	1	
図VI-51	107	G-33	16	風倒木	ⅢA-3	1	
図VI-51	108	N-34	5	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-51	109	G-31	20	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-51	110	G-33	16	風倒木	ⅢA-3	1	
図VI-51	111	J-28	6	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-51	112	P-33	6	I	ⅢA-3	1	
図VI-51	113	H-1-25	1	Ⅲ	ⅢA-3	2	
図VI-51	114	H-1-25	1	Ⅲ	ⅢA-3	3	
図VI-51	115	M-33	21	川底	ⅢA-3	1	
図VI-51	116	P-42	2	I	ⅢA-3	1	
図VI-51	117	K-30	2	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-51	118	G-31	1	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-51	119	G-31	1	Ⅲ	ⅢA-3	1	
図VI-51	120	不明	不明	不明	ⅢB-2	不明	
図VI-51	121	O-31	2	Ⅲ	ⅢB-2	2	
図VI-51	122	O-31	2	Ⅲ	ⅢA	5	
図VI-51	123	J-31	5	Ⅲ	ⅢA	1	
図VI-51	124	K-30	1	Ⅲ	ⅢA	1	
図VI-51	125	H-36	35	Ⅲ	ⅢA	3	
図VI-51	126	H-30	2	Ⅲ	ⅢA	1	
図VI-51	127	T-37 d	25	Ⅲ	ⅢA	3	
		R-41 a	46	不明	ⅢA	1	
図VI-51	128	T-37 c	5	Ⅲ	ⅢA	2	
		T-37 c	11	Ⅲ	ⅢA	9	
		T-37 c	20	Ⅲ	ⅢA	1	
		T-37 d	10	Ⅲ	ⅢA	2	
図VI-51	129	G-32	10	Ⅲ	ⅢA	1	
図VI-51	130	G-28	5	Ⅲ	ⅢA	1	
図VI-51	131	R-53	19	I	ⅢA	2	
図VI-51	132	G-32	4	Ⅲ	ⅢA	1	
図VI-51	133	H-20	1	風倒木	ⅢA	1	
図VI-51	134	O-32	2	Ⅲ	ⅢA	1	
図VI-52	135	G-31	19	Ⅲ	ⅢA	1	
図VI-52	136	T-37 c	24	Ⅲ	ⅢA	3	
図VI-52	137	T-37 d	10	Ⅲ	ⅢA	17	

図番号	掲載番号	グリッド	遺物番号	出土層位	分類	点数	備考
図VI-52	138	O-33	1	Ⅲ	ⅢA	1	
図VI-52	139	O-33	1	風倒木	ⅢA	1	
図VI-52	140	L-29	3	I	ⅢA	1	
図VI-52	141	L-29	3	I	ⅢA	1	

表15 包含層出土掲載石器一覽 B地区

採掘番号	番号	器種	グリッド	区画	遺物番号	層位	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
V-108	1	石鏃	P-51	3	Ⅲ	Ⅲb	頁岩	5.0	1.1	0.4	1.5		
	2	石鏃	O-62	c	I	Ⅲa	頁岩	3.5	1.3	0.5	1.7		
	3	石鏃	N-44	59	Ⅲ	Ⅲb	黒曜石	(3.0)	1.2	0.4	(1.4)	分析No.73682	
	4	石鏃	N-50	45	風倒木	Ⅲd	頁岩	(3.5)	1.6	0.5	(2.7)		
	5	石鏃	Q-59	46	風倒木	2a	黒曜石	3.2	1.7	0.5	1.6	分析No.73707	
	6	石鏃	I-50	31	Ⅲ	2a	黒曜石	(3.9)	2.5	0.8	(5.1)	分析No.73676	
	7	石鏃	J-55	15	Ⅲ	2a	珩質頁岩	4.0	1.4	0.5	1.8		
	8	石鏃	Q-41	a	13	Ⅲ	2a	頁岩	2.1	0.9	0.4	0.8	
	9	石鏃	K-53	13	Ⅲ	2a	頁岩	1.7	0.9	0.3	0.2	小形	
	10	石鏃	L-43	32	Ⅲ	2a	黒曜石	3.6	1.6	0.4	1.6		
	11	石鏃	I-50	a	30	Ⅲ	2a	玄武岩	3.5	1.4	0.5	1.9	分析No.73679
	12	石鏃	I-51	6	Ⅲ	2b	流紋岩	2.5	0.9	0.3	0.7		
	13	石鏃	I-50	d	5	Ⅲ	2b	流紋岩	2.7	1.2	0.5	1.4	
	14	石鏃	I-50	13	Ⅲ	2b	黒曜石	3.1	1.4	0.6	2.0		
	15	石鏃	I-50	a	4	Ⅲ	Ⅲb	頁岩	5.7	2.4	0.7	9.3	分析No.85752
	16	石鏃	P-56	23	Ⅲ	2b	玄武岩	6.5	2.4	1.1	13.9		
	17	石鏃	L-70	3	Ⅲ	9	頁岩	9.8	3.2	1.3	36.6		
	18	石鏃	O-58	39	Ⅲ	9	頁岩	13.1	4.1	1.9	99.6		
	19	ドリル	I-49	23	Ⅲ	1	頁岩	4.5	1.4	0.5	2.9		
	20	ドリル	R-41	b	22	Ⅲa	珩質頁岩	3.9	2.0	0.9	5.2		
	21	ドリル	Q-41	c	4	Ⅲ	2	頁岩	2.8	2.8	1.2	4.8	
	22	ドリル	N-43	166	Ⅲ	3	流紋岩	6.6	2.1	0.8	2.4		
	23	ドリル	J-50	78	Ⅲ	3	黒曜石	2.8	1.2	0.7	1.9	分析No.73677	
	24	ドリル	Q-41	2	Ⅲ	5	頁岩	3.9	1.6	1.0	2.7	石鏃から転用	
	25	つまみ付きナイフ	N-61	e	3	Ⅲ	珩質頁岩	7.4	2.9	1.0	17.9	棒状つまみ	
	26	つまみ付きナイフ	M-62	d	5	Ⅲ	珩質頁岩	6.3	2.7	1.0	10.6		
	27	つまみ付きナイフ	I-74	2	Ⅲ上	1c	珩質頁岩	5.5	2.9	0.4	6.4		
	28	つまみ付きナイフ	R-63	8	Ⅲ	1c	頁岩	7.3	3.5	1.3	23.1		
V-109	29	つまみ付きナイフ	R-63	9	Ⅲ	1c	頁岩	4.5	4.1	1.6	8.2		
	30	つまみ付きナイフ	I-50	19	Ⅲ	Ⅲd	頁岩	5.1	3.1	0.9	11.4		
	31	スクレイパー	J-49	107	Ⅲ	Ⅲa	頁岩	7.4	5.5	1.2	41.1		
	32	スクレイパー	P-44	73	Ⅲ	Ⅲa	頁岩	2.1	5.3	0.8	30.6		
	33	スクレイパー	P-60	36	Ⅲ	Ⅲa	珩質頁岩	6.7	3.6	0.8	19.7	刃部摩耗	
	34	スクレイパー	S-40	c	1	Ⅲ	Ⅲa	頁岩	7.6	3.1	1.4	40.7	
	35	スクレイパー	I-50	d	9	Ⅲ	Ⅲa	流紋岩	7.8	5.9	1.6	50.0	
	36	スクレイパー	K-49	2	I	Ⅲa	頁岩	9.6	4.0	1.5	52.7		
	37	スクレイパー	K-49	43	Ⅲ	Ⅲa	珩質頁岩	8.6	5.2	1.3	51.1		
	38	スクレイパー	H-49	41	Ⅲ	Ⅲa	珩質頁岩	5.1	2.6	0.9	6.4		
	39	スクレイパー	P-42	52	Ⅲ	Ⅲa	頁岩	5.4	4.1	1.9	18.0	鋸歯状	
	40	スクレイパー	K-52	21	Ⅲ	Ⅲa	頁岩	4.7	2.6	1.0	13.9		
	41	スクレイパー	P-45	37	Ⅲ	Ⅲa	頁岩	4.5	3.1	0.6	7.5		
	42	スクレイパー	R-61	d	13	Ⅲ	Ⅲb	頁岩	6.6	3.6	1.0	17.0	
V-110	43	スクレイパー	I-50	a	7	Ⅲ	Ⅲb	頁岩	6.4	2.0	1.3	7.3	刃部摩耗
	44	スクレイパー	I-50	b	4	Ⅲ	Ⅲb	黒曜石	2.8	2.2	1.0	4.4	分析No.65747
	45	スクレイパー	J-41	b	6	Ⅲ	Ⅲc	頁岩	5.9	2.0	0.6	7.6	ドリル複合
	46	スクレイパー	I-52	28	風倒木	1c	珩質頁岩	5.2	2.3	0.5	3.4		
	47	スクレイパー	K-49	14	Ⅲ	2b	頁岩	7.1	8.0	1.5	65.9		
	48	スクレイパー	R-40	c	8	Ⅲa	2b	頁岩	10.2	4.9	2.3	84.6	刃部摩耗
	49	スクレイパー	O-43	65	Ⅲ	4	頁岩	7.9	5.2	1.7	63.6	表面磨痕	
	50	スクレイパー	S-49	1	Ⅲ	4	頁岩	7.4	3.5	1.8	39.2		
	51	スクレイパー	N-69	1	Ⅲ	4	珩質頁岩	(6.4)	4.4	1.3	(36.8)	表面光沢	
	52	両面加工石器	I-50	a	2	Ⅲ	珩質頁岩	(4.3)	2.9	1.4	(14.5)		
	53	両面加工石器	T-40	b	9	Ⅲ	珩質頁岩	4.5	2.4	1.1	11.0		
V-111	54	石核	Q-41	b	19	Ⅲ	頁岩	7.2	6.8	3.5	151.5		
	55	石核	N-41	a	7	Ⅲ	頁岩	4.2	5.3	3.6	65.1		
	56	石核	Q-45	17	Ⅲ	流紋岩	4.3	4.0	3.3	77.5			

包含層出土掲載石器一覧 B地区

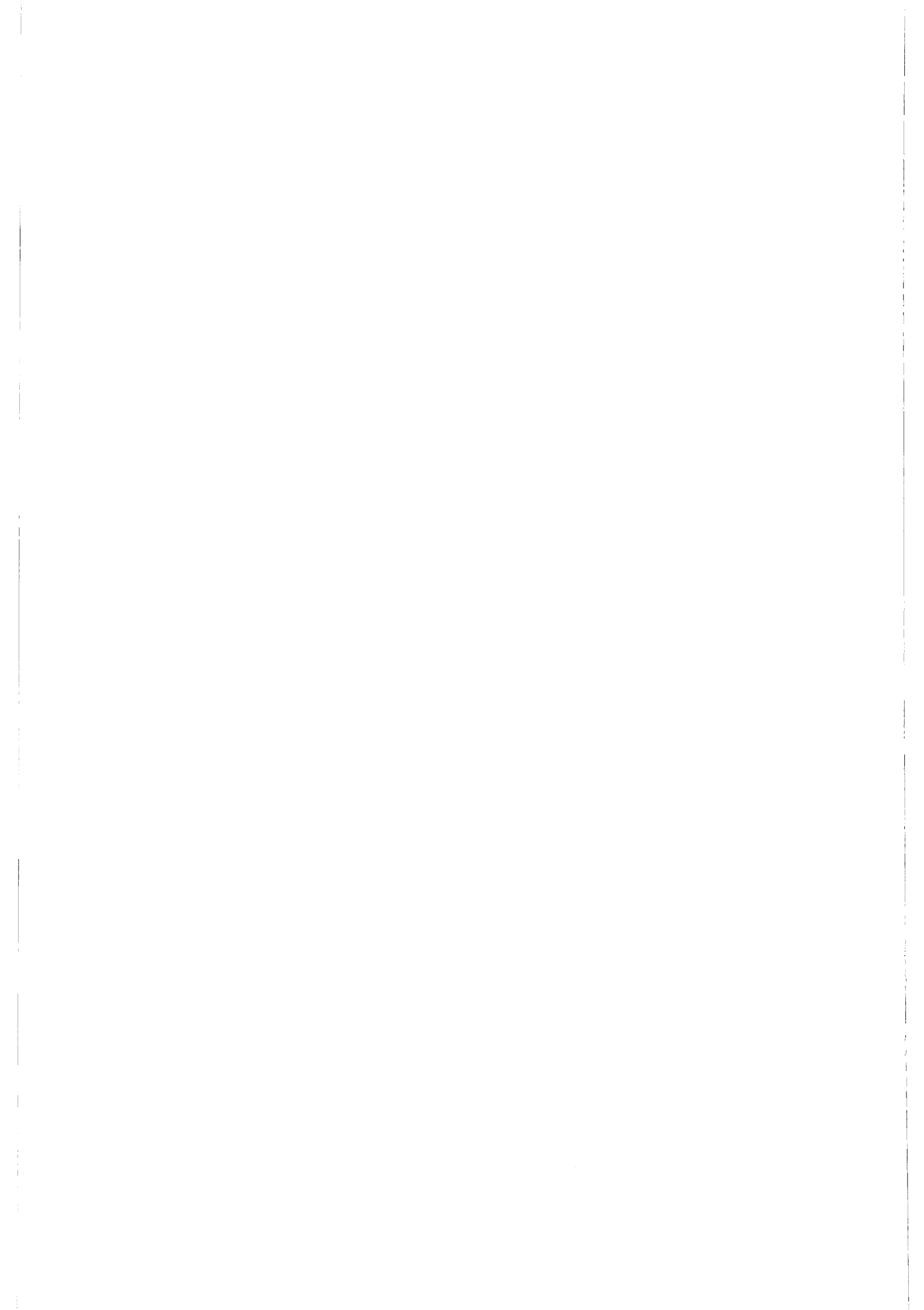
採回 番号	番号	器 種	グリッド	区 画	遺物 番号	層位	細 分類	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
	57	石核	P-12		118	Ⅲ		頁岩	7.4	9.0	6.2	408.9	
V-112	58	石斧	L-44		28	Ⅲ	1	片岩	8.5	3.1	1.3	51.2	
	59	石斧	N-44		65	Ⅲ	2	緑色泥岩	11.8	4.5	1.3	97.2	
	60	石斧	P-12		53	Ⅲ	2	片岩	10.1	3.8	1.1	70.3	
	61	石斧	N-40	a	6	Ⅲ	2	片岩	10.4	(4.0)	2.3	(176.2)	
	62	石斧	P-49		19	Ⅲ	2	片岩	9.6	4.0	1.6	118.2	
	63	石斧	R-40	c	20	Ⅲ	2	泥岩	12.4	4.5	1.7	140.1	
	64	石斧	L-48		23	Ⅲ	3	凝灰岩	8.0	1.4	1.2	17.0	
	65	石斧	Q-38		36	I	3	泥岩	(5.0)	2.5	0.7	(12.6)	
	66	石斧	P-61	b	3	Ⅲ	9	泥岩	8.4	3.8	1.8	65.3	
V-113	67	たたく石	P-12		81	Ⅲ	1	安山岩	12.7	9.0	6.7	1609	
	68	たたく石	R-11	a	21	Ⅲ	3	珩岩	9.2	6.2	6.9	546	
	69	たたく石	J-49		59	Ⅲ	3	安山岩	9.6	8.1	6.4	708	
	70	たたく石	P-43		61	Ⅳ	3	安山岩	12.9	6.9	3.0	422	
	71	たたく石	Q-42		75	Ⅲ	3	安山岩	14.9	11.5	6.2	1791	
	72	たたく石	K-47		10	Ⅲ	3	安山岩	9.5	6.8	3.9	345	
	73	たたく石	I-50	d	2	Ⅲ	3	安山岩	11.2	8.2	4.4	526	
	74	たたく石	P-42		42	Ⅲ	3	安山岩	15.7	9.5	4.5	968	
	75	たたく石	Q-42		47	Ⅲ	3	安山岩	18.2	13.1	6.6	2210	すり石複合
	76	たたく石	L-32		11	Ⅲ	4	泥岩	5.6	4.9	4.2	157	
	77	すり石	L-57	b	5	Ⅲ	2	安山岩	8.5	4.9	1.8	(101)	
	78	すり石	N-43		104	Ⅲ	2	安山岩	8.1	5.5	2.7	160	
	79	すり石	N-43		103	Ⅲ	2	安山岩	8.7	5.5	2.4	158	
	80	すり石	N-45		48	Ⅲ	2	凝灰岩	8.1	6.1	3.7	229	
	81	すり石	N-44		38	Ⅲ	2	安山岩	8.8	6.4	3.0	247	
V-114	82	すり石	N-44		130	Ⅲ	2	安山岩	13.4	6.5	2.9	361	たたく石3類複合
	83	すり石	R-45		21	Ⅲ	2	安山岩	19.2	8.0	3.0	741	
	84	すり石	Q-60	d	1	Ⅲ	2	砂岩	8.7	7.2	2.1	181	縦形
	85	すり石	Q-60		56	Ⅲ	2	安山岩	13.2	10.1	4.7	497	角礫素材
	86	すり石	Q-55		39	I	2	流紋岩	16.1	8.3	3.3	432	角礫素材
	87	すり石	Q-43		59	Ⅲ	2	流紋岩	17.8	7.3	3.7	439	
	88	すり石	Q-51		4	Ⅲ	4	安山岩	10.4	5.8	2.6	235	
	89	すり石	L-40	d	8	Ⅲ	4	安山岩	11.9	5.3	2.1	181	
	90	すり石	Q-49		11	Ⅲ	4	安山岩	11.0	6.5	1.6	179	
	91	すり石	I-54		1	Ⅲ	4	安山岩	13.0	9.0	2.8	497	
	92	すり石	P-60		32	Ⅲ	4	閃緑岩?	17.2	9.9	4.5	1140	
	93	すり石	N-44		69	Ⅲ	4	流紋岩?	12.5	6.8	2.6	301	角礫素材
	94	すり石	P-42		106	Ⅲ	4	安山岩?	13.6	7.1	3.1	422	
V-115	95	すり石	Q-49		12	Ⅲ	4	安山岩	14.5	7.8	3.6	453	たたく石2類複合
	96	すり石	I-50	a	26	Ⅲ	4	安山岩	15.9	9.9	2.9	623	
	97	すり石	N-50		23	風樹木	5	安山岩	18.5	11.4	3.1	1073	
	98	すり石	N-43		107	Ⅲ	5	安山岩	17.1	10.1	4.3	826	
	99	すり石	Q-65		1	IV木根	5	安山岩	(8.2)	10.9	2.8	409	
	100	すり石	P-51		13	Ⅲ	5	安山岩	9.0	4.5	1.0	57	
	101	すり石	J-50		19	Ⅲ	2	安山岩	12.0	6.0	1.0	109	
	102	すり石	Q-41	a	15	Ⅲ	5	安山岩?	11.6	7.2	1.3	164	
	103	すり石	N-64	b	1	Ⅲa	5	安山岩	14.5	9.0	3.2	444	
	104	すり石	I-50	b	12	Ⅲ	5	凝灰岩	12.6	6.9	3.4	283	
	105	すり石	I-50	a	23	Ⅲ	5	安山岩	14.2	9.2	3.0	472	
	106	すり石	Q-42		21	Ⅲ	5	安山岩	17.0	7.5	3.3	673	
	107	すり石	P-43		69	Ⅲ	5	安山岩	14.9	9.7	2.9	442	
	108	すり石	I-50	d	1	Ⅲ	5	安山岩	12.7	9.7	1.8	294	
V-116	109	すり石	K-51		28	Ⅲ	5	安山岩	16.3	9.7	2.4	653	
	110	すり石	R-50		8	Ⅲ	6	安山岩	9.1	5.6	3.6	279	
	111	すり石	Q-59		36	Ⅲ	6	安山岩	11.1	9.1	7.1	1040	
	112	すり石	P-44		72	Ⅲ	6	安山岩?	12.0	8.7	5.8	1019	
	113	砥石	Q-42		84	Ⅲ	1	安山岩	17.6	10.1	4.3	1150	
	114	砥石	P-42		66	Ⅲ	1	安山岩	20.1	9.7	5.3	1680	
	115	砥石	L-45		18	I	1	安山岩	20.3	(11.0)	2.1	(750)	
	116	砥石	K-53		3	I	1	凝灰岩	6.1	2.3	1.7	27	
	117	砥石	H-50		56	Ⅲ	1	凝灰岩	4.6	3.3	2.0	24	
	118	石錐	R-54		3	I	1	安山岩	15.0	10.3	2.1	400	2列打ち欠き、砥石複合
V-117	119	石皿	N-44		107	Ⅲ	1	安山岩	18.4	15.7	7.4	3225	
	120	台石	Q-45		29	Ⅲ	1	安山岩	19.8	15.8	5.8	2720	

表16 包含層出土掲載石器一覧 C・D地区

採回 番号	番号	器 種	グリッド	区 画	遺物 番号	層位	細 分類	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
VI-55	1	石核	I-6		6	Ⅲ	Ic	珩質頁岩	4.3	1.9	0.4	1.7	
	2	石核	J-9		4	Ⅲ	Ic	頁岩	3.9	1.7	0.4	1.7	
	3	石核	G-7		36	Ⅲ上	Ic	頁岩	3.0	1.6	0.4	1.5	
	4	石核	L-19		4	Ⅲ	Ic?	頁岩	(4.3)	1.7	0.4	(2.8)	
	5	石核	L-23		5	Ⅲ	Ic	頁岩	2.1	1.1	0.3	0.6	
	6	石核	P-30		110	Ⅲ	2a	頁岩	3.8	1.4	0.4	1.8	
	7	石核	J-6		42	Ⅲ	9	頁岩	2.6	1.9	0.4	1.8	
	8	石槍	G-7		7	Ⅲ上	Ia	頁岩	(7.0)	2.5	0.7	(11.1)	
	9	石槍	K-4		15	Ⅳ上	Ib	頁岩	6.4	3.6	1.0	21.1	
	10	石槍	G-7		6	Ⅲ上	2a	黒曜石	6.3	3.1	0.8	8.4	分析No.65738
	11	ドリル	Q-32		12	Ⅲ	4	頁岩	5.4	1.1	0.6	3.7	
	12	つまみ付きナイフ	L-4		4	Ⅲ	Ia	頁岩	5.8	2.9	0.6	10.2	
	13	つまみ付きナイフ	L-4		35	Ⅳ上面	Ia	頁岩	7.3	3.5	0.6	17.5	
	14	つまみ付きナイフ	T-37	d	19	Ⅲ	Ic	頁岩	4.4	2.0	0.5	4.4	
	15	つまみ付きナイフ	J-5		23	Ⅲ	Ic	頁岩	5.7	3.1	0.7	7.7	棒状つまみ
	16	つまみ付きナイフ	K-32		12	Ⅳ上面	Id	頁岩	6.5	2.6	0.7	11.7	
	17	つまみ付きナイフ	K-5		19	Ⅲ	Id	頁岩	8.8	2.0	0.7	11.0	
	18	つまみ付きナイフ	G-7		5	Ⅳ中	2	珩質頁岩	4.8	5.3	1.2	8.4	
	19	スクレイパー	N-5		14	Ⅲ上	Ia	頁岩	8.6	4.4	0.6	24.3	刃部摩耗
	20	スクレイパー	G-7		20	Ⅲ	Ia	頁岩	7.9	3.5	0.9	27.2	
	21	スクレイパー	N-7		10	Ⅳ下	Ia	頁岩	6.1	4.4	0.9	22.0	
VI-56	22	スクレイパー	Q-31		10	Ⅳ	Ia	頁岩	6.9	6.0	1.5	75.9	鋭歯状
	23	スクレイパー	L-21		12	風樹木	Ia	頁岩	5.9	3.7	1.8	33.3	
	24	スクレイパー	J-30		2	Ⅲ	Ia	珩質頁岩	7.1	4.3	0.5	21.9	
	25	スクレイパー	Q-31		12	Ⅲ	Ib	頁岩	4.6	3.1	0.9	19.4	
	26	スクレイパー	I-42		8	Ⅲ河道跡	Id	頁岩	7.5	3.2	1.9	20.8	B地区出土
	27	スクレイパー	Q-32		11	Ⅲ	4	頁岩	6.3	5.1	1.6	36.2	
	28	両面加工石器	K-5		14	Ⅲ上	Ia	頁岩	6.2	5.5	1.7	55.8	円形
	29	両面加工石器	N-33		15	Ⅲ河道跡	Ia	頁岩	4.6	4.0	1.5	22.4	円形
	30	両面加工石器	N-7		3	Ⅲ	Ia	頁岩	6.1	3.5	1.1	19.8	木葉形
	31	両面加工石器	J-6		12	Ⅲ	Ia	頁岩	(4.9)	3.0	1.1	(14.9)	木葉形
	32	石核	N-33		18	Ⅲ河道跡	Ia	頁岩	4.5	6.4	3.1	36.0	
VI-57	33	石核	K-29		2	Ⅲ	Ia	頁岩	9.8	10.4	4.6	343.7	
	34	石斧	N-24		1	Ⅲ	2	片岩	8.8	4.4	1.9	118.9	
	35	石斧	I-27		10	河道跡	0	泥岩	(4.7)	(4.5)	(1.1)	(28.6)	
	36	たたく石	N-29		7	Ⅳ	1	安山岩	12.9	6.7	6.6	840	
	37	たたく石	P-29		102	Ⅲ	1	安山岩	13.6	8.0	5.9	989	
	38	たたく石	N-33		10	河道跡	4	泥岩	6.9	6.4	5.6	336	
	39	たたく石	N-33		29	河道跡	2	凝灰岩?	8.5	10.0	4.2	486	
	40	たたく石	Q-33		15	Ⅲ	3	安山岩	13.5	6.2	3.2	431	
	41	たたく石	L-10		11	Ⅲ	3	安山岩	10.5	6.8	3.0	250	
	42	たたく石	J-27		2	Ⅳ河道跡	3	安山岩	12.7	12.3	4.4	973	
VI-58	43	すり石	J-7		8	Ⅲ	1	安山岩	(12.3)	7.3	6.8	(925)	
	44	すり石	N-23		2	Ⅲ	1	安山岩	16.8	8.5	5.4	980	
	45	すり石	P-31		144	Ⅳ	1	安山岩	21.1	10.4	8.0	2735	鋭歯、たたく石1-2類複合
	46	すり石	N-25		3	Ⅲ	2	安山岩	12.5	7.4	3.9	565	
	47	すり石	Q-31		31	Ⅲ	2	安山岩	15.0	9.4	1.9	446	
	48	すり石	I-29		3	Ⅳ	2	安山岩	13.7	9.1	2.7	514	
	49	すり石	J-30		1	Ⅲ	4	安山岩	15.9	9.8	2.1	507	角礫素材
	50	すり石	P-31		59	Ⅲ	5	安山岩	15.1	11.4	3.5	768	
	51	すり石	H-37		2	Ⅲ河道跡	5	安山岩	16.8	9.2	3.3	741	
	52	すり石	L-4		5	Ⅲ	5	凝灰岩	12.9	9.2	1.7	150	
	53	すり石	N-34		3	河道跡	5	流紋岩	(16.7)	9.2	2.0		

包含層出土掲載石器一覧 C・D地区

採回 番号	番号	器 種	グリッド	区 画	遺物 番号	層位	細 分類	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
	64	石錘	F-7		7	IV		安山岩	5.1	6.8	1.8	75	
	65	石錘	H-7		54	III		凝灰岩	5.9	6.7	2.1	70	
	66	石錘	K-20		4	I		安山岩	6.5	7.6	2.0	130	
	67	石錘	M-20		2	III		安山岩	6.6	9.3	3.1	258	
	68	石錘	J-7		22	III		安山岩	8.0	9.9	3.5	311	たたき石・すり石 2類・砥石組合
	69	石錘	N-20		6	III		安山岩	78.6	10.1	2.2	249	
	70	石錘	I-10		4	IV		凝灰岩	7.2	9.1	1.8	124	角礫素材



VII 自然科学的手法による分析結果

1 放射性炭素年代測定結果

報告内容の説明

14C age (y BP) : 14C 年代 “measured radiocarbon age”
試料の 14C/12C 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。
半減期はリビーの5568年を用いた。

補正 14C age (y BP) : 補正 14C 年代 “conventional radiocarbon age”
試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り
14C/12C の測定値に補正值を加えた上で、算出した年代。
試料の 13C 値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代値である。
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

δ 13C (permil) : 試料の測定 14C/12C 比を補正するための 13C/12C 比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)
で表現する。

$$\delta 13C (\text{‰}) = \frac{(13C/12C)[\text{試料}] - (13C/12C)[\text{標準}]}{(13C/12C)[\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、13C/12C[標準] = 0.0112372である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴのU-Th年代と 14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース(“INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration” Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3))により約19000yBPまでの換算が可能となった。*

*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

“The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a “best fit” compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results.”

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調製・その他 : 試料の前処理、調製などの情報

前処理 acid-alkali-acid : 酸 - アルカリ - 酸洗浄

acid washes : 酸洗浄

acid etch : 酸によるエッチング

none : 未処理

調製、その他

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理

Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出

Cellulose Extraction : 木材のセルローズ抽出

Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155

分析試料一覧

試料名	出土位置	出土層位	時期	備考
YZ4-1	H-2	石組炉直上	縄文時代後期前葉	H-20より新しい
YZ4-2	H-6	床面	縄文時代中期中葉	
YZ4-3	H-11	床面直上	縄文時代中期中葉	焼失住居の建築材
YZ4-4	H-15	HF-1	縄文時代中期中葉	床面地床炉
YZ4-5	H-16	床面	縄文時代中期中葉	
YZ4-6	H-18	床面	縄文時代中期中葉	
YZ4-7	H-20	床面	縄文時代後期前葉	H-2より古い
YZ4-8	H-11	床面	縄文時代中期中葉	床面出土土器に付着・図V-19-6
YZ4-9	H-19	床面	縄文時代中期中葉	床面出土土器に付着・図V-37-3
YZ4-10	(包含層)H-49	掘上土	縄文時代中期中葉	掘上土出土土器に付着・図V-88-12

分析結果

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	δ 13C(permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 150577	3800 ± 40	-25.8	3790 ± 40
試料名 (16506) YZ4-1 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150578	4340 ± 40	-27.9	4290 ± 40
試料名 (16507) YZ4-2 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150579	4070 ± 40	-24.9	4070 ± 40
試料名 (16508) YZ4-3 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150580	4340 ± 40	-26.3	4320 ± 40
試料名 (16509) YZ4-4 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 150581	4060 \pm 50	-28.3	4010 \pm 50
試料名 (16510) YZ4-5 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150582	4440 \pm 40	-29.6	4360 \pm 40
試料名 (16511) YZ4-6 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150583	3620 \pm 40	-26.7	3590 \pm 40
試料名 (16512) YZ4-7 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150584	4340 \pm 40	-24.8	4340 \pm 40
試料名 (16513) YZ4-8 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150585	4550 \pm 40	-22.9	4580 \pm 40
試料名 (16514) YZ4-9 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 150586	4500 \pm 40	-22.8	4540 \pm 40
試料名 (16515) YZ4-10 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンダードは、国際的な慣例として、NBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。			

YZ4-1

(Variables: C13/C12=-25.8:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150577**

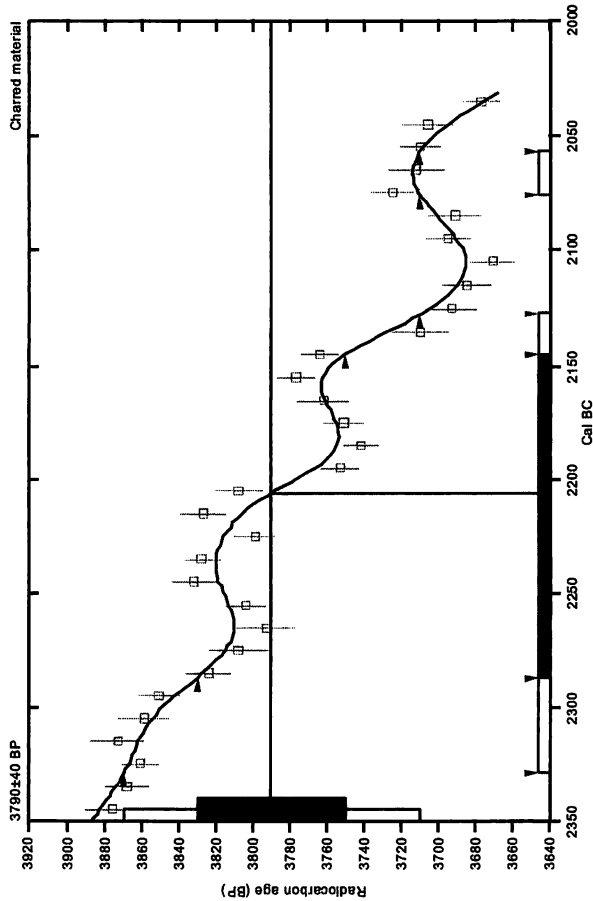
Conventional radiocarbon age: **3790±40 BP**

2 Sigma calibrated results: **Cal BC 2330 to 2130 (Cal BP 4280 to 4080)** and
Cal BC 2080 to 2060 (Cal BP 4030 to 4010)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: **Cal BC 2210 (Cal BP 4160)**

1 Sigma calibrated result: **Cal BC 2290 to 2140 (Cal BP 4240 to 4100)**
(68% probability)



YZ4-2

(Variables: C13/C12=-27.9:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150578**

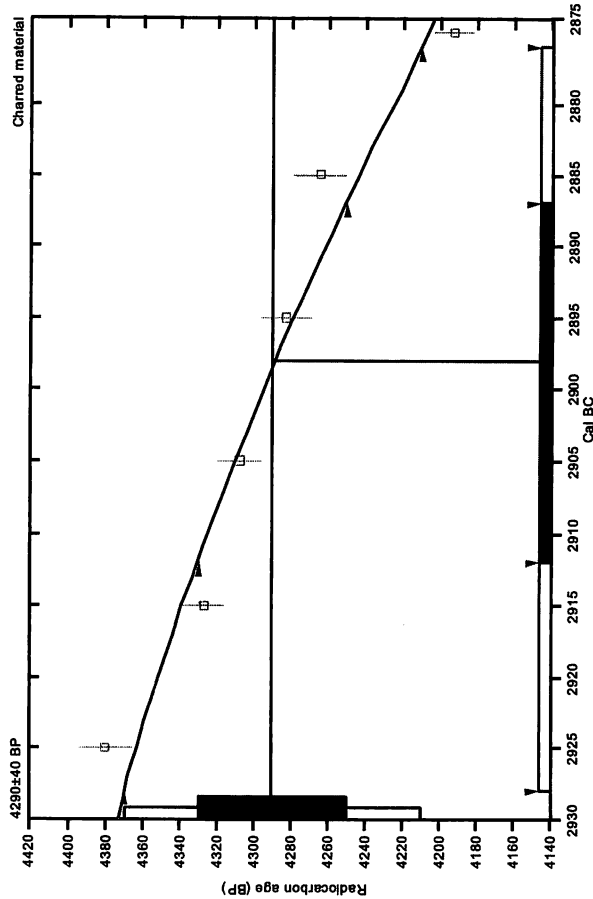
Conventional radiocarbon age: **4290±40 BP**

2 Sigma calibrated results: **Cal BC 2930 to 2880 (Cal BP 4880 to 4830)**
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: **Cal BC 2900 (Cal BP 4850)**

1 Sigma calibrated result: **Cal BC 2910 to 2890 (Cal BP 4860 to 4840)**
(68% probability)



YZ4-3

(Variables: C13/C12=-24.9:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150579**

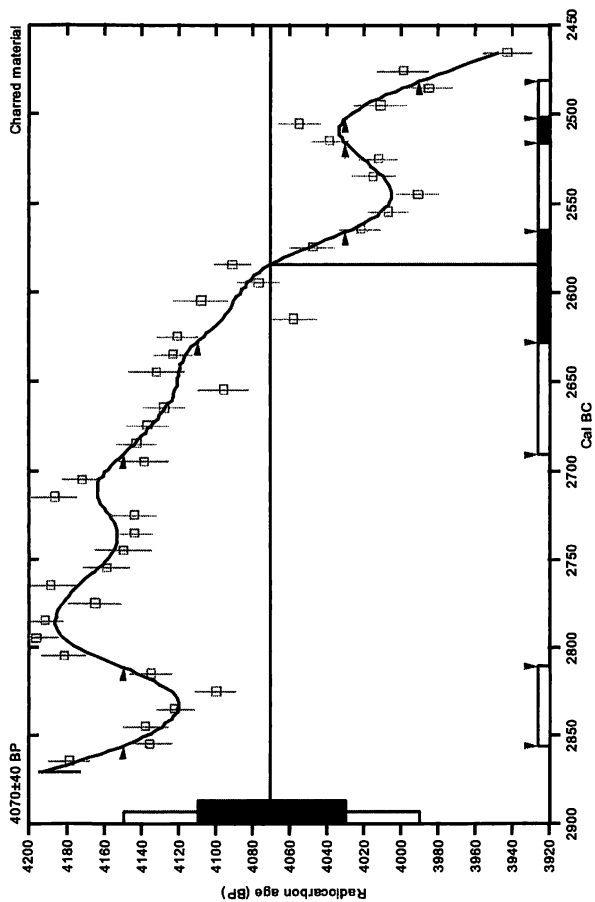
Conventional radiocarbon age: **4070±40 BP**

2 Sigma calibrated results: **Cal BC 2860 to 2810 (Cal BP 4810 to 4760) and
Cal BC 2690 to 2480 (Cal BP 4640 to 4430)**

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: **Cal BC 2580 (Cal BP 4540)**

1 Sigma calibrated results: **Cal BC 2630 to 2570 (Cal BP 4580 to 4520) and
(68% probability) Cal BC 2520 to 2500 (Cal BP 4470 to 4450)**



YZ4-4

(Variables: C13/C12=-26.3:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150580**

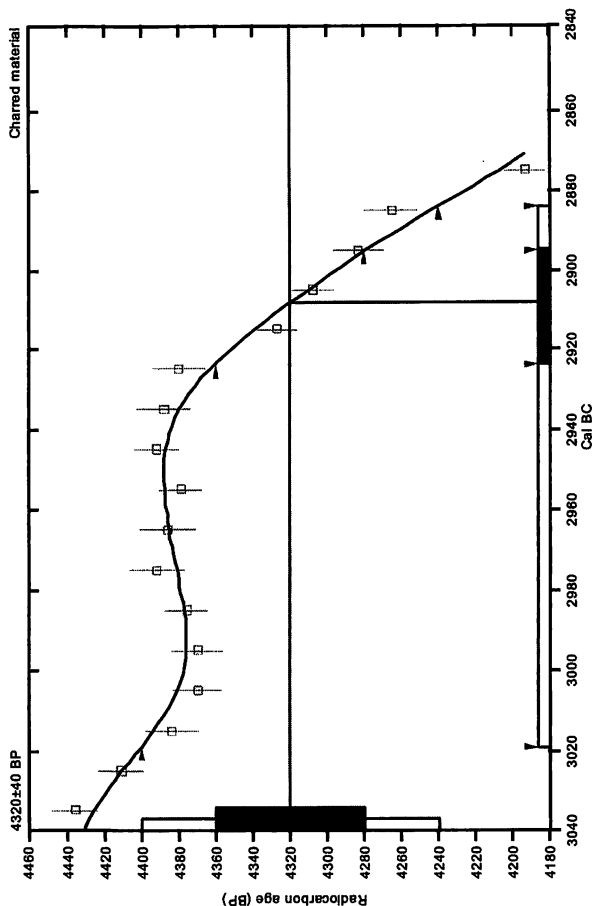
Conventional radiocarbon age: **4320±40 BP**

2 Sigma calibrated results: **Cal BC 3020 to 2880 (Cal BP 4970 to 4830)**

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: **Cal BC 2910 (Cal BP 4860)**

1 Sigma calibrated results: **Cal BC 2920 to 2900 (Cal BP 4870 to 4840)**



YZ4-5

(Variables: C13/C12=-28.3:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150581**

Conventional radiocarbon age: **4010±50 BP**

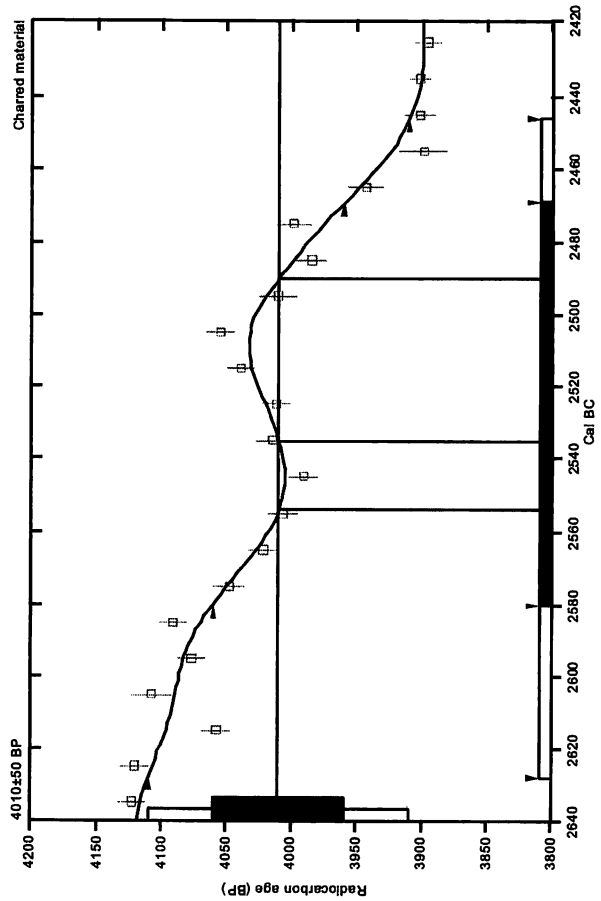
2 Sigma calibrated result: Cal BC 2630 to 2450 (Cal BP 4580 to 4400)
(95% probability)

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age
with calibration curve:

- Cal BC 2550 (Cal BP 4500) and
- Cal BC 2540 (Cal BP 4480) and
- Cal BC 2490 (Cal BP 4440)

1 Sigma calibrated result: Cal BC 2580 to 2470 (Cal BP 4530 to 4420)
(68% probability)



YZ4-6

(Variables: C13/C12=-29.6:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150582**

Conventional radiocarbon age: **4360±40 BP**

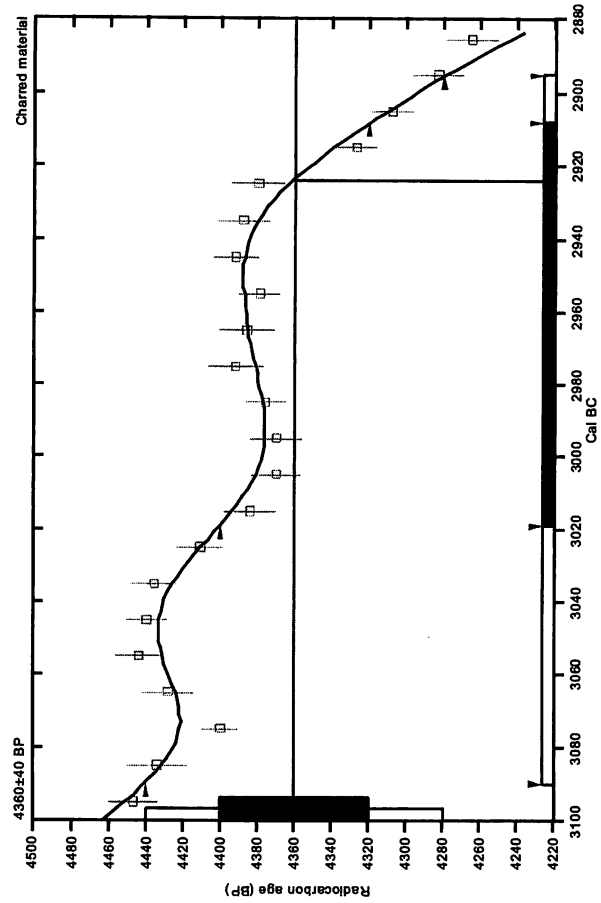
2 Sigma calibrated result: Cal BC 3090 to 2900 (Cal BP 5040 to 4840)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve:

- Cal BC 2920 (Cal BP 4870)

1 Sigma calibrated result: Cal BC 3020 to 2910 (Cal BP 4970 to 4860)
(68% probability)



YZ4-7

(Variables: C13/C12=-26.7;lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-150583

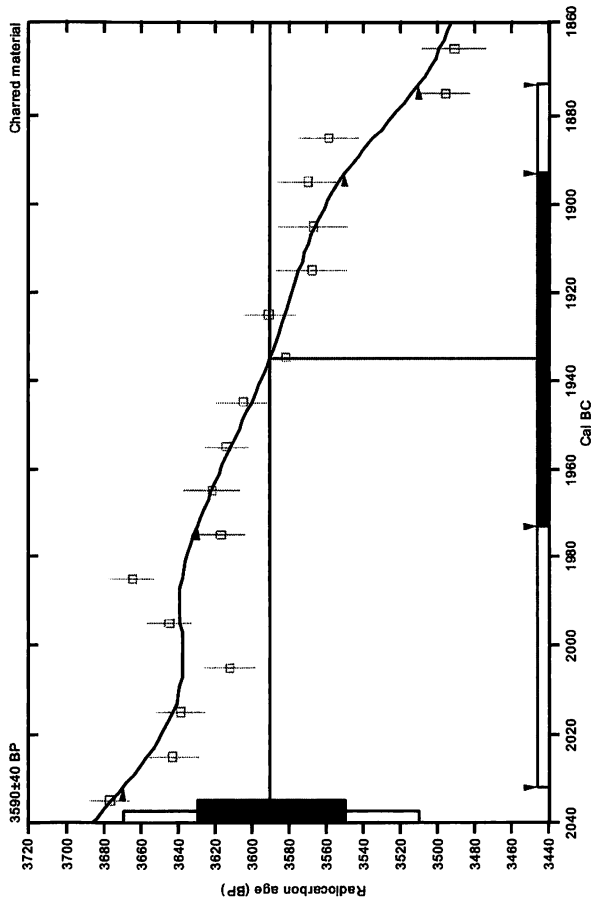
Conventional radiocarbon age: 3590±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal BC 2030 to 1870 (Cal BP 3980 to 3820)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 1940 (Cal BP 3880)

1 Sigma calibrated result: Cal BC 1970 to 1890 (Cal BP 3920 to 3840)
(68% probability)



YZ4-8

(Variables: C13/C12=-24.8;lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-150584

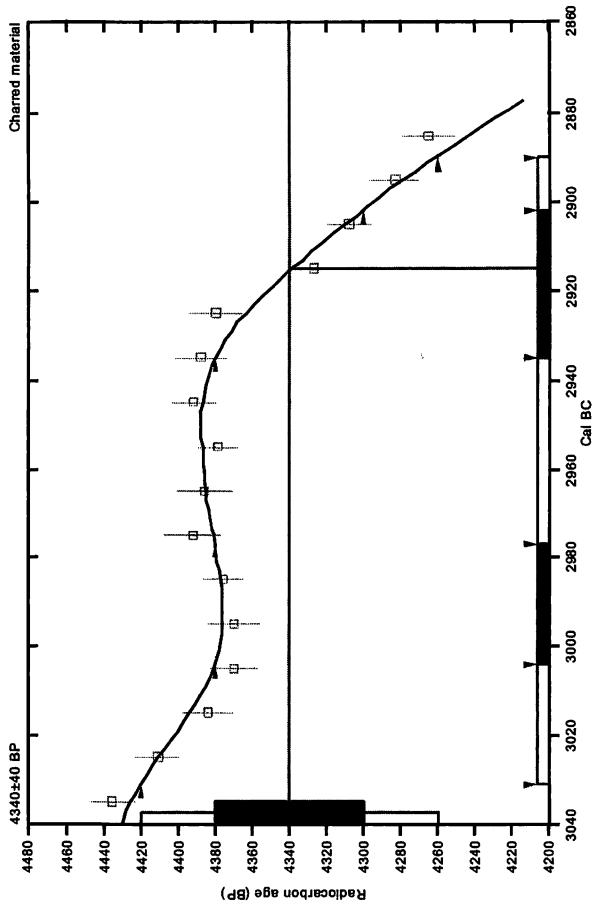
Conventional radiocarbon age: 4340±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal BC 3030 to 2890 (Cal BP 4980 to 4840)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 2920 (Cal BP 4860)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3000 to 2980 (Cal BP 4950 to 4930) and
(68% probability) Cal BC 2940 to 2900 (Cal BP 4880 to 4850)



YZ4-9

(Variables: C13/C12=-22.9:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150585**

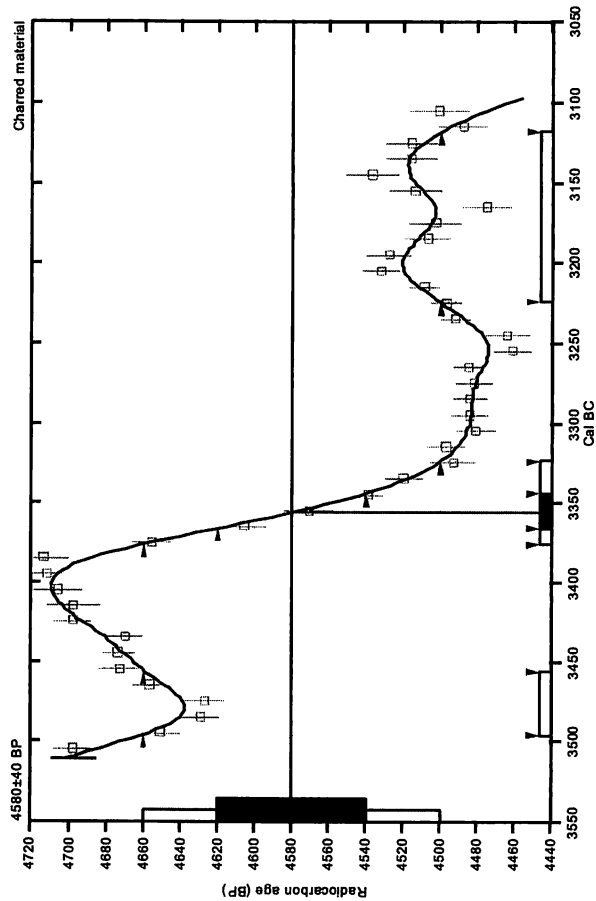
Conventional radiocarbon age: **4580±40 BP**

2 Sigma calibrated results: Cal BC 3500 to 3460 (Cal BP 5450 to 5410) and
 Cal BC 3380 to 3320 (Cal BP 5330 to 5270) and
 Cal BC 3220 to 3120 (Cal BP 5170 to 5070)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: Cal BC 3360 (Cal BP 5310)

1 Sigma calibrated result: Cal BC 3370 to 3340 (Cal BP 5320 to 5290)
 (68% probability)



YZ4-10

(Variables: C13/C12=-22.8:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-150586**

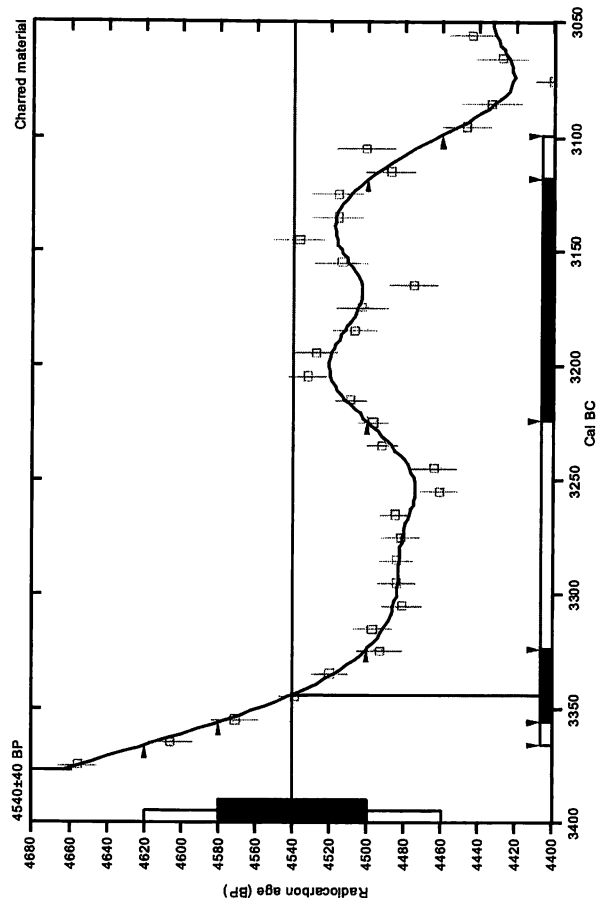
Conventional radiocarbon age: **4540±40 BP**

2 Sigma calibrated result: Cal BC 3370 to 3100 (Cal BP 5320 to 5050)
 (95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
 with calibration curve: Cal BC 3340 (Cal BP 5290)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3360 to 3320 (Cal BP 5310 to 5270) and
 (68% probability) Cal BC 3220 to 3120 (Cal BP 5170 to 5070)



2 八雲町山崎4遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析

藁科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

はじめに

石器石材の産地を自然科学的手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法により黒曜石およびサヌカイト製遺物の石材産地推定を行なっている^{1, 2, 3)}。

石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを経路学などで証明できれば、十分条件を満たし、ただ一カ所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。

遺物の産地分析では『石器とある産地の原石が一致したからと言って、その産地のものと言い切れないが、しかし一致しなかった場合その産地のものではないと言い切れる』が大原則である。考古学では、人工品の様式が一致するという結果が非常に重要な意味がある。見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致と言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石器原材であっても、遺跡近くの似た組成の原石産地の石材と思いこみ誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満たしても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地質学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地(A、B、C、D……)の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり、実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。

黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合(マハラノビスの距離)を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地点と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限に近い個数の平均値と分散を推測して判定を行う

ホテリングのT²検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある石器原材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では……一個と各産地毎に結果が得られるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は八雲町山崎4遺跡出土の黒曜石製石器21個と石片16個の合計37個で、それらの産地分析の結果が得られたので報告する。

* 編集注 平成11年度に調査した山崎4遺跡出土の黒曜石製石器26個と石片15個の合計41個について産地分析の依頼を行っている。この結果の報告について、今回報告分に付加している。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量をそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表1に示す。この原石群に原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると196個の原石群になる。

ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方2 kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2 kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい群を作った（旧白滝第2群）。また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転礫は梨肌の黒曜石で、組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転礫の中で70%は幌加沢群になり、あじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。

置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道と秋田林道より採取される。清水の沢林道で採取される原石の元素組成は所山置戸群にまとまる。また、秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第1および第2群に分類される。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。

十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。

また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2個の美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。

名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。

旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。

また、滝川市江部乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとも、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜町恵袋別川培本社からも採取される。

秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況や礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。

赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。この原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材料として良質とはいえない原石で赤井川第1群を、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第2群を作った。これら第1、2群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。

豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第1、2群の2群に区別され、豊泉第2群の原石は斑晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。

出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鱒ヶ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。

青森県西津軽郡深浦町の海岸や同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。

深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町県民の森地区より産出の大釈迦群（旧浪岡群）は赤井川産原石の第1、2群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石中では5 cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析での水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合と除かずに産地分析を行った場合、同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さが伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した山崎4遺跡の黒曜石製石器・石片の分析結果を表2に示した。石器の分析結果から石

材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表2の試料番号73673番の遺物ではRb/Zrの値は0.918で、赤井川第1群の[平均値] ± [標準偏差値] は、 0.969 ± 0.060 である。遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 0.9σ 離れている。ところで赤井川原産地から100個の原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.9\sigma$ のずれより大きいものが36個ある。すなわち、この遺物が、赤井川第1群の原石から作られていたと仮定しても、 0.9σ 以上離れる確率は36%であると言える。だから、赤井川第1群の平均値から 0.9σ しか離れていないときには、この遺物が赤井川第1群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を赤石山群に比較すると、赤石山群の平均値からの隔たりは、約 7σ である。これを確率の言葉で表現すると、赤石山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 7σ 以上離れている確率は、千万分の一であると言える。このように、千万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤石山群の原石から作られたものではないと断定できる。

これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は赤井川第1群に36%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから赤井川第1群原石が使用されいると同定され、さらに赤石山群に10万分の1%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから赤石山原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地(赤井川産地)と一致したからと言って、例え赤井川第1群と赤石山群の原石は成分が異なっても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(赤井川産地)に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の196個すべての原石群について行ない十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて赤井川産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならぬ。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングの T^2 検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する^{4, 5)}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では196個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、赤井川産原石と判定された遺物について、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考慮する必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみを結果を表3に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離 D^2 の値を記し

た。この遺物については、記入された D^2 の値が原石群の中で最も小さな D^2 値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、その原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第一、鷹森山、大釈迦の各群の組成が赤井川第一、二群、十勝三股群に比較的似ているために、遺物の産地を同定したときに、戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら3ヶ所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群(50%)と第2群(50%)の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈迦産原石は非常に小さく分析した遺物よりも小さい原石で本遺跡で使用された可能性は低いと推測された。鷹森山産地の原石、赤井川産原石と十勝産原石を使用した遺物の産地分析では、これら産地に同定された遺物の帰属確率の差が十分の一〜百分の一がほとんどで、遺物の中には、赤井川、十勝、鷹森山の各群の帰属確率の差がほとんどない遺物があり原石産地の特定に苦慮するが、この場合は、客観的な産地分析法により赤井川産、十勝産、鷹森山産と限定したうえで、肉眼観察により遺物と似た原石が赤井川産地、十勝産地、鷹森山産地のいずれに多かを考慮して原石産地を判定した遺物も一部ある。また、白滝地域のあじさい滝、八号沢、白土沢、幌加沢の一部の原石は、相互に元素比組成が似ていて産地分析の結果で区別できない遺物がみられる場合があり、梨肌表面の遺物を八号沢、白土沢地区の原石、滑らかな表面の遺物をあじさい滝または幌加沢地区の原石と肉眼で判断し判定の欄に記す。

今回分析を行なった山崎4遺跡出土の黒曜石遺物37個の使用産地別使用頻度をみると、最も多く使用された産地は、遺跡から直線距離約100kmはなれた赤井川産地の原石で62%(48個)で全体の半分以上、次に遺跡から約50km離れた豊泉産原石が24%(19個)で、この両産地で86%を占めている。遺跡から約300km離れた置戸・所山原産地の原石が1%(1個)使用されている。また、分析番号73679番の遺物の原石産地は不明で、この遺物の元素比組成は札幌市K39遺跡19次で使用されている産地不明の遺物で作ったK19遺物群に帰属されることから、K19遺物群と同じ原石産地と推測した。遺跡と原石産地間の交流、原石産地地方の情報の入手量は遺跡で使用されている各産地の原石の使用頻度に比例的であると考え、山崎4遺跡では、約100km圏内の交流または情報は約86%を占め、約300kmの置戸・所山産地の交流または情報が1%あったと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

平成11年度依頼分の、分析番号65755、65757番の石鏃は軽元素比Ca/K, Ti/Kを入れると帰属確率が非常に低く同定され、どこの群にも信頼限界の0.1%に達しない。本来、赤井川諸群に一致する遺物であるが、異常な風化の影響で同定確率が低くなっていると推測した。仮に、これら遺物に被熱の履歴があり異常風化を起こしている可能性を推測した。異常(厚い)風化の場合には、表2に示すようにKの元素が他の赤井川諸群に同定された遺物より大きく観測される。これは推測であるが、風化層内のK元素が黒曜石表面に移動し濃縮し、マトリクス効果の自己吸収によるK元素蛍光X線の減衰が減少するために、K元素のピークが大きく観測される。従ってK元素が分母のCa/K, Ti/Kの比値が小さくなる。将来的には風化層の厚さから補正が可能の様に見える。現時点では軽元素比を抜いてマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングの T^2 検定を表1の全ての原石、遺物群について行った結果を推定確率の欄に【 】内に区別して記した。また分析番号65761、65776番の石槍に一致する原石産地は見られず、未発見の産地の可能性が推測される。また、原石産地(確率)の欄に(遺物微少で薄い)と

記した遺物についても産地が特定されなかったが、これら遺物には未発見の原石産地の原石が使用されたと推測するより、遺物が小さすぎて、分析誤差および試料薄さの影響が元素比に無視できない影響を与えたために、本来同定される原石産地に帰属されなかったと推測した。これら産地分析の結果は、他の出土遺物の様式学と組み合わせ、総合的に考古学することにより、本遺跡の性格を考察する上に貴重な資料を与えることができると思われる。

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信 (1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (II)。考古学と自然科学, 8:61-69
 - 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌 (1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (III)。(IV)。考古学と自然科学, 10, 11:53-81:33-47
 - 3) 藁科哲男・東村武信 (1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
 - 4) 東村武信 (1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
 - 5) 東村武信 (1990), 考古学と物理化学。学生社
- * 編集注 平成11年度と平成12年度に分けて産地の分析を依頼した。分析者の許可をいただき、結果の報告をここにまとめている。訂正した部分は、分析結果の数字を合計している。表については年度毎のまま掲載している。

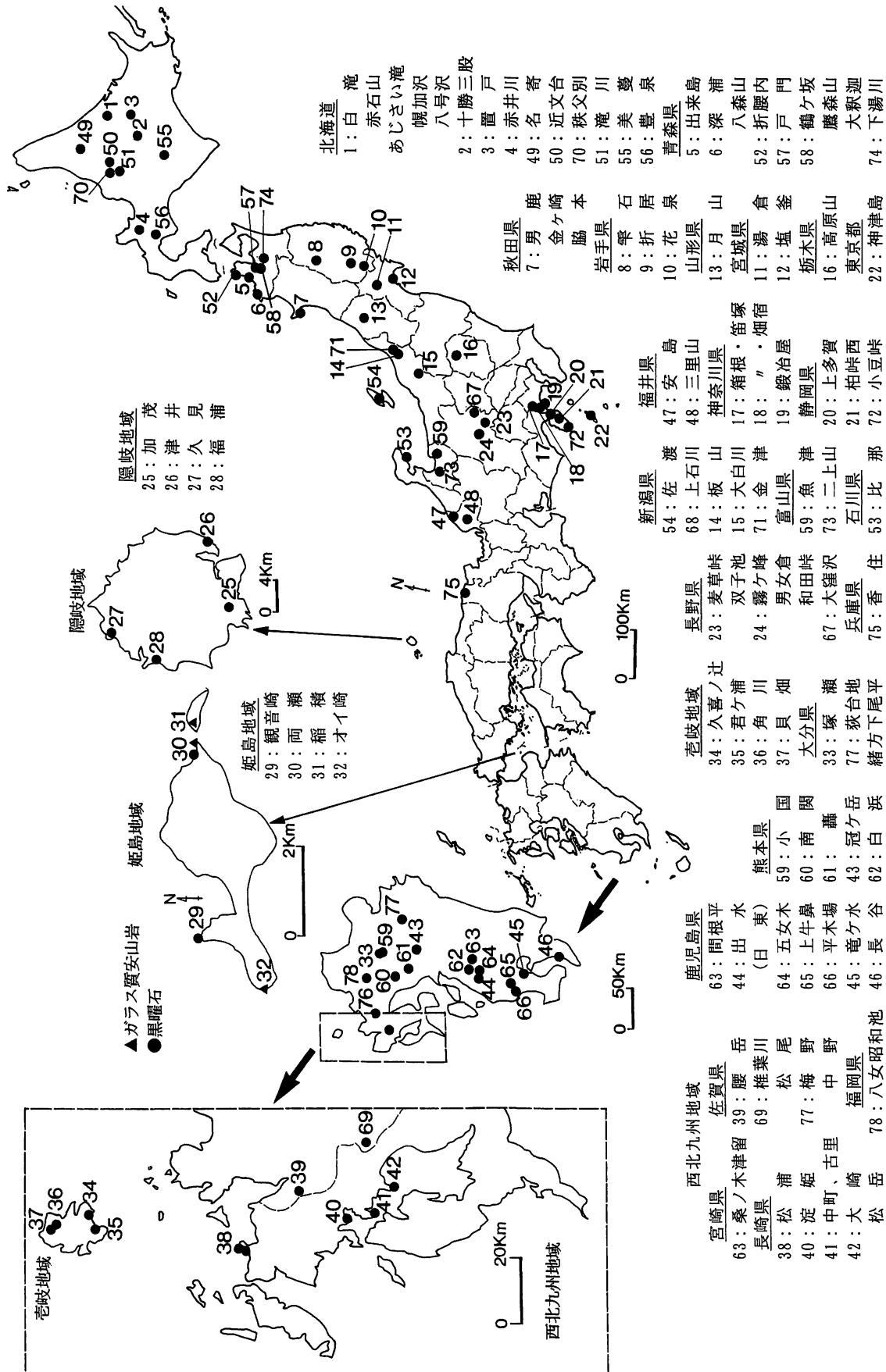


図1 黒曜石原産地

表 1-1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	原石群名	分析個数	元素比											
			Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K		
北海道	名寄第二	114	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.063	0.614±0.032	0.574±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010		
		35	0.309±0.015	0.103±0.005	0.021±0.006	1.774±0.055	0.696±0.044	0.301±0.022	0.028±0.010	0.026±0.002	0.028±0.002	0.394±0.010		
	白滝地区	山沢	130	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.059	0.283±0.019	0.341±0.030	0.073±0.026	0.028±0.002	0.374±0.010	
			30	0.138±0.010	0.022±0.002	0.105±0.017	3.123±0.127	1.846±0.068	0.105±0.019	0.475±0.045	0.076±0.046	0.027±0.002	0.359±0.042	
		赤八	23	0.139±0.009	0.023±0.001	0.099±0.015	2.975±0.102	1.794±0.077	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.027±0.002	0.369±0.007	
			29	0.142±0.010	0.023±0.001	0.101±0.014	3.038±0.125	1.787±0.076	0.115±0.015	0.457±0.035	0.076±0.044	0.027±0.002	0.365±0.011	
		青森県	近文台第一	30	0.819±0.013	0.165±0.006	0.081±0.010	2.266±0.117	0.604±0.031	0.941±0.030	0.165±0.020	0.039±0.016	0.039±0.002	0.457±0.008
				107	0.517±0.011	0.099±0.005	0.067±0.009	2.773±0.097	0.812±0.037	0.818±0.034	0.197±0.024	0.041±0.019	0.035±0.002	0.442±0.009
			" 第三	17	0.514±0.012	0.098±0.005	0.066±0.014	2.765±0.125	0.814±0.068	0.815±0.042	0.199±0.039	0.078±0.008	0.034±0.002	0.443±0.011
				51	0.249±0.017	0.122±0.006	0.078±0.011	1.614±0.068	0.995±0.037	0.488±0.023	0.235±0.024	0.023±0.021	0.022±0.004	0.384±0.013
" 第二	25		0.508±0.016	0.098±0.005	0.070±0.011	2.780±0.099	0.806±0.042	0.808±0.032	0.197±0.026	0.027±0.016	0.027±0.002	0.371±0.010		
	31		0.253±0.018	0.122±0.006	0.077±0.009	1.613±0.090	0.812±0.045	0.459±0.025	0.233±0.029	0.038±0.018	0.025±0.003	0.370±0.023		
" 第一	15		0.510±0.015	0.098±0.005	0.065±0.009	2.740±0.072	0.802±0.019	0.812±0.019	0.192±0.026	0.032±0.023	0.030±0.004	0.393±0.031		
	65		0.326±0.008	0.128±0.005	0.045±0.008	1.813±0.062	0.824±0.034	0.454±0.020	0.179±0.023	0.044±0.020	0.030±0.002	0.412±0.010		
" 第二	58	0.464±0.016	0.138±0.005	0.049±0.008	1.726±0.072	0.449±0.024	0.407±0.023	0.133±0.019	0.026±0.014	0.032±0.003	0.456±0.010			
	68	0.575±0.056	0.110±0.011	0.051±0.011	2.555±0.086	0.595±0.058	0.636±0.027	0.167±0.027	0.037±0.020	0.030±0.003	0.397±0.013			
" 第三	65	0.676±0.011	0.145±0.005	0.056±0.014	2.631±0.126	0.606±0.030	0.712±0.030	0.170±0.028	0.030±0.013	0.030±0.003	0.392±0.010			
	60	0.256±0.018	0.074±0.005	0.068±0.010	2.281±0.087	1.097±0.055	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013			
十勝	十勝第一	41	0.499±0.020	0.124±0.007	0.053±0.010	2.635±0.181	0.803±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.039±0.023	0.033±0.002	0.442±0.015		
		28	0.593±0.036	0.144±0.012	0.056±0.010	3.028±0.251	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009		
青森県	赤井川第一	50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.086±0.010	2.213±0.104	0.969±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.088±0.023	0.027±0.002	0.371±0.009		
		30	0.288±0.065	0.072±0.002	0.080±0.010	2.207±0.083	0.970±0.045	0.436±0.026	0.245±0.021	0.021±0.029	0.025±0.002	0.371±0.007		
	" 第二	75	0.473±0.019	0.148±0.007	0.060±0.015	1.764±0.072	0.438±0.027	0.607±0.028	0.157±0.020	0.035±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013		
		40	0.377±0.009	0.133±0.006	0.055±0.008	1.723±0.066	0.516±0.019	0.513±0.018	0.177±0.016	0.007±0.015	0.030±0.005	0.431±0.010		
折出	折出内島	35	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010		
		27	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.085	0.865±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.499±0.013		
深浦	六八森	36	0.080±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.010		
		41	0.077±0.005	0.098±0.003	0.013±0.002	0.701±0.018	0.134±0.005	0.002±0.002	0.070±0.005	0.034±0.006	0.027±0.005	0.384±0.009		
青森市	戸門第一	28	0.250±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.358±0.257	1.168±0.062	0.521±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.362±0.015		
		28	0.084±0.006	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007		
	" 第二	33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.239±0.023	2.261±0.143	0.861±0.052	1.081±0.060	0.390±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.496±0.018		
		47	0.252±0.017	0.068±0.009	0.079±0.033	2.548±0.131	1.149±0.069	0.568±0.108	0.288±0.037	0.049±0.036	0.028±0.002	0.383±0.018		
" 第三	戸門第二	36	0.573±0.479	2.703±0.479	3.267±0.217	21.648±1.500	0.090±0.021	1.708±0.102	0.155±0.015	0.169±0.031	0.053±0.042	0.858±0.088		
		67	0.253±0.016	0.067±0.008	0.077±0.029	2.519±0.148	1.147±0.065	0.558±0.087	0.286±0.035	0.047±0.040	0.028±0.003	0.385±0.018		
秋田県	大黒	41	0.905±0.243	2.484±0.055	0.161±0.018	7.570±0.336	0.068±0.014	1.621±0.063	0.244±0.022	0.027±0.014	0.124±0.014	1.409±0.044		
		43	0.294±0.009	0.087±0.004	0.220±0.018	1.644±0.081	1.493±0.081	0.930±0.043	0.287±0.039	0.098±0.040	0.029±0.002	0.368±0.008		
" 本	金鱈	45	0.295±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.939±0.054	0.286±0.045	0.108±0.034	0.028±0.006	0.367±0.009		
		45	0.295±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.939±0.054	0.286±0.045	0.108±0.034	0.028±0.006	0.367±0.009		

表 1-3 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	比									
		Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
新潟県	佐渡第一	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.149±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013
	上板白根	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.256±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	
	川津川	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.002	
	大谷	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	1.608±0.110	1.772±0.098	0.374±0.047	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	
	金羽	0.569±0.011	0.142±0.007	0.033±0.005	1.678±0.017	0.261±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	
石川県	比那	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.618±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	
	比那	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1.354±0.038	1.615±0.063	0.684±0.012	0.309±0.036	0.100±0.028	0.023±0.007	
	比那	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2.699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	
	比那	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	
	比那	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.608±0.031	0.798±0.039	0.069±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	
福井県	安里	0.216±0.005	0.062±0.004	0.048±0.007	1.828±0.056	0.883±0.034	0.265±0.012	0.097±0.021	0.139±0.018	0.024±0.007	
	安里	0.278±0.012	0.100±0.004	0.048±0.007	1.764±0.066	0.813±0.045	0.397±0.020	0.112±0.026	0.138±0.024	0.026±0.012	
兵庫県	香住第一群	0.166±0.006	0.093±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	
	香住第二群	0.161±0.008	0.132±0.182	0.015±0.003	0.940±0.041	0.301±0.014	0.015±0.005	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	
	香住	0.145±0.006	0.061±0.003	0.021±0.004	0.980±0.023	0.386±0.011	0.007±0.003	0.109±0.013	0.238±0.011	0.023±0.002	
島根県	加津久	1.202±0.077	0.141±0.010	0.032±0.008	3.126±0.170	0.686±0.065	1.350±0.082	0.026±0.026	0.065±0.019	0.041±0.004	
	加津久	1.585±0.126	0.194±0.018	0.035±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.024±0.019	0.042±0.013	0.045±0.004	
	加津久	1.224±0.081	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.163	0.669±0.078	1.335±0.091	0.023±0.027	0.061±0.020	0.041±0.003	
	加津久	1.186±0.057	0.143±0.008	0.038±0.012	3.202±0.163	0.707±0.061	1.386±0.088	0.029±0.025	0.073±0.021	0.041±0.005	
	加津久	1.467±0.120	0.203±0.023	0.042±0.009	3.125±0.179	0.494±0.080	1.010±0.073	0.088±0.023	0.047±0.013	0.041±0.003	
香川県	奥池第一群	1.018±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	3.306±0.199	0.895±0.048	1.256±0.050	0.029±0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	
	奥池第二群	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.798±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	
	奥池第三群	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.628±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	
	奥池第四群	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
福岡県	八女昭和溜池	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	八女昭和溜池	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	八女昭和溜池	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	八女昭和溜池	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
佐賀県	中野第一群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	中野第二群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	中野第三群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	中野第四群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	中野第五群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	中野第六群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	中野第七群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	中野第八群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	中野第九群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
	中野第十群	0.211±0.010	0.087±0.003	0.027±0.005	1.536±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	
大分県	観音崎	0.216±0.017	0.045±0.003	0.428±0.057	6.897±0.806	1.829±0.220	1.572±0.180	0.395±0.088	0.622±0.099	0.035±0.002	
	観音崎	0.221±0.021	0.045±0.003	0.450±0.061	7.248±0.668	1.917±0.194	1.660±0.173	0.355±0.057	0.669±0.105	0.035±0.002	
	観音崎	0.634±0.047	0.140±0.013	0.194±0.026	4.399±0.322	0.614±0.077	3.162±0.189	0.144±0.031	0.240±0.041	0.038±0.002	
	観音崎	1.013±0.140	0.211±0.026	0.126±0.016	3.491±0.231	0.305±0.067	4.002±0.174	0.109±0.021	0.137±0.028	0.040±0.004	
	観音崎	1.074±0.110	0.224±0.024	0.122±0.012	3.460±0.301	0.286±0.048	4.010±0.197	0.101±0.022	0.133±0.025	0.040±0.003	
瀬地	瀬地	0.653±0.066	0.141±0.016	0.189±0.030	4.398±0.425	0.605±0.096	3.234±0.264	0.151±0.033	0.245±0.050	0.037±0.002	
	瀬地	0.313±0.023	0.127±0.009	0.085±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.032	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	
	瀬地	1.615±0.042	0.670±0.013	0.096±0.008	5.509±0.269	0.284±0.031	1.526±0.053	0.097±0.016	0.032±0.018	0.032±0.005	
	瀬地	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.361±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	

表1-4 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	原石群名	分析個数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
長崎県	彦岐島	37	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.011±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.002	0.276±0.007
	久喜ヶ	28	0.174±0.007	0.063±0.002	0.033±0.006	1.174±0.035	0.389±0.012	0.013±0.005	0.129±0.014	0.356±0.012	0.023±0.003	0.275±0.008
宮崎県	松浦第一	28	0.146±0.009	0.038±0.002	0.059±0.009	1.691±0.100	1.726±0.085	0.032±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.023±0.002	0.338±0.010
	" 第二	49	0.135±0.010	0.037±0.002	0.056±0.009	1.746±0.073	1.834±0.064	0.022±0.013	0.334±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.339±0.015
	" 第三	23	0.183±0.011	0.032±0.002	0.072±0.016	2.554±0.181	0.538±0.176	0.429±0.026	0.271±0.064	0.254±0.046	0.025±0.002	0.340±0.006
	" 第四	17	0.249±0.023	0.062±0.006	0.051±0.012	1.936±0.231	0.856±0.112	0.405±0.093	0.148±0.052	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0.014
	" 第五	22	0.284±0.022	0.066±0.008	0.045±0.012	1.890±0.157	0.774±0.179	0.454±0.036	0.120±0.044	0.132±0.036	0.026±0.002	0.343±0.010
	淀中	44	0.334±0.014	0.080±0.004	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.022	0.119±0.017	0.027±0.002	0.353±0.011
	第一	25	0.243±0.019	0.059±0.007	0.057±0.015	1.849±0.104	0.811±0.089	0.398±0.028	0.135±0.035	0.147±0.023	0.026±0.002	0.345±0.009
	第二	17	0.322±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0.485±0.042	0.118±0.025	0.099±0.016	0.026±0.002	0.338±0.015
	第三	38	0.199±0.011	0.030±0.004	0.083±0.018	2.649±0.195	1.714±0.195	0.421±0.060	0.306±0.055	0.265±0.044	0.024±0.002	0.333±0.008
	古	19	0.413±0.013	0.076±0.005	0.094±0.023	2.866±0.173	1.204±0.071	1.874±0.106	0.144±0.037	0.247±0.033	0.028±0.002	0.357±0.008
	第三	19	0.266±0.035	0.065±0.010	0.051±0.009	1.847±0.146	0.788±0.108	0.419±0.040	0.127±0.040	0.137±0.040	0.025±0.002	0.335±0.010
	岳崎	43	0.194±0.009	0.054±0.005	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.025	0.197±0.032	0.124±0.039	0.018±0.011	0.331±0.017
大	74	0.176±0.012	0.053±0.002	0.041±0.012	1.710±0.081	0.912±0.036	0.181±0.022	0.202±0.029	0.133±0.024	0.023±0.002	0.319±0.010	
熊本県	小	30	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.233	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0.007
	南	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0.008
	大	53	1.534±0.139	0.665±0.035	0.075±0.008	4.494±0.460	0.247±0.014	1.236±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.020±0.003	0.243±0.008
	冠	21	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.041±0.012	0.030±0.003	0.292±0.010
	冠	57	1.589±0.107	0.722±0.046	0.085±0.011	6.205±0.305	0.256±0.018	1.154±0.055	0.103±0.014	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.009
	箱	84	0.791±0.082	0.279±0.009	0.045±0.005	1.208±0.073	0.279±0.018	0.811±0.046	0.046±0.012	0.029±0.014	0.031±0.009	0.366±0.033
	長	53	1.668±0.165	0.694±0.036	0.080±0.010	4.977±0.587	0.253±0.015	1.335±0.104	0.095±0.016	0.040±0.008	0.031±0.003	0.295±0.012
	五	48	1.471±0.136	0.602±0.041	0.078±0.011	4.838±0.634	0.252±0.016	1.288±0.124	0.101±0.014	0.043±0.013	0.027±0.003	0.265±0.020
	御	48	1.588±0.146	0.651±0.030	0.075±0.011	4.571±0.572	0.237±0.016	1.352±0.112	0.091±0.016	0.040±0.009	0.030±0.004	0.291±0.010
	白	78	0.208±0.021	0.101±0.009	0.024±0.006	1.382±0.086	1.021±0.099	0.351±0.037	0.162±0.027	0.027±0.022	0.022±0.007	0.317±0.009
宮崎県	桑ノ水津留	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	" 第一群	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.095	1.242±0.060	0.753±0.039	0.205±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.019
	" 第二群	36	35.158±1.118	5.001±0.175	0.041±0.002	0.038±0.002	0.009±0.004	0.155±0.005	0.035±0.019	0.000±0.000	0.035±0.019	0.446±0.022
鹿児島県	間根ヶ平	45	0.186±0.010	0.083±0.005	0.047±0.008	1.611±0.079	0.948±0.055	0.340±0.032	0.281±0.031	0.041±0.032	0.029±0.008	0.358±0.014
	" 第一群	45	0.247±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.768±0.034	0.428±0.049	0.235±0.020	0.039±0.027	0.024±0.008	0.378±0.013
	" 第二群	42	0.584±0.012	0.176±0.005	0.037±0.007	1.484±0.097	0.449±0.031	0.675±0.049	0.143±0.023	0.036±0.022	0.023±0.014	0.390±0.019
	" 第三群	42	0.262±0.018	0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	日	37	0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.275±0.006
	五	41	1.629±0.098	0.804±0.037	0.053±0.005	3.342±0.215	1.188±0.013	1.105±0.066	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.011
	上	34	1.944±0.054	0.912±0.028	0.062±0.006	3.975±0.182	1.884±0.011	1.266±0.052	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.011
	平	48	0.533±0.029	0.167±0.006	0.061±0.013	1.494±0.093	0.611±0.039	0.688±0.052	0.127±0.023	0.069±0.022	0.033±0.003	0.494±0.011
	麓	30	0.553±0.032	0.137±0.006	0.065±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.012
	長	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.353±0.019	0.519±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
台湾	カムチャッカ	72	0.473±0.012	0.166±0.007	0.046±0.007	1.572±0.059	0.199±0.011	0.497±0.016	0.126±0.011	0.009±0.014	0.039±0.010	0.460±0.030

表1-5 各黒曜石の原産地における黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	原産地名	分析個数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
北海道	H S 1 遺物群	67	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.296±0.077	0.430±0.016	0.153±0.009	0.140±0.015	0.008±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042
	H S 2 遺物群	60	0.453±0.011	0.135±0.008	0.041±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.156±0.015	0.015±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015
	F R 1 遺物群	51	0.643±0.012	0.124±0.008	0.052±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.130±0.015	0.004±0.008	0.029±0.011	0.407±0.047
	F R 2 遺物群	59	0.585±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	2.545±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.016±0.022	0.027±0.009	0.373±0.043
	F R 3 遺物群	37	0.380±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.164±0.021	0.017±0.023	0.023±0.006	0.292±0.037
	F R 4 遺物群	44	0.261±0.043	0.074±0.010	0.051±0.008	2.500±0.117	0.639±0.057	0.679±0.021	0.155±0.021	0.009±0.017	0.018±0.008	0.258±0.036
	F H 1 遺物群	32	0.898±0.032	0.221±0.007	0.054±0.006	2.540±0.110	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.017±0.021	0.037±0.003	0.447±0.011
	F H 2 遺物群	56	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.942±0.133	0.314±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.019±0.021	0.043±0.007	0.519±0.015
	K T 1 遺物群	38	0.959±0.027	0.154±0.005	0.085±0.010	2.882±0.092	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.012±0.016	0.042±0.008	0.519±0.010
	K T 2 遺物群	32	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.468±0.021	0.180±0.019	0.037±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010
	K S 1 遺物群	62	0.244±0.011	0.070±0.004	0.056±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.011
	K S 2 遺物群	48	0.164±0.008	0.041±0.002	0.080±0.013	2.565±0.126	1.460±0.057	0.162±0.019	0.389±0.042	0.069±0.028	0.024±0.002	0.337±0.015
	K S 3 遺物群	48	0.185±0.007	0.049±0.003	0.081±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041	0.435±0.025	0.263±0.028	0.080±0.019	0.023±0.002	0.260±0.009
	青森県	H Y 遺物群	31	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.015	0.020±0.015
S N 1 遺物群		33	0.287±0.006	0.087±0.004	0.035±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.006
S N 2 遺物群		29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.716±0.035	0.292±0.017	0.264±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.363±0.015
秋田県	K N 遺物群	107	0.351±0.011	0.121±0.006	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040
	T B 遺物群	60	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.663±0.038	0.272±0.029	0.083±0.037	0.026±0.008	0.378±0.021
岩手県	A I 1 遺物群	41	1.519±0.026	0.277±0.010	0.078±0.006	2.849±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.058±0.017	0.929±0.024
	A I 2 遺物群	61	3.141±0.074	0.552±0.021	0.080±0.008	2.752±0.062	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.353±0.049
	A I 3 遺物群	61	0.950±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.014±0.016	0.028±0.006	0.360±0.009
	A I 4 遺物群	122	1.850±0.059	0.474±0.025	0.067±0.007	2.055±0.077	0.082±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105
	A I 5 遺物群	122	3.167±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052
	F S 遺物群	45	0.272±0.080	0.097±0.029	0.053±0.007	1.791±0.083	0.327±0.019	0.453±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.011
	S D 遺物群	48	2.900±0.050	0.741±0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.026	0.246±0.013	0.008±0.017	0.083±0.013	1.195±0.029
新潟県	A C 1 遺物群	63	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.008	1.561±0.075	0.400±0.017	0.440±0.019	0.169±0.019	0.061±0.015	0.033±0.005	0.427±0.016
	A C 2 遺物群	48	0.251±0.007	0.081±0.003	0.112±0.013	2.081±0.076	0.904±0.035	0.406±0.020	0.409±0.024	0.108±0.023	0.036±0.003	0.419±0.007
	A C 3 遺物群	36	0.657±0.016	0.144±0.005	0.083±0.010	1.891±0.051	0.202±0.010	0.381±0.017	0.286±0.018	0.041±0.012	0.049±0.005	0.616±0.013
	I N 1 遺物群	48	0.326±0.012	0.078±0.004	0.066±0.010	2.056±0.177	0.901±0.048	0.751±0.045	0.172±0.030	0.068±0.016	0.028±0.030	0.338±0.007
長野県	N K 遺物群	57	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014
山口県	Y M 遺物群	56	0.381±0.016	0.138±0.005	0.038±0.012	1.611±0.102	0.721±0.039	0.497±0.026	0.128±0.022	0.047±0.016	0.023±0.003	0.331±0.013
	N M 遺物群	40	0.330±0.010	0.103±0.003	0.042±0.012	1.751±0.083	1.048±0.057	0.518±0.034	0.196±0.037	0.058±0.018	0.022±0.003	0.326±0.011
	M K-1 遺物群	48	0.087±0.008	0.059±0.002	0.010±0.003	0.677±0.023	0.370±0.097	0.006±0.002	0.125±0.012	0.292±0.010	0.022±0.002	0.337±0.010
	M K-2 遺物群	48	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.013	1.745±0.121	1.149±0.092	0.297±0.029	0.202±0.037	0.177±0.022	0.021±0.002	0.268±0.007
鹿児島県	K I 1 遺物群	45	0.383±0.012	0.101±0.005	0.061±0.024	1.913±0.158	0.985±0.057	0.527±0.038	0.197±0.030	0.079±0.028	0.028±0.002	0.409±0.009
	K I 2 遺物群	46	0.402±0.015	0.146±0.008	0.060±0.017	1.529±0.148	0.729±0.052	0.565±0.038	0.137±0.024	0.083±0.026	0.029±0.003	0.443±0.022
	U T 遺物群	46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.053±0.010	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.039	0.168±0.027	0.034±0.018	0.024±0.011	0.390±0.014
	S G 遺物群	48	1.668±0.034	0.778±0.038	0.082±0.010	4.106±0.222	0.202±0.014	0.699±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.021	0.553±0.033
	O K 遺物群	32	1.371±0.074	0.687±0.025	0.061±0.008	3.109±0.161	0.202±0.012	0.579±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.518±0.021

表1-6 各黒曜石の原産地における黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	分析個数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
北朝鮮	70	0.135±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.068±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.319±0.012
ロシア	26	18.888±2.100	6.088±0.868	0.293±0.032	27.963±2.608	0.055±0.017	2.716±0.162	0.163±0.019	0.036±0.030	0.173±0.029	1.674±0.240
	56	0.706±0.048	0.225±0.011	0.048±0.010	1.851±0.180	0.246±0.014	0.752±0.070	0.075±0.016	0.015±0.008	0.041±0.004	0.482±0.022
	40	0.717±0.018	0.269±0.006	0.031±0.006	1.604±0.043	0.119±0.007	0.398±0.016	0.095±0.008	0.016±0.006	0.031±0.003	0.402±0.010
	48	0.384±0.008	0.097±0.004	0.043±0.007	1.642±0.053	0.262±0.011	0.753±0.036	0.066±0.026	0.013±0.002	0.017±0.003	0.176±0.009
	48	0.141±0.007	0.074±0.003	0.029±0.004	1.069±0.025	0.203±0.007	0.150±0.006	0.106±0.009	0.024±0.006	0.016±0.002	0.146±0.004
	48	0.270±0.008	0.104±0.004	0.039±0.016	1.261±0.062	0.608±0.028	0.500±0.036	0.122±0.030	0.064±0.023	0.024±0.003	0.340±0.006
	40	0.255±0.007	0.160±0.005	0.029±0.004	1.121±0.034	0.192±0.007	0.151±0.008	0.106±0.009	0.024±0.007	0.026±0.003	0.303±0.007
標準試料	JG-1 ^{a)}	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

HS2群=置戸山群に一致、FR2群=ケシヨマツブ第一群に一致
 平均値±標準偏差値、*：ガラス質安山岩、NK遺物群：日和山遺跡、SN遺物群：三内丸山遺跡出土、KN遺物群：此掛沢遺跡、HS遺物群：北進遺跡、KI遺物群：桐木遺跡、UT遺物群：内屋敷遺跡、AI遺物群：相ノ沢遺跡、FS遺物群：房ノ沢遺跡、SD遺物群：下箱銅屋遺跡、FR遺物群：戸平川遺跡、NM遺物群：長柄遺跡、MK遺物群：南方遺跡、KT遺物群：北1遺跡、KS遺物群：キウス4遺跡、A-R地区、SG遺物群：志風頭遺跡、OK遺物群：真名野遺跡、TB遺物群：戸平川遺跡、NM遺物群：長柄遺跡、MK遺物群：南方遺跡、YM遺物群：南方遺跡、岩上遺跡、AC1、2、3遺物群：アチャ平遺跡、岩野原遺跡、K19遺物群：K39遺跡など出土遺物の産地不明の原石群。
 ウランオーストミック付近：イリスタヤ遺跡、南方遺跡、アチャ平遺跡、アチャキ、アハチヤ遺跡、岩野原遺跡、K19遺物群、K39遺跡など出土遺物の産地不明の原石群。
 a) : Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal Vol. 8, 175-192.

表2 平成12年度山崎4遺跡出土黒曜石製石器・剥片の元素比分析結果

分析 番号	元 素 比									
	Ca/ K	Ti/ K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/ K	Si/ K
73673	0.258	0.072	0.072	2.218	0.918	0.435	0.232	0.036	0.027	0.348
73674	0.241	0.072	0.114	2.338	1.032	0.452	0.316	0.055	0.024	0.354
73675	0.264	0.071	0.071	2.025	0.992	0.405	0.238	0.025	0.023	0.346
73676	0.273	0.070	0.081	2.150	0.984	0.455	0.278	0.040	0.025	0.340
73677	0.508	0.159	0.072	1.709	0.396	0.554	0.148	0.024	0.029	0.445
73678	0.295	0.072	0.096	2.295	0.966	0.456	0.267	0.045	0.025	0.381
73679	0.170	0.046	0.119	2.138	0.955	0.422	0.251	0.068	0.018	0.233
73680	0.330	0.122	0.036	1.692	0.742	0.436	0.215	0.039	0.033	0.403
73681	0.251	0.069	0.111	2.285	0.983	0.439	0.288	0.020	0.025	0.347
73682	0.273	0.076	0.120	2.174	0.909	0.433	0.252	0.056	0.023	0.353
73683	0.257	0.070	0.119	2.136	0.941	0.425	0.285	0.060	0.024	0.331
73684	0.492	0.150	0.046	1.668	0.451	0.565	0.143	0.010	0.029	0.420
73685	0.247	0.067	0.098	1.989	0.894	0.431	0.225	0.061	0.019	0.329
73686	0.526	0.165	0.056	1.662	0.390	0.533	0.126	0.015	0.028	0.448
73687	0.509	0.153	0.052	1.671	0.387	0.556	0.171	0.020	0.028	0.432
73688	0.479	0.157	0.045	1.640	0.413	0.526	0.141	0.048	0.029	0.437
73689	0.256	0.072	0.089	2.323	0.991	0.440	0.231	0.031	0.028	0.352
73690	0.509	0.151	0.065	1.699	0.410	0.566	0.163	0.027	0.028	0.459
73691	0.248	0.070	0.066	2.036	0.906	0.411	0.230	0.019	0.023	0.351
73692	0.257	0.075	0.054	1.952	0.893	0.360	0.204	0.052	0.029	0.331
73693	0.259	0.073	0.073	2.131	0.973	0.394	0.261	0.078	0.024	0.341
73694	0.261	0.071	0.072	2.098	0.900	0.409	0.228	0.000	0.023	0.333
73695	0.241	0.072	0.083	2.182	0.979	0.431	0.246	0.058	0.028	0.350
73696	0.267	0.075	0.072	1.926	0.828	0.378	0.278	0.072	0.021	0.342
73697	0.478	0.156	0.056	1.651	0.429	0.552	0.202	0.051	0.031	0.434
73698	0.264	0.073	0.104	2.298	0.961	0.411	0.206	0.058	0.028	0.348
73699	0.257	0.070	0.071	2.055	0.918	0.374	0.269	0.027	0.023	0.334
73700	0.265	0.072	0.082	2.122	0.932	0.396	0.222	0.067	0.024	0.345
73701	0.490	0.152	0.054	1.725	0.445	0.593	0.149	0.030	0.027	0.430
73702	0.263	0.074	0.066	1.914	0.914	0.410	0.226	0.062	0.025	0.351
73703	0.478	0.145	0.071	1.901	0.474	0.636	0.139	0.029	0.031	0.444
73704	0.475	0.145	0.052	1.870	0.441	0.638	0.162	0.033	0.032	0.453
73705	0.268	0.068	0.091	2.224	0.983	0.459	0.277	0.041	0.026	0.353
73706	0.272	0.073	0.095	2.329	0.964	0.415	0.269	0.032	0.025	0.356
73707	0.270	0.071	0.108	2.213	0.975	0.411	0.279	0.014	0.024	0.344
73708	0.266	0.070	0.071	2.105	0.947	0.436	0.249	0.057	0.025	0.335
73709	0.481	0.142	0.060	1.820	0.461	0.595	0.217	0.028	0.032	0.451
JG-1	0.782	0.219	0.080	4.130	1.029	1.310	0.291	0.076	0.023	0.307

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

表3-1 山崎4遺跡出土黒曜石製石器・剥片の原産地推定結果

平成12年度依頼分

分析番号	資料番号	出土位置	区画	遺物番号	層位	原産地(雑率)	判定	自然礫面	器種	細分類	備考
73673	1	H-50	24	29	III	赤井川第2群(8%),赤井川第1群(29%),鷹森山(3%)	赤井川	角礫	フレイク		
73674	2	I-49	29	29	III	赤井川第1群(6%),赤井川第2群(3%),戸門第1群(1%)	赤井川	角礫	フレイク		
73675	3	I-49	62	62	III	赤井川第2群(5%),赤井川第1群(9%),十勝三股(1%)	赤井川		石鏃	9	
73676	4	I-50	31	31	III	赤井川第1群(6%),赤井川第1群(19%),十勝三股(8%)	赤井川		石鏃	2a	図V-108-6
73677	5	J-50	78	78	III	豊泉第1群(4%)	豊泉		ドリル	3	図V-108-23
73678	6	K-49	32	32	III	赤井川第1群(5%)	赤井川	亜角礫	フレイク		
73679	7	L-43	32	32	III	K19遺物群(1%)	K19遺物群		石鏃	2b	図V-108-10
73680	8	M-48	8	8	III	置戸・所山(16%)	置戸・所山		フレイク		
73681	9	N-44	58	58	III	赤井川第2群(3%),赤井川第1群(21%)	赤井川	角礫	フレイク		
73682	10	N-44	59	59	III	赤井川第1群(1%),赤井川第2群(1%)	赤井川		石鏃	1b	図V-108-3
73683	11	O-32	35	35	III	赤井川第2群(4%)	赤井川		石鏃	2a	
73684	12	O-42	51	51	III	豊泉第1群(41%)	豊泉		フレイク		
73685	13	O-49	17	17	III	赤井川第1群(12%)	赤井川		フレイク		
73686	14	P-42	34	34	III	豊泉第1群(8%)	豊泉	角礫	フレイク		
73687	15	P-42	69	69	III	豊泉第1群(41%)	豊泉		フレイク		
73688	16	P-43	66	66	III	豊泉第1群(24%)	豊泉		フレイク		
73689	17	T-37	5	5	III	赤井川第1群(7%),赤井川第2群(78%),大釈迦(2%)	赤井川	角礫	スクレイパー	1a	
73690	18	YFC-9	3	3	III	豊泉第1群(56%)	豊泉		石鏃	2a	
73691	19	YH-3	199	199	覆土1	赤井川第1群(3%),赤井川第2群(29%),大釈迦(2%)	赤井川		石鏃	2a	
73692	20	YH-4	24	24	覆土4	赤井川第2群(8%)	赤井川		スクレイパー	1a	
73693	21	YH-11	3	3	覆土1	赤井川第1群(5%),赤井川第2群(13%),十勝三股(6%)	赤井川		フレイク		
73694	22	YH-11	95	95	覆土1	赤井川第2群(6%),赤井川第1群(18%)	赤井川		石鏃	9	
73695	23	YH-11	106	106	覆土1	赤井川第1群(9%),赤井川第2群(50%),大釈迦(8%)	赤井川		フレイク		
73696	24	YH-11	263	263	覆土	赤井川第1群(9%),赤井川第2群(5%)	赤井川		石鏃	9	
73697	25	YH-11	286	286	覆土	豊泉第1群(5%)	豊泉		石鏃	2b	
73698	26	YH-11	391	391	覆土1	赤井川第1群(3%),赤井川第2群(3%)	赤井川		Rフレイク		
73699	27	YH-11	396	396	覆土1	赤井川第2群(5%),赤井川第1群(25%)	赤井川	角礫	フレイク		
73700	28	YH-11	401	401	覆土1	赤井川第1群(8%),赤井川第2群(4%)	赤井川		石器未成品		
73701	29	YH-13	98	98	床面直上	豊泉第1群(9%)	豊泉	角礫	フレイク		
73702	30	YH-19	124	124	床面	赤井川第2群(2%),赤井川第1群(7%),松浦第4群(7%)	赤井川		石鏃	2a	
73703	31	YH-24	8	8	床面直上	豊泉第1群(52%)	豊泉		フレイク		
73704	32	H-50	59	59	覆土1	豊泉第1群(90%)	豊泉		石鏃	2a	
73705	33	YH-26	1	1	覆土	赤井川第1群(7%),赤井川第2群(28%),大釈迦(4%)	赤井川		石鏃	2a	
73706	34	YH-26	17	17	覆土	赤井川第1群(5%),赤井川第1群(10%)	赤井川		フレイク		
73707	35	Q-59	46	46	風倒木	赤井川第1群(2%),赤井川第2群(20%)	赤井川		石鏃	2a	図V-108-5
73708	36	YP-98	7	7	覆土	赤井川第1群(8%),赤井川第2群(65%),大釈迦(2%)	赤井川		石槍	2a	
73709	37	YS-2	21	21	YH-16覆土中	豊泉第1群(4%)	豊泉		石鏃	2a	

表3-2 山崎4遺跡出土黒曜石製石器・剥片の原産地推定結果

平成11年度依頼分

分析番号	資料番号	出土位置	区画	遺物番号	層位	原石産地(確率)	判定	器種	細分類	備考
65739	1	M-10		1	Ⅲ	赤井川第2群(82%),赤井川第1群(24%)	赤井川	石鏃	2a	
65740	2	YH-1		42	覆土1	大釈迦(76%),鷹森山(63%),赤井川第1群(14%)	赤井川	石槍	1b	
65741	3	M-61	b	1	I	大釈迦(11%),鷹森山(11%),赤井川第1群(5%)	赤井川	石槍	2a	大形
65742	4	Q-55		5	5	大釈迦(16%),鷹森山(5%),赤井川第1群(4%)	赤井川	石槍片	9	
65743	5	I-34		5	攪乱	赤井川第1群(10%),赤井川第2群(6%),大釈迦(1%)	赤井川	ドリル	9	
65745	7	I-50	a	8	Ⅲ	赤井川第1群(41%),赤井川第2群(17%)	赤井川	スクレイパー	2b	3類未成品?
65746	8	I-50	a	9	Ⅲ	赤井川第1群(2%)	赤井川	Rフレイク		
65747	9	I-50	b	4	Ⅲ	赤井川第1群(18%),鷹森山(17%),赤井川第2群(25%)	赤井川	スクレイパー	1b or 3	図V-110-44
65748	10	Q-60		9	Ⅲ	赤井川第1群(2%),大釈迦(1%),赤井川第2群(3%)	赤井川	三脚石器		図V-103-346
65749	11	I-61	d	3	I	赤井川第2群(89%),赤井川第1群(64%)	赤井川	石鏃	2a	
65750	12	YH-5		161	床面	豊泉第1群(77%)	豊泉	石鏃	2a	図V-14-11
65751	13	YH-5		162	床面	豊泉第1群(15%)	豊泉	石鏃	2a	
65752	14	I-50		13	Ⅲ	豊泉第1群(41%)	豊泉	石鏃	2b	図V-108-14
65753	15	YH-5		55	床面	豊泉第1群(18%)	豊泉	石鏃	2a	
65754	16	I-50		14	Ⅲ	鷹森山(45%),大釈迦(25%),赤井川第1群(30%)	赤井川	ドリル	1	
65755	17	R-60	c	2	I	【赤井川第1群(6%),戸門第1群(5%)】	赤井川	石鏃	2a	
65756	18	R-60	d	3	I	十勝三股(29%),戸門第1群(6%)	十勝	石鏃	2a	
65757	19	K-40	a	2	Ⅲ	【赤井川第2群(51%),赤井川第1群(34%),大釈迦(2%)】	赤井川	石鏃	2a	
65758	20	G-7		6	Ⅲ上	赤井川第1群(37%),大釈迦(8%),鷹森山(3%)	赤井川	石槍	2a	図VI-55-10
65761	23	G-7		9	Ⅲ上		不明	石槍片	9	
65762	24	G-8		1	Ⅲ中	赤井川第1群(29%),大釈迦(18%),鷹森山(11%)	赤井川	石槍	2a	
65763	25	YH-1		29	床面	赤井川第1群(53%),大釈迦(11%),鷹森山(6%)	赤井川	フレイク		
65764	26	YH-3		156	覆土2	赤井川第1群(3%)	赤井川	フレイク		
65765	27	G-7		8	Ⅲ上	赤井川第1群(14%),大釈迦(2%)	赤井川	フレイク		
65766	28	G-7		10	Ⅲ上	赤井川第1群(37%),赤井川第2群(46%),大釈迦(3%)	赤井川	石槍片	2a	65766・65777と接合
65768	30	YH-1		44	覆土1	豊泉第1群(24%)	赤井川	石槍片	2a	65765・65777と接合
65769	31	YH-5		64	床面	豊泉第1群(0.2%)	豊泉	フレイク		
65770	32	YH-5		224	覆土	豊泉第1群(1%)	豊泉	フレイク		
65771	33	YH-5		258	床面FC-1	豊泉第1群(0.02%) 遺物微少で薄い	豊泉	フレイク		
65772	34	YH-5		262	床面FC-1	豊泉第1群(D2=100) 遺物微少で薄い	豊泉	フレイク		
65773	35	YH-5		260	床面FC-1	遺物微少で薄い		フレイク		
65774	36	YH-5		264	床面FC-1	遺物微少で薄い		フレイク		

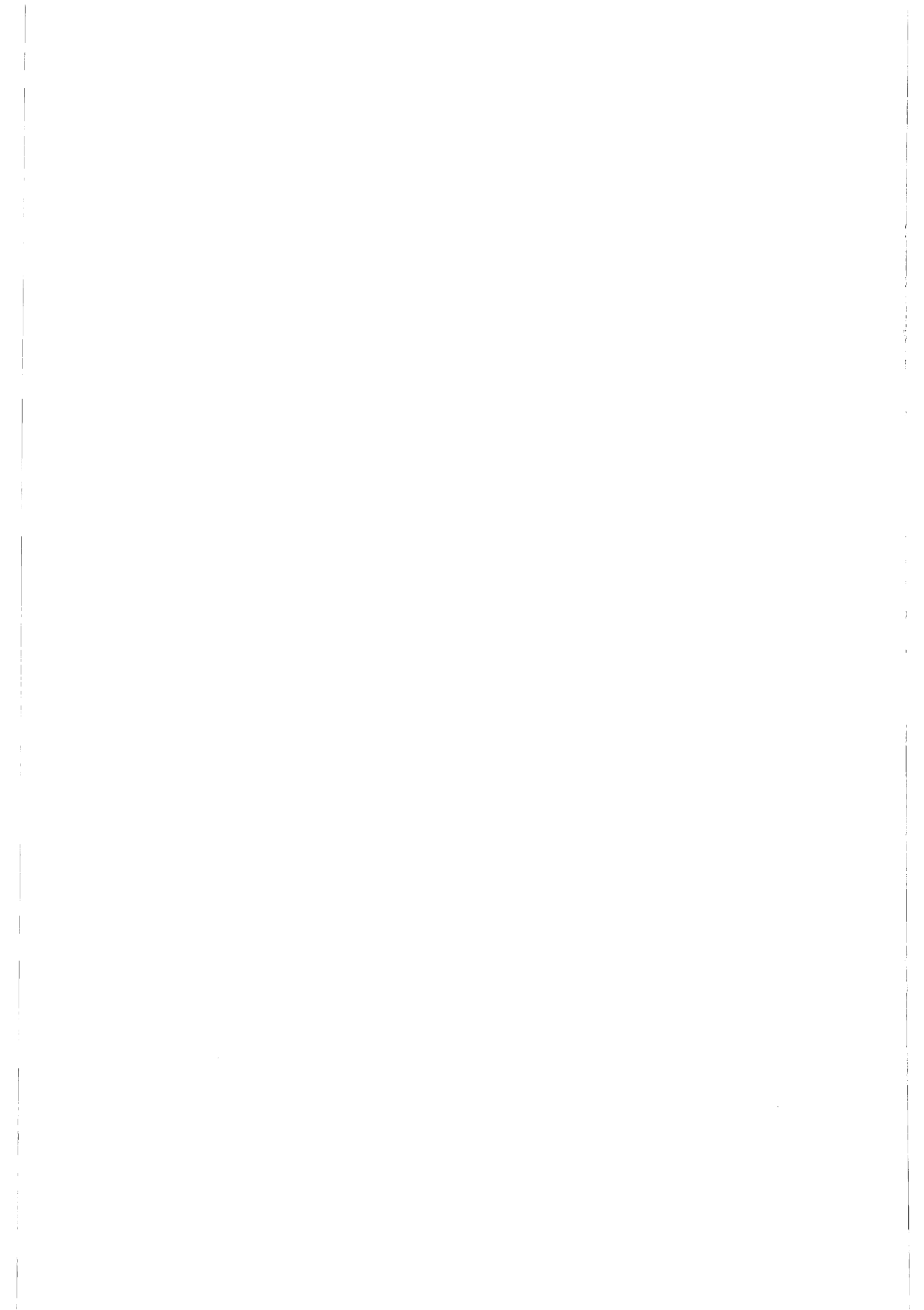
表3-3 山崎4遺跡出土黒曜石製石器・剥片の原産地推定結果

分析番号	資料番号	出土位置	区画番号	層位	原産地(確率)	判定	器種	細分類	備考
65775	37	YH-9	46	覆土2	赤井川第1群(5%)	赤井川	フレイク		
65776	38	G-6	2	Ⅲ上		不明	石槍片	2a	被熱
65777	39	H-7	21	Ⅲ上	赤井川第1群(73%),大釈迦(9%),鷹森山(9%)	赤井川	石槍片	2a	65765・65766と接合
65778	40	YH-1	12	床面	赤井川第2群(2%),赤井川第1群(1%)	赤井川	フレイク		
65779	41	YH-1	47	覆土2	赤井川第1群(2%),赤井川第2群(2%)	赤井川	フレイク		
65780	42	YH-1	57	HP-1	赤井川第1群(2%)	赤井川	フレイク		
65781	43	YH-5	56	床面	豊泉第1群(15%)	豊泉	石器未成品		
65782	44	YH-3	179	覆土1	大釈迦(1%),鷹森山(1%),赤井川第1群(1%)	赤井川	フレイク		
65783	45	YH-6	2	覆土	赤井川第1群(16%),赤井川第2群(21%)	赤井川	フレイク		

注意:近年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定根拠が曖昧にも関わらず結果のみを報告される場合があります。

本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして産地分析を行っています。判定基準の異なる研究方法(土器様式の基準も研究方法で異なるように)にも関わらず、似た産地名のために同じ結果のように思わていますが、全く関係(相互チェック)ありません。本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に同じ基準で判定されている結果で古代交流圏などを考察をする必要があります。

※編集注:平成11年度依頼分のうち、資料番号6・21・22・29は他遺跡出土遺物であるため、ここでは省略している。



3 山崎4遺跡出土の碧玉製スクレイパーの産地分析

藁科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

はじめに

今回分析を行った碧玉は旧石器時代と縄文時代では石器原材として使用され、弥生時代と古墳時代では勾玉、管玉などに使用される。玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石）、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、メノウなどが推測される。一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。これら玉材については岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるなどくらいであり、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。また原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どこかの産地原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となるのである。遺跡から出土する大珠、勾玉、管玉の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを確認するのではなくて、何ヶ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）や碧玉の原産地うち、どこかの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説であったが、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法¹⁾および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光X線分析で行う元素比法^{2, 3)}が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析を系統的に行った研究としては、蛍光X線分析法と電子スピン共鳴法を併用することで産地分析をより正確に行った例⁴⁾が報告されている。石鏃などの石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1) 石器の原材産地推定で明らかになる遺跡から石材原産地までの移動距離、活動範囲は、石器が生活必需品であるので、生活上必要な生活圏と考えられる。(2) 玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではなく、勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリとして精神的な面に重要な作用を与えられられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになるヒスイ製玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれないし、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏ではないかと考えられる。このように玉類の産地分析では、石器の原材産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

今回分析を行った遺物は、八雲町山崎4遺跡出土の碧玉製スクレイパー1個で、分析結果が得られたので報告する。

非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する、人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指紋を見つけないければならない。その区別するための指紋、すなわち鉱物組成の組み合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋をもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。

ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。よって石器の原材産地分析で成功している⁴⁾非破壊で分析を行

なう蛍光X線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。

遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をとり、この元素比の値で原産地を区別する指紋とした。碧玉製玉類はESR法を併用するが試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した⁵⁾。

碧玉原石の蛍光X線分析

碧玉の蛍光X線スペクトルの例として島根県、花仙山産原石を図1に示す。猿八産、玉谷産の原石から検出される蛍光X線ピークも異同はあるものの図1で示されるピークは観測される。土岐、興部の産地の碧玉は鉄の含有量が他の産地のものに比べて大きいのが特徴である。産地分析に用いる元素比組成は、Al/Si、K/Si、Ca/K、Ti/K、K/Fe、Rb/Fe、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrである。Mn/Fe、Ti/Fe、Nb/Zrの元素比は非常に小さく、小さい試料の場合測定誤差が大きくなるので定量的な判定の指標とはせず、判定のときに、Ba、La、Ceのピーク高さとともに、定性的に原材産地を判定する指標として用いている。

碧玉の原産地と原石の分析結果

分析した碧玉の原石の原産地を図2に示す。

佐渡猿八原産地は、①新潟県佐渡郡畑野町猿八地区で、産出する原石は地元で青玉と呼ばれている緑色系の石で、良質なものは割れ面がガラス光沢を示し、質の良くないものは光沢の少ないグリーンタフ的なものである。産出量は豊富であつたらしく採石跡が何ヶ所も見られるが、今回分析した原石は猿八の各地点から表採したもの、および地元で提供された原石などであり、また提供されたものの中には露頭から得られたものがあり、それはグリーンタフ層の間に約7 cm幅の良質の碧玉層が挟まれた原石であつた。分析した原石の比重と個数は、比重が2.6~2.5の間のは31個、2.5~2.4の間は5個の合計36個で、この中には、茶色の碧玉も2個含まれている。原石の比重が2.6~2.3の範囲で違つても、また碧玉の色が茶色、緑色、茶系色と緑系色の縞があるなど、多少色の違いがあつても分析した組成上には大きな差はみられなかつた。

出雲の花仙山は近世まで採掘が行われた原産地で、所在地は②島根県八束郡玉湯町玉造温泉地域である。産出する原石は、濃緑色から緑色の緻密で剥離面が光沢をもつ良質の碧玉から淡緑色から淡白色などいろいろで、他に硬度が低そうなグリーンタフの様な原石も見られる。良質な原石の比重は2.5以上あり、質が悪くなるにしたがつて比重は連続的に2.2まで低くなる。分析した原石は、比重が2.619~2.600の間のは10個、2.599~2.500は18個、2.499~2.400は7個、2.399~2.300は11個、2.299~2.200は11個、2.199~2.104は3個の合計60個である。比重から考えると碧玉からグリーンタフまでの領域のものが分析されているのがわかる。花仙山産原石は色の違い、比重の違いによる分析組成の差はみられなかつた。

玉谷原産地は、③兵庫県豊岡市辻、八代谷、日高町玉谷地域で、産出する碧玉の色、石質などは肉眼では花仙山産の原石と全く区別がつかない。また、原石の中には緑系色に茶系色が混じるものもみられ、これは佐渡猿八産原石の同質のものに非常によく似ている。比重も2.6以上あり、質は花仙山産、佐渡猿八産原石より緻密で優れた感じのものもみられる。この様な良質の碧玉の採取は、産出量も少ないことから長時間をかけて注意深く行う必要がある。分析した玉谷産原石は、比重が2.644~

2.600は23個、2.599～2.589は4個の合計27個で、玉谷産原石は色の違いによる分析組成の差はみられなかった。また、玉谷原石と一致する組成の原石は日高町八代谷、石井、アンラクなどで採取できる。

二俣原産地は、④石川県金沢市二俣町地域で、原石は二俣川の河原で採取できる。二俣川の源流は医王山であることから、露頭は医王山に存在する可能性がある。この河原で見られる碧玉原石は、大部分がグリーンタフ中に層状、レンズ状に非常に緻密な部分として見られる。分析した4個の原石の中で、3個は同一塊から3分割したもの、1個は別の塊からのもので、前者の3個の比重は2.42で後者は2.34である。また元素組成は他の産地の組成と異なっており区別できる。しかし、この4個が二俣原産地から産出する碧玉原石の特徴を代表しているかどうか検証するために、さらに分析数を増やす必要がある。

細入村の産地は、⑤富山県婦負郡細入村割山定座岩地区にあり、そのグリーンタフの岩脈に団塊として緻密な濃緑の碧玉質の部分が見られる。それは肉眼では、他の産地の碧玉と区別できず、また、出土する碧玉製の玉類とも非常に似た石質である。しかし、比重が分析した8個は2.25～2.12と非常に軽く、この比重の値で他の原産地と区別できる場合が多い。

土岐原産地は、⑥愛知県土岐市地域であり、そこでは赤色、黄色、緑色などが混じり合った原石が産出している。このうち緻密な光沢のよい濃緑で比重が2.62～2.60の原石を碧玉として11個分析を行った。この原石は鉄の含有量が非常に大きく、カリウム含有量が小さいという特徴を持ち、この元素比の値で他の原産地と区別できる。

興部産地は、⑦北海道紋別郡西興部村にあり、その碧玉原石は鉄の含有量が非常に高く、他の原産地と区別する指標になっている。また、比重が2.6以下のものはなく遺物の産地を特定する指標として重要である。

石戸の産地は、⑧兵庫県氷上郡山南町地区にあり、その安山岩に脈岩として採取されるが産出量は非常に少ない。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。

⑨北海道富良野市の空知川流域から採取される碧玉は濃い緑色で比重が2.6以上が4個、2.6～2.5が5個、2.5～2.4が5個である。その碧玉の露頭は不明で河原の礫から採取するため、短時間で良質のもの碧玉を多数収集することは困難である。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。

⑩北海道上磯郡上磯町の茂辺地川の川原で採取される碧玉は不均一な色の物が多く、管玉に使用できる色の均一な部分を大きく取り出せる原石は少ない。

これら原石を原産地ごとに統計処理を行い、元素比の平均値と標準偏差値をもとめて母集団を作り表1に示す。各母集団に原産地名を付けて、その産地の原石群、例えば花仙山群と呼ぶ。花仙山群は比重によって2個の群に分けて表に示したが比重は異なっても組成に大きな違いはみられない。したがって、統計処理は一緒に行い、花仙山群として取り扱った。また原石群とは異なるが、豊岡市女代南遺跡で主体的に使用されている原石産地不明の碧玉製の玉の原材料が、玉作り行程途中の遺物として多数出土している。当初、原石産地を探索するという目的で、これら玉、玉材遺物で作った女代南B(女代(B))群であったが、それと同質の材料で作られた可能性がある玉類が最近の分析結果で日本全土に分布していることが明らかになってきた。また、宇木汲田遺跡では甕棺の中から出土した管玉にも産地未発見の原石を使用した材料で作られた管玉が多数見つかると、これら同じ成分組成の管玉で未定C(未定(C))群と名付けた遺物群を作って原石群と同じように判定に使用できるようにした。この他古墳時代の管玉の碧玉原材として、岐阜県可児市の長塚古墳出土の管玉で作った長塚(1)、(2)の遺物群が追加された。また、鳥取県の福部村多鯰池、鳥取市防己尾岬などの自然露頭からの原石を4個分析した。比重は2.6以上あり元素比組成は、興部、玉谷、土岐石に似るが、他の原産地の原石

とは組成で区別され、色は緑色系の原石ではない。最近、兵庫県香住町の海岸から採取された親指大1個の碧玉様の玉材は貝殻状剥離がみられる緻密な石質で少し青っぽい緑の石材で玉の原材料になると思われる。この玉材の蛍光X線分析の結果では、興部産碧玉に似ているが、ESR信号および比重(2.35)が異なっているため、興部産碧玉と区別ができる。

山崎4遺跡出土碧玉製スクレイパーと国内産碧玉原石との比較

遺跡から出土した碧玉製遺物は表面の泥を超音波洗浄器で水洗するだけの完全な非破壊分析で行っている。遺物の原材産地の同定をするために、(1) 蛍光X線法で求めた原石群と碧玉製遺物の分析結果を数理統計の手法を用いて比較をする定量的な判定法で行なう。(2) また、ESR分析法により各産地の原石の信号と遺物のそれを比較して、似た信号の原石の産地の原材であると推測する方法も応用した。

蛍光X線法による産地分析

碧玉製スクレイパーの蛍光X線分析のスペクトルを図3に示し、比重および蛍光X線分析から碧玉製石器原材の元素組成比を求めて結果を表2に示す。碧玉と分類した遺物は、緻密で、蛍光X線分析でRb, Sr, Y, Zrの各元素が容易に観測できるなどを条件に分類した。また、グリーンタフ製は比重が2.5に達しない原材が多い。これら遺物の元素組成比の結果を碧玉原石群(表1)の結果と比較してみる。分析個数が少なく統計処理ができる群が作れなかった産地については、原石の元素組成比を今回分析した遺物と比較したが一致するものは見られなかった。原石の数が多く分析された原産地については、数理統計のマハラノビスの距離を求めて行うホテリング T^2 検定⁹⁾により同定を行ったところ、興部、土岐の群に一致するが未定C、女代南(B)、猿八、花仙山、玉谷の各群には一致せず、一致しなかった碧玉産地の可能性は非常に低いと判定した。これら群への帰属確率の結果を表3に示した。蛍光X線分析で一致した原石産地の可能性をより正確に産地を特定するためにESR分析を併用して総合的に産地分析を行った。

ESR法による産地分析

ESR分析は碧玉原石に含有されているイオンとか、碧玉が自然界からの放射線を受けてできた色中心などの常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。ESRの測定は、完全な非破壊分析で、直径が11mm以下の管玉なら分析は可能で、小さい物は胡麻粒大で分析ができる場合がある。図4-(1)のESRのスペクトルは、幅広く磁場掃引したときに得られた信号スペクトルで、g値が4.3の小さな信号(I)は鉄イオンによる信号で、g値が2付近の幅の広い信号(II)と何本かの幅の狭いピーク群からなる信号(III)で構成されている。図4-(1)では、信号(II)より信号(III)の信号の高さが高く、図4-(2)、(3)の二俣、細入原石ではこの高さが逆になっているため、原石産地の判定の指標に利用できる。今回分析したスクレイパーの信号(II)が信号(III)より小さい場合は、二俣、細入産でないといえる。各原産地の原石の信号(III)の信号の形は産地ごとに異同があり産地分析の指標となる。図5-(1)に花仙山、猿八、玉谷、土岐を図5-(2)に興部、石戸、八代谷-4、女代(B)遺物群、八代谷および図5-(3)に富良野市空知川の空知(A)、(B)、北海道今金町花石産瑪瑙および茂辺地川の各原石の代表的な信号(III)のスペクトルを示す。図5-(4)には宇木汲田遺跡の管玉で作った未定C形と未定D形およびグリーンタフ製管玉によく見られる不明E形を示した。ESR分析では原石と遺物のESR

信号の形が、それぞれ似た信号を示す原石だったり、産地不明遺物群のESR信号形と一致した場合、その産地の可能性が大きいことを示唆している。今回分析した花石産碧玉と碧玉製スクレイパーのESR信号(Ⅲ)の結果を図6に示す。碧玉製スクレイパーのESR信号(Ⅲ)は島根県花仙山産原石と似るが、F位置のピークが花仙山原石の方が太くなっていて、完全には一致しない。また、花石産緑瑪瑙(苔瑪瑙)および花石産碧玉と茂辺地川産の碧玉の信号は多少ESR信号を出すイオン種の含有量は異なるが、定性的には一致していると思われる。また、花石産原石と碧玉製スクレイパーの比較では、abcdNFklmの各ピークが観測されることは同じであるが、花石産原石ではF-K間で一個の下向きピークが見られるが、スクレイパーの信号には見られない。蛍光X線分析で一致した土岐産原石と興部産原石とは大きく異なっていて、スクレイパーの原材が土岐産および興部産碧玉でないと言える。ESRスペクトルが一致した原石産地に遺物の原産地を特定するが、より正確な原石産地を推測するために蛍光X線分析の結果と組み合わせ総合判定として、両方法でも同じ原産地に特定された場合のみ、その群の原石と同じものが使用されているとして総合判定原石産地の欄に結果(表3)を記した。

結 論

分析した碧玉製スクレイパーの出土した山崎4遺跡から最も近い産地は今金町花石碧玉産地で、碧玉製スクレイパーの分析箇所をかえて56回分析し碧玉製スクレイパー遺物群を作って、この遺物群と花石産碧玉の分析結果を比較したが帰属確率は非常に低く一致しなかった。しかし、花石産碧玉も碧玉製スクレイパーと同じ土岐、興部群に帰属され、花石産原石とスクレイパーの原材の元素比組成は定性的には一致していると考えられる。また、ESR信号も共通するところも多く、定性的に似ていると言える。今回の産地分析で花石産の手持ちの原石は北海道埋蔵文化財センターと共同調査で得た緑色碧玉原石と緑色瑪瑙が各一個で、非常に少ない原石で得た元素比とESR信号の比較であることから、花石碧玉産地を代表する元素比、ESR信号になっていない可能性が推測される。山崎4遺跡での黒曜石製石器原材は約300kmも伝播しているから、空知、興部産の可能性は十分に推測されるが、ESR信号(Ⅲ)から空知、興部産の可能性は否定できた。また、茂辺地川産原石の指標元素比(表1)は碧玉製スクレイパーの元素比值(表2)とかなり異なっていることから、茂辺地川産の可能性は非常に低いと思われる。今後、花石産原石の分析個数を増やし、花石産原石の使用の有無を正確に求め、また、遺跡近くに未発見の碧玉原産地がないかなどの調査をする必要があると思う。

参考文献

- 1) 茅原一也(1964)、長者が原遺跡産のヒスイ(翡翠)について(概報)。長者ヶ原、新潟県糸魚川市教育委員会:63-73
- 2) 藁科哲男・東村武信(1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 6:1-18
- 3) 藁科哲男・東村武信(1990)、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。
檀原考古学研究所紀要『考古学論攷』,14:95-109
- 4) 藁科哲男・東村武信(1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学,16:59-89
- 5) Tetsuo Warashina(1992)、Allocation of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF. Journal of Archaeological Science 19:357-373
- 6) 東村武信(1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学,9:77-90

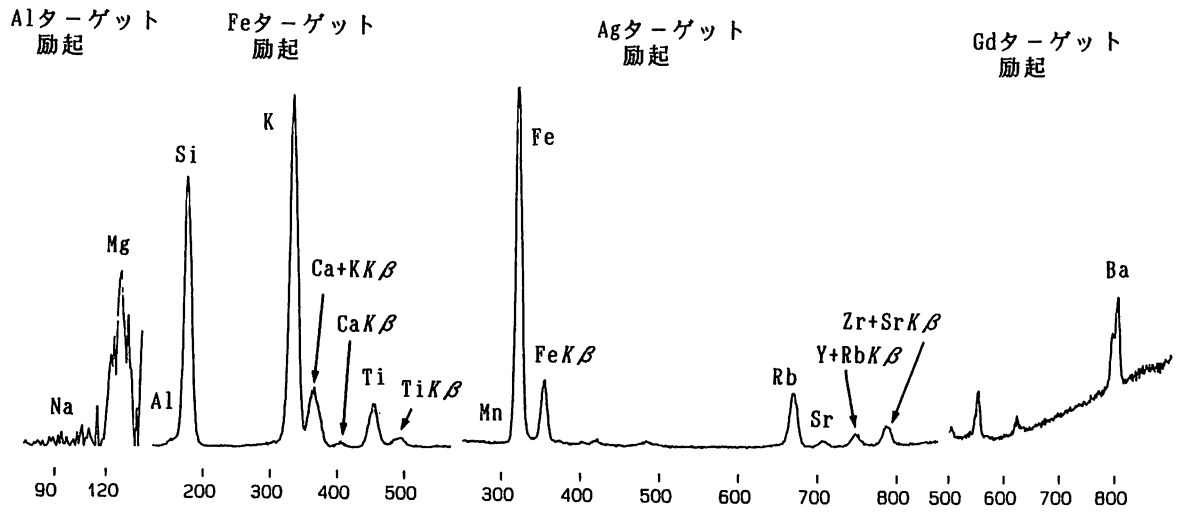


図1 花仙山産碧玉原石の蛍光X線スペクトル

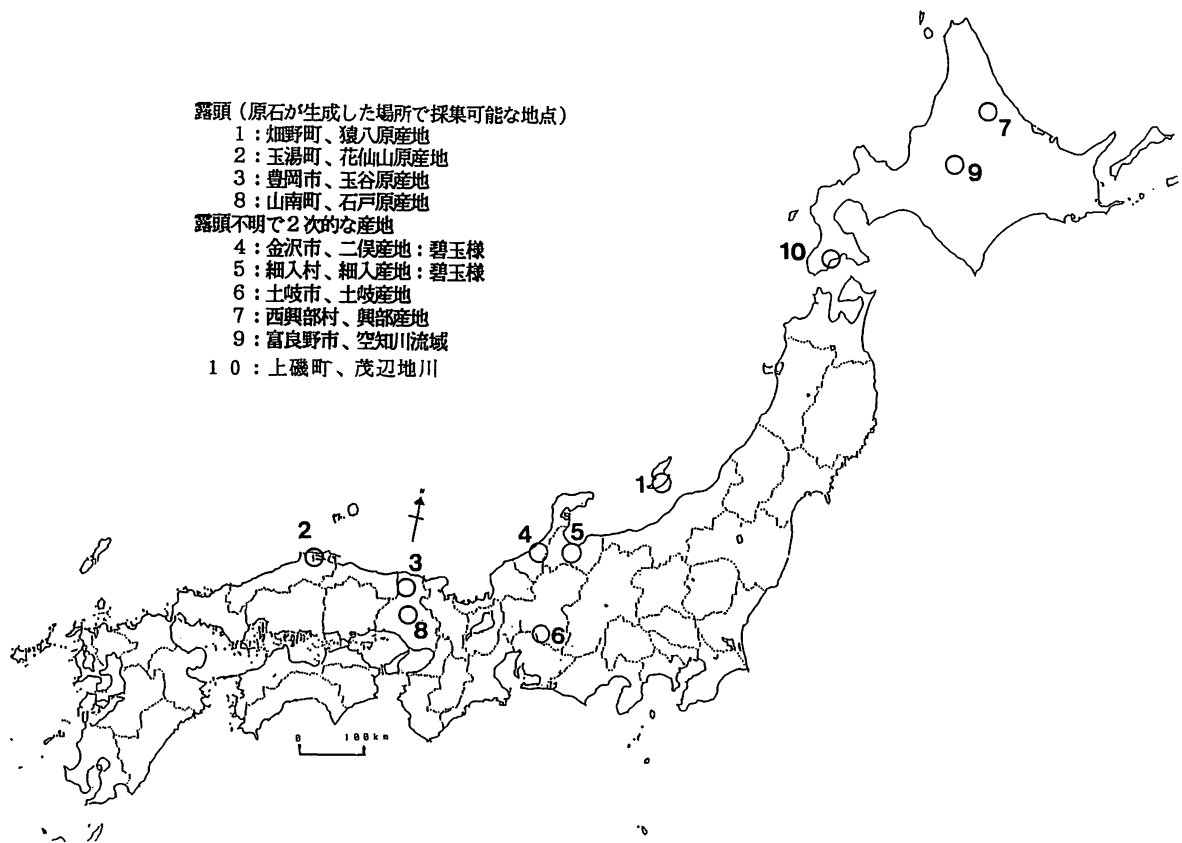


図2 碧玉および碧玉様綠色石の原産地

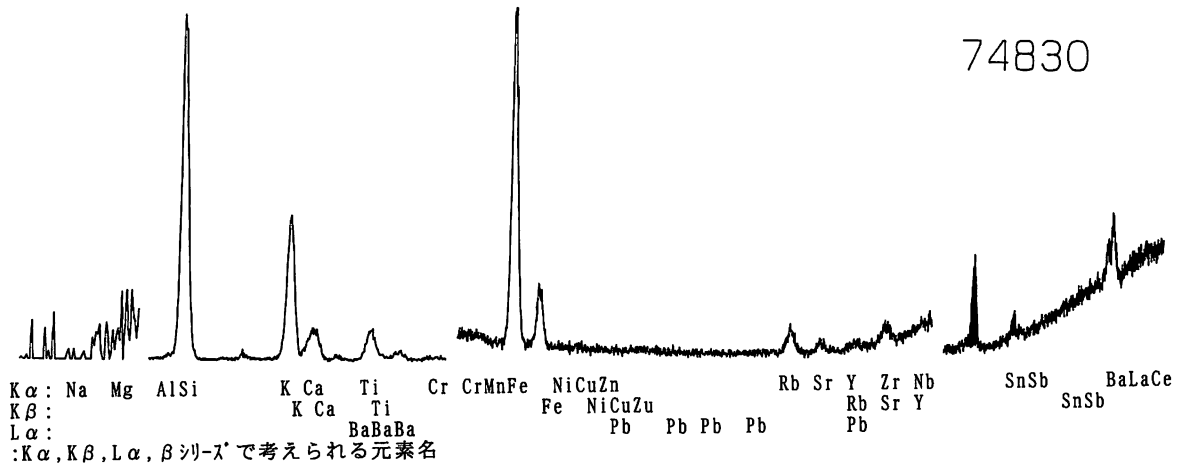


図3 山崎4遺跡出土碧玉製スクレイパー (74830) の蛍光X線スペクトル

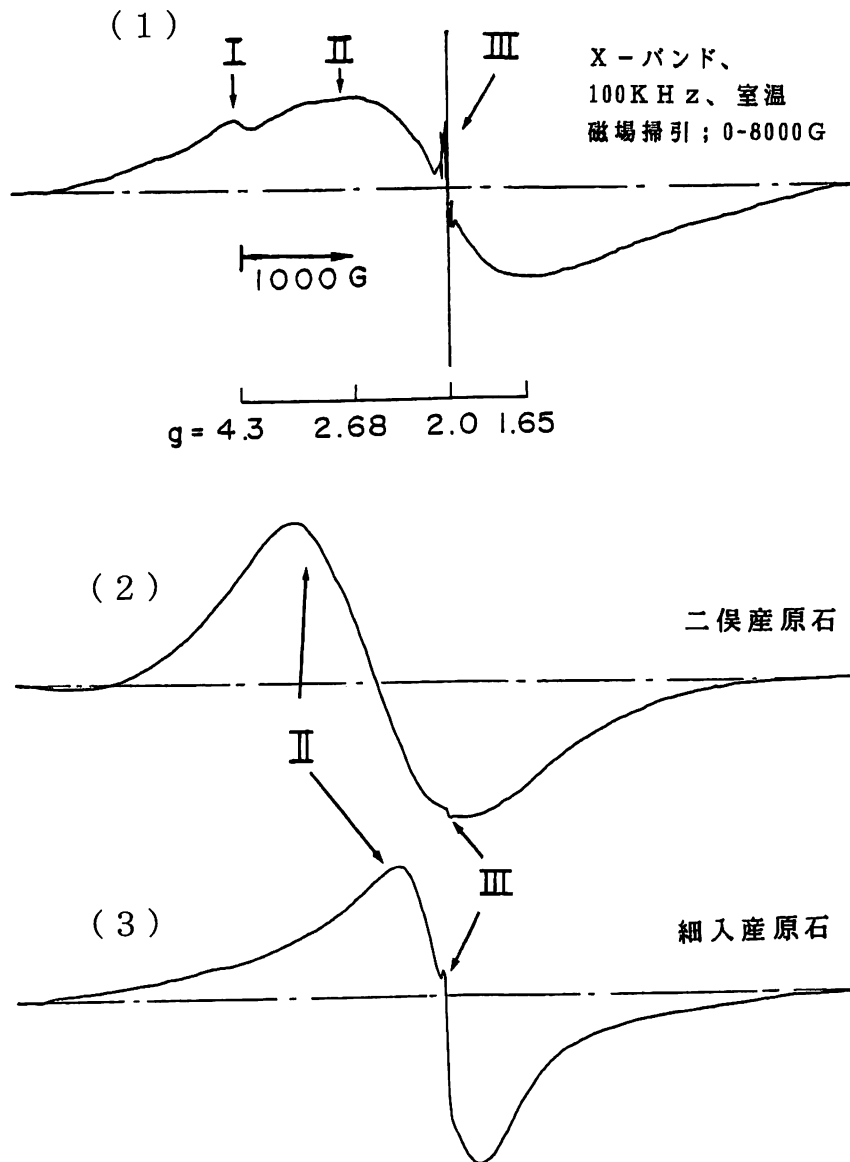


図4 碧玉原石のEPRスペクトル

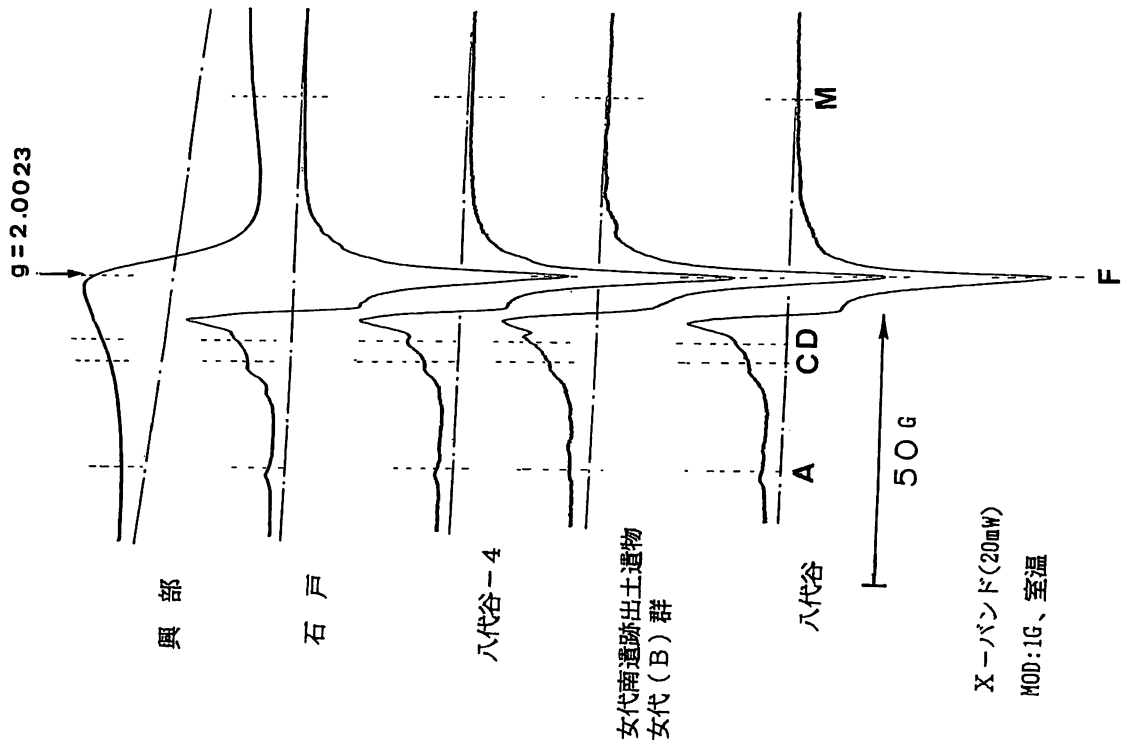


図5- (1) 碧玉原石の信号 (III) の ESR スペクトル

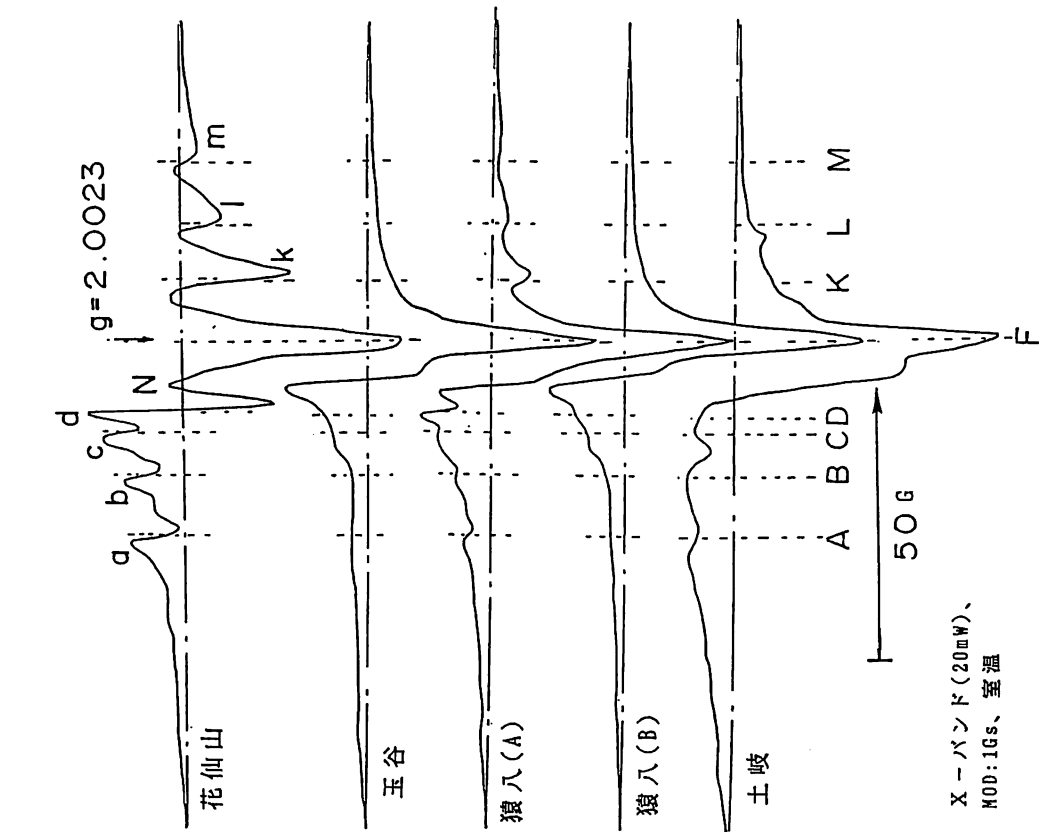


図5- (2) 碧玉原石の信号 (III) の ESR スペクトル

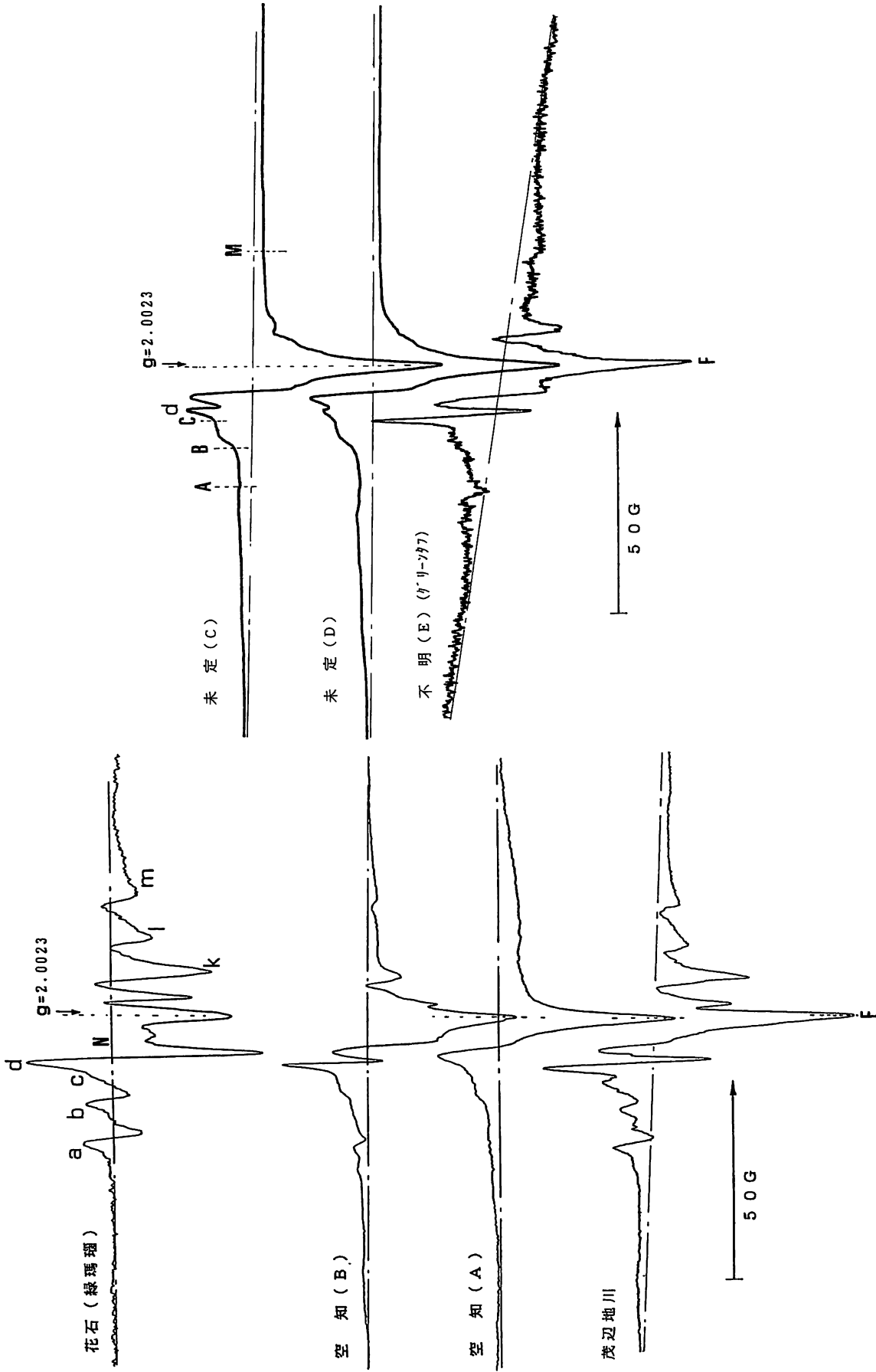


図5- (3) 碧玉原石の信号 (Ⅲ) の ESR スペクトル

図5- (4) 碧玉原石の信号 (Ⅲ) の ESR スペクトル

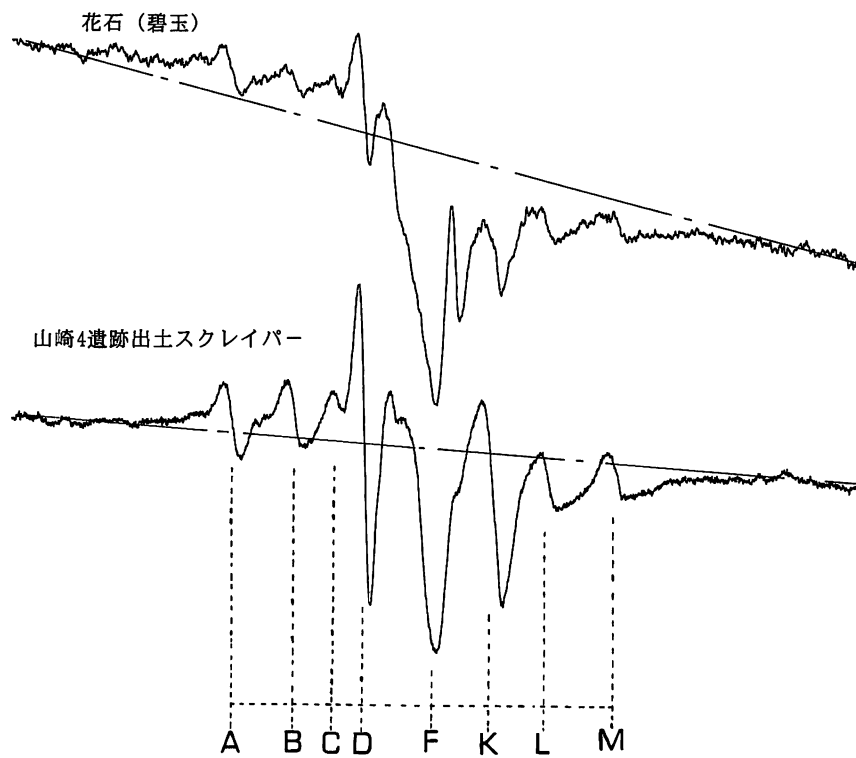


図6 碧玉原石と山崎4遺跡出土スクレイパーの信号(Ⅲ)のESRスペクトル

表1 各碧玉の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原群	石名	分析個数	Al/Si $X_{av} \pm \sigma$	K/Si $X_{av} \pm \sigma$	Ca/K $X_{av} \pm \sigma$	Ti/K $X_{av} \pm \sigma$	K/Fe $X_{av} \pm \sigma$
興空知空空猿土玉花仙花細二石茂	部A	31	0.011±0.003	0.580±0.320	0.123±0.137	0.061±0.049	0.022±0.006
	知A1	10	0.049±0.017	1.044±0.299	2.308±0.556	0.484±0.096	0.052±0.012
	知A2	3	0.019±0.009	0.675±0.377	0.623±0.203	0.172±0.031	0.040±0.007
	知B	2	0.066±0.001	3.927±0.267	0.088±0.004	0.089±0.003	0.283±0.034
	猿八	36	0.046±0.007	3.691±0.548	0.049±0.038	0.058±0.011	0.370±0.205
	土岐	51	0.006±0.004	0.361±0.131	0.072±0.063	0.098±0.063	0.023±0.005
	玉谷	27	0.025±0.009	0.625±0.297	0.110±0.052	0.476±0.104	0.045±0.014
	花山1	27	0.019±0.004	0.909±0.437	0.171±0.108	0.222±0.098	0.059±0.019
	仙山2	33	0.023±0.003	1.178±0.324	0.157±0.180	0.229±0.139	0.055±0.015
	花入	8	0.019±0.003	0.534±0.284	0.091±0.386	0.372±0.125	0.031±0.008
	細俣	4	0.043±0.001	2.644±0.183	0.337±0.079	0.158±0.009	0.312±0.069
	二石	4	0.019±0.004	0.601±0.196	0.075±0.022	0.086±0.038	0.154±0.072
	茂地	4	0.031±0.002	1.847±0.246	0.077±0.024	0.222±0.052	0.092±0.021
	女代南B 未定C 長塚(1) 長塚(2)	南B	68	0.045±0.016	3.115±0.445	0.042±0.024	0.107±0.036
未定C		58	0.030±0.028	4.416±0.618	0.013±0.013	0.207±0.034	0.589±0.130
長塚(1)		47	0.036±0.004	3.525±0.347	0.033±0.005	0.439±0.050	0.204±0.037
長塚(2)		45	0.028±0.007	2.659±0.122	0.010±0.004	0.064±0.003	0.719±0.065

原群	石名	分析個数	Rb/Fe $X_{av} \pm \sigma$	Fe/Zr $X_{av} \pm \sigma$	Rb/Zr $X_{av} \pm \sigma$	Sr/Zr $X_{av} \pm \sigma$	Y/Zr $X_{av} \pm \sigma$
興空知空空猿土玉花仙花細二石茂	部A	31	0.070±0.021	174.08±124.9	16.990±13.44	0.668±0.435	1.801±1.434
	知A1	10	0.108±0.042	4.658±2.044	0.438±0.089	15.676±4.311	0.054±0.041
	知A2	3	0.037±0.010	27.651±10.97	1.132±0.759	5.930±3.179	0.349±0.251
	知B	2	0.455±0.010	2.281±0.278	1.035±0.104	0.235±0.084	0.129±0.022
	猿八	36	0.384±0.153	1.860±1.070	0.590±0.185	0.139±0.127	0.165±0.138
	土岐	51	0.096±0.025	43.067±23.28	4.056±2.545	0.271±0.308	0.159±0.180
	玉谷	27	0.151±0.020	6.190±1.059	0.940±0.205	0.192±0.170	0.158±0.075
	花山1	27	0.225±0.028	10.633±3.616	2.345±0.693	0.476±0.192	0.098±0.052
	仙山2	33	0.219±0.028	12.677±2.988	2.723±0.519	0.472±0.164	0.132±0.071
	花入	8	0.073±0.020	12.884±3.752	0.882±0.201	1.879±0.650	0.026±0.032
	細俣	4	0.338±0.039	1.495±0.734	0.481±0.176	0.697±0.051	0.088±0.015
	二石	4	0.170±0.079	7.242±1.597	1.142±0.315	0.649±0.158	0.247±0.092
	茂地	4	0.190±0.052	5.566±1.549	0.980±0.044	0.300±0.032	0.171±0.051
	女代南B 未定C 長塚(1) 長塚(2)	南B	68	0.267±0.063	2.374±0.676	0.595±0.065	0.214±0.097
未定C		58	0.650±0.113	0.583±0.110	0.369±0.035	0.090±0.030	0.070±0.026
長塚(1)		47	0.361±0.040	2.756±0.473	0.980±0.110	0.472±0.083	0.379±0.143
長塚(2)		45	0.832±0.054	0.412±0.038	0.341±0.023	0.036±0.010	0.386±0.242

原群	石名	分析個数	Mn/Fe $X_{av} \pm \sigma$	Ti/Fe $X_{av} \pm \sigma$	Nb/Zr $X_{av} \pm \sigma$	比重 $X_{av} \pm \sigma$
興空知空空猿土玉花仙花細二石茂	部A	31	0.004±0.003	0.001±0.001	0.455±0.855	2.626±0.032
	知A1	10	0.078±0.152	0.019±0.005	0.003±0.007	2.495±0.039
	知A2	3	0.009±0.003	0.006±0.002	0.118±0.167	2.632±0.012
	知B	2	0.015±0.002	0.022±0.004	0.123±0.010	2.607±0.001
	猿八	36	0.003±0.001	0.018±0.010	0.032±0.014	2.543±0.049
	土岐	51	0.001±0.001	0.001±0.001	0.072±0.160	2.607±0.009
	玉谷	27	0.006±0.003	0.016±0.003	0.054±0.021	2.619±0.014
	花山1	27	0.001±0.001	0.009±0.002	0.042±0.034	2.570±0.044
	仙山2	33	0.001±0.001	0.009±0.004	0.035±0.025	2.308±0.079
	花入	8	0.003±0.002	0.008±0.002	0.021±0.344	2.169±0.039
	細俣	4	0.007±0.002	0.043±0.010	0.043±0.023	2.440±0.091
	二石	4	0.007±0.001	0.009±0.002	0.227±0.089	2.598±0.008
	茂地	4	0.003±0.008	0.016±0.001	0.132±0.069	2.536±0.033
	女代南B 未定C 長塚(1) 長塚(2)	南B	68	0.011±0.004	0.026±0.009	0.034±0.016
未定C		58	0.002±0.001	0.101±0.019	0.019±0.016	2.646±0.023
長塚(1)		47	0.005±0.001	0.094±0.013	0.022±0.016	2.533±0.016
長塚(2)		45	0.004±0.001	0.047±0.004	0.024±0.013	2.569±0.003

X_{av} : 平均値、 σ : 標準偏差値
 女代南B : 女代南遺跡(豊岡市)で使用されている原石産地不明の管玉で作った群
 未定C : 宇木遺跡(唐津市)で使用されている原石産地不明の管玉で作った群
 長塚(1)、(2) : 長塚古墳(可児市)で使用されている原石産地不明の管玉で作った群

表2 山崎4遺跡出土碧玉製スクレイパーの分析結果

分析番号	元 素 比														重 量 gr	比 重
	Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe	Ti/Fe	Nb/Zr			
74830	0.010	0.294	0.197	0.223	0.026	0.078	19.217	1.502	0.602	0.000	0.002	0.006	0.116			
JG-1.a)	0.020	4.343	0.800	0.231	0.110	0.262	3.989	1.0445	1.405	0.286	0.023	0.024	0.087			

a): 標準試料、Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974).
1974 compilation of data on the GJS geochemical reference
samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt.
Geochemical Journal, Vol. 8 175-192.

表3 山崎4遺跡出土碧玉製スクレイパーの原石産地分析結果

遺物 出土位置	分析 番号	碧玉製玉類蛍光X線分析法による帰属確率						ESR 信号形	総合判定 原石産地
		興部群	玉谷群	花仙山群	猿八群	女代(B)群	土岐群		
I-52-9 (I層)	74830	9.7 %	< 10 ⁻¹⁰ %	< 10 ⁻¹⁰ %	< 10 ⁻¹⁰ %	< 10 ⁻¹⁰ %	69.3 %	< 10 ⁻¹⁰ %	花仙山形? 不 明

表4 分析資料

出土位置	遺物番号	層位	器 種	細分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
I-52	9	I	スクレイパー	1a	7.5	4.5	1.8	59.7

4. 山崎4遺跡から出土した炭化植物種子

よしぎまさかず つばさかやすよ
吉崎昌一・椿坂恭代

1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称：山崎^{やまざき}4遺跡 (B-16-60)遺跡の所在：北海道山越郡八雲町字山崎^{やまこし}213-3ほか

調査の機関：財団法人北海道埋蔵文化センター

調査担当者：熊谷^{くまがい}仁志、谷島^{たにしまよし}由貴、笠原^{かさはらこう}興、広田^{ひろた}良成、佐藤^{さとうつよし}剛、柳瀬^{やなせ}由佳

調査期間：平成12年(2000年)5月8日～9月4日

遺跡の立地：八雲町の市街地から北へ約8km、国道5号線西側の内浦湾を望む標高36～41mの海岸段丘上に位置する、沢を挟んで北側には山崎5遺跡がある。

遺跡の年代：縄文文化早期～後期のものと近世と考えられるものが検出されたが、主体は縄文文化中期前葉の遺跡であった^註。本報告に見られるように、住居床面土壌から検出された炭化物についてC-14年代測定が行われている。測定数値は、補正值で3570±40年BP、～4360±40年BPが得られた(担当者によると出土遺物は中期前葉に分類される。測定値は中期後葉に近い)。

検出遺構：A-D地区が調査されたが、ここから竪穴住居跡24軒、建物跡10軒、土壌111基、Tピット7基、柱穴状ピット170基、石組み炉2ヶ所、焼土56ヶ所、炭化物集中1ヶ所、集石8ヶ所、フレイク・チップの集中20ヶ所などが検出された。

B地区は遺構・遺物の分布密度が最も濃い。遺物の主体は縄文時代中期前葉に属するもので、今回検出された竪穴住居跡のうち20軒がこの地区に分布していた。

また、TピットはA地区からのみ検出されている。

2) 扱った資料

分析資料として扱った炭化植物は、縄文時代中期前葉の竪穴住居(記号YHは住居を示す。後続する数字は住居ナンバー)から土壌を採取し、フローテーション法で処理後、第一次選別を経て送付されてきた、これらの資料について実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡で観察並びに撮影を行った。検出された植物種子の計測及び出土位置は表1山崎4遺跡炭化種子出土表に示しておいた。

3) 各地区から検出された種子

検出された植物種子は、全て縄文時代中期前葉のものである。総数で92粒、これ以外に果皮細片が0.34グラム抽出された。その内訳は草本はイネ科雑草種子GRAMINEAE15(図版1)、タデ科POLYGONACEAE種子3(図版2)、木本としてはキハダ属*Phellodendron* Rupr. 破片4、ウルシ属*Rhus* L. 破片1およびクルミ属*juglans* L. 果皮細片0.34グラム(図版3)である。図示した資料は図版1が長さ1.55ミリ、幅0.85ミリ、厚さ0.55ミリ。図版2が長さ1.35ミリ、幅0.95ミリ。キハダ属*Phellodendron* Rupr.、ウルシ属*Rhus* L. などは細片なので図示しなかった。

4) 若干のコメント

イネ科雑草、タデ科は保存が悪く種類の特性が困難であった。北海道においては、ウルシ属はツタウルシ*Rhus ambigua* Lavallee ex Dippel、ヤマウルシ*Rhus triechocarpa* Miq.、ヌルデ*Rhus javanica* L. が分布していると報告されているが、良好なウルシ原液の生産されるウルシ原木のウル

シ *Rhus succedanea* Stokesは見られない。したがって、考古学的に問題となるウルシ塗り製品が、北海道産のウルシで作られたとは決定できない。この点、各地から検出されている縄文文化のウルシ製品については、当時の物流を加味した視点が必要なのであろう。残念なことに、ウルシそのものからはDNAが抽出できないので、今後、方策を考えなくてはなるまい。

註

今回、見晴町式を中期前葉の末として扱った。見晴町式については中期後葉の初頭とする考えもある。山崎4遺跡の見晴町式には、サイベ沢Ⅶb式の影響と思われる沈線文が残存し、これに伴いそうな大木系の土器と共に出土しているものの、器形・文様構成において大木系の影響を明確に看取できず、円筒土器上層式の要素の強いものであった。このことから、山崎4遺跡の見晴町式については円筒土器上層式の影響を残存した土器群とし、中期前半に位置付けた（第Ⅶ章－2参照、担当者：広田良成）。

表1 山崎4遺跡炭化種子出土表

資料 番号	遺構名 (出土区)	層位	調査区	時期	体積	浮遊重量	残渣	イネ科	タデ科	キハダ属	ウルシ属	クルミ属	不明
					(l)	(g)	(g)	(粒)	(粒)	(片)	(片)	(g)	(片)
1	YH-2	石組炉、黒色土層	L・M-45・47	縄文時代中期	5	17.762	43.2			1			2
2	YH-20	構築面、地床炉	L・M-45・46	縄文時代中期	10	16.494							2
3	YH-6	HP 1	Q-46	縄文時代中期	4	8.765	70.194						23
4	YH-11①	床面	I・J-49, 50	縄文時代中期	12	181.882	409.455		1			0.18	12
5	YH-11②	床面	I・J-49, 50	縄文時代中期	5.5	40.534	224.812			1		0.08	2
6	YH-11③	床面	I・J-49, 50	縄文時代中期	11	48.605	264.57					0.01	
7	YH-11④	床面	I・J-49, 50	縄文時代中期	21.5	138.47	524.639	2	1			0.03	9
8	YH-11⑤	床面	I・J-49, 50	縄文時代中期	22	217.757	262.232	4	1				7
9	YH-11⑥	床面	I・J-49, 50	縄文時代中期	27	64.15	192.013	9		2		<0.00	8
10	YH 11	焼土	I・J-49, 50	縄文時代中期	9.5	121.866	144.698				1		1
11	YH-13	HFD-2	M-42, 43	縄文時代中期	0.50	0.11	36.60	—	—	—	—	—	—
12	YH-15	HF-1	O・P-43・44	縄文時代中期	4.50	10.79	81.22					0.04	
13	YH 18	埋設土器内	J・k-49	縄文時代中期	1.50	2.28	20.49						3
								15	3	4	1	0.34	69

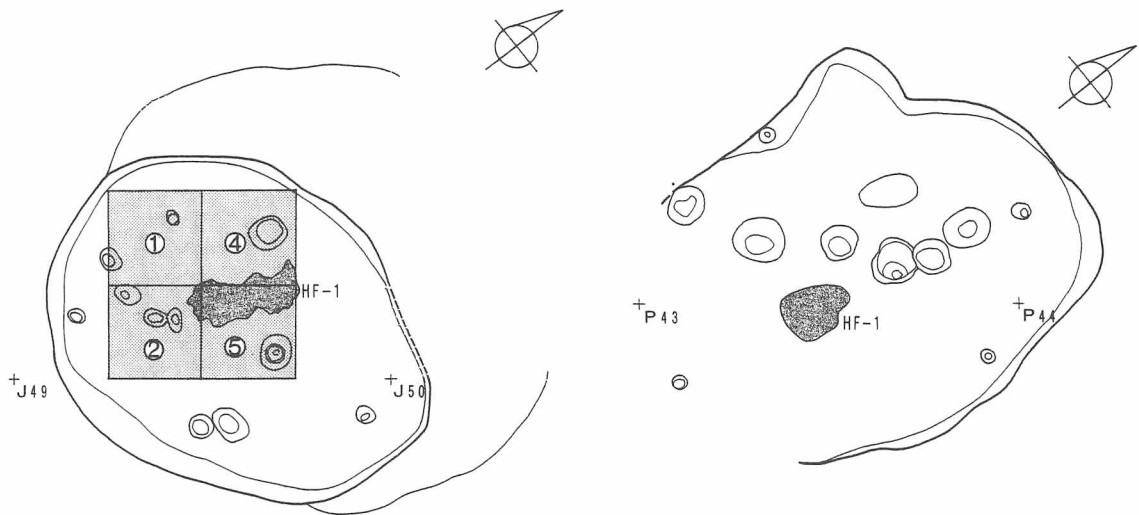
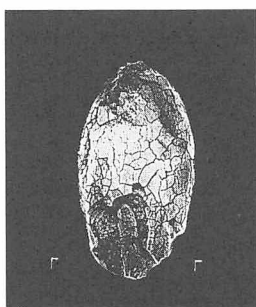
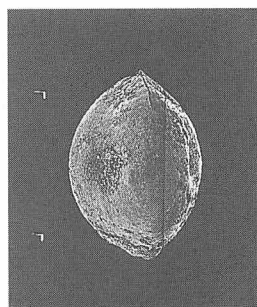


図1 フローテーションサンプル採取地点

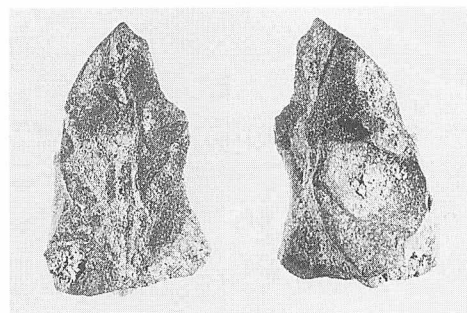
図版



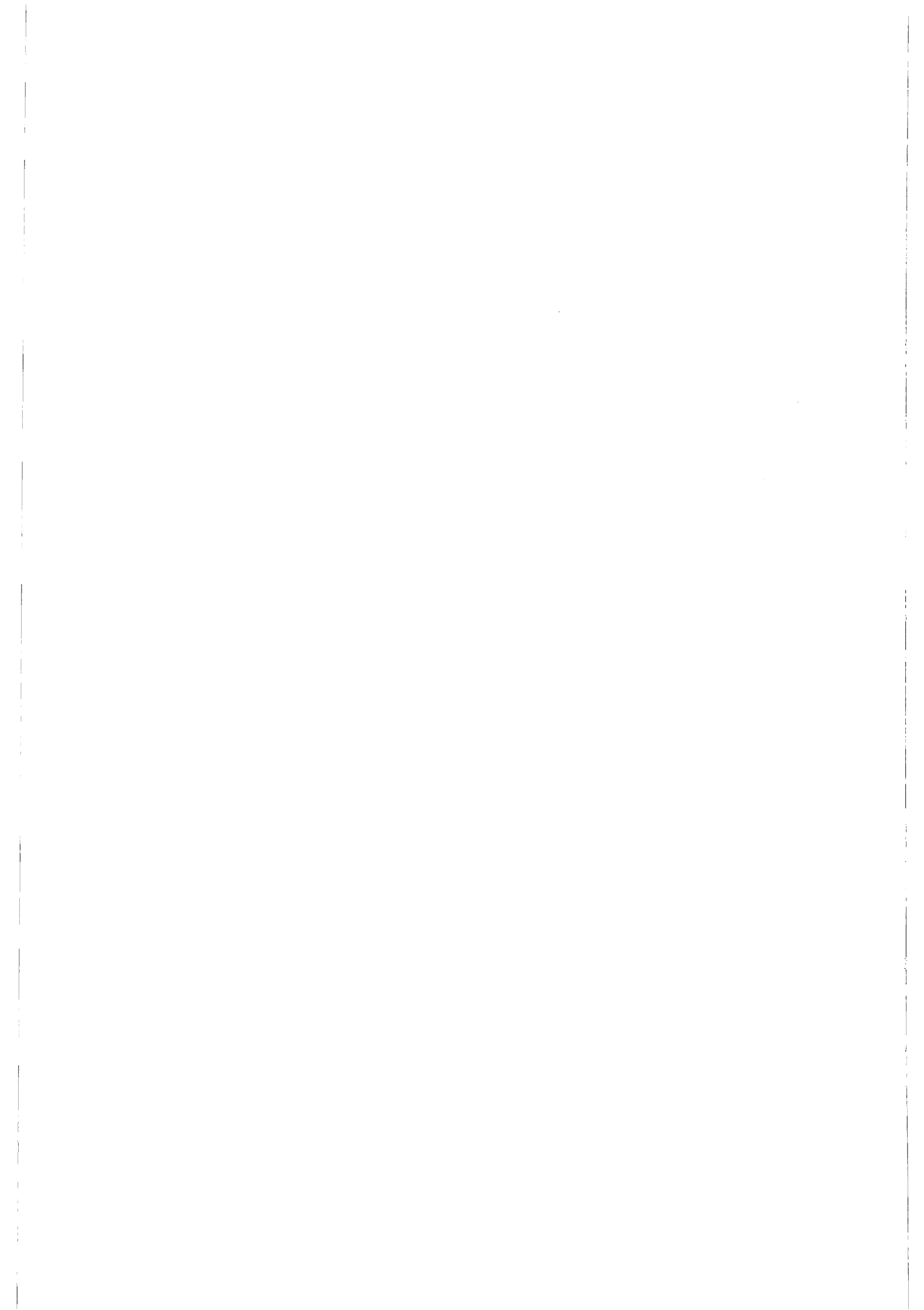
1 イネ科



2 タデ科



3 クルミ属内果皮破片
表面 内面



5 山崎4遺跡より出土した炭化材

東北芸術工科大学大学院 星野 智彦
 北海道開拓記念館 三野 紀雄
 東北芸術工科大学 松田 泰典

山崎4遺跡における竪穴住居の構造材にどのような樹木が用いられたのかを知るために、出土炭化材の樹種同定を行った。

1. 試料及び方法

試料は、縄文時代中期のH-11竪穴住居址1棟から出土した炭化材45点である。風乾した炭化材試料は、木材組織の木口面・板目面・柁目面の3面を観察できるように3つのブロックに分割し、それぞれの観察面を安全カミソリで調製した後金蒸着し、走査電子顕微鏡で木材組織を観察した。樹種同定にあたっては、木材組織の特徴を記載文献^{1, 2)}や標本の組織と照合した。

2. 結果及び若干の考察

各試料の結果を表1・図1に示している。住居に用いられている木材はクリ (*Castanea crenata*) が38点、ニレ属 (*Ulmus* sp.) ? が5点、そしてミズキ属 (*Cornus* sp.) ? が2点、クルミ属 (*Juglans* sp.) ? が1点であった。各出土炭化材における形状の傾向は、クリでは丸太、割材が多く、ミズキ属?では丸太のみ、ニレ属?では丸太が多く見られた。また、クルミ属?は試料点数1点であり、丸太材であった。

各試料の樹種同定根拠とそれに至らなかった理由は次のとおりである。

クリ (*Castanea crenata*) : 道管が環孔状に配列する。大型の道管が一行または多列、小道管は放射状または火炎状に配列し、道管はチスローズが発達し、単せん孔である。放射組織は単列で、部分的に2列のものが見られる。

ニレ属 (*Ulmus* sp.) ? : 道管が環孔状に配列する。大型の道管が一行または多列、小道管は集合し、接線方向に配列している。小道管には螺旋肥厚が観察される。放射組織は多列で、異性である。(今回の試料では明瞭な小道管の波状配列を観察できなかったため、樹種の推定にとどまった。)

ミズキ属 (*Cornus* sp.) ? : 道管が散孔状に配列し、木口面を見ると小さな道管が均等に分布している。道管は階段せん孔である。放射組織の幅は、1~4列、異性で上下の両端に直立細胞が見られる。(今回の試料では壁孔の観察ができなかったため、樹種の推定にとどまった。)

クルミ属 (*Juglans* sp.) ? : 道管は、放射方向に並び、散孔状に配列する。道管には、チスローズが発達している。放射組織は、1~3列で同性である。(今回の試料では、放射組織の同性異性の判断が付きかねたため、樹種の推定にとどまった)。

北海道南部地方で、クリ材は住居の建築材として縄文前期から使用されているが、縄文中期の住居ではクリが主な建築材料として最盛期を迎える。しかし、縄文後期には使用例が少なくなる³⁾。山崎4遺跡のように縄文中期にクリ材を多用された住居の事例として、函館市石川1遺跡⁴⁾、函館市桔梗2遺跡⁵⁾、長万部花岡3遺跡⁶⁾などが上げられる。

ここで重要なことは、縄文中期の渡島半島中部地域において、クリ材が住居の主要な建築部材とし

て使用された点である。このことは、この地域において食糧資源としても重要なクリが、住居建築用材に利用できるほどに生育が豊富であったか、あるいはクリ材を選択的に伐採し利用する木材利用の文化がこの地に及んでいたか、このいずれかを示しているわけである。花粉分析と比較することで、木材の利用についてより理解できることと思う。いずれにしても、本州地域から伝わったと思われるクリ材の利用文化を考える上で興味ある事実である。

最後に今回の分析においてご協力・ご助言いただいた北海道埋蔵文化財センター 田口尚氏、広田良成氏、東北芸術工科大学 松井敏也氏に感謝いたします。

参考文献

- 1) 佐柏 浩：顕微鏡図説 木材の構造，財団法人日本林業協会 (1982)
- 2) 島地 謙、須藤 彰、原田 浩：木材の組織，森北出版(1976)
- 3) 北海道開拓記念館：第50回特別展「先史文化と木の利用—遺跡からのメッセージ」，北海道開拓記念館，p. 16-18. (1999)
- 4) 三野 紀雄：函館市石川1遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査布告書 第45集， p. 255-259. (1987)
- 5) 三野 紀雄：函館市桔梗2遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査布告書 第46集， p. 202-206. (1987)
- 6) 三野 紀雄：長万部町花岡2. 3遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査布告書 第139集， p. 517-519. (1999)

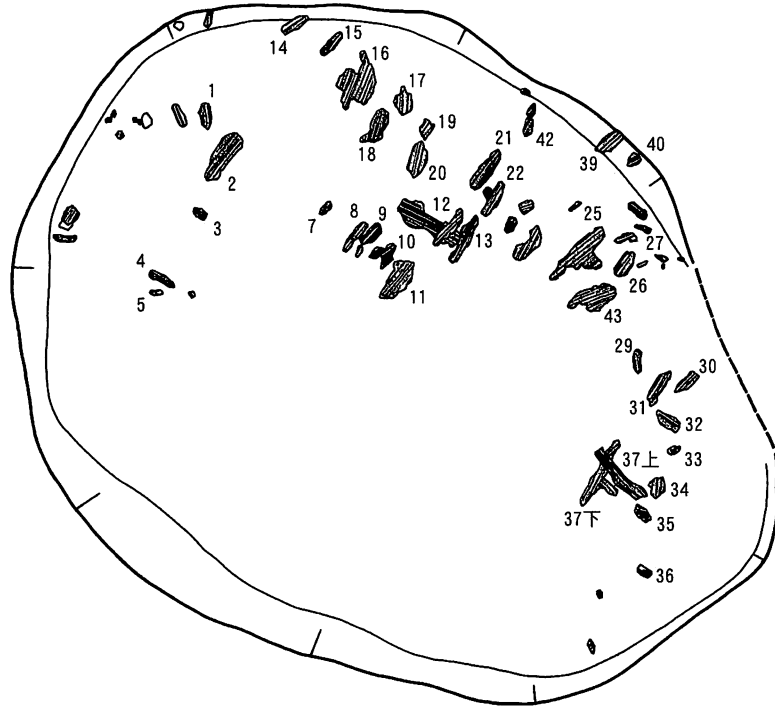
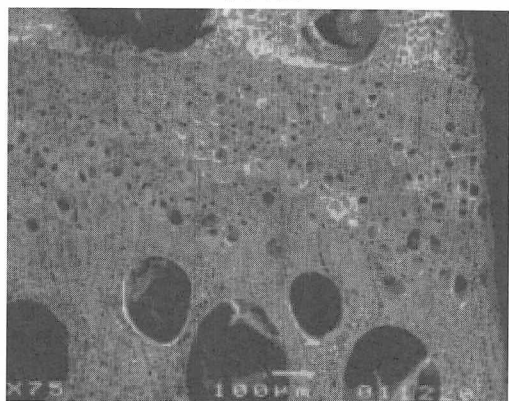


図1 H-11炭化材出土状況図

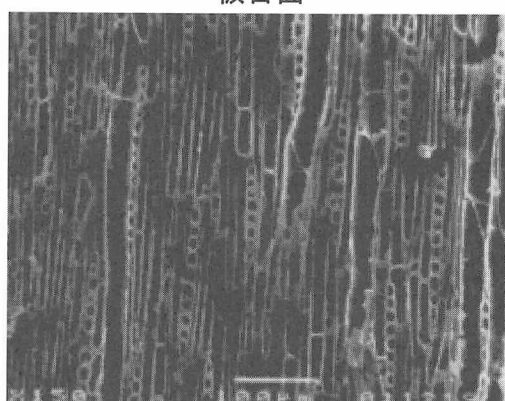
表1 山崎4遺跡 H-11検出炭化材一覧

No.	形状	樹種	No.	形状	樹種
1	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>	24	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>
2	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	25	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>
3	板材	クリ <i>Castanea crenata</i>	26	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>
4	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	27	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>
5	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>	28	丸木	ニレ属 <i>Ulmus</i> sp.?
6	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>	29	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>
7	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>	30	丸木	ニレ属 <i>Ulmus</i> sp.?
8	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	31	丸木	ミズキ属 <i>Cornus</i> sp.?
9	半割	クリ <i>Castanea crenata</i>	32	丸木	ニレ属 <i>Ulmus</i> sp.?
10	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	33	丸木	クルミ属 <i>Juglans</i> sp.?
11	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>	34	半割	クリ <i>Castanea crenata</i>
12	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	35	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>
13	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	36	割材	ニレ属 <i>Ulmus</i> sp.?
14	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	37上	丸木	ニレ属 <i>Ulmus</i> sp.?
15	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>	37下	丸木	ミズキ属 <i>Cornus</i> sp.?
16	板材	クリ <i>Castanea crenata</i>	38	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>
17	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>	39	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>
18	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	40	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>
19	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	41	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>
20	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>	42	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>
21	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>	43上	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>
22	割材	クリ <i>Castanea crenata</i>	43下	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>
23	丸木	クリ <i>Castanea crenata</i>			

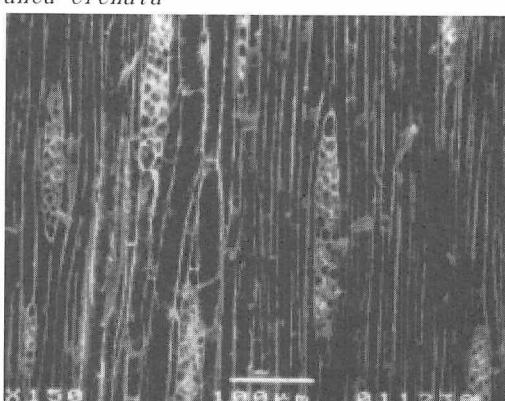
木口面



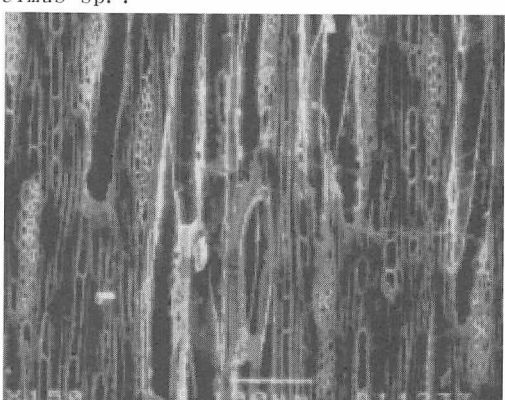
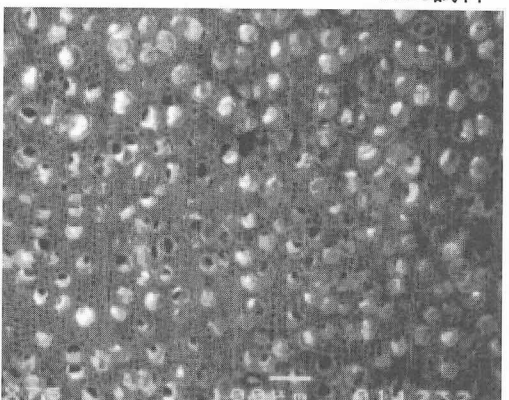
板目面



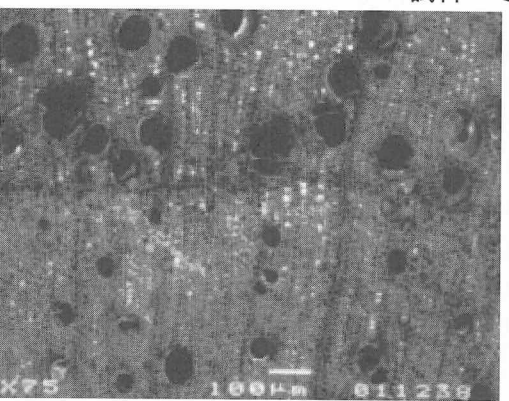
No.29試料 クリ *Castanea crenata*



No.28試料 ニレ属 *Ulmus* sp. ?



No.31試料 ミズキ属 *Cornus* sp. ?



No.33試料 クルミ属 *Juglans* sp. ?

図版 1 炭化材の木材組織

VIII まとめ

1 遺構

山崎4遺跡では24軒の竪穴住居跡や10軒の建物跡などが検出されている。A地区から縄文時代中期後半ではないかと考えられる竪穴住居跡1軒、住居の可能性のある縄文時代中期後半（大安在B式）の土坑（P-3）1基。B地区から縄文時代中期前半の竪穴住居跡14軒、後期前葉の竪穴住居跡6軒が検出されている。C地区から縄文時代早期前半の建物跡1軒、早期後半の建物跡5軒、中期の建物跡2軒、近代のもの1件が検出されている。D地区からは縄文時代早期前半の竪穴住居跡3軒、建物跡1件が検出されている。

A地区の主体は縄文時代中期前半または後半と考えられるが、包含層出土の遺物が18点と少なく、遺構の形態やその出土の遺物から推定するほか無い。

A地区では竪穴住居跡が1軒（H-8）検出されているが、P-3も規模がH-8とほぼ同じで焼土を持つなどの状況から考えるとベンチ状構造を持つ竪穴住居跡の可能性が高い。H-8の時期決定は焼土上の土器小破片を元としているが、これを流れ込みと考えると、P-3の床面で出土した還元土器の時期（Ⅲ群B-2類）と同一の縄文時代中期後半と考えられる。土坑のうち2基は形態や覆土の堆積などから小形のフラスコ状ピットと思われる。これらの土坑や焼土は2軒の竪穴住居に伴う集落施設を形成するものと考えられる。Tピットについては2列の配列を確認しているが、重複する遺構が無く、また、出土遺物も無いことから時期の決定が出来ないため、これらの集落に帰属するものなのか、縄文時代中期前半を主体とするB地区または、縄文時代前期を主体とする山崎5遺跡の所産なのか特定することは出来ない。

B地区の竪穴住居はB1地区西側に、北から南方向に列をなすようにまとめて検出されている。

被火災住居が1軒（H-11）検出されている。この竪穴住居は縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類期のものである。床面から出土した住居の炭化建築材をサンプリングし樹種同定を依頼した結果、8割以上がクリの丸太・割材を使用していた。道南地方では縄文時代中期においてクリ材が多く使われているとされている。またこの竪穴は、同じく縄文時代中期前半の竪穴住居跡H-26と重複している。他に重複するものはH-2・20・22がある。H-2と20は縄文時代後期前葉で、H-22は中期前半のものである。後期前葉の竪穴住居は6軒あり1ヵ所で重複していることや位置関係から、同時に使用された住居は3軒の集落を構成していたのかもしれない。縄文時代中期後半の大形の竪穴住居跡であるH-3は集落の竪穴の多い地点から北側に離れて構築されていた。その覆土に埋められていた完形に近い土器（埋設土器）は竪穴放棄後、間の無いものと考えられるが、既に覆土中位まで埋っていた事を意味する。覆土は自然堆積を示し、沢に近いことや南側で北から南に緩斜面を流れたような多量の礫の集まった列沢が地形のうねりと一致して数条出土している。土石流や洪水が想定され、このような条件の悪い場所に大形住居が立てられたことについて検討する必要がある。また、埋設されていた土器については、周囲に屋外炉があることや南東側約10mに土壙墓とみられるP-40~43がある事などから、墓域に関する施設の可能性がある。C地区との境を成す沢に近いO・P・Q-44~47区は暗褐色土にローム粒などが混じり合い遺物が大量に出土することから、竪穴の覆土のように思われた。しかし、土層観察用のベルトを数本設定して調査を進めたが明瞭な掘り込みは認められず、平坦に広がりをもつだけであった。周囲に住居跡が存在することを考えると、ここは広場として利用されていたことも想定される。また、この周囲の焼土は粒状で二次堆積しており、灰などと共に焼土を投棄したものである。

CおよびD地区は耕作が深く、遺構の上半が消失したため実態については検討できなかった。縄文時代早期前半の竪穴住居がこの地区の特徴といえる。（谷島）

2 土器

2 土器

山崎4遺跡では縄文時代中期前半Ⅲ群A-3類の土器がまとまって出土しているため、Ⅲ群A-3類土器に関して、若干の考察を行ってみたい。

今回、Ⅲ群A-3類に比定した土器については、大きく分けてサイベ沢Ⅶ式・見晴町式に比定されるものと、口唇部に沈線が施され、いわゆる大木系の土器の影響が認められるものがある。

前者は、2～3本一組の直線的な沈線文が施されたものと、口唇部のみに刻み目等が加えられ、胴部に斜縄文のみが施されているものがほとんどである。沈線は口唇沿いに横位に施され、突起下には縦位の沈線が施されているものが主体となっている。住居跡H-5（図V-13-2、図V-14-3）、H-11（図V-19-4・6）、H-19（図V-37-2・5、図V-37-4）の出土資料において、口縁部文様帯に沈線が施されるものと、口唇部のみに文様が施されているものが相伴して床面から出土している。したがってこれらは組み合わせと考えることができる。

これらの土器は、サイベ沢Ⅶ式～見晴町式に比定されるが、サイベ沢Ⅶ式の特徴である突起部に粘土紐の貼付による文様を有する土器は少量で、サイベ沢Ⅶb式の主たる文様要素である2・3本一組の沈線で凸レンズ状・弧状をモチーフとしたものも少なく、直線的なモチーフのものが多い。遺構からの出土状況を考慮すると、文様帯内に直線的な沈線文様を持つもの、地文に斜縄文が施され、突起下と口唇部にのみわずかに文様が加えられるものを含めて、これらの土器は見晴町式土器の範疇で捉えられるものと考えられる可能性がある。

また、口唇部に沈線が施される土器はいわゆる大木系の土器の影響が認められる土器である。本遺跡では住居跡等に遺構からは出土せず、ほとんどのものが包含層から出土していて、総体としては客体的な出土状況を示している。波状口縁の波頂部の把厚した口唇部に沈線により渦巻が描かれた土器が多いが、貼付により文様が描き出されるものも少量認められる（図V-88-12、図V-94-144・145）。後者の類例としては新道4遺跡DH-13出土資料、小岱遺跡遺構外出土資料が挙げられる。これらは器形等から、大木8a式に相当するものと考えられている。前者は破片資料が多いため全体の特徴が判然としないものが多いが、本遺跡の出土例と文様構成、器形に類似性が認められる大船C遺跡出土資料と比較すると胴部の張り出しがあまり認められない点、胴部の文様は曲線・渦巻文様が少なく、直線状のモチーフが多い。これらの特徴は見晴町式土器群との共通点が認められる。その出土の分布は、前記の見晴町式の土器とほぼ同じ位置から出土している。住居跡の床面からの相伴関係は認められていないが同時期の可能性が高い。以上の器形・文様及び包含層出土状況から、これらの土器群は見晴町式土器に伴う大木8a式に比定される土器群と考えられる。

同時期の集落としては、函館周辺では、標式遺跡である見晴町遺跡、見晴町B遺跡、石川1遺跡、桔梗2遺跡、陣川町遺跡、八雲町内では今年度当センターが発掘調査を行った山越2遺跡等が挙げられる。いずれもサイベ沢Ⅶ式土器と見晴町式土器、大木系土器群が出土している。山崎4遺跡は上記の遺跡と出土傾向が異なり、時期はほぼ見晴町式期に限定されることが考えられ、噴火湾沿岸ひいては道南地方の円筒土器文化の終末を考える上で、一つの手がかりになると考えられる。今後の周辺遺跡の調査例の増加により、更にこの地域の様相が明らかになると思われ、その上で改めて本遺跡の位置付けを考えることが重要であろう。

（広田良成）

3 石器

山崎4遺跡からは、各地区・遺構包含層合計で45,000点あまりの石器類が出土している。

このうち、遺跡の主体であるB地区から出土したものについては、B地区出土の土器がおもに縄文時代中期前半のⅢ群A-3類であることから、おおむねこの時期のものと考えられる。包含層の石器の出土傾向は本文中に記載したが、遺構出土のものも同様の傾向が認められる。このことから、本遺跡のⅢ群A-3類に伴う石器については、大まかに次のように考えられる。

剥片石器では、茎の明瞭な有茎の石鏃、おもに周縁加工のつまみ付きナイフ、側縁に刃部をもつ縦形スクレイパーがあり、礫石器では、いわゆるくぼみ石、半円状扁平打製石器を含めたすり石がある。これらに少数の、無茎の石槍、おもに剥片の一部を加工するか、あるいは周縁加工のドリル、端部に刃部をもつ縦形スクレイパー、石斧、砥石、大形の石皿などが加わる。

これら以外に、少数ではあるが特徴的なものとしては、茎の不明瞭な石鏃と、磨耗の顕著なスクレイパーがある。茎の不明瞭な石鏃は、おもに片面周縁加工でドリルと判別が困難なもので、特にH-13・18の床面でドリルとともにまとまって出土している。石材はほとんど流紋岩が用いられている。磨耗が顕著なスクレイパーは、縦形のものうち、刃部が側縁のもの、端部のもの双方に見られる。刃部が磨耗し丸くなるものや、刃部の裏側にあたる部分に明瞭な光沢がみられるものが比較的多くみられる。これらは使用によるものと考えられ、今後用途との関係を検討する必要がある。

一方C・D地区では、縄文時代早期の遺構や土器の分布と対応して、B地区とはやや異なる傾向がみられる。特に石錘がB地区と比較して多く出土しており、石槍、つまみ付きナイフ、両面加工石器もやや多い。また、細分類では、石鏃の1c類とした菱形で薄手のもの、つまみ付きナイフの1a類とした片面全面加工のもの、すり石では1類とした断面が三角形のものが、それぞれB地区と比較して高比率で出土している。これらの分布傾向はI群A類土器と共通しており、I群A類時に伴うものと考えられる。

フレイク・チップ集中

本遺跡では、20ヵ所のフレイク・チップ集中が検出された。これらについて概略をまとめる。

B地区 12ヵ所検出されている。FC-7は極めて特徴的な、縦長剥片を生産した集中で、15点からなる良好な接合資料が得られた。FC-1・14は大形の、粗割段階の剥片や摂理面で割れる剥片が多くみられる。特にFC-1では、厚みのある石核素材の両面加工石器の作製が行われていたものと思われる。これら以外は、2~3cm以下程度の剥片および剥片碎片が主体である。石材はほとんどの集中が頁岩主体のものであるが、FC-2は流紋岩主体、FC-11・17はメノウ主体のものである。

C地区 8ヵ所検出されている。FC-12は石槍作製の大規模な集中で、11点の石槍未成品と、大量の石槍作製に伴う剥片が出土している。FC-19は小形石器作製によるものと思われ、5cm程度の大ぶりの剥片と、それらを素材とした石器未成品やRフレイクが多く出土している。この他は、B地区同様2~3cm以下程度の剥片および剥片碎片が主体のものである。石材はすべて頁岩である。

黒曜石の原産地同定結果

2年間で計80点について依頼した。結果は、65%にあたる52点が赤井川産、24%の19点が豊浦町豊泉産、このほか十勝産1点、置戸産1点、現在のところ産地不明のK-19遺物群が1点であった。海岸線沿いにわずかに60kmの豊泉産のものより、直線距離でも100km、現代の道路では150kmほど離れた赤井川産のものが多くを占めることが明らかとなった。この要因には、意図的な使い分けの結果や、原石の質の差、産地の規模・給供量の差などが考えられる。今回の資料では、器種などによる意図的な産地の使い分けは認められなかった。また原石の質については、赤井川産・豊泉産のものはい

3 石器

いずれも球類を多く含んでおり、赤井川産が明らかに良質であるとはいえない。これらから、今回の結果については、産地の規模・供給量が要因となっている可能性が高いと考えられる。今後近隣の各時期の遺跡との比較・検討が必要である。

石製品

三脚石器(図V-103-346)

八雲町栄浜1遺跡・コタン温泉遺跡などで類例が出土している。いずれも黒曜石製の両面加工で、厚みがあるなど、本遺跡出土のものと共通した特長が見られる。

三角形の石製品(図V-54-P42-1)

土壌P-42から出土した。副葬品である。非常にもろい砂岩製で、研磨と穿孔により整形されている。おもに北海道南部の縄文時代中期の遺跡で、類例の発見に努めたが、類例はみられなかった。やや類似するものとして、楕円形の軽石に穿孔が施されるものが八雲町山越3遺跡で(整理作業中)、貫通しない穿孔と線刻が施されるものが長万部町オバルベツ2遺跡で見られるが、形状・石材等から類例とは判断しがたい。時期・地域とも限定された範囲であり、現状では類例がないとは断定はできない。しかし、石材が非常にもろく加工しやすい、つまり、製作者の意図を反映しやすいと思われること、にもかかわらず、穴の内部などに使用した痕跡がみられないことから、仮に装飾品などだとしても、実際には使用されてはいない可能性が高い。さらに、墓の副葬品であることを考えると、副葬品として作成されたものの可能性がある。

以上、本遺跡から出土した石器の傾向と、特徴的な石器について若干触れたが、さらに詳細な分析が必要な部分もある。今後の課題としたい。

(柳瀬)

引用参考文献

- 八雲町 1984『改訂八雲町史 上巻』
- 阿部千春ほか 1993『八木A遺跡・ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団
- 阿部千春ほか 1995『ハマナス野Vol. XV』南茅部町埋蔵文化財調査団
- 阿部千春ほか 1996『大船C遺跡』南茅部町教育委員会
- 江坂輝彌 1970『石神遺跡』石神遺跡研究会
- 大沼忠春ほか 1976『元和』乙部町教育委員会
- 大沼忠春 1986「道南の前期土器群の編年について(Ⅱ)」『北海道考古学』第22輯
- 小笠原忠久ほか 1980『白尻B遺跡』南茅部町教育委員会
- 熊野喜蔵・八木光則 1974「茅部郡森町森川A遺跡出土の前期縄文式土器群」『北海道考古学』第10輯
- 児玉作左衛門ほか 1958『サイベ沢遺跡』市立函館博物館
- 桜井清彦 1961「北海道山越郡落部遺跡」『日本考古学年報』12
- 桜井清彦 1964「北海道山越郡オトシベ遺跡」『日本考古学年報』15
- 佐藤 稔ほか 1995『オバルベツ2遺跡・栄原2遺跡・ナイベコシナイ2遺跡』長万部町教育委員会
- 鬼柳 彰ほか 1985『上ノ国町小岱遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第30集
- 長沼 孝ほか 1987『函館市石川1遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第45集
- 佐川俊一ほか 1987『函館市桔梗2遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第46集
- 大沼忠春ほか 1986『木古内町新道4遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第52集
- 佐藤和雄ほか 1999『長万部町花岡2遺跡・花岡3遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第139集
- 遠藤香澄 1999『八雲町シラリカ2遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第142集
- 柴田信一 1995『栄浜1遺跡』八雲町教育委員会
- 菅江真澄著 内田武志・宮本常一編訳 1980『菅江真澄遊覧記』2
- 高橋和樹 2000「近世以降の遺構 2 炭窯」『千歳市キウス4遺跡(5)』(財)北海道埋蔵文化財センター
- 高橋正勝 1981「2. 中期の土器 北海道南部の土器」『縄文文化の研究4 縄文土器Ⅱ』雄山閣
- 田原良信ほか 1979『見晴町B遺跡発掘調査報告書』函館市教育委員会
- 田原良信ほか 1981『権現台場遺跡発掘調査報告書』函館市教育委員会
- 田原良信ほか 1990『権現台場遺跡』函館市教育委員会
- 千代 肇・岩本義雄 1975「北海道八雲町上八雲の遺跡について」『北海道考古学』第11号
- 千代 肇 1975「北海道の円筒土器文化」『中の平遺跡発掘調査報告書』青森県教育委員会
- 鍋島直久 1991『ハマナス野Vol. XⅢ』南茅部町教育委員会
- 野村 崇 1982「八雲町トコタン2遺跡」『北海道における農耕の起源(予報)』
- 福田裕二 1992『ハマナス野Vol. XIV』南茅部町教育委員会
- 福田裕二 1995『八木A遺跡・ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団
- 福田裕二 1997『八木A遺跡・八木C遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団
- 藤田 登ほか 1985『御幸町』森町教育委員会
- 松岡達郎ほか 1979『白尻B遺跡発掘調査報告書』南茅部町教育委員会
- 町田 洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス』
- 松浦武四郎著 吉田武三校註 1970『三航蝦夷日誌』上巻
- 三浦伊八郎 1933『炭窯百態』三浦書房
- 三浦孝一 1980『山崎遺跡発掘調査報告書』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1982『栄浜1遺跡発掘調査概報』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1983『栄浜』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1984「第二編 先史時代」『改訂八雲町史 上巻』
- 三浦孝一 1987『台の上遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1989『浜松2遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1990『八雲3遺跡発掘調査報告書』八雲町教育委員会
- 三浦孝一 1998『栄浜1遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1986『栄浜1遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1987『栄浜1遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1988『山越5・6遺跡発掘調査報告書』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1991『浜松2遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1992『コタン温泉遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1993『大関校庭遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1995『浜松5遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1997『大新遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1998a『大新遺跡』八雲町教育委員会
- 三浦孝一・柴田信一 1998b『旭丘1遺跡』八雲町教育委員会
- 峰山 巖ほか 1977『栄浜遺跡』乙部町教育委員会
- 森 秀之 1991「炭焼窯跡について」『文京台考古』6 札幌学院大学考古学研究会

報告書抄録

ふりがな	やくもちょうやまざきよんいせき							
書名	八雲町山崎4遺跡							
巻次								
シリーズ名	(財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第162集							
編著者名	谷島由貴・広田良成・柳瀬由佳・笠原 興・佐藤 剛・藤原秀樹							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地-1 TEL011-386-3231							
発行年月日	西暦2001年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ‘ “	東経 ° ‘ “	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまざきよんいせき 山崎4遺跡	ほっかいどうやまこしくん 北海道山越郡 やくもちょうあざやまざき 八雲町字山崎 213-3 ほか	01346	B-16-60	42	140	19980901	3,000	高速道路 北海道 縦貫自動車道(七飯~長万部)建設 工事に伴う事前調査
				19	16	~19981028		
				42	34	19990506		
				~	~	~19991030		
				44	37	20000508 ~20000904	7,969	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
山崎4遺跡	集落遺跡	縄文時代 早期 中期 後期	住居跡 24軒 建物跡 10軒 土坑 111基 Tピット 7基 焼土 56カ所 小ピット 160カ所 石組 2カ所 集石 8カ所 フレイク・チップ 集中 20カ所 埋設土器 1カ所 炭化物集中 1カ所	縄文土器 36,230点 アルトリ式 円筒土器上層式 見晴町式 大安在B式 余市式 陶器 土製品等 47点 石器等 45,549点 石鏃・石槍・ドリル・つまみ付 きナイフ・スクレイパー・両面 加工石器・楔形石器・石器未製 品・Rフレイク・Uフレイク・ 石核・剥片・原石・石斧・たた き石・すり石・石鋸・砥石・石 錘・石皿・台石・加工痕のある 礫・礫剥片・礫 石製品 5点 鉄製品 9点	砂岩製の三角形をした 石製品 耳栓			

(財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第162集

八雲町 山崎4遺跡

—北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書—
第1分冊

平成13年3月30日 発行

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌6 8 5 番地 1
TEL 011-386-3231

印刷 三陽印刷株式会社
〒063-0061 札幌市西区西町北15丁目1 番12号
TEL 011-661-2311

